

一方ニ於テ施設ヲ十分整ヘテソレ等ノ者ガ已ムヲ得ザル場合ニハ、出來ルダケ「スミス」ニ行クベキ所ニ行クヤウニ考ヘテヤリタイ、斯ウ云フ趣旨ナリトゴザイマス、色々御考ヘモ、御意見ノ點ニ付キマシテハ、現實ト致シマシテハ何レモ非常ニ御尤モゴザイマスガ、何處ニ重點ヲ置イテ居ルカト云フコトヲ申上ゲマシテ御答ヘニ致シマス

○杉浦委員 私人質問ガ長イモノデスカラ御答ヘモ長クナリマシタガ、是カラハ短ク致シマス、此ノ點ハ御答ヘハ要リマセスガ、一點星野君ニ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、ソレハ短イ時間ニ多クノコトヲ御聽キ申上ゲタイト思フモノデゴザイマスカラ、分り切ツタコトハ抜キニシテ、問題ニナル點タケテ御聽キシタイ、今星野君ノ言ハレタ問題ニナルト云フ點ハ、一方ニハ人ヲ要シテ居ルノダカラ、從ツテドレダケ轉業ヲスル人ガ出テ來テモ大丈夫デハナイカト云フコトニナルノデアリマスガ、ソコガイケナイ、假ニ四十歳以上位デ今マデ仕事ヲシテ居ツタ人ガ、失業ヲシテ何處カヘ行キタイト云フテ居ル、其ノ人ガ何處ニ行ク所ガアリマスカ、何處ニモ其ノ人ヲ雇ツテ呉レル所ガナイ、此ノ間隣組ノ公報第一號ニ、軍方人ヲ求メテ居ル、十六歳以上四十歳マデノ者ハ來レト書イテアル、四十歳以上ノ者ハ多少損ヲシテモヤレト云フヤウナ軍關係ノ所デサヘモ受入レナイ、況ヤ民間ニ於テハ四十歳以上ノ失業者ハ受入レマセス、假ニ三十五歳位ノマダ働キ盛リノ人ガ失業者トナツテ、アナトノ言フ訓練所ニ行ツテ三箇月間訓練シテモ、ドウセ碌ナ訓練ハ出來マセス、酸素熔接位ヲ習ツテ、サウシテ

職業紹介所ヲ通ツテ何處カニ行ク、勿論一人前デハナイ、併シ此ノ人ハ過去ノ生活カラハ一人前ノ月給ヲ貰ハナケレバナラナイ、ソコニ食ヒ違ヒガアル、ヤハリ頼ムコトハ頼ンデモ、一人前ノコトハ出來ナイカラ、材料ヲ充ツテ呉レナイ、幾ラ押シノ強イ人間デモ、毎日遊ンデ居ツテ月給ヲ貰フコトハ出來ナイ、ツイ脈氣ガ差シテ辭メテシマフ、是ハ彼此皆然リ、少シバカリノ訓練デ、サウシテ餘所ニ行ツテ平和ニ巧ク仕事ヲ預ツテ居ルヤウナ人ハナイ、ソコノ考ヘ方デアル、ダカラ私ハ現實トシテ失業對策ニ對シテハ、轉業者ハ過去ノ仕事ニ對シテハ一人前ノ力ガアツタラウケレドモ、新シコトヲハツキリ決メテヤル必要ガアル、是ハ公營、國營ト云フ採算ヲ度外視シタモノダナケレバ駄目デアル、少クトモ此處マデ突込ンデ御考ヘヨ願ヒタイ

次ニ私ハ政治力ノ問題ニ付テ御同ヒ致シタイ、今程政治力ノ時代ハナイ、何處ニ中心ガアツテ政治ヲシテ居ルノカハツキリシナイ、經濟ガ政治ヲ支配シ、政治ガ下積ミニナツテ居ル時代ニハ、マダ政治ニ志ス者ガアツタ、今ハ政治ガ經濟ヲ支配スル、政治ガ一番強キ力トナツテ動カナケレバナラス時ニ、政治ガ動イテ居ラス、斯ウ云フ狀況ニナツテ居ル、是ハ日本ノ痛デアル、此ノ點ガ一番苦シイ所デアル、私ハ一ツ實例ニ付テ申上ゲタイト思ヒマス、今度經濟新體制ガ出來テ、大體ノ仕事ト云フモノハ是ハ經濟人ノ創意ト責任トニ於テヤツテ貰フ、一切等々頼ンダ、宜シク頼ム、國家ノ必要ニ應ジロト斯ウ出テ來タ、ソコデ經濟人ハ經濟團體ト云フモノヲ作ツテ自分達

ノ指導者ヲ決メテ、其ノ指導者ニ依ツテ指導セラレツ國家ノ必要ニ應ジヨウ、斯ウ云フ建前デ經濟新體制ガ出來テ居ル、所デ其ノ指導者ハシテ決メテ居ルカト云フ、業方推薦シテ、サウシテ關係官廳ガ之ヲ認可スル、斯ウ云フ形ニナツテ居ル、眞先ニ現ハレタモノハ鐵ノ方面デアル、所デ小林商工大臣ハ是ハ平生君ニヤツテ貰ヘト云フ、サウナルト業者ガ承知シナイ、吾々方推薦シテサウシテ關係官廳方認可スルト云フコトニナツテ居ルノニ、吾々方推薦シタノデモナイ、聞取引デハナイカ、斯ウナツテ來テ居ル、ソコデ巧クイカナイ、併シ是ハ話ヲシテ居ル内ニハ巧ク行タデモアリマセウガ、サウシテ平生君ナラ平生君ガ指導者ト云フコトニ決マツタトシマス、其ノ平生君ガ指導者ニ決マツテ、製鐵業界ヲ引摺リシテ之ヲ動かシテ行カウト云フ時ニ、果シテ是ガ巧ク行タラウカドウカ、此ノ想像ヲシテ御覽ササイ、私ハ是ハ巧ク行キサウモナクテ仕方ガナイ、ソコニハ官場ノ「セクト」主義ヤ色々ナモノガアリマスケレドモ、兎ニ角是ガ巧ク行キサウモナクテ推ラナイ、若シ官僚ノ一部ニ「サウ云フコトハ無論ナイダラウト」思フケレドモ、自分達ノ意見ガ通ラナイデ財界人ノ意見ヲ多ク採ラナケレバナラヌト云フコトヲ根ニ持ツテ動クト云フヤウナコトガアリマシタナラバ、愈以テ是ハ巧ク行キマセス、此ノ場合ニ之ヲ巧クヤルモノハ何デアアルカト云ヘバ政治力デアル、争ヒノ當事者ノ上ニ超然ト立ツテ、コウチハイケナイ、コウチハ宜イト云フヤウニ裁斷ヲシテ事ヲ進メテ行クノガ

ノ關係等ハ只今申シマシタ通り、總理大臣ノ言明ニ依ツテ明カデアリマス、此ノ事ヲ繰返シテ申上ゲテ置キマス

○杉浦委員 内務大臣ニモウ一點御同ヒ致シタイト思ヒマス、翼贊會ノコトニ關シテ高度ノ政治性ト云フ言葉ガ頻リニ使ハレルノデスガ、高度ノ政治性ト云フ意味ハ一體ドウ云フ意味ナノデアリマスカ、此ノ頃高度國防國家ト云フ言葉ガアル、高度國防國家ト云フモノハ、皆ガ能ク理解スル、昨日總理ハ其ノ點ニ付テ明確ニ説明ヲシテ居ラレル、高度ト云フ意味ハ此ノ際強度ト云フコトデアル、戰爭體制ニ一切ノ國力ヲ集中シテ行カウト云フコトデ、是ハ能ク分ル、ケレドモ高度ノ政治性ト云フモノハ判然シマセス、是ハドウ云フ意味カ御同ヒ致シタイト思ヒマス

○平沼國務大臣 高度ノ政治性ト云フコトハ成程使ハレテ居ル言語デアリマス、是ハ翼贊會ニ付テ使ハレテ居ルノデアリマスガ、先刻申シマシタ通り内閣ニ於テマシテ確立致シマシタル方策ハ、翼贊會トシテハ總テノ方面ニ於テ之ヲ國民全體ニ徹底セシムル任務ヲ持ツテ居ルノデアリマス、是ハ固ヨリ各方面ニ互リマス、經濟ニ關スルコトモゴザイマス、文化ニ關スルコトモゴザイマスガ、總テ是等ヲ本當ニ遂行シテ行クト云フコトガ翼贊會ノ任務デアリマス、之ニ依ツテ政府ニ協力スル、政府ノ立テマシタ方策ヲ遂行スルト云フコトハ、是ハ強イ政治性ヲ持タナケレバ出來マセス、此ノ爲ニハ翼贊會モ其ノ意味ニ於テ政治性ヲ持タセナケレバナラヌト云フ風ニ考ヘテ居リマス

○杉浦委員 今ノ才德ヒノ所ガ一寸聽取リニクカツタノデスガ、翼贊會ニ政治力ヲ持タスト云フ意味デアツタノデスカ

○平沼國務大臣 政治ト云フコトノ意味ハ色々使ヒ方ガゴザイマセウ、一時ハ政權爭奪ノ盛ナ時ニハ、政權ノ爭奪ガ政治ト云フ意味ニ使ハレタ時代モアルヤウデアリマス、今日ハサウ云フコトハ決シテゴザイマセス、今仰シヤル通り廣イ意味ニ於テ、國策ヲ遂行致シマスル爲ニ必要ナル事柄ハ總テ是ハ政治性ト云フコトニ包含サレルノデアリマス、餘リ狭ク御取リニナラヌヤウニ御願ヒ致シマス

○杉浦委員 他ノ問題ニ付テ御同ヒ致シマス、私ハ鐵ト石炭、米、ソレカラ金、是ダケハドウシテモ値上スル方ガ宜イノデハナイカト云フ考ヘヲ持ツテ居ルノデス、其ノ理由ニ付テハ、是ハ隨分議論セラレ盡シテ居ルコトデアリマスカラ、私ハ之ヲ申シマセス、唯値上ヲスルコト云フコトニナレバ、此ノ値上セラレタル部分ヲ消費者ニ負擔セシメルノカ、ソレトモ業者ニ負擔セシメルノカ、ソレトモ國家ニ行クノカト云フヤウナ三ツノ場合ガ考ヘラル、ソコデ國家ガ負擔スルコト云フコトニナル、結局廻リ廻ツテソレガ「インフレ」ノ因ニナル、是モ困ルツツヤウナ所デ此ノ議會ニ於テハ話ガ

○小林國務大臣 經濟新體制ノ中ノ産業團體組織ニ付テ、只今ノ所デハ「フエーラー」ヲ得ルコトハ御説ノ如ク甚ダムツカシイト思ヒマスガ、結局指導者ト申シマスカ、業者ガ認定スル指導者ニ依ツテ其ノ運用宜シキヲ得ル方法ヲ考ヘテ居ルト云フ例ハ、例ヘバ只今平生氏ノ御話ガ出マシタガ、只今

政治力デアル、其ノ政治力ヲ何處ニ持ツテ居ルカ、少シ前マデハ何ダカ官僚ガ妙ナ政治力ヲ持ツテ居ラシク見エタ、彼等ハ特殊會社ヲ拵ヘテ、自分ノ友人先輩ヲ任命シテヤツテ居タ、妙ナ政治力デモナケレバ幾多ノ障礙ニ打突カルト進ミハシナイ、斯ウ云フ状態デアル、其ノ官僚ハ今ハ退イテ妙ナ政治力サヘモナクナツテ居ル、翼贊會ガ高度ノ政治性ヲ持ツト云フテ現ハレマシタケレドモ、是ガ物ニナルカドウカハツキリシナイ、組織ハ決ツタ、ヤリ方方式ハ決ツタ、誰ガ之ヲ引繼シテ動かシテ行クカ、其ノ政治力ガナイ、私ハ此ノ點ガ一番日本ノ缺陷ダト思フ、國家基本對策以來近衛サシハツレニ應ジテ幾多ノモノヲ出シテ來テ居ル、ドシナニ餘計ナモノガ出テ來テモ、之ヲ動かカス政治力ガナケレバ動キハシナイ、一體何ニ依ツテ之ヲ動かサウトスルカ、是ハ近衛サシニ御同ヒシタカツタノデスガ、近衛サシガ居ラレマセスカラ、ドシナデモ宜シウゴザイマス、差當リ小林商工大臣ノ管轄ニ屬スル例ヲ引キマシタカラ、小林商工大臣ニ御尋ネシテ見タイト思ヒマス、果シテ製鐵業界ガ巧ク行タラウカドウカ、其ノ指導者ノ引繼スガ儘ニ動イテ、國策ニ應ズルヤウニ行タラウカドウカ、只今此ノ自信ヲ持ツテ居ルカドウカ、ソレ等ノ點ニ付テ一ツ御同ヒシタイ

○平沼國務大臣 政治ト云フコトノ意味ハ色々使ヒ方ガゴザイマセウ、一時ハ政權爭奪ノ盛ナ時ニハ、政權ノ爭奪ガ政治ト云フ意味ニ使ハレタ時代モアルヤウデアリマス、今日ハサウ云フコトハ決シテゴザイマセス、今仰シヤル通り廣イ意味ニ於テ、國策ヲ遂行致シマスル爲ニ必要ナル事柄ハ總テ是ハ政治性ト云フコトニ包含サレルノデアリマス、餘リ狭ク御取リニナラヌヤウニ御願ヒ致シマス

○杉浦委員 他ノ問題ニ付テ御同ヒ致シマス、私ハ鐵ト石炭、米、ソレカラ金、是ダケハドウシテモ値上スル方ガ宜イノデハナイカト云フ考ヘヲ持ツテ居ルノデス、其ノ理由ニ付テハ、是ハ隨分議論セラレ盡シテ居ルコトデアリマスカラ、私ハ之ヲ申シマセス、唯値上ヲスルコト云フコトニナレバ、此ノ値上セラレタル部分ヲ消費者ニ負擔セシメルノカ、ソレトモ業者ニ負擔セシメルノカ、ソレトモ國家ニ行クノカト云フヤウナ三ツノ場合ガ考ヘラル、ソコデ國家ガ負擔スルコト云フコトニナル、結局廻リ廻ツテソレガ「インフレ」ノ因ニナル、是モ困ルツツヤウナ所デ此ノ議會ニ於テハ話ガ

○平沼國務大臣 翼贊會ノコトニ付キマシテハ、前ニ總理大臣カラ明白ニ御答ヘラシテアル管デアリマス、要スルニ翼贊會ハ自己ノ政見ヲ立テテ、ソレニ依ツテ活動ヲスルノデアリマセス、内閣ガ何處マデ中心デゴザイマスガ、政府ノ立テマシタ方針、之ヲ國民ニ徹底セシムルコトガ翼贊會ノ任務デアリマス、此ノ關係ハ今後決シテ變リマセス、何處々マデモ國策ヲ立テマシムル中心ハ内閣デアリマス、之ニ對スル翼贊會

○平沼國務大臣 翼贊會ノコトニ付キマシテハ、前ニ總理大臣カラ明白ニ御答ヘラシテアル管デアリマス、要スルニ翼贊會ハ自己ノ政見ヲ立テテ、ソレニ依ツテ活動ヲスルノデアリマセス、内閣ガ何處マデ中心デゴザイマスガ、政府ノ立テマシタ方針、之ヲ國民ニ徹底セシムルコトガ翼贊會ノ任務デアリマス、此ノ關係ハ今後決シテ變リマセス、何處々マデモ國策ヲ立テマシムル中心ハ内閣デアリマス、之ニ對スル翼贊會

○杉浦委員 今ノ才德ヒノ所ガ一寸聽取リニクカツタノデスガ、翼贊會ニ政治力ヲ持タスト云フ意味デアツタノデスカ

ルヤウニナツテ居リマス、其ノ關係上現在
デハ判檢事ノ人物ヲ鍊成スルコトヲ目的
爲ニ司法研究所ガ活動シテ居リマシテ、一
年中其ノ司法研究所ニ常ニ判檢事ヲ集メテ
居リマシテ、其處デ人格ノ養成、識見ノ涵
養ト云フコトニ全力ヲ擧ゲテ居リマス、此
ノ點ハ一昨年カラ始メタコトデアリマシテ、
マダ今日十分ニ其ノ成績ヲ申上ケルガケ
コトハ一寸差控ヘマスケレドモ、併シ其ノ
判檢事ニ與ヘタル満足サト云フモノハ非常
ナモノデアリマシテ、今後ニ於テドウカ是
ハ御檢討ヲ願ヒタイト思ヒマス

ソレカラ次ニ判事ニ對シテ轉所ノ保障ヲ
取ツタラドウカ、是ハ私ハ判事トシテ轉所
ノ保障ヲ持ツコトガ司法權ノ獨立ヲ維持ス
ル上ニ於テ必要ト存ジテ居リマス、其ノ點
ニ付テハ御同意ヲ致シ兼テ、併シ實際現
在ノ裁判所構成法ニ於キマシテモ決シテ轉所
ノ保障ノ濫用ハ許サレテ居リマセヌノデス、
若シ故ナクシテ轉所ノ保障ヲ楯ニ取ル者
ガアリマスレバ、判事ノ總會ニ付シテ、
其ノ決議ニ依ツテ轉所ヲ命ズルコトガ出来
ルノデアリマス、是ガ從來活用サレナカ
タ嫌ヒガアルノデアリマスガ、願ハクハ此
ノ點ヲ今少シク活用致シマシテ、本當ニ判
事ノ總會ニ依ツテ故ナク轉所ヲ拒ム者ニ對
シテハ轉所ヲ命ズルコト云フコトニ依ツテ、
今御心配ノコトハ十分ニ除カレコトデア
ナイカト、斯ウ思フノデアリマス

ソレカラ第三ノ司法省ノ役人ニナツク爲
ニ其ノ判檢事ガ、判檢事時代ヨリモ非常ニ
待遇ガ良クナリ、其ノ爲ニ今度再ビ判檢事
ニ歸ツタ時ニ從來ノ同僚ヨリモ上位ニ立ツ
ト云フコトノ事實ハ過去ニ於テアツタコト
デアリマシテ、此ノ點ニ付テハ御不滿意ノコ
トハ屬承ツタノデアリマス、併シ最近ニ於
キマシテハ、其ノ事實ハ、ドウカ事實ニ微
シテ御覽ヲ願ヒタイノデアリマシテ、決シ
テサウ云フ風ナ嫌ヒハナイノデアリマス、
判檢事モヤハリ本省ノ役人ニナツテ、行政
ノ事務ト云フモノノ何タルカヲ知ルト云フ
コトガ、ヤハリ識見ヲ廣メル上ニ於テ非常
ニ必要ナコトデアリマス、デアリマスルカ
ラ寧ろ御言葉ト反對ニ、判檢事ハ出來ル
タ或ル期間ヲ割シテ其ノ優秀ナ人ハ本省ノ
仕事ニ從事サセテ、速カニ又判檢事ニ戻シ
テ、サウシテ交流ヲ盛ニスル、サウ云フ
コトヲ致シマシテ、決シテ本省ノ官吏ニナ
ツタ爲ニ特別ニ昇給ガ利益ニナルト云フヤ
ウナコトヲシナイヤウニ致シテ居ル、ドウ
カ是ハ最近ニ於ケル實際ノ事實ニ付テ御諒
承ヲ願ヒタイト存ジテ居リマス

○杉浦委員 毛ウ總理ダケニナツタラ
○増田委員長 總理ニ對スル質問ノ分ハ保
留シテ置キマス、是ニテ休憩致シマス、午
後一時カラ開會致シマス
午後零時五分休憩

午後一時十一分開議
○増田委員長 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キ
マス 平野力三君
○平野(力)委員 休ハ主トシテ我が國ノ食
糧政策ノ根本問題ニ付テ御尋ネテスルノ
デアリマスルガ、農林大臣ニ主トシテ御伺ヒ
致シマスルコトハ勿論デアリマスルケレドモ、
内務大臣、司法大臣、陸軍大臣、企畫院總
裁等ニモ順次御伺ヒテ致スコトニナリマス
ノデ、オイデニナリ次第順次御伺ヒ致シ
マス、農林大臣ガ御見エデアリマスルカラ、

先ツ農林大臣ニ最初御尋ネテ致シマス
今回ノ豫算委員會ノ席上ニ於キマシテ、
米ノ増産政策ヲ中心トシテ、米價ノ上ゲタ
ナラバ相當ノ増産ガ出來ルノデハナイカト
云フ御意見ガアリ、之ニ對スル農林大臣ノ
御答辯モアリマシタ、又内外地ヲ通ズル所
ノ根本方針ヲ立テヨウト云フヤウナ御意見
モゴザイマシテ、ソレハ御答辯モアツ
タノデアリマスルガ、私ノ研究致シマスル
立場カラ申シマスルト、今日ノ我が國ノ
食糧ノ生産、就中米ノ増産政策ニ對シテ
ハ、今一ツ農村ノ根幹ニ關スル、根本問題
ヲ政府ガ御考ヘニナラナケレバ、其ノ所期
ノ目的ヲ達スルコトガ困難ハナカラウカ
ト云フコトヲ中心トシテ御伺ヒテスルノ
デアリマス、其ノ理由ハ米價ノ上ゲル、上ゲ
ナイト云フコトノ論議ハ、種々複雑ナル論
議ニモナリマセウケレドモ、農林大臣ノ御
答辯ノ如ク、是ハ輕々ニ現在上ゲルト云フ
コトニハ參リマセヌ、然ラバト云ウテ、其
ノ生産費ノ根本ニナツテ居リマスル肥料ヲ、
豊富低廉ニ供給シ得ルヤト云フ、是亦相
當困難デゴザイマセウ、或ル程度窮屈サガ
アルト云フコトハ、是認致サナケレバナリ
マセヌ、勞働力カラ申シマシテモ、無暗ニ
勞働力ヲ増スコトノ出來ナイコトモ周知ノ
事實デアリマス、言換ヘマスレバ色々困
難ナ情勢ヲ眼前ニ控ヘナガラ、尙且ツ食糧
ノ増産ト云フモノハ、日本ノ國家ニ絕對對
アル、是ガ我が日本ノ國策ト致シマシテ、
食糧ヲドウスルカト云フ問題ガ眞實ニ討議
サレナケレバナラナイ理由デアリマス、ソ
コデ農林大臣ニ御伺ヒテ致シタイノハ、此
ノ問題ニ付テハ、兎ニ角、現在ノ我が國ノ農
業ノ制度ト云フモノニ對シテ、根本的ナル

改革ヲナスコト云フ立場ヲ取ラナケレバ、私
ハ増産政策ト云フモノハ、計畫的ニ立テ得
ナイト思フノデアリマス、言換ヘマスナラ
バ、農地制度ノ根本的改正ヲ行ヒマシテ、
現在我が日本ノ國ノ無統制ナル農地制度ニ
對シテ、國家ガ根本對策ヲ立ツルノ要アリ
ト私ハ確信スル、此ノ點ヲ度外ニシテ他ノ
食糧増産政策ト云フモノハ、總テ末梢的ナ
ル主張デアリマシテ、政府ト致シマシテ、未
ダ其ノ點ニ考ヘガナイト云フノデアリマス
レバ、食糧政策ニ對スル眞實味ガナイト云
ハザルヲ得ナイノデアリマス、此ノ點ニ關
スル石黒農林大臣ノ根本的御所見ヲ、一ツ
承リタイト思フノデアリマス

○石黒國務大臣 御答ヘテ致シマス、只今
平野君カラ御尋ネデアリマス食糧増産ニ
付テ考ヘル場合ニ、色々ナ重要ナ點ガアル
ガ、農地制度ノ改善ト云フコトガ最大ナ問
題デアルト思フ、ソレニ關シテ政府ハドウ
考ヘルカト云フ御尋ネデアリマス、御尋ネ
者ハルカト云フ御尋ネデアリマス、御尋ネ
通リニハ極メテ重大ナ點デアルト考ヘマ
ス、ノミナラズ増産ト云フ點バカリデナシ
ニ、其ノ他ノ點ニ關シテ致シマシテモ、農
地制度ト云フモノハ極メテ重要ナモノデア
リマスカラ、現内閣ト致シマシテモ之ニ關
シマシテハ、穩健適正ナル改善ヲ加ヘテ行
キタイト云フ考ヘヲ持ツテ居リマス
土地制度ガ多クノ場合ニ於キマシテ、大
キナ戰爭ノ後ニ於テ云現ハレマスコトハ、他
ノ國ノ過去ノ實例ニ於テモ、吾々ハ承知ヲ
シテ居ルノデアリマス、併シ此ノ土地制度
ノ改善ハ、非常ニ重大ナ問題デアリマシテ、
早急ニ之ヲ實施スルコトハ、餘程慎マナケ
レバナラス點ガアルト考ヘマス、現内閣ト
致シマシテハ、穩健適正ナル改善ヲ加ヘテ參

リタイ、斯ウ云フ考ヘヲ以チマシテ、順次
進行ヲ致シタイト云フ考ヘヲ持ツテ居リマ
ス
○平野(力)委員 只今ノ御答辯ハマダ抽象
的デゴザイマスノデ、十分ノ満足ヲ致スコ
トガ出來マセヌ、更ニ少シク掘下ゲテ此ノ
問題ニ付テ農林大臣ノ所信ヲ質シタイ、茲
ニ一軒ノ農家ガ三種ノ地面ヲ耕作シテ居
ル、例ヘバ自作地、其次ハ小作料ノ比較
的安イ土地、其次ハ小作料ノ相當ニ高
イ土地、一軒ノ農家ガ此ノ三種ノ地面ヲ
耕作シテ居リマス場合ニ於キマシテ、ドノ
地面カラ一番其ノ農家ガ多數ノ收穫ヲ上
ゲテ居ルカト云フ問題ハ、問題ハ小サイノ
デアリマスケレドモ、食糧政策ノ増産ニ對
シテ、見逃スコトノ出來ナイ具體的問題ト私
ハ思ヒマス、殊ニ我が國ノ農家ノ如キ五百
五十萬戸ノ農家ガ殆ド全部米作ニ從事シ、
平均十石内外ノ米ヲドノ農家ニ於テモ上
テ居ル、極メテ小規模ニヤツテ居リマスヤ
ウナ其ノ個々ノ農家ノ僅カナ増收、僅カ
ナル影響ヲ持ツト云フコトハ、多言ヲ要シ
ナイノデアリマス、ソコデ只今申上ゲマシ
タ自作地ト小作地、其ノ小作地ニ於キマシ
テモ、小作料ノ比較的高イ地面ト、小作料
ノ比較的低イ地面ニ於キマシテハ、ドウ云
フコトニナツテ居ルカト申シマス、何ト
言ヒマシテモ自作地ニ對シテハ、其ノ生産
ガ明カニ多イノデアリマス、其次ハ小作
料ガ比較的低イ地面カラ生産ガ上ル、小作
料ノ非常ニ高イ地面ニナリマスト、生産額
ト云フモノハ遙カニ劣ツテ居リマス、具體
的ノ研究ノ結果カラ申シマス、高率ナ小
作料ヲ取ラレテ居ル地面カラ上ル一反歩ノ

收穫ト、完全ニ自分ノ地面デ自分ガ耕作シ
テ居リマス自作地カラ上リマス收穫トハ、
私ノ研究ニ於キマスルト約一俵違フ、日本
ノ農耕地ハ六百萬町歩、田ガ三百万町歩、
小作地ガ百七十萬町歩デアリマスガ、百七十
萬町歩ト云フ甚大ナル小作地ガ日本ノ農家
ノ大半ヲ占メテ居ツテ、此ノ小作地カラ上
ル米ガ自作地ニ及バナイト云フコトデアリ
マスナラバ、是ハ農林大臣ガ少クモ相當
御考ヘニナツテ宜イコトデアル、或ハ農
林大臣バカリデナク、政府ト致シマシテ
モ、現在ノ時局ガ重大デアルカラナスベキ
コトハ何デモナサネバナラス、斯ウ云フ覺
悟ヲ御持チニナツテ居ルノデアルカラ、ヤ
レルコトハオヤリニナラナケレバナラス、
只今漸進トカ、穩健トカ云フ御言葉ガアリ
マシタガ、決シテ私ハ過激ニヤレト云フノ
デアリマスセヌ、併シナガラ此ノ三ツノ
實例ヲ見テ、高率小作料ト自作地ト云フモ
ノニ於テハ一反ニ於テ一俵違フト云フノ
ラバ、百七十萬町歩デハ千七百萬俵、石ニ
シテ九百萬石違フ、斯ウ云フ可能ナル問題
ニ付テ、ヤリニクイカラト云ツテ指ヲ染メ
ナイデ居ツテ、サウシテ唯農民ニ向ツテ増
産シテ、政府ハ増産計畫ヲ立テテ居ルノダ
ト云ハレタノデハ、結局政府ノ政策ハ甚ダ
自信ガナイト云フコトヲ言ハザルヲ得ナイ
コトニナルノデアリマス、私ハ此ノ點ニ於
テ農林大臣ガ今少シク根本的ナル農地制度
ノ具體案ト云フモノヲ持ツテ、第七十六議
會ニ御臨ミニナリタイト云フコトヲ希望ス
ルノデアリマス、ソコデ此ノ一番生産ノ
上リ得ルト考ヘラレル所ノ自作農制度ト云
フコトガ、歴代ノ政府ニ依ツテヤラレテ居
リマスケレドモ、是ハ成功シテ居リマセヌ、

農林大臣ハ只今私ガ申シマシタ此ノ三ツノ
耕地ニ對スル生産ト云フ問題ニ付テノ原則
ヲ先ツ第二ニ認メラレカドウカ、認メラレ
ルナラバ自作農ニスルト云フコトニ付テノ
具體案トシテドレダケノ積極的ナル案ヲ持
ツテオイデニナルカ、之ヲ聽キタイノデア
リマス
○石黒國務大臣 只今平野君カラ御述ベ
ニナリマシタ自作農ガ一番生産額上ゲル、次
ニ小作料ノ輕イ小作地ノ生産額上ル、小作
料ノ高イ所ハ生産額上ツテ居ラヌト云フコ
トハ、大體ニ於テ其ノ通りト考ヘマス、ア
ナタノ御研究ノ一依ノ違ヒト云フヤウナコ
トハ、私正確ニ同意ヲ致スダケノ材料ヲ持
ツテ居リマセヌ、大體ニ於テ今ノ三ツノ場
合ニ於ケル相違ト云フモノハ御話ノ通りデ
アラウト考ヘマス、是ガ自作農ヲ主ニ致シ
マシタ比較的輕い大キイ農家ヲ安定サセヨ
ウト云フコトニ、歴代ノ内閣ガ目標ヲ置イ
テ努メラレタ所以デアルト考ヘルノデアリ
マスガ、現内閣ニ於キマシテモ同ジヤウニ
考ヘテ、此ノ自作農ニ重キヲ置イテ考ヘ
テ參ル積リデアリマス、併シサウカト云ツ
テ、總テ一度ニ自作農ニスル譯ニモ參リマ
セヌ、故ニ小作農家ニ對シマシテハ、漸次適
正ナル小作料ニ指ツテ行クヤウニ小作料統
制令其ノ他ノ小作關係ノ法令モ出來、又現
内閣ト致シマシテモ、農地關係ノ命令ヲ順
次ニ出シテ參ル豫定居ルノデアリマス

○平野(力)委員 只今申上ゲマシタ三種ノ
地面ニ付テノ原則ト云フモノヲ農林大臣
ハ御認ミニナリマシタ、一俵ト云フコトニ
對シテハ、未ダ正確ナル案ハナイト仰シヤ
イマシタガ、是ハ斯ウ云フコトヲ一ツ今日
ハ御認ミニナラナケレバナラスト思フ、肥
料ヤ勞力ガ非常ニ豊富デアル時代ハ、ソレ
ハ必ズシモ其ノ差ガ甚ダシクナイノデア
ル、差ガアリマシテモ、肥料ヤ勞力ガ非常ニ豊
富デアレバ、高イ小作料ノ方ヘデモ、ヤハ
リ或ル程度マデ勞力ヤ肥料ヤアルカラ、サウ
ハナラヌノデス、殊ニ昨年及ビ一昨年ノヤ
ウナ勞力ヤ肥料ガ不足シテ參リマス、ド
ウナルカト云フハ、高イ小作料ノ方ノ地面、
就中農林大臣モ御承知デアリマスガ、我が
國ノ小作制度ノ中ニハ刈分小作制度ト云フ
モノガアリマシテ、何デモ出來タ、モノヲ
半分ナラ半分ヲ取上ゲル、收穫ノ多イ少イ
ハ別問題トシテ、多ケレバ多イダケ、其ノ
半分ナラ半分ナラ小作料ニ出スト云フヤ
ウナ制度ガ、東北地方一帶カラ全國ニマダ
相當ナ町歩ニ互ツテアル、サウ致シマス、
サウ云フヤウナ所ハ深山種レバ種々タ
ケ小作米ヲ餘計掃ツテ行ク、ドレダケ種ツ
テモソレダケ小作料ヲ取ラレシマフノダ
ト云フヤウナ地面ノ方ヘハ、ドウシテモ勞
力ヤ肥料ト云フモノガ廻ラナクナツテ來ル
ト云フコトハ、極メテ簡單ナコトデアリマ
スケレドモ、今日ノ食糧増産ト云フコトカ
ラ見レバ、ヤハリ此ノ地面ト云フモノヲ相
當ニ重點ヲ置イテ見ナケレバ、増産政策ヲ
論ズル譯ニハ參ラスノデアリマス、斯ウ云
フ大事ナ部面ト云フモノハ、而例イカ
ラト云ウテ之ニ觸レナイデ居ツテ、唯米價
上ゲテヤウナ宜イデヤナイカ、何カ強制
的ニ作レト云フ命令ヲ出シテ見タラ作ル
ヤナイカ、荒地ヲ開墾スレバ補助金ヲ出ス
ト云フヤウナ一番ノ急所ニハ手ヲ觸レナイ
デ、遠慮キニヤツテ居ルト云フヤウナ農業
政策デアリマスナラバ、私ハヤハリ現在ノ

内閣が日本ノ食糧増産ニ對スル信念ノ缺乏ト言ハザルヲ得ナイ、ソレハ出來スコトデハナイノデス、肥料ヲ餘計出ストカ、努力ヲ餘計出ストカ云フコトハ今日ハ限リガアル問題デアリマス、斯ウ云フ制度ヲ變ヘテ行クト云フコトハ、金ガ掛ラズニ、政府ノ肚ヂヤレル問題デアル、之ヲ一ツ農林大臣ハ更ニ百尺竿頭一歩ヲ進メテ深く御研究ヲ願ヒタイ

ソレカラ自作農制定主義ト云フモノハ、歴代ノ内閣ガヤツテ、現内閣モ同感ト云フ御話ガアリマシタガ、是ハ歴代ノ内閣ガ自作農制定ヲヤツテ來タケレドモ、ソレハ失敗シテ居ルト私ハ思フ、何故カト云ヘバ、一方ニ於テ自作農ヲ多少獎勵シマシテモ、片方ニ於テ自作農ト云フモノガ小作農ニ墜落シテ居リマス、結局、バランスヲ見マスト、幾ラモ殖エテ居ラス、又假ニ自作農ニナリマシテモ、高イ金ヲ借りテ自作農ニツテ居ルノカラ、小作農ヨリモ自作農ノ方ガ却テ現在政府ノ制定致シマシヤウナモノデハ満足デアラ、斯ウ云フコトデゴザイマスカラ、私ガ農林大臣ニ更ニ御聽キヲ致シタイノハ、漸進的デモ宜シイ、又極メテ着實ナル方法デモ宜シイガ、農林大臣ハ此ノ日本ノ國ノ百七十万町歩ノ耕地ト云フモノヲ生産ノ一番上ル自作農ニシテシマフト云フコトニ付テ、ソレハ五年掛ツテモ、六年掛ツテモ、或ル程度ハ已ムヲ得マセスガ、比較的近い將來ニ是ダケノコトヲ實現スルコト云フ具體案ヲ此ノ機會ニ一ツ御出シナサシ、ソレハ出來スコトデアリマセス、ソレヲ問フノデアリマス

ルカラ、小作料ヲ下ゲタラドウカ、全國的ニ小作料ト云フモノニ付テ、農林大臣ハ最近小作料統制令ト云フモノヲ御出シニナツテ、其ノ傾向ニ向ツテ、ハ居ラレルケレドモ、ソレハ上ゲテハイケナイト云フ法律デ、下ゲト云フ法律デハナイ、上ゲテハイケナイト云フ法律デハ下ウテ居ラス、米價ガ上ツテ肥料ガ下ラナケレバ、小作料ハ同ジデアツテモ小作料ハ上ツテ居ルノダ、小作料統制令ガケデハ是ハ十分デハアリマセス、ソレデ第二ノ問題トシテハ高率小作料ヲ更ニ引下ゲテ増産ニ向ツト云フコトニ付テ、農林大臣ハドレダケノ御研究ト對策ヲ持ツテ居ラレルカ、此ノ二點ヲ伺ヒタイ

○石黒國務大臣 此ノ小作料制度ノ弊害ヲ御述ベニナリマシタ、私モ此ノ弊害ハ認メマセ、漸次ニ是モ改善シテ行キタイト云フ考ヘテ以テマシタ、是ノ行ハレテ居ル地方、只今御指摘ノ東北地方ノ如キハ漸次ニ改善ヲ致シテ參ル機運ニ向ツタ所モアリマシテ、地方小作料官ノ發展等ニ依リマシテ、改善ヲセラレテ居ルヤウニ考ヘマス、之ヲ益進メテ參リタイト云フ考ヲ持ツテ居リマス、自作農制定具體的ニ計畫的ニ進行シテ行ツテ、近い將來ニ於テ全國ヲ自作農化スルコト云フ具體案ヲ、當議會ニ提出スルヤウニト云フ御希望デアリマスガ、是ハ直チニ御希望ニ應ジテ、此ノ期ノ議會ニ提出スルコト云フ運ビニハ、遺憾ナガラ參リマセス、併シナガラ私ハソレ等ニ對シマシテ十分計畫ヲ致シテ參リタイト云フ考ヘハ持ツテ居リマス、小作料ヲ適正ナラシメル爲ニ小作料統制令ヲ出シタガ、ソレハ是レ以上上ゲスト云フコトデアツテ、引下ゲニナラス、之ヲ引下ゲヌカト云フ御話デアリマス、小作料ノ

比較的高イト云フコトガ明カニ認メラレテ居ル地方ニ對シマシテ、從來ノ法令位ニ小作料ノ制度ヲ以テマシテ、出來ルケレト正ナ小作料ニ、過度ニ高イ所ハ引下ゲルコト云フコトニ付テ、十分ノ努力ヲ致シタイト考ヘテ居リマス、小作料ノ引下ゲラレタルガ増産ニ必ズ向フカ、又引下ゲラレタル小作料ニ依リ餘餘ガ必ズ増産ニ向フカ、或ハ小作料人等ノ消費ニ向ケラレテシマツテ、其ノ效果ガナイカト云フコトニ付テノ御議論ハ、或ル方面ニ於テハアルヤニ私ハ承認シマシテ居リマスガ、私ハ大體ノ趨向ト致シマシテハ、ソレハ再生産ニ向ケラレルコトト考ヘテ居リマスガ故ニ、此ノ點ニ關シマシテハ出來ルケレ増産ノ見地カラシテモ努メタイ、斯ウ云フ考ヘヲ持ツテ居リマス

○平野(力)委員 只今ノ大臣ノ御答辯ハ洵ニ結構ニ思ヒマス、大臣ノ御考ヘニナツテ居ルコトハ、農村ノ爲ニ非常ニ同慶ニ堪ヘナイノデス、ソコデ更ニ折返シテ伺ヒタイノハ、近時政府ニ於キマシテモサウデゴザイマセウガ、吾々農村關係ニ多大ノ關心ヲ持チマシテ、日頃心配ヲ致シテ居リマスル者ノ共通ノ憂ヒデゴザイマスガ、何ト申シマシテモ農民ノ間ニ、動モスレバ農業ヲ抛棄スルノ思想方現ハレ掛ケテ居ルノデアリマス、是ハ見逃セナイ、ドウ云フ譯デアアルカト申シマスナラバ、固ヨリ最大ノ影響ハ時局産業ノ影響デアリマス、時局産業ト申シマスナラバ、最近起リマス所ノ勞働賃金ノ澤山取レル所ノ事業ガ、農村地帯ニ於テ段々出來テ居ル、隨ヒマシテ農業ト云フモノハ祖先傳來ヤツテ參ツタモノデアルカラ、出來ルナラバ、此ノ産業ハ廢メタクナイ、農業ト云フモノヲ自己ノ生命トシテ飽ク

ノ實情ニ於キマシテハ洵ニ不十分デアル、而モ近時——私ハココデ内務大臣ニ御聽キヲ致シタイノデスガ、内務大臣ガ御見エニナリマセヌノデ、内務省ノ當局デ宜シイノデスガ、斯ウ云フコトガ地方ニ現ハレテ居ルノデス——ソレデハ内務省ニ關聯スル問題ハ少シ後廻シニ致シマス

考ヘルノデアリマス、ソレハ理想ト云フモノヲ論ズルダケデアリマスナラバ、如何様ニモ言ヘルノデアリマスケレドモ、行政ノ實際ト致シマシテハ、一方小作人ニ對シマシテ、地主モ居ルノデアリマス、而シテ我ガ國ノ如キハ地主トシテノ生活ヲシテ居ル人ガ相當ニ細カイ非常ニ多數ノ人居ルノデアリマス、此ノ點ガ丁度配給機構ノ整備改善ト云フコトヲシナケレバ、ナラヌ時機ニ迫ラレテ居リナガラ、同時ニ失業者、轉業者等ヲ成ベク出サナイヤウニモセバナラヌト云フコトノ負擔ヲモシナケレバナラヌト云フ立場アリマス情勢ト、同ジヤウナ場而ガアルノデアリマシテ、ソコヲ十分ニ能ク勘考致シマシテ、適當ナル時機ニ於テ適當ナル小作料輕減ノ方針ニ向ツテ進ミタイ、斯ウ云フ考ヘヲ持ツテ居リマス

ウニナリマシタ、固ヨリ私ハ治安上ノ問題ト致シマシテ、是等ノ問題ニ付テ相當御心配ニナツテ居ル其ノ態度ニ付テハ、或ル程度マデ善意ニ解釋シテ居ルノデアリマス度マデ、具體的ニ地方ノ警察官ノヤラレテ居ル所ヲ見マス、此ノ小作料ト云フ問題ニ對スル根本的研究ト、之ニ對スル或ル程度ノ見透シト云フモノニ付テ、動モスレバ御研究ノナイ人ト申シテハ失禮デアリマスガ、是ハ中々専門家ノ間ニ於テモ難カシイ問題デアル、隨ツテ何割負ケテ呉レト云ツテ出ルト、何デモ其ノ中間ナリ或ハドツチカラ取ツテ、其ノ村ニ於ケル地主ト小作人ノ額額ヲ見テ警察官ノ人ガ、モウ止メテ呉レ、時局柄ダカラソナコトヲヤツテハイケナイト云フコトガ現在地方デ行ハレテ居ル、私ハ此ノ態度ニ付テ善意ニ見ル場合ニハ、色々ナコトヲ御心配サレテ、サウ云フヤウニ片付ケウツト云フノデアリマス、其ノコトガ私ハ惡イトハ言ハヌノデアアルガ、實際問題カラ行クトドウナルカト云フコト、只今農林大臣モ此處ヲ御述ベニナツタヤウニ、此ノ日本ノ耕地ノ半分以上ヲ占メテ居ツテ、人口カラ言ヘバ農家ノ七割此ノ大部分ヲ占メテ居ル所謂小作人ガ農村ニハ非常ニ多イ、而モ食糧生産ノ重任ヲ負ハサレテ、何トカシテドレダケノ増産ヲシナケレバナラヌト云フ深刻ナル考ヘ方カラ是ダケノ小作料デハ到底農業ヲヤルコトハ出來ヌカラ、農業ヲ廢メヨウカ或ハ農業ヲヤラウカト云フヤウナ瀬戸際ニ立ツテ、小作料ノ減額運動ト云フコトマデ行ツテ居ル其ノ事自體ヲ研究ナサラナイデ、唯オノ一割ヲ負ケテヤレ、地主ノ方ニ行ツテモオノ是ダケニシロト、之ヲ警察官ノ力ニ依ツテオヤリニナツテ居ルト云フコト

ハ私ハドウモ賛成出來ヌ、現ニ此ノ事ニ對シテ最も具體的ニ現ハレマシタノハ、流石ハ我方國ノ農民運動ノ澎湃タル地方デアリマス新潟縣、是ハ一面ニ於テ新潟縣ノ特殊事情ヲ私ハ認メヌデアリマセスガ、新潟縣ニ農業盡忠會ト云フ會ガアリマス、是ハ御承知デゴザイマセウガ、警察ノ署長サンガ會長サンデス、町村長ガ副會長、小作人ノ方ト地主ノ方ヲ集メマシテ農業盡忠會ト云フモノヲ新潟縣ノ全村ニ御作りニナツテ居ル、小作問題ハ他ノ方デヤルト署長サンノ裁キデアル、警察ノ署長サンガ小作問題ヲ裁キデアルコトハ、現在農林省、司法省ガ小作調停法及ビ農地調停法ト云フ法律ヲ出シテ此ノ法律デヤツテ行カウト云フコト、此ノ方トハ理論的ニハ矛盾シテ居ル、併シ理論的ニ矛盾シテ居ルト云フバカリデナク、此ノコトニ付テハ私ハ必ズシモ良イ結果ヲ生マナイト云フ風ニ考ヘテ居ルノデゴザイマスノデ、此處デ内務當局ト司法當局ニ御伺ヒ致シタイノハ、斯ウ云フ傾向ニ對シテソレハ宜シイト言ウテ、之ヲ助長サレテ居ルノカ、或ハ本省ニ於テハ斯ウ云フコトニ付テハ餘リ御氣付キデハナイノカ、或ハ此ノ問題ヲ何ト考ヘテ居ラレルカ、御答辯ヲ願ヒタイ

○橋本政府委員 小作料ノ爭議ガアリマスル場合ニ、警察官ガ立入ツテ居ル事實ガアルカト云フノゴトハ宜イト思ツテ居ルカドウカト云フノゴトハ假ニ宜イト云フヤウニ精神ハ認メルケレドモ、不慎レト即チ専門的デナイ所ノ警察官ガ之ニ介入スルト云フコトハ結果ニ於テ宜クナイノデアリカト云フノガ御質問ノ冒頭デアツタト存ジマス、第

ノ實情ニ於キマシテハ洵ニ不十分デアル、而モ近時——私ハココデ内務大臣ニ御聽キヲ致シタイノデスガ、内務大臣ガ御見エニナリマセヌノデ、内務省ノ當局デ宜シイノデスガ、斯ウ云フコトガ地方ニ現ハレテ居ルノデス——ソレデハ内務省ニ關聯スル問題ハ少シ後廻シニ致シマス

○石黒國務大臣 農業振興ノ風ガ近頃現ハレテ居ル、是ハ時局工業等ノ關係モアルガ、小作料ノ高イト云フコトニモ關係ヲ持ツテ居ル、ヤリニタイダラウガ、此ノ際ニ之ヲヤルヤウニト云フ御意見ハ、ヨク承ツテ、私共モ出來ルケレ左様ニ努メタイト考ヘマス、唯私ハ地方ノ實際ニ放置シテ置クト云フヤウナ考ヘカラ、之ヲ曖昧ニシテ居ルト云フノデハゴザイマセス、先程申上ゲマシタヤウニ、土地制度ノ問題ハ非常ニ聯關スル所ガ大キイノデアリマシテ、堅實ナル變遷ヲ進ラセセル所ニ、行政ノ實際ト致シマシテハ重キヲ置カケレバナラヌト

○増田委員長 承知致シマシタ

○平野(力)委員 司法省ノ政府委員ハ居ラレマスカ

○増田委員長 警保局長ガ御見エニナツタサウデスカラ……

○平野(力)委員 ソコデ一ツ内務大臣及ビ司法大臣ニ御伺ヒスルノデアリマスガ、大臣ガ御見エニナツテ居リマセスカラ御當局ノ方デ宜シイ、近時地方ノ小作問題ニ關シテ警察官ガ非常ニ之ニ關係ヲセラレルヤ

○橋本政府委員 小作料ノ爭議ガアリマスル場合ニ、警察官ガ立入ツテ居ル事實ガアルカト云フノゴトハ宜イト思ツテ居ルカドウカト云フノゴトハ假ニ宜イト云フヤウニ精神ハ認メルケレドモ、不慎レト即チ専門的デナイ所ノ警察官ガ之ニ介入スルト云フコトハ結果ニ於テ宜クナイノデアリカト云フノガ御質問ノ冒頭デアツタト存ジマス、第

一ノ御質疑ニ對シマシテハ警察官小作料ノ問題ニ立入りマスルノハ、唯其ノ問題ヲ其ノ儘ニ放任致シテ置キマスルナラバ、安寧秩序ノ觀點ヨリ致シマシテ如何デアラウカト感ゼラレル時ニ於キマシテ、即チ安寧秩序保持ノ爲ニ豫防ノ見地ヨリ之ニ立入ルコトガアルノデゴザイマス、隨ヒマシテ豫防ノ見地ニ於キマシテ警察官ガ之ニ立入リマスルノハ、事態本當ニ已ムヲ得ザルニ出ヅル場合デアリマシテ、其ノ精神ハ平野サンモ冒頭ニ御認めメナツテ居ラレルヤウデゴザイマス、唯ドノ事態ニモ如何ナル場合ニモ警察官ガ之ニ立入ルヤウニ助長ヲスルト云フヤウナ御言葉ニアリマシタ如キ趣旨ハ持ツテ居リマセヌ、成ベク控ヘ目ニ已ムヲ得ザル場合ニ於テ豫防ノ措置ヨリ必要ト致シマスル時ニ立入ル、斯様ニ相成ツテ居ル次第デアリマス、尙ホ專門ノ知識ヲ缺ク警察官ガ斯ノ如キ問題ニ立入ル結果、結果ニ於テ宜シクナイト云フコトハ是ハ常識的ニ考ヘマシテ洵ニ御尤モナ御説ト存ジマスルガ、是等事態ニ介入致シマスル場合ニ於キマシテハ、若シ警察官ガ專門ノ知識ガナイト致シマスルナラバ、是ガ專門ノ知識ヲ持ツテ居リマスル所ノ農林省系統ノ小作官ナリ或ハ其ノ他ノ專門ノ知識ノアル人間ト連絡協調ヲ密ニ致シマシテ、御質問ノ如キ誤リナキヲ期シタイト存ズル次第デアリマス

○平野(力)委員 只今御丁寧ナル御答辯ガゴザイマシタガ、實ハ實情ハ只今ノ御答辯ト大分違ツテ居ルコトガ多イ、露骨ニ申上ゲマスルガ、地方ノ駐在者ノ他ニ於キマシテハ、其處ノ巡查ガ、他ノ何件解決ヲシテヤツク、他ノ力デドレダケシテヤツクト云フコトヲ一ツノ功績トシテ報告ヲシテ居ル、ソレカラ實情ニ明ルイ小作官ト打合せテト云フ御言葉ガアリマシタガ、サウ云フ場合ハ全然打合せテ居ラヌノデアリマス、小作官ノ方カラ行ケバ、是ハ後程農林省局ノ方カラモ聽キマスガ、農地調整法、小作料停フノ精神デアル場合ニ、警察官ガ立入ルト、ソレガ決裂シテ何カ起ルト云フ場合ガアル、警察官ガ、オイオ前ハ三割デ宜イデヤナイカ、二割デ宜イデヤナイカト云フコトハ、何ヲ根據トシテ一體此ノ小作問題ニ立入ルカ、私ハ精神ハ認メルト申シマシタケレドモ、私ハサウ云フコトヲヤルコトニ付テハ、根本的ニ是認シテ居ラス、是ハ地主ノ方カラ言ヒマシテモ、ドウモ警察ノ方ガ居ルカラト云フノ非常ニ迷惑ガツテ居ル、小作人モ迷惑ガツテ居ル、隨ヒマシテサウ云フコトヲ大變ニ御心配ニナルコトハナルノダケレドモ、茲デ地方ノ實情ヲモウ一遍御調べニナツテ、一ツ改メラレバモウニナサツタラドウカ、現ニ只今御答辯ハゴザイマセヌデシタガ、新潟縣ノ盡忠會、是ハドンナ村ニデモ盡忠會ト云フモノガ出來テ居ツテ、サウシテ特高課長ガ之ヲ支配シ、恰モ小作問題ハ、他ノ方デヤツテ居ルノダ、サウ云フ言葉デ表現シテハ惡イノデスガ、一ツノ優越感ヲ持ツテ取扱ツテ居ラレト云フハ、私ハ何ト云フテモ間違ヒデアルト思フ、ドウ云フ結果ガ起キテ居ルカ、餘リ言ヒタクナイコトヲ言ヒマスガ、今ノ所ハ小作料ナドモ色々下ゲテ貰ツタリシテ、ソコニウマ味モアルカラ小作ヤツテ居ルケレドモ、サウ云フコトデ警察官ガビツシヤリトヤルト、百姓ハ馬鹿ラシイト云フ氣ヲ起シテ來ル、斯ウナツタラ内務大臣ハ、

其ノ責任ヲドウ執ラレルノデアルカ、隨ヒマシテ私ハ御答辯ハモウ一回此ノ點ニ關シテ總メテ置キタイト思ヒマス

○橋本政府委員 御示シノ具體的實情ニ付キマシテハ、早速調査致シマシテ、事實ヲ正確ニ詳細ニ致シマシタ結果、御言葉ノ如キ事實アリト致シマスレバ、責任ヲ持ツテ其ノ過チヲ改ムルニ咨カナラザルコトヲ辯明シテ置キマス

○北(時)委員 委員長一寸關聯シテ……只今警察局長ガ調査セラレルトハ結構デスガ、私ハ新潟縣ノ佐渡ヶ島ノ生レデアリマスガ、佐渡ヶ島ハ私ノ知ツテ居ル限り、小作爭議ノ會テナイ所デアリマス、先ツ比較的農村、山村ノ事情カラ言ツテ新潟縣ノ本土トマルデ性質ガ違フ、ソレニモ拘ラズ只今平野委員カラ御話ニナツテ通りマシマスガ、其ノ巡查ガ會長ニナツテ居リマシテ、實ニ農村ノ方カラ言ヒマシテモ、コシナモノハ無用ダ、會テ小作爭議モナシ、又近ク小作爭議ガ起キサウナ様子モナイノデス、炭澤山採、米澤山採、漁モ繁昌シテ、現在非常ニ繁榮シテ居ル、ソレニモ拘ラズ新潟縣ヲ一率ニヤツテ、私ハ農會ノ會長、副會長カラ聞イタガ、ドウモ是ハ不名譽ニ感ズル、必要ノナイモノヲ拵ヘテ、吾々ハ其ノ下ニ使ハレルト云フ氣分ガアリマスカラ、ドウカハハ深刻ニ御調査願ヒタイト思ヒマス

○平野委員 次ニ司法當局ニ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、是亦増産政策ニ關スル根本問題デアルカラ、御答ニスルノデアリマスガ、何ト申シマシテモ農民ガ其ノ土地ニ定着ヲ致シマシテ、此ノ地面ハ未來永久殆ド

自分ノ所有ト同ジ位ナ考ヘヲ以テ、此ノ次モ耕作ガ出來ルノダト云フ安心ガ出來ナケレバ、勢ヒ増産ニ赴カナイト云フ原理ハ、是ハ私ガ喋々駄辯ヲ弄スル必要モナク明瞭ナコトデアリマス、言換ヘマスルナラバ來年此ノ土地ヲ取ラレカモ分ラヌ、或ハ二年後ニハ此ノ地面ハ引上ゲラレカモ分ラヌト云フ不安定ナル場合ニ於キマシテハ、農民ハ奪略農業——肥料モ掛ケナイデ種レルダケ種ツテ行ク、是ハ言フマデモナク農村ニ取ツテハ、減産ニ向ツテ行ク大キナ原理デアリマス、所ガ我が日本ノ國ノ民法ハ、其ノ創設當時ニ於キマシテ、我が日本ノ國ノ善良ナル所ノ風俗習慣ト云フモノヲ尊重セズシテ、制定セラレタル場面ガ多クアルノデアリマス、隨ヒマシテ民法制定以前ニ於キマシテハ、農村ニ於テハ耕作ヲシテ居リマス農民ト云フモノハ、永小作權ノ形ニ於テ、或ハ自然的ナル所ノ耕作權ノ形ニ於キマシテ、十年、十五年ト耕作ヲシテ居リマスナラバ、其ノ土地ハ安心シテ耕作スルコトガ出來タモノガ、民法ガ制定サレマシテ、土地ノ所有權ト云フモノガ確認セラレマシタケレドモ、耕作權ト云フモノハ、ナク、ソコデ耕作ヲシテ居リマス農民ノ法律的ニ安定ト云フモノガ、洵ニ乏シイノデアリマスカラ、是ガ原因トナツテ農民ニ於テハ色々ナ事件ヲ生シタコトモ、是ハ當然デアリマスガ、平時ノ場合デアリマスルナラバ、是等ノ問題モ、是ハソレダケノ問題トシテ、比較的簡單ニ御覽ニナル場合モアリマセウガ、先程來續ニ申シマスルヤウニ、何ト云フテモ茲ニ一粒ノ米デモ多ク増産シナケレバナラヌト云フ爲ニハ、百姓ノ氣ヲ打込ム所ノ熱心ナル態度、ソレニ期待

スル以外ニハナイノデアリマスガ、動モスレバ紙ヲ打下ス時分ニ、此ノ地面ハ來年取ラレカモ知レト云フ不安定ナ狀態ニアリマシテハ、是ハ到底農村ノ増産ニハナリマセヌ、ソコデ農林省當局ニ於キマシテハ、ヤハリ是等ノ問題ヲ憂慮セラレマシテ、農地調整法其ノ他ノ法令ニ依リマシテ、稍之ニ對スル抽象的ナ考ヘ方トシテハ、相當小作人擁護ニハ向イテ居ラレヤウデアリマスケレドモ、我が日本國ノ根本法律デアリマスル所ノ民法、此ノ民法ハ儼トシテ所有權絕對デアツテ、耕作權ハ擁護シテ居リマセヌ、隨テ是等ノ點カラ紛議ヲ生ミマシテ、農村ニ於キマシテハ相當ナル減産ニ向ヒマス傾向ト云フモノガ顯著デアリマスガ、司法當局ニ於カレマシテハ、最近民法ノ改正等ニ對シテモ、或ル程度ノ考ヘ方モ農林省ト打合せテ居ラレヤウデアリマスガ、此ノ民法ノ改正ノ時ニ於キマシテ、司法省ノ立場カラ、此ノ民法ノ中ニ耕作權擁護ト云フ問題ニ付テ、相當ナル考慮ヲ拂ハルダケノ考ヘガアリマスガ、又此ノ問題ニ對シテ、現下ノ農村事情ニ對シテ、何ト考ヘテ居ラレカ御答辯ヲ得タイ

○三宅政府委員 民法ノ規定ガ、耕作ヲスル人ノ擁護ガ不十分デアツタト云フコトハ、確カニ御言葉ノ通りデアリマス、其ノ爲ニ色々ナ紛争ガ起ツタト云フコトモゴザイマスノデ、之ヲ改正スルコトニナリマシテ、ソコデ農地調整法ガ生レタ譯デアリマス、農地調整法ハ即チ特別法ヲ以テ民法ノ規定ヲ改メタコトニナルノデアリマス、勿論農地調整法ノ規定デ、是ガ只今平野サンガ仰シヤツタヤウニ、總テ御満足ヲ得タトハ思ヒマセヌケレドモ、昭和十三年ニ多年色々研

究ノ結果、農地調整法ガ生レテ居リマス、サウシテ其ノ農地調整法ノ運用ノ結果、私共ノ考ヘト致シマシテハ、大體今日マデ適正ニ動イテ來テ居ルト思ツテ居リマセヌ、只今ノ勿論是ガ完全ダトハ思ツテ居リマセヌ、只今ノ所デハ暫ク農地調整法ノ運用ニ委セテ置キマシテ、根本デアル所ノ民法ニ付テノ改正ハ、只今直チニ取掛ルト云フ運ビニハナツテ居リマセヌノデアリマス

○平野(力)委員 是モ具體的ナ問題ニ付テ一ツ申上ゲテ——司法大臣モオ見エニナツタノデアリマスガ、御聽取ヲ願ツテ、御答辯ハ無論司法大臣デナクモ宜シウデゴザイマスガ、明カニシテ置キタイト思ヒマス、極メテ最近ノ事例デアリマスガ、埼玉縣ニ九反歩ヲ耕作シテ居ル小作人ガアル、小作調停法ノ規定ニ依ツテ、二年間ニ互ツテ小作料ヲ納メシタ時ニハ土地ヲ取ラレ、斯ウ云フ規定ガアリマス、昭和十三、十四ト二年ニ互リマシテ、一割五分ツツ小作料ヲ納メシタ、是ハ明カニ契約違反ダト云フノ地主ガ執行ヲ致シマシタ、九反歩ノ地面ハ強制執行サレマシテ耕作ガ出來ナイ、斯ウナツタ、ソコデ其ノ小作人ガ大慌テニ慌テ行キマシテ、其ノ未拂ヲスツカリ拂ツテシマツテ、サウシテ地主サンノ代理ノ辯護士サンノ所ニ行ツテ、斯ウ云フヤウニ支拂ツタノデアルカラ是非耕作シテ貰ヒタイト願ツタ所ガ、其ノ地主サンノ言フノニハ、未納ハ未納チヤナイカ、ソレヲ拂ツタカラト云ツテ直グニ耕作シテヤル譯ニハ行カヌ、オ前ハ契約違反ヲシタノダカラト云ツテ、是ハ調停法ニ依ツテ決マツタオト互ヒノ判決事項デアルカラ、裁判ノ判決ト同ジダカラ返サスト云ツテ、未納ヲ

皆済シマシテモ斷ジテ其ノ土地ヲ返シテ與レナイノデ、小作官ト裁判所ノ主任判事ガ隨分色々研究ヲ致シマシテ、斯ウ云フ時局ナシダカラ此ノ小作人ニ耕作ヲサセテヤルヤウニ、又其處ニハ既ニ麥モ生エテ居リマス、手入レモシナケレバナラヌノデアツテ、又其ノ小作人カラ言ヘバ、九反歩ト云ヘバ全生命デアリマスルカラ、幾ラ頼ンデモ、其ノ地主サンノ言フニハ、是ハ契約違反デアアル、俺ノ所有ノ土地ハ俺ノモノダト云ツテ、何トモナラヌ、是ハ單ナル一例ヲ申上ゲタノデアリマスガ、全國ヲ御調べニナツタラ澤山アル、其ノ地面ハドウカト云ヘバ、耕サレズニ遊ンデ居ル、政府ガ休閑地ヲ利用セヨトカ、或ハ荒地ヲ開墾セヨト云フ一方ニ於テ、現在ノ此ノ非常時下ニ於テ、サウ云フヤウナ地面ガアツテ、現實ニ耕シタイ者ガ耕セナイ、契約違反ダト云ツテ耕シタイノドウシテモ耕サセナイ、所有權絕對ヲ權ニ取ツテ、ドウシテモ耕サセテ與レナイ、此ノ點ニ對シテ、司法當局ナリ或ハ農林當局、現在ノ政府ハ之ヲドウスルカ、論理カラ言ヘバ方法ハナイノデアアル、農地調整法デアリマシテモ、小作調停法デアリマシテモ、之ニ對シテ方法ハナイノデアリマス、隨テ是ハドウシテモ民法ノ根本ヲ改正スルカ、サウデナケレバ此ノ非常時ダケハ、サウ云フヤウナ土地ヲ取上ゲテ——遊バシテ置クト云フド云フコトハ増産政策ニ反スルカラ、何トカ之ニ取ラレ入レコトガ出來ナケレバ、國家ガ命令ヲ發スルコトガ出來ナケレバ、増産計畫ナシカ適當ナ所ニ手ガ届カヌノデアリナイカ、吾々モ此ノ點ニ付テ骨ヲ折リマスケレドモ、未納ノ者ニハ拂ハセ、拂ツタ者ニハ貸スト云フヤウナコトガナ

以上ハ、此ノ所有權ト云フモノニ對シテ、或ル程度マデ裁判所ガ相當ニ制限シテ行クト云フダケノ氣持ガナケレバ、國策ノ上ニ於ケル所ノ増産政策ト云フモノト民法トハ相反シテ居ル、現内閣ハ開會場勢ニ當リマシテ、日本ノ國ハナサネバナラヌコトハ何デモスルノダト云ハレタガ、大キナ問題バカリデアリマセヌ、問題ハ卑近ナ所ニアリマス、斯ウ云フ所ニ色々ナ矛盾ヲ孕ンデ居リ、斯ウ云フ所ノ届カナイト云フヤウナ政治デアリマスルナラバ、是ハ一番危險デアリマス、私ハ司法大臣ニ特ニ伺ヒマスルガ、斯ウ云フヤウナ問題ニ對シマシテ、今一步眞剣ニ考ヘラレテ、何トカ工夫ヲセラレテハ如何カト思ヒマス、如何デスカ

○柳川國務大臣 御答ヘ致シマス、只今例ニ引カレタヤウナコトガアレバ、地主ガ大變無理ノヤウニモ聞エマスガ、又色々事情モアルデゴザイマセウカラ、能ク立法ノ上カラモ、行政ノ上カラモ、國民皆協力シテ相談モシ、努メテ相携ヘテ進メルヤウニ盡力シタイト思ヒマス

○石黒國務大臣 只今平野サンカラノ御答ニ對シマシテ、司法大臣カラ御答ヘニナツタノデアリマスルガ、サウ云フ場合ニハ出來ルダケ地主ニ說キマシテ、サウシテ圓滿ナ解決ヲ付ケルヤウニ努力ヲ致スコトガ、小作官ノ任務ノ重要ナルモノデアルト考ヘマス、私ハ小作官ヲ督勵致シマシテ、左様ナ場合ニ於テ十分ニ盡サセル積リデアリマスガ、尙ホ時局下ニ於キマシテ、制度ト致シマシテモ或ル程度ソレ等ニ對シテ制度的ノ力ヲ用ヒルヤウニ、極メテ近キ機會ニ於キマシテ、臨時農地ニ關シマスル管理ノ法令ヲ總動員法ノ條規ニ從ヒマシテ出シ

併し私ノ考ヘ方カラ致シマシテ、食糧政策ガ是程大問題デアルト言フテ朝野ヲ擧ゲテ問題ニシテ居ルナラバ、アト三十万、トシテノ確安ノ増産位ノ資材ガナイトハハ、言ヘマセヌ、ソレハ必ズアリマス、結局二百四十万、トシテノ製造能力ガアリナガラ、百七十万、トシテノヨリヤラナイ、二百万、トシテ位ヤレルモノガヤレスト云フコトハ、儲カラヌカラヤラナイト云フ考ヘガアルカラナカ、之ヲ一ツ明確ニシテ置イテ貰ヒタイ

○重政政府委員 御承知ノ通りニ確安工業ハ非常ニ高麗ノ工業デアリマス、工業ノ性質上全能力ヲ發揮スルコトハ困難デアリマスコトハ、御承知ノ通りデアリマスガ、其ノ上ニ現狀ニ於キマシテハ、只今申上ゲマシタヤウナ政府トシテハ色々ナ措置ヲ講ジテ居ルガ、尙ホ十分デナイ、資材ノ配給ニ付テ遺憾ノ點ガアルト云フコトカラ、或ル程度ノ能力ヲ發揮シテ退却シテ居ルコトヲ居ルノデアリマス、唯只今御話ニナリマシタヤウナ、二百万、トシテノ確安ノ製造云フコトガ現在出来ヤシナイカト云フ御話デアリマスガ、是ハ御承知ノ通りニ確安工場ニ於キマシテハ、確安ノミヲ製造致シテ居ルノデアリマス、確安ノ初メ時局ニ極メテ必要ナモノヲ相當程度生産ヲ致シテ居リマス、サウ云フ關係デアリマスノデ、先般秘密會ヲ農林大臣ノ申サレタ數量ダケヲ、液體、アンモニアトシテ、製造シテ居ルノデアリマス、全部硝酸其ノ他ノモノヲ一切ヤラナイトスレバ、勿論只今御話ニナリマシタヤウナ、御希望ノヤウナモノガ出来ルノデアリマスケレドモ、併し現狀ト致シマシテハ、サウ云フコトハ殆ド

不可能ナコトデアリマス、
○平野(力)委員 ソコデ肥料政策ニ對シテ私ノ所見ヲ一ツ申上ゲテ、是亦答辯ヲ得タイト思フノデアリマス、私ハ肥料ハ速ニ專賣ニスベシト云フ意見デアリマス、サウシテ現在配給機構ガドウデアルトカスウデアルトカ云フヤウナコトガ、隨分論議サレテ居リマスガ、私ハ町村ヲ通ジテ農民ニ肥料ヲ貸シテ、其ノ貸シタ肥料ノ代リニ農民カラ米ヲ買ハ、斯ウ云フコトヲ主張スル、是モ亦先般農林大臣ノ意見ノヤウニ、一ツノ名案ノヤウデアアルケレドモ、ヤルト云フコトニ付テハ又相當考ヘナケレバナラヌト云フ御議論ナラバハ別デスケレドモ、今日ドウモ御質問ガアリマシタヤウナ肥料ト云フモノハ現金デナケレバ手ニ入ラナイ、米ノ方ハ供出シテ二箇月カ三箇月カ後廻シ、利益ノコトバカリ言フヤウデアラフ汚イノデアリマスケレドモ、現實ノ問題ハ可ナリ國民ノ間ニハサウ云フ聲ガアル、自分達ノ作ツタ米ハ持ツテ行ツテシマツテ、金ハ二箇月三箇月モ後ニナル、然ルニ肥料ノ方ハ直ダ現金デナケレバ買ハナイ、是ハ隨分農民カラ言ヘバ問題デアリマス、ソコデ私ハ其ノ便法トシテ一番良イ方法ハ、政府ハ肥料ヲ專賣ニシテ豐富ニ肥料ヲ貯藏シテ、町村ヲ通ジテ百姓ニ貸シテヤレバ宜イ、サウシテ出来秋ニ百姓カラ肥料ノ代リニ米ヲ買フヤウニスレバ出来ヌコトハアリマス、現ニ農民ニハ此ノ慣習ガ廣クアリマス、從來ハ惡イ肥料屋ガ居ツテ、高イ肥料ヲ貸シテ米ヲ買取ツテ居タノデ、色々問題ガ起ツタカラソレヲ止メサセケレドモ、政府ガ安イ適當ナ肥料ヲ貸シテ、代リニ供出米ヲ取ルト云

フナラバ、是ハ全ク「スミス」ニ行キマシ、小作地ニ於キマシテ一千万石ノ米ヲ徵收シ、肥料ヲ專賣ニ致スコトニ依ツテ交換的ニ七八百万石ノ米ガ買ヘル、是ハ極メテ「スミス」ナ農業政策デアルト思フ、現在農林大臣ハドウ考ヘテ居ラレカ知リマセヌガ、今日ニ於ケル米ノ供出ハ宜シイ、成程農民ノ政府ニ對スル協力心カラ好ク行ツテ居ルノデアリマスガ、今年此ノ制度ガ良イカラト云ツテ、未來永久ニ君達ノ飯米ダケヲ殘シテ政府ニ出スノグト云フヤウナ農業政策ヲ、五年十年ト續ケテハ危イ、危イト云ヘヌマデモ、場合ニ依レバ極メテ近い將來ニハ斯ウ云フ政策バカリデハ安心ガ足リナイ、ナゼナラバ是モヤハリ農業政策ニナル大キナ原因ニナルノデス、折角作ツテモ四十三回ト公定サレタ値段テ取ラレテシマフカラ、自分ノ飯米ダケ作ツテ置カウチヤナイカト云フ問題モ、必ズシモ農民ノ心理ニナイ譯デハナイ、斯ウ云フコトヲ御考ヘニナツテ政策ヲオヤリニナラナケレバイケンナイ、ソコデ私ハ肥料政策ノ根本トシテ私ノ政府ニ御勸メスルノハ、先ツ專賣ニスル、肥料ヲ專賣ニ置イテ、配給機構ガドウト云フヤウナコトハ面倒イカラ、町村ニ持ツテ行ツテ農民ニ貸シテシマフ、サウシテ米ヲ交換ニ取ル、此ノ場合當局者ノ心配致シマスコトハ、貸シタナラバ取レヌチヤナカラウカト云フコトガ心配デアル、今日農民ニ向ツテ是ダケノ辛イ農業ヲサセテ、是ダケ必要ナ米ヲ増産サセル時ニ、貸シタモノガ取レスノデハナカラウカト云フヤウナ百姓ヲ疑フガ如キ考ヘハ、私ハ此ノ際當局ニ於テハ改メテ欲シイ、百姓ヲ信用スベシ、此ノ點ニ付キマシテ農林大

臣ヨリ、農民ノ統計信スベシト云フ御言明ガアリマシテ、私ハ欣快ニ存ジテ居リマス、農民ヲ信ジテ肥料位ハウシテ貸シテヤツテ、サウシテ小作地ニ於ケル米ト、肥料ト交換的ニ持ツテ來ル米デ穀政策ハ大丈夫ダト政府ハ言ツテ、消費地ニ向ツテ安心ヲ與ヘル、斯ウ云フ政策一ツ執ラレタラドウカト思フガ、農林大臣ノ御所見ヲ承リク
○石黒國務大臣 肥料ヲ專賣ニスルト云フコトニ付テノ御意見、政府ガ貸倒レニナリハセヌカト云フコトヲ心配シテ居ルト云フ所マデ氣ヲ廻ハシテ御考ヘ下サツテ洵ニ有難ウゴザイマシタ(笑聲)ソレヨリ手前ニ肥料ヲ專賣ニスベキヤ否ヤト云フ問題デスガ、成程我が國ノ農村ノ實情ニ於キマシテ、肥料高ト穀屋ト云フモノハ、舊來カラ略、同じ者ガヤツテ來テ居ルト云フ實情ガアリマス、又其ノ後ノ改善セラレタル農村ノ機構ニ於キマシテ、産業組合ガ米穀ノ販賣ヲ引受ケルト同時ニ、肥料ノ配給ヲ致シテ居ルト云フコトガ、相當ニ廣ク進んで居ルコトヲ事實アルノデアリマス、故ニ米穀ト國家管理ヲ必要トスルニ至ツタ國家方、同時ニ肥料ノ配給ヲ自ラ致シ、其ノ製造マデモ自ラ致シテ、之ヲ專賣制度ニ移スコト云フコトハ一應考ヘラレルトコトト申シマス、供シドウモ度々輕々シクト云フコトヲ申シテ済マセヌガ、是亦輕々ニ結論スベキコトデアリナイト思ヒマス(笑聲)云フノハ、只今モ資材部長カラ申上ゲマシタヤウニ、化學肥料ノ製造工業ハ極メテ高温高壓ノ工業デアリマシテ、而モ科學ノ進歩ト共ニ非常ナ變化ノ速カナモノデアリマス、其ノ點ガ一點ト、ソレカラ資材努力ノ供給ニ關シ

マシテ安定ヲシナケレバナラヌコトガ非常ニ大キイノデアリマシテ、此ノ點ニ關シマシテ政府ノ專賣ト致シマス際ニ、肥料製造ト云フ點ニ關シマシテ、恐ラク私ハ更ニ又雄大ナル計畫ヲ御進メニナツテ、水力ノ國有及ビ石炭山ノ國有ト云フコトマデ進メナケレバ、徹底シタル肥料專賣ハ出来ナイノデヤナカラウカト考ヘルノデアリマス、問題ハ極メテ雄大ナコトニナリマスノデ、輕々ニ御答ヘラ致シ難ナラス
○平野(力)委員 尙ホ御話キシタイ點ガアリマスガ、是ハ別ノ機會ニ致シマシテ、次ニ蠶絲問題ニ付テ極メテ要點ダケ聽イテ置キタイ、今日既ニ今議會ノ傍頭カラ日本ノ國際關係ノ問題ガ據、明カニナリマシテ、來ルベキ將來ニ於テ「アメリカ」ガ日本ノ生絲ヲ買ハナクナルデアラウト云フ場合モ、我が國トシテハ當然之ヲ豫想スルコトハ、今日ノ情勢ニ於テ常識ニナツテ居リマス、政府ニ於ケルマシテモ種々ナル對策ガ考ヘラレ、又民間ノ諸團體ニ於キマシテモ種々研究ヲ遂ゲテ居ルノデアリマスガ、私ガ此ノ點ニ付テ農林大臣ニ特ニ此ノ際一ツ御考ヘテ願ハナケレバナラヌト思フコトハ、蠶絲問題ト云ヘバ、大體ニ於テ生絲ヲ商賣トシテ居リマス方面ノ人ガ此ノ問題ヲ重點トシテ居リマスケレドモ、現在若シ「アメリカ」ガ日本ノ生絲ヲ買ハナクナルデアラウト云フ場合ニ於テ、一番吾々ノ考ヘナケレバナラナイ問題ハ、二百萬戸ノ蠶農農民ノ立場デアリマス、言換ヘマスナラバ、我國ノ農家ニ於キマシテ二百萬戸ノ農家ト云フモノハ、大ナリ小ナリ此ノ蠶業ニ從事シテ居リマシテ、而モ其ノ中ニ於キマシテ長野縣、山梨縣、群馬縣、岐阜縣、福島縣等ノ蠶業ヲ主

トスル府縣ニ於キマシテハ、此ノ蠶業ノ動搖ト云フモノハ、直チニ其ノ縣内ニ於ケル重大ナル動搖ニナルコトモ亦多言ヲ要シナイノデアリマス、隨テ此ノ際政府ノ蠶業對策ノ根本ト致シマシテハ、「アメリカ」ガ米ヲ買ハナクナルデアラウト云フヤウナ豫測デハナクシテ、買ハナクナル場合ニ於テモ是ダケノ方法ガアルト云フコトヲ此ノ際天下ニ明示スルコトガ、政府ノ態度デナクテハナラナイト思フ、隨テ私ハ農林大臣ト致シマシテ、此ノ重大ナル蠶業對策ニ對シテ、今日「アメリカ」ガ生絲ヲ買ハナイ場合ニ於ケル我が國ノ二百萬戸ノ蠶農農民ニ對シテ、ドウ云フ態度ヲ以テ臨マレルカト云フ根本的ノ方針ヲ承ツテ置キタイ
○石黒國務大臣 時局ノ國際關係カラ致シマシテ、主トシテ「アメリカ」ニ輸出ヲ致シテ居リマス蠶業ノ將來ニ關シテ、政府モ特ニ考慮ヲ重ネテ居リマス、近イ機會ニ於キマシテ其ノ具體案ヲ當議會ニ提出ラ致シマシテ、御協賛ヲ得タイト考ヘテ居リマスカラ、詳細ナコトハ其ノ際ニ申上ゲルコトニ致シタイト思ヒマス
○平野(力)委員 此ノ際モウ一點ダケ承ツテ置キタイノデアリマス、今日蠶業問題ニ付テ色々論議サレテ居リマス中ニ於テ、色々社會社ヲ立テラレルトカ、或ハ統制ヲサレルト云フ問題モアリマスガ、サウ云フ角度カラ見テ立場デハナク、農村ノ方カラ見テ立場カラ言ヒマス、養蠶ヲ止メテ他ニ轉業スルト云フ問題ガ、今日相當現實問題ニナツテ居ルノデアリマスガ、農林大臣ハ此ノ問題ヲ取扱ハレマス場合、養蠶ヲ主トシテ居リマス地方ト、養蠶ヲ副業トシテ居リマス地方ト區別シテ、此ノ養蠶ニ對シ

ル所ノ、所謂桑園ノ整理或ハ其ノ他ヲ御考ヘニナツテ置ク必要ガアラウト思ヒマスガ、是モ併セテ御答辯ヲ得タイト思ヒマス
○石黒國務大臣 只今御答ニ點ハ、私ト致シマシテモ十分ニ考慮ラ致シテ善慮致シタイト云フ考ヘヲ持ツテ居リマス
○平野(力)委員 次ニ拓務大臣ニ一ツ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、ソレハ拓務省ガ今日マデ立テテ居ラレマス所ノ百萬戸滿洲農業移民計畫ト云フモノニ付テハ、依然トシテ其ノ方針ヲ堅持サレテ居ルカドウカト云フコトガ一點、ソレカラ此ノ移民ヲ行ハレマス所ノ根本精神ト云フモノハ、ドウ云フ所ニ重點ガ存シテ居ルノカ、言換ヘマスト内地ニ於ケル所ノ人口ト土地ノ關係上、人口ガ多過ギルカラ滿洲ノ方ニ百萬戸移住セシムルト云フ點ガ重點デアルノカ、滿洲ノ方ハ日本人ヲ相當サツテ置カナケレバ、國防上或ハ其ノ他ノ點ニ於テ相當ナル缺陷ガアルカラ、日本人ヲ滿洲ノ方ヘヤルト云フノカ、是ハ拓務省ト致シマシテハドチラニ重點ガアルノカ、近時我が國ノ農業政策ヲ考ヘル人ノ中ニハ、動モスレバ我が日本ノ國ノ農業ト云フモノニ對シテ、人口ト土地ノ關係上、農民ガ餘リ過ギテ居ルノデアルカラ、相當ニ人口ヲ減ラシテ行キサヘスレバ我が國ノ農村ノ問題ハ解決スル、又日本ノ農村ニ於テハ、相當ニ機械化スレバ少數ノ人口デテ農業ノ増産ヲスルコトガ出来ルト云フヤウナ研究ガ據、積んで居ル、又最近「ヨロ」ロ「人」ナドノ意見ニ依リマス、日本ノ農業ト云フモノハ、ソレハ農業デナクシテ園藝ダ、ソナ集約的ナコトヲヤツテ居ツテハ、生産率ガ上ラヌデアリナイカト云フヤウナ議論ヲ、最近聽クヤウニナツテ居ルノデア

リマスガ、私ノ所見カラ申シマス、我が日本ノ國ノ國力ノ強味ト云フモノハ、農村ノ中ニ相當多量ノ人口ヲ保有シテ、尙且ツ其ノ人口ヲ養ヒ得ルダケノ生産率ヲ農村デ上ゲテ居ルト云フ所ニ日本ノ強味ガナクテハナラヌ、又ソコニ農業政策ノ根幹ガナクシテ、唯輕々ニ移民問題ヲ取扱ツテ、唯輕々ニ思付キデ以テ人口ト土地ノ關係ヲ考ヘルコトガアルナラバ、是ハ淺ハカモ甚ダシイ、隨テ私ハ拓務大臣ニ御伺ヒ致シタイノハ、此ノ滿洲百萬戸農業移民ト云フモノヲ、前通り堅持サレテ居ルナラ、堅持サレテ居ルカドウカ、隨テ其ノ移民ノ根本方針ト云フモノハ、拓務省トシテドウ云フ所ニ基準ヲ置イテ居ラレカト云フコトヲ、此ノ際一ツ明カニ御答ヘ願ヒタイト思ヒマス
○秋田國務大臣 平野君ノ御質問ニ御答ヘ致シマス、御答ニ要旨ハ、滿洲開拓移民百萬戸送出ノ計畫ヲ現ニ、又將來堅持スルカドウカト云フコトデアリマス、堅持致シタイト思ツテ居リマス、元來此ノ百萬戸送出計畫ハ、同時ニ只今ノ御質問ノ第二點トモ、併セテ御答ヘ致シマスルガ、此ノ計畫ノ由テ來リマシタ源ハ、是ハ國策ト云フ見地カラ來ルノデアリマス、國是ニ基クテ神理念カラ、此ノ國是國策ガ生レテ參ルモノダト、斯様ニ考ヘテ居ルノデアリマス、肇國精神ハ申サマデモナク八紘一宇デアリ、萬邦協和デアリ、此ノ大キナ理念カラシテ、東亞共榮國ノ確立ト云フ國是ガ生レテ來ル、此ノ國是カラシテ一方ハ大陸政策、一方ハ海洋政策ト云フモノガ出テ參リマス、大陸政策ト云フ上カラ致シマシテハ、ドウシテ

モ大陸進出ノ據點タル滿洲國ヲ維持育成致シマシテ、強イ滿洲國ニ仕上ゲナケレバナラヌト思フノデアリマス、此ノ據點タル滿洲國ヲ強クスルコト云フニ於テハ、ドウシテモ優秀ナル我が大和民族ヲ相當程度ニ、アノ滿洲ノ地域内ニ保有致サナケレバナラヌト思フノデアリマス、是ニ於テドノ程度ニ我が民族ヲ滿洲ニ保有スルカト云フコトカラ考ヘラレテ、大體二十年間ニ百萬戸、一口ニ百萬戸ト申シマスルガ、是ハ二十年間計畫デ、昭和十二年ヲ起點ト致シマシテ、昭和三十三年マデ二十年間、此二十年間更ニ四期ニ分チマシテ、一期五年、即チ五年ヲ以テ一期ト致シマシテ、四期間ニ第一期四十萬、第二期二十萬、第三期三十萬、第四期四十萬、合セテ百萬戸、五百萬ノ人口、之ヲ目安ニ致シマシテ、此ノ百萬戸送計畫ト云フモノガ立ツテ居ルノデアリマス、斯ウ云フ計畫ハ昭和十二年カラ實行致シテ居ルノデアリマシテ、ドノ内閣ガ此ノ政策ヲ立テマシタカ、私ヨクソレヲ覺エマセヌガ、ドノ内閣ガ立テマシテモ、所謂國是ニ基ク國策デアアルノデアリマスカラ、斯ウ云フ國策ヲ濫リニ變改致スト云フコトハ宜シクナイコトダト思フテ居リマス、隨テ私ハ現内閣ニ於テヤハリ此ノ國策ヲ維持シテ參リタイ、當ニ現内閣ガ之ヲ堅持スルノミナラズ、將來ノ如何ナル政府ニ於テモ、濫リニ斯様ナ政策ヲ變改スルコトナク、維持シテ行クコトガ國家ノ爲メデナカラウカト、斯様ニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、唯此ノ政策ハ方針デアアルノデアリマシテ、今後年々之ヲ實行致シテ參ルニ於キマシテハ、國策ガカラト云ツテ遮ニ無ニソコニ伸ビモ縮ミモ出來ナイヤウナリ方ヲシテ參ル

ト云フ譯ニハ行カナイ、毎年度ニ於キマスル所ノ勞務員計畫、又物資動員計畫、資金ノ計畫、是等ト配合ハセマシテ、時ノ宜シキニ從ツテ多少ノ伸縮ヲソコニ付ケテ參ラナケレバナラヌト思ヒマス、ソコ是等ノ計畫ト配合ハセ、又内務省或ハ厚生省、或ハ農林省、是等ノ關係各省ト能ク協調ヲ取リマシテ、分科分種ノ計畫ニ基キマシテ人口問題、食糧問題、又失業対策、國土計畫、ソレ等ノモノトモ總テ配合ハセマシテ、組織的ニ合理的ニ此ノ計畫ヲ遂行シテ行カナケレバナラヌト考ヘテ居ルノデアリマス、左様ニ致シマシタナラバソコニ少シモ不自然ナルコトガ出來ナイ、又跛行的ニハナラナイト云フ風ニ考ヘテ居ルノデアリマス、近來動モスレバ此ノ努力不足ノ場合ニ、ワザワザ宣傳獎勵シテ滿洲ノ人ヨリ深山ヨリモ及バズデハナイイカト云フヤウナ論ヲ時々聞クノデアリマスケレドモ、私ハ大シテ心配ハナイト思フテ居ル、先刻申上ゲル通り二十年計畫百萬戸、第一期十二年カラ始マツテ此ノ十六年ヲ以テ終リ、十七年カラ第二期ガ始マルノデアリマス、第一期ハ五年間ニ百萬戸デアリ、第二期ハ五年間ニ二十萬戸デアリマス、全國一萬二千ノ町村カラ是等ノ戸數ヲ出ス、之ヲ平均ニ分ケテ見ルト、一町村三戸カ四戸バカリデ大シク問題デナイ、殊ニ之ヲ分種分科ノ計畫デヤツテ行クコトデアリマスカラ、ソコニ勞力ヲ用フル上ニ於テヒドイ跛行狀態ヲ來スト云フヤウナコトハ事實ニ於テアリ得ナイ、殊ニ況ニ日本ニ於ケル所ノ勞力ガ多少不足致シマシテモ、ソレハ滿洲ニ於テ生キテ來ルノデアリマス、而シテ日滿ハ一體デアアル、何等心配ノナイモノダト考ヘテ居ルノデア

リマス、斯様ナ考ヘカラナノデアツテ、是デ大體御答ガ總テ含マレテ居ルモノト思ヒマス(拍手)
 ○平野(力)委員 大體ニ於キマシテ要領ヲ得タヤウニ思ヒマスガ、尙ホ質問シタイコトモアリマスケレドモ、分科會ニ讓ルコトニシテ、私ノ質問ハ打切りマス
 ○増田委員 三宅正一君
 ○三宅委員 總理、外務、企業院總裁等ハ何時ニオイデニナリマスカ
 ○増田委員長 時間ノコトハ一寸申上ゲ兼ネマス、成ベク早クコツチニ御出席ニナルヤウニ要求致シテ居リマスガ、今出席ニナツテ居ル大臣ニ對シテ、御質問ヲ先ニ始めテ戴キタイト思ヒマス
 ○三宅委員 ソレデハ質問ノ順序ヲ變更致シマシテ、農林大臣ニ對スル質問カラ始メタイト思ヒマス、今日食糧ノ増産問題ハ非常ニ重要ナル持ツテ居リマスシテ、此ノ點ニ付テ非常ニ専門家デアリマス農林大臣ガ先ニ立テマシテ、危ナ氣ノナイ全力ヲ舉ゲテ政策ヲヤツテ居テ下サルコトニ付テハ、私共ヨクキ農林大臣ヲ得タモノトシテ安心モシ、喜ビモシテ居ルノデゴザイマスガ、唯私共ガ農村ノ増産問題ニ付テ、今農林省ノ考ヘテ居ラレル程度ノ對策ヲ以テ致シマシテハ、一ツノ界限線ニ到達シテ居ルコトヲ心配セザルヲ得ナイノデアリマス、今平野委員カラモ其ノ點ニ付テ土地問題ノ質問ガアツタノデアリマスガ、私ハ推進班ノ問題デアルトカ、技術ノ獎勵ノ問題デアルトカ、サウ云フ點一切ニ付キマシテハ、農林大臣ノ對策ヲ信用致シマシテ、ソレデ宜シイト思フノデアリマスガ、ヤハリ土地問題ノ解決ニハ今一步進進ニナラナイト増

産問題ハ行詰ルト考ヘルノデアリマス、是ハ專門家デアアル農林大臣ニ請キシク申上ゲルマデモナイコトデアリマスガ、今年ノ米收ノ減リマシタ大キナル原因ノ中ニハ、統計ノ數字ノ上ニ於テ現ハレテ居ルカドウカト云フコトハ別ト致シマシテ、統計ニモ現ハレテ居ル點ハ付面積ガ非常ニ減ツタト云フコトデアアル、是ガ第一、第二ニハドウ云フ點デアアルト云フ點デアリマス、此ノ點ニ付テハ、一般ノ農業理論家ハ、米ノ値段ヲ引上ゲタナラバ宜カラウト云フコトヲ言ツテ居リマスケレドモ、私ハ米ノ値段ヲ引上ゲルト云フ點ニアルノデハナクシテ、土地制度ノ不合理カラ來テ居ルト云フコトヲ痛感スルノデアリマス、第二點ト致シマシテハ何處ニアルカト云フト、畑作ガ非常ニ有利デアツテ、水田耕作ハ非常ニ不利デアアル、特ニ是ハ自作地ニ付テモ申上ゲルコトガ出來ル點デアアルガ、自作地ヨリモ小作地ガ不利デアアル、具體的ニ實例ニ付テ申上ゲマス、例ヘバ東海道カラ表日本一帯ニ付テ、神奈川縣ナドノ話ヲ調ベテ見テモ、畑ノ小作料ト云フモノハ金納デ十圓位、然ルニソレガ色々ノモノヲ植替ヘマシテ三毛作ガ出來ル、假ニ西瓜ノヤウナモノヲ作リマシレバ、一反付ニテ收穫ガ二百五十圓上ル、花ノヤウナモノヲ作レバ一反ニ四百圓上ル、國策作物デアアル麥ヲ作リマシテモ水田デアリマシマシテ、サウシテ非常ニ高イ收穫ガ上ルニ拘ラズ、小作料ハ十圓位デアリマスカラ、サウ云フ畑ノ地帯ハ喜ンデ作ツテ居ル、然ルニ水田耕作ハドウナツテ居ルカト申シマス、大部分ガ物納小作料ニナツ

テ居ル、而シテ物納デ收穫ノ半分以上ハ實際ニ於テ小作料トシテ取ラレテ居ル、今年ノ統計ハ出テ居ラズガ、收穫率ニ付テハ今年ノ一反ノ收穫ハ御承知ノ通り二石以下デアアル、二石以下デアアルニ拘ラズ小作料トシテ取ラレマス分ハ、昭和十四年度ノ勸業銀行ノ物納小作料デ以テ見ルト一石六升取ラレテ居ル、二石以下ノ收穫デ一石六升、收穫ノ半分以上ヲ取ラレテシマヒマスカラ、假ニ小作料ヲ一石一斗シマシテ金納ニ致シマスト五十圓ノ小作料、五十圓ノ小作料ヲ取ラレテシマツテ、アト残りマシタノハ一石デアリマス、二石四十三圓ノ米デアリマスカラ、ソレニ勞力費ヲ加ヘ、肥料代ヲ加ヘマシレバ、是ハ小作人トシテ到底引合ハナイ、我が國ノ農家ハ零細農デアリマスカラ、其ノ仕事ハ家族ノ方ニ任シテシマツテ、サウシテ親父工場ニ働キニ行ク、此ノ狀況ヲ今度農林省デモ氣付カレマシテ、低位收穫農家ノ指導ト云フコトヲ言ツテ居リマスケレドモ、根本ハソコニアル、ドウシテモ畑ノ小作料ト田ノ小作料ハ大體ニ於テ比例ガ取レコトニナラナケレバ、畑作ハヤルケレドモ、一番大事ナ水田耕作ハヤルナイト云フコトニナルノデアリマス、是等ニ對シマシテ小作料ノ統制令ヲ出シタカラ指導ガ出來ルト云ハレマスケレドモ、ソレハ籠辯デアアル、ソレハ籠辯デアツテ、其ノ結果ハドウナツテ居ルカト云ヘバ、現ニ土地放棄ト云フ事實ヲ平野君ガ言ツテ居ラレタノデアリマスガ、非常ニ澤山出テ來テ居ルノデアリ、之ニ對シテ私ハ隨テ平野君ノ申サレマスルヤウニ、小作地國有ト云フヤウナコトハ、之ヲヤル爲ニ、幾ラデ買フトカ色々ナコト

デモツテ五十何億トカ百億近イ金モ動かサナケレバナラズ、證券モ動かサナケレバナラズト云フコトニナルカラ、直チニ出來ナイトシテモ、私ハ土地ノ公益管理法ト云フモノハ、直チニ一ツ御制定ニナリマシテ、此ノ點ニ付テ小作料ノ適正化ヲ命令ヲ以テナシ得ル、サウシテ畑作水田トノ不合理ガナイヤウニシナケレバ、私ハ米ノ増産ハ小作地ニ付テハ飛ンデ行ツテシマフト思フノデアリマス、是ハ所謂土地問題カラ來ル所ノ、土地機構ノ缺陷カラ來ル所ノ減産ノ一ツノ原因デアリマスカラ、モウ一ツハ今申シマシタ通り、自作農デモ米ガ引合ハナイ、公定ト云フコトハ價格政策カラ見テモ、私ハ價格政策ニ依ツテ米ヲ上ゲルト云フコトヲ申スノデハナイ、上ゲルト云フコトモ必要カモ知レナイケレドモ、今ノ儘デ致シマスレバ生産者ノ手ニハ入ラナイノデアリマス、米ヲ上ゲマシレバ外ノ物價モ上ツテ來ルノデアリマスカラ、私ハ農業用ノ必需物資ガ安ク農民ノ手ニ入ルヤウニスルコトガ宜イト思フノデアリマス、即チ麥ノ値段ト米ノ値段、野菜ノ値段ト米ノ値段、西瓜ノ値段ト米ノ値段、花ノ値段ト米ノ値段ト云フヤウニ、價格ノ統制政策ヲオヤリニナリマスカラ、是ガ横ニ互ツテ一貫シタ統制ヲオヤリニナリマセスト、ソコニ私ハ不合理ヲ來ス一番大キナル原因ガアルト思フノデアリマシテ、此ノ點ニ付テドウ云フ對策ヲ御執リニナツテ居ルカ、ドウ御考ヘニナツテ居ルカト云フコトヲ先ヅ第一ニ御伺ヒシタイト考ヘルノデアリマス
 ○石黒國務大臣 只今三宅サンカラ御尋ネニナリマシタ食糧増産上土地制度ノ改善、殊ニ水田ノ小作料ノ物納制デアアルガ故ニ不

利益ヲ來シテ居ルト云フ點ノ御指摘、此ノ點ニ關シマシテハ、先程平野サンニ大體御答ヘ致シタ所デ御諒解戴キタイノデアリマスカ、土地制度ガ農産物ノ生産ノ上ニ相當ノ力強イ關係ヲ持ツテ居ルト云フ風ニ私モ考ヘマスルノデ、之ヲ改善シテ參リタイト云フ考ヘハ持ツテ居ルノデアリマス、唯其ノ方法ト致シマシテ、最近平野サンノ御同志ノ方々ニ三宅サンモ其ノ中ニ名前ガアツタヤウニ思ヒマスガ、カラ御示シニナツタ農地國有ノ案デ行キ得ルト云フヤウナコトハ、十分ニ研究考慮シタ上デナケレバ、之ニ關スル私ノ意見ヲ申上ゲ兼ネル、併シ農業増産ノ上ニ於テ關係ガ大イニアルト云フコトハ、能ク承知ヲ致シテ居リ、之ニ改善ヲ加ヘタイト云フコトヲ考ヘテ居ルト云フコトデ御承知ヲ願フタノデアリマスガ、三宅サンハ其ノ方ハ、マア百億カラノ證券モ出ルコトデアアルカラムツカシイト思フガ、之ヲ公益管理ニト仰シヤツタガ、ドウ云フコトカ、餘リ能ク分リマセテ、スルト云フコトニ依ツテヤレバ割合ニ良ク行クト思フコトヲ御話デアリマスガ、アノ案ノ中ノ其ノ點モ十分ニ研究シテ見ナケレバ、直チニ御贊成ヲ申スト云フ譯ニハ參リマセス、維農地ノ或ル種ノモノヲ公共團體、若シハ農民ノ組合等ニ於テ、適當ナ管理ヲ致スト云フコトハ、是ハ地方ノ銀行アタリガ、大キナ地主カラ因縁ノアル土地ヲ抱ヘ込ムト云ツタヤウナコトト違ツテ、農地ノ管理ト致シテハ、餘程地方銀行ノ抱キ込ミノ土地ト云フヤウナコトノ成績ガ悪クツタト云フヤウナコトデ、片付ケテ行クベキモノデアリト考ヘテ居リマス、即チ相當良ク運行シ得ルト云フ程度ノ

多イモノダラウト考ヘマス、併シソレニハ色々ナ附加ヘテ考ヘナケレバナラズ弊害ノ方面モナキニアラズト考ヘマスルカラ、ソコ等ハ十分ニ研究ヲ致シタ上ニ意見ヲ定メタイト思フテ居リマス
 次ノ米價ノ引上ハ敢テ主張シナイガ、他ノ農産物ト、殊ニ畑作農産物ト關聯ノ上ニ於テ價格ノ決定ガ當ヲ得テ居ラナイヤウデアアルカラ、之ヲ横ノ連絡ヲ執ツテ統制ヲ付ケテ考ヘルヤウニト云フ御話デアリマス、是ハ先日私ガ御答ヘ致シマシタヤウニ、左様ナ現實ノ事情ガ地方ニ於テ相當アルヤウニ認メテ居リマスカラ、價格公定ノ上ニ於テ十分ナ注意ヲ以テ再檢討ヲ致シタイト云フ考ヘテ居リマス
 ○三宅委員 農林大臣ハ私ノ土地公益管理法ノ問題ニ付テ、何か十分ニ呑込ンデ居ラレナイヤウナ御答辯ヲ戴キマシテ、甚ダ残念ニ思フノデアリマスガ、モウ少シ私ハ其ノ點ニ付テ御所見ヲ質シタイト思ヒマス、ソレニ付テ只今モ御返事ガナカツタノデスガ、畑作ガ非常ニ有利デアアル、畑作ノ小作料ト云フモノガ金納ノ物納ノ所モアリマスカレドモ、金納ガ多イコトモ御承知ノ通りデアリマス、水田ノ小作料ガ物納ノ多イコトモ御承知ノ通りデアリマス、物納デ半分以上取ラレテシマツテ、サウシテアト残りマシタ部分デハ小作人ガ引合ハナイノデ、勞働力ガ過剩ノ時代ニ於キマシテハ、ソレデモヤツテ行ク、併シ勞働力ガ不十分ニナリマシレバ、家族ニ其ノ勞働ヲ任シテ置イテ、中心勞働者ガ外ヘ出テ行ツテシマフ、是ガ一番大キナ減收ノ根本原因デゴザイマスルノデ、此ノ點ニ付テハ今日ノ小作料統制令ナドト云フヤウナ行キ方デナシニ、モ

ウト思ヒ切ツテ統制法規ヲ御出シニナル必
要ガ、土地管理ノ第一ノ項目トシテ思フノ
アリマスガ、其ノ點ニ付テハ一體今ノノ
イト思フテ居ラレドアリマスガ、來年ノ
増産ニ對シテ、モウ少シ斯ウ云フ點ニ付テ
具體的ナ御施策ヲ御考ヘニナラヌト、私ハ
増産ヲ阻礙スルト思フノデゴザイマスガ、
其ノ點ノ御返事ヲ戴キタイト思フ

○石黒國務大臣 物納小作料ニ關シマスル
點ノ御話ガアリマシタガ、是ハ金納小作料
ニ段々變ルベキ趨勢ニアルモノト考ヘテ居
リマス、既ニ今日マデニ於キマシテモ、漸
次金納小作料ニ變テ來ルベキ大體ノ趨勢
ハアツクノト私ハ考ヘテ居リマス、併シテ
ガラ土地制度ト云フモノハ御承知ノ通りニ
サウ革新的ニヤツテ行クニ付キマシテハ餘
程考慮シナケレバナラヌモノデアリ、殊ニ
我が國ノ土地所有ノ實情ヲ能ク御承知ノ三
宅サントシテハ其ノ點ヲ十分ニ御考慮ヲ載
キタイト思フ、小作人モ無論多數デアリマ
シテ、極メテ小サイ人々デアリマス、併シ
我が國ノ土地所有者、地主ト云フモノハ、
決シテ外國ノヤウニ大キイモノバカリデハ
アリマセヌ、非常ニ小サイ土地所有者ガ澤
山アルノデアリマス、是等ノ關係カラ致シ
マシテ、之ヲ一朝ニシテ變ヘルト云フコト
ハ餘程難カシト思フ、此ノ間ガ議論ヲス
ル者ト實際ノ行政ヲヤル者トノ間ニ非常
苦心ノ違ツタ點ノ存スルコトヲ能ク御瞭解
ヲ載キタイ、私ハ土地制度、小作制度ニ關
シマシテ改善ヲ致シテ參リタイト云フ考ヘ
ヲ持ツテ居ルト云フコトハ度々申上ゲタ、
是デ宜イト考ヘテハ居リマセヌ、併シ明年ノ
増産ニ對シテ之ヲドウシナケレバナラヌ
ト云フコトハ、是ハ御忠告ニ依リマシテ十

分ニ考ヘマスルガ、茲ニ明年ノ増産ノ爲ニ
直チニ土地制度ヲ變革ヲ致シマスト云フコ
トハ申上ゲラレマセヌ

○三宅委員 行政ノ局ニ當ラレテ居ル國務
大臣ノ御苦勞ト云フコトモ、其ノ御氣持モ
私共始終接觸シテ居ルカラ分ツテ居ルノ
デアリマス、ソレダカラ私ハ先ツ簡單ナ方カ
ラオヤリニナツタラ宜イデヤナイカ、簡單
ナ方法ト申シマスレバ、現ニ今日總動員法
ノ發動ニ依リマシテ作付ノ強制命令、ソレ
カラ地目ノ變換ニ關スル許可制ト云フ所マ
デモウオ進ミニナツテ居ル、是ハ更ニモウ
少シ範圍ヲ擴メラレマシテ、現ニ方々デヤ
ツテ居リマスガ、一ツノ物指ヲオ作りニナ
ツテ、非常ニ高イ小作料ニ付テハ之ヲ或ル
程度マデ下ゲテ、サウシテ家族ノ副業勞働
デヤラズニ、主人ガヤルヤウナ方向ニ持ツ
テ行ク國家管理ヲヤツタラドウカ、更ニソレ
ダケデナシニ、土地ノ交換分合ニ付テモ、
今日アタノ時代デナシニ前ノ時代ニ獎勵
ヲ致シテ土地ノ交換分合ヲヤラシテ居ルノ
デアリマスガ、私ハ農村勞力ノ節約ノ上カ
ラ申シマシテ、是モ專門家デアル農林大臣
ニ申上ゲルコトハ實ニ餘分ナ話デアリマス
ケレドモ、同ジ一反ノ耕地ヲ作りマシテ二
石五斗ノ米ヲ獲リマスノニ、或ル耕地人
反十五日デ宜シイ、或ル耕地人六十日モ手
ヲ入レナケレバナラヌト云フ、サウ云フ差
ガアル、其ノ大キナ差ハ耕地ノ條件ニモ依
リマスケレドモ、一ツハ分散シテ居ルト云
フ點ニアルノデアツテ、之ヲ交換分合ヲヤ
ツテ、經營ノ中心地ニ集メレバ、勞力ニ於
テ節約ガ出來ルコトガ、實ニ大キイト云フ
コトハ、帝國農會其ノ他統計ニ依ツテモ明
白デアル、私ハ今日努力ノ足ラヌ時ニ、出來

ルダケサウ云フ點ニ付テノ努力ヲ節約シツ
ツ、實際ノ増産ヲ圖ル上ニ於キマシテハ、交
換分合ニ付テハ命令ヲ以テ出來ルト云フ所
マデオヤリニナラナケレバイカスルと思フ、
是ガ土地國家管理デアル、此ノ公益管理法ト
申シマスノハ、陛下カラ御預リシテ日本
ノ土地ハ公益的ニ最高ノ能率ヲ發揮スルヤ
ウニ運用サセラルヤウナ權利ヲ持ツタ法律ヲ
一本出ス、土地ノ交換分合ヲ阻礙シテ居ル
ノハ何デアルカト云フ、同ジ土地デアツテ
モ地主ニ依ツテ小作料ガ違フ、ソレカラ生
産量ガ同ジデアレバ、ソレヲ統一シテ、急激
ナコトヲヤレトハ申シマセヌケレドモ、土地
ノ交換分合ヲヤルコトニ依ツテ一反ノ耕作
ニ三十日ノ手間ヲ使ツテ居ツタノヲ十八日
ニ下ゲルコトガ出來、二十日ニ下ゲルコトガ
出來タトスルナラバ、是ハ私ハ非常ニ大キ
イコトデアルト思フ、之ニ付テハ綜合致シ
マシテ一ツノ公益的ニ土地國家管理ヲオヤリ
ニナラナケレバ私ハ皆々行カナイト思フ

更ニ私ハ時間ノ關係ガアリマスカラ、一問
一答ノ形デ申上ゲスニ續イテ御尋ネスルノ
デアリマスガ、必要作物ノ作付ニ致シマシテ
モ、國家ガ土地公益管理ト云フ一ツノ大本
ヲ持タレマシテ、其ノ下部ノ町村農會ナリ
部落ニ、一ツノ作付ニ對スル統制權ヲ持タシ
テ、水田ニ西瓜ヲ作ツテ居ルノヲ共同シテ
綜合管理ヲサセル、サウシテ畑作ニシテモ
西瓜ヲ作ル所ニ出來ルダケ麥ヲ作ラセ、サ
ウ云フコトニ付テハ今ノ儘デハ皆々行カス、
隨ツテ或ル程度ノ小作料ノ異同ガ同ジ村ノ
中ニアル所ニ於テハ、此ノ時局柄鬼毛角増收
ヲ圖ラセラルベキニ異同ヲ調整シテヤルト
カ、西瓜ヲ作ル所ニ麥ヲ作ラセルト云フ權
能ヲ政府ノ方デ御持チニナラナケレバ駄目

デハナイカ、ソレヲ地主小作ノ關係ヲ其ノ儘
ニシテ自由主義時代ノ契約ニ從ツテ勝手ニ
ヤルト云フ建前デナク、若シ急激ニ變化ヲ
サセルコトガイケナイト云フナラバ五割下
ゲル所ヲ三割デ我慢サセル場合モアルシ、
色々アルケレドモ、其ノ權限ト云フモノハ
小作官ノ中ニ持タセ、農會ナドニモ其ノ權
限ニ依ツテヤレト云フコトニシテヤラ
ケレバ私ハ皆々行カスルと思フ、現ニ是モ農林
大臣ノオヤリ入ツテ居ルコトト思フノデア
リマスガ、去年アタリ相當肥料ヲ配給致シ
マス際ニ、小作料ガ高クテ、其ノ土地ヲ作
ツテモ引合ハナイト云フコトデ、小作人ガ
其ノ土地ヲ拋棄シテ、肥料ダケヲ開取引デ
他ノ自作農ニ賣ツタ、自分ハ工場へ出て居
ツタノデ、其ノ小作地ハ荒果テタト云フ
事例ガアル、其ノ心掛ハ惡イガ、引合ハナ
イト云フコトデアレバ、食ハナケレバナラ
ヌカ餘餘所へ行ク、肥料ノ入レ方ナドニ付
テモ共同シテ其ノ部落ニ依ツテ入レルト云
フ土地ノ公益的管理ノ大本ヲ打込ムベク、
一本政府ノ方デ單行法トシテ出セナカツタ
ラ、總動員法デモ、作付命令其ノ他ニ付テ
ノ或ル種ノ管理法ト云フモノハ御出シニナ
ツテ居ルノデアルカラ、モウ少シソレヲ進
メラレマシテ、小作料ノ問題、或ハ土地ノ
交換分合ノ問題、肥料ノ配給問題ニマデ行
カナケレバナラヌ、上ノ方ノ米ノ國家管理
ダケハヤラレタガ、其ノ基礎タル土地ノ方
ノ國家管理ヲヤラナイデ、上部ノ摩擦ノ少
イ所ダケハヤリマシタケレドモ、本當ノ必
要ナ所ヤラヌト云フコトガ、此ノ日本ノ
政策ノ推進セス所ノ根本デアルノデアリマ
シテ、サウ云フ意味ニ於テ、準備ガ要ルト
カ云フコトハ別トシテ、先ツ出來ル限リニ

於テ土地ニ對スル公益管理ノ範圍ヲ擴メル
必要ガアルト考ヘルノデアリマス、以上ノ
諸點ニ付テモ一週御意見ヲ聽キタイ

○石黒國務大臣 臨時非常ノ立法ト致シマ
シテ出シテ居ル管理令ヲ、更ニ進メテ小作
料、土地交換分合、作物並ニ肥料ニ關スル
綜合監督ト云フヤウナ點ニマデ及ボスト云
フコトヲ考慮スルヤウニト云フ御意見ハ十
分ニ拜承致シマシタ、私ト致シマシテ十分
尊重致シマシテ考慮シテ、將來善處致シ
タイト考ヘテ居リマス

○三宅委員 農林大臣ノ御答辯有難ウゴザ
イマシタ、私共ハ農村ヲ實際ニ見テ居リマ
シテ、平野君ノ議論モサウデアリマスガ、
實際ヲ見テ居リマシテ、一體少々指導員ヲ
殖ヤストカ、サウ云フ段階ハ通り越シテ居
ル、反當リノ收量ヲ多クスルコトニ依ツテ
増作ヲ圖ラウト云フ方針ヲ執ラレマスル限
リハ、副業農家デナクシナケレバナラヌ、主
人ガ中心ニナツテヤルヤウニシナケレバナ
ラヌ、ソレニ付テハ土地制度ノ改革ヨリ外
ニナイト思フノデアリマス、ソレヲ急進ニ
出來ル總動員法デアルノモ宜シ、其ノ運用
ニ於テモウ少シ強度化スルコトヲ考ヘルモ
宜シ、是非一ツ御考ヘテ願ヒタイト存スル
ノデアリマス

外務大臣ガ時間ノ都合ガアラレト思ヒ
マスノデ、外務大臣ニ關シマスルコトヲ其
ノ次ニ伺ヒタイト思フノデゴザイマス、外務
大臣ハ先日ノ外交方針ノ御演説ノ中ニ於キ
マシテ、「皇國ノ外交ガ我が國ノ理想タル
八紘一宇ノ大精神ニ隨ヒ、萬邦ヲシテ各
其ノ所得シムルニ存スル」ト斯ウ云フコト
ヲ申述ヘテ居ラレドデアリマス、是ハ當
然ノ話デアリマシテ誰モ異議ノナイ所デゴ

ザイマス、併シ是ガ具體的ニ展開ニ付テハ
日本人ダケニハ分ルケレドモ、外國人ニハ
分ラナイ、特ニ東亞共榮圈ノ異民族ニモ分
ラナイト云フコトデハ仕方ガアリマセヌノ
デ、私ハ各、其ノ所得シムルト云フ意味ノ
具體的ニ御説明ヲ承リタイト考ヘルノデア
リマス、是ガ第一、先ヅソレヲ伺ヒマス

第一類第一號 豫算委員會議錄 第六回

昭和十六年一月二十七日

カモ知レマセヌ、大東亞圈内ノ現狀ハ御承
知ノヤウニ極メテ複雑デアリマシテ、隨テ
非常ニ「デリケート」ナ關係モソコニ存スル
ノデアリマス、一々ドノ地方ヲサウ云フ風
ニシテ外務大臣トシテハ口ニスルコトハ
差控ヘタガ宜イト云フ點ガ多イノデゴザイ
マス、サウ云フコトヲ願慮シテ御答ヘル
ノデアリマスカラ、今申シマシタヤウニ自
然ニモ抽象的ニ分ラヌト云フコトニナルカ
モ知レナイノデアリマス、併シ其ノ點ハ御諒
察ヲ願ヒタイト思ヒマス、各々其ノ所得シ
ムル「トハ、是モ概念的ニナルカモ知レマセ
ヌガ、明治天皇ノ御宸翰ナドニモ拜スルヤ
ウニ、億兆一人モ其ノ所得ナケレバ朕ガ
罪デアル、是ガ私ハ日本ノ、天皇ノ代々大
御心デアルト拜察シテ居ルノデゴザイマス、
悉ク其ノ所得シムルトハ必ズシモ平等デ
ナイ、私ハ平等ト云フ言葉位誤解ヲ起スモ
ノハナイト思フ、其ノ所得ルトハ、私共
ノ拜察スル所デハ、人々各、其ノ天稟ニ從ツ
テ已レテ全ウシテ行ク、サウシテソレニ満足
シテ行ク、斯ウ云フコトデアリマシテ、強ヒ
テ他ノ言葉ヲ使ハバ均等デアアルノデアリ
マス、ケレドモ、是ハ人各、力量モ違ヒマス
シ、勤怠ノ度モ違ヒマスノデ、平等ト云フ

理窟ニハ中々イカス、法律ノ前ニハ一應平
等デゴザイマスガ、實際ハ全然平等ニハ行
カナイノデアリマス、丁度私ハ大東亞圈内
ニアル所ノ諸民族、諸國民ニモ同様ニ考ヘ
テ以テ臨ムベキモノデアルト考ヘル、吾々ト
文化ガ非常ニ違フモノヲ日本人ト同ジヤウ
ナコトニ扱ハウト云ツテモ、是ハ中々實行
不可能ナノデアリマシテ、各ノ民族ノ現
在ノ狀態、ソレカラ能力、文化ノ程度、經
濟生活ノ程度、其ノ外諸般ノ條件ニ顧ミテ
ソレ相當ナ所ヲ得ル、斯ウ云フ考ヘデア
ルベキダト私ハ考ヘル、若シ夫レ大東
亞圈内ニ於キマシテハ、歐米諸國ノ領有シ
テ居ル所モアリマス、ヨク獨立論ヲ聽カサ
レ世界ニデアリマスガ、吾々ノ八紘一宇ノ精
神ガ所ニ徹底致シマシテ、自然ニ征服、
擄取、壓制ト云フヤウナコトガナタルコ
トヲ希望シテ居ルノデアリマスガ、是モ右
カラ左ニ中々實現ハ出來ナイ、ケレドモ吾
々ノ目標ハ兎モ角征服ノナイ、壓制ノナイ、
又壓迫ノナイ天地ニ——漸次世界ニ對スル
吾々ノ八紘一宇實現ノ第一歩トシテ、大東
亞圈内デソレヲ實現シテ行キタイ、誤解ノナ
イヤウニ繰返シテ置キマスガ、斯ウ言フト、
歐米諸國デハ直チニ歐米人ヲ驅逐シテ、サ
ウシテ各民族ヲ獨立セシムルノカ、斯ウ云
フヤウナ癡念ガ起リマセウガ、ソレハ私ト
離モ一日ニシテ出來ルモノトハ思ツテ居リ
マセヌ、ソレデハ現狀ニ即シテ、サウシ
テ吾々ノ抱イテ居ル八紘一宇ノ考ヘヲ漸次
實現シ、又現ニ征服シテ居ル事柄ガ惡イナ
ラバ、相成ベク其ノ征服者デアル所ノ歐米
ノ諸國ヲシテ、之ヲ改メルヤウニ導キタイ、
斯様ニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス

○三宅委員 今日複雜ナ國際情勢ノ下ニ於
キマシテ「各、其ノ所得シムル」ト云フ意
味ニ付キマシテモ、只今ノヤウナ御答辯シカ
出來ナイコトハ御尤モデアリマス、併シ私
ハ「インド」ニ付テ其ノ所得ルトハドウ云
フコトカト云フ點ニ付テハ、モウ少シ明白
デアツテモ宜イト思ヒマスノデ伺ヒタイノ
デアルガ、「イギリス」ガ蔣介石ヲズツト擄
ケテ居ル、ソレダカラト云ツテ宣戰布告ノ
狀態ニハナラナイ、「イギリス」ハ「イギリス」
ノ間違ツタ考ヘニ於テ蔣介石ヲ擄ケテ居ル
ノデアリマスガ、私ハ皇國外交ガサウ云フ
見地デアルトスレバ、要スルニ世界ヲ開放
スルト云フコトハ、東亞ノ抑壓サレテ居ル
民族ヲ解放スルト云フコトデアル、私ハ此
ノ際ニ三國同盟ニ忠實ナ見地カラ申シマシ
テ、「イギリス」ノ支那ニ於ケル態度カラ申
シマシテモ、及ビ東亞ニ於ケル諸民族ノ民心
ヲ得ルト云フ點カラ申シマシテモ、「インド」
ニ於ケルアノ壓制ニ對シマスル「一ツノ正シ
イ運動」ニ對シマシテハ、日本ノ如キハ積極
的ニ聲援ヲ與ヘタラ宜イ、其ノ掛聲ダケ
デモ「イギリス」ニ取ツテハ非常ニ大キイ打
撃ヲ與ヘルノデアリマシテ、斯ウ云フ點ニ
付テハ、私ハ勇敢ニ——而モ日本ガ侵略
主義ダノ何ダノト云フコトデ蔣介石側、
歐米側ノ宣傳ガ飛ンデ居ルノデアリマシ
テ、折角日本ヲ信賴シテ居リマシタ部
分ニ付テモ、色々ノ誤解ヲ生ゼサセル危險
ガアルノデ、サウ云フ點ニ付テハ寧ろ「イ
ギリス」ノ態度ガアア云フ態度デアレバ、
相當ニ——積極的ニ日本モ出ルノダト云フ
コトヲ明白ニサレタ方ガ宜イト思フノデ
ゴザイマスガ、其ノ他ノ點ハ差障リガアリ
マセウカラ申シマセヌガ、「インド」「ビルマ」
等ニ對スル其ノ所得サレト云フ意味ハ

ドウ云フコトダ、ソレヲドウ云フ風ニヤツ
クラ宜イカト云フ點ニ付テノ外務大臣ノ御
所見ヲ承リタイ

○松岡國務大臣 ドウモ三宅君ノ言ハルル
所モ一應尤モノ所モアリマスガ、吾々トシ
テハ一體、イギリスノガ蔣介石ヲ援ケテ居ル
ト云フコトヲ言語道斷ト思フヤウナコトヲ
テ其ノ言語道斷デアルト思フヤウナコトヲ
又コトチガシテ果シテ宜イカドウカ、ソレハ
疑問ダト思フデアリマス、マダ「イギリス
ス」ハ敵國ニハナツテ居ラスデアリマス、
盟邦ノ一ツデアリマスノデ、彼方堪ヘラレ
スコトヲヤレバ報イマスケレドモ(英國ハ盟
邦デハナイト呼ブ者アリ)盟邦トハ修好條約
ノアル國ト云フ意味デアリマス、マダ條約
破棄シテ居リマセヌ「インド」「ビルマ」ノ
問題ニ付テモ甚ダ言ヒニクイノデアリマス
ガ、私ハ是ダケハ言ツテモ宜イと思フノデ
アリマス、ソレハ「インド」「ガンヂー」初
メノ正當ナル要求ニ對シテハ、現ニ日本國
民ハ同情シテ居ルハ信ジテ居リマス、
又是カラモ我ガ國民ハ同情シテ 獨リ同
情スルノミナラズ、聲援スベキデアルト私
ハ信ジテ居ル、是ダケ御答ヘシテ置キマス

○三宅委員 私ハ、日本ガ大東亞共榮圈ノ
指導國デアルト致シマスナラバ、「イギリス」
ガ「ガンヂー」其ノ他ノ運動ニ對シテ加ヘテ
居ル運聲等ニ對シマシテモ、私共ハ有色同
胞ノ建前カラ、外務省等ガ相當強硬ニ抗議
ヲサレル必要ガアルト思フデアリマス、
ソコニ新シイ意味ノ新秩序ノ觀念ガアルノ
デアリマシテ、ソレヲ默ツテ居ル指導國家
ト云フモノハアリハシナイト思フノデゴ
イマス、併シサウ云フ點ニ付テハ、ソレハ
肚ノ仕事デアリマスカラ、此處デハソレダ

ケノコトニシテ置キマス
其ノ御出度ノ關係ガアリマスノデ飛ビ
ニ行キマス、支那事變ノ處理ノ上ニ於
キマシテモ、大東亞共榮圈ノ確立ノ上ニ於
キマシテモ、今日マデノ日本ニ於ケル大キ
ナ一ツノ足ラザル點ハ何處ニアルカト申シ
マス、民族政策ガ確立シテ居ラスト云フ
一點デアリマス、此ノ點ニ付テ私ハ外務大
臣ニモ、興亞院關係ノ方々ニモ、場合ニ依
リマシタナラバ陸軍大臣カラモ御答辯ヲ得
タイト思フノデゴイマス、近衛聲明ハ實ニ
偉大ナル聲明デアリマス、今度ノ日滿華
共同宣言モ亦偉大ナル宣言デアル、是ハハ
統一ノ大精神ヲ以テ、中外ニ施シテ悖ラ
ナイ所ノ、異民族ヲ奮起シテ之ニ協力ス
ル所ノ大キナ民族政策ノ宣示デアツタと思
フデアリマスガ、異民族ニ對シマシテハ、
日本人ニダケ分ル觀念ヲ以テ致シマシテハ
異民族ハ動イテ来ナイ、私ハ近衛聲明ガ異
民族ニ分ラナイ觀念ハ中サナイ、能ク分
ル觀念デアル、隨テ其ノ結果トシテ支那ノ
知識階級ニ大衝動ヲ與ヘマシテ、ソレガ汪
兆銘氏ノ和平建國運動トナツテ現ハレタ
デアツテ、非常ニ分ルと思フ、併シソレガ異
民族デアツテ、而モ無知識階級ニマデ滲透
シテ行キマス爲ニハ、民族政策ヲ具體化スル
ト共ニ、其ノ具體化シタ民族政策ガ徹底的
ニ下ニ滲透スル所ノ組織、宣傳、啓蒙ノ國
民運動ガズツ組織力ナケレバ駄目ダト私ハ
思ヒマス、特ニ支那問題ノ解決ダケナシ
ニ、將來ノ大東亞共榮圈ノ問題ノ如キモ、
異民族ノ中ニ我ガ國志ヲ同ジウスルモノ
ガナケレバ、武力ダケデ以テ行クモノデハ
ナイ、第五列ガ向フニ出來テ来ナケレバ

吾々ノ方ハ民族研究スラ非常ニ缺イテ居ル
ノデアリマシテ、是ハ夙ニ私個人トシテハ
感ジテ、アツチヨツチノ方面、研究スル機
關ニ頼シテ歩イタコトモアルヤウナコト
デ、外務省ニ於キマシテモ、殊ニ南方ノ民
族研究ニハ、折角今一生涯命精進シテ居ル
ウナ譯デアリマス、是ガ私ガ出發點ニ正直
ニ御話スルト言ツタ所以デアリマス

○鈴木(貞)政府委員 日本ノ民族政策ノ點
ニ付キマシテハ、只今外務大臣カラ御答辯
ガアリマシタノデ、ソレト關係致シマシテ、
現在政府ノ事務機關トシテ行ツテ居ル點ニ
付テ御答ヘテ致シマス、現在ノ大東亞共榮
圈ノ標語ノ生レタノモ、餘リ遠クナイヤウ
ニ考ヘルノデアリマス、ソコデ現在ノ段階
ニ於テ、如何ニシタナラバ、此ノ東亞共榮
圈ノ建設ヲ可能ナラシメルカト云フコトヲ
考ヘテ見マス、何ト申上ゲマシテモ、日
本、滿洲、支那ト云フ此ノ三箇國ガ、東亞
共榮圈ノ確立ノ本體デアル、此ノ三箇國ガ互
ヒニ各、其ノ民族ナリ、或ハ其ノ地域ノ特
性ナリ、サウ云フ一ツノ特殊性ヲ發揮シ、
サウシテ是ガ互ヒニ大東亞共榮圈ノ確立ト
云フ一ツノ目標ノ下ニ進ム、斯ウ云フコト
ガ現在ノ段階ニ於テハ考ヘラレノデアリ
マス、元來此ノ民族問題ハ、私ガ申上ゲル
マデモナク御承知ノ如ク、民族問題ト云フ
言葉ガ發生シテ来タコトハ 此ノ日本ニ
モ論ゼラレ、世界ニモ論ゼラレルヤウニナ
リマシタノハ、段々世界ノ資本主義形態ノ
發達ニ伴ヒマシテ、此ノ諸國ニ於ケル所
ノ、世界ニ於ケル各方面ノ民族ガ、此ノ資
本主義形態ニ依ル經濟組織ノ壓迫ヲ蒙リマ
シマシテ、茲ニ此ノ民族ガ其ノ壓迫カラ逃
レントスル意欲ガ發生シタコトニ原因シテ

ケナイ、第五列ト云フ表現ハ極メテ拙イ表
現デアレケレドモ、第五列ガ出來ルダケノ
具體的ナ民族政策ト、立派ナ文化ヲ以テ掛
カラナケレバ、世界政策ト云フモノハ成功ス
ルモノデナイ、ドイツノ成功ト云フモノハ、
「ナチズム」ヲ持ツテ居ル一ツノ世界政策、
一ツノ勝レタル文化ト云フモノガ第五列ヲ
各國ニ送ツテ居ルカラデアル、「ロシア」ノ
共產黨ハ我ガ國體ニ反スルガ、併シナガラ兎
毛角アレノ持ツテ居ル考ヘ方ト云フモノガ、
「コミンタール」ヲ通ジテ各國ニ一ツノ獨手
ヲ及ボシテ居ル、是ハ恐ルベキモノデアル、
英米ノ如キ舊體制ノ國デアツテモ、資本主
義ノ先聲國家トシテヤハリ第五列ヲ世界の
ニ持ツテ居ルノデアリマス、日本ガ是カラ
東亞ノ指導國家トシテ行キマス上ニ於テ、
日本人ガケガ分ツテ、餘所ノ國ニシテ共
鳴スルモノガ無い、第五列ノモノガ出テ
來ナイト云フ民族政策シカ出來テ居ラス
ト云フ狀態デアリ、世界政策ヲ持ツテ居ラ
ス云フ狀態デアリ、ハ失敗ニ終ラザルヲ得
ナイと思フデアリマス、ソコデ私ハ承リタ
イノデスガ、民族政策トシテ 私人言フ
ノハ具體的ナ民族政策ノ意味デアリマス、日
滿華共同宣言ノ精神、近衛聲明ノ精神モ、
是ハ大キナ民族政策ノ目標デアリマスガ、
具體的ナ民族政策ノ確立ニ付テ如何ナル用
意ヲ御持チニナツテ居ルカト云フコトヲ先
ツ承リタイノデアリマス

ソレカラ其ノ次ニ滿洲ニ於ケル東亞聯盟
ノ運動、中國ニ於ケル東亞聯盟ノ運動、並
ニ是等ノ運動ニ對シテ之ヲ指導シ、連絡ヲ
シテ行キマスル日本國內ニ於ケル運動ノコ
トニ付テ御伺ヒシタイノデアリマス、最近

居ルト思フデアリマス、勿論古イ問題ト
シテハ、非常ニ其ノ時代ニ於テ民族間争ガ繰
返サレタノデアリマスガ、近代ニ於ケル民
族問題ハ、サウ云フ觀點カラ民族自決ト云
フヤウナ聲ガ起リマシテ、サウシテ是ガ段
段「ソウヴェト」革命ノ進展ト共ニ、階級間
争トソングラカツテ、此ノ民族問題ガ東洋
ニモ波及シテ、ソレガヤハリ今度ノ事變ノ
一ツノ原因ヲ成シテ居ルト思フデアリマ
ス、ソコデ此ノ民族問題ヲ如何ニ取上ゲル
カト云フコトハ、詰リ資本主義ノ弊ヲ矯メ
テ、所謂人類共存ノ大道ヲ歩ムト云フ方向
ニ進ム、同様ニ此ノ民族問題モ亦制約セラ
レタル所ノ一ツノ地域ノ各民族ガ互ヒニ手
ヲ携ヘテ、ソコニ一ツノ指導的勢力ヲ確立
シ、サウシテ其ノ指導的勢力ノ下ニ、各、
其ノ分ニ應ズル所ノ政治、經濟、文化生活
ヲ營ム、斯ウ云フコトニナルガ、最モ今
日ノ世界ノ情勢ニ相應シイ方向デアリカ
ト考ヘテ居ルノデアリマス、ソコデ御質問
ノ東亞聯盟ノ問題デアリマスガ、是ハ只今
仰シヤイマシタヤウニ、滿洲國ノ建國ノ當
時ニ、サウ云フ思想ガ一部據頭ヲシテ來タ
ノデアリマス、而シテ近衛聲明ニ依ツテ汪
兆銘ノ飛出シトナリ、支那ニ新ナル政府
ガ出來マシテ、サウシテ此ノ政府ガ之ヲ取
上ゲテ起ツト云フコトハ、成程自然ナル進
展デアリマス、併シナガラ茲ニ注意ヲ要ス
ル問題ハ、現在ノ段階ニ於ケル大東亞共榮
圈建設ノ根柢力ト云フモノハ、一體何處ニ
アルノカ、漢民族デアルノカ、將又滿洲ノ
民族デアルノカ、蒙古民族デアルノカ、或
ハ回教民族デアルノカ、或ハ西藏民族デア
ルノカ、斯ウ云フコトヲ探究シテ見ルナラ
バ、私ガ申上ゲルマデモナク、尊嚴無比ノ

ニ於ケル支那ノ國民的ナ運動ト致シマシテ
非常ニ大キナ影響力ヲ持ツテ居ルモノハ、
汪兆銘氏ノ主宰致シマスル中國ノ東亞聯盟
ノ運動デアルト思フデアリマス、東亞聯
盟ノ運動ニ付テハ滿洲ニ於テ一番大キナ最
初ノ發達ヲ見テ居ルノデアリマス、滿洲國
ガ出來マシタ機會ニ於テ、民族協和ノ國家
トシテドウ云フ共通ノ「スローガン」ヲ以テ
結付クカト云フ現地ニ於ケル御苦心ガ、政
治ノ獨立、經濟ノ合作、共同國防ト云フ三
「スローガン」トナツテ現ハレテ、其ノ「ス
ローガン」ニ汪兆銘氏ガ文化ノ交通ト云フ
「スローガン」ヲ加ヘテ、而モ是ガ日本ノ八
統一ノ精神ト相結ブト共ニ、孫文ノ言ツ
テ居ル國民黨ノ立場カラ見レバ、大「アジ
ア」主義ノ觀念ニモ合作ト云フ解釋ヲ取ツ
テ運動ヲシテ居ラレノデアリマス、私ハ
中國ニ於ケル此ノ運動ノ如キガ、更ニ南ニ居
リマスル一千万近イ華僑其ノ他ニ大キナ影響
ヲ及ボシ、更ニ彼等ノ手ヲ以テ「タイ」民族ニ
影響ヲ及ボシ、安南ノ民族ニ影響ヲ及ボシト云
フコトガ、是ガ一ツノ世界政策トシテ大
キナ點デアルト思フデアリマスガ、國內
ニ於テ是ト統合連絡スル上ニ於テ、ドウ云
フ風ニオヤリニナツテ行クオ積リデアルカ、
ドノ程度ニ力ヲ入レテ之ヲ展開サレルオ積
リデアルカト云フコトニ付キマシテ、ソレ
等ノ理念等ノ點ニ付テハ外務大臣、ソレカ
ラ具體的ニ管掌シテ居ラレル興亞院ノ鈴木
中將ノ御答辯ヲ願ヒタイ、尙ホ陸軍大臣カ
ラモ一ツ御答辯ヲ願ヒタイト考ヘルノデア
リマス

○松岡國務大臣 正直ニ御答ヘ致シマス、
ト云フ意味ハ、私ハ何モ隠シタリ、街ヲヤ

國體ヲ奉ズル大和民族ニ存スルト云フコト
ハ、一言ノ贅言ヲ要シナイ所デアルト思フ
デアリマス、隨テ今日私共ノ考ヘル施策
ハ、此ノ大和民族ノ結束力、信念、斯ウ云
フモノヲ功利的ナ政策ノ爲ニ傷ツケラレル
方向ニ行カナイコトヲ必要トスルコトヲ信
ズルノデアリマス、ソレデ此ノ東亞聯盟ガ
思想ノ洗禮ヲ受ケ、民族問題ト階級間争ト
ノ一様ニ取上ゲテ、日本ニ反撥シタ所ノ態
勢カラ、日本民族ト共ニ手ヲ携ヘテ東亞ノ
建設、現在ニ於テハ白人ノ羈絆カラノ脱
却、解放ト云フヤウナ方向ニ進ムナラ
バ、ソレハ極メテ結構ナコトデアリマシ
テ、此ノ東亞聯盟同志會ノヤツテ居ル仕事
ニ對シテハ、日本ハ之ニ協力スルニ聊カノ
躊躇モスル必要ガナイノデアリマス、唯、只
今申上ゲマシタヤウニ、文化ノ發展過程ノ
狀態カラ致シマシテ、大和民族ノ信念ト云
フモノハ、是ハ何處マデモ強力ニ、殊ニ現
代ノ國際情勢カラ考ヘマシテ、此ノ信念ニ
多少トモ暗影ヲ投ジ、若シクハ之ヲ改變シ、
或ハ又根柢ノ思想カラオ互ヒニ論議ヲ開
ハスト云フヤウナ思想ノ展開ハ、此ノ際國
内ニ於テ避ケネバナラスト考ヘ、ルノデア
リマス、サウ云フヤウナ考ヘカラ致シマシ
テ、此ノ東亞共榮圈建設ノ意欲ヲ持ツ所ノ
大和民族ノ團體ノ本義ニ立ツ民族運動ハ、
益々私ハ活潑ニ猛烈ニ國內ニ展開シ、是ガ
延イテ漢民族ヲ動カシシンドハ回教民族ヲ動カ
シ、先程申シタル「インド」ノ民族ニマデ至
ル、斯ウ云フコトニナルコトヲ切望シ、
サウシテ其ノ方向ニ進ムベク微力ヲ致シテ
居ル次第デアリマス

○東條國務大臣 只今御質問ガアリ、私ニ

第一類第一號 豫算委員會議錄 第六回

答辯ヲ要求サレマシタガ、本問題ニ付キマシテハ、既ニ曩ニ外相並ニ鈴木與亞院總務長官代理カラ詳細ニ説明ガアリマシテ、私ハ之ニ全然同意デアリマス、附加ヘルコトハゴザイマセズ

○三宅委員 外務大臣ノ御答辯ニ付テハ、實ハ不滿ナル點ガアルノデアリマス、ソレハ民族政策ノ展開ノ見地カラ行キマシテ、東亞ニ於ケル中華人初メ各友誼ノ民族、共榮圈内ノ民族ニ付テノ研究ヲウントシナケレバナラス、ソレガ足ラナカッタコト云フコトニ付キマシテハ、私ハ全ク同意デアリマス、併シソレガナイカラ民族政策ト云フモノハマルキリナイト云フヤウナ建前デハナクシテ、具體的ニ瞭解ノ出來ル表現ヲ以テマシテ、知識階級トシテノ汪兆銘氏ハ全ク近衛聲明ニ動カサレテ出テ來タコトハ申スマデモナイ所デアリマス、皇軍ノ精々タル武動ヲ外ニ致シマシテ、日本ノ今日マデノ其ノ他ノ政策ニ於キマシテ成功致シマシタノハ、汪兆銘氏ヲ引張リ出シテ、兎モ角日本ノ言フコトガ正シト考ヘル支那ノ知識階級ヲ連レテ來マシタコト云フコトニ付テハ、近衛聲明ハ私ハ大成功デアツト思フテ居ルノデアリマス、アレ自體ガ一ツノ立派ナ民族政策デアル、是ノ具體的ナ運動ノ展開ヲドウ云フ風ニシテヤルカト云フコトガ問題デアツテ、之ヲ一ツ日本ガ巧ミニヤラナケレバイケナイシ、支那事變ノ解決ノ上ニ於キマシテ、私ハ汪兆銘氏ノ中國東亞聯盟ノ運動ガ段々ト伸ビツツアルト云フコトハ、是ハ蔣介石ニ取ツテハ實ニ大キナ痛手ダト考ヘテ居ルノデアリマス、唯興亞院ノ鈴木中將ノ御答辯ノ中、私モウ少シ細カク伺ヒタイ點ハ、國內ニ於ケル斯ウ云フ

運動ニ付テハドウ云フ風ニオカリニナル御方針アルカ、ソレト滿洲ニ於ケル東亞聯盟ノ運動デアルトカ、或ハ汪兆銘氏ノ東亞聯盟ノ運動デアルトカ云フモノトノ結付キ、指導ト云フヤウナコトニ付テドウ考ヘラレルカ、私ハ鈴木中將ノ御表現ニ全ク同意デアリマシテ、平面的ナ聯盟ノ考ヘ方デナシニ、日本ガ指導ヲスルト云フ建前ノ下ニ、東亞共榮圈内ノ運動ヲ民族運動トシテ展開スルト云フ點ニ付キマシテハ全ク同意デアリマスガ、ソレヲ具體的ニ國內ニ於テハドウ云フ組織デ以テヤラセルカト云フコトニ付テ承リタイト思ヒマス

○鈴木(會)政府委員 日本ノ民族政策ヲ展開スルニ日本國內ニ於ケル大和民族ノ運動ヲドウ云フ仕組デ行クカ、其ノ運動ト大陸ニ展開シツツアル所ノ此ノ種運動トノ關係ヲドウ考ヘルカ、斯ウ云フ御質問デアリマス、日本國內ニ於ケル此ノ運動モ、結局ハ日本帝國國民ノ一ツノ愛國運動デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、即チ此ノ大東亞共榮圈内ノ確立ト云フ此ノ大目的ノ爲ニ、一億ノ人々ガ火ノ玉ノヤウニナツテ行ク、斯ウ云フコトガ大政翼賛會ノ意圖セラレテ居ル所ト信ズルノデアリマスガ、其ノ大政翼賛會ノ一ツノ部分ノ運動トシテ之ヲ取上ゲ、サウシテ茲ニ日本國內ニ於ケル運動ヲ活シテ展開シテ載キマシテ、サウシテソレガ大陸ニ於ケル所ノ此ノ種運動ト互ヒニ氣脈ヲ通スル、斯ウ云フコトニナルコトガ現在ノ狀況ニ於テハ最も相應シイ行キ方デハナカラカト思フノデアリマス、ソコデ斯ウ云フ運動ニ付テハ、サウ云フヤウナコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、努メテ此ノ民族、國民自ラノ持ツ所ノ一ツノ力トシテ此

ノ運動ガ私ハ展開セラレルコトヲ望ムノデアリマス、ト申シマスノハ、動トモシテ官憲ノ指導ガ過ギマス、斯ウ云フ運動ハ非常ニ發展力ヲ失フ、ソコデ詰リ大政翼賛會ノ出來タノモサウ云フ次第デアルト實ハ私カニ推測シテ居ルノデアリマス、即チ下最高ノ權威ヲ以テ行ハレル所ノ一ツノ政治ナリ、或ハ政策ナリ、斯ウ云フモノトガビタツトソコニ符節ヲ合ハセル如クニ合ハセル所ニ一ツノ民族國家ノ進展力ガ生レテ來ル、ソコデ此ノ大東亞共榮圈内ノ運動モ、其ノ一ツノ國民運動ノ形態ヲ持ツテ來ル、其ノ代リニ是ノ生レルノハ幾多ノ障礙ガアリ、又色々ナ問題ガ發生スルと思フノデアリマス、ソレ等ハ一ニ大東亞共榮圈内ノ確立シ、而モ其ノ現段階ニ於テハ、要スルニ日本民族ノ結束ガ一切ノモノニ先行シテヤツテ行クコトヲ意識ヲ持ツテ設イテ、サウシテ之ヲ展開スル、斯ウ云フコトニシテ戴カシコトヲ御願ヒシテ、サウ云フ方面ノ人々ト連絡ヲ取ツテ、仕事ヲシテ居ル次第デアリマス

○松岡國務大臣 私人誤解ノナイ爲ニ一言申上ゲテ置キマス、三宅君ガ私ノ答ヘニ甚ダ不滿足デアルト云フコトヲ言ハレタノデアリマスガ、實ハ私自身ガ私ノ陳述ニ付テハ頗ル不滿足デアル(笑聲)ソレハ根本ニ民族政策ト云フモノガマダ騰騰トシテ居ルノデアリマス、其ノ點ニ對シテ不滿足デアリマスカラ、私ノ言フ所モ甚ダ不滿足デアリ、三宅君ノ言ハレル程度ニ、例ヘバ近衛聲明ガ支那ノ人種ヲ動カシタデハナイカ、アノ程度ニハ行ケルノデアリマシテ、無論現ニ行ツテ居ルノデアリマスガ、私ヲ以テス

マシテ、モツト深く掘下ゲテ能ク各民族ヲ研究シテ、モツト根柢ノ深い、固イ民族政策ヲ立テナケレバイカヌ、斯様ニ平素カラ考ヘテ居ルノデアリマス、一例ヲ言ハバ、三宅君自身ガ言ハレマスヤウニ、吾々ノ考ヘテ各民族ニ分ルキヤウニ説カナケレバナラス、斯ウ仰シタルコトハ御同意デアリマス、所ガ人ニ依ツテ法ヲ説ケト云ツテ居リマスガ、其ノ相手ノ人ガマダ研究シテナイ、分ラヌノニ説キヤウガナイノデ、現ニ支那人相手デモ、屢々吾々ハ一生命論説イテ居ルケレドモ、相手ガ能ク分ラヌ、ソレハ畢竟説ク相手ノ頭ノ働キトカ、民族性トカ、其ノモノノ環境ヲ能ク解シテ居ラスカラデアリマシテハ、其ノ意味デ私ハ先程自分ガ見テ居ル所ヲアリノ儘御答ヘシタヤウナ次第デアリマス

○三宅委員 私人總理ニ伺ヒタイノデアリマスガ、マダオイデニナリマセヌノデ、大藏大臣ト厚生大臣ニ勞働政策ノ觀點ニ付テ伺ヒタイノデアリマス、勞務ノ動員問題ニ付キマシテハ、私ハ餘程御考ニナリマセヌト云フト、是ガ生産力擴充ノ根本問題ダと思フノデアリマス、デ僅カク炭礦勞働者ト私ハ敢テ僅カト申スノデアリマスガ、足ラナイ部分ノ炭礦勞働者ニ付テ、中々補充ガ付カナイト云フヤウナ點ニ付キマシテハ、私ハヤハリ勞働政策ニ付テ、戰時勞働政策トシテノ本當ノ突詰メタ政策ガ足ラナイノデアリマシテハ、私ハ其ノ意味ニ於テ勞働者ノ年金制ノ問題ニ付テ御伺ヒシタイノデアリマス、今日炭礦勞働者ノ本當ノ定住ヲ圖ラトウ云フヤウナコトヲ考ヘマスル時ニ於テ、勞働者ノ年金制度ノ如キモノハ、モウ私ハ疾クニ是ガ出テ

居ラナイト云フコトハイカナイト思フノデアリマス、デ、ドイツイニ於ケル勞働行政ガ、社會保險ノ制度ノ全面的擴充ニ依リマシテ、非常ニ安固ナルモノニナツテ、疾病養老、住宅、療疾、一切ニ互ツテ非常ニ能ク行ツテ居ル、ソレガ私ハ、ドイツイニ於ケル高度ノ生産力ヲ發揮シテ居ル所以ダと思フノデアリマス、斯ウ云フ點ニ付テ日本ノ勞働政策ガ、戰時ノ勞働者ガ一切ノ不平ヲ言ハズニ默ツテ居ルカラト云フコトヲ以テ、手遅レニナルヤウナコトデハ、重大ナ問題ダと思フノデアリマス、特ニ私ハ此ノ點ニ付テ大藏大臣ニ伺ヒタイ點ハ、其ノインフレノ吸收ニ付キマシテ、私ハ社會保險ヲ活用スル工夫ヲ十分御考ヘテ願ヒタイト云フ一點デアリマス、一昨日以來公債ノ消化、貯金等ノ問題ニ付テ、ドウヤルカト云フコトニ付テ色々ノ議論ガアリマシタガ、ヤハリ大藏大臣モ御困リニナツテ居ル、極力ヤルヨリ仕樣ガナイト云フコトヲ御苦心ニナツテ居ルノデアリマスガ、私ハ此ノ社會保險デ以テ購買力ヲ吸收スル、資金ヲ吸收スルト云フ方面ニ於テ、一ツ又「ドイツイ」ノ事例デアリマシケレドモ、「ドイツイ」ノ事例等モ參照サレマシテ、其ノ方面ノ全面的ナ御活用ヲ願ヒタイト思フ、勞働者ノ年金制度ハ、日本ニ於キマシテハ委員會ヲ通過致シテ居リマスノデ、是ハ是非トモ一ツ御出シニナル必要ガアルト思フテ居ルノデアリマス、例ヘバ此ノ僅カク三百萬人ノ勞働者ヲ對象トスル年金デ以テ、一年間ニ保險料トシテ收入致シマスノハ一億圓デアリマス、勞働者ノ過剩ノ購買力ヲ一億圓取リマシテ、ソレデ五十五歳、炭礦勞働者ニ付テハ五十歳、五十歳ニナリマスマデハ積マシテ置キマシテ、最短十二年間經ツ

テカラ官吏ノ恩給ト同ジヤウナモノヲ、勞働者ノ恩給トシテ拂ツテヤルノデアリマスカラ、今使ハウトスル購買力ヲ取ツテシマツテ、十餘年後ニ使フノデアツテ、而モ勞働者ハ此ノ法案ガ出ルノヲ喜ンデ居ル、兎ニ角此ノ前議員ノ問題デ船員保險法ガ出タノデアリマスガ、船員ガ多年海ニ出テ居リマシテ、ソレデ老年トナリ役ニ立タスト云フコトニナツテ、引揚ゲテ來マシタ時ニ、陸ニ上ツテモ間ニ合ハナイ、官吏ナラバ何十年間ヤツテ居リマスレバ恩給デ食ハマスケレドモ、船員ハ恩給ガナイ、ソコデ船員保險法ト云フモノガ出來マシテ、年取ツテ陸ニ上ツタ時ニ自分ノ積立テテ居ツタ金ガ載ケテ、老後ガ安定スルト云フノデ、船員ハ非常ニ喜ンデ居ル、鑛山ノ勞働者ニ致シマシテモ、アノ地下三千尺ノ坑ニ入りマシテ、ヨロケニマダナツテ居ルガ、ソレデハ貯金ノ出來ル程金ヲ貰ツテ居ルカト言ヘバ、荒ツボイ仕事ヲシテ居リナガラ、何等カノ形デ以テ強制的ニデモ、積立テサセナケレバ、老後ノ安定ト云フモノ出來ナイ、他ノ仕事ガナケレバ鑛山ニ入りマスケレドモ、サウ云フ點ニ付テ安定ト安心ガナケレバ、他ノ仕事ガアレバ、モツト安全ナ仕事ニ行ツテシマフト云フコトハ當然デアルト思ヒマス、隨テ鑛山ノ勞働者ヲ一ツ供給シテ、生産力ノ擴充ヲスルコトガ最も必要ダト言ヘバ、一番先ニ定着シタ方ガ得ニナリマス所ノ、斯ウ云フ一ツノ保險制度ヲ考ヘテナリマスコトガ當然ダと思フノデアリマス、此ノ保險制度ガ所謂勞働力ノ維持培養ト云フコトデナシニ、偶「ドイツイ」等ガ利用シテ居リマスルキウニ、此ノ購買力吸收トシテ一ツノ新機軸デアル、勞務ノ動員ト、生

産力ノ擴充ト、サウシテ購買力ノ吸收ト云フ、大キナ三ツノ效果ヲ持ツテ居リマスルコトニ付テ、或ハ企業院ニシテモ、或ハ大藏省等ニシテモ、財政技術ニ付テ非常ニ御苦心ニナツテ居リナガラ、斯ウ云フ點ニ付テ十分ナル御認識ヲ御持チニナラスト云フコトヲ、私ハ甚ダ遺憾ニ思フノデアリマス、此ノ觀點カラ一ツ社會保險制度ノ全面的ナ擴充ヲ御考ヘ願ヒタイノデアリマス、デ先ツ厚生大臣ニ、此ノ勞働者ノ年金制度ニ付キマシテハ、今年御提出ニナルノカ、ナラヌノカ、御提出ニナルト云フコトニナツテ居ツタガ、其ノ後又出ナイト云フヤウナ御話モアルノデアリマスガ、其ノ點ニ付テ承リマスト共ニ、此ノ購買力吸收ノ爲ニ社會保險制度ヲ全面的ニ活用スルト云フ御考ヘ方ニ付テ、大藏省ノ御所見ト企業院ノ御所見ヲ私ハ承リタイト思フノデアリマス、兎ニモ角ニモ今日私ハ公益優先ト云フコトヲ本當ニ徹底セセルト致シマスレバ、ドウシテモ此ノ家族的ニ病氣ニナツタ時ニ心配ガアル、子供ノ教育ニ付テモ心配ガアル、又老後ノ心配モアル、サウ云フ形ニサシテ置カズニ、子供ノ養育ノ「ドイツイ」ケレドモ、産シタラバ其ノ教育ニ付テ全部責任ヲ持ツト云フコトニナラナケレバ、公益優先ノ理念ガ實質ニ於テ浸透シナイ、武士ガ傳統ヲ戴イテ居リマシテ、武士道ト云フモノガ出來マスルト同ジヤウニ、公益優先ノ經濟體制ヲ作ツテ行カウト云フ建前ニ於テハ、ソレガ出來ルヤウナ社會的ナ仕組ニシナケレバイケナイノデアリマシテ、サウ云フ見地カラ申シマシテモ、私ハドウシテモ社會保險ノ全面的ナ擴充ガ必要ダと思フノデアリマス、レソハ即チ物價委員會ニ於キマシテモ

答申トシテ出シテ居リマスルヤウニ、職業厚生保險ト云フヤウナモノヲ私ハ必要ダと思フノデアリマス、結構對策ニ致シマシテモ、費用バカリデヤル必要ハナイ、國民ガ一君萬民ノ下ニ、家族國家デアリマスカラ、健康ナ者ニ出サシテ置キマシテ、結構ニナリマシタ者ニ相互扶助ヲスル、全國的ニサウ云フ制度ヲヤルト云フコトガ必要デアアル、結構保險ノ制度ト云フモノハ、ドウシテモ考ヘナケレバナラス必要ガアル、教育保險、即チ子供ノナイ者ガ少シ餘計積立金ヲ致シマシテ、サウシテ子供ガ大キクナリマシタ時ニ、子供ノ多イ人ガ學校ノ行カセルヤウナ教育保險ノ制度モ、私ハ御考ヘニナル必要ガアルト思フノデアリマス、日本ノ國ニ於テ一應整備致シマシタ部分ハ、疾病保險デアリマス、不完全ナガラ勞働者ノ健康保險、職員健康保險、國民健康保險ト云フモノハ、兎モ角一應ノ體形トシテ整ヒマシタ、即チ疾病保險ガデアリマスガ、私ハ「インフレ」對策ト致シマシテ、公益優先ノ社會態勢ヲ強化スルト云フ見地ニ立チマシテ、是等ノ色々ノ保險ニ付テ厚生省ハ企業院ト御相談ノ上ニ、單ニ厚生政策ト云フ見地ダケデナシニ、資金吸收ノ見地ニ御立チニナツテ、之ヲ十分ニヤツテ載キタイト思フノデアリマスルガ、差當ツテ今年出スコトニナツテ居リマス勞働者年金保險制度ニ付テハ、御提出ニナリマスカドウカト云フコトヲ承リタイ、兎モ角是ハモツト範圍ヲ擴ゲナケレバイケナスト思フノデアリマス、三百萬人ノ勞働者ヲ對象ト致シマシテ、一年ニ保險收入トシテ勞働者カラ收入スル額ハ一億圓、三十年經チマスト、其ノ積立ハ約五十億ニナルノデアリマス、是ハ今使ハセル

イ、私ハ今日支那事變ノ完遂ニ加ヘテ、大東亞共榮圈ノ問題、更ニ一觸即發、戰爭ノ前夜ト云フ状態ニナツテ、日本ガ凡ユルコトヲ突破シテヤツテ行カケレバナラナイ...

第一次近衛内閣ノ當時勃發シタノデアリマス、爾來今年ハ第五年ヲ迎ヘテ居リマス、尙ホ事變ハ解決ノ曙光ヲ見マセス、是ハ軍部ノ責任デモゴザイマセス、誰ノ責任デモゴザイマセス、全ク私ノ責任デアリマス...

シマシテ、行政府、立法院ガ協力ヲスルト云フ時代ニ入ツテ居ルノデアリマシテ、ソレデアリマスレバアリマスルダケ、議會ガ早ク終ツタカラト云ツテ、ソレ宜イコト...

シ、實際ニ於テ行政府モ忙シイ爲ニ、行政ノ運用ニ付テ妨害ニナル點モナイトハ申セナイ、併シ實質的ニ行政府ト立法院ヲ連絡...

場合ニハ、今年ノ如ク出来ルダケ行政ノ仕事ヲ邪魔サセナイヤウニヤツテ行ク、斯ウ云フ風ノ對立關係、牽制シテ云フ立...

思ツテ居ラナカッタ、サウ云フ時ニ出来マシタ法律ゴザイマスノデ、性格的ニ及ビ歴史の二見マシレバ、丁度前ノ世界大戰ノ後ノ頃ノ戰爭ト云フモノハ例外事項デア...

ス、多少ノ摩擦ヲ惧レテ、斯ウ云フ點ニ付テ不徹底ナモノヲ出シテ置カレマシタナラバ、私ハ又禍ヒガ非常ナ大キナ禍ヒニナツ...

シテ、私ハ豫算ノ編成方法等ニ付キマシテモ、此ノ際戰時體制ヲ御採リニナル必要ガ絕對ニアルト思フノデアリマス、ソレハ根...

ラ二月掛ルト云フ不能率ナ組織ニナツテ居
リマス、而モ總動員法ヲ全面的ニ發動スル
時ニ、金ノ方ハ千万圓シカ持ツテ居ラナイ
ト云フノハハレハシナイ、總動員法ヲ出
サナイナラバ、出シテ授権法ノナ仕
事ヲオヤリニナルナラバ、ソレニ伴フ金モ
出セル所ノ豫算編成ノ機構ヲ御作リニナ
ナケレバ、私ハ戰時ニハハスト思フ、如キ
サウ云フ意味ニ於キマシテ七・七禁令ノ如キ
時モ、若シ豫備金ガ十億圓モアリマシテ、
アノ時ニ禁止スルト同時ニ全部買上ゲテ、
サウシテ業者ニ對スル動搖ヲナクシテ置イ
テ、外國ニ持ツテ行ツテ之ヲ「ダンピング」シ
テモ宜シイ、ダンピングシテナクテモ、國家
ガ其ノ利息ヲ損ヲスル積リデヤツタラバ
宜イ、適當ノ貿易機關ヲ以テ出シテヤル
國內ノ安定サシテ置イテ、相當思ヒ切ツタ
再編成モ改革モ出來ルト云フ行キ方デナケ
レバ、私ハ間ニ合ハスト思フノデアリマス、
斯ウ云フ點ニ付テ豫算編成ノ方法ナドヲ考
ヘナケレバナラナイ、總動員法ノ改正ト同
時ニ、今申シマシタ通り、豫算ノ組ミ方ニ
付テモ戰時ノ態勢ヲ御取リニナル必要ガア
ルト私ハ考ヘルノデゴザイマスガ、御所見
ハ如何デアリマスカ

○河田國務大臣 只今ノ御質問ハ豫算編成
ニ特ニ重點ヲ置クト云フ見地カラ編成ノヤ
リ方ニ付テ改革スル點ハナイカ、特ニ此ノ
場合ニ於テ具體的ノ問題トシテ戰時ノ態勢
ヲ整ヘル爲ニハ莫大ナ金ヲ豫備金トシテ取
ツテ置ク方ガ宜イ、斯ウ云フコトト伺ヒマシ
タ、豫算ノ編成ニ付テハ、豫算編成ノ制度
ヲ戰時事變ト云フ場合ニハ特別ヲ設ケルコ
トハゴザイマスルケレドモ、普通ニハ憲法
會計法ノ條章ニ依ツテ定マツテ居ル範圍デ
之ヲ運用シテ居ルノデゴザイマス、併シ具
體的ニ申スト、今御話ノ今日ノ重要國策ニ
付キマシテハ、單ニ只今三宅君ハ言ハレマ
シタヤウニ、大藏省ノ主計局ト各省ト押問答
シテ居ルト云フコトデハナクシテ、モトハ
サウ云フ時モゴザイマシタ、併シ時代ハ變
リマシテ、中々豫算ノ金額モ多クナルシ、
重要國策モ頻出致シマスルノデ、今日ニ
於テハ重要國策ニ付キマシテハ、豫算ニ
全體トシテ其ノ採否ヲ決定シテ後ニ豫算ノ
細成ヲスルト云フ方針ニ致シテ居リマス、併
シ細成ノコトハ主計局ガ主トナツテヤツテ
居リマスルケレドモ、只今申シマシタヤウ
ニ、重要國策ニ付キマシテハ、各省トノ關
聯ヲ見マシテ、之ヲ豫算ニ計上スルカ否カ
ヲ決定スル、併シ最後ノ決定ハ閣議ヲ以テ
決定致シテ居ルノデアリマス、サウ云フ運
用ノ仕方ヲ致シテ居リマスガ、運用ノ點ヲ
申セバ、餘リ管々シクナリマスカラ遠慮シ
マス

本ノ會計制度ハサウナツテ居ルノデアリマ
ス、是ハ本體ハ他クマデ尊重シナケレバナ
ラスト思ヒマス、サウ云フ見地ニ立チマス
ト、一體豫備金ト云フモノハ少イノヲ以テ
理想トスルノデゴザイマスガ、ソレハ別
トシテ此ノ相當巨多ナ豫算ノ中ニ於テ、
僅カ少バカリノ豫備金ヲ持ツテ居ルト云
フコトハ、是ハ又時勢ニ合ヒマセヌノデ、
段々ニ豫備金ノ額モ殖ヤシテ居リマス、儲
カ今年ノ如キモ第一豫備金第二豫備金ヲ通
ジマシテ一億一千万圓計上シテゴザイマ
ス、之ヲ除リニ多ク致シマスコトハ如何カ
ト存ジマスルガ、今三宅君ノ御話ニナツタ
コトハ、ソレナコトデハ時代ノ急變ニ即應
ジナイデアラウ、斯ウ云フ御話デゴザイマ
ス、其ノ點ハ御尤モデアリマシテ、サウ云
フ場合ニ於テハ、從來ハ或ル場合ニハ事件
豫備費ト云フモノヲ計上シタコトモゴザイ
マス、其ノナリ方モゴザイマス、前申上ゲ
マシタノハ、唯當リ前ノ時ノ通常ノ豫算編
成論デゴザイマシテ、事變ニ即應スル爲
ニハ臨時事件ノ豫備費ト云フモノヲ計上
シタ例モゴザイマスノデ、之ヲ適用致シ
マスレバ此ノ事變ニ副フコトガ出來ルカ
ト思ヒマス、多額ノ豫備金ヲ計上スルト
申シマシテモ、之ニ伴フ財源ト云フモノ
ヲヤハリ一方ニ於テ見積ラナケレバナリ
マセヌ、幾多ノ重要國策ガアル時ニ當リ
マシテ、豫備金ニ多クノ財源ヲ食ハレ
ト云フコトハ、重要國策ノ種々多クノモノ
ガ是ガ爲ニ具體的ニ波ラサレルト云フコト
ト云フコトモ考ヘナケレバナリマセヌ、彼
此レ考ヘマシテ、豫備金ノミニ讓ルト云フ
コトハ如何カト存ジマス、併シナガラ事變
ハ斯ウ云フ時デゴザイマスカラ、或ル程度

臨時事件費ト云フモノヲ設ケナケレバナラ
ナイコトニナルノデハナイカトモ考ヘテ居
リマス、其ノ點ハ御同感デゴザイマス、而
シテ今期議會ニ於キマシテハ、貴衆兩院ノ
御決議ニ依リマシテ、各般ノ議案ハ成タケ
早ク之ヲ審議願ツテ、全國民一丸トナル態
度ヲ示ス爲ニ、議會ヲ早く終了スルト云フ
御決議モゴザイマシタノデ、相當重要ト思
ヒマスル追加豫算等モ或ハ十分ニ練ルコト
ガ出來ナイト云フヤウナ事態ガ生ジナイト
モ限リマセヌカラ、其ノ點ハ考慮致シマス
テ、或ル程度ノ豫備金ヲ増加シテ此ノ際ニ
時的ニ臨時事件費ヲ計上スルト云フヤウナ
必要ガ起ルカトモ考ヘテ居リマス、ケレド
モ、是ハ今折角審議中デゴザイマスカラ、
何ト申上ゲラレマセヌ

參與トシタリ、實際ニ其ノ登用ヲスル際ニ
モ相當思切ツタリ方ヲシテ、一ツサウ云
フ點ニ付テ技術ノ下手ナ點ノナイヤウニ御
考ヘテ願ヒタイト思ヒマス、ソレカラ同時
ニ其ノ異動ニ付テモ少シ慎重ニシテ裁キ
タイ、相當ノ「エキスパート」ニナツタ者ガ
送ツテシマツテ、其ノ「ポスト」ハハ全ク新
シイ何モ知ラヌ人ガ來テ局長ニナル、ソレ
デ勉強スルノニ三箇月位掛ル、平時ナラサ
ウ云フコトデ宜カツタ、併シ今日ノ時局ニ
ニ於テ「エキスパート」ヲ成タケ同ジ地位
ニ据エルト云フ建前デ以テヤツテ裁キマセ
ヌト、國民ノ側ニ於テハ大變ナ迷惑ヲ受ケ
ルコトニナル、私ハ名前ヲ申シマセヌガ、
サウ云フ弊害ガアルカラ之ヲ改善シテ事務
ヲモウ少シ放活ニシテ貰ツテ、親切ニヤツ
テ貰ハナケレバ實際敵ハナイ、私ハ或ル
省ハ行キマシタ所ガ、屬ニ會ツテ名刺ヲ出
シタノニ、向フデハ名刺ヲ出サナイ、日本
人ノ道德カラ言ヒマスレバ、他人カラ名刺
ヲ貰ツタナラバ、名刺ヲ出シ、名前ヲ認
イタラ自分モ名前ヲ名乗ルノガ當然ナコト
デアリマス、議會ノ前デカラ代議士ハ煙タ
ガラレテ居ツタノカモ知レマセヌガ、屬ニ
會ツタ名刺ヲ出サナイ、ソレカラ技師ニ
會ツタラ是モ名刺ヲ出サナイ、實ニ不親切
デアリマシテ、私ノ同僚ナドハ門番ガ不親
切ナノデ懶癪ヲ起シテ憤慨シテ門番ヲ毆
付ケタ、是ハ一般ノ國民ノ立場カラ言ヒマ
スト非常ニ宜シクナイ、是ガドノ位驕イテ
居ルカ分リマセヌ、斯ウ云フ點ニ付キマシ
テハ、事態ガ斯ウナレバナラ程氣ヲ付ケテ
裁キタイト思フノデアリマシテ、右限會社
ノ問題ニシテモ、或ハ其ノ他ノ會社ノ設立

トカ組合ノ認可ノ問題ニ致シマシテモ、補
助金ヲ與レルト云ツテ置キナガラ、年度ガ
變ツテカラ寄越ストカ、指導シテ置イテ、
途中ニナツテ方針ガ變ツテシマツタカラ出
サストカ、實際ニ於テ斯ウ云フ事柄ガ澤山
アルノデアリマスカラ、官界ノ問題ニ付テハ
一ツ思ヒ切ツテ新編成ヲヤツテ裁キタイ、
サウ云フ状態デアリマスルカラ、一方ニ於
キマシテハ下級ノ官吏其ノ他ノ諸君ノ共濟
制度其ノ他ニ付テ十分ニ御考ヘテ願フ共
ニ、演義等ノ問題ニ付キマシテハ、私ハ嚴
密ヲ以テ進マレナケレバイカスト思フ、
斯ウ云フ事態ガ起ツテ參リマシタナラバ、
是ハ國方減ヒテシマフ、兎モ角サウ云フ
意味ニ於テ十分ニ御考ヘテ願ヒタイト思フ
ノデアリマス、又官吏ノ使ヒ方ニ於テモ戰
時體制ニ使ツテ貰ヒタイ、内閣ノ組織自
體ガ、中心閣僚ガ何人カ居ラレマシテ、サ
ウシテ企業院ト云フヤウナ「スタッフ」ヲ以
テ決メラレテ、各省長官タル所謂閣僚格
ニナツテ、ソレガ中心ニナツテ國策ヲ決メ
タ仕事ヲ忠實ニ實行スルト云フ戰時體制
制ニ、私ハ内閣自體モ一ツ制度ヲ變ヘテ裁
キタイ、ソレガ出來ナケレバ運用ニ於テ御
考ヘテ願ヒタイ、ソレカラ各省ニ於ケル官
僚ノ使ヒ方ニ付キマシテモ、例ヘバ此ノ局
ハ非常ニ澤山ノ官吏ガ居ツテ極メテ暇デア
ル、遊ンデ居ル、向フノ局ハ極メテ忙シイ、サ
ケレドモ官制ノ關係デハ種々セナシ、サ
ウ云フモノハ民間會社ト同ジヤウニ暇ナ所
カラ取レルヤウニ、一ツ法制國家カラ經營
國家ニナツタ生キタ仕事ノ出來ルヤウナ官
界新體制ニシテ、ヤレル所カラ直チニヤツ
テ裁キタイ、サウ云フ點ニ付テ一ツ本當
ノ決意ヲ示サレマシタナラバ、國民ハ皆協力シ

マス、今日何ヨリ日本ノ弱イ點ハ上ノ方ガ
悪イ、下ノ方ハ實際協力シテ居ル、物ヲ
作ラナケレバナラヌ、産業ノ技術ヲ引上ゲ
ナケレバナラヌ、米モ作ラナケレバナラヌ、
此ノ時ニ私ハ近衛首相ニ苦言ヲ呈シマシタ
ヤウニ、一ツ「インテリ」特有ノ弱氣ヲ出サズ
ニ、何處マデモ頭張ツテ裁キマスルト同時
ニ、内閣全體ト致シマシテモ、サウ云フコ
トデヤツテ裁キタイ、時局モ此ノ急迫シタ、
状態ニ、彈丸モ送ラナケレバナラヌ、米モ
作ラナケレバナラヌ、一ツ本當ニ生産擴充
ガ出來マスルヤウニ、官界ノ新體制ヲ整ヘ
ラレテ、以上私ノ希望シマシタヤウナ點ニ
付テ、採ルベキ點ハ採ツテヤツテ裁キタイ
ト云フコトヲ希望シマシテ、サウシテ質問
ヲ打切りマス

○増田委員長 杉浦君ハ先總理大臣ニ對
シテ質問ヲ保留シテアリマスカラ、此ノ際
シテラ許可シマス、簡單ニ自席カラ御願ヒ
シマス

ニナツタ、サウシマスト販購聯モ商聯モ、
自分ノ正當ニ取ルベキ手數料ノ外ニ、更ニ
非常ナ利益ガアツク譯デス、ソコデ其ノ利
益ヲ經濟保安課ガ取ラウ、斯ウ云フ算段デ
アル、斯様ニ致シマシテ販購聯デ出マシタ
剩餘金ハ、五千三百圓デアリマスガ、之ヲ
販購聯ノ肥料主任ガ縣ヘ持ツテ行キ、經濟
保安課ノ主任者ニ渡シテ假領收書ヲ取り、
後ニ經濟部長ガ本領收書ヲ出シタ、斯ウ云
フ風ニナツテ受取ツタ、ソレカラ商聯ノ方
ハ剩餘金ガ四千六百餘圓出タ、之ヲ前記ノ
ヤウナ風ニシテ縣ニ渡シタ、ソコデ此ノ渡サ
レタ金ヲ基礎ニ致シマシテ、縣デハ十五年四
月一日ニ經濟警察研究會ト云フモノヲ作ツ
タ、而シテ其ノ内ノ二千五百圓ハ、縣ノ農
務課ノ肥料組合カ何カノ用途ニ使フト云フ
ノデ渡シ、五百圓ハ販購聯ト商聯ト肥料調
査費トシテ渡シ、残り六千餘圓ガドウナツ
テ居ルカ分ラヌ、斯ウ云フ狀況ニナツテ居
ルノデアリマス、斯ウ云フ事柄ハ一口ニ之
ヲ言ヒマスレバ、怪シカラヌコトデアアル、
農民ニ對シテ相當安ク賣ルモノヲ高ク賣
ツテ、手數料ヲ取ツテモ剩餘程高ク賣ツテ、
其ノ剩餘トモノヲ縣ノ役人ガ取ツテシマツ
タ、斯ウ云フ出來事デアアル、斯ウ云フ事柄
ニ對シテ誰ガ責任ヲ取ツタカ、私ハ成程ナ
アト納得ノ行クヤウナ責任ヲ取リタル者ア
ルヲ聞カナイ、是ガイケナイノデアアル、之
ヲ普通ノ人間ガ縣カ何カニ行ツテ談判ヲ致
シマスレバ、ソレハ能ク部下ニ調ベサセヨ
ウト云フ、ヤツタ連中ニ調ベサセテ所出
ルモノデアリマス、私ハ此ノ大キナ問
題ト小サナ問題ト二ツヲ擧ゲマシテ斯ウ云
フヤウナコトモアル、マダ他ニモアルト云
フ噂ヲ聞イテ居ル、或ハアルカモ知レヌト

思フノデス、斯ウ云フヤウナ場合ニ本當ノ
責任者ガドシク出テ來ルト云フノデアリ
マセケレバ、官廳ニ對スル人民ノ信頼ト
云フモノハ薄ライデシマフ、如何ニ民間側
ガ協力シヨウト致シマシテモ、官界ニ一抹
ノ疑ヒガアリ、而シテ其ノ疑ヒガ解ケナイ、
斯ウ云フコトデアリマス、民間ニ於ケル
官僚ニ對スル信頼ト云フモノハ失ハレテシ
マフ、茲ニ十分ナル配慮ガ要ルノデハナイ
カト、私ハ斯様ニ思フ、ソコデ總理大臣ハ
官界新體制ヲヤルト官ハレテ居ルノデアリ
マスカラ、官吏ニ對スル責任感ト云フモノ
ヲ、明瞭ニスル一ツノ何等カノ方策ヲ講ジ
テ貰ヒタイ、相成ベクハ私ハ監察制度ト云
フモノヲ作ルガ宜イチヤナイカト思フ、監
察制度ト云フ言葉ハキコチナク聞エルガ、
會テハ日本ニハ警察官トカ、彈正官トカ、
是ハドウ云フモノカ知リマセヌガ、一寸聞
イテモ怖イヤウニ聞エル、併シ「ロシヤ」ニ
ハ「ゲー・ペー・ウー」ガアリ、「ドイツ」ニハ
「エス・エス」トカ、「エス・アー」ガアル、其
ノ感ジ必ズシモ宜クアリマセヌガ、之ヲ日
本ノ監察制度ト云フモノヲ作りマシテ、
唯官界ノ人々ガ過リタル場合ヲ摘發スルト
云フノデナク、温カ味ヲ以テ誤ラザルヤウ
ニ導イテ行クト云フヤウナ制度ヲ欲シイ
思フ

ナツテ來マスカラ、生活必需品ヲ獲得ニ
付テハ、今マデト違ツタ更ニ眞劍ナル、更
ニ新ナル對策ト云フモノガ講ゼラレネバ
ナラヌ、斯様ニ考ヘマス、ソコデ最近ニ於
テハ食糧品、綿、砂糖、桑畑ノ轉換方法ト
云ツタヤウナ方法ガ眞面目ニ考究セラレ、
而シテ是ガ一部分ハ實際ニ於テ行ハレテ居
ル、斯ウ云ツタヤウナ有様デアリマス、併
シ斯様ナコトヲドシテニヤツテ見マシテ
モ、早急ニハ行カナイシ、又行ツテモソレ
ノ限度ガアル、斯ウナリマスルノデ、國民
生活ト云フモノハ愈々窮屈ニナツテ來ル
思フ、ソコデ私ハ戰時下ニ於ケル國民生活
活ト云フモノヲ樹テ、之ニ依ツテ國民ガ生
活ヲシテ行クト云フヤウナコトニナツタラ
ドウカ、斯様ニ思フノデス、早イ話ガ百圓
ノ月給ヲ取ル者モ、千圓ノ月給ヲ取ル者
モ、大體似タヤウナ生活ヲシテ行クンダ、
斯ウ云フ建前ニナツテ行ツタラドウダラウ
カト考ヘルノデアリマス、此ノ間此ノ席デ
聞イテ居リマスレバ、日銀券ノ發行高ガ段
段多クナル、公債募集ガ困難ニナル、日銀
ノ手持公債ガ段々殖エル、捨テテ置ケバ、イ
シフレ「シ」ニナル、斯ウ云ツタヤウ
ナ見方ノ議論モアリマシタガ、此ノ基準生
活ノ確立ニ依リ、消費體制ガ適當ニ行ハレマ
スナラバ、持ツテ居ル金ノ使ヒ道ガナイ、
斯ウ云フ建前カラ今申シマシタヤウナ對策
ノ一助ニモナルカト云フヤウニ私ハ考ヘマ
ス、併シ政府ガソナモノヲ法規的ニ、基
準生活ヲ決メテ行クンダト云フヤウナ所マ
デアリマスルナラバ、國家ノ爲ニソレハ非
常ニ結構デス、結構デスガ、法律デハ決メ
デモ宜イカラ、各人ガ其ノ心掛トシテ、サウ

云ツタヤウナ生活ヲシテ行クヤウニシテ欲
シイト思フ、民間人ニハ既ニソコニ氣ガ付
イテ、一生懸命ニヤツテ居ル向キガアル、
中央アタリカラ眞面目ナ人ガ地方ニ行ツテ
演説ヲヤル、諸君ハ政府ノヤルコトヲ批判
ナンカシナイデ、一生懸命ニ自分ノコトヲ
眞面目ニヤツテ居レバ宜イ、政府ノコトハ
政府デヤツテ居ルンダ、ソレデ納得シテ營
營トシテヤツテ居ルト云フヤウナ事實ガア
ルノデアリマスルガ、民間人ノ一人々々ガ
之ヲ實行スルト云フコトハ、割合ニ影響力
ガ少イ、政府ノ大官、或ハ縣廳ノ高給ナ役
人ガ、之ヲ實踐スルト云フコトデアリマスレ
バ、其ノ影響ハ非常ニ大キイト思フ、私ハ
政府ノ役人、或ハ縣廳ノ人々ニ、是非トモ
先ツ自分達カラ始メ、一般民衆ニハ事情
ノマダ徹底セヌコトモアルカモ知レヌカ
ラ、割合吞氣デアルカモ知レヌガ、俺達ハ
能ク分ツテ居ルカラ、斯ウ云フ建前デ行カ
ウ、斯ウ云フコトヲ希望スルノデス、ソコ
デ要約致シマシテ、戰時下基準生活ヲヤル
必要ガナイカ、其ノ必要ガナイト云フノナ
ラバ、大官ハ率先シテ模範的ナ生活ヲシテ
貰ヒタイ、序ニ考ヘラレルトハ、製會
ノ費用デス、會テ政黨ガ地方ヘ出テ不評判
ヲ買ツタ主ナル原因ノ一ツハ、彼等ガ非常
ニ高イ日常ヲ賣ツテ見タリ、一等ノ汽車ニ
乗ツテ見タリ、演説ノ歸リニ何處カノ料理
屋デ遊ンデ見タリスルト云フヤウナコトガ
主ナル理由デアツタト思フ、苟クモ國民ヲ
感動セシメヨウト思ヘバ、犧牲ヲ伴フノデ
ナケレバナラヌ、自ら進ンデ犧牲ヲ忍ビ、
率先シテヤツテ行クト云フ所ニ、國民ニ對
スル影響力ガアルト思ヒマス、ソコデ製會
會ノ豫算ト云フモノハ非常ニ小サナモノニ

スル、ソレハ是非トモ希望スル
ソレカラ大蔵大臣ニ私ハ考ヘテ置イテ
キタイノデスガ、經理統制令ト官吏ノ恩給
ノ關係、斯ウ云フヤウナコトニモ一ツ注意
ヲ拂ツテ戴キタイ、經理統制令ニ依ツテ會
社關係ノ者ガ餘リ儲ケガナク、貯蓄ガ出來
スノダ、斯ウ云フコトニナレバ、當然官吏
ノ恩給ニ思ヒテ及ボサナケレバナラス、ソ
レナケレバ均等ガ取レヌ、ソレカラ其ノ
次ニハ恩給ト月給トガダブル役人ガ隨分ア
ル、恩給ヲ賈ツテ特殊會社ニ行ツテウツ
高イ俸給ヲ賈フ、ソレバカリデナク貴族院
議員ヲ兼テ居ルト云フヤウナノガアルト
思フ、斯ウ云フヤウナコトハ餘程考ヘテ戴
カナケレバナラス、是ハ官吏ノ内側カラ見
テモ、此ノ問題ハ大キイト思フ、勅選議員
ニナルト、ナラザル人トドレダケ違フ
カ、大シタ違ヒハナイ、ナツテスラ、行
ツテ、今度ハ又特殊會社ニ行ツテ又ウツ
儲カル、左様ナコトデハ官吏伸開ダツテ
落着キハシナイト思フ、ソレカラ特殊會社
ノ重役ノ俸給ガ非常ニ多過ギルト思フ、斯
ウ云フヤウナモノニ對シテモ、十分ナル配
慮ヲシテ戴キタイ、尙ホ附加ヘノヤウデ
リマシガ、役人ノ「ボータス」ナカハ、法
的根據ヲ與ヘテアル方宜イト思フ、今ノ
ヤウナ曖昧ナ制度ハイケナイト思ヒマス
以上デ私ノ政府ニ御伺ヒシヨウト思ツク
コトヲ述ベ盡シタノデス、其ノ中政府デ御
答辯ガ願ヘル所ガアレバ仕合セデス

○近衛國務大臣 只今ノ御尋ノ第一ノ點ニ
付キマシテハ、官吏ノ責任ヲ糺ス意味ニ於
テ、監察制度ノ如キモノヲ置イタラドウカ
ト云フヤウナ御尋デアリマス、之ニ付キマシ
テハ篤ト研究ヲ致シテ見タイト思ヒマス、

○堤委員 只今三宅正一君カラ近衛總理
ノ臣節ニ付キマシテノ御質問ニ對シテ、總
理ハ時局ハ實ニ重大デアル、陛下ノ御宸
襟ヲ極マシ奉ルコトハ恐懼ノ至リデアルガ
故ニ、最後ノ御奉公トシテ奮勵努力スル
云フ御答辯デアリマシタ、臣子ノ分トシテ
ハ當然ノコトデアリマス、陛下ノ御心ヲ
御心勞ノコトト御察シテ申上ゲマス、私ガ
今總理ニ御質問ヲ致シマス、ハ、總理ヲ
イデモヨウトカ、或ハ舉足ヲ取ラウトカ云
フヤウナ、左様ナ考ヘハ毛頭持ツテ居リマ
ス、其ノ爲ニ點ハ御諒承ヲ願ツテ置
キタイノデアリマス、時局ガ今實ニ重大
ト云フ、ソレハ何カト云ヘバ對米問題デア
リマス、アメリカハ戰爭ニ向ツテ露進ラシ
メ居ル、此ノ露進ムコトガアリマシタナラ
バ、世界平和ノ爲ニ洵ニ遺憾ニ存スルノデ
アリマス、何方故ニ「アメリカ」ハ斯ウ云フ
態度ニ出テ居ルノデアラウ、何ヲ過
過小ニ評價シテ居ルノデアラウ、何ヲ過
小ニ評價シテ居ルカ、日本ノ海軍ヲ過小ニ
評價シテ居ルトハ信ジラナイノデアリマ
ス、日本ノ海軍ト太平洋ノ眞中ニ於テ相
ツテ、日本ノ海軍ニ勝テ得ル信ジテ居ル
ハ、私ハ毛頭想像ヲ致シマス、然ラバ何
ヲ過小ニ評價スルコト當ヒマス、一
ツハ日本ノ國內ガ一致シテ居ナイノデア
カト思ツテ居ルコト、モウ一ツハ支那事變
ガ五年ニ及ンデ、日本ノ經濟力ガ非常ニ消
耗シテ、居ルト云フ點ヲ過小ニ評價シ
テ居ルノデアリマシタ、其ノ二點ヲ十分明
若シ然リトスルナラバ、其ノ二點ヲ十分明
カニシテ日本ノ國ハ決シテ國內ガ割レテ
居ルノデアリナイト云フ一致團結ノ形ヲ示
シ、又經濟ノ方面ニ於テハ官民一致シテ生
産ノ擴充ヲ致シ、其ノ「アメリカ」ノ過小

○近衛國務大臣 今日「アメリカ」ト云ハ
ズ、或ハ蔣介石政権ト云ハズ、兎角日本ノ
眞ノ國情ニ對シテ認識ヲ誤ツテ居リマス、
國民ガ二ツニ割レ、其ノ内ニ内部ノ崩壞ヲ
來スノデアリナイカト云フガ如キ、希望ノ
期待ヲ持ツテ種々行動シテ居ルコトハ明カ
ニ認メラレルノデアリマス、色々ナ情報ニ
依リマシテモソレハ分リマス、此ノ際日本
ノ國力ガ過小ニ評價セラルルト云フヤウナ
トニナルノデアリマス、擬裝的ノ舉國一致
デハ無論イケマセヌガ、眞ニ舉國一致ノ態
勢ヲ示スト云フコトガ何ヨリモ肝要デアリ
マシテ、或ハ是ハ軍備ノ充實トカ、國防ノ
充實ト云フコトヨリモ尙ホ一層大切ナコト
デアリマス、今度議會ニ於キマシテ諸君ガ
執ラレマシタ此ノ協賛ノ御態度ノ如キハ
「アメリカ」ニモ非常ナ效果ヲ及ボシテ居ル
ト考ヘテ、私共ノ非常ニ感謝シテ居ル次第
デアリマス

○堤委員 只今總理カラ明快ナル御答辯ヲ
承リマシテ満足致シマス、日本公ニツニ割
レテ、其ノ内ニ崩壞スルノデアリナイカト、
「アメリカ」始メ蔣政権ナドモ思ウテ居ル、ソ
レニ對シテハ國內ニ於テハ一致團結ノ態勢
ヲ示サナケレバナラスガ、議會ガ今回執ツ
テ態度ナドハ非常ニ宜イコトデアラウト云
フ御答辯ヲ賜ハリマシテ洵ニ意ヲ強ウスルノ
御言葉アリマス、私ハ總理ガ其ノ御考ヘヲ持ツ
テ居ラレルノニ、一寸申シテ「キヤウナ氣
モスルノデアリマス、併シナガラ事重大
デアリマスガ故ニ、總理ニ敢テ此ノ質問ヲ申

上ゲタイノデアリマス、ソレハ去ル七月二
十三日——近衛内閣方親任式ヲ舉ゲタノハ
七月二十二日デアリマス、此ノ關係關係ノ
重大ナル際ニ近衛内閣ハ如何ナル方針ヲ執
ルノデアラウカト、全世界ノ人類ガ耳ヲ聳
テ、目ヲ瞠ツテ居ル、其ノ重大ナル時ニ、ソ
レ「オ」ノ放送ヲセラレタノデアリマス、ソ
レニハ既成政黨ノ弊害ト題セラレマシタ、惟
フニ從來政黨ノ弊害ハ二ツアリマス、其一
ツハ立憲ノ趣旨ニ於キマシテ自由主義ヲ
執リ、民主主義ヲ執リ、或ハ社會主義ヲ執
リマシテ、其ノ根本ノ世界觀、人生觀ガ既
ニ國體ト相容レナイモノガアルト云フ點デ
アリマシテ、是ハ今日急進ニ轉回シ技術的
ニ改正シナケレバナラナイ所デアリマス、
ト云フ御演說ヲ承ツタノデアリマス、私ハ
其ノ御演說ヲ承リマシタ時ニ、實ニ是ハヘ
ライコトヲ仰セラレタト思ツク（笑聲）笑ヒ
ゴトデアリナイ、シツカリ聽キナサイ、我が
國體トハ相容レナイ民主主義ヲ執ル政黨ガ
アル、其ノ政黨ハ速カニ轉回シ技術的ニ改
正シナケレバナラナイ、此ノ御言葉ハ實ニ
容易ナラス反響ヲ來スノデアリマス、國體
ト相容レナイ民主主義——民主ト云フ言葉
ハ世界モ美ム所ノ立憲君主國體デアリマス、
其ノ君主國體ト相容レナイ民主主義、民主
國體ノ思想ヲ持ツテ居ル政黨ガアル、ソレ
ハ急進ニ轉回シ、根本的ニ改正シナケレバ
ナラナイト云フ、此ノ御演說ヲ海外ノ者ガ
聞イタナラバ何ト思フデアリマセウカ、此
ノ「ラヂオ」ノ御演說ハ日滿支ハ勿論、大陸
前線ヘモ、更ニ之ヲ録音シテ國際放送網ヲ
通ジテ全世界ヘ放送セラレタイト書イテア
リマス、是ハ實ニ外國カラ見マスルト、如

何ニモ日本ノ國ガ今ニモ二ツニ分レルガ如
キ印象ヲ與ヘルト私ハ思フノデアリマスガ、
是ハドウ云フ御考ヘデアツタノデアリマセ
ウカ、若シ御考ヘ違ヒデアリマシタナラバ、
是ハ適當ノ機會ニ御訂正ニナルコトガ、國
家ノ爲ニ私ハ必要ナコトデアルト思フノデ
アリマス、總理ハ如何ニ御考ヘニナリマセ
ウカ

○近衛國務大臣 只今堤君ノ御指摘ニナ
リマシタ演說ハ、組閣勿々ノ際デアリマシ
テ、十分ニ草稿等モ練ラズ、言葉等モ足りマ
セズデシタ、併シナガラ私ノ政黨ニ對スル
考ヘ方ハ、新體制ノ準備委員會ニ於テ述ベ
テ居リマス、是ガ私ノ考ヘト御承知ヲ願ヒ
タイト存ジマス

○堤委員 十分ニ草稿モ見ズ、想モ練ラナ
カツタト仰セラレマスルケレドモ、是ハ實
ニ重大ナルコトデアル、國體ト相容レナイ、
即チ君主國體ト相容レナイ民主主義ヲ奉ズ
ル政黨ガアル、政黨ガアルト云フ以上ハ代
議士ガ數千人居ルカ、數百人居ルカ分リマ
セヌガ、其ノ背後ニハ數百人ノ有權者ガ
控ヘテ居ル、此ノ演說ノ海外ニ及ボス反響
ト云フモノハ、是ハ大變ナコトデアリマス、
併シ何カアナタノ御考ヘノ中ニサウ云フ錯
覺ヲ起サウナコトガアツタノデアリナイ
カ、ソレナラバソレヲ率直ニ承リマシテ、
此處デ其ノ點ヲ明カニシテ、サウシテ適當
ナ機會ニ、是ハ國家ノ爲ニ是正セラレル
コトガ最も必要ナコトデアルト思フノ
デアリマスガ、如何デゴザイマセウカ

○近衛國務大臣 最初「ラヂオ」ノ放送ノ
時ニ申シマシタコトガ、言葉ガ足りマセヌ
ノデ、サウ云フ誤解モ生ジタト思ヒマスガ
ラ、其ノ爲ニ特ニ新體制ノ準備委員會ニ於
キマシテ、政黨ニ對スル其ノ誤解ヲ正ス積
リテ述ベタノデアリマス、尙ホ徹底致シマ
セヌケレバ、今後モ其ノ點ニ付キマシテ
ハ、機會アル毎ニ申述ベタイト思ヒマス

モララシトテ居リマスガ、英國ハ君主ニ統治ノ大權ハアリマセヌ、議會ガ統治ノ大權ヲ持ツテ居ル、日本ノ政治ノ大權ハ天皇ニ歸屬シ奉ツテ居ルト云フコトハ固ヨリ明カナコトデアリマス、此ノ世界ニ比類ナキ此ノ日本ノ國體ヲ外國ニ知ラセルト云フコトガ、是ガ日本ノ一番ノ強味デアリマス、其ノ一番ノ強味ヲ、總理大臣ガ、サウ云フヤウナ民主國體ノ意圖ヲ挿ム者ガアルト云フヤウナコトヲ外國ニ誤解セシメルト云フコトハ、是ハ實ニ重大ナルコトデアリマスガ故ニ、是ハ惡カク御氣付ニナリマシナラバ、最モ勇ラシクハツキリト、適當ナル機會ニ「ラヂオ」ヲ通ジテ海外ニ之ヲ是正シテ戴キタイ、決シテ私ハ以前ニ政黨ニ歸屬シテ居リマシタガ故ニ感情ナドニ因ハレテ申スノデハアリマセヌ、ドウカ一ツ國家ノ大局ヲ考ヘラレマシテ——國際狀態ハ益々紛糾シテ參リマス、我が國カラ一君萬民ノ此ノ團結心ヲ取ツタナラバ、日本ノ強味ハ何處ニアリマセウカ、誤解サレルコトハ與々残念ダト思ヒマスカラ、是ハハツキリ一ツ御訂正ヲ願ヒタイト思フノデアリマスガ、總理大臣如何デアリマセウカ

○近衛國務大臣 何レ何カ機會ヲ見マシテ訂正致シタイト思ヒマス
○堤委員 一寸聞エマセシタガ……
○近衛國務大臣 機會ヲ見マシテ、日本ノ政治ナリ議會ノ眞ノ姿ガ如何ナルモノデアラカト云フコトニ付キマシテ、海外ニモ之ヲ知ラセタイト思ヒマス

○堤委員 其ノ眞ノ姿ガドウデアアルカ、ソレハドウデモ宜イ、兎ニ角日本ハ、一君萬民ノ君主國體ヲ奉ズル者ガ一億全部ソレデアリマスガ、總理大臣如何デアリマセウカ

昭和十六年一月二十七日印刷

昭和十六年一月二十八日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局

(第一類 第一號)

第七十六回帝國議會 豫算委員會議錄(速記)第七回

會 議

昭和十六年一月二十八日(火曜日)午前十時十二分開議

出席委員左ノ如シ

- 委員長 増田 義一君
- 理事伊禮 肇君 理事小笠原三九郎君
- 理事佐藤洋之助君 理事田中 好君
- 理事西川 貞一君 理事古田喜三太君
- 理事三浦 虎雄君 理事三宅 正一君
- 理事宮澤 胤勇君 理事森田重次郎君
- 理事矢野庄太郎君

- 窪井 義道君 井上 良次君
- 池田 秀雄君 石坂 豊一君
- 一ノ瀬俊民君 泉 國三郎君
- 今井 新造君 江藤源九郎君
- 杉浦 武雄君 加藤 鯛一君
- 笠井 重治君 勝 正憲君
- 川崎 克君 木村 正義君
- 岸田 正記君 北 昶吉君
- 久山 知之君 島田 俊雄君
- 助川啓四郎君 高田 転平君
- 武田徳三郎君 津雲 國利君
- 土屋 寛君 堤 康次郎君
- 鶴見 祐輔君 末松借一郎君
- 富吉 榮二君 中島彌次郎君
- 中田 儀直君 中山 福藏君
- 西尾 末廣君 松村 光三君
- 一松 定吉君 平川松太郎君
- 櫻井兵五郎君 藤本 捨助君
- 古屋 慶隆君 堀内 良平君
- 前川 正一君 前田房之助君
- 三善 信房君 木暮武太夫君

森田 福市君 横川 重次君
依光 好秋君 一宮房治郎君

出席國務大臣左ノ如シ

- 内閣總理大臣 公府近衛 文麿君
- 内務大臣 男爵平沼騏一郎君
- 厚生大臣 金光 庸夫君
- 拓務大臣 秋田 清君
- 陸軍大臣 東條 英機君
- 外務大臣 松岡 洋右君
- 文部大臣 橋田 邦彦君
- 商工大臣 小林 一三君
- 大藏大臣 河田 烈君
- 逓信大臣 村田 省藏君
- 農林大臣 石黒 忠篤君
- 海軍大臣 及川古志郎君
- 鐵道大臣 小川郷太郎君
- 國務大臣 星野 直樹君
- 司法大臣 柳川 平助君

出席政府委員左ノ如シ

- 法制局長官 村瀬 直養君
- 法制局參事官 森山 鏡一君
- 法制局參事官 佐藤 基君
- 企畫院部長 柴田彌一郎君
- 企畫院部長 三浦 一雄君
- 企畫院部長 竹内 徳治君
- 對滿事務局次長 荒川 昌二君
- 情報局總裁 伊藤 述史君
- 情報局情報官 吉積 正雄君
- 情報局情報官 福本 柳一君
- 興亞院部長 宇佐美珍彦君
- 外務次官 大橋 忠一君
- 外務省東亞局長 山本 熊一君

外務省亞米利加局長 寺島 太郎君

外務省南洋局長 齋藤 晋次君

外務省通商局長 水野伊太郎君

外務省條約局長 武内時之助君

外務省書記官 菅野 軍藏君

内務省地方局長 留岡 幸男君

内務省警保局長 橋本 清吉君

内務省土木局長 成田 一郎君

内務省計畫局長 藤岡 長敏君

内務省書記官 三好 重夫君

大藏省主計局長 谷口 恒二君

大藏省主計局長 松隈 秀雄君

大藏省書記官 氏家 武君

大藏省書記官 植木庚子郎君

大藏省書記官 日下部 滋君

大藏省書記官 河野 一之君

大藏省書記官 福田 勉夫君

大藏省書記官 山住 克巳君

預金部資金局長 中村孝次郎君

專賣局長官 花田 政春君

陸軍主計中將 阿南 惟幾君

陸軍主計中將 石川半三郎君

- 寺島 太郎君
- 齋藤 晋次君
- 水野伊太郎君
- 武内時之助君
- 菅野 軍藏君
- 留岡 幸男君
- 橋本 清吉君
- 成田 一郎君
- 藤岡 長敏君
- 三好 重夫君
- 谷口 恒二君
- 松隈 秀雄君
- 氏家 武君
- 植木庚子郎君
- 日下部 滋君
- 河野 一之君
- 福田 勉夫君
- 山住 克巳君
- 中村孝次郎君
- 花田 政春君
- 阿南 惟幾君
- 石川半三郎君
- 武藤 章君
- 田中 隆吉君
- 河村 參郎君
- 森田 親三君
- 豊田 貞次郎君
- 武井 大助君
- 岡 敬純君
- 爲本 博篤君
- 高木 惣吉君

司法次官 三宅正太郎君

司法省民事局長 坂野 千里君

司法省刑事局長 秋山 要君

司法省行刑局長 金澤 次郎君

司法省調査部長 中島 弘道君

司法省書記官 石田 壽君

文部省專門學務局長 永井 浩君

文部省普通學務局長 中野 善教君

文部省實業學務局長 關口 勳君

文部省社會教育局長 額田 彌三君

文部省圖書局長 松尾 長造君

文部省宗教局長 阿原 謙藏君

文部省書記官 柴沼 直君

文部省書記官 榮沼 直君

文部省書記官 藤野 惠君

文部省書記官 堀池 英一君

農林省總務局長 井野 碩哉君

農林省農政局局長 周東 英雄君

農林省農政局局長 岸 良一君

農林省農政局局長 井出 正孝君

農林省農政局局長 平岡 梓君

農林省農政局局長 吉田 清二君

- 三宅正太郎君
- 坂野 千里君
- 秋山 要君
- 金澤 次郎君
- 中島 弘道君
- 石田 壽君
- 永井 浩君
- 中野 善教君
- 關口 勳君
- 額田 彌三君
- 松尾 長造君
- 阿原 謙藏君
- 柴沼 直君
- 榮沼 直君
- 藤野 惠君
- 堀池 英一君
- 井野 碩哉君
- 周東 英雄君
- 岸 良一君
- 井出 正孝君
- 平岡 梓君
- 吉田 清二君
- 誠之君
- 直人君
- 直一君
- 湯河 元成君
- 小島 新一君
- 椎名悦三郎君
- 小倉 義照君
- 永田彦太郎君
- 菱沼 勇君
- 堀 義臣君
- 末永 衛君

第一類第一號 豫算委員會議錄 第七回 昭和十六年一月二十八日

第一類第一號 豫算委員會議錄 第七回 昭和十六年一月二十八日

方面ニ貿易ノ先ヲ求メル、或ハ生絲ノ用途ヲ研究ヲ致シ、又生絲ニ致サナイテ繭織維ヲ利用致シ、新用途ノ研究開拓ト云フコトニ相當苦心ヲシテ參ツテ居ル、私ハ付テ、大分前デアリマシタガ、農林省ニ奉職シテ居リマシタ時ニ、化學纖維ノ競争ト云フモノガ、生絲ニ對シテ盛ニナツテ參ル、而シテ生絲ハ只今マデドチラカト申スト、衣料トシテ持ツベキニツノ方面、即チ第一義ニ於キマシテハ、身體ニ對スル對内的方面、第二ハ外見ト云フ方面ガアリマシガ、此ノ中第二ノ外見ト云フ方面ニ重キヲ置カレテ使用セラレ來ツタモノガ多イト思フコトデアリマシ、此ノ外見の方面ハ化學纖維ノ發達ト云フモノニ依ツテ、直キニ追付カレテシマフ、追付カレバカリデハナイ、追越サレト云フコトハ明カニ看取出來タ、デアリマシカラ、元ハ戻ツテ、第一義ノ衣料ノ對内的方面ノ意義ノ方ニ、繭織維ノ眞價ト云フモノヲ發見スルコトガ必要デアルト、斯ウ私ハ考ヘタ、ソコデ農林省內ノ試驗場モ動員致シ、又陸軍ノ衛生方面ニモ依頼致シマシテ、生絲ノ動物纖維トシテノ特長ト云フモノノ發見ニ付テ、十分試驗ヲシテ貰ヒ、研究モシテ貰ツタノデアリマシ、長イ研究ノ結果、特殊ノ特長ヲ持ツテ居ル繭織維デアルトコトガ、ハツキリ分ツテ居ル、東洋ノ如キ殊ニ湿度ノ多イ蒸暑イ國ニ於キマシテハ、下着ト致シマシテ最モ適當ナモノハ、純羊毛製ノ下着デナクシテ、羊毛ト繭織維トヲ混紡致シタモノガ、最モ宜シイト云フ結果ハ、陸軍ガ相當ノ部隊ニ之ヲ着セテ、富士登山ヲヤツテ、ヒドイ勞働デ非常ニ汗ヲカキテ、而モ冷タイ氣候ニ曝サレト云フヤウナ實驗マデシテ吳レテ居

カ、又選舉ノ御延期ニナルトカ看フ噂モアリノデアリマシガ、ソレ等ニ對シテノ御考ヘハ如何デアリマシカ、一緒ニ極々簡單ニ御説明願ヒタイト思ヒマシ

○小林國務大臣 堤サンノ御質問ニ對シテ、簡單ニト云フ御註文デアリマシタカラ、最モ簡單ニ御答ヘ申上ゲマシ、銅、青銅、亞鉛、ニッケル、眞鍮、サウ云フモノヲ「アメリカ」ガ輸出ヲ禁止スルコト云フコトハ、前々カラ大體承知致シテ居リマシノデ、是ハ十分ノ手當ヲ盡シ、ドチチカト申セバ、ソノナニシナクテモ宜イデハナイカト云フ位ニ、積極的ニ第一回、第二回、第三回ニ亙リ、輸入計畫ヲ進行致シマシテ、萬全ヲ期シテ居リマシカラ、此ノ點ハ毛頭御憂慮ナイヤウニ、御安心ノ程御願ヒタイト思フデアリマシ、第二ノ御質問デアリマシケレドモ、マダ實ハハツキリシテ原案ガ決ツテ居リマセシ際デアリマシタガ爲ニ取止メマシタケレドモ、是ハ戰時經濟體制ヲ整フル一番重點中ノ重點デアリマシ、或ハ製鐵ノ合理統制ハ、前々カラ——昨年ノ九月アタリカラ研究ヲサレテ居リ、斯ウスレバ巧ク行クダラウト云フ物動益ニ總動員ノ配合セカスルト云フコトガ、能ク分ツテ居リマシタカラ、差當リ此ノ重點中ノ重點デアリマシ云フ專業ノ統制、整備、總テモノガ行ハレナラバ、團體法ハコト暫ク見合ハセテモ差支ヘナイト思ヒマシテ、取止メ次第デアリマシ、尙ホ此ノ團體法ニ付テ、民間ノ協力トカ云フヤウナ御希望アリマシガ、是ハ御承知ノ如ク戰時經濟新體制ノ精神ガハツキリシテ居リマシカラ、之ヲ法文化

示スト云フヤウナ狀況デ、今日マデ推移シテ居ツタ、ソレ等ガ國內ノ蠶絲業關係者ニ、惡イ影響ヲ及ボシテハイカスカラ、ソコデ生絲ノ買上モ實行致シマシタシ、又融資命令ヲ以テ、買上ノ分量モ餘計ニシタト云フヤウナコトヲヤツテ參ツタデアリマシ、營業者モ之ニ應ジテ、色々施設ヲシテ參ツタ、尙ホ繭ノ保管モヤツテ來タト云フノデアリマシガ、是ダケデ足レリトハ考ヘテ居リマセヌ、是ハ次ノ段階ニ移ル手段ノ過渡的ノ對策ト考ヘテ居ルノデアリマシ、是カラ當、時局ガ緊迫ヲ致シマシテ、若シ「アメリカ」ニ生絲ヲ輸出スルコトガ出來ナラバ、其ノ爲ニ少シモ慌テルコトナクヤツテ行クヤウナ施設ヲヤリタイ、斯ウ考ヘテ居リマシノガ、次ニ提出ラ致シタイ考ヘテ居リマシマシ、統制案デアリマシ、統制案ニ付キマシテ、提出ラ致シマシタ曉ニ於キマシテ、十分ニ御説明申上ゲ、御諒解ヲ願ヒタイト思ヒマシガ、概要ハ、我が國デ生産ヲ致シマシ、極ク大難把ニ申シマシテ、内輪ニ申シマシテモ約四割ト云フモノハ、國用絲ニ向ケテ行クコトガ出來ヨウト考ヘル、ソレカラ繭生産ノ約一割見當ノモノヲ生産スルニ必要ナ桑園ト云フモノハ、此ノ食糧問題ノ緊迫ヲシテ居ル際デアリマシカラ、之ヲ食糧ノ生産ニ向ケテ行ク必要ガ、食糧問題ノ方カラモアルノデアリマシ、養蠶農家ノ經營ヲ變ヘサセル上カラモアル、故ニ約一割ト云フモノハ、サウ云フコトニ依ツテ減産ガ出來ヨウト考ヘテ居ル、殘リノ五割、是モ出來ルコトナラバ繭ノ短纖維ニ轉向セシメルコトニ致シタイ、斯ウ考ヘテ居リマシ、併シ過渡的ノ時

デアリマシガ故ニ、短纖維専門ノ、詰リ繭カラ生絲ニシナイデ直グ撈ツテシマフ、攝イテシマフト云フヤウナ専門ノモノニ持ツテ行クコトハ、多少ソコニ如何カト思ハレル筋ガアリマシカラ、長短兩纖維ノ兼用ノ蠶品種ヲ、先ツ採用致スコトニ致シマシテ、其ノ方面ニ向ケルコトニ致シタイ考ヘテ居ル、サウ致シマシタナラバ、ソレハ他ノ纖維ト混紡致シ、若シクハ混紡致スコトニ依ツテ、只今我が國ガ食糧問題ト同ジヤウニ、非常ニ逼迫ラ告ゲテ居ル所ノ各種纖維ノ供給ノ不足——各種纖維ヲ合計致シマシタナラバ、十數億「ポンド」ノ消費ガアルト思フノデアリマシ、併シ色々ナ關係カラ、今日民需ニ向ケラレテ居ル纖維ハ、僅カ數億「ポンド」ダラウト思フ、サウ云フ纖維ノ拂底ノ際デアリマシカラ、其ノ方向ニ消化スルコトハ十分ニ出來ルト思フ、問題ハ價格ノ點ニアルト思フ、價格ノ問題ハ、斯様ナ國情ノ下ニ於テ、纖維價格ノ適當ナ按配ニ依リマシテ、相當解決スルコトガ出來ルト、斯ウ考ヘテ居ル、ソコデ舊臘十二月ニ於ケル蠶品種ヲ決定致シマシ委員會ニ於キマシテハ、既ニ長短兼用ノ纖維ヲ出スコトノ出來ル蠶品種ヲ、新タニ配付原蠶種ト致シマシテ決定ラシテ居ル、斯ウ云フヤウナ狀態デアリマシテ、着々其ノ方面ニ向ツテノ準備ハモウ進メテ居ルノデアリマシ、十五年度追加豫算ト致シマシテ、昨日デアリマシタカ、提出ラ致シマシタ農林省關係ノ九百萬圓バカリノ豫算ノ中ニモ、此ノ桑園ヲ轉用致スコトノ一部ノ費用ハ組込ラデアル、斯ウ云フヤウナ次第デアリマシカラ、假ニ時局ガ急變ラ致シマシテ、米國ガ生絲ヲ買ハスト云フヤウナコトニナリマシテモ、續イテ出

シマシル蠶種統制案ヲ、直チニ議員諸君ガ御協賛下サリサヘスレバ、ソレデ何モ驚クコトハナイ(笑聲)

○堤委員 大變農林當局ガ、眞面目ニ熱心ニ御研究ニナツテ居ラレコトニ感謝致スノデアリマシ、御提出ニナリマシレバ議會ハ直チニ通過スルコト思フノデアリマシ、大變心強ク感シタノデアリマシ

次ニ商工大臣ニ伺ヒタイノデアリマシガ、午前中ニ二人濟マシタイカラト云フ委員長ノ御希望デアリマシカラ、ドウカ結論ダケ極ク簡單ニ御願ヒシタイノデアリマシ、ソレハ「アメリカ」ハ蠶ニハ航空機用ノ「ガソリン」トカ、鋼鐵製品其ノ他軍需品ノ許可制ヲ實施シテ、殆ド禁輸ヲヤツテ居ル、二月三日以後ニ更ニ又銅、眞鍮、青銅、亞鉛、「ニッケル」、炭酸加里ナドニ、禁止ノ許可ヲ實施スルサウデアリマシガ、是等ニ對スル對策ハ、御持チニナツテ居ラレノデアラウト思フノデアリマシガ、是ハ極ク簡單ニ御答ヘ願ヒタイ、ソレカラモウ一ツ一ツニ申上ゲマシガ、政府ハ今回産業團體法案ヲ御提出ニナル豫定ヲ、御取止メニナツタヤウデアリマシガ、併シナガラ現在我が國ノ資材ノ不足ノ現狀ニ於キマシテハ、上カラノ統制強化ヲスルコトヨリモ、其ノ統制ヲ受ケル所ノ統制團體ノ強化整備ト云フコトガ、是ガ最モ必要チヤナイカ、要スルニ民間ノ協力ニ依ツテ、此ノ資材ノ不足ヲ時ニ、産業ヲ運營シテ行クコトヲ統制ノ妙ヲ發揮シテ行クコトガ必要ナコトデアラウト思ハレマシガ、商工當局ノ御所見ヲ伺ヒマシ

尙又唯一ノ法的團體デアル商工會議所ヲ、商工當局ハ潰シテシマフヤニ傳フルノデアリマシガ、之ニ對シテノ御考ヘハドウ

カ、又選舉ノ御延期ニナルトカ看フ噂モアリノデアリマシガ、ソレ等ニ對シテノ御考ヘハ如何デアリマシカ、一緒ニ極々簡單ニ御説明願ヒタイト思ヒマシ

○小林國務大臣 堤サンノ御質問ニ對シテ、簡單ニト云フ御註文デアリマシタカラ、最モ簡單ニ御答ヘ申上ゲマシ、銅、青銅、亞鉛、ニッケル、眞鍮、サウ云フモノヲ「アメリカ」ガ輸出ヲ禁止スルコト云フコトハ、前々カラ大體承知致シテ居リマシノデ、是ハ十分ノ手當ヲ盡シ、ドチチカト申セバ、ソノナニシナクテモ宜イデハナイカト云フ位ニ、積極的ニ第一回、第二回、第三回ニ亙リ、輸入計畫ヲ進行致シマシテ、萬全ヲ期シテ居リマシカラ、此ノ點ハ毛頭御憂慮ナイヤウニ、御安心ノ程御願ヒタイト思フデアリマシ、第二ノ御質問デアリマシケレドモ、マダ實ハハツキリシテ原案ガ決ツテ居リマセシ際デアリマシタガ爲ニ取止メマシタケレドモ、是ハ戰時經濟體制ヲ整フル一番重點中ノ重點デアリマシ、或ハ製鐵ノ合理統制ハ、前々カラ——昨年ノ九月アタリカラ研究ヲサレテ居リ、斯ウスレバ巧ク行クダラウト云フ物動益ニ總動員ノ配合セカスルト云フコトガ、能ク分ツテ居リマシタカラ、差當リ此ノ重點中ノ重點デアリマシ云フ專業ノ統制、整備、總テモノガ行ハレナラバ、團體法ハコト暫ク見合ハセテモ差支ヘナイト思ヒマシテ、取止メ次第デアリマシ、尙ホ此ノ團體法ニ付テ、民間ノ協力トカ云フヤウナ御希望アリマシガ、是ハ御承知ノ如ク戰時經濟新體制ノ精神ガハツキリシテ居リマシカラ、之ヲ法文化

均ガ一割七分三厘、其ノ他ノモノハ一割二分八厘、金額ニ致シマシルト、五十億九千六百餘萬圓ノ下落ト云フ統計ガ株式取引所カラ出テ居リマシ、實ニ驚クベキモノデアリマシテ、此ノ數字ハ二千五百萬圓ノ拂込ヲ以テハ逆モ是ハ支ヘルコトハ出來ナイ、然ラバハ何ガ故ニ此ノ株式ガ下落シタノデアルカ、日本ノ財界ハ決シテ惡クナツタノデアリナイ、併シ是ハ「アメリカ」カラ見ルトドウカ、日本ノ經濟ハ全部ノ資本ヲ株式ニ依ツテ立ツテ居ルモノデアリマシ、併シシナガラ「アメリカ」ノ經濟ハ資本主義萬能デアリマシカラ、殆ド大部分ヲ株式ニ依存シテ居ル、仍テ株式ト云フモノハ財界ノ「パロメーター」デアル、此ノ事實ヲ見マシルト云フト、日本ノ財界ハ非常ニモウ消耗シ盡シタト思ハレルチヤナイカ、是ニ於テ日本ヲ過小ニ評價セラレル原因モ起ツテ來ルト思ハレルノデアリマシカラ、是ハ相當事重大デアリマシガ、此ノ下落スルコト云フコトハ、決シテ實體ハ惡クナツテ居ルノデアリナイ、私ハ財界ニ不安ノ空氣ヲ漂ハシテ居ルト云フコトガ重大ナル原因デアルト思フノデアリマシ、又一ツハ近頃大藏當局ハ銀行ノ合同ヲ盛ンニ德憑セラレ、一縣一行主義ト云フ妙ナ主義ヲ以テ之ヲ強制セラルヤウデアリマシ、併シナガラ是ハ當局デハ御氣付キニナリマシ、併シナガラ是ハ皆銀行ノ重役ハ體裁ヤ、面目モアリマシカラ、合同ニナルト云フト、内幕ガスツカリ分リマシカラ、急イテ合同ノ實現スル前ニ整理ヲシヨウト云フ譯デ株式ヲドシ、賣出シテ來ル、一方ニ挺入會社ヲ作ツテ維持シヨウトシテモ、斯ウ云フ方面カラドシ、

第一類第一號 豫算委員會議錄 第七回 昭和十六年一月二十八日

一四五

其ノ點ニ付テハ相當大臣ハ御考慮ニナ
ル必要ガアルト思フデアリマス、又其ノ
主タル原因ヲナシテ居ル財界ノ不安ト云フ
コトニ付テハ、企業院總裁カラ御答辯ヲ得
タイノデアリマスガ、企業院總裁ニ大イニ
御考ヘテ願ハナケレバナラヌコトデハナイ
カト私ハ思フ、此ノ二點ヲ御質問申上テガ
イ

○河田國務大臣 堤君御話ノ中、銀行合同
ニ關スル方針ヲ御答ヘ申上テマス、銀行ノ
合同ト云フコトハ廣ク信用ヲ増ス爲メ、今
日本ノ銀行ノ數ハ多イト思ヒマスカラ、
成ベク合同ヲサセル方針ヲ執ツテ居ルコト
ハ事實デアリマス、併シナガラ政府ハ決シ
テ之ヲ強制スル考ヘハ持ツテ居リマセス、
今堤君ノ御話ニ依リマス、頻リニ之ヲ惹
惹スルト云フ御話デアリマスケレドモ、政
府ノ考ヘハ出來ルダケ其ノ地方ノ實情ニ即
シテ合同ヲ爲サシムル方針ヲ執ツテ居ル
デアリマス、又今仰セニナリマシタ事實ガ
果シテアルトスレバ、是ハ政府ノ本意デハ
ナイ、斯ウ云フヤウニ御承知ヲ願ヒタイ、
幸ヒ銀行合同ノ政府ノ趣旨ガ徹底シテ、實
質的ニ合同スル銀行ガ殖エテ居リマス、
從來ハ小銀行デアリマシタガ、今日デハ自
治的ニ相當地方經濟的ニ有力ナ銀行ガ合同
ニ向ツテ參ツタト云フコトハ好イ徵候ト見
テ居リマス、併シ線返シ申上テマスガ、
決シテ政府ハ一應ノ行主義ト云フヤウナ主
義ヲ執ツテアルコトハ一切致シテ居リマセ
ス、縣ノ地方狀態ニ依ツテ一行デ足りナイ
所ハ二行三行ト、其ノ經濟狀態ノ實情ニ副
フヤウニ合同ヲ獎メテ行キタイト考ヘテ居
リマス

○星野國務大臣 只今堤君ノ御質問ノヤウ
ニ多少財界ノ萎靡不安ノ爲ニ株式其ノ他ノ
下落ガアルト云フコトハ甚ダ遺憾デアリマ
ス、此ノ點ニ付テ色々ノ原因モアルト思
ヒマスガ、或ハ財界ガ新體制其ノ他ニ多少
不安ガアツタト云フコトモ事實ヲラウト思
ヒマス、要スルニ政府ノ眞意ト致シマシテ
ハ、先般來總理大臣ノ仰セラレタヤウニ、
斯クノ如キ時勢ニ於キマシテハ、唯統制、
監督、官民協働ヲケデハ到底乘リ切ツテ行
クコトガ出來マセヌカラ、眞ニ官民ガ協力
スルト云フ其ノ點ニ付テハ出來得ル限り、
御話ノアリマシタ通り、民間ノ經濟團體ヲ
督促致シマシテ、其ノ實際效力ヲ發揮スル
ヤウニ致シマシテ、成ベク民間企業ヲ強化
スル、斯ウ云フコトヲ考ヘテ左様ナ趣旨デ
ハ、漸次瞭解ヲ得マシテ、今日ニ於キマシ
テハサウ云フヤウナ色々ナ點モ未嘗シテ來
タト存スルノデアリマス、尙ホ今後ニ於キ
マシテモソレ等ノ點ニ付テハ十分努メマシ
テ、官民一致シテ今日ノ難局ヲ乗り切ル爲メ、
又出來得ル限り、殊ニ民間ノ新體制ノ本當
ニ眼目トシテ居リマス民間企業ノ活力、又
ハ意氣込テ云フモノヲ萬全ニ達セシメルヤ
ウニ努メタイト考ヘルノデアリマス

○堤委員 日本ノ財界ハ左様ナ不堅實ナモ
ノデハナイ、將政權ト職ヲ交ヘテカラ足掛
五年ニナリマススケレドモ、尙ホ綿々トシテ
除格アルニ拘ラズ、斯ノ如ク株式ノ大暴落
ヲ來シテ居ル、社會不安ヲ來シテ居ル、
斯ウ云フコトハ餘程政府當局モ御考ヘニナ
ル必要ガアルト思フデアリマス、會テ經
濟新體制ノ出來ル時ニ、資本ト經營ノ分離
ト云フ言葉ガ非常ナ衝擊ヲ與ヘタノデアリ
マス、併シ資本ト經營ト勞動者ト云フモノ

テ、條文ノ冒頭ニ指導ノ觀念ヲ掲ゲテ立法例
ト云フモノハ殆ドナイノデアリマス、是ハ
私ハ非常ナ誤解ヲ招クコトデアリト思フ
デアリマス、大體原料ガ配給ニナリ、値段
ガ決メラレテ居ル、其ノ間ニ於テ自分ノ創
意ヲ十分ニ働カシテ眞實ニ經營ヲシテ利益
ヲ上ゲルト云フコトハ、是ハ國家トシテハ
歡迎スベキコトデアアル、其ノ範圍ニ於テ、
シドシ創意ヲ働カシテヤツテ與レト云フ
コトニ動メルコトガ、産業指導者ノ考ヘル
ベキコトデアリマシテ、公益優先ト云フヤ
ウナコトハ、是ハ教育トシテ言フコトハ宜
シイ、併シナガラ今日マデ總テ公益優先デ
アル、何モ今ニ始マツタコトデハナイ、聖德太
子ノ十七條憲法ニモ背私向公ト言ツテ、私
ニ背イテ公ニ向ケルト云フコトヲ千三百年
前ニ日本デモ言ツテ居ル、サウ云フヤウニ、
公益優先ハ「ナチス」ガ初メテ言出シタモノデ
ハナイ、日本ニハ日本獨特ノ行キ方ガアル
私ハ此ノ經理統制令ト云フモノノ條文ガ非
常ナ不安ヲ財界ニ與ヘテ居ルト思フノデア
リマスガ、大藏大臣ハ如何御考ヘデアリマ
スカ、此ノ條文ハ不備デアルト吾々ハ見ル
ノデアリマス、之ニ依ルト如何ニモ實業人
ガ努力ヲシテ利益ヲ上ゲルト云フコトハ、
國家目的ニ非常ニ反スルヤウナコトニナル、
例ヘバ公定値段ガ百圓デアツテモ、之ヲ九十
圓ニ賣ルト云フコトガ低物價政策ニ寄與ス
ル所以デアアル、ソレヲ九十圓賣ラナイデ
公定價格ノ百圓賣ツテ利益ヲ上ゲテ行ク
ト云フコトハ、國家目的達成ニナラヌト云
フヤウナコトヲ考ヘル、是ニ於テ企業心ヲ
萎靡セシメテ居ルヤウニ考ヘルガ如何デス
カ

第二條デアルト思ヒマスガ、國民經濟ニ課
セラレタル責任ヲ分擔スルコトヲ以テ經營
ノ本義トオスト云フコトハ、何カ利益ヲ上
ゲルコトハイケナイノデアルト云フ風ニ響
クノデ、非常ニ財界ヲシテ萎縮セシメテ居
ルト云フ話デアリマスガ、併シ企業ノ本體
致シマシテ利益ヲ上ゲルト認メナイト
云フ趣旨デハ少シモナイノデアリマス、其
ノ條文ノ第四號ニモ利益分配ヲ適正ナラシ
ムル云々ト云フコトヲ申シテ居リマス、
デ、利益分配ト云フコトヲ申上テハ、企
業ハ利益ヲ上ゲルト前提トシテ居ルト
云フコトハ是亦明瞭ト思ヒマス、堤君ノ
御意見デ第二條ハ不備デアルト云フ御批評
デゴザイマススケレドモ、私共ノ考ヘル所デ
ハ此ノ經營ノ本義トナスト云ツタ所デ、決
シテ之ヲ以テ企業心ノ一部分タル利益ヲ追
求スルト云フコトヲ萎縮セシメル程ノモノ
デハナイト思フテ居ルノデアリマス、併シナ
ガラ若シサウ云フ解釋ヲセラレル向キガゴ
ザイマスナラバ、只今此處デ私ガ申上テマ
シタコトヲ以テ此ノ第二條ノ解釋ヲ明カニ
シテ、安心シテ明利イ氣持デ企業心ヲ振起
スルト申シマスガ、企業心ヲ起サレント
ヲ希望致シマス

○堤委員 産業ニ從事スル者ハ一々細則ナ
新體制ノ内容等ニ付テ研究スルモノデハナ
イ、先ツ條文ノ第一條ニ其ノ法律ノ主眼ト
スル點ハドウ云フ所カト云フヤウナコトヲ
見ルノガ普通ノ例デアリマスカラ、今日マ
デハ「オーソドックス」ノ經濟ノ根本觀念ニ
於テハ利益ヲ上ゲルト云フコトガ自然公益
ニ一致スルノダト云フコトニ説イテ來テ居
リマシタガ、是ハ間違ツテ居ルト思フ、ヤ
ハリ公益ト云フモノノ範圍内ニ於テ利益ヲ

ルノデアリマスカラ、是ハドウシテモサウ
云フコトノナイヤウニ、日本ハ赤化スル
云フコトニハ決シテ行クモノデハナイト云
フコトニ付テ、十分内務當局ノ御決心ヲ私
ハ伺ヒタイノデアリマス、平沼内相ニ
對シテハ社會デハ非常ナ期待ヲ持ツテ居
ル、穩健着實ナ考ヘヲ持チ、赤化防止ト
云フ點ニ付テハ非常ナ關心ヲ持ツテ居ラ
ル、又部下ニモ俊英ヲ整ヘテ遺憾ナキ態
度ヲ執ツテ居ラレルト云フコトニ、國民ハ
非常ナ安心ヲ持ツテ居ルノデアリマス、ド
ウカ全産業人ヲ安心セシメテ、朗ラカニ此
ノ國策ニ協力セシムルト云フコトニシナケ
レバナラナイト思フノデアリマスガ、平沼
内務大臣ハ如何ニ御考ヘニナリマスカ
○平沼國務大臣 只今堤君カラノ御尋ネ
アリマスガ、元來世界何レニ參ツテモ同様
カト思ヒマスケレドモ、色々共產主義ノ潛
行ノ運動ガ存在シテ居リマス、ソコ我
國ニ於キマシテハ、是等ノ對シテ先ヅ是
ガ教化方面カラ思想ヲ善導スルト云フコト
ヲ、第一義ト考ヘテ居リマス、併シ一面ニ
於テハ、警察力ヲ以テ之ニ彈壓ヲ加ヘルト
云フコトモ必要デアリマシテ、兩方面ニ於
キマシテ、細心ノ注意ヲ以テ施設ヲ致シ、
又各方面ニ互リマシテ、之ニ對スル對策ハ
十分ニ講ジテ居ルデアリマス

ノ何百万貫モアル石ヲ引張ツテ來タト云
フ、其ノ引張ルセテヤリ方ト云フモノハ、
私ハ今ノ日本ノ國情ニ當テマルベキモノデ
アラウト思フ、アレハドウシテアノ大キナ
石ヲ、數千萬ノ人間ニ協力サシテ引張ラセ
タカト云フト、アノ石ノ上ニ屋臺ヲ掛ケテ
サウシテ其處ニ節節白ク歌ヲ歌ハセ踊リテ
踊ラセテ、ソレヲ見ルコトニ依ツテ一ツノ
興味ヲ持ツシテ、知ラズ識ラズノ間ニ引張
ラセテ行ツタ、其ノコト云フモノハ私ハ
政治ノ局ニ當ル者ノ味フベキコトデアアルト
思フ、然レ今ノヤリ方ハドウカト云フト、
其ノ上ニ三味線ヲ持ツテ行ケバ五百隻目方
ガ重クナルカライケナイ、其ノ上ニ人間ガ
一人乘レバ十三貫目方多クナルカライケ
ナイト云フテ、サウ云フモノヲ全部下シテ
シマツテ、唯經濟警察ガ公益優先デ進メ
ト云フ號令ヲ掛ケルケレバ、全國民ノ協力
ヲ心カラサス譯ニハ行カス、十分ニ仰ラカ
ニ國民ヲ一致協力セシムルト云フコトニ、
思ヒテ致シレシコトヲ望ムノデアリマス、
私ハ近頃橋本所ノ革新ト云フモノガ、
一ツノ流行ヲナシテ居ルト思フ、予供ノ遊
戲ニマデ之ヲ用ヒテ居ル、積木細工ヲシテ
ソレヲブチ壊スノヲ、之ヲ革新遊戯ト云ツ
テ子供ガヤツテ居ル(笑聲)左様ナコトニナツ
テハ、是非ニ大キナ弊害ヲ齎ラスコトニ
ナル、積木細工ヲ壊スドコロデハナイ、ウ
ツカリスルト其ノ突語メタ所ハ國家ヲ破壊
スルヤウナコトニナルノデアリマスカラ、
サウ云フ風ニナラナイヤウニ十分ニ政府常
局ハ御考ヘテ致サレマシテ、政府モ國民モ
共ニ打ツテ一丸トナツテ、此ノ困難ヲ突破
スルト云フコトニ努力シテ行キタイ、私ハ
決シテ日本ノ前途ハ悲觀シナイ、陛下ノ

御後成ノ下、我が帝國ノ前途ハ非常ニ私ハ
樂觀シテ居ルノデアリマス、國難ガ來ル毎
ニ興隆スルノガ我が日本帝國デアリマスカ
ラ、ドウカ政府ハ國民ト協働力ノ下ニ、此
ノ目的ヲ達スルヤウ努力セラレンコトヲ望
ムノデアリマス、私ハ時間ガ參リマシタカ
ラ是デ質疑ヲ終リマス

スガ、農業ニ關シテハ別途ニ考ヘルト云フ
コトデアリマシテ、マダ之ニ對スル御發表
ガナイノデアリマス、農村ニ於キマシテハ、
此ノ農業新體制ニ對シテ色々不安ナ感じ
ヲ抱イテ居ルノデアリマス、色々ナ流言蜚
語ガアリマシテ、例ヘバ明治維新ハ封祿ノ
奉還デアツタガ、昭和維新ハ土地ノ奉還デ
アルト云フヤウナコトヤ、色々ナ浮説ガア
リマシテ、農村ニ不安ノ氣分ヲ與ヘテ居ル
ト思フノデアリマス、私ハ農業新體制ト申
シマスガ、再編成ト申シマスガ、斷ジテ左
様ナ激進ナ變化ヲ農村ニ與ヘルモノデ
ハナイ、左様ナモノデアツテハナラナイト
信ジテ居ルノデアリマスガ、其ノ點ニ付キ
マシテハ尚ホ後デ御伺ヒ致ストシマシテ、
ソレニ關聯シテノ御尋ネヲ此ノ際致シタイ
ノデアリマス、農業新體制ニ關聯スル質問ト
シテ第一ニ御伺ヒ致シタイコトハ、農業ノ
新體制ハ農村ノ新體制ト不可分ノ關係ニア
ルト信ジテ居ルノデアリマス、農村ヲ此ノ
儘ノ姿ニシテ置イテ、サウシテソレト關聯
ナシニ農業ノ再編成ヲ考ヘルト云フコトハ
出來ナイコトダト私ハ思フノデアリマス、
要スルニ此ノ農村問題ニ關シテハ内務
省ト農林省トガ緊密ニ連絡ヲ保チ、協力シ
テヤツテ參リマシテ、サウシテ立派ナ農村
ヲ作り、サウシテ農業ノ再編成ヲスル、斯
ウ云フコトデア行クノデナラナイコトダト
編成ト云フヤウナコトモ覺束ナイコトダト
思フノデアリマス、農村問題ニ關シマシテ、
トモスレバ内務省ト農林省トガ權限爭ヒガ
アルト云フヤウナコトモ傳ヘラレルノデア
リマス、少クモ私共ハ町村自治ト農業團體
トノ職務權限等ニ關シマシテ、農林省ト内
務省トガ其ノ所見ヲ異ニスルト云フヤウナ

コトガアツテハナラナイト思フノデアリマ
ス、其ノ建前カラ私ハ先ヅ第一ニ内務大臣
ニ御尋ネ致シタイノデアリマス、昨年ノ豫
算委員會ニ於キマシテ、當時ノ兒玉内務大臣
ハ私ノ質問ニ對シテ次ノヤウナ御答辯ガア
ツタノデアリマス、町村ハ自治行政事務ニ
專念シ、産業ニ關シテハ産業團體ガ之ニ當
リ、兩者ハ不離ノ關係ニ立ツテ、町村團體
ハ町村ヲ中心トシ、町村ハ各團體ノ連絡ヲ
圖リ、世話ヲ燒イテ行クト云フコトデア
ルノガ宜シト思フト云フヤウナ意味ノ御答
辯ガアツタノデアリマス、一部デ唱ヘラレ
テ居リマス各産業團體ノ事務ヲ町村行政事
務ノ中ニ全部包攝シテシマツタ方宜イト
云フヤウナコトヲ唱ヘル人モアルノデアリ
マスガ、此ノ兒玉内務大臣ノ御答辯ハサ
ウ云フ行キ方デハナク、各産業團體ハ各
其ノ擔當スル事務ニ精勵サセル、サウ云フ
コトニシテ町村長ハ町村自治ト各産業團體
トノ連絡調整ヲ圖ツテ行ク、サウ云フ風ニ
行クノガ宜シイ、斯様ナ考ヘ方デアツタト
思フノデアリマスガ、平沼内務大臣ハ此ノ
點ニ對シテドウヤウナ御所見ヲ御持チデア
リマスガ、御伺ヒ致シタイノデアリマス、此
ノ際一緒ニ私ハ農林大臣ニモ御伺ヒ致シタ
イノデアリマス、町村ニハ各産業團體ガア
リマスガ、ソレ等ノ産業團體ハ部分的ノ團
體デアリマシテ、町村ガ綜合團體デアルト
云フコトニ付テハ、是ハ何人モ異議ノナイ
コトダト思フノデアリマス、又今日ノ制度
ノ上カラ考ヘマシテモ、又地方ノ實際カラ
見マシテモ、町村ニ於キマシテハ町村長
ガ優越ノ立場ニアル、町村長ガ中心ノ存
在デアアルト云フコトモ肯定サレナケレ
バナラナイコトダト思フノデアリマス、

町村ニ於キマシテ町村ノ自治ト各團體トガ
バラ／＼ニナリ、何等ノ連絡ガナク、或ハ
對立ヲ來スト云フヤウナコトハ許サレナイ
コトデアリマシテ、此ノ町村自治ト各團體
トガ緊密ナル連絡ヲ保チ、一體ノ綜合活
動ヲスルト云フコトニ付キマシテハ、私ハ
町村長ガ中心ニナツテ其ノ肝煎リヲスル、
斯ウ云フコトデアナケレバ出來ナイコトダト
思フノデアリマスガ、此ノ町村長ノ立場ニ
對シマシテ、農林大臣ハドウヤウナ御考ヘ
テ御持チデアリマスガ、農林大臣カラ御伺
ヒ致シタイノデアリマス

○石黒國務大臣 町村ニ於ケル産業團體ハ
部分的ノ團體デアツテ、町村ガ綜合團體デ
アルト云フコトニ付テドウ思フト云フ御質
問デアリマスガ、産業團體ハ産業者ノ團體
デアリマシテ、町村ノ住民ハ必ズシモ其ノ
各種ノ團體ノ團體員タル者バカリデハナ
イ、色々ナ種類ノ人居ル、町村内ノ住民
全體ヲ總括シテ團體デアル、是ガ地方行政
團體ノ最下部ノ基礎ヲナスモノデアアル、斯
ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス、其ノ意味ニ於
テ綜合團體ト云フコトガ出來ヨウ、斯ウ考
ヘテ居リマス

次ニ町村ニ於テ町村長ハ各種産業團體ノ
連絡調整ヲ圖ツテ之ヲ轉旋世話スルト云
フ役ヲヤルベキモノデアアル、町村ニ於ケル
優越セル存在デアアルト云フ風ニ思フガ、ソ
レニ對スル考ヘハドウカ、斯ウ云フ御尋ネ
デアリマスガ、御見解ノ通りデアリマス

○平沼國務大臣 内務大臣ニ對スル御尋ネ
ハ町村長ガ之ニ當ルノデアリマス、併シハ
ハ町村長ガ之ニ當ルノデアリマス、併シハ
ガラ住民ノ經濟上ノ生活、是ト密接ナル關
係ヲ持ツテ居リマスノデ、其ノ方面ニ付キ
マシテハ最も町村行政ト云フモノガ關心ヲ
持タナケレバナラナスト云フコトハ是ハ明カ
デアリマス、併シナガラ町村ガ一切ノ經濟
活動ニ付キマシテ是ガ實行ニ當ルト云フコ
トハ中々難カシイコトデアリマシテ、各種
ノ産業團體ト云フモノガ出來マスルコト
モ當然ノ歸結デアリマス、併シ前ニ申上ゲ
マスル通り、町村ト云フモノハ經濟ノ實生
活ト離シテ其ノ行政ハ存在スベキモノデハ
アリマセズ、是等ノ間ニ於キマシテ十分ナ
ル連絡ヲ取ルト云フコトモ最も大切ナコト
デアアルト思ヒマス、況ヤ其ノ間ニ反目ノ生
ズルト云フコトハ是ハアルマジキコトデア
リマシテ、是等ノ點ニ付キマシテハ、内務
行政ノ方面ヨリ十分注意ヲ加ヘテ參ル積リ
デアリマス

ニ於テ適當ニテラセルヤウニシテ宜カラ
 ウト云フ御示シテアリマスガ、是モ或ル程
 度適當ト考ヘマス、併シ補助金ト云フモ
 ノハ、政府ガ協賛ヲ得テ之ヲ確定ヲ致シテ、
 サウシテ府縣及ビ當業者ニ與ヘルト云フ目
 的思、受ケル方ノ意思トガ往々ニシテ
 違フコトガアル、目的通りニ行カナイ場合
 ガアル、サウ云フヤウナコトカラ圖ト致シ
 マシテソレノ目的ヲ明カニシテ渡シマ
 シテモ、其ノ弊ハアルノデス、況ヤ一括致
 シテ之ヲ地方ニ渡ス場合ニ於テ、其ノ弊ガ
 ヨリ多クアリサウニアルト云フコトハ、御
 想像ガ付カウト思ヒマス、ソレ等ノ點ヲ十
 分ニ注意ヲ致シマシテ、適當ナル程度ニ於
 テ御意旨ヲ參照致シマシテ參リタイ、斯ウ
 考ヘテ居リマス

食糧政策ノコトニ關シテ内外地一環ノ
 ヤリ方ヲヤウテ行クヤウニ、出來ルナラ
 バ滿洲ヲモ入レ、東亞全體ノ食糧ノ生産、
 配給、消費ト云フコトヲ引括メテ一貫シ
 テヤウテ行クヤウナ制度ニ付テ、農林大
 臣トシテハ餘リ多ク言ヘマイガ、國務大
 臣トシテドウ云フ見解ヲ持ツテ居ルカ、
 斯ウ云フ御意旨、御希望ノヤウナコトハ極
 メテ望マシイコトト考ヘマス、制度ノ樹立
 ニハ現制度ノ改正ト云フコトガ格別マツテ來
 ルコトト思フ、ソコニ非常困難ガアルト
 思ヒマスガ、御意旨ハ私ハ洵ニ結構ナコト
 ヲ、斯ウ考ヘルノデアリマス、實行ハ中々
 困難ダト思フ(笑聲)出來ルダケ困難ヲ避ケ
 テ速カニ實現ヲスルヤウニ參ルノニハ、内
 閣等ニ於テヤハリ適當ナル連絡ヲ緊密ニシテ
 ヤウテ行クト云フコトガ落子デアラウト考
 ヘマス(笑聲)

御舉ゲニナツテ、現米穀管理制度ノ不完全
 ナ所ヲ御指摘ニ相成リマシタ、洵ニサウ云
 フコトガアリマセウト存ジマス、是等ハ是
 非何トカ直サナケレバナラヌト思フマシタ
 マス、昨年十一月ヨリ實施ヲ致シマシタ
 コトデアリマシテ、洵ニ日ガ淺イデアリ
 マス、又之ニ對シマシテ特ニ大キナ機關ヲ
 備ヘテ準備ヲ總テ整ヘタ上デヤリ始メタコ
 トデモゴザイマセウ、色々不便、不滿、
 不自由ガ生産者、配給者、消費者各方面ニ
 アルコトハ相濟マヌコトデアリマスガ、是
 ハ過渡的ナコトトシテ、成ベク寛容ナル眼
 ヲ以テ御協力ヲ願フヤウニ御願ヒ致シタイ
 ト考ヘマス、殊ニ府縣内ニ於キマスル配給統
 制ニ關シマシテハ、大體ニ於テ府縣知事ニ
 任セル、縣外ノ國內ノ府縣間ノ配給統制ニ
 關シテ政府ガ指揮ヲスル、斯ウ云フコトニ
 大體ノ方針ヲ致シテ居リマス、各府縣知事
 モ府縣内ノ配給統制ヲ出來ルダケ良クヤラ
 ウト云フ誠意ハ十分ニ持ツテ居ルノデアリ
 マス、唯申上ゲタヤウニ十一月以來ノ制度
 デアリマスル爲ニ、甚ダ行届カヌコトガア
 ラウト存ジマスガ、是モ一ツ御協力ヲ以テ
 漸次改善ヲ致シテ行クト云フ風ニ願ヒタイ
 ト考ヘマス

ソレカラ米作者、地主等ノ各個人ニ付テ
 自家保有米ヲ決定シテ、アトヲ管理米ニ供
 出セシムルト云フヤウナコトガ非常ニイカ
 ス、又村内ニ於ケル販賣ト云フモノヲ、モ
 ウ少シ簡易ニシナケレバ、不便デアルバカ
 リデナク、自然供出米ノ手控ヘト云フコト
 ニナル、出荷ノ割當、保有米ノ割當等ハ町
 村單位ニ致シテ、出荷ノ割當ハ成ベク從來
 ヲリモ強ク、保有米ノ割當ハ成ベク少クト
 云フ風ニヤウテ行クコトガ宜カラウト云フ

御指摘デアリマス、非常ニ有力ナル御指摘
 ヲ得マシテ十分ニ參照シテ參リタイト考
 ヘマスガ、唯段々ト消費ノ規正ヲヤウテ參
 時ニ當リマシテ、米作者及ビ米作地ノ地
 主、現ニ米ヲ以テ小作料ヲ收納シテ居ル
 云フモノニ對シマシテハ、其ノ持ツテ居リ
 スル米ヲ供出シテ賣ヒマスルノデアリ
 スルカ、ソコハ餘程苦心ガ要ル所デアリ
 マス、サウカト云フツ、ルーズニ致シテ參
 マシタナラバ、消費地ト云フモノハ全部米
 ガ來ナイヤウナ計算ニナルノデアリマス、ソ
 コガ今回ノ管理米制度實行ノ當初ニ當リマ
 シテ、非常ニ苦心ヲ致シマシテ、地方長官
 トモ數日相談ヲ致シテ決定致シマシタ所デ
 アリマスルノデ、是ハヤハリ大體ニ於テ個
 人ニ付テ詳シク調べマシテ、サウシテ決メ
 ルト云フコトニ致サストイカスカト考ヘマ
 ス、併シ御意見ハ十分ニ尊重致シテ能ク考
 ヘマス、出荷獎勵金ヲ自家消費保有米ニ對
 シテ認ムルト云フコトハ宜カラウト云フ
 御話デアリマス、今ヤ我ガ農村ニ於キマシ
 テハ、米價高カラズ、低イト云フ聲モ一方
 ニアルニ拘ラズ、多數ノ町村ニ於キマシテ
 政府ノ買上米ニ應ジテ、豫期以上ノ政府米
 ヲ準備スルコトガ出來ツアルト云フコト
 ハ感謝ニ堪ヘナイノデアリマス、而シテ尙
 ホ進んで、賣ラウト云フ所モアルノデアリ
 マス、又地方ニ依リマシテハ只今御指摘ノ
 米作農家ノ自家保有米ノ中ヲ割イテ尙ホ出
 サウト云フノデ、農民ガ進んで此ノ時局下
 ノ情勢ニ對シテ犧牲的ナ協力ヲシヨウト云フ
 ヤウナ意氣ヲ示シテ居ル地方モアルノデアリ
 マス、私ハ此ノ際ニ方ツテサウ云フ運動ガ
 農村ノ中カラ起ツテ來ツアルト云フコト
 ヲ非常ニ有難ク考ヘテ居ルノデアリマス、

是等ノ消費保有米ニ對シマシテ農家方進
 デ出シテ與レルヤウナ方面ニ、先程御話ノ
 アリマシタ地主ノ協力ト云フヤウナコトガ
 大イニ與ツテ力ノアル方面デアハナカラウカ
 ト考ヘテ居リマス、是等ハ農會、産業組合
 等ニ對シマシテ十分ニ聲援ヲシテ貰ツテ、出
 シテ賣フヤウニシテ貰ヒタイ、斯ウ考ヘテ
 居リマス、ソレニ對シマシテ出荷獎勵金ヲ
 特ニ政府ガ出スト云フコトハ只今ハ考ヘテ
 居リマセウ

見テ研究ガアルノデアリマスガ、ソレニ依
 リマス十分ニ自足自給得ルノデアリマ
 ス、米バカリデ以テ食糧ノ問題ヲ考ヘルト
 云フコトノ當ラ得テ居ナイコトハ全ク御同
 感デアリマス、唯問題ハ何ト申シマシテモ
 我ガ國民ノ米ニ對シマスル愛着ト云フモノ
 ハ極メテ異常ナモノガアルノデアリマシテ、
 隨テ人心ノ安定ト云フコトノ爲ニハ一番結
 構ナ食物デアアル、此ノ米ニ非常ナ重キヲ置
 カレト云フノハ已ムラ得ナイコトダト思
 フ、慎行ト申シマスカ國民性ト申シマスカ、
 サウ云フモノヲ漸次ニ啓蒙致シマシテ、國
 内所産ノ食糧給源ニ依ツテ立派ニ自足シ得
 ルノダト云フ境地ニ導イテ行クコトハ、是
 非シナケレバナラヌコトデアリマスケレド
 モ、ソレハ一朝一夕ニシテ行ケルモノデハ
 ナイ、ソコデ目下ノ時局ノ状況カラ照シマ
 シテモ相當ノ米ヲ外國カラ輸入シテ行クコ
 トハ已ムラ得ヌコトト考ヘテ居ルノデアリ
 マス、而モソレヲ成ベク繰越シテ貯蓄ニ向
 ヒ、將來相當大キナ貯蓄ヲ再ビ我國ガ持チ
 得ルヤウニ、否以前ヨリモ餘計ノ貯蓄ヲ内
 外地、滿洲ニ互ツテ持チ得ルヤウニ致シタ
 イト云フコトハ、現内閣トシテハ遠イ計畫
 ノ中ニチヤント入レテ置キマスケレドモ、
 本年輸入スル米ガサウ云フ方ニ廻ツテ行ク
 ト云フヤウナ譯ニハ中々イカスト思ヒマス、
 正直ナ所、本年輸入スルモノハ恐ラク本年
 中ニ消費シナクチヤナラヌ、斯ウ考ヘテ居
 リマス、サウスト來年モ再來年モ、來年
 毛來年モ外米依存ト云フコトニナルチヤ
 ナイカ、斯ウ云フコトニナルノデアリマスル
 ガ、ソレヲ成ベク早イ機會ニ於テ切リ上ゲ
 ルヤウニ致シ、今ノ御意旨ノ凡ニル農産物
 水産物ヲ、擧ゲテ成ベク國內デ食糧自給ノ

途ヲ確立スル、斯ウ云フコトニ本年ヨリ力
 ヲ入レテ努力メテ行カナケレバナラヌト考ヘ
 テ居ルノデアリマス、榮養食ノ配給制度ニ
 付テモツト考慮シテ宜イチヤナイカ、是
 モ御意見ヲ十分ニ參照シテ參リタイ、農産
 物増産ノミナラズ、總テノ産業功勞者ニ對
 シテ彼動其ノ他ノ表彰ノ方法ヲ考ヘルコト
 ガ必要デアナイカ、洵ニ御同感デアリマス、
 是等ニ付キマシテハ今日マデ途ハ開ケテ居
 ルノデアリマスルガ、尙ホ將來ニ於キマシ
 テ十分ニ此ノ點ニ付テモ注意ヲ致シ、考慮
 ヲ致シテ參リタイト考ヘテ居リマス

題スルモノデアリマシテ、内容ハ一口ニ申
 上ゲマスト、南方諸地域ニ對スル其範圍確
 立ハ從來主トシテ經濟的意義ニ重キヲ置カ
 レタヤウデアアルガ、一億ヲ越セル住民ガ、
 之ヲ支配スル歐米ノ帝國主義的勢力トシテ
 考ヘル時ハ唯經濟的問題ノミニ停滯スルコ
 トヲ許サナイデアラウ、サウ云フ御意旨デ
 アリマス、私モ全ク同感デアリマス、之ニ
 付キマシテ拓務大臣ノ具體的ノ南方政策
 ヲ承ルコトガ出來レバ幸ヒデアルト思ヒマ
 ス、殊ニ目下非常ナル朝野トモ監視的ニ
 ナツテ居リマス所ノ蘭領、インド、此ノ蘭領
 「インド」ニ對スル政策ヲ主トシテ聽キタイノ
 デアリマス、申スマデモナク蘭領、インドノ
 占メテ居リマス所ノ地位ト、又其ノ豐饒ナル
 地味、及ビ其ノ地下ニ埋藏シテ居リマスル
 重要ナル各種ノ資源、農産物、漁業等ノ豐
 富ナルコトハ言フマデモアリマセウ、試ミ
 ニ礦物資源ヲ見ルナラバ石油ハ一九三八年
 ノ調査ニ依リマスト八百三十一萬、銅
 ハ世界第二ノ産額デアリマス、其ノ他石炭、
 金、銅、タングステン、「マンガン」、
 「ボーキサイト」、斯ウ云フヤウナ礦物資源ガ
 アリマス、又農産物トシテハ、米ハ年々二回
 若シタハ三回モ收穫ガ出來ル、其ノ他砂糖
 トカ、ゴム、トカ、「コーヒー」、トカ、茶、煙草、
 「キニーネ」、椰子、果物、斯ウ云フヤウナ豐富
 ナル農産物ガアリマスルシ、漁業ト致シマ
 シテモ、ヤリ方ニ依リマスト、相當ナル收穫ガ
 アルノデアリマシテ、全ク世界ノ寶庫ト云ツテ
 モ差支ハゴザイマセウ、而シテ此ノ日本ト
 蘭印トノ貿易關係ヲ見マスト、昭和十四年
 ニハ日本ノ蘭印ニ對スル輸出ガ七千二百萬
 「ギルダー」デアリマシテ、日本ニ對スル輸
 入ガ二千萬「ギルダー」、然ルニ昨年ハソレ

ガ増加致シマシテ、輸出ガ八千五百萬「ギ
 ルダー」、輸入ガ二千五百萬「ギルダー」、
 結局六千萬「ギルダー」ノ輸出超過ニナツテ
 外貨ノ獲得ニナツテ居ルノデアリマス、是
 モヤリ方ニ依リマシテ、マダ澤山ナ増額
 ヲ見ルコトガ出來ルト考ヘルノデアリマス、
 而シテ此ノ蘭印ニ於ケル所ノ人口ノ如キモ、
 「ジャワ」ハ餘程稠密デアリマスケレドモ、「キ
 ロ」平方デ三百六十八人、所ガ「セレベス」ハ二
 十二人、「ボルネオ」ハ四人、「ニューギネア」
 ハ二人、斯ウ云フ風ナ非常ニ人口稀薄ナ土
 地デアアル、而シテ土地ハ全ク肥沃ナ土地デ
 アリマシテ、水利ノ便モアルシ、之ヲ開墾
 シテ水田トスル場合ニ於キマシテハ、「スマ
 トラ」ダケデモ殆ド日本ノ倍ニ達スルト思フ、
 又礦物資源ニ於テモドウ云フ狀況カト申シ
 マスト、「スマトラ」ノ野村「ゴム」國ニ於キ
 マシテハ、石油ガ湧出シテ居ル、斯様ナ狀
 態デアリマスカラ、若シモ日本人ノ入國制
 限ヲ撤廢スルトカ、或ハ資源開發ノ權利ヲ
 獲得スルトカ云フコトニナリマシレバ、世
 界ノ寶庫ハ我が日本ノ手ニ依ツテ開發ガ出
 來得ルト思フノデアリマス、斯様ナ狀態デ
 アルト云フコトハ、拓務大臣ハ能ク御承知デ
 アリマセウガ、此ノ南方ニ對シテ拓務大臣
 ト致シマシテハ、ドウ云フヤウナ政策ヲ持
 ツテ居ルノデアリマスカ、先ツ其ノ點ヲ拓
 務大臣ニ御聽キシタイノデアリマス

○秋田國務大臣 平川君ハ主トシテ蘭印ニ
 付テ御述ベニナリマシタガ、蘭印其ノ他南
 方諸地域ニ互リマシテ、帝國ガ如何ナル政
 策ヲ持ツテ居ルカト云フ御味ネデアリマシ
 タガ、實ハ之ニ對シテ只今ノ場合具體的ニ
 御答ヘ申上ゲマスルコトハ、種々ナル事情
 ノ下ニ甚ダ困難ヲ感ズルノデゴザイマス、

唯抽象的ニハス様ナコトヲ申上ルコトガ出来ルト存ジマス、即チ東亞共榮國ノ確立、是ガ我ガ國ニテアリマスノノ、之ニ...

カ、私ハ之ニ對シテ大ナル期待ヲ掛ケテ居ルノデアリマス、此ノ外交交渉ノ内容ニ至リマシテハ、固ヨリ秘密ノ事柄デゴザイマ...

タ各種ノ工業、即チ「マイニング」其ノ他商工業、凡ニル産業ノ全般ニ互リマシテ、經濟...

マス、昨日三宅サンハ質問ノ中ニ此ノ度ノ議會ニ於テ本會議ニ於テ質問一切シナイ...

害無益ナモノデアリ、議會ニ議員俱樂部ト云フモノガアリマスカラ、此ノ議員俱樂部...

會議ニ於テモ質問ニナツタ點デアリマス、ガ、大政翼賛會ハ治安警察法ノ取締ヲ受ケ...

ハ斷ジテイケナイト思フデアリマス、治安警察法ハ何等ノ例外ヲ認メテ居リマセ...

スルノデハゴザイマセヌ、只今ノ内務大臣ノ御答辯ヲ信賴致シマス、サウ致シマス...

○近衛國務大臣 翼賛會ハ其ノ性質ニ鑑ミマシテ、議員候補ノ公認ナドハ絕對ニ致シ...

○平沼國務大臣 御答ヘ致シマス、大政翼賛會ハ自己ノ政見ヲ立テテ、之ニ依ツテ活...

○平沼國務大臣 御答ヘ致シマス、大政翼賛會ハ自己ノ政見ヲ立テテ、之ニ依ツテ活...

○平沼國務大臣 御答ヘ致シマス、大政翼賛會ハ自己ノ政見ヲ立テテ、之ニ依ツテ活...

トカ此ノ私立學校ヲ優遇スル方法及ビ其ノ
教員ニ對スル待遇ノ方法ヲ文部大臣ハ御考
ヘニナツテ居リマセシカ、ソレヲ先づ御伺
ヒ致シマス

○橋田國務大臣 只今ノ平川君ノ御質問ニ
御答ヘ致シマス、中等學校入學ト云フ問題
ヲ解決スル爲ニハ、學校増設ト云フコトガ、
最モ適切ナル方法デハナイカト云フ御意見
ハ、全ク御同感デゴザイマシテ、切々其ノ
方面ニ向ツテ努力シテ居ル次第アリマス、
併シナガラ仰セテ、現下ノ狀況ニ於キ
マシテハ、經費、資材其ノ他ノ關係カラ、
十分ニ思フ通りノ増設ヲ致スコトガ出来
マセヌノデ、依然トシテ中等學校入學ト云フ
コトニ困難ノアル事柄ハ、甚ダ遺憾ニ存ジ
テ居ルノデアリマシテ、適當ニ成ベク入學
ヲ緩和スルヤウニ努力シテ居ル次第デゴ
ザイマス、其ノ點ニ付キマシテ、私立學校ヲ建
テテソレニ代ルベキモノトシテラドウカト
云フコトモ、是モ私同感デゴザイマシテ、實際
ニ官立學校ト對等ナ地位ニ置ケルヤウナ、
或ハソレマデデナクモ、十分ニ代用スル
コトノ出来ルヤウナ私立學校ヲ、澤山ニ配
置スルコトニ依リマシテ、中等學校入學ノ困
難ヲ緩和スルコトニ致シマスレバ、是亦甚
ダ喜バシイコトト存ズルノデゴザイマス、
ソレニ付キマシテ必要ナコトハ、仰セテ通
リ良教員ヲ如何ニシテ得ルカト云フコトニ
アルノデゴザイマスガ、此ノ私立學校ノ補
助、助成、教員ノ待遇ト云フコトハ、當
中學タケノ問題デゴザイマセヌノデ、全般
ニ互ツテ多年問題ニナツテ居リマス同時
ニ、今後此ノ點ニ付テ、適切ナル方策ヲ
考究中デアリ、又一部分ハ殆ド具體的ナ案
ヲ見ツツアルモノモ、中ニハアルノデゴザ

イマシテ、近キ將來ニ於キマシテハ、私立
學校ニ付テモ、十分ニ助成ヲスルト同時ニ
監督モ十分ニシテ、教員ノ立派ナモノガ私
立學校ニモ得ラレルヤウナ事態ニ持來シタ
イト考ヘテ居リマス

○平川委員 更ニモウ一點文部大臣ニ御伺
ヒシタイノデアリマス、昨年十二月ト思ヒ
マシマスガ、文部省カラ各實業學校ニ對シマシ
テ、實業學校卒業生ニシテ上級學校ニ進學
スル者ヲ、約一割以内ニ止メヨト云フ訓令
ヲ御出シニナツタコトガアリマスカドウカ、
之ヲ承リタイト思ヒマス

○橋田國務大臣 御答ヘ致シマス、其ノ通
リ一應訓令ヲ發シマシタ、併シナガラ色々
實情ニ鑑ミマシテ、突如トシテ一割以内ニ制
限スルト云フコトハ、他トノ權衡ニ於テモ
甚ダ遺憾ナキ點ガアルヤウニ考ヘマシタ
ノデ、先づ見當ヲ一割トハ致シマシタケレ
ドモ、十分ニ彈力性ノアルヤウニ取扱ヒ出
來ルヤウ、又指令ヲ發シタヤウナ次第デゴ
ザイマス

○平川委員 私ハドウモ文部省ノヤリ方ガ
甚ダ輕率デアルト思フノデアリマス、實業
學校卒業生ニシテ上級學校ニ進學シテ居リ
マス者ガ、一體何割アリマセウカ、私ハ能
ク統計ヲ知りマセヌ、文部省ニ其ノ統計ヲ
出シテ貰ヒタイト云フコトヲ、此ノ間申シ
テ置キマシタガ、マダ出マセヌカ、私ハ考
ヘデハ、官立學校ノ實業學校デサハ、上級
學校ニ進シテ行ク者ハ、約一割内外デアラ
ウト思フノデアリマス、私立學校デハ殆ド
ナイト言ツテモ宜イ位デアリマス、併シ、事
實ニ於テハアリマセヌガ、實業學校並ニ私立
學校デモ、文部大臣ノ認可ヲ受ケマシタル
中等學校ハ、中等學校トシテ資格ガアルノダ

ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、入
學スル生徒ハ、實業學校ニ入り、私立學校
ニ入ツテ、サウシテ卒業シタ場合ニハ、中
學校ト同ジヤウニ上級學校ニ進シテ行カレ
ルノダト云フ希望ガアル、其ノ希望ガアル
爲ニ實業學校、私立學校ニ入學スル者ガ相
當アルノデアリマス、若シ此ノ希望ガナク
ナツタ場合ニ於キマシテハ、實業學校、私
立學校ニ入學スル者ハ、餘程減少スルト云
フコトハ明瞭ナコトデアアル、現實ニ入學ハ
シナクテモ、サウ云フ希望、サウ云フ資格
ヲ與ヘテ置クト云フコトハ、最モ必要ナコ
トデアラウト思フノデアリマス、サウシテ
既ニ規則ニ於テモ、私立學校モ文部大臣ノ
認可ヲ受ケテ私立中等學校ハ、官立ノ中等
學校ト同一資格ガアルト云フコトガ規定
シテアル、此ノ規定ガアルノニ拘ラズ、文
部大臣ガ勝手ニ、一割以上ハ進學ハ出來ナ
イト云フ訓令ヲ出シタト云フコトハ、一體
適法デアリマスカドウカ、私ハ、一面ニサ
ウ云フ上級學校ニハ進シテ行カレルノダ
中學卒業生ト同一資格ヲ與ヘテヤルノダ
ト云フ規定ヲ置キナガラ、一面ニ於テ文部
大臣ガ之ヲ勝手ニ一ツツ訓令ヲ以テ制限ス
ルト云フコトハ出來ナイト思ヒマス、出來
ナイノミナラズ、弊害ガ非常ニアル、現ニ
是ハ神奈川縣ノ新聞ニアツタコトデアリマ
スガ、斯ウ云フ第四小學校デハ、本年卒業
奈川縣生徒約二百名ノ中、中學校入學希望者
ガ十九名、實踐高等女學校ガ十一名、縣立
高等女學校ガ八名、工業學校ガ僅カニ一
名、商業學校ガ僅カニ二名デアリマス、サウ
シテ現ニ平塚市ニアリマス縣立ノ農業學校ニ
ハ希望者ガ一人モナイ、ソレカラヤハリ平塚市

ラ、其ノ儘ニシテ置ケバ宜イデハナイカト
云フ御示シデアリマシタガ、是モ御話ノ點
御尤モ點モアリマスノデ、モウ既ニ其ノ
上級學校ニ上ル方デ整理サセヨウト云フコ
トヲ數年來試ミタノデゴザイマス、ケレド
モ、ソレガ十分ニ思フヤウニ參ラナイデ、
段々ト上級學校ニ志願スル言ツテ志願ス
ル者ガ殖エテ來ル傾向ニナツテ來テ居リマ
ス、而モ其ノ上級學校ニ志願スルト云フ傾
向ニハ、此處デ公表スルコトヲ一寸差控
ヘタイ事情デアリマスケレドモ、甚ダ思
ハシクナイ事情ニ依リマシテ、上級學校ヘ
進學セセタイト云フ希望ノ者ガ段々増加
シテ來ル傾向モ見エタノデアリマス、全然
増加セセタイト云フ譯デハナイノデアリマ
シテ、之ニ對シマシテ、從來ノモノヲ減
シタト云フコトニハ決シテナラナイト思
フノデアリマス、唯其ノ間ニ生徒、學校當局
ト、或ハ文部省カラ指圖ヲシマシタコトノ
間ニ十分ニ理解ガ付カナイガ爲ニ、是ハモウ
上級學校ニ來セセテハ駄目ダト云フヤウナ
氣分ガ助成サレタリ、考ヘ誤ラレタル點ガ
二三アルヤウニ聞及ンデ居ルノデアリマス
ガ、其ノ點ハ係リノ者、或ハ學校ノ校長ナ
ドカラ十分ニ父兄ト懇談ヲシ、父兄ニ於テ
モ亦刻下斯ノ如ク實業方面ニ人ヲ要求シテ
居ルノデアルカラ、上級學校ニ入ル、入ラ
ナイト云フコトデナク、實業學校ニ就學ヲ
サセル者ヲ、適當ニ學校ノ校長ノ進學指導
ニ俟ツテ進メテ貰ヒタイト云フヤウナ事柄
ヲ理解シテ貰フヤウニ、十分努メテ居ルノ
デゴザイマス

○平川委員 說明ハ要領ヲ得マセヌカラ、
何レ分科會デ質問致シマス、其ノ次ニ文部
大臣ニモウ一點承リタイノハ、海外ニ於ケル

ノ第一等高等小學校デハ、卒業生五百名
デ、中學校ニ志願スル者ガ二百六十名、實業
學校ハ一名モナイ、是ハナゼカト申シマス、
斯ウ云フコトガ新聞ニ出テシマツタ、實業學
校、私立學校ハ一割以上ハ上級學校ニ入學
出來ナイノダト云フコトガ新聞ニ出マシタ
ト云フノデ、平塚市ダケデモ、斯ウ云フ風ナ
現象ヲ呈シテ居ルノデアリマス、斯ウ云フコ
トニナリマス、折角一面ニハ實業學校、
私立學校ヲ獎勵シナケレバナラズ、中學校
ノ入學難ヲ緩和スルノニハ、此ノ私立學校ヲ
獎勵シナケレバナラズト云フ文部大臣ノ先
程ノ言明ハ、事實ニ於テ全ク裏切ラレテシ
マヒマシテ、私立學校、實業學校ハ殆ド全
減シナケレバナラズ、斯ウ云フコトハ一體
文部大臣トシテ、正當ト御考ヘニナルカド
ウカ、一面規則ノ上ニ於テ同一資格ガアル
ト云フコトヲ認定シナガラ、一面ニ於テハ
左様ナ一割以下ニ之ヲ減少セシメ、而モ私
立學校、實業學校ガ非常ニ衰頹スルヤウ
ナ政策ヲ御執リニナルコトハ、文部大臣ト
シテ果シテ如何ニ御考ヘデアリマスカ、之
ヲ伺ヒタイ

所ノ小學校教育ノ問題デアリマス、海外ニ
於テ在留邦人ガ一番困ツテ居リマスノハ、
此ノ小學校教育ノ點デアリマス、ソレハ一
ツハ多額ノ費用ヲ要スル、外務省カラ本年
モ百九十七萬圓ノ補助ハアリマスケレド
モ、此ノ補助位デハ居留民ガ非常ニ負擔ヲ
シナケレバナラナイ、是ガ一點、是ハ外務
省ノ問題デアリマスカラ、文部大臣ニ聽カ
ナクテモ宜シイ、一ツハ海外ノ小學校ニ於
キマシテ、其ノ卒業生ガ海外ニ中等學校ガ
アリマセヌカラ、ドウシテモ内地ニ歸ツテ
來テ中等學校ニ入ラナケレバナラナイ、其
ノ時ニ成績學力ノ程度ガ、海外ニ於ケル小
學校ノ卒業生ト、内地ニ於ケル小學校ノ卒
業生トハ餘程遠サウデアリマシテ、容易
ニ内地ノ中學校、高等女學校、サウ云フ
中等學校ニ入學ガ出來ナイ、ソレデアリマ
スカラ大抵常小學校ノ三年四年ニナリマ
スト、内地ニ歸サナケレバナラナイ、子供
ヲ一人内地ニ歸スニハ行カナイカラ母親
ガ附イテ歸ラナケレバナラズ、一家ハ離レ
離レニナラナケレバナラズ爲ニ、海外發展
ヲ阻害スルコト夥シイノデアリマス、之ニ
付キマシテ何トカ此ノ小學校ノ教育ノ方法
ヲ改善シテヤル御考ヘハアリマセヌカ、ド
ウモ小學校ノ教員ハ向フノ土地ニ長ク居リ
マスト内地ノ事情ガ分ラナクナツテ來ル、
是ハ私ノ考ヘデハ二年三年カ、文部省カラ
任命スルトカ云フヤウナ形式ヲ執リマシ
テ、サウシテ二三年毎ニ交替サセテ、新シ
イ知識ヲ持ツテ居ル人ヲ向フニヤル、斯ウ
云フコトニナリマシテ、向フノ海外ノ事情
ノ能ク分ツタ先生ガ内地ニ歸リマシテ海外
ノ事情ヲ教育スル、サウスト双方共非常
ニ好イ結果ヲ生ジハシナイカ、斯ウ云フ風

國カラ見マスト比較的小サイカモ知レマセヌガ、假令比較的小サイト致シマシテモ、今日此ノ場合ハ、ミソノ節約ノ出来ルモノヲ默ツテ見テ居ルト云フコトモ、此ノ場合御話ノ打ツテ一丸トナリ一團トナツテ行カナケレバナラヌ此ノ時勢ニ於テハ、戰時體制ヲ完成スル、戰時國防國家ノ體制ヲ完成スルト云フコトヲ、少シデモ完備ニセントスル上カラ見ルト考ヘナケレバナリマセヌ、斯ウ考ヘテ私ハ此ノ際ハ東京ヲ開港スルコトハ宜イノデハナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、併シナガラ私トシテハ、横濱ノ人ガ心配セラレル程ノコトハナイト思ヒマスガ、大層之ヲ心配シテ居ラレルコトモ是亦理由ガアルト思ヒマス、横濱市ノ人トシテハ、平川君ガ横濱市ノ方ト云フツテハ叱ラレルカモ知レマセヌガ、横濱市ハ六大都市ノ中デモ、氣ノ毒ナガラ例ノ震災以後、相當ニ苦シク居リマス、是ハ私共サニ認メテ居リマス、其ノ點ハ同情致シテ居リマス、隨テ此ノ問題ニ付テモ非常ナ杞憂——ト云ツテハ失禮カモ知レマセヌガ、非常ニ憂慮セラレルト云フ、其ノ心持ハ分リマス、デスカラ出来ルダケ共ノ點ヲ理解シテ載キマシテ、塵埃ガ起ラナイヤウニ善處シタイト、只管苦慮致シテ居ル次第デアリマス

○平川委員 サウスルト今ノ大蔵大臣ノ御説ハ、更ニ檢討シテ見ルト云フノデスカ、直チニ決定スルト云フノデスカ
○河田國務大臣 横濱市ノ反對セラレル方方ニ對シテ、十分理解シテ載キタイ、斯ウ思ツテ居リマス、其ノ道ヲ盡シタイ、斯ウ云フ譯デアリマス
○平川委員 アトハ外務大臣ニ對スル質問デアリマスガ、外務大臣ハオイデナリマ

セスカラ、之ヲ留保致シマシテ止メマス、明日ニ質問ヲ御許シ願ヒマス
○増田委員長 先刻政府ヨリ提出セラレマシタ第一號昭和十五年年度歳入歳出總豫算追加案及ビ特別會計歳入歳出豫算追加案、此ノ兩案ヲ只今査査中ノ諸案ニ併セテ議題ニ供シマス、先ツ政府ノ説明ヲ求メマス——大蔵大臣
○河田國務大臣 只今本委員會ノ議ニ上ボセラレマシタ昭和十五年年度歳入歳出總豫算追加第一號及ビ特別會計歳入歳出豫算追加第一號ノ二案ニ付キ御説明致シマス、昭和十五年年度歳入歳出總豫算追加第一號ニ計上致シマシタ歳入追加額ハ、千十餘万円デアリマシテ、其ノ財源ハ昭和十五年年度豫算ノ實行上ニ於ケル、歳出ノ節約ニ因リ生ジマス所ノ歳入超過額ノ中ヨリ、充當スル計畫デゴザイマス、歳入追加額ハ同ジ臨時部千十餘万円デアリマシテ、今其ノ主要ナル事項ヲ申上ゲレバ、外務省所管ニ屬スル日獨伊混合專門委員會ニ要スル經費十餘万円、農林省所管ニ屬スル農産資源開發ニ關スル經費ノ増加ニ二百四十餘万円、重要農産物増産ノ爲ニスル耕地事業助成ニ要スル經費ノ増加ニ二百二十餘万円、九州地方其ノ他風水害復舊施設ニ要スル經費、百九十餘万円等デゴザイマス、右申上ゲマシタ中、日獨伊混合專門委員會ニ要スル經費ハ日本國、ドイツ國及ビイタリア國間三國條約第四條ニ依リ混合專門委員會ニ要スル經費デアリマス、又農産資源開發ニ關スル經費ノ増加ハ、現下ニ於ケル食糧及ビ被服原料ノ供給事情ニ鑑ミマシテ、各地方ニ於ケル桑園ノ一部ヲ整理致シ、食糧農産物及ビ麻類ノ増殖ヲ圖ラントスルモノデゴザ

イマス
主要食糧農産物増産ノ爲ニスル耕地事業助成ニ要スル經費ノ増加ト申シマス所ノハ、米穀ノ増産ヲ目的トシテ、桑園開田又ハ其ノ他ノ水田造成、暗渠排水工事等ニ關スル事業ヲ助成促進セントスルモノデゴザイマス
又九州地方其ノ他風水害復舊施設ニ要スル經費ハ、昭和十五年ノ夏及ビ秋ニ於ケル暴風雨ニ依リ、九州地方其ノ他ニ於キマシタ耕地、林地等ニ甚大ナル被害ガゴザイマシタノデ、是ガ復舊ヲ圖ラントスルモノデゴザイマス
次ニ特別會計ノ分、昭和十五年年度特別會計歳入歳出豫算追加第一號ハ、公債金特別會計ノ追加豫算デゴザイマス、曩ニ本會議ニ提出致シマシタ臨時軍事費豫算追加第一號、先刻全會一致ヲ以テ本會議ニ於テ可決セラレマシタ十億圓ノ臨時軍事費豫算追加第一號ノ財源タル支那事變公債ノ發行ニ關スルモノデゴザイマス、何卒御審議ノ上速クニ御可決アラントラ希望致シマス
○増田委員長 是ヨリ質疑ヲ繼續致シマス——三善信房君
○三善委員 海軍大臣ガオ見ニエナツテ居リマセヌカラ、陸軍大臣ニ對シテ質問致シタイト思ヒマス、大東亞共榮圈ノ指導權ヲ確立スル上ニ於キマシテ、我が國ノ國防線ガ擴大セラレマシタコトハ、今更申スマデモナイコトデアリマス、一昨日デアツタトモヒマスガ、海軍大臣ハ當委員會ニ於キマシテ、米國ノ海軍大擴張ニ對シ、假令如何ナル場合ガ生ズルトモ、我が海軍ハ之ニ對スル用意ヲ準備トシテ居ル旨ヲ御言明ガアツタノデアリマシテ、吾々國民ハ海

見ルガ如キハ、是ハ陸軍ノ軍備ノ根本ニ變更ラサレル御意思デアアルノデアルカ、吾等ハ決シテ戰ヲ好ム者デアアリマセヌ、併シナガラ東洋ノ平和、世界人類ノ幸福ヲ増進スル爲ニハ、大東亞ノ建設ト云フモノヲドウシテモシナケレバナラヌ、此ノ大方針ヲ貫徹スル上ニ於キマシテハ、國防力ノ強化ト云フコトハ、一日モ忽セニスルコトハ出来ヌノデアリマス、私ハ國民ハ學ゲテ此ノ時期ニ於テハ、國防力ノ強化ト云フコトニ皆一致致シタル考ヘヲ持ツテ居ルモノデアルト思フノデアリマスガ故ニ、此ノ希望ノ下ニ陸軍ニ對シマシテ、御意見ヲ承ツテ見タイト思フノデアリマス

○東條國務大臣 御答ヘ致シマス、大東亞ノ建設ト云フ大キナ仕事ヲ實行シテ行クト云フコトハ、此ノ内閣ニ於キマシテモ政策ノ重要ナル基本トナツテ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ南方ノ諸施策ヲ、十分此ノ間ニ考ヘテ行クト云フ點ニ付キマシテモ、ソレニ合マレテ居ル所ノ問題デアリマスガ、軍備モ國防モ亦此ノ國策ニ副ヒマシテ、之ニ對應スル所ノ準備ニ付キマシテハ意リナク實行シ又計畫サレテ居リマス、併シ只今御話ノゴザイマシタ南方問題ヲ考ヘテ行ク上ニ於テ、北方ニ對シテ十分ナル備ヘガアリヤ否ヤト云フ點デアリマスガ、是ハ殊ニ陸軍ノ大陸ニ活動シテ居リマス陸軍省自體ノ國防カラ申シマシテモ、支那事變ヲ目下完成中デアリマスガ、此ノ支那事變ノ完成ト云フ點ニ付キマシテモ、北方ト云フコトハ當然ニ考ヘテ行カナケレバナラヌシ、殊ニ南方ニ進メバ進程北ノ備ヘト云フモノハ、ソコニ固キヲ要スルノデアリマス、譬ヘテ申シマスルナラバ一ツノ種ヲ取

ル、左足デ蹴ルト云フ場合ニ於テハ、右足ガシツカリシテ居ラナケレバ蹴ラレヌノデアリマス、其ノ右足ヲシツカリスルコトニ依ツテ、左足デ蹴ラシツカリ遠クハ蹴リ得ルノデアリマス、通俗ノ意味デアリマスガ、サウ云フ意味ニ於テ、北方ニ對スル措置ト云フモノハ、十分其ノ點ニ於テ考慮ヲ拂ツテ行カナケレバナラヌト云フ點ニ、國防ノ遠算ナキヲ期シテ居ル次第デアリマス、併シナガラ北方ノ備ヘト云フコトハ、我が日本ノ國防ヲ完成スル意味デゴザイマシテ、之ヲ以テ善隣友好ト云フ點ヲ阻得スル意味デハ毛頭ナイノデアリマス、即チ日本自體ノ國防ヲ完成スルト云フ意味ニ於テ申上ゲルノデアリマス、ソレカラ線延ベニ付キマシテハ御疑點ガゴザイマシタガ、是ハ色々ソコニ事情ガゴザイマシタガ、一應豫算トシテハ頂戴シテ居ル、ソレヲナゼ線延ベルカト云フ點デアリマスガ、是ハ歐洲戰爭ノ進展ニ伴ヒマシテ、特ニ近代戰ニ於ケル進歩ヲシマシタ各種ノ兵器資材ガ歐洲戰ニ展開セラレテ居リマシテ、將來ノ資材整備ニ付テ、ソコニ相當ナ支障ヲ與ヘテ居ルモノガアルノデアリマス、隨ヒマシテ是等頂戴シテ居ル所ノ豫算ノ線延ベト云フコトハ、其ノ必要カラ將來ノ時代ニ即スルヤウナ準備ヲ怠リナクヤルト云フコトガ必要デゴザイマシテ、サウ云フ意味ニ於キマシテ線延ベト云フコトガ、ソコニ考ヘラレタノデゴザイマス、其ノ點御承ニナツテ載キマス

○三善委員 東亞新秩序建設ニ對シマシテ、聊カタリトモ此ノ建設ニ妨害ヲ加ヘルモノニ對シマシテハ、斷乎之ヲ排撃セナケレバナラヌト思ヒマスガ、之ニハ海軍ニ於キマシテハ、既ニ南方ニ對シテノ萬全ノ方策ガ講セラレテアルト云フノヲ承知致シマシテ、洵ニ意ヲ強ウスル者デアリマス、然ルニ豫算ヲ見マスルト、臨時部ニ於テ二億三千七百二十八萬五千圓餘ノ追加額ナツテ居リマス、其ノ本年度ニ支出額ハ一億二千五百三十三萬八千圓餘ニナツテ居リマシテ、漸次昭和二十年マデニ追加額ナツテ居ルヤウデアリマスガ、是ハ海軍ノ基本計畫ヲ變更セラレル爲ニ追加額ナツタノデアルカ、或ハ他ニ別ノ意味ニ於テ、或ハ物價其ノ他ノ實情ニ依ツテ追加額ナツタノデアルカ、若シ是ガ基本ノ計畫變更ニ依ツテ追加額ナツタノデアルカトスレバ、是ハ將來ドウ云フ風ニ追加額ナツテ行クノデアルカ、其ノ點ヲ承ツテ見タイト思ヒマス

○及川國務大臣 計數ノ點ニ付キマシテ細カク御質問デゴザイマシタガ、只今政府委員カラ御説明申上ゲマス
○武井政府委員 仰セノ通り豫算ガ線延ベ致シマシタノハ、物價ノ騰貴其ノ他ノ原因ニ依リカ、或ハ計畫ノ變更ニ依リカト云フ御尋ネデアリマスガ、物價ノ關係ハ先日大蔵大臣ガ御述べニナツタ通りデアリマシテ、若千物價騰貴ニ依リテ増モゴザイマスガ、大部分ハ海軍ノ各種ノ施設ヲ増大スル爲ノ増加ト云フコトニ相成ツテ居リマス、其ノ内客ハ御手許ニ差上ゲテ居リマス豫定經費要請求書、海軍省所管豫算參考書等デ大體御分リト思ヒマスガ、尙ホ御求メガアリマスレバ更ニ申上ゲマス

○三善委員 私人内容ヲ細カニ承知シタイトハ思ヒマセヌ、唯海軍ノ基本計畫ガ之ニ依ツテ變更セラルベキモノデアルカ、從來ノ計畫ハ其ノ健行ツテ、ソレヲ補足セラレ

ル意味デアルカ、サウ云フ點ニ付テ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス
○武井政府委員 只今御協賛ヲ願ツテ居リマスル部分ハ、主ト致シマシテ在來ノ計畫ヲ増備シ、改善スル爲ノ經費デアリマス、若干計畫ノ變更ヲ來ス部分モゴザイマスガ、是ハ追ツテ追加額算トシテ御協賛ヲ願フ段取りニ相成ツテ居リマス

○三善委員 企業院總裁カ、又興亞院ノ方ニ御尋ネ致シタイト思ヒマスガ、帝國ノ不動ノ國策デアアル所ノ東亞新秩序ノ建設ノ爲ニハ、日滿支三國ハ經濟ノ綜合計畫ヲ實施スルコトガ、最も必要デアルト思ヒマスガ、我が日本ト滿洲ト支那トハ、三國共ニ農業ヲ基トシテ居ル所ノ農村本位ノ國デアリマス、而モ滿洲及ビ支那ハ其ノ國民ノ八割ガ農民デアリマシテ、此ノ農業國デアリマシテ、我々ハ其ノ食糧ハ第三國カラ仰イデ居ルト云フヤウナ次第デアリマス、我が國モ亦昨年第三國カラ食糧ヲ輸入シテ居ルト云フヤウナ次第デアリマスガ、此ノ三國間ノ食糧ノ安全ヲ圖ラント云フコトハ、將來三國ノ提携ヲナス上ニ於キマシテモ亦私共ガ食糧計畫ヲナス上ニ於キマシテモ、考ヘナケレバナラヌコトト思ヒマス、然ルニ三國共ニ今第三國カラ輸入ヲ仰イデ居ルヤウナ實情デアリマス、然ルニ其ノ土地ヲ見テ見マスト、滿洲ニ於テハ二百萬町歩ノ水田開墾可能ノ面積ガアリ、支那ハ幼稚ナ農業デ、之ニ技術ヲ加ヘサヘスレバ、相當ノ増産ハ可能デアリマス、然ルニ此ノ支那事變起ツテ以來、ヤハリ第三國カラ食糧ヲ輸入シテ居ルト云フヤウナ實情デハ、何時ニナツタナラバ此ノ三國ガ食糧ニ遺憾ノナイヤウニスルコトガ出来ルカ、吾々ハ洵ニ之ヲ心細

ラ之ガ利用出来ルカ、又開發ニ對シテ政府ハ如何ナル努力ヲシテ居ラレカ、斯ウ云フ點ニ付キマシテハ、或ハ企業院總裁、又興亞院ノ方カヲ御説明ヲ願ヒタイと思ヒマ

○宇佐美政府委員 只今ノ御質問ニ對シマシテ、興亞院ノ者ト致シマシテ、支那關係ニ付テ御答ヘテ申上ゲマス、御説ノ如ク支那ノ農産ニ依リマシテ、日滿支三國ノ食糧問題ノ解決ヲ圖ルコトハ最重要ナル問題ナリト云フハ、政府ニ於テキマシテモ此ノ目標ヲ達セラルルヤウニ努力致シテ居ル次第デゴザイマス、唯現在ニ於テキマシテハ支那ノ食糧生産ハ今尙ホ日本ニ食糧ヲ供給スルコト云フ程度マデハ參ツテ居ラナイデゴザイマス、大體ニ申シマス、マダ其處マデ參ツテ居ラマセヌ、是ハ事實ノ爲ニ狀態ガ變ツテ居ルコトガ大きナ原因デアラト思ヒマス、併シ治安ノ確立ト共ニ北支方面ニ於テキマシテハ、從來米ノ生産ガ殆ドナカクツテ居リマス、ドウシテモ北支ニ於テケル産米ノ増殖ト云フコトヲヤラナクハ、實ニ支那ノ食糧ニ對シテ、産米増殖計畫ヲ云フヤウナモノヲ立テマシテ、日支雙方ノ協力ニ依リマシテ、アノ方面ノ未墾地ノ開拓ト云フヤウナコトニ努力致シテ居リマス、又小麦等ニ付キマシテモ、同力致シテ居ル次第デアリマス、治安等ノ關係モアリマス、日本側モ支那側モ、ナイノデアリマス、日本側モ支那側モ、斯ウシテ問題ニ付キマシテハ、出来ルカケテ努力ヲ拂ツテ居ル次第デアリマス、

左様ナ譯テ、現在ノ所ニ於テキマシテハ、マダ日本ニ食糧ヲ供給スルコト云フ程度ニハ至ツテ居ラマセヌ、併シ例ヘバ昨年ノ如キ中支カラ幾分ノ米ガ内地ニ輸入サレタト云フ事實モゴザイマス、今後大ニ努力致シマシテ、サウ云フ方面ニ向ツテ行キタイト考ヘテ居ル次第デゴザイマス

次ニ支那ニ於テケル鑛業資源ノ問題デゴザイマス、是モ日本ニ取リマシテ最重要ナル關係ヲ持ツテ居リマス、此ノ爲ニハ既ニ幾多ノ施設ヲ致シマシテ、鑛業資源ノ開發ヲ圖ツテ居リマス、現ニ最モ日本ニ取リマシテ重要ナル石炭アルトカ、鐵鑛石ト云フモノハ相當ナ程度日本ニ供給サレテ居ルデアリマス、殊ニ石炭ノ如キハ、御承知ノ如ク日本ノ製鐵業ニ最モ必要ナル性質ノ石炭ガ多量ニ支那ニ於テ出ルコトハ、最モ力ヲ致シ、是ガ對日供給ト云フコトニハ、此ノ石炭ノ對日供給ト云フコトニ非常ニ骨ヲ折ツテ居ル次第デゴザイマス、其ノ數量等モ相當ニ上ツテ居ルコトデゴザイマス、又鐵鑛石方面カラ、鐵鑛石ガ日本ニ持ツテ來ラレテ居ツテハ、今日ノ情勢ト相成リマシテ、今後支那ノ鐵鑛石ノ利用スルコトガ一層重要ニナツテ參ツテ居リマス、政府ニ於テキマシテハ、特ニ明確ナル計畫ヲ立テマシテ、是ノ實行ニ着手致シマシテ、非常ニ努力ヲ致シテ居ル次第デアリマス、尙ホ石炭トカ、タングステントカ、矽石トカ、マンガントカ、雲母、石棉ト云ツテヤウナ、其ノ他色々ノ鑛物資源ガゴザイマス、是等ノ何レモ日本ニ取リマシテ重要ナル關係ニ

ゴザイマス、隨テ是等ノ開發ニ付キマシテハ從來同様ニ非常ニ骨ヲ折リマシテ、既ニ相當ノ成績ヲ擧ゲテ居ルデアリマシテ、尙ホ今日發見サレテ居ラナイ物ニ付キマシテモ今後調査ヲ致シマシテ、發見出来ル見込ノアルモノモゴザイマス、サウ云フモノニ付キマシテハ一層調査ヲ強化致シテ行ク考ヘテ居ル次第デゴザイマス

○東條國務大臣 滿洲ノ石炭ノ問題ニ一ト御觸レニナリマシタガ、ソレニ關聯致シマシテ鐵ノ問題ニ付テモ申上ゲマス、主要基礎産業デゴザイマス所ノ鐵、石炭、電力ニ付キマシテ主ニ申上ゲマス、鐵ニ付キマシテハ、鐵鑛ノ生産設備ハ、今日ニ於テキマシテハ、約二倍ニナツテ居リマス、又鐵鑛ノ對日供給料ハ、當時ニ比シマシテ約八割ヲ增加シテ居リマス、米國府鐵鑛ノ折柄、我ガ國鐵工業ニ寄與スルコト其大ナルモノデアラト思ヒマス、是ガケデモ此ノ滿洲國生産擴充ノ效果ヲ認メ得ルコト考ヘテ居リマス、但シ此ノ鐵鑛ノ生産ハ石炭不足ノ爲メ設備增加ニ伴ヒ約五割増ニ止ツテ居リマス、之ヲ數字ニ申シマスレバ、生産設備ノ點ニ付キマシテハ、此ノ席上ニ於テハ一寸差控ヘタイト考ヘマス、生産高ニ付テ申シマシテ、鐵鑛ノ生産高ハ昭和十二年度ニ比較シマシテ、昭和十五年度ハ約四割六分ノ増デアリマス、對日供給デゴザイマスガ、是ハ昭和十五年度ニ於テキマシテハ、昭和十二年度ニ比較致シマシテ七割八分ノ増ニナツテ居リマス、ソレカラ石炭デゴザイマスガ、石炭ノ生産モ亦飛躍ノ増加ヲ示シテ居ルデアリマシテ、即チ昭和十五年度ニ於テキマシテハ、昭和十二年度當時ノ生産ノ約五

割程度ノ増産ヲ見テ居リマス、石炭ノ對日供給ニ付キマシテハ、是ハ稍、減少シテ居リマスガ、滿洲國內ノ産業需要ニ充當セラレタ結果デゴザイマス、是等石炭、製鐵生産高ノ増加等ニ寄與セル事實等ヲ見マシテ、是等ハ間接ノ對日供給トモ見ルコトが出来ルデアリマス、生産高ニ付キマシテ之ヲ數字ニ申シマスレバ、昭和十五年度ニ於テキマシテハ、十二年度ニ比較致シマシテ四割七分ノ増デアリマス、對日供給ニ於テキマシテハ、遺憾ナガラ十五年度ハ十二年度ニ比シマシテ減退ヲ致シテ居リマス、之ヲ數字ニ申シマス、昭和十二年度ニ比シマシテハ、昭和十五年度ニ於テキマシテハ、四割五分ノ減ニナツテ居リマス、今度ハ電力設備ニ付キマシテモ、昭和十二年度當時ノ設備ニ對シマシテ、約八割ノ設備ヲ増加致シテ居リマス、昭和十二年度ニ比シマシテ、昭和十五年度ニ於テキマシテハ八割餘ノ増ニナツテ居リマス、右ノ基礎産業ノ外ニ鹽、硫安、コバルト、アルミニウム、鉛、亜鉛、人造石油等ノ増産ニ於テキマシテモ、著々相當ノ成果ヲ擧ゲツツアルノデアリマス、以上ヲ以テ御答ヘト致シマス

○三善委員 國民ハ支那ニ北支ニ於テキマシテ、鑛物資源ガ非常ニ多イト云フコトヲ承知シテ居リマス、ソレニ又最モ重要ナル所ノ石炭ト云フモノハ、相當供給ヲサレテハ居リマセウケレドモ、開發ノ如何ニ依リマシテハ、此ノ石炭ノ問題ヲ解決スルコトハ、マダ出来ルノデハナイカト思ヒマス、是レ以上ノ御努力ヲ希望致シテ置キマス

次ニ商工大臣ニ御尋ね致シマス、企業合

同ニ付テ御尋ね致シマスガ、是ハ既ニ各委員カラ質問ニナツテ居ラレマシテ、企業合同ハ餘リヤツテハイカナイト云フヤウナ御意見ト拜聴致シマシタノデ、改めて御問ヒスルコトモ如何カト思ヒマス、私ハ實際問題ニ付テ申上ゲテ見タイと思ヒマス、我ガ國ノ中小企業ト云フモノハ社會的經濟的事實ニ依ツテ發達シテ參ツテ居ルデアリマス、此ノ中小企業ト云フモノハ出來得ル限りノ活用シテ、事情巴ムヲ得スシテ整理スル場合ガアリマシテモ、徒ラ一劃一劃ニ之ヲ合同スルコトハ、最モ慎重シマナクハバナラナイと思ヒマス、産業ノ實情ニ應ジテ之ヲ行ツテ行クコト云フコトガ、最モ好マシイノデアリマス、動モスレバ統制ノ名ノ下ニ今マデノ歴史ヲ持チ、或ハ今マデノ經驗アル所ノ其ノ企業ヲ無理ニ合同サセル所ノ傾向ガアリマス、政府ハサウ云フ意向デナイト云フハ、實ニ遺憾ナリ、實際地方ニオイデニナツテ見レバ直グ分ル、警察官ハ警察力ヲ以テ、合同シナケレバ、ソリン、ハヤチ、スズト云フ、ソレデ餘價ナク合同シナケレバナラヌ、或ハ合同シナケレバ資材ハヤチ、スズト云フ、サウ云フコトデハ自己ノ仕事ガ出来ナイ爲ニ已ムヲ得ズ皆合同スル、ソレガ地方ノ實情デス、アナタハ中小企業ハ育テ行カナケレバナラヌト云フハ、實ニ遺憾ナリ、地方デハアナタノ意ノ通りニ行ハレテ居リマセヌ、ソレデ是ハ地方ニ對シテ徹底スルヤウニシテ行カナケレバナラヌト思ヒマス、ソコデ合同ニ依ツテ形式ダケハ整ヘマシテモ、實際ノ問題ニナリマス、生産ト云フモノハ個々ノ企業デ生レルノデアリマシテ、政府ニ於テ若シ此ノ仕事ヲ必要トスルコトガアツク

ナラバ、ソレヲ綜合的ニ計畫ヲ立テラレマシテ、其ノ計畫ノ下ニソレレム、使命ト責任トヲ持ツセルヤウニヤツテ行ク、其ノ與ヘラレタル範圍ニ於テハ、全ク自由ニ働ケルヤウニシテ方ガ宜イ、從來ノ經驗ト歴史トニ依ツテ能率ノ増進ヲナシテ、全體ノ能率ヲ擧ゲルコトガ大切デアリマス、決シテ獨占シテ行クコトハ、進歩デアリマセヌ、進歩ト云フモノハ、競争ノアル所ニ生レト私ハ思フデアリマス、徒ラナル協同トカ合同ト云フモノハ、ナスベキモノデハナイ、斯様ニ思ツテ居リマスガ、私ハ先般各地ヲ廻リマシタ時、機業ハ三百臺一ツニシナケレバ出来ヌ、地方ノ事情ヲ見マス、或ハ二百臺トカ三臺トカ五臺トカ持ツテ居ルガ、三百臺ヲ一精ニシナケレバ認メナイ、資材ヲ與ヘナイ、斯ウ云フ材料ヲ與ヘナイ爲メ泣ク、機業ノ合同シナケレバナラヌト云フヤウナコトニナルノデアリマス、一體我ガ國ハ非常ニ家内工業ノ發達シテアル所ガ我ガ國ノ工業ノ強イ所デス、其ノ家内工業ヲ無視シテ、三百臺ナケレバ出来ヌ、サウ云フコトハ、酷イデハナイカ、誰ガ言ツタカト云フ、商工省カラ來テサウ云フコトヲ指圖サレタト云フコトデアラ、アナタハ企業ノ合同ハシナイト仰シヤルケレドモ、實際ハサウ云フ實情デアリマス、ソレデ議場ニ於テサウ云フコトハ、言ハレヌデモ、是ハ本當ニ御考ヘ下サツテ中小工業ヲ活カシテ行クコトヲ御考ヘデアツタナラバ、地方ニ對シテハ徹底スルヤウニシテ貫ハナケレバナラヌ、又商工省ノ内部ニサウ云フ誤ツタ考ヘヲ持ツテ居ラナラバ、ソレヲ直シテ貫ハナケレバナラヌ、唯議場ノ答辯タケデハイケマセヌ、是ハドウシテモ一

ウソコニアナタガ十分監督ヲ嚴ニシテサウシテサウ云フ無理ナル合同ノアル事ヲナコトハ、慎ンデ貫ハナケレバナラヌト思ヒマスガ、之ニ對シテ商工大臣ノ御意見ヲ伺フト共ニ、又失業問題ニ付テ御伺ヒ致シマス、政府ハ屢、此ノ委員會ニ於テ、中小商業者ニ對シテハ成ルベク維持育成シテ失業ヲ生ゼナイヤウニスル、言葉ハ中々立派デス、然ルニ實際中小ノ商業者ガ失業ガナクシテ済ムカト云フ、我ガ國ノ中小ノ商業者ト云フモノハ、人口ニ比シテ多イト云フコトハ一般ニ言ハレテ居リマス、多イナラドレダケソレヲ減ナラ宜イカト云フコトハ考ヘナケレバナラヌ、其ノコトヲ考ヘラレシテ、唯維持育成シテ行ク、斯ウ云フコトガ、御濟マシニナルト云フコトハ、是ハ餘リニ不親切デアリマス、時局下ニ於テキマシテハ全ク必要トシナイ仕事モアリマセウ、又必要ダトシテモ資材ノ配給ガ出来ナイ爲ニ、已ムヲ得ズ事業ノ繼續ガ出来ナイヤウナモノモアリマス、ダカラ業種別ニ整理ノ根本方針ヲ立テラレルガ宜イ、サウ云フ大體ノ見透シヲ付ケテ、サウシテ親切ニ轉業ニ導イテ行クナラバ、國民ハソレニ躍イテ行キマス、ソレヲセズシテ唯維持育成シテ行クト云フ言葉タケデハ、此ノ中小商業者ハ自然没落シテ行クヨリ外ナイト思ヒマス、ソコデ商賣ガ苦シイカラト云フ、商工省ニ何トカ資材ヲ下サラヌカト云フテ行ク、ソナコトハ時局ヲ認識シナイ、滿洲ノ行クト云フ、ソレデハ本當ニ親切ナリ方デハナイト思ヒマス、今中小商業者ノ氣分ト云フモノハ、何時モハ失業スルダラウカ、之何時物品ガ買ヘヌヤウニナルダラウカ、之ヲ心配シテ居ル、ソコデ政府ハ中小商業者

ニ對シテ大體ノ見透シヲ付ケテ、專業ニ導イテ行ク所ノ根本方策ヲ定メラレナケレバ...

テシマヘバ、町ノ商人ハ漫レテシマヒマスト云フ、從來ノ配給機關ハ活カシテ行カ...

種別ニ依ツテハ事情ノ違フモノ、一ツノガ三百ノ機關ヲ維持シテレバ...

法ヲ皆ガ寄ツテ話合ツテヤルト云フヤウナ家族主義ノ長所ヲ各方面ニ發揮スル...

社方全面的ニ其ノ經營ヲ誤ツテ居ルト云フコトヲ言フコトニナレバ、敵國又ハ...

シタナラバ、先程數字のニ御説明申上ゲマシタ通りニ、相當ナル成績ヲ收メテ居ル...

ルヤウニ思フノデス、先程ノ内務大臣ノ御答辯デハ、大政翼賛會ハ單ナル結社デアル...

ヤラレタカラ、今後ハ取締ルモノト確信ヲ致シテ居ルノデアリマスガ、併シテ...

ラ、一ツ政府ニ於テ、ドノ業種ハドノ程度ノ人間デ宜イト云フヤウニ、一ツ業種ニ對スル見透シヲ付ケラレテ、指導的ニ轉業サセルヤウニサレタガ宜イト思フ、之ヲ何時マデモ維持育成シテ行クト云ハレテモ、到底出來スノデハナイカ、出來ナケレバ今ノ内ニ此ノ見透シヲ付ケテ、轉業ニ導イテ行クト云フ親切ナ親心ガ必要ダト思ヒマス、是ハ特ニ私カラ申上テテ置キマス

ソレカラ配給機構ノコトニ付テ申上ゲマス、近時物資ノ不足ヲ來シテ居リマスノデ、配給機構ノ整備ガ盛ンニ行ハレテ居ル、是ハ國策會議社デアリマスカ何カ知リマセスガ、配給會議社ト云フモノガ非常ニ澤山出來テ居リマス、而モ其ノ配給會議社ハ不足ナ物資ヲ萬遍ナク國內ニ配給スルニ付テハ必要デアリマセウケレドモ、物資ハ豊富デアル、或ハ原料モ資材モ豊富デアルニ拘ラズ、配給會議社ガ出來テ居ルノモアリマス、所ガ此ノ配給會議社ガ徒ラニ手數料ヲ取ル會議社ニナツテ居ル、何モシナイ會議社ガアツテ、此ノ會議社デ手數料ヲ取ツテ行クダケラコトデアリマス

斯様ナ會議社ノ機能デアツタラ洵ニ詰ラナイモノト私ハ考ヘル、サウ云フ會議社ガ洵ニ多イ、而モ其ノ會議社ガ或ハ地方カラ品物ヲ買ヒマス、六箇月モ金ヲヤラナイ、私ガ廣島縣ニ行キマシタ時、大蔵省七月ニ出シタケレドモ、十二月ノ今日マデ、代金ノ支拂ガナイト云フ所ガアリマシタ、今日大蔵省ノ生産擴充ニ付テ農林省豫算ヲ御組ミニナツテ居ルケレドモ、果シテ六箇月モ金ヲ拂ハヌヤウナコトデ生産擴充ガ出來マスカ、私ハ生産擴充ニ非常ニ憂慮スベキコトガ起ルト思ヒマス、是ハ商工大臣ノ所管ニ入ルカ或ハ他ノ大臣ノ所管ニ入ルカ分リマセス

ガ、少クモサウ云フ會議社ヲ監督スルニ付キマシテハ、遺憾ノナイヤウニシテ貰ハナケレバナラヌト思ヒマス、唯手數料ヲ取ツテ行クダケガ會議社ノ機能チヤナイ、會議社ヲ經營シテ行ケル方ガ大抵素人ノ方デ今マデ商賣ニハ不慣レノ方バカリデアル、ソレダカラ取引ニハ何等ノ經驗モナイノデ、サウ云フヤウナ手違ヒモ起ルト思ヒマス、此ノ點ハ特ニ監督ヲ嚴ニセラレテ、サウ云フ支拂ニ對シテ不都合ノナイヤウナコトニシテ貰ヒタイ、少クモ二箇月、三箇月ハ代金ノ支拂ガ遅レマス、甚ダシイノハ六箇月モ遅レルノガ、現ニアリマスカラ、御調べヲ願ヒマス、而モ手數料ノ二重取ヲシテ居ル所モアリマス、此ノ間地方カラ來テ其ノ點ヲ懸ヘマシタカラ、私ガ懸、會議社ニ言ツテ、ソノナコトガアリマシタカナアト云ツテ、會議社自身ガ果シテ居ルヤウナ状態デアリマシタ、サウ云フヤウニ手數料ノ二重取リモアル、サウ云フコトデハ増産計畫ハ出來マセス、是即チ中間搾取機關ダト思ヒマス、サウ云フ中間搾取ニ陥ラヌヤウニシテ貰ハナケレバナラヌト思ヒマス

次ニ配給機構ノコトニ付テ申上ゲテ見タイと思ヒマスガ、最近配給組合ト云フモノガ出來テ居リマス、一ツノ例ヲ申上ゲマスガ、米ノ配給組合デ三百八十名ノ米屋ガアツテ、米ノ配給ヲ作ツテ居ルケレドモ、其中ノ六十人ノ人間ガ商賣ヲヤツテ、アトノ二百四十人ノ商賣ヲシナイ、ソレデ一依ニ對シテ七十錢乃至七十五錢ノ手數料ヲ取リ、其ノ手數料カラ賣價ヲ差引キマシタケレリ、今マデノ販賣ノ實績ニ應ジテ分ケテ居リマス、ソレダカラ大抵商賣ハ出來スデ

モ、月五十圓カ七十圓ハ恩給ミタイニシテ貰ツテ居リマス、又驚イタコトニハゴム足袋ヲ貰ツテ居ル所ノ商人ガ聯合シテヤハリ一ツノ組合ヲ作ツタ、其ノ人ハ一箇月二千圓モ只貰ツテ居ル、今マデハ仕事ヲシテ居ツタケレドモ、廢メテシマツテ、番頭モ手傳ヒモ使ハズ、店ハ閉チテシマツテ、サウシテ商賣ヲ廢メテモ手數料ヲシテ毎月千圓、一年ニ一万二千圓ノ不勞所得ヲ取リ、恩給取ミタイニナツテ居ル、一體サウ云フコトガ長ク續イテ行ケルモノデセウカ、是ハ社會問題上重大ナコトダト思フ、是ハ根本的解決ヲサナナケレバ出來ナイト思ヒマスガ、之ニ對シテ一體商工大臣ハドウ云フ御考ヘヲ持ツテ居ルノカ、ソコデソレガ爲ニ消費費者ニ幾ラカ便利ニナツタコト云フ、消費費者ニハ是レ位不便ナコトハナイ、米屋ガ今マデオ得意サンニハ公道價格配給シテ呉レタガ、今同組合ガ出來ルト、一斗カ二斗買フ者ニハ配給スルガ、二斗、三斗買フ者ニハ配給シナイ、此ノ頃ハ何ヲ考ヘ出シタカ配給料ヲ取ル、隣リニ米ヲ持ツテ行クノニ配給料一石二圓ヲ取ツテ居リマス、先程農林大臣ハ米ハ値段段上ゲヌト云ハレタガ、消費者ニハ千ヤント二圓上ツテ居ル、隣リニ配給スルノニ、配給料ヲシテ一石二圓、一斗二錢取ツテ居リマス、消費者ハ是位不便ヲ感ズルコトハゴザイマセス、消費者ニ不便ヲ感ゼシメ、サウシテ今マデノ實績ガアルカラト云フコトデ、仕事ヲセズニ不勞所得トシテ五十圓、百圓、大ニシテ八千圓毎月收入ヲ得テ居ルト云フコトデハ、將來社會問題ガ起ルト思フ、是デハ決シテ今ノ組合ト云フモノハ健全ナル發達ヲシテ行クコトハ出來ヌト思ヒマス、之ニ對シ何カ商

工省デハ御考ヘニナツテ居ラレノデアルカ、果シテ此ノ儘ノ形デ行クノガ宜イカドウカ、之ヲ一ツ御聽キシタイト思ヒマス

○石黒國務大臣 原麻會社ノ監督ハ私ガヤウテ居リマスカラ、私カラ御答ヘ致シマス、アツタト云フコトハ、如何ヤウナ事情ガアリマスルカ、如何ヤウナ事情ガアツタニシテモ甚ダ當ヲ得テ居ナイコト存ジマスカラ、十分ニ調べマシテ、不都合ヲ正シタイト思ヒマス

米ノ配給ノ組合、是モ最近私ノ管轄ニ屬スルコトニナリマシタ、從來ノ方針ト致シマシテハ、商工省ト農林省ト事實上能ク連絡ヲ致シマシテ、斯クノ如ク經濟界ノ狀況ガ急變ヲ致シマシタニ對處シ、配給機構ノ改善ヲドウシタラ宜イカト云フコトハ、大體ニ於テ當業者ノ團體ニ於テ十分ニ相談ヲ致シテ、案ヲ立テサセルト云フ方針デアリマス、其ノ結果各地方ニ於キマシテ、地方廳ノ經濟部等ガ發達ヲ致シマシテ、同ジ配給業者ノ中ニ於キマシテモ、元ノ所謂卸賣商ト小賣商ト云フモノガ、動モスルト利害ノ關係ニ於テ對立ヲシ、争ツテ居ツタヤウナ人達デアリマスカラ、能ク其ノ間ヲ斡旋致シマシテ、同業者ノ組合ノ中ニ於テ整理ノ方法ヲ立テサセテデアリマス、其ノ多クガ米其ノ他ノ物資ノ配給ガ非常ニ變ツテ參リマシタノデ、ドウシテモ是ハ今マデト同ジヤウナ商業ヲヤツテ行ク譯ニ行カナイ、ソコデ營業所ヲ少ク致シ、營業ニ關係ヲ致シマス人数ヲ少クシテ行クコトガ、自然已ムヲ得ザル事情トシテ出テ參リマス、併シナガラ其ノ爲ニ今マデ商業ニ從

セラレヤウナ御説明ガアツタト思ヒマスガ、私ハ茲ニ例ヲ申上ゲテ置キマス、是ハ私ガ先般政府ニ申上ゲタコトデアリマスガ、生鮮魚介類ノ中、鹽漬ト鹽漬ト鹽漬ハ、是ハ農村デ缺クベカラザル大切ナル食料品デアリマス、其ノ鹽漬、鹽漬、鹽漬ハ農村ニハ一ツモ行カヌヤウニナリマシタ、是ハドウ云フ原因カト尋ネテ見マシタラ、鹽漬トウ云フ生鮮物ヨリモ安ク決マラレテアル、然ルニ鹽漬トシテ七割乃至八割其ノ目方ガ減リ、而モ鹽漬ヲ要シ、ソレニ加工費ガ加ハカ、誰モ鹽漬ニスル者ガナイ、隨テ田舎ニハ配給サレヌ、ソレデ私ハ其ノコトヲ言ヒマシタ所ガ、ソレナラバ改正シナケレバナラヌト云フノデ、丁度十二月改正サレタト思ヒマス、所ガ其ノ改正ノ値段段モ、鹽漬、鹽漬ト云フモノハ農村ニ行カナイ、ソレハ値段ノ決メ方ガ惡イカラデアリマス、百匁申シマス、生鮮物ト鹽漬トハ、鹽漬ハ二十五錢ガ三十三錢、鹽漬ハ七錢五匁ガ十錢、鹽漬ハ十三錢ガ十八錢決メ方ガマダ安イノデ、今尙ホ鹽漬、鹽漬、鹽漬ト云フモノガ農村ニ配給ガ思ハシクナイ、尙ホ運賃關係ヲ申シマス、鹽漬ト鹽漬ト云フモノトハ北海道デ獲レルガ、其ノ運賃ガ十匁目ニ對シテ一圓八十錢掛ル、所ガ其ノ運賃ヲ加算シテ居ナイカラ、是ハ九州方面ニハ一向行キマセス、此ノ鹽漬ト鹽漬ト農村デハ必要物資デアリマス、農村デ食料ニ供スル所ノ此ノ大切ナ魚介類ガナイト云フコトハ、農村ノ健康保全ノ上カラ考ヘテモ重大問題デアリマス、日本ノ農村ト云フモノハ、大抵鹽漬、乾物ヲ食ベテ居リマス、生鮮物ハ中々農村マデハ配給サレマセス、ソレガ農

村ニ缺乏スルナラバ、農村民ノ營養物ト云フモノハ中々口ニ入ラナイ、斯ウ云フコトニナリマスカラ、厚生大臣ハ今居ラレマセスガ、是ハ厚生大臣トシテモ、國民ノ健康ヲ増進スル上カラ考ヘテ、ドウシテモ此ノ問題ハ至急解決シテ貰ハナケレバナラヌト思フ(ヒヤ)議論ノ時期デハナイ、總テ實行ノ時代デアリマス、直チニ此ノ問題ハ解決シテ貰ハナケレバナラヌト思ヒマス、殊ニ臺灣、朝鮮、支那、滿洲等ハ價格ノ決メガナク、統制サレテ居ナイカラ、彼ノ地方ガ高イ、隨テ鹽漬、鹽漬、鹽漬ハ彼ノ地ニ行ツテシマツテ、内地ニ廻ラナイ、是モ一ツ政府ニ考ヘテ貰ハナケレバナラヌト思ヒマス、此ノ問題ニ對シテ運賃ト價格ハ斯ウ云フ關係ニナツテ居リマス、斯ウ云フ違ツタ公道ノ規格ガアリマスカラ、是ハ直チニ御直シニナラナケレバナラヌト云フコトヲ一例トシテ申上ゲマス、又運賃等モ早速御考ヘニナラナケレバナラヌト思ヒマス、先程私ガ言ヒマシタ商業者ノ問題ト今ノ物價ノ問題トト合ハセテ御答辯ヲ願ヒマス

○石黒國務大臣 商業者ノ問題ハ米商バカリデハナイト云フ御話デアリマシタガ、後ノ鹽魚ノ御話ガ私ノ管轄デアリマスカラ、依リマシテ、轉業ノ世話ヲスル爲ニ資金ノ融通ヲスルト云フコトガ更生金庫ヲ設ケマシテ直接ノ目的ナデアリマス、故ニ御指摘ノ通りニ働クノガ更生金庫ノ目的デアル、斯ウ申上ゲタイノデアリマス、私ノ關スル限リニ於キマシテハ、將來サウ云フ場合ニハ十分ニ更生金庫ヲ利用致シマシテ、懐手ヲシテ居テ「コミッション」ヲ取ルト云フヤウナ者ノナイヤウニ成ベク速力ニ整備ヲ

事シテ居ツタ者ガ、マルデ其ノ儘ニナツテシマフト云フコトガアツテハ、殘リ者ト去ル者トノ間ニ於テ、餘リニ違ヒガ出來テイカヌト云フヤウナコトカラ、多少、「トレ」ド・コンミツション」ミタイナ形ノモノガ、或ル時代ノ間殘ルコトハ致シ方ガナイコトデアルト云フ見解デ、サウ云フヤウナ仕組ヲ執リ、解決ヲ致シテ居ル所ガ多イノデアリマス、御話ノ通りニ斯ウ云フコトガ、消費者ノミノ方面カラ見マシタラバ宜シイカドウカト云フコトニ付テハ議論ノ餘地ガ十分ニアルト考ヘマスガ、此ノ急變ヲ致シマシタ經濟界ニ於キマシテ、成ベク適當ニ推移ヲ致シマス上ニ於キマシテハ、オ互ニ我慢ヲシナケレバナラヌ所ガアラウト思フノデアリマス、ソレ等ノ關係カラ致シマシテ、過渡的ノ状態トシテ、斯ウ云フヤウナ仕組ガ續キマスコトハ、是ハ最近ニ農林省ノ管轄ニ移リマシタ食糧品等ノ配給機構ノ改善ニ於キマシテモ、當分認メナケレバナラヌコト考ヘテ居リマス

○三善委員 是ハ獨リ農林省關係ノ米ダケデアアリマセスガ、米ヲ一ツノ例ニ採ツタノデアリマス、他ノ物品ニ對シテモ、先程私ガゴム足袋トカ其ノ他ニ對シテモ申上ゲタヤウニ、多クノ物品ニ行ハレテ居リマス、只今農林大臣ハ、是ハ過渡的デ、今日ニ於テハ已ムヲ得ナイト云ハレマシタガ、私モ或ハソレハ已ムヲ得ナイカモ知レヌト思ヒマスケレドモ、此ノ儘ニ何時マデ放任スベキモノカドウカ、實際五十圓カ七十圓貫ツテ居ル其ノ人自身ガ、何時マデ貰ヘルダラウカ、吾々ハ何處ヘ行クダラウカト云フノデ、全ク不安ニ思ツテ居リマス、ソレダカラ之ニ對シテハ、全ク根本的ナ解決ノ方法ガナ

ケレバナラヌト思ヒマス、ソコデ幸ニ大蔵省デ厚生金庫等ヲ御作りニナツタノデ、此ノ辭メタ人ニ對シテハ厚生金庫ノヤウナ方面カラ、或ハ其ノ他ノ方面カラモ、極ク低利ノ金ヲ貸ストカ、或ハ其ノ組合ニ資金ノ融通ヲナシテ、組合ノ方デ何カ轉業ヲサセルヤウニシテ行カナケレバ、是ハ此ノ儘デ不勞所得トシテ五十圓、百圓取ツテ行ツテ、唯不安状態ニ置クコトハ、決シテ行ツテ得タコトデアリナイト思ヒマス、是ガ此ノ儘デ行キマヌナラバ、社會問題トシテ非常ニ重大ナ問題ガ起ツテ來ルト思ヒマス、勿論今マデ仕事ヲシテ居ツタ人ガ直チニ仕事ヲ失フカラ、是ハ商賣ノ方デ暖簾代ト云ツテ居リマスガ、今マデ賣ツテ居ツタ人ガ他ノ商賣ニ轉ズルトカ何カシテ、ソレヲ他ノ者ニ譲ル場合ニハ、暖簾代トシテ幾ラカ貰ツテ居リマス、此點ハ組合ノ方デ何トカ考ヘテヤラナケレバナラヌ、ソレニハ政府ガ指導シテ、或ハ厚生金庫ナリ其ノ他ノ資金ノ融通ヲ與ヘテ、之ニ對シテ轉業ノ途ヲ講ジテヤルヤウニシナケレバ、此ノ儘デ續クモノデハナイト思ヒマスガ、致シ方ガナイトシテ措クノガ宜イノデアルカ、或ハ之ニ對シテ何等カ策ヲ講ズベキモノデアルカ、是ハ獨リ農林省ダケデアアリマセスガ、政府ノ所見ヲ伺ツテ見タイト思ヒマス

立ツタ序デアリマスカラ物價問題ニ付テ一寸申上ゲテ見マス、物價ノ公道ニ對シマシテハ、糞ニ商工大臣ハ、物價ハ釘付ニシテハ置カヌ、必要ニ應ジテ物價ハ訂正シテヤルト云ハレマシタ、尙ホ先日ノ森田君ノ質問ニ於キマシテ、森田君ハ運賃ヲ加算セナイカラ、品物ガ一般ニ流動シナイト云ハレマシタ、ソレニ對シテ、ヤハリ運賃ニ對シテモ考慮

シテ参リタイ、斯ウ考ヘテ居リマス。只今マデモ中ニハ御話ノ通りニ懐手ヲシテ配當受ケルト云フヤウナコトヲ肩シトシナイ人モアルシ、又サウカト云ツテ、工場労働者ニ轉業スルコト云フコトモ肩シトシナイ、小ナリト雖モ獨立ノ小賣商ヲヤウテ居ルノデアリマス、故ニ人ニ雇ハレテ働クノハ厭ダト云フヤウナ人モアツタノデアリマス、ソレ等ノ人ニ對シテハ歸農ヲ勸メル、歸農ヲシト言ツク所デ、故郷ニ歸ツテモ今入レラレベキ餘地ガアリマセ、故ニ滿洲ニ世話ヲ致シマシテ、視察等ノ費用ヲ補助シテ、拓務省ト緊密ナル連絡ヲ執リマシテ、アチラニ見ニヤツテ、其ノ爲ニ米商人ノ組合カラハ多數ノ滿洲開拓民ガ出ルヤウナ運送ガ出來テ居ルノデアリマス、サウ云フ世話ヲ私ノ關係スル限リニ於テハ御話ノヤウニ出來ルガ親切ニヤツテ参リタイト考ヘテ居リマス、魚ノ價格ノ決メ方、鹽物ノ價格ノ決メ方ニ付テ甚ダ不行届ノ點アリマシタコトノ御指摘デアリマスガ、早速十分ニ注意ヲ致シマシテ、農材ニソレ等モノガ参リヤウニ直シタイ、斯ウ考ヘテ居リマス、漁村ノ生産物デアリ、農村ノ必需品デアアルモノヲ農林大臣ガ一生懸命ニ改善スルコトハ、是ハ當然ノコトデアリマスカラ、十分ニ努メテ参リタイと思ヒマス。

○三善委員 是ハ唯御参考ニ申上ゲテ置キマスガ、農林大臣ニ關係致シマスルノデ、能ク御聽取リヲ願ヒタイ、甘藷ノ價格デゴザイマス、アルコルニニ供スル甘藷ノ價格ガ十五錢デアリマスガ、食用甘藷ハ三十五錢デアリマス、是ハ品質ハアルコルニ用ノト食用ノトハ別ニ餘リ違ヒマセマスガ、食用ニスルカラ三十五錢、無水アルコルニ使フテ居ルコトニナレバ千二百萬トシ、

減炭デアアル、戦前ノ通りノ一人當リノ出炭率ガアツタナラバ、千二百萬トシト云フ石炭ガ餘計出ル、其ノ出炭率低下ノ原因ハ何處ニアルカト云フコトヲ考ヘテ見ナケレバナラマセマスガ、是ハ勞務者ノ質ノ低下モ幾ラカアルト思ヒマス、勞務者ノ移動率ガ非常ニ多クナツタコトモ一ツノ原因ダト思ヒマス、又資金ガ餘リ高イ所ガアルノデ、入坑率ガ減ツタ、今マデ二十五日入ツタノガ二十日シカ入ラス、斯ウ云フコトモ原因スルト思ヒマス、斯様ニ出炭率ノ低下ニ對シマシテハ、幾多ノ原因ガアルト思ヒマスガ、政府ハ其ノ原因ニ付テ御取調ニナツタノデアリマスガ、若シ御取調ニナツタレバ、之ニ對シテドウ云フ對策ヲ持ツテ居ルカ、私ハ資金ノ引下ヲ今要求スルモノデアリマスガ、資金ガ高イ爲ニ入坑率ガ減ツタトスルナラバ、其ノ資金ノ支給方法其他ニ付テ適當ニ考慮セラレテ行キマシタナラバ、其ノ入坑率ノ低下スルヤウナコトモナイノデハナカラウカ、或ハ若シ勞務者ノ移動率ガ多イ爲ニ出炭率ガ減ツタトスルナラバ、此ノ移動ノ多イコトヲドウシテ防グカ、斯ウ云フコトニ對シテ對策ガナケレバナラマセマスガ、唯出炭ノ量ガ少ナクナツタコト云フダケデハ、私ハ其ノ儘見逃ス譯ニハイカスト思フ、是ハ一人當リノ出炭率ノ低下ガ重大ノ原因ト思ヒマス、之ニ對シテ政府ノ對策ヲ御聽キシタイと思ヒマス。

ト思ヒマス、労働者不足ノ爲ニ朝鮮ノ労働者ヲ澤山入レタノデアリマス、隨テ不馴レノ爲ニ平均率ガ下ツタト云フヤウナコトモ多少原因ヲ成シテ居ラウト思ヒマス、ソレカラ時局關係ノ産業ガ非常ニ労働者ヲ要求シマス爲ニ、労働者ノ移動ガ大變激シカツタト云フコトモ、最も大イナル原因ヲ成シテ居ルト思フノデアリマス、大マカナ數字ヲ申上ゲマスレバ、殆ド一年間ニ全部ノ労働者ノ數ガ移動スル、尤モ悉クノ労働者ガ轉出スル譯デハゴザイマセ、長ク居ル者モアリマスケレドモ、中ニハ一箇月、二箇月デ轉々スル者モゴザイマスノデ、單ニ移動員數ノミニ付テ申シマスレバ殆ド全労働者ト同數ノ移動ガ一箇年間ニアルコトニナリマス、斯様ニ落付カナイト云フコトガ實際ノ率減少ノ主ノ原因デアリナイカト存ジマス、之ニ對シマシテ政府ハ移動防止令ヲ出シマシテ之ヲ防イダノデアリマスガ、中々ソノナコトデアリ防止ガ出來ナイノデアリマス、ソコデ労働手帳法ヲ制定シテ、労働者ノ經歷ヲ手帳ニ書イテ、其ノ手帳ヲ持ツテ居ル者デナケレバ使フコトハ出來ナイ、サウシテ其ノ手帳ハ事業主ガ預カツテ置ク、正當ノ理由ガナケレバ渡サナイ、斯ウ云フコトニスレバ移動防止ガ殆ド完全ニ行ハレルノデアリナイカト存ジマス、ソレデ其ノ労働手帳法ノ制定ガ、只今ナリマス國家總動員法デ出來ルカ、研究ヲシテ見マシタガ是ハ出來ナイと思ヒマス、ソレデ別ニ労働手帳法案ヲ兩三日中ニ提出スル積リデゴザイマス、是ガ實施サレマスレバ完全ニ近イ移動防止ガ出來ルト存ジマス、隨テ出炭率モ増加スルコトト存ジマス、尙ホ其ノ外此ノ基礎産業デアアル石炭産出ノ減少ハ、非常ニ憂フベ

キコトデアリマスカラ、何トカシテ此ノ労働力ノ増強、ソレカラ一人當リノ出炭率ノ増加、詰リ稼働率ノ増加ヲ圖リタイト云フノデ、今専ラ勞務者ノ補充ニ努メテ居リマス、本年度内ニ、此ノ下半期中ニモ、四万五千人位補充スル豫定ヲ専ラヤツテ居リマス、尙ホ鮮人ヲモ一万餘人入レタイト云フヤウナ計畫ヲ立テテ居リマス、中々思フヤウニハ参リマセスケレドモ、國民職業指導所、其ノ他ヲ動員シテ懸命ニ努力ヲ積ケテ居ル譯デアリマス、尙ホ其ノ他ニ事變以來就業時間ハ出來得ルダケ延長致シマシテ、働イテ貰フコトニナツテ居リマス、モウ此ノ上ノ延長ト云フモノハ無理ダラウト存ジマス、ソコデ獎勵法ヲ設ケヨウト云フコトニナリマシテ、強調期間ヲ設ケテ、本年ノ一月カラ三月マデ稼働ニ對シテ獎勵法、表彰ノ法モ設ケル、是ハ産業報國會トモ連絡致シマシテ、只今之ヲ實施中デアリマスガ、相當ノ效果ガアルヤウデアリマス、全部ノ調査ハ済ンデ居リマセスケレドモ、部分的ニ申上ゲマスレバ、從來ノ八〇%ガ八五%ニナリ、九〇%ニナツテ、一〇%内外モ稼働率ガ増率シテ居ルト云フコトヲ以テ見レバ、如何ニ労働者ガ時局認識ヲ深メテ、此ノ場合サウ云フコトデアラナラバ、何トカシテ吾々ハモット働カナケレバナラスト云フ、報國ノ念ニ燃エテ居ルト云フコトガ窺ハレルノデ、洵ニ意ヲ強ク致シテ居ル次第デアリマス、其ノ外御氣付ノ點ガゴザイマセバ伺ヒマシテ、適切ナル方法ガアリマセバ如何ナル方法デモ此ノ場合實行シタイと思ヒマス。

○三善委員 大體今厚生大臣カラ承リマシタノデ分リマシタ、ヤハリ出炭率ノ低下ト

云フモノガ、重大ノ原因ノ一ツト思ヒマス、之ニ對シテハ出炭率ノ向上ヲ圖ルヤウニ、一層ノ努力ヲ願フテ置キマス、資金ニ對シマシテハ、私ハ資金ノ低下ショウト云フ譯デアリマセ、唯入坑率ガ少クナツタノデ、此ノ資金支給ニ對シテ特ニ考慮セラレル必要ガアルノデアリナイカ、斯ウ云フ意味デ申上ゲタノデアリマス。

置シテハ置ケナイカラ、今マデハ失敗ヲヤウテモ、其ノ事業ガ必要ナルガ爲ニ、融資ノ命令ヲシテ融資ヲサセルト云フ場合ニ於テハ、往々重役ノ更迭ノ生ジタコトハ、其ノ例ガアラウト思ヒマス、此ノ更迭スルト云フノハ、獨リ金融關係ノミデハナク、或ハ其ノ業務ニ於テ非常ニ堪能ナル人ヲ入レルト云フコトモアツタデアリマセウ、併シソレハ何モ融資スルカラ重役ヲ入レルコトヲ其ノ條件トスルト云フノデアリマセ、前者ハ其ノ資金ノ關係カラ其ノ種ノ役員等ヲ必要トスル場合ハ入レマス、後者ノ例ニ於テハ抑、經營ニ於テ多少缺點ガアルノデアリマスカラ、役員ヲ更迭スルト云フコトハ是ハ已ムヲ得ナイト思ヒマス、敢テ經營ノナイ者ヲ入レルト云フ御話デゴザイマセ、若シ萬一其ノ人選ニ於テ誤リガアツタ例ガゴザイマシタトスレバ、政府ハ是ガ過チヲ改メルニ各カナル者デハナイト考ヘテ居リマス。

省ノ意ノアル所ハ分リマシタノデ、私ハ其ノ質間ハ省略致シマシテ、他ノ角度カラ當局ノ御意見ヲ承ツテ見タイト思ヒマス、唯土地制度ニ對シテハ、先般カラ色々御意見モアリマシタノデ、或ハ地方ニ於テハ土地ハ國有ニナリハシナイカ、取上テラレハシナイカ、或ハ土地ヲ持ツテ居ル者ハ將來ドウナルカト云フ一様ノ不安ガアリマスガ、農林大臣ハ之ニ對シマシテ、自作農ヲ強化シテ行クノダト云フ、此ノ根本ノ理念ヲ申サレマシタノデ、國民ノ疑惑ハ解消セラレコトト思ヒマス、軍事及ビ國民生活ニ必要ナル物資ノ生産ヲ増進シテ、其ノ必要量ノ供給ヲ確保シテ國民ノ生活安定ヲ圖ルト云フコトハ、是ハ農村ニ課セラレタル所ノ一ツノ使命デアリマス、然ルニ事變以來肥料、資材、勞力ノ不足ノ爲ニ、生産ハ非常ニ減退致シマシテ、昨年ノ如キハ相當量ノ輸入ヲ見タコトハ洵ニ遺憾トスル所デアリマス、併シナガラ昨年ハ米不足デハナイカト非常ニ國民ガ心配シテ居リマシタガ、政府ノ處置其ノ宜シキヲ得マシテ、此ノ國民ノ不安ガ一掃サレマシテ、食糧ニ懸念ガナカツタコトハ、洵ニ當局ニ對シテ私ハ感謝ヲ致シマス、元來我ガ國ハ瑞穂國ト稱シマシテ、米穀ニハ不足ガナカツタ、殊ニ昭和八年、昭和九年ノ頃ハ米ガ非常ニ多クナツタ、米ガ多イ爲ニ備マサレテ、當時減反案サヘ出タヤウナ時代ガアツタノデアリマス、所ガ事變以來内外地ヲ通ジテ消費ノ數量ガ、千五百萬石多クナツタト思ヒマス、其ノ消費ノ増加ニ依リマシテ、急ニ米ガ不足スルヤウニナリ戰前通りノ消費デアツタナラバ、持越米ガアリマスカラ、昨年モ本年モ米ガ足ラヌト云フ管ガアリマセヌ、ケレド

モ千五百萬石ト云フ消費ノ増加ガアリマス爲ニ、内外地ノ米ヲ以テハ不足ヲ生ズルト云フノガ結論ダト思ヒマス、消費ノ増加ニ付テ調ベテ見マスルト、第一ハ國民ノ購買力ノ増加ニ依ツテ、國民ガ今マデ粟トカ麥トカヲ食フテ居ツタノガ米ヲ食フヤウニナツタ、是ハ購買力ノ増加ノ結果デアリマス、第二ハ飼料不足ノ爲ノ消費ガ米ニ向ケラレタ、動物ガ他ノ飼料ヲ取ツテ居ツタノガ其ノ飼料ガ不足シタ、大體飼料ハ今マデ六千萬圓位外國カラ輸入ガアツタ、其ノ輸入ガナイ爲ニ飼料ガ缺乏シタ、ソレデ除儀ナク穀類ヲ食ハセナケレバナラヌ、隨テ米ニ對スルソチラノ方ノ消費ガ殖エテ米ト、其ノ上米ノ價格ガ非常ニ安カツタ、他ノ物價ニ比シテ安イカラ低廉ナル米ニ向ツテ消費ガ向ケラレタ、此ノ三ツガ消費ノ多クナツタ重大原因ダト私ハ思ヒマス、ソレデ第一ノ原因ノ購買力、是ハ依然トシテ減退スルモノデハアリマス、ソレデカカヤハリ國民ノ消費ト云フモノハ、此ノ購買力ガ續ク限リハ米ニ向ケラレト思ヒマス、飼料モ當分緩和サレ見込ハアリマセヌ、ソレデカラ此ノ第二ノ問題ニ對シテモ、米ガ飼料ノ代リニ幾分向ケラレマス、或ハ又米ニ向ケラレマス、隨テ米ノ消費ト云フモノハ減退スルモノデハアリマセヌ、ソコデ價格ノ問題デアリマスガ、此ノ價格ノ點ニ付テハ、委員會ニ於テ農林大臣ハ十五年度ノ米價ハ絕對ニ引上ゲナイト云フコトヲ言明セラレマシタ、此ノ點ハ私ハ重ネテ御尋ね致シマセヌ、ケレドモ米ハ國民ノ生活必需品デアリマスカラ、無暗ニ價格ヲ引上ゲルト云フコトハ、消費者カラ考ヘルト當ラナイト思

ヒマス、併シナガラ一石五圓上ゲタト假定シテ見マス、一人ノ消費量ハ一日三合ト計算シテ一錢五厘デス、一日ノ食糧ガ一錢五厘デケ今日ノ物價ニ於テ高クナツタト云ツテ、消費者ニ非常ニ影響ヲ與ヘルモノデハナイト思ヒマス、一錢五厘ト云フノハ菓子一ツデアル、今日ハ一錢五厘ノ菓子ハナイ、大抵皆三錢又ハ五錢デアル、一日ノ食糧ガ菓子一ツニモ足ラナイ騰貴デアラカラ一石五圓上ゲタカラト云ツテ、是ガ國民生活ニ脅威ヲ與ヘル、或ハ一般ノ物價ニ非常ニ影響ヲ與ヘルト考ヘマセヌ、サウ云フコトカラ考ヘマス、價格ノ點ニ付テハ他ノ物價ト睨合セマシテ、相當考慮セラレ、餘地ガアリハシナイカト思ヒマス、若シ他ノ物價並ニ米ノ價格ガ上リマシタラバ、消費ハ自ラ規正セラレルトスルニ考ヘラレ、點ハ自ラ規正セラレマスカラ、此ノ點ハ御一考ヲ煩ハシト、又若シ價格ヲ上ゲルコトガ出來スト致シマシタラバ、石炭トカ金等ニ對シテハ獎勵金トカ補助金トカ云フモノヲ設ケテ獎勵シテ居リマスカラ、米ニ對シテハ或ハ出荷等カノ補償ノ途ヲ與ヘルルコトガ適當デハナイカト思ヒマス、此ノ點ニ對シテハ先程モ助川君ニ對シテ御質問ガアツタノデアリマス、尙ホ米ノ消費規正ヲナスコトデアリマス、是ハ是非消費規正ヲシナケレバナリマセヌガ、消費ノ多クナツタ原因ノ一ツハ、今マデ山間僻地デハ或ハ甘藷トカ或ハ麥ヲ食フテ居ツタ、所ガ一日ニ一人三合デ相當テラレタカラ、ドンナ山間僻地ニ行ツテモ米ガ行渡ツテ居リマス、タカラ山間僻地デ今マデ食ヒ慣レテ居ラナイ所マデ

モ米ガ行クヤウニナツタ、一般國民ガ米ヲ食フト云フノハ宜イデセウ、都會ノ者ガ米ヲ食ツテ、田舎ノ者ガ甘藷ヲ食ハナケレバナラヌト云フ理由ハナイカラ宜イデセウガ山間僻地ノ所マデ消費ガ殖エテ來タノ消費ト云フモノハ段々殖エテ行ツタト思ヒマス、ソコデ結局生産ノ増加ガナサナケレバナラヌト思ヒマスガ、農林大臣ハ此ノ生産増加ニ付テハ——今日モ増加ニ對スル所ノ追加豫算ガ出テ居リマシテ、耕地ノ擴張トカ、或ハ改良工事トカ、或ハ其ノ他色々ナコトガ設ツテ居ルヤウデアリマスガ、一體我ガ國ノ米ガ果シテ増産ガ可能デアラカドウカ、斯ウ云フコトヲ私ハ考ヘテ見タイト思ヒマス、大正十年以來今日マデ二十年間ノ統計ヲ取ツテ見マス、五千五百萬石程度ノ産額ガ六回アツタノデアリマス、六千五百萬石以上上獲レタノハ昭和九年タツ一回デス、二十年間ノ此ノ長イ歴史ヲ見テミマス、米ノ生産ト云フモノハ先ヅ六千五百萬石中心デ、其ノ六千五百萬石或ハ五千萬石減リ或ハ五千萬石増ス、是ガ米ノ生産デア、而モ事變前マデハ一年ニ硫酸ノ消費量ト云フモノハ二十萬ト云フツツ増シテ行ツタ、二十萬ト云フツツ増シテ、而モ米ハ依然トシテ六千五百萬石中心トシテ五千萬石上下シテ居ツタト云フノガ、我ガ國ノ米作ノ狀況デアリマス、ソレヲ今急ニ七千萬石ニスル、七千五百萬石ニスルト云フツテモ、如何ニカンダ所デ是ハ出來マセヌ、肥料ハ前ヨリ少クナツタ、資材ハ無イ、或ハ勞力ガ缺乏シテ居ル、ソレニ今度ハ七千五百萬石モ獲ルト云フコトハ、机ノ上デハ出來ル、農村ニ行クト農民ニ相當デア、

計畫生産デセウ、或ハ此ノ農村ニハ一反ニ對シテ一斗餘計種レ、二斗餘計種レ、ソレハ机ノ上デハチヤント出來ル、七千五百萬石ト云フモノハ机ノ上デハ一時間出出來テシマフ、ケレドモ實際ハサウハイカス、永イ間ノ歴史ヲ考ヘテ見ナケレバ、イカス、此ノ水イ間ノ歴史ヲ考ヘテ見マス、六千萬石ヲ中心ニシテ、五百萬石上リ下リスルト云フノガ大體ノ見當デアリマス、容易ナコトデアリト思ヒマス、勿論吾々ハ七千萬石、或ハ七千五百萬石ヲ見當ツテ行カネバナリマセヌケレドモ、日本ノ地方ノ限度ガアリマス、其ノ地方ノ限度ガ私ハ此處ニナツテ居ラスカト思ヒマス、勿論是ハ凡ニル工夫ヲシナケレバナラヌト思ヒマス、ソレデ相當ノ増産ハ出來ルト思ヒマス、ケレドモ、サウ急速ナ増産ハ望マレヌハナイカ、是ガ結論デハナイカト私ハ思ヒマス、殊ニ天候ニ支配サレコトガ非常ニ多イ作物ノコトデアリマス、今年ノ如ク現ニ農林省ハ七千五百萬石、七千二百萬石ヲ目標ニシテ居ルニ拘ラヌ、六千五百萬石程度ニ落チテ來タ、即チ一千万石カラ、二十年ノ間ヤハリ天候ニ依ツテ支配サレテ居リマスカラ、私ハサウ急ニ七千五百萬石ト云フヤウナ増産ヲスルコトハ、是ハ容易デナイ、斯様ニ考ヘマセヌ、ソコデ私共ハ先般モ農林大臣ガ言ハレマシタヤウニ、榮養食ト云フコトヲ考ヘテ行カナケレバナラヌ、コトイフガ今日榮養食ニ付テ深ク研究シテ居リマスヤウニ、我ガ國デモヤハリ食物ノ榮養價值ヲ考ヘテ行カナケレバナラヌト思ヒマス、ソコデ私ハ日本ノ如キ農國ニ於テ、米ガ足ラヌ、外國カ

ラ輸入シナケレバナラヌト云フコトハ、是ハ農村カラ言ヘバ、農村ノ一ツノ恥辱ダト思フ、ドウシテモ是ハ内外地ヲ解決ヲ付ケナケレバナラヌ、ソレニハ日本ハ米ノミヲ本位トシテ居ルガ、米以外ニ或ハ甘藷モアリマス、或ハ玉蜀黍モアリマス、或ハ麥、粟モアリ、稗モアリ、馬鈴薯モアル、斯ウ云フ總テノ作物ヲ考ヘテ行キマス——私ハ先程助川君ガ申シマシタヤウニ、總テノ穀物ヲ總體ニ考ヘテ行キマスナラバ、サウ不足ヲ生ズルコトハナイデハナイカ、兎ニ角今日ハ品物ガナクテハイカス、私ハ飼料ト肥料ト食糧ト三ツハ同ジダト思フ、唯食糧ト云フ點ノミヲ考ヘテハナイマセヌ、飼料、食糧、肥料ノ三ツハ同ジダト思フ、豆類ガ少ナケレバ結局是ハ肥料ノ豆粕ガ食糧ニ持ツテ來ラレマス、或ハ飼料ガ足りナケレバ、穀物ガ飼料ニ持ツテ行カレ、肥料ノ飼料ト食糧ト三ツハ相對的ニ考ヘテ行カナケレバナラヌ問題ダト思フ、ドノ作物デモ作りサヘスレバ——飼料ニ向ケラレバ、米ガ餘ツテ來ル、麥ガ餘ツテ來ル、斯ウ云フコトニナリマス、米ノミデハナイカ、總テノ穀類ノ増産ヲセネバイカス、ソコデ私ガ一番考ヘテ居ルコトハ甘藷デス、甘藷ヲ日本ノ食糧問題ハ解決出來ルト云フ私ハ大ナル自信ヲ持ツテ居リマス、其ノ甘藷ニ對シテハ三十萬町歩ガ日本ノ今ノ耕作反別デス、是デ十億貫ノ收穫ガアル、一反歩當リ三百三十貫、臺灣ガ十四萬町歩デ四億六千萬貫、是モ一反歩當リ三百三十貫位デス、然ルニ五割増産ト云フコトハ決シテ困難デアリマセヌ、是ハ餘リ肥料モ要ラナイ、現下肥料ノナイ時分ニ、肥料ヲヤレト云ウテモ無理デス、肥料ヲ寄越セ——ト云ツ

テモ、軍需工業ヲ殖ヤシテ、硝酸モ造ラナケレバナラヌ、火藥モ造ラナケレバナラヌト云フ時分ニ、硫酸ダケニ持ツテ行ケト云フコトハ、是ハ農村ノ聲デアリマス、ソレハ容易デハアリマセヌ、ダカラ肥料ノ要ラナイ作物ヲ作ラナケレバナラヌ、麥ヤ米ハ肥料ガナクテハ出來マセヌ、殊ニ麥ハ肥料ガナクテハ出來ナイ、甘藷ハ肥料ガ比較的ニナレバ、其ノ甘藷ガ七億三千万貫增加致シマス、其ノ七億三千万貫ノ甘藷ハ、米ノ榮養價值ニシマス、五百三十萬石ニ當ル、其ノ蛋白質カラ考ヘマシテモ、米ガ八六〇、甘藷ハ三九二、馬鈴薯ガ七四〇、脂肪ハ八二〇〇、甘藷ハ一〇二七、馬鈴薯ハ〇四〇、玉蜀黍ハ七五〇、脂肪ハ六五〇、馬鈴薯ハ七四〇、玉蜀黍ハ六四〇、殊ニ糖類ガ甘藷ニ限ツテ六・九七、斯ウ云フ風ニ榮養價值カラ考ヘマシテモ、私ハ五百萬石ノ米ニ相當シタ所ノ甘藷ヲ増産スルコトハ困難デハナイ、ソコデ是ハドウシマシテハ、早ク植エサヘスレバ考ヘテ致シマシテハ、早ク植エサヘスレバ宜イ、日本ノ甘藷ハ今マデ習慣的ニ遅ク植エテ居ツタ、或ハ六月或ハ七月ニナツテ甘藷ヲ植エルノガ例デアリマシタ、ソレヲ一箇月早ク、四月ノ下旬カラ五月ノ初メニ植エマシタラバ、甘藷ノ五割増ハ必ズ出來マス、昨年ハ甘藷ニ對スル早密ガアツタト云ヒマスケレドモ、ソレハ六月七月ニ植エルカラ早密ガアルノデ、四月ノ末カラ五月ノ初メニ植エサヘスレバ早密モナイ、米五百萬石ニ相當スル甘藷ガ即座ニ獲レル、私

ハ此ノ問題ヲ熊本縣ノ知事ニ話ラシマシタ、知事ハ非常ニ共鳴シテ、ソレカラ篤農家ヲ集メテ話シマシタ所ガ、皆共鳴シマシタ、私ハドウシテモ日本ノ食糧問題ハ是デ解決シナケレバナラヌト思フ、小學校カラ中學校ノ庭ノ端クレニ十坪位栽培スル、十坪位ハナリマセヌ、サウシテ學校ノ子供ニ此ノ甘藷ガ如何ニ食糧上大切ナモノデアラカト云フコトヲ直觀サセマス、直チニ其ノ子供ハ家ニ歸ツテ甘藷ノ必要ヲ説ク、ソコデ一月二月ハ總動員タト云フノデ、縣廳ハ總掛リテ各村ニ而シテ甘藷ヲ早ク植エルト云フコトハ、是ハ別段難カシイコトデハナイ、唯苗ヲ早ク温床デ作ルノニ少シ技術ガ要ラダケハスレバ、所謂米五百萬石ニ對スル甘藷ノ増産ガ出來ルト云フコトニナリマス、知事ノ熱心ナル努力デ本年ハ相當ノ増産ニナリマス、尙ホ私ハ熊本農學校ニ行ツテ其ノ講演ヲシタ所ガ、早速農學校デハ一町歩植エルト云フコトニナリマシタ、詰リ私ノ講演ガ一町歩ノ效キ目ガアツタト云フコトニナル、斯ウ云フ風ニシテ甘藷ノ普及ガ出來マスナラバ、米ノ問題ハ解決ガ出來ル、是ハ私ハ信念ヲ持ツテ居リマス、ソレデ私ハ昨年未甘藷ノ栽培ヲ設イテ廻リマシタガ、私ノ説ヲ聽イテ早ク植エタ所ハ非常ニ有難クツテ居ル、一反三百貫獲レルモノハ七百貫、多イ所デハ千五百貫獲レテ居リマス、東京ノ近在デモ一千貫獲レテ居リマス、ソレデアリマスカラハナイト信ジマス、日本ノ行クベキ道ハ是ダケデス、何モ心配スル必要ハナイ、戰

時食糧ノ大切ナ時ニ、甘藷ノ問題ヲ忘レナ
イナラバ、私ハ食糧問題ノ解決ハ出來ルト
思ヒマスカラ、是非農林大臣ハ甘藷ノ栽培
ニ對シテノ御督勵ヲ願フテ置キタイと思ヒ
マス、甘藷ノ栽培ニ付テノ費用モ出テ居ル
ト思ヒマスケレドモ、ソレハ本年度ハ開
ニ合ハヌカラ、今直グ豫備金カラデモ御出
シテ少イタラ間ニ合ハヌコトハアリマセヌ
カラ、之ヲ獎勵シテ行キマシタラバ、必
ズ實行ガ出來ルト思ヒマス、ソコデ日本ノ
食糧問題ハ甘藷デ解決出來ルト云フ自信ヲ
持ツテ居リマスカラ、是非一ツ御聽取
リテ願フテ、即時斷行セラレンコトヲ要望
致シテ置キマス

次ニ私ハ資材ガ不足スルカラ資材ヲヤ
レ、或ハ肥料ガ不足スルカラ肥料ヲヤレト
云フコトハ要求シテモ出來ヌマイ、併シ
出來ルヤウニ努力ヲシテ實ハナケレバナ
ラ、而シテ肥料ノ難クハ聽イテ裁カカナケ
レバナラヌト思ヒマス、肥料ガ足ラナケレ
バ足ラヌデモ致シ方ガナイトシマシテモ、
肥料ヲ一元的ニ適期ニ配給シテ貰フコト、
今産業組合ト商組ト半分ツツ配給スルト
カ、或ハ四分六分ニ分ケテ配給スルトカ、
是ハ相剋摩擦ヲ防グ爲ニ行ツテ居ルと思ヒ
マスガ、少クとも農村ノ庭先ニハ適期ニ必
要ナ肥料ヲ配給スルコトガ一番好マシイコ
トト思フ、ソレヲ一方ハ産業組合デヤル、
一方ハ産業組合デ肥料ヲ配給スル、ソコデ時
期モ違ツテ來ル、尙ホ不思議ナコトニハ値
段マデモ違フ、産業組合ノ方デヤル値段ガ
高イ管ハナイニ高イ、同ジ驛渡シニシテ
値段ガ違フ、ソレハドウ云フ譯カ私ハ分リ
マセヌガ、違フノハ全ク事實デアリマス、

昭和十六年一月二十八日印刷

昭和十六年一月二十九日發行

サウ云フ風ニ或ハ肥料ノ値段ガ違ツテ見タ
リ、或ハ其ノ肥料ヲ時期ヲ失シテ配給ス
ルト云フヤウナコトハ、農民ハ非常ニ迷惑
デス、ソコデ産業組合ト産業組合ト聯合シ
テ配給組合ヲ作ツテ、一本デ流シテ行ツ
テラ摩擦スルニ必要モナク其ノ配給組合デ
流シテ行ケバ何モ争フ必要ハアリマセヌ、
是ハ商工大臣モ能ク御研究サツテ、農村ノ
必要ナ肥料ヲ商業組合デ配給シナケレバ
ラヌト云フコトハ主張ナサラスガ宜イ、サ
ウ云フ風ニヤツテ實ハナケレバナラヌト思
ヒマス

ソレカラ資材ノ配給、是ハ昨年ハ九州ガ
非常ナ災害デアリマシタガ、此ノ災害ハ政
府ノ失態デアル、石油ヲ早クヤラナカッタ
カラデアリマス、若シ石油ヲ早クヤラッタ
災害ハ受ケナカッタ、石油ノ配給ガ遅レタ
爲ニ斯カル災害ヲ被ツタヤウナ次第デアリ
マス、先程「ゴム」足袋ノ問題ガ助川君カラ
話ガアリマシタガ、一戸ニ一足二分カ三分
配給サレテモ、五人ノ家族ニ對シテハドウ
ニモ仕様ガナイ、是モ物資缺乏デ致シ方ナ
イト言フケレドモ、サウ云フコトハ多少緩
和スルヤウニ考ヘテ下サラナイト、肥料ハ
ナイゾ、資材モナイゾ、努力モナイ、ソレ
ナラ「ゴム」足袋位ハ親心デヤルト云フコトヲ
ヤツテ實ハナケレバ、唯生産ヲ増セ「デ
ハ如何カト思ヒマス、是ハ商工大臣ニ御考
ヘテ願ヒタイ

ハ非常ニ多イノデアリマスケレドモ、時間
モアリマセヌカラ此ノ程度ニ止メテ置キマ
シテ、大體私ハ只今ノ質問ナリ、意見ナリ
ニ對シマシテ農林大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイ
ト思ヒマス

○石黒國務大臣 三善サンノ非常ニ廣汎ニ
互リマシタ農林行政上ノ御注意ハ總テ能ク
承リマシタ、御意ニ從フテ十分ニ善處致
シタイト考ヘマス、甘藷ノ増産洵ニ御同感
デアリマス、ソコデ本日御審議ヲ願フコト
ニナリマシタ十五年度追加豫算竝ニ十六年
度追加豫算ニ於テ、甘藷一億一千万貫ノ増
産ノコトヲ目論ンデ居リマスカラ、臨時
軍事費ト同ジヤウニ、ドウゾ速カニ御協賛
ヲ願ヒマス(拍手、笑聲)

○増田委員長 宣告致シマス、明日ハ午前
十時ヨリ開會致シマス、本日は是ニテ散會
致シマス
午後六時三十分散會

衆議院豫算委員會議錄第四回
中正誤
頁段行 誤 正
四八一 萬民一君 一君萬民

印刷者 内閣印刷局

第一類第一號

第七十六回帝國議會 豫算委員會議錄(速記)第八回

(一七)

會 議
昭和十六年一月二十九日(水曜日)午前十時
十分開議

出席委員左ノ如シ

- 委員長 増田 義一君
理事伊禮 肇君 理事小笠原三九郎君
理事佐藤洋之助君 理事田中 好君
理事西川 貞一君 理事古屋 慶隆君
理事三浦 虎雄君 理事三宅 正一君
理事宮澤 胤勇君 理事森田重次郎君
理事矢野庄太郎君 窪井 義道君
井上 良次君 池田 秀雄君
石坂 豊一君 一ノ瀬俊民君
泉 國三郎君 今井 新造君
江藤源九郎君 小野 謙一君
大本貞太郎君 加藤 鯛一君
笠井 重治君 勝 正憲君
川崎 克君 木村 正義君
岸田 正記君 北 吟吉君
久山 知之君 島田 俊雄君
助川啓四郎君 多田 滿長君
高田 松平君 武田徳三郎君
津雲 國利君 土屋 寛君
鶴見 祐輔君 末松信一郎君
富吉 榮二君 中島彌國次君
中田 儀直君 中山 福藏君
西尾 末廣君 松村 光三君
一松 定吉君 平川松太郎君
深澤 吉平君 藤本 捨助君
古屋 慶隆君 堀内 良平君
前川 正一君 前田房之助君
三善 信房君 木暮武太夫君

出席政府委員左ノ如シ

- 森田 福市君 横川 重次君
依光 好秋君 一宮房次郎君
同月二十八日委員杉浦武雄君、作田高太郎
君及櫻井兵五郎君辭任ニ付其ノ補闕トシテ
同月二十九日小野謙一君、多田滿長君及深
澤吉平君當選セリ
出席國務大臣左ノ如シ
内閣總理大臣 公爵近衛 文麿君
外務大臣 男爵平沼騏一郎君
厚生大臣 金光 庸夫君
拓務大臣 秋田 清君
陸軍大臣 東條 英機君
外務大臣 松岡 洋右君
文部大臣 橋田 邦彦君
商工大臣 小林 一三君
大藏大臣 河田 烈君
逓信大臣 村田 省藏君
農林大臣 石黒 忠篤君
海軍大臣 及川古志郎君
鐵道大臣 小川柳太郎君
國務大臣 星野 直樹君
司法大臣 柳川 平助君

出席政府委員左ノ如シ

- 情報局總裁 伊藤 述史君
情報局長 久富 達夫君
興亞院部長 松村 謙君
興亞院部長 宇佐美珍彦君
關東局司政部長 森重 干夫君
外務省東亞局長 山本 熊一君
外務省亞米利加局長 寺崎 太郎君
外務省南洋局長 齋藤 晉次君
外務省通商局長 水野伊太郎君
外務省書記官 武内時之助君
内務省書記官 荏場 軍藏君
内務省地方局長 留岡 幸男君
内務省警保局長 橋本 清吉君
内務省土木局長 成田 一郎君
内務省計畫局長 藤岡 長敏君
大藏省書記官 三好 重夫君
大藏省主計局長 廣瀬 豊作君
大藏省銀行局長 谷口 恒二君
大藏省銀行局長 相田 岩夫君
大藏省書記官 植木庚子郎君
大藏省書記官 日下部 滋君
大藏省書記官 河野 一之君
大藏省書記官 福田 勉夫君
大藏事務官 山住 克巳君
預金部資金局長 中村孝次郎君
陸軍次官 阿南 惟幾君
陸軍主計中將 石川半三郎君
陸軍少將 武藏 章君
陸軍少將 田中 隆吉君
陸軍主計中將 河村 參郎君
海軍主計中將 武井 大助君
海軍少將 岡 敬純君
海軍主計大佐 爲本 博篤君

出席政府委員左ノ如シ

- 海軍大臣 石川 信吾君
海軍大佐 高木 惣吉君
司法次官 三宅正太郎君
司法省行刑局長 金澤 次郎君
司法省調查部長 中島 弘道君
司法省書記官 石田 壽君
文部次官 菊池豊三郎君
文部省專門學務局長 永井 浩君
文部省普通學務局長 中野 善教君
文部省實業學務局長 關口 勳君
文部省圖書局長 松尾 長造君
文部省宗教局長 阿原 謙藏君
文部省書記官 柴沼 直君
文部省書記官 藤野 直君
農林次官 堀池 英一君
農林省總務局長 井野 碩哉君
農林省農政局長 周東 英雄君
農林省山林局長 岸 良一君
農林省水産局長 井出 正孝君
農林省蠶絲局長 平岡 梓君
農林省食品局長 吉田 清二君
農林省資材部長 辻 謙吾君
農林省書記官 岡本 直人君
馬政局次官 岡本 直人君
食糧管理局長 湯河 元成君
商工次官 小島 新一君
商工省總務局長 椎名悦三郎君
商工省鑛務局長 鈴木 英雄君
商工省鐵鋼局長 小倉 義照君
商工省化學局長 永田彦太郎君
商工省機械局長 菱沼 勇君
商工省書記官 末永 術君

第一類第一號 豫算委員會議錄 第八回 昭和十六年一月二十九日

一七九

一七八

Table listing committee members and their positions, including 特許局長官, 物價局長官, 選信次官, etc.

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ 昭和十六年度歳入歳出總豫算案並昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算案 豫算外國庫ノ負擔ナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

ガ關ハサレテ居ル場合ニ、議員ノ發言ト政 府ノ答辯ト並合セテ、國民ノ前ニ展開セ ラレコトガ、最も必要ナコトデアリナイカト

明確ニナリマシタ、ソレデ満足致シマス ○一松委員 此ノ際内務大臣ニ伺ヒタイコ トガアリマスガ、御許シ願ハマスマイカ

ノ關係上私ノ方カラ成ベク申上ゲマス、此 ノ減退ノ原因ハ、第一ハ、通俗ニ所謂資材 ト努力デアル、殊ニ英米依存ヲ脱却セント

モ知レマセマスガ、惡イ統制經濟ノ第一ハ經 理統制令デアルト云フコトハ、蔽フベカラ

法案ハドウ云フコトヲ意味シテ居ルカ、即 チ經濟新體制ニ依ル配當ノ制限ハ、經理統 制命令ニ依ル基準ヲ其ノ健實行スル考ヘテ

シテハ、是ハ今色々立法ノ方法モ考慮中デ ゴザイマシテ、決マツテ居リマセマスガ、

ニアル、一ツノ例ヲ舉グレバ石炭ノ如キ、今マデ問屋カラ金ヲ貸シテ居ツタ、其ノ爲ニ石炭金融ハ辛ウジテ付イテ居ツタ、九州若松デハ、銀行デ大體千五六百萬元位融資シテ居ツタ、其ノ外問屋カラ融通シテ居ツタノデ、石炭ガ掘レタ、是ガ問屋ノ融通ガ全部ナクナリ、昨年ノ秋ニ銀行ガ此ノ貸金ノ大部分ヲ引上ゲタト云フコトガ第二ノ原因デアリ、日本興業銀行福岡支店長モ、私ノ前デ容易ナラザルコトヲ言明シテ居ラレタ、石炭ニ限ラズ、昨年秋カラ定ニ困ルベキ事態ガ全國ニ起ツタト云フコトハ、是ハ大藏省ガ種ヲ播イタノデアアル、種トハ何デアアル、銀行ニ對シテハ資金運用命令ヲ出シ、銀行ノ資金ヲ束縛シタ、他方ニ整理統制命令ヲ出シテ、企業界ニ「ショック」ヲ與ヘタ、此ノ二ツノ大藏省關係立法ガ、金融梗塞ノ先ツ大原因ヲナシタノデアツタ、大藏省モ之ニ順ミテ種々ノ應急對策ヲヤラレタ、洵ニ結構ダ、或ハ預金部資金放出、或ハ政府資金撤布、或ハ民間銀行ニ對シテ貸出ノ回收緩和ヲ獎メタ、公債買戻操作ヲ執ツタト云フ如キ、應急對策トシテ一時ノ急ヲ凌イデ、昨年ノ暮ハ無事越年スルコトガ出來タガ、要スルニ日本ノ企業金融制度ハ今尙ホ根本的ニ缺陷ガアリ、確立シテ居ラナイ、世界先進國中デ工業金融ノ確立シテ居ラナイノハ日本デアアルカラ、日本ノ金融體制ヲ根本カラ整備シナケレバナラヌト云フ大キナ問題ガ殘ツテ居ル、ソレダカラ大藏省ハ、出來ルナラバ我が國ノ工業金融體制——私ハ金融新體制ナント云フ机上ノ用語ハドウデモ宜イノダガ、要ハ日本全體ノ金融體制ヲ整備シナケレバナラヌ焦眉ノ急ニ迫ツテ居

ル、此ノ點ニ關シ大藏大臣ノ過日ノ御答ヘニ於テ金融新體制ハ今研究中デアルト云フカラ、此ノ問題ニハ獨レナイガ、斯ノ如ク段々日本ノ工業金融ガ梗塞スルヤウニナツタ以上ハ、ドウシテモ大藏省ニ於テモ甚ニ適當ナル對策ヲ至急考ヘナケレバ、ナラヌ、ソコデ私ノ方カラ對策ヲ六ツ舉ゲル、此ノ點ニ付テ御答ヘ願ヒタイ、第一ハ興業銀行ノ改革案デアアル、興業銀行ハ資本、社債或ハ債券發行ノ機能ヲ擴大シタケレドモ、マダ此ノ程度デハ日本ノ事業金融ノ中樞機關タルニハ不十分デアアル、ソコデ其ノ機能ヲ改善シテ有能ナル財界人、産業人ヲ常勤重役ニ擧ゲ、參與制度ヲ擴大シテ、民間ノ專門家ヲ此處ニ配置スルノデナケレバ、到底今日ノ興業銀行ヲ以テシテハ、各種重要産業ニ金融ヲ付ケルト云フ知識モ足リナイシ、其ノ機構モ不十分デアアル、大藏省ニ於テモ色々考ヘテ居ラレ、案モアルヤウデアアルガ、最近興業債券ノ消化モ面白クナイ、何トカ興業銀行ノ機構ヲ根本的ニ改革シテ、之ヲ中心トシテ工業金融ノ充實ヲ圖ラナケレバナラヌト思フガ、何カ大藏省ニ改革案アリヤ否ヤ、内容ハ具體的ニ言ハナクテモ、至急ニ此ノ議會ニ改革案ヲ出ス意思アリヤ否ヤ、又議會ニ出サナクテモ、各種ノ改革ヲ斷行スル考ヘガアルカドウカ此ノ一點ヲ伺フ

○廣瀨政府委員 興業銀行ノ機構改善ニ付テ、何カ考ヘテ居ルカト云フ御尋ネノヤウニ思ヒマス、興業銀行ノ機構ニ付キマシテハ、御承知ノヤウニ事變直ニ於テ資金調整法ノ規定等ニ依リマシテ、興業銀行ノ機能ヲ擴大スル爲ニ、興業債券ノ政府保證ヲ致シ、又其ノ發行限度ヲ增加スルコト云フ方法ヲ執リマシテ、今日マデ事變後ノ企業金融ニ對シテハ、可ナリ大キナ活動ヲ致サセテ居ルコトハ、御承知ノ通りデアルト思フデアリマス、今更ニ於キマシテモ機構ノ改善ノ問題ト致シマシテ、只今松村君ノ御話ニナリマシヤウナリ、有能ナル民間ノ人ヲ参加セシメルト云フヤウナ問題ニ付キマシテハ、只今興業銀行内部ニ於キマシテ、或ル程度ノ具體案ヲ考ヘテ居ルヤウデアリマス、ソレハ必ズシモ外部カラ人ヲ入レルト云フ程度ニ限局ハ政シテ居リマセウガ、内部其ノモノノ改善、機構ノ整備ト云フコトヲ考ヘテ居リマス、尙ホ又事變後ニ於テ、日本銀行ノ重役ヲ興業銀行ノ重役ニ兼務セシムルコト云フヤウナ方法ヲ執ツテ、日本銀行、興業銀行ノ間ノ連絡ヲ取ルト云フコトヲ致シタト云フコトモ、御承知ヲラウト思フデアリマス、尙ホ興業銀行ノ改革案ニ付テ、今議會ニ提出スルヤウナ云フ御尋ネデゴザイマシタガ、興業銀行其ノモノニ對スル改革案ハ、今議會ニ提出スル考ヘ、ハゴザイマセウ、寧ろ興業銀行ハ現在ノ狀態ニ於テ、更ニ資金調達能力ヲ增加セシメル、其ノ意味ニ於テハ資金調整法ノ改正ハ考ヘテ居リマスガ、機構ノ改革ノ問題ニ付テハ考ヘテ居リマセウ、唯一言申添ヘテ置キマセウガ、今議會ニ於テハ、興業銀行ト相並ンデ勸業銀行ノ機能ヲ更ニ擴充致シマシテ、興業銀行ノ働キノ足リナイト申シマスカ、及バヌ所ニ勸業銀行ヲ更ニ補充的ニ活動セシメタイト思ヒマシテ、勸業銀行法ノ改正案ヲ考慮致シ、勸業銀行法、農工銀行法、北海道拒殖銀行法ノ提案ヲ只今考ヘテ居ル次第デアリマス

○松村(光)委員 興銀ノ改革案ハ、今マデヤツタヤウナ程度デハイケナイト云フノガ私ノ論點デアアル、日本銀行ノ人ヤ、唯興銀内部デ人ヲヤリ繰ルトカ——マダノ今ノ程度デハ産業界ノ實情ハ分ラナイノデアリ、ドウシテモ産業界ノ人ヲ持ツテ來ナケレバナラヌ、分ラナイ人ヲ幾ラ入レテモ駄目ダ、是ハ内部ノ改革デアアルカラ、別ニ法律ヲ要シナイ、私ハ何レ私案ヲ出シタイト思フ、内部ノ人ダケデハ知識ガ不十分デアアル、興銀ノ人々ハ大キナ努力ヲシテ居ルニ拘ラズ、廣、大キナ失敗ヲ繰返ス、此ノ失敗ノ内容ハ言ハナイガ、失敗ノ結果ヲ國策會社ナドニ尻拭ヒヲ押付ケル、併シ人間デアアルカラ、今日ノ程度デハ、産業界ノ實情ニ精通シタトハ言ヒ難イ、民間ノ專門家ヲ參與、重役等ニ入レテ、興銀ヲシテ眞ニ工業金融ノ中樞機關タルノ實ヲ舉ゲシムルニハ内部ノ人ノヤリ繰ケケデハ駄目ダト云フコトヲ重ネテ申上ゲマス

更ニ第二ニ勸銀ノ内容ヲ改善シテ、興銀ニ手傳ハセルト云フ考ハ洵ニ結構デアリマス、實ハ勸銀ノ方ハ可ナリ資金ノ餘裕アリ、今日デハ勸銀ノ取ル抵當關係ト、興銀ノ工業財團關係ハ、場合ニ依ツテハ兩立セシメズ、殊ニ勸銀ハ資金ガ充實シテ居ツテ、債券其ノ他ノ募集モ比較的容易デアアルカラ、勸銀ト興銀ヲ配合セシメハ一心同體ノ金融工作ヲヤラナケレバ、日本ノ工業金融ハ旨ク行カナイ、此ノ點ニ付テハ改革案ト同時ニ、大藏省ガ中心トナツテ勸銀、興銀ノ緊密ナ聯繫ニ付テ善處セラレンコトヲ要望シマス

第三ハ日本ノ各銀行デモ爲替業務ヲヤツテ居ルガ、大シタコトハナイ、正金銀行ハ

今日尙ホ官僚的デアアルガ、此ノ官僚的ナ氣分ヲ一掃シテ、民間ノ總テノ各銀行デヤル第三國爲替業務ヲ總括シテ、之ヲ正金銀行ニ集中セシメ、本當ニ爲替業務ノ一元化的實ヲ舉ゲル必要ガアルト思フデアアルガ、此ノ點ドウデアリマセウカ

○廣瀨政府委員 只今爲替ノ問題ニ付キマシテ、外國爲替ヲ正金銀行ニ集中シ、一元的ニ運用スル必要ガアルト思フガ、政府ハドウ思フカトノ御尋ネデアリマスガ、最近ノ國際情勢カラシテ、政府モ御説ノ通りノ考ヲ持チマシテ、現ニ殆ド御言葉通りニ實行シツツアルノデアリマス、左様御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○松村(光)委員 一元化ノ實ヲヨリ一層舉ゲラレンコトヲ要望致シマス

第四ハ預金部資金ノ運用ト共ノ運用委員會ノ内容ニ付キマシテ、改革ヲ要スルモノモアルガ、必要ニ依ツテ度々開ケバ差支ヘナイト云フガ、預金部運用委員會ノ開キ方モ、日本現下ノ時局ニ對シテハ緩慢デアアル、是ハモット廣開イテ、此ノ預金部資金ノ運用ノ迅速ナル行動ヲ要望スル、大體其ノ資金運用ハ公債應募ガ重點デアアル、最近民間債ノ梗塞ノ爲ニ、其ノ應募ニ手ヲ出サユウニナツテ來タガ、尙ホ預金部資金ハ今後益々非常ニ充實スルノデアアルカラ、此ノ際預金部資金ノ活用並ニ其ノ運用委員會ノコトニ付キマシテ、何カ改組スル御考ヘハナイカ、改組ト云フノハ、預金部ハ斯ウ云フ大キナ金融機關デアアルカラ、ヤハリ民間ノ專門家ヲ入レテ、重要産業金融ト配合ヲヤウナ機構ヲ整ヘテ、預金部ノ活動ヲ圓滑ニシ、之ヲ充實セシムルコトガ必要ト思フガ、是ハ御答ヘシニクイデアラウ

ガ、何カ考ヘテ居ラレルカドウカ伺ヒマシマス

○廣瀨政府委員 預金部資金ノ運用ガ不十分デアアルガ、將來更ニ此ノ運用ヲ完全ニスル考ヘハナイカト云フ御尋ネト存ズルノデアリマスガ、私ノ考ヘニ依リマシテ、預金部資金ハ今日非常ニ能ク運用サレテ居ルト思フデアリマス、只今御話ニナリマシタ公債、社債ニ對スル投資、消化ト申スコトハ、是ハ勿論ノコトデアリマスガ、事變後ニ於テ市場ノ緩急ニ應ジマシテ、之ヲ調整スル所ノ作用ヲ致シテ居ルモノハ、實ニ此ノ預金部デアアルト私ハ思フデアリマス、是ハ世間ニ發表サレルコトモアリ、發表サレナイコトモアリマスガ、或ハ「コール」資金ノ放出ヲスルトカ、或ハ其ノ他特殊銀行ニ對スル資金ノ供給、短期貸等ヲ致シマシテ、之ニ依ツテ市場ノ色々ナ摩擦ト申シマスカ、資金ノ緩急ト云フモノヲ常ニ保留シテ居ルノデアリマス、サウ云ツタヤウナコトニ依ツテ、私ハ寧ろ預金部資金ニ依ツテ、今日ノ事變金融ト云フモノガ滑カニ行ツテ居ルト考ヘテ居ル次第デアリマス、預金部運用委員會ノ現在ノ制度ハ、ソレ程不十分デハゴザイマセウ、大體事變以後ニ於テハ、運用委員ハ極メテ寛大ナル方針ヲ以テ、政府ニ共ノ運用ノ方法ヲ任ゼラレテ居ルノデアリマシテ、可ナリ自由ナト申シマスカ、廣イ範圍ニ於テノ運用ガ出來ルノデアリマス、隨テ必ズシモ度々運用委員會ヲ開クト云フ必要ハ感ゼラレナイノデアリマシテ、其ノ點ハ御安心ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス

○松村(光)委員 御答ヘハ明瞭デアリマスガ、私ハソレ程トモ思フツテ居ラナイ、成程最近債ノ外ニ大部分「コール」ヲ出シテ居ラレマスガ、大體日本ノ工業金融機關ガ確立シテ居ラナイ、然ルニ拘ラズ段々民間長期企業資金ノ充足ガ困難ニナル、是ハ當然ノ道行デアアルカラ、今カラ大藏省預金部ハ能ク民間資金ノコトヲ考ヘラレナイト、殊ニ金融統制其ノ他銀行融資金等ヲ出ス結果ハ、民間長期企業金融ハ非常ニ困難ニナル、「ドイツ」ノ實例ニ徴スルニ、「ドイツ」ハアレ程ヤツテ居ツテモ、民間ノ株式ニ應募スル人ガ段々少ク、勢ヒノ窮スル所、國家ガ此ノ事業金融ト云フモノヲヤラナケレバナラヌヤウニナツテ居リマス、日本モ恐ラク此ノ債權移スルナラバ、民間ノ事業ニ對シテ、社債ハ勿論ノコト、長期設備金融マデ大藏省預金部其ノ他政府ガ、之ヲ見テヤラナケレバナラヌヤウナ事態ノ發生ヲ免レナイト思フカラ、今ヨリ此ノ點ニ關シ大藏省ハ餘程考ヘラレテ、預金部ノミナラズ、大藏省全體トシテ、民間ノ事業金融ニ關シ社債トカ「コール」トカト云フ簡單ナ問題デナク、其ノ他ノ設備金融ニ付テモ、今カラ考ヘテ置カナケレバ間ニ合ハナイト思フデアアルガ、ソレ程トモ考ヘテ居ラレナイカドウカ、簡單ニ御伺ヒ致シマス

○廣瀨政府委員 民間ノ事業金融ニ付テ、更ニ一層工夫スル必要ガアルト思フガト云フ御尋ネデアアルト思フデアリマス、ソレニ關シマシテ只今預金部ノ資金ニ付テノ御話ガ御引合ヒニ出タト思ヒマスガ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ載ツト宜イト思フデアリマス、今日預金部ノ資金ガ御承知ノヤウニ百億ヲ突破致シテ居リマスガ、是ハ日本ノ國內ノ金融資本ノ大體ノ計算ニ於テ二割ヲ占メテ居リマス、然ルニ事變以來預金部ノ消化致シテ居リマスル國債ハ三割以上デアリマス、即チ預金部ガ主トシテ國債ノ方ヘ力ヲ注イデ、國債ノ消化ヲ致シテ居ルコト云フコトハ、元來ナラバ總テノ金融機關ガ、平均二割國債ノ消化ヲシナケレバイカヌ管ノモノヲ、一割ダケ餘計受ツテ居ルト云フコトハ、ソレダケ民間ノ金融機關ニ對シテ、事業金融ノ資金ノ餘地ヲ與ヘテ居ルト云フコトニナルノデアリマス、私ハ其ノ意味ニ於テ、此ノ民間ノ事業金融ト云フモノハ、非常ニ預金部ノ國債消化ニ依ツテ、國債消化ヲ要請サレル程度ハ低減サレテ居ル、反面ニ於テソレダケ民間ノ事業金融ハ滑ラカニナツテ居ルト云フ考ヘラ持ツテ居ル次第デアリマス

○松村(光)委員 ソコガ重點デアリマス、ソコデ第四ノ質問ニ移リマス、我國民間銀行ハ英國式ノ預金銀行デアリ、我國企業金融ガ巧ク行カナイノハ此處ニアル、預金銀行デアツテ、預金ト貸付ノ利鞘ヲ考ヘテ居ル預金銀行ノ本質上、金融平常ノ場合ニハ、ドンドン強要シテ金ヲ貸サガ、一旦金融梗塞スルト——昨年ノ秋ノヤウナコトガ起ルト、民間銀行ハ事實當然ニムラ得ズ此ノ貸付ヲ回收シ引上ゲルカラ、ソコデ日本ノ企業金融ト云フモノハ巧ク行カナイ、是ハ我國金融機構ノ根本問題デアツテ、此ノ機構ガ直ラナイ限りハ、日本ノ企業金融ト云フモノハ確立シナイ、是ハ大問題デアリ、時間ガ掛ルカラ言ハナイケレドモ、ドウシテモ此ノ問題ニ關シテ行カナケレバナラヌノデアアルガ、今差當リハ我國預金銀行ノ根本の本質ハ一朝ニハ直ラナイ、ソレダカラ民間銀行ノ方ニ付テ、特殊ノコトヲ考ヘナケレバナラヌ、今頻リニ廣瀨君ガ色々言ハレテ居ル

ニアル、一ツノ例ヲ舉グレバ石炭ノ如キ、今マデ開採カラ金ヲ貸シテ居ツタ、其ノ爲ニ石炭金融ハ辛ウジテ付イテ居ツタ、九州若松デハ、銀行デ大體千五百萬圓位融資シテ居ツタ、其ノ外開採カラ融通シテ居ツタノデ、石炭ヲ掘レタ、是ガ開採ノ融通ガ全部ナクナリ、昨年ノ秋ニ銀行ガ此ノ貸金ノ大部分ヲ引上ゲタト云フコトガ各地方、因デアリ、日本興業銀行福岡支店長モ、私ノ前デ容易ナラザルコトト聲明シテ居ラレタ、石炭ニ限ラズ、昨年秋カラ定ニ因ルベキ事態ガ全國ニ起ツタト云フコトハ、は大藏省ガ各種ヲ擧イタノデアル、種トハ何デアル、銀行ニ對シテハ資金運用命令ヲ出シ、令ヲ出シテ、企業界ニ「ショック」ヲ與ヘタ、此ノ二ツノ大藏省關係立法ガ、金融梗塞ノ先ツ大原因ヲ示シテ居ラレタ、大藏省モ之ニ順ミテ種々ノ應急對策ヲヤラレタ、洵ニ結構ダ、或ハ預金部資金放出、或ハ政府資金撤布、或ハ民間銀行ニ對シテ貸出ノ回收緩和ヲ獎メタ、公債買戻操作ヲ執ツタト云フ如キ、應急對策トシテ一時ノ急ヲ凌イデ、昨年ノ暮ハ無事越年スルコトガ出来タガ、要スルニ日本ノ企業金融制度ハ今尙ホ根本的ニ缺陷ガアリ、確立シテ居ラナイ、世界先進國中デ工業金融ノ確立シテ居ラナイノハ日本デアルカラ、日本ノ金融體制ヲ根本カラ整備シナケレバナラヌト云フ大キナ問題ガ残ツテ居ル、ソレダカラ大藏省ハ、出來ルナラバ我ガ國ノ工業金融體制——私ハ金融新體制ナント云フ机上ノ用語ハドウデモ宜イノダガ、要ハ日本全體ノ金融體制ヲ整備ヘナケレバナラヌ焦眉ノ急ニ迫ツテ居

ル、此ノ點ニ關シ大藏大臣ノ過日ノ御答ヘニ於テ金融新體制ハ今研究中デアルト云フカラ、此ノ問題ニハ獨レナイガ、斯ノ如ク段々日本ノ工業金融ガ梗塞スルヤウニナツタ以上ハ、ドウシテモ大藏省ニ於テモ技ニ適當ナル對策ヲ至急考ヘナケレバナラヌ、ソコデ私ノ方カラ對策ヲ六ツ擧ゲル、此ノ點ニ付テ御答ヘ願ヒタイ、第一ハ興業銀行ノ改革案デアル、興業銀行ハ資本、社債或ハ債券發行ノ機能ヲ擴大シテケレドモ、マダ此ノ程度デハ日本ノ專業金融ノ中樞機關タルニハ不十分デアル、ソコデ其ノ機構ヲ改善シテ有能ナル財界人、産業人ヲ常勤重役ニ擧ゲ、參與制度ヲ擴大シテ、民間ノ專門家ヲ此處ニ配置スルノデナケレバ、到底今日ノ興業銀行ヲ以テシテハ、各種重要産業ニ金融ヲ付ケルコト云フ知識モ足りナイイシ、其ノ機構モ不十分デアル、大藏省ニ於テモ色々考ヘテ居ラレ、案モアルヤウデアアルガ、最近興業銀行ノ消化モ面白クナイ、何トカ興業銀行ノ機構ヲ根本的ニ改革シテ、之ヲ中心トシテ工業金融ノ充實ヲ圖ラナケレバナラヌト云フガ、何カ大藏省ニ改革案アリテモ、内容ハ具體的ニ言ハナクテモ、至急ニ此ノ議會ニ改革案ヲ出ス意思アリテモ、又議會ニ出サナクテモ、各種ノ改革ヲ斷行スル考ヘガアルカドウカ此ノ一點ヲ伺フ

○廣瀨政府委員 興業銀行ノ機構改善ニ付テ、何か考ヘテ居ルカト云フ御答ネノヤウニ思ヒマス、興業銀行ノ機構ニ付キマシテハ、御承知ノヤウニ事變直後ニ於テ資金調整法ノ規定等ニ依リマシテ、興業銀行ノ機能ヲ擴大スル爲ニ、興業債券ノ政府保證ヲ致シ、又其ノ發行限度ヲ増加スルコト云フ方法ヲ執

リマシテ、今日マデ事變後ノ企業金融ニ對シテハ、可ナリ大キナ活動ヲ致サセテ居ルコトハ、御承知ノ通りデアリト云フガ、リマス、今後ニ於テモ機構ノ改善ノ問題ト致シマシテ、只今松村君ノ御話ニナリマシタヤウナ、有能ナル民間ノ人ヲ加シメタルコト云フヤウナ問題ニ付キマシテハ、只今興業銀行内部ニ於キマシテ、或ル程度ノ具體案ヲ考ヘテ居ルヤウデアリマス、ソレハ必ズシモ外部カラ人ヲ入レルト云フ問題ニ限局ハ致シテ居ラマセスガ、内部其ノモノノ改善、機構ノ整備ト云フコトヲ考ヘテ居リマス、尙ホ又事變後ニ於テ、日本銀行ノ重役ヲ興業銀行ノ重役ニ兼務セシムルコト云フヤウナ方法ヲ執ツテ、日本銀行、興業銀行ノ間ノ連絡ヲ取ルト云フコトヲ致シタト云フコトモ、御承知ダラウト思フノデアリマス、尙ホ興業銀行ノ改革案ニ付テ、今議會ニ提出スルヤウナ御答ネデゴザイマシタガ、興業銀行其ノモノニ對スル改革案ハ、今議會ニ提出スル考ヘ、ハゴザイマセス、寧ろ興業銀行ハ現在ノ狀態ニ於テ、更ニ資金調達能力ヲ增加セシムル、其ノ意味ニ於テハ資金調整法ノ改正ハ考ヘテ居リマスガ、機構ノ改革ノ問題ニ付テハ考ヘテ居リマセス、唯一言申添ヘテ置キマスガ、今議會ニ於テハ、興業銀行ト相違ンデ勸業銀行ノ機能ヲ更ニ擴充致シマシテ、興業銀行ノ働キノ足りナイト申シマスガ、及バズ所ニ勸業銀行ヲ更ニ補充シテ活動セシメタイト思ヒマシテ、勸業銀行法ノ改正案ヲ考慮致シ、勸業銀行法、農工銀行法、北海道拒積銀行法ノ提案ヲ只今考ヘテ居ル次第デアリマス

○松村(光)委員 興業ノ改革案ハ、今マデヤウナ程度デハイケナイト云フノガ私ノ論點デアル、日本銀行ノ人々、唯興業内部デ人ヲヤリ繰ルトカ——マダ、今ノ程度デハ産業界ノ實情ハ分ラナイノデアリ、ドウシテモ産業界ノ人ヲ持ツテ來ナケレバ、ナラヌ、分ラナイ人ヲ幾ラ入レテモ駄目ダ、是ハ内部ノ改革デアルカラ、別ニ法律ヲ要シナイ、私ハ何レ私案ヲ出シタイト思フ、内部ノ人ダケデハ知識ガ不十分デアル、興業ノ人々ハ大キナ努力ヲシテ居ルニ拘ラズ、屢大キナ失敗ヲ繰返ス、此ノ失敗ノ内容ハ言ハナイガ、失敗ノ結果ヲ國策會社ナドニ戻シテ押付ケル、併シ人間デアルカラ、誤リガアルノハ當リ前デアル、大體興業ノ今日ノ程度デハ、産業界ノ實情ニ精通シタトハ言ヒ難イ、民間ノ專門家ヲ參與、重役等ニ入レテ、興業ヲシテ眞ニ工業金融ノ中樞機關タルノ實ヲ舉ゲシムルニハ内部ノ人ノヤリ繰ラケデハ駄目ダト云フコトヲ重ネテ申上ゲマス

今日尙ホ官僚的デアルガ、此ノ官僚的ナ氣分ヲ一掃シテ、民間ノ總テノ各銀行デヤル第三國爲替業務ヲ總括シテ、之ヲ正金銀行ニ集中セシメ、本當ニ爲替業務ノ一元化ノ實ヲ舉ゲル必要ガアルト思フノデアアルガ、此ノ點ドウデアリマセウカ

○廣瀨政府委員 只今爲替ノ問題ニ付キマシテ、外國爲替ヲ正金銀行ニ集中シ、一元的ニ運用スル必要ガアルト思フガ、政府ハドウ思フカトノ御答ネデアリマスガ、最近ノ國際情勢カラシテ、政府モ御説ノ通りノ考ヲ持チマシテ、現ニ殆ド御言葉通りニ實行シツツアルノデアリマス、左様御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○松村(光)委員 一元化ノ實ヲヨリ一層舉ゲラレコトヲ要望致シマス

第四ハ預金部資金ノ運用ト其ノ運用委員會ノ内容ニ付キマシテ、改革ヲ要スルモノモアルガ、必要ニ依ツテ度々開ケバ差支ヘナイト云フガ、預金部運用委員會ノ開キ方モ、日本現下ノ時局ニ對シテハ緩慢デアル、是ハモット屢開イテ、此ノ預金部資金ノ運用ノ迅速ナル行動ヲ要望スル、大體其ノ資金運用ハ公債應募ガ重點デアル、最近民間社債ノ梗塞ノ爲ニ、其ノ應募ニ手ヲ出サウニナツテ來タガ、尙ホ預金部資金ハ今後益々非常ニ充實スルノデアアルカラ、此ノ際預金部資金ノ活用並ニ其ノ運用委員會ノコトニ付キマシテ、何か改組スル御考ヘハナイカ、改組ト云フノハ、預金部ハ斯ウ云フ大キナ金融機關デアルカラ、ヤハリ民間ノ專門家ヲ入レテ、重要産業金融ト配合フヤウナ機構ヲ整ヘテ、預金部ノ活動ヲ圓滑ニシ、之ヲ充實セシムルコトガ必要ト思フガ、是ハ御答ヘシニタイデアラウ

○廣瀨政府委員 預金部資金ノ運用ガ不十分デアアルガ、將來更ニ此ノ運用ヲ完全ニスル考ヘハナイカト云フ御答ネト在ルノデアリマスガ、私ノ考ヘニ依リマス、預金部資金ハ今日非常ニ能ク運用サレテ居ルト思フノデアリマス、只今御話ニナリマシタ公債、社債ニ對スル投資、消化ト申スコトハ、是ハ勿論ノコトデアリマスガ、事變後ニ於テ市場ノ緩急ニ應ジマシテ、之ヲ調整スル所ノ作用ヲ致シテ居ルモノハ、實ニ此ノ預金部デアルト私ハ思フノデアリマス、是ハ世間ニ發表サレルコトモアリ、發表サレナイコトモアリマスガ、或ハ「コール」資金ノ放出ヲスルコトカ、或ハ其ノ他特殊銀行ニ對スル資金ノ供給、短期貸付等ヲ致シマシテ、之ニ依ツテ市場ノ色々ナ摩擦ト申シマシテ居ルノデアリマス、サウ云ツタヤウナコトニ依ツテ、私ハ寧ろ預金部資金ニ依ツテ、今日ノ事變金融ト云フモノガ滑カニ行ツテ居ルト考ヘテ居ル次第デアリマス、預金部運用委員會ノ現在ノ制度ハ、ソレ程不十分デハゴザイマセス、大體事變以後ニ於テハ、運用委員ハ極メテ寛大ナル方針ヲ以テ、政府ニ其ノ運用ノ方法ヲ任ゼラレテ居ルノデアリマシテ、可ナリ自由ト申シマスカ、廣イ範圍ニ於テノ運用ガ出來ルノデアリマス、隨テ必ズシモ度々運用委員會ヲ開クコトヲ必要ハ感ゼラレナイノデアリマシテ、其ノ點ハ御安心ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス

○松村(光)委員 御答ヘハ明瞭デアリマスガ、私ハソレ程トモ思フテ居ラナイ、成程最近社債ノ外ニ大部分「コール」ヲ出シテ居ラレマスガ、大體日本ノ工業金融機關ガ確立シテ居ラナイ、然ルニ拘ラズ段々民間長期企業資金ノ充足ガ困難ニナル、是ハ當然ノ道行デアルカラ、今カラ大藏省預金部ハ能ク民間資金ノコトヲ考ヘラレナイト、殊ニ金融統制其ノ他銀行融資資金等ヲ出ス結果ハ、民間長期企業金融ハ非常ニ困難ニナル、「ドイツイ」ノ實例ニ徴スルニ、「ドイツイ」ハアレ程ヤウテ居ツテモ、民間ノ株式ニ應募スル人ガ段々少ク、勢ヒノ窮スル所、國家ガ此ノ專業金融ト云フモノヲヤラナケレバナラヌヤウニナツテ居リマス、日本モ恐ラク此ノ債權移スルナラバ、民間ノ專業ニ對シテ、社債ハ勿論ノコト、長期設備金融マデ大藏省預金部其ノ他政府ガ、之ヲ見テヤラナケレバナラヌヤウナ事態ノ發生ヲ免レナイト思フカラ、今ヨリ此ノ點ニ關シ大藏省ハ餘程考ヘラレテ、預金部ノミナラズ、大藏省全體トシテ、民間ノ專業金融ニ關シ社債トカ「コール」トカト云フ簡單ナ問題デナク、其ノ他ノ設備金融ニ付テモ、今カラ考ヘテ置カナケレバ間ニ合ハナイト思フノデアアルガ、ソレ程トモ考ヘテ居ラレナイカドウカ、簡單ニ御同致シマス

○廣瀨政府委員 民間ノ專業金融ニ付テ、更ニ一層工夫スル必要ガアルト思フガト云フ御答ネデアリト思フノデアリマス、ソレニ關シマシテ只今預金部ノ資金ニ付テノ御話ガ御引合ヒニ出タイト思ヒマスガ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ載タト宜イト思フノデアリマス、今日預金部ノ資金ガ御承知ノヤウニ百億ヲ突破致シテ居リマスガ、是ハ日本ノ國內ノ金融資本ノ大體ノ計算ニ於テ二割ヲ占メテ居リマス、然ルニ事變以來預金部ノ

ニアル、一ツノ例ヲ舉グレバ石炭ノ如キ、今マデ問屋カラ金ヲ貸シテ居ツタ、其ノ爲ニ石炭金融ハ辛ウジテ付イテ居ツタ、九州若松デハ、銀行デ大體千五六百圓位融資シテ居ツタ、其ノ外問屋カラ融通シテ居ツタノデ、石炭ガ掘レタ、是ガ問屋ノ融通ガ全部ナクナリ、昨年ノ秋ニ銀行ガ此ノ貸金ノ大部分ヲ引上ゲタト云フコトガ各地方、殊ニ中小炭山ノ疲弊困憊ノ大キナ第二ノ原因デアリ、日本興業銀行福岡支店長モ、私ノ前デ容易ナラザルコトヲ言明シテ居ラレタ、石炭ニ限ラズ、昨年秋カラ定ニ困ルベキ事態ガ全國ニ起ツタト云フコトハ、是ハ大藏省ガ各種ヲ採イタノデアル、種トハ何デアル、銀行ニ對シテハ資金運用命令ヲ出シ、銀行ノ資金ヲ束縛シタ、他方ニ經理統制命令ヲ出シテ、企業界ニ「ショック」ヲ與ヘタ、此ノ二ツノ大藏省關係立法ガ、金融梗塞ノ先ツ大原因ヲ示シテ居ラレタ、大藏省モ之ニ顧ミテ種々ノ應急對策ヲヤラレタ、洵ニ結構ダ、或ハ預金部資金放出、或ハ政府資金撤布、或ハ民間銀行ニ對シテ貸出ノ回收緩和ヲ獎メタ、公債買戻操作ヲ執ツタト云フ如キ、應急對策トシテ一時ノ急ヲ凌イデ、昨年ノ暮ハ無事越年スルコトガ出來タガ、要スルニ日本ノ企業金融制度ハ今尙ホ根本的ニ缺陷ガアリ、確立シテ居ラナイ、世界先進國中デ工業金融ノ確立シテ居ラナイノハ日本デアルカラ、日本ノ金融體制ヲ根本カラ整備シナケレバナラヌト云フ大キナ問題ガ殘ツテ居ル、ソレダカラ大藏省ハ、出來ルナラバ我が國ノ工業金融體制——私ハ金融新體制ナント云フ机上ノ用語ハドウデモ宜イノダガ、要ハ日本全體ノ金融體制ヲ整ヘナケレバナラヌ焦眉ノ急ニ迫ツテ居

ル、此ノ點ニ關シ大藏大臣ノ過日ノ御答ヘニ於テ金融新體制ハ今研究中デアルト云フカラ、此ノ問題ニハ關レナイガ、斯ノ如ク段々日本ノ工業金融ガ梗塞スルヤウニナツタ以上ハ、ドウシテモ大藏省ニ於テモ茲ニ適當ナル對策ヲ至急考ヘナケレバ、ナラズ、ソコデ私ノ方カラ對策ヲ六ツ舉ゲル、此ノ點ニ付テ御答ヘ願ヒタイ、第一ハ興業銀行ノ改革案デアアル、興業銀行ハ資本、社債或ハ債券發行ノ機能ヲ擴大シタケレドモ、マダ此ノ程度デハ日本ノ事業金融ノ中樞機關タルニハ不十分デアアル、ソコデ其ノ機能ヲ改善シテ有能ナル財界人、産業人ヲ常勤重役ニ擧ゲ、參與制度ヲ擴大シテ、民間ノ專門家ヲ此處ニ配置スルノデナケレバ、到底今日ノ興業銀行ヲ以テシテハ、各種重要産業ニ金融ヲ付ケルコト云フ知識モ足リナイ、其ノ機構モ不十分デアアル、大藏省ニ於テモ色々考ヘテ居ラレ、案モアルヤウデアアルガ、最近興業債券ノ消化モ而白クナイ、何トカ興業銀行ノ機構ヲ根本的ニ改革シテ、之ヲ中心トシテ工業金融ノ充實ヲ圖ラナケレバナラヌト思フガ、何カ大藏省ニ改革案アリヤ否ヤ、内容ハ具體的ニ言ハナクテモ、至急ニ此ノ議會ニ改革案ヲ出ス意思アリヤ否ヤ、又議會ニ出サナクテモ、各種ノ改革ヲ斷行スル考ヘガアルカドウカ此ノ一點ヲ伺フ

○廣瀨政府委員 興業銀行ノ機構改善ニ付テ、何カ考ヘテ居ルカト云フ御尋ネノヤウニ思ヒマス、興業銀行ノ機構ニ付キマシテハ、御承知ノヤウニ事變直後ニ於テ資金調整法ノ規定等ニ依リマシテ、興業銀行ノ機能ヲ擴大スル爲メ、興業債券ノ政府保證ヲ致シ、又其ノ發行限度ヲ增加スルコト云フ方法ヲ執リマシテ、今日マデ事變後ノ企業金融ニ對シテハ、可ナリ大キナ活動ヲ致サセテ居ルコトハ、御承知ノ通りデアルト思フノデアリマス、今後ニ於キマシテモ機構ノ改善ノ問題ト致シマシテ、有能ナル民間ノ人ヲ參ナリマシテヤウナリ、有能ナル民間ノ人ヲ加セシメテ云ツタヤウナ問題ニ付キマシテハ、只今興業銀行内部ニ於キマシテ、或ル程度ノ具體案ヲ考ヘテ居ルヤウデアリマス、ソレハ必ズシモ外部カラ人ヲ入レルト云フ問題ニ限局ハ致シテ居リマセスガ、内部共ニモノノ改善、機構ノ整備ト云フコトヲ考ヘテ居リマス、尙ホ又事變後ニ於テ、日本銀行ノ重役ヲ興業銀行ノ重役ニ發務セシムルコト云ツタヤウナ方法ヲ執ツテ、日本銀行、興業銀行ノ間ノ連絡ヲ取ルト云フコトヲ致デアリマス、尙ホ興業銀行ノ改革案ニ付テ、今議會ニ提出スルヤ否ヤト云フ御尋ネデゴイマシタガ、興業銀行其ノモノニ對スル改革案ハ、今議會ニ提出スル考ヘハゴザイマセス、寧ろ興業銀行ハ現在ノ狀態ニ於テ、更ニ資金調達能力ヲ增加セシメル、其ノ意味ニ於テハ資金調整法ノ改正ハ考ヘテ居リマスガ、機構ノ改革ノ問題ニ付テハ考ヘテ居リマセス、唯一言申添ヘテ置キマスガ、今議會ニ於テハ、興業銀行ト相並シテ興業銀行ノ機能ヲ更ニ擴充致シマシテ、興業銀行ノ働キノ足リナイト申シマスガ、及バヌ所ニ勤業銀行ヲ更ニ補充シテ活動セシメタイト思ヒマシテ、勤業銀行法ノ改正案ヲ考慮致シ、勤業銀行法、農工銀行法、北海道拒殖銀行法ノ提案ヲ只今考ヘテ居ル次第デアリマス

○松村(光)委員 興業銀行ノ改革案ハ、今マデヤウツタヤウナ程度デハイケナイト云フノガ私ノ論點デアアル、日本銀行ノ人々、唯興業内部デ人ヲヤリ線ルトカ——マダ——今ノ程度デハ産業界ノ實情ハ分ラナイノデアリ、ドウシテモ産業界ノ人ヲ持ツテ來ナケレバ、ナラヌ、分ラナイ人ヲ幾人入レテモ駄目ダ、是ハ内部ノ改革案デアルカラ、別ニ法律ヲ要シナイ、私ハ何レ私案ヲ出シタイト思フ、内部ノ人々ケデハ知識ガ不十分デアアル、興業ノ人々ハ大キナ努力ヲシテ居ルニ拘ラズ、廣、大キナ失敗ヲ繰返ス、此ノ失敗ノ内容ハ言ハナイガ、失敗ノ結果ヲ國策會社ナドニ戻シテ押付ケル、併シ人間デアルカラ、誤リガアルノハ當リ前デアアル、大體興業ノ今日ノ程度デハ、産業界ノ實情ニ精通シタトハ言ヒ難イ、民間ノ專門家ヲ參與、重役等ニ入レテ、興業ヲシテ眞ニ工業金融ノ中樞機關タルノ實ヲ舉ゲシムルニハ内部ノ人ノヤリ線ケケデハ駄目ダト云フコトヲ重ネテ申上ゲマス

更ニ第二ニ勸銀ノ内容ヲ改善シテ、興銀ニ手傳ハセルト云フ考ハ洵ニ結構デアリマス、實ハ勸銀ノ方ハ可ナリ資金ノ餘裕アリ、今日デハ勸銀ノ取ル抵當關係ト、興銀ノ工業財團關係ハ、場合ニ依ツテハ兩立セシメズ、殊ニ勸銀ハ資金ガ充實シテ居ツテ、債權其ノ他ノ募集モ比較的容易デアルカラ、勸銀ト興銀ヲ配合セシメハ一心同體ノ金融工作ヲヤラナケレバ、日本ノ工業金融ハ皆ク行カナイ、此ノ點ニ付テハ改革案ト同時ニ、大藏省ガ中心トナツテ勸銀、興銀ノ緊密ナ聯繫ニ付テ善處セラレンコトヲ要望シマス

第三ハ日本ノ各銀行デモ爲替業務ヲヤツテ居ルガ、大シクコトハナイ、正金銀行ハ

今日尙ホ官僚的デアアルガ、此ノ官僚的ナ氣分ヲ一掃シテ、民間ノ總テノ各銀行デアル第三國爲替業務ヲ總括シテ、之ヲ正金銀行ニ集中セシメ、本當ニ爲替業務ノ一元化ノ實ヲ舉ゲル必要ガアルト思フノデアアルガ、此ノ點ドウデアリマセウカ

○廣瀨政府委員 只今爲替ノ問題ニ付キマシテ、外國爲替ヲ正金銀行ニ集中シ、一元的ニ運用スル必要ガアルト思フガ、政府ハドウ思フカトノ御尋ネデアリマスガ、最近ノ國際情勢カラシテ、政府モ御説ノ通りノ考ヲ持チマシテ、現ニ殆ド御言葉通りニ實行シツツアルノデアリマス、左様御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○松村(光)委員 一元化ノ實ヲヨリ一層舉ゲラレンコトヲ要望致シマス

第四ハ預金部資金ノ運用ト其ノ運用委員會ノ内容ニ付キマシテ、改革ヲ要スルモノモアルガ、必要ニ依ツテ度々開ケバ差支ヘナイト云フガ、預金部運用委員會ノ開キ方モ、日本現下ノ時局ニ對シテハ緩慢デアアル、是ハモット展開イテ、此ノ預金部資金ノ運用ノ迅速ナル行動ヲ要望スル、大體其ノ資金運用ハ公債應募ガ重點デアアル、最近民間社債ノ梗塞ノ爲メ、其ノ應募ニ手ヲ出サユウニナツテ來タガ、尙ホ預金部資金ハ今後益々非常ニ充實スルノデアアルカラ、此ノ際預金部資金ノ活用並ニ其ノ運用委員會ノコトニ付キマシテ、何カ改組スル御考ヘハナイカ、改組ト云フノハ、預金部ハ斯ウ云フ大キナ金融機關デアルカラ、ヤハリ民間ノ專門家ヲ入レテ、重要産業金融ト配合ヲヤウナ機構ヲ整ヘテ、預金部ノ活動ヲ圓滑ニシ、之ヲ充實セシムルコトガ必要ト思フガ、是ハ御答ヘシニクイデアラウ

ガ、何カ考ヘテ居ラレルカドウカ伺ヒマス

○廣瀨政府委員 預金部資金ノ運用ガ不十分デアアルガ、將來更ニ此ノ運用ヲ完全ニスル考ヘハナイカト云フ御尋ネト存ズルノデアリマスガ、私ノ考ヘニ依リマスト、預金部資金ハ今日非常ニ能ク運用サレテ居ルト思フノデアリマス、只今御話ニナリマシタ公債、社債ニ對スル投資、消化ト申スコトハ、是ハ勿論ノコトデアリマスガ、事變後ニ於テ市場ノ緩急ニ應ジマシテ、之ヲ調整スル所ノ作用ヲ致シテ居ルモノハ、實ニ此ノ預金部デアアルト私ハ思フノデアリマス、是ハ世間ニ發表サレルコトモアリ、發表サレナイコトモアリマスガ、或ハ「コール」資金ノ放出ヲスルトカ、或ハ其ノ他特殊銀行ニ對スル資金ノ供給、短期貸等ヲ致シマシテ、之ニ依ツテ市場ノ色々ナ摩擦ト申シマスガ、資金ノ緩急ト云フモノノ常ニ保留シテ居ルノデアリマス、サウ云ツタヤウナコトニ依ツテ、私ハ寧ろ預金部資金ニ依ツテ、今日ノ事變金融ト云フモノガ滑カニ行ツテ居ル考ヘテ居ル次第デアリマス、預金部運用委員會ノ現在ノ制度ハ、ソレ程不十分デハゴザイマセス、大體事變以後ニ於テハ、運用委員ハ極メテ寛大ナル方針ヲ以テ、政府ニ其ノ運用ノ方法ヲ任ゼラレテ居ルノデアリマシテ、可ナリ自由ト申シマスガ、廣範範圍ニ於テノ運用ガ出來ルノデアリマス、隨テ必ズシモ度々運用委員會ヲ開クト云フ必要ハ感ゼラレナイノデアリマシテ、其ノ點ハ御安心ヲ願ヒタイト存ズルノデアリマス

○松村(光)委員 御答ヘハ明瞭デアリマスガ、私ハソレ程トモ思フテ居ラナイ、成程最近社債ノ外ニ大部分「コール」ヲ出シテ居ラレマスガ、大體日本ノ工業金融機關ガ確立シテ居ラナイ、然ルニ拘ラズ段々民間長期企業資金ノ充足ガ困難ニナル、是ハ當然ノ道行デアアルカラ、今カラ大藏省預金部ハ能ク民間資金ノコトヲ考ヘラレナイト、殊ニ金融統制其ノ他銀行融資資金等ヲ出ス結果ハ、民間長期企業金融ハ非常ニ困難ニナル、「ドイツ」ノ實例ニ徵スルニ、「ドイツ」ハアレ程ヤウテ居ツテモ、民間ノ株式ニ應募スル人ガ段々少ク、勢ヒノ窮スル所、國家ガ此ノ事業金融ト云フモノヲヤラナケレバナラヌヤウニナツテ居リマス、日本モ恐ラク此ノ債權移スルナラバ、民間ノ事業ニ對シテ、社債ハ勿論ノコト、長期設備金融マデ大藏省預金部其ノ他政府ガ、之ヲ見テヤラナケレバナラヌヤウナ事態ノ發生ヲ免レナイト思フカラ、今ヨリ此ノ點ニ關シ大藏省ハ餘程考ヘラレテ、預金部ノミナラズ、大藏省全體トシテ、民間ノ事業金融ニ關シ社債トカ「コール」トカト云フ簡單ナ問題デナク、其ノ他ノ設備金融ニ付テモ、今カラ考ヘテ置カナケレバ間ニ合ハナイト思フノデアアルガ、ソレ程トモ考ヘテ居ラレナイカドウカ、簡單ニ御同ヒ致シマス

○廣瀨政府委員 民間ノ事業金融ニ付テ、更ニ一層工夫スル必要ガアルト思フガト云フ御尋ネデアアルト思フノデアリマス、ソレニ關シマシテ只今預金部ノ資金ニ付テノ御話ガ御引合ヒニ出タト思ヒマスガ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ載クト宜イト思フノデアリマス、今日預金部ノ資金ガ御承知ノヤウニ百億ヲ突破致シテ居リマスガ、是ハ日本ノ國內ノ金融資本ノ大體ノ計算ニ於テ二割ヲ占メテ居リマス、然ルニ事變以來預金部ノ

消化致シテ居リマスル國債ハ三割以上デアリマス、即チ預金部ガ主トシテ國債ノ方ヘカヲ注イデ、國債ノ消化ヲ致シテ居ルコト云フコトハ、元來ナラバ總テノ金融機關ガ、平均二割國債ノ消化ヲシナケレバイカヌ管ノモノヲ、一割ダケ餘計受持ツテ居ルコト云フコトハ、ソレダケ民間ノ金融機關ニ對シテ、事業金融ノ資金ノ餘地ヲ與ヘテ居ルコト云フコトニナルノデアリマス、私ハ其ノ意味ニ於テ、此ノ民間ノ事業金融ト云フモノハ、非常ニ預金部ノ國債消化ニ依ツテ、國債消化ヲ要請サレル程度ハ低減サレテ居ル、反面ニ於テソレダケ民間ノ事業金融ハ滑ラカニナツテ居ルコト云フ考ヘテ居ラレナイ次第デアリマス

○松村(光)委員 ソコガ重點デアリマス、ソコデ第四ノ質問ニ移リマス、我國民間銀行ハ英國式ノ預金銀行デアリ、我國企業金融ガ巧ク行カナイノハ此處ニアル、預金銀行デアツテ、預金ト貸付ノ利鞘ヲ考ヘテ居ル、預金銀行ノ本質上、金融平常ノ場合ニハ、ドンドン強要シテ金ヲ貸スガ、一旦金融梗塞スルト——昨年ノ秋ノヤウナコトガ起ルト、民間銀行ハ事實當然ニムラ得ズ此ノ貸付ヲ回收シ引上ゲルカラ、ソコデ日本ノ企業金融ト云フモノハ巧ク行カナイ、是ハ我國金融機構ノ根本問題デアツテ、此ノ機構ガ直ラナイ限りハ、日本ノ企業金融ト云フモノハ確立シナイ、是ハ大問題デアリ、時間ガ掛ルカラ言ハナイケレドモ、ドウシテモ此ノ問題ニ關レテ行カナケレバナラヌノデアアルガ、今當リハ我國預金銀行ノ根本の本質ハ一朝ニハ直ラナイ、ソレダカラ民間銀行ノ方ニ付テ、特殊ノコトヲ考ヘナケレバナラヌ、今頻リニ廣瀨君ガ色々言ハレテ居ル

第一類第一號 豫算委員會議錄 第八回 昭和十六年一月二十九日
ガ、今日ノ民間銀行ハ大體手形貸付割引其ノ他ノ形ヲ主トシ、長期設備金融ト云フモ...

昭和十六年一月二十九日
礎トシテ金融スル、現在ノ我が民間銀行ハ、新ル大企業金融ニ關スル調査機關ガ尙未完...

イマシタガ、サウウツクヤウナ意味合ニ於キマシテ、最近即チ昭和十五年ヨリ生産力...

各種ノ重要産業、生産擴充ノ状態ヲ能ク説合ハセテ金融配置ヲスルノデナケレバ、今...

政府並ニ中央銀行ハ、民間ノ事業會社ニ對シ手形ヲ振出サシメテ金融スル、殊ニ此ノ「スタンブ」手形ハ、「ドイト」ノ戰時金融下ニ於テ非常ニ見レキ成績ヲ擧ゲテ居ル...

合セマシテ五億圓、尙ホハ社債トシテ發行スル分デアリマシテ、其ノ他ノ貸付金、前貸金、所謂社債前貸金ト云フヤウナモノ...

レドモ、ソレガマダ甚ダ不十分ナル、殊ニ大體今マデ社債ヲヤツテ、社債外ノ設備金融ニモ多少關レテハ居ルケレドモ、マダ...

昨年厚生省方出サレタ賃金統制令デアリマシテ、是ハ全國經濟觀察ニ參リ、ヤハリ賃金統制令ガ相當ナル「ショック」ヲ與ヘテ居ル、是...

段學がヨウト云フナラバ、此ノ賃金ノ總額ヲ抑ヘルコトハ矛盾デアル、厚生省ハ非常ニ研究シテ、全國幾多ノ工場ニ付テ統計ヲ取ツテ之ヲ決メタト云フガ、此ノ賃金統制規定ハ、能率ノ増進上非常ナ弊害ヲ起ス、是ハ地方官ニ一々同ヒテ立テテラナラバ直シテ宜イノダト云フノデアルカラ、伺ヒテ立テテ時ニ運用上善處サレ度イ、第二點ハ勞働者ノ最高賃金ノ抑制デアル、是ハ事變下ニ於テ餘リ高イ賃金ヲ取ル人ガ出來テ來テ、勞働者ノ奪合ヒガ起リ洵ニ困ルカラ、勞働者ノ賃金ニ、或ル最高ヲ決メヨウト云フコトハ、必ズシモ惡イ考ヘデハナイガ、是モ行過ギルト弊害ガ起ル、人間ノ能力ニハ制限ガナイ、非常ニ優秀ナ人ハ、他人ノ數倍モ十數倍モ能率ヲ擧ゲテ、高イ賃金ヲ取ルコトハアリ得ル、其ノ場合ニ、個々ノ勞働者ノ賃金ノ最高額ヲ抑制スルコトハ、能率増進上考慮ヲ要スル、ドイツイニ於テハ、之ヲヤツテ見タイケレドモ、大變弊害ガアルノデ、是ハ甚ダ拙カウツト云ツテ、其ノ運用上非常ニ改メテ居ル、デアルカラ此ノ賃金統制令中此ノ二ツノ規定ハ、今止メロト云ハスガ、運用ニ於テ、勞働能率ヲ害シナイヤウニ善處セネバナラス、之レヲ厚生大臣ニ簡單ニ御所見ヲ伺ヒタイ

○金光國務大臣 御答ヘ致シマス、賃金總額ノ制限ヲ致シタノハ、物價政策ノ見地カラ、賃金ノ一般ノ昂騰ハ之ヲ制限スル必要ガアルト云フノデヤツタノデアリマス、其ノ方法トシテ、御意見ノヤウニ個々ノ勞働者ノ賃金ヲ釘付ケニシマスコトハ、勞働能率ヲ阻害スル虞ガアリマスノデ、之ヲ避ケテ、成ベク勞働能率ヲ害セザル方式ト云フ見地デ考案サレタノデアリマス、是ガ運

用ニ當リマシテハ、賃金ノ高イモノヲ一律ニ抑ヘルコトヲセズニ、現狀ニ對スル急激ナル變更に對テ共ニ、勞働者ノ技能、能率、經驗年數、其ノ他ノ事情ニ留意致シマシテ、必要ニ應ジテ認可ヲシテ行ク考ヘデアリマス、又賃金ノ最高額ノ制限ハ、一般經驗工ニ對シテハ、特ニ法外ノ金額デナイ限リハ之ヲ抑制スルヤウナコトハシマセデ、比較ノ最高賃金ノ定メ易イ日傭労働者ニ付テ最高額ヲ制限スルコトニシテ居ルノデアリマスガ、是モ能率ニ惡影響ヲ及ボサナイヤウニ、各地方ノ事情ヲ考慮シテ金額ヲ定メテ居リマス、運用ニ付テハ御質問ノ御趣旨ニ副フヤウニヤリタイト思ツテ居リマス

○松村(光)委員 第二ノ御答ヘハ非常ニ結構デアリマスガ、第一ノ御答ヘハマダ不十分ト思ハレマス、是ハ大切ナコトデアル、個々ノ企業體ニ或ル期間ノ賃金總額ヲ細カク規定シテ抑ヘルコトハ、世界ニ類例ノナイ立法デアツテ、而モ非常ニ弊害ガアリマスカラ、是ハ運用上餘程巧クヤツテ賅ハナケレバナリマセ

次ニ勞働ノ質ヲ改善スル方策、又量ヲ改善スル方策ニ付テ私ノ考ヘヲ申上ゲマス、今マデ厚生省ガ色々ナコトヲヤツテ居リマス、洵ニ結構デアリマスガ、量ヲ殖ヤス方策トシテ、今マデヤツテ居ル外ニ新タニ私ノ方カラ私見ヲ申上ゲマス、第一點ハ鮮人勞務者デスガ、是ハ大分増加シタガ、ドウモ朝鮮ノ方ニ於テ事務ガ放活デアリマセス、ダカラ此ノ事務ノ放活ヲ圖ツテ貰フト同時ニ、逃亡者ガ頻々トシテ絶エマセヌカラ、鮮人勞務者ノ逃亡ヲ防止スル方策ヲ講ゼラレンコトヲ望ムコトデアリマス、第

二點ハ青少年ノ使用制限ガアリマス、洵ニ是ハ國家國民體育上必要ナル制限デアリマスガ、或ル期間、例ヘバ一年暫定ノ此ノ青少年使用制限令ヲ緩和サレタラドウカト云フコト、第三點ハ滿洲移民青少年デスガ、此ノ期間間ガアリマシテ、拓務大臣ハ洵ニ含著ノ御答ヘヲシテ居ラレマスガ、此時此ノ際一定期間暫定ノ此ノ滿洲移民ト、青少年義勇隊ノ三万ノ計畫ハ、少クモ今年一年間繰延ベ中止ノ要請デアル第四點ハ強制労働デアリマス、ドウシテモ此ノ際「ドイツイ」ノ「アルバイト」ノ「ヤウナ強制労働ガ必要デアリマス、文部省ハ學生ヲ歸省セシメテ働カセルト云フガ、ソナ緩慢ナコトハ駄目デス、學生ヲ休ミ中家ヘ歸シテ働カスト云ツタツテ、家ヘ歸ツテ働キハシマセス、此ノ時此ノ際或ル一定期間強制労働ヲ國家總動員法第一條ニ或ル程度マデヤルト云フ位ナ意氣込ミデナケレバ、日本ノ勞務動員計畫ノ問題ハ解決致シマセス、更ニ勞働時間延長、休日減少等ノコトモアリマスガ、量ノ問題ハ其ノ程度ニ致シマシテ、今度ハ質ノ問題デアリマス、質ノ問題ニ付テ厚生省ニ於テ既ニ種々ノ立案ガアリ、第一點ハ勞働手帳ヲ迅速實施デアル、是ハ何時カラヤル積リデアルカ、新聞紙上ニハ十月カラ實行スルト云フコトデアルガ、厚生省ハ至急法案ヲ議會ニ出サレルト同時ニ、是ハ十月ト云ハス、モツト速カケデハマダ勞働者ノ中ニ胡亂化ス人ガアリマスカラ、地方町村役場ニ勞働登録ノ制ヲ併セテ布カレンコトヲ希望シマス、ソレガ第一デアリマス、第二點ハ産業報國會ノ整備統制デアリマス、是ハ折角出來タ産業報國會

ノ整備統制ヲセラレンコトヲ希望シマス第三點ハ炭礦勞働者ニ對シ、強調週回ヲヤツテ居ラレマス、尙ホ重要ナル軍需産業、炭礦其ノ他ノ勞務者ニ對シ、移動防止令ヲ布イテ居ラレマスガ、是デハ思フヤウニ目的ヲ達シマセヌカラ、移動防止令カラ更ニ進ンデ國家總動員法ヲ以テ、長イコトハ要リマセス、或ル一定期間、少クモ一箇年位ノ間特ニ移動禁止令ヲ考ヘラレテハドウカ、是ハ非常ニ難カシイ問題ガ研究サレタイ、第四點ハソレト同時ニ勞務者ノ缺勤ガ非常ニ多イ、炭礦勞働ニ於テハ約七七八分ノ缺勤ガアル、之ヲ豫防スル缺勤防止對策ヲ講ゼラレンコトヲ望ミマス、第五點ハ應召者ノ復員デアリマス、是ハ陸軍大臣トシテ豫テ明確ニ御答ヘ出來ナイ問題デアラウガ、技術者並ニ勞務指導階級タル職工長、工場長ノヤウナ、特ニ重要ナル各方面ノ勞務指導階級ノ應召者ヲ復員シテ居リマス、ナイ、「ドイツイ」ハ之ヲ斷行シテ居リマス、第六點ハ勞務者ノ技術教育デアリマス、厚生大臣ニ伺ヒタイコトハ、今度ノ豫算ニ色々ナ經費ヲ大分取ツテ居リマスガ、此ノ勞務技術者ノ教育ハ、大體今年度ニ於テドノ位ノ人員ヲ養成シヨウト云フ考ヘデアルカ、此ノ勞務技術者ノ質ヲ改善スル教育ノ方針ヲ簡單ニ御伺ヒ致シマス、マダ質ノ改善方法トシテハ色々問題ガアリマスガ、一應今ノ勞務技術者養成ノ内容ヲ簡單ニ御伺ヒ致シマス

○金光國務大臣 御答ネノ朝鮮勞働者ノコトデアリマスガ……

○松村(光)委員 ソレハモウ結構デアリマス、時間ガアリマセヌカラ、最後ノ勞務者ノ點ニ付テ……

○金光國務大臣 青少年ノ雇入制限令ハ、時局産業ニ出來ルダケ多クノ勞働者ヲ吸收シタイト云フ意味デ、作成サレテ居ルノデアリマスカラ、此ノ運営ニ付テモ、時局産業ト其ノ他ノ産業トノ間ニ、特別ノ考慮ヲ拂ツテ居ル次第デアリマス、ソレカラ滿洲移民ノコトハ、拓務大臣カラ述ベラレマシタカラ、私ハ省略致シマス

其ノ次ノ強制労働ノ點デゴザイマスルガ、是ハ御尤モモ存ジマスガ、マダ今日マデハ、全面的ニ強制労働ノ點ト云フ所マデハ、如何デアラウカト存スルノデアリマスガ、軍需産業方面ニ於キマシテ必要ナ場合ニハ、現在ニ於テモ國民徵用令ノ發動ヲヤツテ居ルノデアリマスカラ、部分的ニハ實行シテ居ルノデアリマス、尙ホ十六歳カラ二十歳マデノ國民ヲ登録シテ居リマシテ、其ノ未就業者ニ對シテハ勞務動員計畫上殆ド全部ヲ就業セシムルヤウナ計畫ニナツテ居ルノデアリマス

ソレカラ勞働手帳ノコトデゴザイマスガ、是ハ昨日モ御答申上ゲタヤウニ、成ベク早ク勞働手帳法ヲ提案致シマシテ、之ヲ實行ニ移シタイト思ヒマス、是ハ移動防止上最モ必要ノ制度デアルト思フノデアリマス

其ノ次ハ産業報國會運動ノ指導ニ關スルコトデゴザイマスガ、政府ハ産業報國會運動ガ生産力擴充、高度國防國家體制ノ確立上極メテ重要ナル使命ヲ有スルモノト認メマシテ、是ガ指導擴充ニ努メテ参ツタノデアリマスルガ、昨年十一月本運動ノ中央本部トシテ日本産業報國會ガ創立サレタ次第デアリマス、今後トモ其ノ組織ヲ十分ニ活用致シマシテ、産業報國會ノ徹底、能率ノ増進、技能ノ向上其ノ他勞務者ノ福利厚生

施設ノ充實等ニ關シテ必要ナル事業ヲ實施セシメテ、勞働力ノ保全増強ニ更ニ一段ノ力ヲ致シタイト存スルノデアリマス

次ニハ移動禁止デアリマスガ、此ノ移動禁止ト云フコトマデハ如何デアラウカト存ジマスガ、勞働手帳ヲ實行致シマスレバ、移動ハ稍、完全ニ近イ程度ニ防止ガ出來ルト思フノデアリマス

ソレカラ缺勤防止策確立ノ點デゴザイマスガ、最近工場事業場方面ニ於ケル缺勤率ハ増加シテ居ル様デアリマシテ、ソレガ生産能率ニ大イナル影響ヲ及ボシテ居ルモノト考ヘラレマス、缺勤増加ノ原因ハ各種ノ事情ニ依ルモノト考ヘラレマスガ、政府ト致シマシテハ、産業報國會精神ノ昂揚ニ努メテ、各種ノ方策ヲ考究實施シテ居ル次第デアリマス

次ニ勞務者ノ技術教育ノ徹底、是モ御尤モ御答申上ゲタヤウニ、生産能率ヲ向上スル爲メハ、職長トカ、伍長トカヲ初メ、一般勞務者ノ技術ヲ練習セシムル必要ノアリマスコトハ申上ゲモアリマセス、政府トシテモ先般設立セラレマシタ大日本産業報國會等ヲ中心トシテ、是ガ對策ヲ樹立セシメル豫定デアリマス、尙ホ詳細ノコトハ政府委員ヨリ述ベサセタイト存ジマス

○松村(光)委員 簡單ニ宜シウゴザイマスガ、ドウ位ノ人間ヲ計上サレテ居ルノデアリマスカ

○金光國務大臣 ソレカラ尙ホ附加ヘテ置キマスガ、勞務ノ執行上特ニ重要ナルコトハ技術者ノ養成ト云フコトデアツテ、是ハ總動員法ノ運用ニ依ツテ工場事業場ヲシテ義務ノ養成ヲ行ハシメテ居リマス外、全國重要ナル地ニ於テハ機械工養成所ヲ設ケ

テ幹部職工ノ養成ニ努力シ、又技術檢定制度ヲ設ケテ技術者ノ發見及ビ其ノ資質ノ向上ニ努メテ居ル次第デアリマスガ、其ノ數ハ政府委員ヨリ答辯致サセマス

○内務政府委員 幹部工ノ養成ハ約七百ヲ狙ツテ居リマス、ソレカラ技術者養成ノ數ハ金屬、機械器具、鑛山、化學ニ互リマシテ其ノ數ハ公ノ席デハ發表出來マセヌ

○松村(光)委員 万臺デスカ

○内務政府委員 ソレヨリモ遙カニ多ウゴザイマス

○松村(光)委員 數ガ大事デアリマス、ナゼカト云フト、「ドイツイ」ハ戰爭ヲヤル爲メ、戰前五箇年間ニ二百二十万人ノ特別技能者ヲ養成シテ、戰爭ニ關セテ、斯様ナ七百八千人ノ人間デハ駄目デス、「ドイツイ」ハ百二十万人養成シタカラ間ニ合ツタノデアリマス

○金光國務大臣 先ノ御答ヲ補充致シマスガ、其ノ數ハ相當多量デアリマス、ケレドモ此處デ其ノ數ヲ的確ニ申上ゲルコトヲ差控ヘマス

○松村(光)委員 ドウカ企業院ニ於カレテモ、是ハ大切ナコトデアリ、「ドイツイ」ハ戰爭ヲスル準備ノ爲メ戰前五箇年間ニ三萬三千回ノ講習ヲ連續シテ、百二十万人ノ熟練職工ヲ養成シタ、今ニナツテ七百人バカリデナク、ドウカは何トカ徹底底底ニ熟練者並ニ半熟練者ヲ結構デス、熟練者ハ間ニ合ヒマセス、半熟練者ヲ養成シナケレバナラス、而モ各種ノ工場ニ割當テ強固シテ養成シナケレバ間ニ合ヒマセス、「ドイツイ」ハ八十人以上ノ金屬工場ニハ必ズ一定數ヲ持タセル、全國ノ主ナル工場ニ強固シテ熟練工並ニ半熟練工ト云フモノヲ養成サシタ、此ノ時此

ノ際速カニ成スルノデナケレバ到底戰時下ノ急ニハ間ニ合ヒマセヌ

○増田委員 松村君ニ御注意致シマス、豫テ量ノコトハ成ベク質問ヲ避ケ、又政府トモソレヲ述ベラレヌ方宜イト云フコトニナツテ居ルノデアリマスカラ、ドウゾ敵性ニ利便ヲ與ヘルヤウナコトハ御憤ミ願ツテ置キタイト思ヒマス、唯多量ナラ多量ト云フコトデ御諒解願ツテ置キタイト思ヒマス

○松村(光)委員 私ハ「ドイツイ」ノ數ヲ言ツテ居ルノデ、コチラノ數ヲ言ツテ居リマセヌ、其ノ邊ハ御心配要リマセヌ、要スルニ勞務再編成ニ付キマシテハ色々問題ガアルケレドモ、最早量ノ充實ケケハ間ニ合ハナイト云フコト、又今日デハ農村其ノ他ノ關係カラ量ノ充實ハ思フヤウニ行カナイ、隨テ質ノ充實ニ全力ヲ擧ゲナケレバナラス、今日厚生省ノ方デハ随分色々事ヲヤツテ居ラレ、ソレハ私悉ク承知致シテ居リマスガ、尙ホ此ノ上トモ企業院ト厚生省ハ質ノ充實ニ全力ヲ擧ゲナケレバ間ニ合ハナイト云フコトヲ簡單ニ要請シテ置キマス

最後ニ第四番目ノ根本原因デアル、第一統制經濟ノ缺陷、第二工業金融、第三勞務再編成、第四ハ資材原料不足問題デアル、之ハ英米依存ヲ脱却シタ今日ニ於キマシテハ已ムヲ得ナイ、之ヲ出來得ル限リ東亞共榮圈内デ出來ルダケ補充スルト同時ニ、配給機構ヲ整備充實スルコトニアルノダガ、遺憾ナガラ此ノ配給機構ガ亦巧ク行カナイ、巧ク行カナイト云フコトハ政府自ラモ認メテ居ル、重要物資ノ鐵石炭、總テノ重要物資ノ配給機構ガ巧ク行カナイ、着手後マダ時ガ経タナイカラト云ハバソレマデデアルケレドモ、ドウカ政府ハ全力ヲ擧ゲテ、配給

機構ノ整備調節ニ努力シテ貫ヒタイト思フ、今一二ノ例ヲ擧グレバ、又鐵ト石炭デ...

タリ。制ヲヤルト云フコトハ名案ト思フガ、商工省ハ新案ナコトヲ許可スル意思アリ...

ス、ソコデ此ノ資材原料ノ問題デモ足りナク、イモノヲヤレル方法ハマダ色々アル、配給...

テ居ルモノガ直ク利用セラレルノデアリマス、設備ノ問題モアリマスガ、今ノ設備ヲ...

○松村(光)委員 私人側、二ノ例ヲ擧ゲタノデ、實ハ時間モアリマセヌカラ、何レ商...

○松村(光)委員 是ハ一ツノ良案デアツテ、例ハ鐵ト石炭トノ關係ハ、商工省ガ二階...

○津雲委員 昨日ノ豫算總會ニ於ケル三善信房君ノ質疑ニ對スル東條陸相ノ御答辯ニ...

ガアル、之ニ對シテ從來大政翼賛會ハ、政府ト表裏一體ノ關係ニアル所ノ政事社ナ...

居ルノデスヨ、斯ウ云フヤウナコトヲ商工省ハ御存ジナイ筈ハナイ、ダカラシテ原料...

ソコデ私ノ質疑ハ多岐ニ互リマシテ、十分意ヲ盡サナイコトヲ遺憾ト致シマスガ、結論...

○津雲委員 昨日ノ豫算總會ニ於ケル三善信房君ノ質疑ニ對スル東條陸相ノ御答辯ニ...

ガアル、之ニ對シテ從來大政翼賛會ハ、政府ト表裏一體ノ關係ニアル所ノ政事社ナ...

ニ公然ト行ハレテ居ルノデアル、併シ私ハ昨日實ハ稍安心ヲ致シマシタ、平沼内務大臣ノドナカノ質疑ニ對シテ御答辯中ニ、大政翼賛會ハ單ナル結社デアル、併シナガラ治安警察法ヲ以テ取締ルコト云フ明快ナル御答辯ガアツタ、隨テ將來ハ斯カルコトハナイト私ハ考ヘルノデアルガ、併シナガラ尙且ツ更ニ私ハ此ノ問題ニ付テハ、一層明快ナル御答辯ヲ内務當局カラ伺フテ置ク必要ガアルト思フ程、ソレ程、大政翼賛會ノ講演會ニ於ケル言論ノ惡影響ハ深刻デアリ、其大デアルノデアリマス、國家ノ爲ニ是非内務當局カラ明快ナル御答辯ヲ得テイト思ヒマス

○樞密院委員 津雲サンノ御質問ニ御答ヘ致シマス、御質問ノ御要旨ハ反國策の言論ニ對シテ内務省ハ將來如何ナル取締方針ヲ持ツカ、特ニ大政翼賛會ノ集會等ニ於ケル左様ナ言論ガアル場合ニ於テ如何ナル方針ヲ持スルカ、是ガ御質問ノ御要旨ト存ジマス、反國策の言論ニ對シマシテハ、其ノ内容ヲ慎重ニ檢討致シマシテ、苟モ是ガ治安秩序ヲ紊ル虞アリト認ムル場合ニ於キマシテハ、斷乎トシテ取締ノ萬全ヲ期シタイト思ヒマス、第二ノ假ニ斯クノ如キ言論ガ

大政翼賛會ノ集會等ニ於テ行ハレタル場合ニ於キマシテモ、御話ニアリマシタルガ如ク大政翼賛會ニ對シテ治安警察法ノ適用ハ昨日内務大臣ヨリ御答辯アツタコトト盡キテ居ルノデアリマス、即チ治安警察法ノ中政事ニ關スル結社トシテノ適用ヲ除ク以外ノ分ニ付キマシテハ、悉ク適用サレルノデアリマス、隨ヒマシテ只今ノ如キ大政翼賛會ノ集會ニ於ケル言論ガ治安警察法ノ第十條ノ所謂治安秩序ヲ紊ル場合ニ於キマシ

テハ、固ヨリ此ノ法規ノ命ズル所ニ從ヒマシテ、取締ノ万全ヲ期スルト云フコトヲ明確ニ御答ヘテ致シテ置キマス
○津雲委員 國家ノ爲ニ結構ニ拜致シマス、内務當局ノ御答辯ニ對シテ敬意ヲ表スルト同時ニ、其ノ厲行ヲ國民代表ノ一人トシテ御願ヒシテ置キマス
○増田委員長 是ニテ休憩致シマス、午後一時カラ開會致シマス

午後一時二十分再開議
○増田委員長 休憩前ニ引總キ會議ヲ開キマス、總理大臣ノ出席ヲ要求シテ居ルノデアリマスルガ、偶々參議會開會中デ、ソレニ出テ居ラレマシテ、成ベク早クコチラニ出席ニナルト云フコトデアリマス、總理大臣以外ノ分カラ質疑ヲ開始メラレンコトヲ望ミマス——一松君

○石坂委員 議事進行ニ付テハ、政府ニ要求シテ居リマスル材料ハ續々出テ參ツテ居リマスケレドモ、私共最モ緊急ヲ要スル、即チ本日ノ質問ノ資料トシテ見テ置キタカツト思フテ居リマスル材料ガ參ツテ居リマセヌ、即チ大政翼賛會ニ關スル政府ノ豫備金支出ニ關スル費用ノ明細、ソレカラ大政翼賛會ニ於ケル有給職員ノ俸給、及ビ前職ノ給料ト比較シタモノ、サウ云フモノヲ要求シテ居リマスケレドモ、一ツモ出テ居リマセヌ、斯様ナ調ベハ直ダ出セル管

デアリマス、海軍省其ノ他餘程時局ヲ繁劇ナオ役所ハ、却テ早ク來テ居リマス、企畫院ノモ其ノ通り早ク來テ居リマスガ、大藏省ハ如何ナル理由出テ、斯クノ如ク遅延スルトナルカ、委員長ヨリ督促ヲ願ヒマス

○増田委員長 承知致シマシタ、大藏省ノ政府委員ガオイデニナツテ居ルデセウガ、今ノ御答辯ニナツテ居ラウト思ヒマス
○一松委員 只今御指名ヲ受ケマシタガ、私ノ質問ハ主トシテ近衛總理大臣ニ對シテナシタイノデアリマスカラ、近衛總理大臣ノ御出席ニ相成リマスルマデ、他ノ方ニ順位ヲ譲リマス、近衛總理大臣ガ御出席ニ相成リマシタナラバ、其ノ方ハ甚ダ恐縮デアリマスガ、御中止ヲ願ヒマシテ、直ダ私ニ譲ラセテ戴キタイト云フ條件ヲ申シテ置キマス

○北委員 議事進行ニ付テハ、私モ總理大臣ニ對シテ近衛内閣成立以來ノ聲明ヲ中心トシテノ質問デアリマスカラ、近衛總理大臣ノ出席ノ時間ガハツキリ分リマスルナラバ、ソレマデ待ツテ、他ノ方ニ御發言ヲ御願ヒシタイト思ヒマス

○平川委員 外務大臣ニ對シテ質問ヲ留保致シテ置キマシタガ、外務大臣オ見えニナツテ居リマスカラ、簡單ニ御許シテ願ヒマス
○増田委員長 此ノ場合平川君ニ發言ヲ許シマス——平川松太郎君

○平川委員 外務大臣ニ數項ニ互ツテ質問シタイノデアリマスガ、時間ノ都合上一括シテ簡單ニ質問致シタイト思ヒマス、外務大臣ノ御盡力ニ依リマシテ、佛印ト、タイノ國トノ間ニ於テ、停戰協定ノ話ガ進メラレマシテ、兩國トモソレニ應ジマシタコトハ、洵ニ喜ビニ堪ヘナイノデアリマス、實ハ昨年ノ十月頃デスカ、タイノ國ト佛印トノ間ニ事ヲ構ヘマシタ其ノ當時ニ於テ、何故日本ハ停戰協定ヲセラレナイノデアラウカト、

吾々一般ニ心配シテ居リマシタガ、承ル所ニ依リマス、其ノ當時カラ外務大臣ハ心掛ケテオイデニナラレテ、漸ク過般其ノ申入ヲナサレ、之ニ兩國ガ應ジタコト云フコトデアリマス、所ガ其ノ後ノ報道ニ依ツテ見マス、サイゴンノ會議ハ暗流ガ動イテ居ル、即チ、イギリス、等ノ策動ニ依リマシテ佛印モ、タイノ國モ、俄カニ強硬ニナツタト云フヤウナ報道モアルノデアリマスガ、此ノ點ハドウ云フ風ニナツテ居リマスガ、若シ御發表ガ出來レバ承リタイノデアリマス

其ノ次ニハ日蘭會商ノ結果、既ニ昨年小林商工大臣ガ御歸リニナル時ニ、石油ノ問題ダケハ略々解決シタコト云フコトデアリマス、サウシテ蘭印側ノ方ニ於キマシテハ、此ノ結果ヲ既ニ發表シテ居リマシテ「バタワイ」ニ於キマスル日本ノ新聞モ、之ヲ報道シテ居ルサウデアリマス、サウ云フ狀況デ蘭印ハ勿論、諸外國ニ於キマシテモ、此ノ石油ノ問題ノ解決ハ詳細ニ分ツテ居ルノデアリマスガ、獨リ日本人ノミ之ヲ知ラナイ、日本ノ國民ハ申スマデモナク、石油ノ問題ニ付キマシテハ非常ニ關心ヲ拂ツテ居リマシテ、非常ニ心配ヲシテ居リマス、サウ云フ時ニ於キマシテ、此ノ石油問題ノ解決策ト云フコトニ付キマシテ、之ヲ詳細ニ承ルコトガ出來レバ、國民ハ非常ニ安心ヲスルデアラウと思ヒマス、ドウカ此ノ點ガ御發表出來レバ承リタイト思フノデアリマス、此ノ點ニ付キマシテ提君カラモ御質問ガアリマシタガ、日蘭會商ハ此ノ石油問題以外ハ、餘程政治的折衝ハ困難デアラウト思ヒマス、言フマデモナク、小林商工大臣ガオイデニナル前マデハ、陸軍大將ノ小磯サンガオイ

デニナルト云フ風評ガ一般ニアツタ、ソレガオイデニナラナカッタノデ、是ハ日本ハ實力ヲ行使スル意思ガナイノダ、斯ウ云ウ風ニ蘭印側デハ見テ居リマシテ、日本ハ與シ易イト云フコトニナツタ、蘭印側ガ一番恐レテ居リマシタノハ、日本ハ此ノ會商ガ皆ク行カケレバ、最後ニハ實力ノ行使ヲシナイダラウカ、此ノ點ヲ心配シテ居リマシテ、既ニ到ル處ニ於テ「トーチカ」トカ、輕鐵ヲ築キ、或ハ海岸ニハ砲臺ヲ設ケ、水雷ヲ敷設シ、色々ナコトヲ致シマシテ防備ヲシテ居ル、其ノ時ニ於テ小磯大將ガオイデニナラナクテ、小林商工大臣ガ出デニナツタト云フコトト非常ニ安心ヲシテ見極メテ日蘭會商ニ蘭印側ハ與ノ手ヲ出シテ、何時マデモ之ヲ引張ツテ行ク策ヲ講ズル、サウ云フコトニナツテ居ラレバ、日蘭伊ノ三國同盟ガ出來タ、ソコデ蘭印側ノ新聞ハ、日本ハ蘭印ノ敵デアル、「ドイツ」ハ、「オランダ」ノ敵デアル、其ノ「ドイツ」ハ、「オランダ」同盟ヲ締結シタノデアリカラ、日本モ敵デアル、敵國カラ共存共榮トカ云フコトハ片腹痛イ、日本カラ共存共榮呼バハリヤセラレト云フコトハ大イニ迷惑ダ、斯ウ云フ風ニ蘭印側ノ新聞ノ論調デ、蘭印ノ輿論ハサウ云フコトニナツテ居ルノデアリマス、サウ云フ場合デアリマスカラ、他ノ政治的折衝、或ハ經濟的折衝モ餘程困難デアラウト思ヒマスガ、石油ダケハ是ハモウ會社ト直接ノ交渉ガアツタノデアリマス、又實業トシテ經驗アル小林商工大臣、或ハ其ノ他ノ人ノ御盡力ニ依リマシテ、此ノ石油問題ガ解決シタコト云フコトハ、非常ニ是ハ國家ノ爲ニ喜ブベキコトト思ヒマス、ドウカ此ノ點ハ出來ル範圍ニ於テ御發

表セラレテ、國民ヲシテ安心セシムルヤウニ御願ヒシタイト思ヒマス
ソレカラ松岡外相ノ此ノ前ノ議會ニ於ケル聲明ニ對シテ、蘭印側ノ「ファン・モーク」經濟長官ガ又反對ノ聲明ヲシテ居ル、其ノ聲明ハ「蘭印ノ地域ヲ外國ノ權威ノ下ニ置クガ如キ新秩序ヲ斷乎トシテ退ケル、且ツ蘭印ヲ「アジア・ブロック」ニ包含スルコトヲ指ス如何ナル國際經濟關係ノ發展ヲモ歓迎シク我ガ輸出ノ九割ハ東亞諸國以外カラ仰イデ居ル、之ヲ見テモ單ナル地理的位置ガ決定スル要素デハナイコトハ明カデアル」、斯ウ云フヤウナ實ニ都合ナク聲明ヲシテ居ルノデアリマス、此ノ聲明ニ對シマシテ、外務大臣ハ何トカ反對ノ聲明ヲナサレ考ヘ、ハナイノデアリマセウカ、過日此ノ席ニ於キマシテモ、「アメリカ」ニ對シマシテ非常ニ強硬ナル御決心ヲ演說ナサイマシテ、日本ノ國民ハ非常ニ心強ク感じテ居ルノデアリマス、蘭印ニ對シマシテモ、斯ウ云フヤウナ勝手ナ聲明ヲセラレテ、日本ガ之ヲ沈黙シテ居ルト云フコトニナリマス、益々日本ニ對シテ輕侮ノ念ヲ深クスル、ト同時ニ、土人ノ側ニ於キマシテモ、今マデ、日本人ヲ非常ニ尊敬シ、日本ニ對シマシテハ敬意ヲ拂ツテ居ルノニ拘ラズ、斯ウ云フ軟弱ナ態度ニ對シマシテハ、土人マデ日本ノ態度ニ對シテ憤ラヌヤウナ感情ヲ抱クノデハナイカ、斯ウ云フ風ニ考ヘルノデアリマス、ドウカ此ノ點ニ付キマシテ、若シ御盡力ニ依リマシテ、此ノ席上ニ於キマシテ、松岡外相ノ固キ決心ノ程ヲ伺ヒタイノデアリマス

○松岡國務大臣 御答ヘ致シマス、第一點ニ付キマシテハ英米等ノ策動ガアツテ、多少行儀シテ居リハセスカト云フ御懸念デノ御質問ト考ヘテ居リマスガ、サウ云フコトハ今マデハ認メテ居リマセヌ、先日述べマシタヤウニ、私トシテハ國ノ名ヲ指サスコトハドウカト思ヒマスガ、日本ノ調停申入ヲ受諾セシムルニ至ルマデノ間、某國等ガ相當猛烈ナ裏面工作ヲヤツテ居リマシタコトハ事實デアリマスガ、一旦我ガ調停申込ヲ佛印ト、兩國ガ受諾致シマシテカラハ、サウ云フ形跡ヲ特ニ今日マデ認メテ居リマセヌ、唯併シハマダ秘密ニ懸念ヲ達ガテ居ルノデアリマスカラ、遺憾ナガラ今日ソレヲ御話スルコトハ出來マセヌガ、停戰協定ノ爲ニ交渉ヲ行フ場所ニ付テ、尙ホ異議モアルヤウデアリマス、寧ロサウ

云フ細カイ點デ、折角今懸談ヲ達セテ、早ク纏マリヲ付ケヤウトシテ居ルノデアリマス、御諒承願ヒマス
第二ガ蘭印カラ輸入スル石油ノ問題ニ付テノ御質問デアリマス、是ハ全然御同感デアリマス、私モ一日モ速カニ國民ニ數量等モ發表致シマシテ、安心ヲ與ヘタイト冀ツテ居ルノデアリマス、私一々ノコトハ存ジマセヌガ、諸外國ノ方面ハ無論漏レテ居ルト思ヒマスケレドモ、蘭印當局者ト我ガ當局者ノ間デハ、過般漠然トシタ公表ヲ致シテ居リマス、アレ以上公表スルコトハ、マダ相談ガ難マツテ居ラヌノデアリマス、唯是ダケ申上ゲテ置キマス、小林代表ノ引揚ゲルマデニ、一番大事ナ石油ノ問題ニ付テハ、過般本會議デ私ガ簡單ニ述べマシタヤウニ、寧ロ私共トシテ交渉ガ非常ニ困難デアラウト想像シテ、其ノ困難ナ中ニモ是ダケハセメテ得タイト思フテ居リマシタ量ヨリモ、ズツト澤山ノ量ヲ蘭印當局者ト決定致シタノデアリマス、尙ホ其ノ以外ニ普通通ノ商取引トシテモ、相當ノ量ヲ得ラレルノデハナイカト思ヒマス、併シ此ノ席上デ數字等ヲ舉ゲルコトダケハ差控ヘタイト思ヒマス、御諒承願ヒマス、第三ノ私ノ議會ニ於ケル言明ニ對シテ、オランダノ經濟長官ガ聲明ヲ發シテ居ルコトニ付キマシテハ、過般既ニ此處デ私ノ見ル所ハ明カニシテ置イタノデアリマス、ソレデ御承知ヲ願ヒタイノデアリマスガ、又御問ヒニナリマシタノデ、出來ルダケ簡單ニ御答致シマスドウモ歐米人ニハ吾々ノ八紘一字ト云フヤウナ考ヘガ分リニクイノデアリマス、ドウモコチラノ日本語デ言ツタ言葉ヲ正解スルコトガ困難ナヤウデアリマス、言ウテ彼

等ノ納得スルヤウニドウ譯シテ宜カ、
是非ハ非常ニ困難デアリマス、私ハ自分ガ淺
學ノ爲メデアリマセウガ、八絃一字ト云フ
ノヲ、ドウ云フ風ニ譯スカ、未ダニ適當ナ
譯語ガ見付カリマセス、西洋人ハ半分冗談
カ分リマセウガ、**「エイト・コーナード・ドーム」**
カ言ツテ居リマス、是ハ冗談半分ノ譯文ミ
タイナモノデ、ソレヲ見タノデハサツバリ
分ラヌ、元來ソレハ分ラヌト云フコトデハ
ナイ、吾々ノ根本ノ思想、我ガ國ノ此ノ大理
念ト云フモノハ、歐米ノ現代文明ニ育ツガ
根氣宜ク海外ニ説イテ聽カスヨリ外仕方ガ
反駁ヲシテ見タリヌル、ソレカラ只今御注
意ノ、アア云フコトヲ言ウタ場合ハ反駁ヲ
スベキチヤナイカト云フコトモ、是モ尤ウ
ナノデアリマシテ、私モ初ハ時々腹ガ立ツ
テ、サウシヨウカト思ヒマシタケレドモ、
是ハ反駁スルカシナイカ、又ドウ云フ場合
ニドウ反駁スルカト云フヤウナコトハ、一
ツハ外交作戦ヲヤル上ニ於テ、手加減ヲシ
ナケレバナリマセヌノデ、其ノ邊モ一ツ御
諒察ヲ願ヒタイ、唯此ノ機會ニ私ハウキリ
言明致シテ置キマスガ、帝國政府ハ斷ジテ
軟弱ナ態度ヲ執ツテ居ルノデハゴザイマセ
ス、根本ニ於テ固イ決心ヲ持ツテ居ルノデ
アリマス

ナ疑感ヲ懷ク向キモ、絶無デハナイヤウニ
見受ケラレマスカラ、今中シマシタヤウ
ニ中々彼等ガ我ガ大理想ヲ掴ムコトハ難カ
シノデアリマスガ、サウシテ一體コシナ
至曲サレク見方ハナイ管デアリマスガ、ド
ウモ今中シマシタヤウナ譯デ、又近代文明
ノ一ツノ大疾患デアル何デモ力ヲ以テ強行
スルトカ、又ハ征服スルトカト云フヤウナ
考ヘ方ノ人カラ見ルト、我ガ民族ノ物ノ考
ヘ方、吾々ノ眞ノ念願ナド理解出来ナイノデ
ハアリマセウガ、兎モ角平川君モ御尋ネナサ
レ、又私モ先程カラ反覆シテ居ルヤウニ、兎
角誤解ガアル、能ク理解セヌ、斯ウ云フ傾キ
ガアリマスノデ、私ハ此ノ機會ニ於テ吾々ノ考
ヘテ居ルコト、企圖シテ居ルコトノ意義ヲ明カ
ニシテ置キタイ、ソレハ必ズシモ無益デア
ルマニ依ツテ存ジマス、指導權ト申シマス、
人ニ依ツテハ耳障リニ聞エル、角ガ立ツテ
聞エルカモ知レマセヌシ、又誤解ヲ生ズル
カモ知レマセヌガ、吾々ガ八絃一字ト云フ
我ガ民族ノ傳統の大理想ヲ以テ、大東亞ヲ
指導セント期スルト云フコトニ、別ニ不都
合ナ點ハナイ管デアルト、私ハ考ヘテ居ル
ノデゴザイマス、此ノ大東亞圈内ニアル諸
國ノ諸民族ヲシテ、各、其ノ所ノ得シムル
ヤウニ努力スル、指導スルト云フコトハ此
ノ圈内ニ於ケル諸國、諸民族、否世界ノ何
人デモガ、若シ虚心ニ之ヲ見ルナラバ、洵
ニ結構ナルコトトシテ、共鳴歡迎スベキデ
アルト思フデアリマス、我ガ大和民族ハ
肇國以來ノ傳統の大理想ヲ、實ハ獨リ大東
亞ガケテハナク、行クハ全世界ニ互リ
テ實現セント期スルコトトシテ居ルデアリマ
ス、唯此ノ際ハ世界ノ現狀ト、我ガ國現在
ノ國力共ノ他ノ事情ニ顧ミテ、我ガ國ハ

大東亞ニ之ヲ限リ、歐洲ハ獨伊ニ於テ同
様ノ理想實現ニ當ルト云フコトニシタノデ
アリマス、ソレハ日獨伊三國條約デ明カニ
サレテ居リマス、北米合衆國ノ如キモ、若
シ同様ノ理想實現ニ志スナラバ、南北米ノ
天地デ、之ニ任ズレバ宜シカラウト思ハレ
マス、何處ノ強國デアラウトモ、若シ我ガ
民族ト同様ノ大理想ヲ抱キ、或ル地境ヲ指
導シ、進ンデハ世界ヲ誘導セントスルナラ
バ、其ノ考ヘ方ハ結構ナルコトデアリマシテ、
何モ我ガ國ガ之ヲ專賣ニシテ居ル譯デモナ
イ、之ニ反對スベキ謂ハレモナイ、唯問題
ハ其ノ場合、果シテ其ノ事ニ付テ之ヲ實現
スルガケノ能力ト資格トガアルカト云フコ
トデアルデアリマス、結局何レノ國民又
民族ガ、眞ニ斯カル大理想ヲ實現スルノ資
格ト力トヲ持チ、斯カル大任ニ堪ヘルカト
云フコトニ問題ハ歸スルデアリマス、差
當リ我ガ民族ハ、大東亞其範圍内ニ於テ、
八絃一字ノ大理想ヲ以テ、前述ノ通りノ意
義ニテ指導シヨウト云フデアリマシテ、
先ツ以テ此ノ圈内ニアル諸民族、諸國民ガ
能ク我ガ民族ノ眞意ヲ了解シテ、此ノ聖業
ニ協力セント期スルヲ希望スルデアリマス、
サウシテ指導トハ讀シテ字ノ如キモノデア
リマシテ、歐米列強ト雖モ我ガ眞意ヲ了解
シ、之ニ共鳴シ來ツテ協力セントスルモノ
ヲ拒ムモノデハ、固ヨリゴザイマセヌ
ソレカラ最後ニ、第四ノ御質問ニ付テ御
答ヘ致シマスガ、平川君ノ御指摘ニナリマ
シタヤウナ不正、暴行等ノ事件ガ我ガ在留
民、又ハ日本カラ參ツタ人ニ對シテ往々ニ
シテ行ハレテ居ルコトハ、洵ニ遺憾デゴザ
イマシテ、是等ニ付テハ極力之ヲ正スコト
ニ努メテ居リマス、但シ決シテ軟弱デハゴ

ザイマセウガ、喧嘩腰デヤツテ居ルノデハ
ゴザイマセス、一方多年ノ宿題デアル所ノ
經濟交渉ヲシテ居リマスノデ、之ニモ鑑ミテ
出來ルダケノ抗議モシ、又其ノ是正ヲ求メ
テ居ルノデゴザイマス、ニモ拘ラズ寧ろ最
近ハ、此ノ間申上ゲマシタヤウニ、ドウモ
新聞論調共ノ他ガ、甚ダ日本ニ對シテ宜シ
クナイデアリマス、是ハ洵ニ吾々モ遺憾
ニ思ツテ居リマスガ、其ノ啓發ニ付テモ亦
極力努力ヲシテ居リマス

○平川委員 私人質問ハ是デ打切りマス
○増田委員長 石坂豊一君
○石坂委員 石坂豊一君 内相、農相及
ビ厚相ニ對シテ質問ヲ致シタイノデアリマ
スルガ、只今首相ハマダ御見エニナツテ居リ
マセヌ、ソレデ共ノ質問ハ留保サセテ數キ
マシテ、内相ニ二三御伺ヒ致シタイノデア
リマス、實ハ内相ニ伺フコトハ首相ト關聯
スルコトガ多クイデアリマスガ、關聯スル
部分ヲ省キマシテ内相ノ御意見ヲ伺ツテ見
タイノデアリマス、先ツ私共國民ハ、支那
事變ノ最大主眼トスル所ハ防共デアルトシ
テ居ルノデアリマス、隨テ赤キ思想ノ退治
ニ對シテハ全國民一致シテ之ニ當ツテ居ル
コトハ申スマデモナイノデアリマス、所デ
之ニ類似スルガ如キコトガ地方ニテラハ
現ハレルノデ、之ニ對シテ地方民ハ一種ノ
不安ヲ感ジテ居ル事實ガアルノデアリマス、
極メテ飛ビ越エテ其ノ事實ヲ申上ゲマスガ、
大日本赤誠會ナルモノハ、是ハ元大政翼贊
會ノ發生前ハ大日本青年黨ト稱セラレテ居
タノデアリマス、其ノ會ニ於テ一種ノ會旗
ヲ用ヒテ居リマス、會ノ旗デアリマスカラ
ドシナモノヲ作ツテモ宜イトハ言ヘルカモ
知レマセウガ、如何ニモ其ノ旗ハ日本ノ尊

嚴、森嚴ナル國旗ト餘程反シテ居ルノデア
リマス、即チ日本ノ國旗ハ白地ニ赤ク出来
テ居ルノデアリマスガ、此ノ會ノ會旗ハ赤
地ニ白ク印章ヲ抽出シテ居ルノデアリマス、
ソレデ世人ハ之ニ對シテ如何ナルコトヲ申
シテ居ルカト申シマス、ソレヲ國旗ハ赤
地ニ「ハンマー」ト繪ラ交又シタモノヲ白地デ
抽出シテ居ル、又蔭介石政權ノ旗ハ容共政策
ヲ執ツタ其ノ時カラ、青天白日旗ヲ赤地ニ
白地デ抽出シテ居ル、斯様ニシテ此ノ赤誠
會ハ赤地ヲ以テ白地ヲ抽出シテ居ル點ニ於
テ、如何ニモ「ソ」ト容共政策ノ旗ト同一
ノ趣向ノ下ニ成立ツテ居ルガ如キ感ヲ致シ
テ居ルノデアリマス、如何ニモサモアルガ
如ク考ヘラレドモデアリマス、其ノ儼タル
日本帝國ノ表象デアル所ノ此ノ國旗ヲ侵犯
シタモノノヤウニ世人ハ考ヘテ居ルノデア
リマスガ、此ノ點ニ付テ内務省ニ於テハ
斯様ナ會旗ハ一向差支ナイ、斯ウ云フ御考
ヘデアリマセウカ、尙ホ續キテ申上ゲマス、
此ノ赤誠會ハ私ハ今會旗ノコトヲ申上ゲマ
シタガ、此ノ赤誠會ノ行動ニ付テモ大イニ
吾々ハ寒心スベキ點ヲ發見致シテ居ルノデア
リマス、即チ此ノ赤誠會ハ石川縣ノ各地
ノ町村役場ニ照會ヲ出シテ居リマス、ソレ
ハ大政翼贊トノ關係ガ密接ニアルノデア
リマス、之ヲ讀ミ上ゲマス、何々町村役
場御中トシテ、大日本赤誠會何郡支部ト云
フ名義デ出シタモノデ「諸君陳者今般縣支
部ヨリ革新の有爲ノ人物ヲ推薦方指令有之
候ニ付、左記條項ニ基キ貴町ヨリ那那推
薦一名又ハ二名、町村推薦五名、又ハ十名
御推薦相成度別紙履歷書ニ各々自筆捺印ノ
上、當支部迄御送付相成度御依頼候也、記
一、人格高潔、革新の熱アル者、一、舊政

黨ニ關係淺ク經歷前科ナキ者、一、青壯年
層ニ信望アル者、有爲ノ人物ノ擧出ハ貴町
村ノ繁榮延イテハ國家ノ重大事ニ有之候」
ト書イテアル、尙ホ其ノアトニ斯ウ云フコ
トヲ書キ添ヘテアル、尙ホ大政翼贊會ニ對
スル新人物ノ推薦ハ警察當局ト赤誠會(大日
本青年黨)ノ外無之ヲ念ノ爲メ申添候、也來
ル二十日迄ニ到着スル據御手筈願度推薦人
材無之時ハ、而倒テ別紙用紙御返送願度候
也、津村ナリ町村ニ於テハ此ノ赤誠會ト大
政翼贊會トハ表裏一體ヲ成スモノト信ジテ
居ルノデアリマス、而シテ此ノ赤誠會ノ連
中ガ縣下到處遊説致シマシテ、近衛内閣
ノ政策ハ不徹底ナリト主張シテ廻ツテ居ル
ノデアリマス、以テ吾々ノ言フコトガ眞ニ
革新ナリト唱ヘテ地方民ヲ惑ハシテ居ル事
實ガアルノデアリマスガ、之ニ對スル内務
大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイ

○警備政府委員 赤誠會ノ國旗ガ防共ノ精
神カラ見テドシナモノデアラウカト云フ御
質問ノ趣意ト存ジマス、御承知ノ通り防共ノ
コトニ付キマシテハ段々内務大臣カラ御話ガ
アリマシテ、教化ノ方面、是ノ足ラザル點
ニ付キマシテハ、警察ノ全力ヲ盡シテ當ツテ
居ルコトデアツテ、斯ウ云フ關係カラ致シマ
シテ、防共ト云フコトニ付キマシテハ全力ヲ舉
ゲテ内務當局トシテハ致シテ居ルノデアリマス、
差當リノ問題トシテ此ノ國旗ガ防共ト相背
馳スルト云フ只今ノ結論ハマダ認メテ居ラ
ナイノデアリマス、唯此ノ赤誠會ノ簡々ノ
行動乃至ハ言論、文書共ノ他ニ付キマシテ、
違法ノコトガアレバ勿論デアリマス、表面
法律上ニ背反シナイトシテモ、法律ヲ犯シ
得ルヤウナ懸念ガアル場合、私共トシテ十
分豫防的ニ使命ヲ警察トシテ致シタイト思

フ次第デアリマス、之ヲ以テ御諒承願ヒマ
ス

○石坂委員 只今ノ御答辯ニ依ツテ一
部諒解致シマシタケレドモ、其ノ會旗ニ付テ
ハ如何ナルモノヲ用ヒテモ自由デアルト云
フ御意見ノヤウニ拜承シマシタ、併シ我ガ
日本ノ儼タル森嚴ナル國旗ト裏返シニナツ
テ居ルモノヲ用ヒテ宜シイト云フコトハ、
ソレデ差支ナイモノデアリマセウカ、私ハ
洵ニ寒心ノ至リニ堪ヘナイノデアリマス、
之ニ付テ内務大臣ノ御意見ヲ拜承致シタイ
ノデアリマス

○平沼國務大臣 ドウ云フ會旗デアルカ能
ク私心得マセヌデシタカラ只今大官カラ聽
キマシタ、御話ノ通り日本ノ國旗ニ對シマ
シテ非常ナ裏ニナルト云フヤウナコトハ固
ヨリイカナイコトデアアルコトハ明カデアリ
マスガ、只今用ヒテ居リマス會旗ガ果シテ
ソレニ該當スルヤ否ヤハ考究ヲ要スルダ
ラウト考ヘマス

○石坂委員 少シク判明ヲ缺イタヤウ
ナ御辯明デ、私ハ平沼内相ニ之ヲ詰寄ル考ヘ
ハ聊カモ持ツテ居ラス、併シ津村ナ地方民
ハ之ニ依ツテ甚ダシク惑ハサレテ居ルコト
ハ事實デアリマス、故ニ嚴重ニ之ヲ御調べ
下サイマシテ、若シ我ガ國民ノ團體觀念ト
反スルヤウナコトガアツタラバ由々シキ
大事デアリマスカラ、事ノ廣ク擴マラナイ
先ニ嚴重ナ御取締ヲ願ヒタイ、續キ御尋
ネテ致シマス、大政翼贊會ガ設立サレ、而
シテ新體制ガ唱道サレルヤウニナリマシテ
カラ、地方ニ於キマシテ色々ノ説ガ出テ參
ツタノデアリマス、私ハ昨年ノ七月、丁度
米内内閣總辭職ノ日ニ、皮肉ニモ神戸港ヲ
出帆シマシテ、三箇月間海外ニ居ツタノデ

アリマス、ソコデ歸ツテ參リマス、横濱
埠頭ニ私ヲ出迎ヘタ選舉民ノ一人ガ私ニ對
シテ特ニアナタニ申上ゲルコトガアツテ遙
遙出テ來タ、能ク聽イテ呉レ、一路平安デ
御歸リニナツタ御祝ヒハ別トシテ、其ノ前
ニ申上ゲタイコトハ、今ハ國內ハ新體制デ
アル、ドウカ此ノ新體制ヲ能ク御見極メニ
ナツテカラデナケレバ批評シテ貰ツテハ困
ル、縣ノ方デハ多年功老熟ノ代議士ガ、
新體制ト云フモノハドシナモノカ分ラヌト
云フコトヲ言ウタ爲ニ、若僧ノ特高課長ニ
呼付ケラレテ、散々油ヲ搾ラレタト云フ説ガ
アル、私共モ亦アナタマデモ引張ラレルヤ
ウニナツテハ由々シキ大事デアルカラ、暫
ク東京ニ居ツテ形勢ヲ見テ居ツテ呉レト忠
告シテ呉レタ、ソレカラ段々ソレヲ御調ベテ
見マスト、吾々ノ尊敬スベキ野村嘉六君ノ
コトデアツタノデアリマスガ、ソレハ「デマ」
デアリマシタ、唯新體制ニ付テ何カ批評シ
タト云フノデ、ソレヲ取調ベタコトモナイ
特高課長ガ、野村ヲ呼付ケテ散々油ヲ搾ツ
テヤツタト云フコトガ傳ヘラレタノデアリ
マス、サウ云フコトデアリマスガ、ソレガ
段々縣ノ役人ナドニウツリマシテ、色々ナ
コトガ起リマシタケレドモ、幸ヒニモ平沼
内相ノ御就任以來此ノコトガ一掃サレマシ
テ、洵ニ明朗ナル縣ノ首腦者ヲ戴イテ居ル
コトハ、縣民ノ幸ヒトスル所デアアルノデア
リマス、然レニ茲ニ尙ホ一ツ某ナル學務部
長ガ居リマシテ、是ガ新體制ニ大カブレヲ
シテ、四十歳以上ノ者ハ職場カラ去ラナケ
レバナラス、老人引込メト云フコトヲ申ス
ノデアリマス、ソコデ斯様ナコトヲ申シマ
ス爲ニ、四十歳以上ノ小學校教員ハ非常ニ
恐慌ヲ起シテ居ル、是ガ事實デアル、縣會

ニ於テ問題トナリマシテ、當ノ部長ハソノコトヲ言フコトハナト申シマスカレドモ、多數ノ教員ハソノレヲ聞イテ居ルノデアリマス、内務大臣ハサウ云フ縣民ニ一ノ過激ヲ言動ヲ弄スルヤウナ官吏ニ對シテハ、之ヲ御取調ニナリマシテ、宜シク相當ノ處分ヲシテ裁カナケレバナラヌト信ズルノデアリマス、私昨日モ宮中ノ歌御會ニ於キマシテ御發表ニナリマシタ陛下ノ御製ヲ拜シマシテ、實ニ感激ヲ致シテ居ルモノデアリマス、アケカクノ寒キハマヘニ年オイシアマモ運ヘリアミノエモノヲ、此ノ御聖旨ハ年老イシ漁師ガ寒サヲ買シテ働イテ居ル、實ニ此ノ時局ニ於テ若キ者ハ戰線ニ出テ、サウシテ年老イテ者ハ山田ヲ守ツテ居ルコト云フ、明治天皇ノ御歌ノ御聖旨ト全然一致シテ居ル所ノ、優渥ナル聖旨ノ含マレテ居ルコトハ勿論デアリマス、今日ハ老イタル者モ若キ者モ、男モ女モ、其ノ職場々ヲ守リマシテ、一億一心トナツテ帝國ヲ護ラナケレバナラスノデアリマス、サウ云フ時代ニ於テ若キ者ガ今戰線ニ働イテ居ル、若キ者ハ戰線ニ行ツテ骨ヲ曝セ、年老、女ハ銃後ヲ護ツテヤルト云フコトデナクテハナラス、然ルニ正ニ老熟シテ居ル所ノ、小學校ノ第二世ヲ育成シテ呉レル者ニ對シテ、之ヲ輕蔑シ、其ノ職員ヲ侮辱スルガ如キ言動ヲ弄シテ、ソレヲ新體制ノ役人ナリト稱スルガ如キコトハ、是ハ國民悉ク同意セザルコト考ヘルノデアリマス、恐ラクハ内相ニ於カレテモ此ノ點ニ付テ至極御同感ノコト考ヘマスガ、ドウゾ能ク此ノ事實ヲ御調ベ下サイマシテ、速カニ斯クノ如キ亂暴至極ノ吏員ヲ一掃シテ戴キタイ、之ニ付テハ内務大臣ノ御所見ヲ

御伺ヒシタイ
○平沼國務大臣 只今御尋ネノ事實ニ付キマシテハ、篤ト調査ヲ致シマシテ、大體御述べノ趣旨ハ私モ全ク御同感デアリマス、今後斯ウ云フ方面ニ於キマシテ間違ツテ言動ヲナシ、間違ツテ指導ヲナス者ガゴザイマスレバ、是等ニ對シテハ勿論戒防ヲ加ヘル心底デゴザイマス
○石坂委員 御明答ヲ得マシテ満足致シマス、續イテ御尋ネヲ致シマス、今回官吏制度ガ改正サレマシテ、特別任用ノ中ヨリ抜擢サレマシテ、三名ノ地方部長ヲ御採リナツタデアリマス、是ハ至極結構ナコトデ、是ガ爲ニ幾千ノ特別任用ノ吏員ガ奮興起スルコトデアラウト信ジテ居ルノデアリマス、唯此ノ上ニ更ニ隨テ得テ留ラシムヤウナコトヲ要求スルノデアリマス、ケレドモ、サウ云フ特別任用ノ部長ハ、警察部ノ如キハ別デアリマス、學務、經濟其ノ他ノモノハ、成ベク其ノ土地ニ於テ働カセテ方宜シクハナイカ、長ク働メテ居ルト云フコトハ、縣民トシテ合ツテ居ル、縣ノ事情ヲ熟知シテ居ルト云フ所ニ、老練達識ノ才餘ヲ養フコトガ出來テ居ルノデアリマス、今一應サウ云フ人ヲ其ノ縣ニ置イテ、其ノ地位ヲ高メテ、廣ク範圍ニ於テ働カセテ方宜シクハナイカ、伺ヒマス、内相閣下ハ、地方官ハ成ベク同一ノ處ニ置イテ働カセセルト云フ御趣意ノヤウデアリマス、願ハクハ地方出身ノ者ヲ地方廳ニ用ヒテ、サウシテ落着イテ最後ノ職場トシテ働カセルヤウニシタラ如何ナモデアラウカ、私ハ官吏制度ノ改正ノ爲ニ、政府ノ執ラレタル今回ノ御方針ニ感謝ヲ表スルト共ニ、更ニ一段此ノ點ニ關スル内務

大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイ
○平沼國務大臣 只今御述べノ通り、今回官吏任用令ヲ改正致シマシテ、在來資格ヲ有シテ居リマセズ人ノ中デ、極メテ達識ノ人モゴザイマス、是等ハ今後モ採用致シマスル積リデ居リマス、而シテ官吏ハ同ジ場所、同ジ地位ニ長ク置クコト云フコトハ、是ハ當然ナコトデゴザイマス、在來餘り早ク送り過ギマシタ例モ多クアルヤウデアリマス、是ニハ又自ラ事情ノ存スルコトデアラウト存ジマス、此ノ度地方官ノ異動ヲ行ヒマシタ際ニモ、極メテ短期間デ送ヘタモノノ例外トシテゴザイマス、是等ハ何レモ事情ノアルコトデアリマス、今後モ成ベク長ク其ノ土地ノ人ヲ其ノ地方ニ置クコト云フ方針ハ改メマセズ、之ニハ時ニ特別ノ事情ノ爲ニ、例外ノ生ズルコトアルコトヲ御承知ヲ願ヒタイと思ヒマス
○石坂委員 内務大臣ニモウツ同ツテ置キマス、内務省ニ於カレマシテ、砂防費ノ爲ニ御心配ナサツテ居ルコトハ、私共廣キ砂防ノ被害地ヲ持ツテ居ル者ト致シマシテハ、洵ニ喜ンデ居ル次第デアリマス、而シテ此ノ砂防ニ付テハ、近年官民共ニ大ニ注意ヲ拂ハレマシテ、相當ノ金額ヲ豫算ニ計上致シテ居ラレラユウデアリマス、併シ是デ吾々ハ満足シ得ルノデアアリマセズ、一方砂防工事ヲ致シマス、又他ノ方面ニ於テ續々ト大切ナル國土ガ崩壊ヲシテ居ル、殊ニ近年軍事ノ需要トシテ、多數ノ立木ガ伐ラレテ行クノデアリマス、其ノ荒廢地ノ範圍モ亦段々廣クナルモノト見ナケレバナラスノデアリマス、仍テ此ノ財政多端ノ場合デアリマセウガ、冀クハ内務省ニ於カレテハ、尙ホ一層此ノ

砂防ノ費用ヲ多ク取ラレマシテ、所謂水ヲ治ムルハ山ヲ治ムルニ如カズノ通りデアリマス、之ニ力ヲ入レテ戴キタイノデアリマス、而シテ此ノ砂防工事ニ對シテ認識ヲ深メテ行ク同時ニ、從來ヨリ來ツタ所ノ治水工事モ亦併進シテ行ツテ行カナケレバラスノデアリマスガ、此ノ頃聞ク所ニ據リマス、吾々ハ現ニ其ノ現場ニ於テ知ツテ居ルノデアリマスガ、折角砂防工事ヲ豫算ヲ取リマシテモ、治水堤防ノ方ノ技師連中ガ、ソレハ普通ノ河川工事ニ屬スルモノデアラカラ、砂防工事ハヤツテハ相成ラス、斯ウ云フ風ニ所謂技師ト技師トノ間ニ摩擦ガ起ツテ居ルノデアリマス、此ノ摩擦ハ何レモ自分ノ權限範圍ヲ侵サレテハ相成ラヌトシテ、熱心ノ餘リ主張サレル結果デアリマス、ケレドモ、迷惑ヲスルモノハ其ノ地方デアアルノデアリマス、國土ハ一日々損滅サレテ行クノデアリマス、一日遅レレバヤハリ百年ノ悔ヲ貽スコトニナルノデアリマス、同ジ局内、土木課内ニ於テ、斯様ナコトガ起ルト云フコトハ、我が國官僚ノ弊害ノ一端ヲ物語ツテ居ルモノデアリマス、ケレドモ、ドウカ内相ニ於カレテハ、斯様弊害ヲ斷テ切ラレマシテ、速カニ砂防工事ノ促進ヲ圖ルヤウニ御配慮ヲ仰ギタイノデアリマス、之ニ付テノ御所見ヲ拜聴致シタイ
○平沼國務大臣 只今御述べノコトハ、當局ニ於キマシテモ十分ニ努力積リデアリマス
○石坂委員 農林大臣ニ伺ヒタイ、只今内相ニ伺ヒマシタル通り、近年山林ガ非常ニ伐採ヲサレテ居ルノデアリマシテ、お題シ下サツタ材料ニ依リマシテモ、其ノ計

數ヲ擧ゲ得ラルルノデアリマス、併シ數量ヲ言フコトハ控ヘロト云フコトデアリマス、是ハ言フテ惡イコトデアリマス、思ヒマスガ、木材ノ材積及伐ラレテ居ル面積ト云フモノハ申上ゲマセズ、又一面ニ於テ、森林火災ト云フモノハ今ニ於テ根絶ヲ致サヌノデアリマス、昔ハ山火事ト云フモノハ北海道ト樺太トケニ限ツタモノノヤウニ吾々ハ考ヘテ居リマシタガ、此ノ頃森林火災ト云フモノハ、内地ニ於テモ相當ノ面積ニ達シテ居ルノデアリマス、根絶トコロカ、土地ニ依ツテハ前年ヨリモ多ク被害面積ヲ擧メテ居ルコト云フヤウナ課デアアルノデアリマス、茲ニ於テ農林大臣ハ此ノ山林ノ林力ヲ保護スルコトニ付テ、ドウ云フ御成算ガアルノデアリカ、又森林火災ノ方面ニ於テドウ云フ手配ヲシテ居ラレノデアリカ、是ハ内務大臣ノ所管ニモ關係ガアリマセウガ、主トシテ農林省ノ國有林其ノ他ニ於ケル方面カラ見マシテ、農相ノ關係セラレル範圍ガ廣イノデアリマスカラ、農相ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、尙ホ御答辯ノ如何ニ依ツテハ、更ニ御質問致シタイと思ヒマス

前ニ於テ、無立木ノ状態ニ放置セラレテ居ル所モ相當アルノデアリマス、サウ云フモノヲ引括マシテ、我が國ノ森林面積ノ大部分ヲ占メマス民有林ニ對シマシテ、適正ナル森林ヲ維持育成シテ參リタイ、斯ウ云フ考ヘテ持チマシテ、改正森林法ヲ昨年ヨリ實施致スコトニ致マシテ、民有林ニ對スル施設案ヲ立テ、之ニ依ツテ民有林ノ經營ヲシテ參ルヤウニ致シ、其ノ獎勵ノ費用ヲモ得マシテ、是ヨリ實施ヲ致シテ參ラウト云フ考ヘテ持ツテ居リマス、尙ホ健力昭和四五年カラデアリマシタカ、民有林ニ對シマシテ、二十年計畫ヲ以テマシテ、造林ノ獎勵計畫ヲ致シテ、經費ヲモ頂戴シテ居ルノデアリマス、此ノ外ニ最近ノ民有林状態ニ對處致シマスル爲ニ、是ヨリ十箇年間ニ互リ、百三十二万町歩ノ造林計畫ヲ新タニ致シマシテ、之ニ依ツテ大部分ノ伐採シタ跡地其ノ他ノ植林ニ力ヲ盡シタイ、斯ウ云フ考ヘテ持ツテ居ルノデアリマス、尙ホ森林火災ノ警防ニ關シマシテハ、御話ノ通りニ非常ニ注意ヲ致シテ警備ヲ致サナケレバナラヌノデアリマス、之ニ對シマシテモ相當ノ費用ヲ以テマシテ、警防ノ實ヲ擧ゲル豫定デアリマス

○石坂委員 私ハ同僚諸君ヨリ食糧其ノ他農産物ニ付テ農林大臣ノ御意見ヲ伺ツテ居ラレノデアリマスカラ、ソレト重複ヲシナイ積リデ、今此ノ森林ノコトヲ伺ツテ居ルノデアリマス、農林省ノ方ニ於テ、食糧問題ニ重點ヲ置カレテ、森林行政ニハ少シ手ガ緩クナツテ居ルノデハナイカト考ヘラレマス、主トシテ此ノ問題ヲ伺ツテ居ルノデアリマスガ、此處ニ昭和十五年年度農林省所管豫定經費追加要求書ガ出

テ居リマス、之ニ依リマスト、モウ年度ハ三月バカリシカナイノニ、林道復舊工事ノ補助ヲ要求シテデアリマス、私ナゼ斯様ナコトヲ問フカト言ヒマス、林道ナドノ如キハ金ヲ取過ギテ居ル、サウシテ植林ノ方ニ付テハ、ドウモ引合ハスカラ植林ガ十分ニ出來タラ九割マデ補助シテヤルト云フコトニナリマシタナラバ、如何ナモノデアラウカ、之ニ反シテ必要ナラザル所ニ林道ヲ付ケルコトハ、オ止メニナツタラ如何デスカ、其ノ實例ヲ擧ゲロト仰シヤレバ、私ハ擧ゲマス、町村ニ行ツテ見マシタル林道ヲ付ケセルト云ツテ樹モ何モナイ所ニ林道ヲ付ケセセルト云ツテ獎勵シテ居ラレル所ガアルノデアリマス、斯ウ云フ國家財政ノ困難ノ場合ニ、ドサツサ粉レニ金ヲ取ツテ、サウシテ付ケスデモ宜イ林道ナドヲ造ラナイデ、折角ヤラナケレバナラス所ノ植林ノ方ニモツト御力ヲ集中シテ戴ク、所謂森林ハ森林ガ十分ニ一ツノ重點ヲ取ツテ行ク、斯ウ云フコトヲシテハ如何ナモノデアラウカ、此ノ點ニ付テノ農相ノ御意見ヲ聽キタイ
 モウ一ツ昨年ノ林産物生産ノ統制規則ニ付テデスガ、アレハ生産ヲ妨ゲテ居ル、林産物ノ増産ヲ圖ラナケレバナラス此ノ場合ニ、統制ノ嚴重ニシテ一々検査スルト云フノハ實施出來ルモノデハナイ、重木木材ヲ一ツ所ニ持ツテ行ツテ検査ヲ受ケルト云フコトモ出來ナイ、又チラバラニナツテ居ル所ノ木材ヲ検査員ガ何十里モ山坂駈ケテ検査ノ出來ルモノデハナイノデアリマスカラ、其ノ間ニ於テ檢印ヲ人ニ持タシテ見タリ、色々ナコトガ起ル、サウソルトソレガ一方ニ於テ又犯罪トナル、私ハ昨年吉野ノ山奥

○石黒國務大臣 只今御質問ノ、木材及ビ木炭ノ需要ノ増大ニ依リマシテ、山林ノ立木ノ伐採ガ著シク行ハレ、又森林火災等モ各地ニ於テ、相當從來カラアル、ソレ等ニ對シテ森林保護、造林ノ關係ヲドウシテ行カト云フ御尋ネノヤウデアリマス、森林ニ關シマシテハ、御話ノ通りニ非常ノ過伐、早伐ト云フヤウナ事實ガ事變以來著シクナツテ居リマス、殊ニ民有林ニ於キマシテ左様ナコトガ著シイノデアリマス、御承知ノ通りニ民有林ニハ、伐採ノ關係ヨリモウ一ツ

第一類第一號 豫算委員會議錄 第八回 昭和十六年一月二十九日

話デアリマスガ、此ノ分ハ木炭需要ノ非常ニ緊急ナル事情アリマスノニ對應致シマシテ、速カニ製炭搬出ヲ致サナケレバナラスヤウナ一部ノ地方及ビ南九州ノ風水害ニ遭ヒマシテ、林道ノ墾殖杜絶致シマシタヤウナ地方ニ對シテ復舊ト云フヤウナコトヲ含ミマシテ部分ノ費用ニ過ギナイデアリマス、左様ニ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス、尙ホ林道ノ費用ガ餘分ニ參ツテ居ツテ、不必要ト云フヤウナ所ガ、ヨク地方ニアルサウデゴザイマスガ、サウ云フコトハナイヤウニ是カラヨク調ベマシテ、不必要ノ所ニハヤラスヤウニ嚴重ニ致シタイト思ヒマス

伐採搬出ヲ主ト致サナイデ、造林ヲ森林政策ノ主眼ニ置イテヤルヤウニセナケレバイカスト云フ御趣旨ハ、洵ニ其ノ通りダト考ヘマス、森林ハ人工ヲ以テマシテ國土ノ上ニ國當ノ蓄積ヲ致シマス所以デゴザイマスガ、同時ニ天然力ガ非常ニ手傳ツテ呉レテ、知ラス中ニ國ニ貯材ガ出來ルノデアリマス、我が國ガ此ノ時局ニ當面ヲ致シマシテ、木材ニ、衣服材料ニ、薪炭ニ、凡ニル方面ニ兎モ角モ耐エ得テ今日マデ來テ居ル所以ノ相當ノ部分ハ、從來ノ森林ノ貯蓄ノ賜ト考ヘテ居ルノデアリマス、一年モ早ク植林ヲ致シマシテ、人工及ビ天然ノ協力ニ依リマシテ、速カニ國土全面ニ互ツテ貯蓄ヲ實行致スノガ森林政策ノ主流デナケレバナラスト云フコトハ、全ク御同意デゴザイマス、其ノ意味ニ於キマシテ、先ヅ十箇年計畫ノ民有林百三十二万町歩ノ造林ニ是ヨリ取掛リタイト、斯ウ云フ考ヘデゴザイマス林産物ノ統制檢査ト云フコトニ關シテハ、全ク不必要ナルカラ廢スルヤウニト

云フ仰セデアリマスガ、是ハ又ソレソレノ理由ガアリマシテ參ツテ居ルノデアリマスカラ、俄カニ之ヲ廢止スルコトニ付キマシテハ御同意中ニ於テ發見ナラス、唯其ノナリ方ガ煩瑣ニ失シ、改善ヲ要スベキモノガ多クアルト云フヤウナコトハ、前議會ニ於テ御強調ニナツタサウデアリマシテ、前議長モ御諒諾ニナツタト云フコトデアリマスガ、是ハ出來ルダケサウ云フ不便ヲ民間ニ與ヘテハイケンナイデアリマス、統制、隨テ檢査等ノ必要ナル場合ニ於テ、之ヲ實行スルト云フコトハヨク行カナケレバナラナイガ、出來ルダケ簡易ニ便宜ニ致サナケレバナラスト云フコトハ、當然前議長カラモ引續ク受ケマシテ、其ノ後大イニ簡便ニ致シクデアリマス

テ戴イテ、他ノ方カラ内務大臣ニ質問ヲシテ戴イタ方方議事ノ進行上大變便利デアラウト思ヒマスガ、

○石坂委員 私人實ハ總理ノ御答辯如何ニ依ツテ内務大臣ニモウ一度伺ツテ置キタイコトガアルノデスカラ、ソレハ留保シテ置キマス、ソレデ他ノ方ニ代ルコトハ一向差支アリマセズ

○増田委員長 總理大臣ガ見エマシタ

○一松委員 總理大臣ガ見エマシタカラ私ニ發言ヲ御許シテ願ヒマス

○増田委員長 承知致シマシタ、御約束デスカラ其ノ通り實行致シマス

○一松委員 私人ハ大政翼賛會ノコトニ關シマシテ總理大臣並ニ内務大臣、軍部兩大臣ニ私ノ有ツテ居リマス疑ヒヲ解イテ戴キタイデアリマス、先ヅ第一ニ事實ヲ確カメマシタ上デ私ノ申上ケルコトヲ進メテ見タイノデゴザイマスガ、此ノ大政翼賛會ノ規約デゴザイマス、是ハ週報ノ臨時號ノ「新體制早ワカリ」内閣情報部發行ノ第二百八號ニ登載セラレテアリマス規約ニ付テ伺ツテ見タイノデアリマス、大政翼賛會規約ト題シマシテ、第一條カラ第十六條マデノ規定ガゴザイマス、此ノ規定ハ其ノ後變更セラレズシテ此ノ儘ニ存續シテ居ルノデアラウト思フノデアリマスガ、先ヅ此ノ點ニ付キマシテ總理大臣アラセラレ總理大臣ノ御意見ヲ承ツテ見タイノデアリマス、御都合ニ依レバ此處ニ持ツテ居リマスカラ之ヲ御覽ニ供シテモ宜シウゴザイマス

ケレバナリマセヌガ、總理案トノ仰セラレマスル此ノ大政翼賛會規約ノ第五條ニ斯ウ云フ規定ガゴザイマス、本會ニ左ノ役員ヲ置ク、總裁一名、顧問若干名、總務若干名(内若干名ヲ常任トシ總裁ハ内閣總理大臣ノ職ニ在ル者之ニ當ル、顧問及總裁ハ總裁之ヲ指名ス)此ノ第五條ノ規定ハヤリ御改廢ニナリマシタ大政翼賛會規約中ニ現存致シテ居ルノデゴザイマセウカ、ソレヲ御確カメテ致シマス

○近衛國務大臣 其ノ點ハ現存シテ居リマス

○一松委員 ソコデ私ハ前以テ御断リヲ申上ゲテ置キマスガ、大政翼賛會ノ運動ニハ私ハ全幅ノ賛意ヲ表シテ居ルモノデアリマス、否私ハ自分カラ進ンデ其ノ運動ニ參加スルノ熱意ヲ持ツテ居ルモノデアリマス、即チ萬民翼賛、一億一心、職分奉公ト云フコトニハ大賛成デアリマス、此ノ三大目的ハ私ノ持ツテ居リマス週報ノ舊規約ノ第二條ニ規定シテアルノデゴザイマスガ、此ノ第二條ノ趣旨ハ此ノ儘改正サレタモノノ中ニモ現存シテ居ルノデゴザイマセウカ、先ヅソレヲ伺ツテ、ソレカラ私ノ考ヘヲ申述ベテ見タイノデアリマス

ニ反對ノ動キノアルコトハ、此ノ會ガ憲法ニモ依ラズ、憲法以外ノ法律命令ニモ依ラズ、即チ官制ニモ依ラズ、治安警察法ニモ依ラナイ、ソレガ爲ニ反對スル理由ニナツテ居ルノデハナカラウカト思フノデアリマスガ、此ノ點ニ對シマシテハ、昨日平川委員ノ質問ニ對シマシテ私ノ算數ヲ致シテ居リマス内務大臣カラ詳細ニ其ノ蒙リ解イテ戴キマシタコトヲ私ハ非常ニ喜ンデ居ルノデアリマス、其ノ内務大臣ノ御意見ニ依リマシレバ、是ハ治安警察法ノ第一條ノ政事ニ關スル結社デハナイガ、同法ノ第三條ノ公事ニ關スル結社ニ相當スルモノデアリ、斯様ナル御説明ヲ承リマシタコト、私モ初メテ法規ニ依ラナイ結社デアリ、團體デアルト云フ世間ノ誤解ハ茲ニ解消シタモノデアルト存ジマシテ、翼賛會ノ爲メ非常ニ喜ンデ居ルノデアリマス、サウ致シマスルト、此ノ御解釋ニ依レバ是ハ憲法ノ第二十九條ノ「日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス」ト云フ條規カラ流レ出マシタ所ノ治安警察法ノ第三條ノ規定ニ準據シテ措ヘラレタモノデアリマスカラ、憲法ニモ據ラズ、法律ニモ據ラナイモノデアリ、官制ニモ據ラナイモノデアリカラ、吾々ハ此ノ大政翼賛會ト云フモノニ對シテハ、滿幅ノ賛意ヲ表スルコトハ出來ナイト云フ理論ハ、解消シタモノデアラウト思フノデアリマス、此ノ點ニ關シテ、先日川崎委員カラ、首相並ニ法制局長官ニ御尋ね致シマシタガ、其ノ時ニハ、法律上ノ根據ハ御示シガナカツタノデ、甚ダ遺憾ニ思ヒマシタガ、右ノ内務大臣ノ御説明ニ依リ初メテ諒解スルコトガ出來タノデアリマス、此ノコトハ近衛總理大臣ニ於キマシテモ、

勿論内務大臣ト同一御意見デアラウト思ヒマスガ、如何デアリマセウカ、總理大臣ノ御意見ヲ伺ヒマス

○近衛國務大臣 全ク同一意見デアリマス、私ハ進ンデ私ノ疑ヒヲ解カシテ戴キタイノデアリマス、此ノ第五條ノ「總裁ハ内閣總理大臣ノ職ニ在ル者之ニ當ル」スウ云フコトニ規定セラレテ居ルノデアリマスガ、憲法第十條ト此ノ五條ノ規定トノ關係ハ、ドウナルノデアリマセウカ、此ノ點ニ付テ私ハ疑ヒヲ有ツテ居ルノデアリマス、憲法第十條ニハ「天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス」云々トアリマス、此ノ第十條ニ依レバ、天皇ガ總理大臣ヲ任免スルコトハ一點疑ヲ入ルベキ餘地ガナイノデアリマス、即チ、天皇ハ憲法ニ依リ、所謂任免大權ヲ御行使遊バサレルノデアアルコトハ、論ズルマデモナイノデアリマス、果シテサウデアリマシタラバ、此ノ規約ノ第五條ノ總理大臣ノ職ニ在ル者ガ、私ハ大政翼賛會運動ト云フ其ノ運動ニハ賛成デアラケレドモ、翼賛會ノ總裁ニナルコトハ厭ヤデスト、新ニ新任セラレタル總理大臣ニ於テ總裁就任ヲ拒否シタル場合ニハ、ドウ云フコトニナルノデアリマセウカ、其ノ邊ヲ一ウ伺ツテ置キタイノデアリマス

ルヨリ致シ方ナイノデアリマス

○一松委員 能ク分リマシタ、サウナケレバナリマイト思フノデアリマスガ、サウナケレバナルト、其ノコトハ獨リ總理大臣バカリデハナク、所謂參議、顧問等ノ指名ヲ受ケタル國務大臣、若シタハ政府ノ役人ノ方モ、同ジク總理大臣カラ、貴下ヲ顧問ニスル、貴下ヲ參議ニスルト云フ指名ヲ受ケマシタ時ニ、私ハ厭ヤデスト云フ者ガアツタト致シマスレバ、ヤハリ其ノ者ヲ強制スルコトノ出來ナイコトハ、勿論デアラウト思フノデアリマスガ、如何デアリマスカ

○近衛國務大臣 ソレハ勿論サウデアリマス

○一松委員 サウ致シマスルト、政府ノ所謂大政翼賛會運動ト云フモノハ、政府ト表裏一體デアルト云フコトガ、全ク薄弱ニナツテ參ルノデアリマス、其ノ點ニ付テ私共ノ疑ヒハ、總理大臣ガ總裁タルコトヲ拒ム、總理大臣ノ指名ヲ受ケタ所ノ國務大臣ヤ、其ノ他ノ政府ノ役人ガ其ノ翼賛運動ニ參畫スルコトヲ拒ムト云フコトニナリマス、所謂政府ト翼賛會トハ表裏一體デアルト云フ會ノ企圖スル本當ノ責任ヲ果スコトガ出來ナイ運動ニナルト思フノデゴザイマスガ、如何デアリマセウカ、總理大臣ニ伺ヒマス

令ハ其ノ通りニ行ハレルコトハ、議論ナイト思フノデアリマス、併シナガラ萬一近衛總理大臣ガ何等カノ事情ニ依リマシテ辭職サレルヤウナコトガナシトモ限リマシマス、私共ハ此ノ時局下ニ辭メテ實ツテハナイマセウケレドモ、何等カノ事情ニ依ツテ御辭メニナラナケレバナリマイト云フヤウナ時ニ問題ガ起ルノデアリマス、辭職奏上ノ際、天皇陛下ノ御下問ニ依ツテ、後任者ヲ奏薦スルト云フヤウナコトモゴザイマセウカ、サウ云フ時ニ辭職ヲ申出タ總理大臣ガ或人ヲ内閣ノ首班ニ奏請スルニ方リ、豫メ其ノ人ニ對シ君ハ總理大臣ニナレバ、翼賛會ノ總裁ニナラナケレバナラスゾト云フコトハ出來マス、假ニサウ云フ約東ガアツタト致シマシテモ、陛下ガ其ノ人ニ大命ヲ降サナイト云フコトニナツテ、他ノ方ニ大命ヲ降スト云フコトニナレバ後任總裁ヲ得ルコトガ出來ナイト云フコトニナルデアリマセウカ、サウナリマスルト此ノ大政翼賛會運動ト云フモノニ非常ニ嫌入ルコトニナル、即チ政府ト翼賛會トガ所謂表裏一體ト云フコトニナラナイコトニナル、私ハ此ノコトヲ非常ニ惜シムノデアリマス、ドウカサウ云フ場合ニモ、ヤハリ表裏一體ノ働キガ出來ルヤウナ仕組ニ規約ヲ改メルト云フコトガ一番必要デアラウト思フノデアリマス、然ラバ此ノ點ニ關シドウ云フコトヲスレバ宜イカト云ヘバソレハ憲法第九條「天皇ハ法律ヲ執行スル爲メ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム」云々ト云フ規定ガアリマスノデ、近衛總理大臣ハ、天皇陛下ニ對シ奉リ此ノ第九條ノ大權ヲ發動ヲ御願ヒ申上ゲテ、大政翼賛會ノ

ニ反對ノ動キノアルコトハ、此ノ會ガ憲法ニモ依ラズ、憲法以外ノ法律命令ニモ依ラズ、即チ官制ニモ依ラズ、治安警察法ニモ依ラナイ、ソレガ爲ニ反對スル理由ニナツテ居ルノデハナカラウカト思フノデアリマスガ、此ノ點ニ對シマシテハ、昨日平川委員ノ質問ニ對シマシテ私ノ算數ヲ致シテ居リマス内務大臣カラ詳細ニ其ノ蒙リ解イテ戴キマシタコトヲ私ハ非常ニ喜ンデ居ルノデアリマス、其ノ内務大臣ノ御意見ニ依リマシレバ、是ハ治安警察法ノ第一條ノ政事ニ關スル結社デハナイガ、同法ノ第三條ノ公事ニ關スル結社ニ相當スルモノデアリ、斯様ナル御説明ヲ承リマシタコト、私モ初メテ法規ニ依ラナイ結社デアリ、團體デアルト云フ世間ノ誤解ハ茲ニ解消シタモノデアルト存ジマシテ、翼賛會ノ爲メ非常ニ喜ンデ居ルノデアリマス、サウ致シマスルト、此ノ御解釋ニ依レバ是ハ憲法ノ第二十九條ノ「日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス」ト云フ條規カラ流レ出マシタ所ノ治安警察法ノ第三條ノ規定ニ準據シテ措ヘラレタモノデアリマスカラ、憲法ニモ據ラズ、法律ニモ據ラナイモノデアリ、官制ニモ據ラナイモノデアリカラ、吾々ハ此ノ大政翼賛會ト云フモノニ對シテハ、滿幅ノ賛意ヲ表スルコトハ出來ナイト云フ理論ハ、解消シタモノデアラウト思フノデアリマス、此ノ點ニ關シテ、先日川崎委員カラ、首相並ニ法制局長官ニ御尋ね致シマシタガ、其ノ時ニハ、法律上ノ根據ハ御示シガナカツタノデ、甚ダ遺憾ニ思ヒマシタガ、右ノ内務大臣ノ御説明ニ依リ初メテ諒解スルコトガ出來タノデアリマス、此ノコトハ近衛總理大臣ニ於キマシテモ、

勿論内務大臣ト同一御意見デアラウト思ヒマスガ、如何デアリマセウカ、總理大臣ノ御意見ヲ伺ヒマス

○近衛國務大臣 全ク同一意見デアリマス、私ハ進ンデ私ノ疑ヒヲ解カシテ戴キタイノデアリマス、此ノ第五條ノ「總裁ハ内閣總理大臣ノ職ニ在ル者之ニ當ル」スウ云フコトニ規定セラレテ居ルノデアリマスガ、憲法第十條ト此ノ五條ノ規定トノ關係ハ、ドウナルノデアリマセウカ、此ノ點ニ付テ私ハ疑ヒヲ有ツテ居ルノデアリマス、憲法第十條ニハ「天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス」云々トアリマス、此ノ第十條ニ依レバ、天皇ガ總理大臣ヲ任免スルコトハ一點疑ヲ入ルベキ餘地ガナイノデアリマス、即チ、天皇ハ憲法ニ依リ、所謂任免大權ヲ御行使遊バサレルノデアアルコトハ、論ズルマデモナイノデアリマス、果シテサウデアリマシタラバ、此ノ規約ノ第五條ノ總理大臣ノ職ニ在ル者ガ、私ハ大政翼賛會運動ト云フ其ノ運動ニハ賛成デアラケレドモ、翼賛會ノ總裁ニナルコトハ厭ヤデスト、新ニ新任セラレタル總理大臣ニ於テ總裁就任ヲ拒否シタル場合ニハ、ドウ云フコトニナルノデアリマセウカ、其ノ邊ヲ一ウ伺ツテ置キタイノデアリマス

ルヨリ致シ方ナイノデアリマス

○一松委員 能ク分リマシタ、サウナケレバナリマイト思フノデアリマスガ、サウナケレバナルト、其ノコトハ獨リ總理大臣バカリデハナク、所謂參議、顧問等ノ指名ヲ受ケタル國務大臣、若シタハ政府ノ役人ノ方モ、同ジク總理大臣カラ、貴下ヲ顧問ニスル、貴下ヲ參議ニスルト云フ指名ヲ受ケマシタ時ニ、私ハ厭ヤデスト云フ者ガアツタト致シマスレバ、ヤハリ其ノ者ヲ強制スルコトノ出來ナイコトハ、勿論デアラウト思フノデアリマスガ、如何デアリマスカ

○近衛國務大臣 ソレハ勿論サウデアリマス

○一松委員 サウ致シマスルト、政府ノ所謂大政翼賛會運動ト云フモノハ、政府ト表裏一體デアルト云フコトガ、全ク薄弱ニナツテ參ルノデアリマス、其ノ點ニ付テ私共ノ疑ヒハ、總理大臣ガ總裁タルコトヲ拒ム、總理大臣ノ指名ヲ受ケタ所ノ國務大臣ヤ、其ノ他ノ政府ノ役人ガ其ノ翼賛運動ニ參畫スルコトヲ拒ムト云フコトニナリマス、所謂政府ト翼賛會トハ表裏一體デアルト云フ會ノ企圖スル本當ノ責任ヲ果スコトガ出來ナイ運動ニナルト思フノデゴザイマスガ、如何デアリマセウカ、總理大臣ニ伺ヒマス

令ハ其ノ通りニ行ハレルコトハ、議論ナイト思フノデアリマス、併シナガラ萬一近衛總理大臣ガ何等カノ事情ニ依リマシテ辭職サレルヤウナコトガナシトモ限リマシマス、私共ハ此ノ時局下ニ辭メテ實ツテハナイマセウケレドモ、何等カノ事情ニ依ツテ御辭メニナラナケレバナリマイト云フヤウナ時ニ問題ガ起ルノデアリマス、辭職奏上ノ際、天皇陛下ノ御下問ニ依ツテ、後任者ヲ奏薦スルト云フヤウナコトモゴザイマセウカ、サウ云フ時ニ辭職ヲ申出タ總理大臣ガ或人ヲ内閣ノ首班ニ奏請スルニ方リ、豫メ其ノ人ニ對シ君ハ總理大臣ニナレバ、翼賛會ノ總裁ニナラナケレバナラスゾト云フコトハ出來マス、假ニサウ云フ約東ガアツタト致シマシテモ、陛下ガ其ノ人ニ大命ヲ降サナイト云フコトニナツテ、他ノ方ニ大命ヲ降スト云フコトニナレバ後任總裁ヲ得ルコトガ出來ナイト云フコトニナルデアリマセウカ、サウナリマスルト此ノ大政翼賛會運動ト云フモノニ非常ニ嫌入ルコトニナル、即チ政府ト翼賛會トガ所謂表裏一體ト云フコトニナラナイコトニナル、私ハ此ノコトヲ非常ニ惜シムノデアリマス、ドウカサウ云フ場合ニモ、ヤハリ表裏一體ノ働キガ出來ルヤウナ仕組ニ規約ヲ改メルト云フコトガ一番必要デアラウト思フノデアリマス、然ラバ此ノ點ニ關シドウ云フコトヲスレバ宜イカト云ヘバソレハ憲法第九條「天皇ハ法律ヲ執行スル爲メ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム」云々ト云フ規定ガアリマスノデ、近衛總理大臣ハ、天皇陛下ニ對シ奉リ此ノ第九條ノ大權ヲ發動ヲ御願ヒ申上ゲテ、大政翼賛會ノ

○一松委員 ナイトハ認メナイガ、ソレハ又後デ申シマス

○平沼國務大臣 私ハ左様ニ考ヘテ居リマス、自己ノ政見ヲ立ツテ活動スルモノガ即チ政事ノ結社デアル、斯様ニ考ヘテ居リマス、デアリマスカラ、今ノ所謂上意下達ノ場合ハ、是ハ政治上ノ結社ト云フコトニハナラナイ、是ト同ジコトデアリマス、何人ト雖モ自己ノ意見ヲ述ベルコトハ出来マス、一般國民モ請願ノ方法ニ依リマシテ自己ノ意見ヲ政府ニ進達スルコトハ出来ルノデアリマス、此ノ點ヲ仰シタルノデアラウト思ヒマス、假令覽費會ガ所謂下情上達ト云フコトヲ致シマシテモ、是ハ唯政府ノ參考ニ資スルノデアラシテモ、是ガ政治上ノ活動デアルトハ決シテ申サレヌ、私ハ左様ニ考ヘテ居リマス

實行ノ參考ニ供スル、ソレヲ一ツノ政策トシテ居ル以上ハ、即チ政治上ノ意見ヲ定メ、ソレニ依ツテ活動スルコト云フコトデアルカラ、當然是ル所謂政治活動ノ範圍ニ入ルモノデアリ、治安警察法ノ第一條ノ所謂政事ニ關スル結社ト云フコトニナルコトハ、其々專門家デハ間違ヒガナイヤウニ私ハ思フ、併シ最モ法律ニ精通セラレテ居ル我が國ノ權威者デアリ、大先輩デアリ平沼内相ノ御言葉デアリマスカラ、御言葉ヲ返シテ恐縮デアリマスガ、後輩ノ私共トシテ分ラナイノデ、モウ一度此ノ點ヲ伺ヒマス

○島田委員 議事進行ニ付テ一言……大政覽費會ニ關スル此ノ豫算委員會ニ於ケル質問應答ヲ先日来承ツテ居リマス、政府ノ御答辯ハ、初メニ法制局長官ガ大政覽費會ヲ規準スベキ法規ノ根據ニ付テ述ベラレタ點ト、其ノ後ニ總理大臣、内務大臣等ヨリ御答辯ニナツテ、サウシテ最後ニ決定的ニ述ベラレテ居ル治安警察法ノ第三條ノ規定ニ依ツテ律スベキモノデアルト、斯ウ云フ御答辯ト考ヘテ見マス、非常ニ矛盾ガアル、而シテ此ノ豫算委員會ニ於テ此ノ問題ガ論議セラレルト云フコトハ、單ニ此ノ團體ガ私設團體トハ言ヒナガラ、非常ニ大キナ組織ノモノデアルト云フバカリデハナイ又其ノ總裁ガ總理大臣デアル人ガソレニ當ツテ居ルト云フヤウナ意味バカリデハ固ヨリナイデアリマス、豫算委員會トシテ之ヲ懸念スル一ツハ、農ニ川崎委員ヨリ指摘ヲ致シマシタ通り、既ニ此ノ團體ノ活動ニ對シテ政府ハ、私ハ其ノ事實ヲマダ確カメテ居ラスガ、第二豫備金ヨリ九十幾万圓ノ責任支出ヲシテ居ル、而モ其ノ支出ハ議會召集ノ詔書ガ發シテ後ニシテ居ル、斯ウ

シテ、結局車復質問ヲナシ、其ノ結果ハ議會ニ於ケル議論ガ二様ニ分レテ、ソウシテソレガ外ニ響イデハ國內ノ一致ヲ索ルノ觀ヲ呈スル形ガアル、故ニ私ハ、此ノ際委員長ニ對シテ、一松君其ノ他ノ之ニ關スル御質問ノ進行ハ、是ハ然ルベキデアリマセウケレドモ、政府ニ向ツテ只今私ノ申上ケルヤウナ趣意ヲ通ジテ、政府ハ政府全體トシテノ意見ヲ以テ一本デ御答ヘニナルヤウニセラレタイ、ソレガ過日ノ第二豫備金ニ對スル承諾案ノ出カ場合、又或ハ出サレラデアラウト思ツテ居ル此ノ覽費會ニ對スル經費補助ノ問題ノ時ニ於ケル色々紛糾ヲ避ケル所ニ於ケル點ト考ヘ、今マデ他ノ問題ニ付テハ大變圓滿ニ所謂覽費會議ノ體ヲ成シテ來テ居ルニモ拘ラズ、事一タビ覽費會ニ關スル場合ニハ、議場スノ如ク緊張ノ態度ヲ示シテ、或ハ對立ノ如ク光景ヲ呈スルコトハ私ハ甚ダ遺憾ニ存ズル、政府ニ於テハ此ノ點ヲ諒トセラレマシテ、委員長ノ注意ニ依ツテ之ニ對スル答辯ヲ暫ク留保セラレテ、サウシテ一致シタル意見ヲ以テ御臨ミニナルコトヲ希望シマス(拍手)

○一松委員 内相ノ御答辯デハマダ分ラナイ、私ハ此ノ上意下達ノ場合ハソレハ政策ヲ立テテ活動スルモノ、斯ウ云フヤウニハ斷定ハ致シマス、私ヲシテ言ハシメルナラバ、此ノ覽費會ト云フモノハ所謂政府ノ政策ヲ萬民ニ浸透セシムベキ補助機關デアルト云フコトヲ一ツノ政策トシテ居ル以上ハソレハナラナイ所謂上意下達スルモノモ政策ノ活動デアアル、政策運行ノ活動デアアル、ソレカラ下意上達スル時ニハ勿論政治上ノ意見ヲ政府ニ進言スル爲メノ活動スルノデアリマスカラ、是モ即チ政治ニ關スル活動デアアル、内相ハ所謂參考ニ供スルコトハ即チ活動デナラナイト、斯ウ仰セニナルケレドモ、參考ニ供スルコト云フコトヲ一ツノ政策ニシテ居ル、政治ニ關スルコトヲ調査研究ヲシテ、政府ニ進言ヲシテ政府ノ政策ヲ

聞ハ歴史ノ聲明トシテ非常ニ取扱ヲ致シマシタ、所ガ私ハ此ノ聲明ヲ讀ミマシタ時ニ近衛公御自身ニハサウ云フ考ヘハナカウツカモ知ラスケレドモ、何シロ周圍ノ色々ノ人々ノ空想ト云フモノガ反映シタノデアアルカ、全體主義的ノ考ヘ方ガ現レテ居ル、是ハ私一人ノ誤解デナラナイト思フデアリマス、近衛公ガ二度目ニ大命ヲ拜シテ組織スル以前ニ、輕井澤ニ於キマシテ、新聞記者ニ語ツタ中ニモ、新體制ガ必要デアアル、軍部モ代表者ヲ出セ、政黨ノ方カラモ代表者ヲ出セ、政府モ代表者ヲ出セト云フ言葉ガアル、今度ノ議會ニ於テ近衛公ノ御話デハ、政策ノ樹立實行ノ中心ハ政府デアルト言ツテ居ル、固ヨリサウナクテハナラス、戰時ニ於テ政府ガ政策ヲ立テ、責任ヲ持ツテ之ヲ實行スル、當然デアリマスガ、輕井澤ニ居リマシタ時ニハ、政府モ代表者ヲ出セト云フハレタ、私ハ其ノ時ニ近衛公ハ極密院議長ヲ辭サレテ身輕ノ身分デ、如何ニ高貴ノ生活ヲ方デアツテモ、何等ノ職ニ就イテ居ラナイ立場ニ於テ斯ウ云フコトハ少シ言過キタコトデアリカト憂ヘタノデアリマスガ、都下ノ大新聞ノ某新聞ハ、七月十六日ノ日附ヲ以テ社説ニ於テ、米内内閣ハ此ノ近衛體制ノ一環トシテ云フ意味ノ論文ガ出テ居リマス、私ハ此處デ新聞ガ攻撃スル意思ハアリマセウケレドモ、日本人ノ本當ノ魂ヲ忘レタ國格ヲ忘レタ意見デアルト實ハ痛恨致シタノデアリマス、所ガサウ云フ心構ヘガ近衛聲明ニ現レタ、先ツ其ノ一節ヲ讀ンデ見タイト思ヒマス、此ノ歴史的近衛聲明、高度國防國家ノ基礎ハ強力ノ國內體制ニアルノデアツテ、故ニ政治、經濟、教育、文化等凡スル國家國民生活ノ領域ニ於ケル新體制確

立ノ要請ガアルノデアアル、是ハ誰デモ分リマス、所ガ中頃ニナツテ斯ウ云フコトニナツテ居リマス、斯カル體制ニ含マルモノトシテハ先ツ統帥ト國務トノ調和、政府ノ内部ノ統合及ビ能率ノ強化、議會覽費體制ノ確立等ガ舉ゲラレナケレバナラス、ソレカラ中略致シマシテ、併シナガラ更ニ重要ナルハ是等ノ基礎ヲナス萬民實業ノ所謂國民組織ノ確立デアツテ云々、之ヲ讀ンテ見ルモノデアアル、サウシテ新體制ヨリモ更ニ重ク要ナモノハ國民組織デアアル、何タルコトデアリマス、私ハ統帥ト國務トノ調和ハ、上御一人ノ大權カラ發スルモノト考ヘテ居リマス、天皇陛下ハ、天皇トシテハ統治ノ大權ヲ掌握セラレ、大元帥陛下トシテハ陸海軍ノ統帥ノ大權ヲ掌握セラレテ居リマス、憲法第十一條ハ中スマデモナク統帥ノ大權ノ規定デアリマス、斯ウ云フ重大ナ規定ニ付テモ、時ニハ内閣ノ政治上ノ都合テ誤ツタ解釋ヲ下ス場合ガアルノデアリマス、例ハバ濱口内閣ノ時ニ「ロンドン」條約ノ締結ノ以前ニ、議會第十二條ガ問題ニナリマシタ時ニ、海軍軍令部ノ方ハ、軍令部ノ承諾ナクシテハ政府ノ責任ノミデ兵力量ノ決定ハ出来ナイト、斯ウ頑強ツタ、其ノ時ニハ末次サング次長デアツタヤウニ思フ、所ガ濱口總理大臣ハ兵力量ノ決定ハ政府ノ責任ニ於テナス、當時ノ宇垣陸軍大臣ガ之ニ賛成シテ、是ガ其ノ後可ナリ問題ニナツタノデアリマス、私共ハ其ノ議論ノ經過ヲ見マスレバ、第十一條ハ純粹ナル統帥事項ノ規定デアアルガ、第十二條ハハ豫算ヲ伴フノデアルカラ、統帥部

ト政府トノ共管事項デアルト私ハ考ヘテ居リマス、所ガ其ノ當時サウ云フ誤解ガアツタノデアリマス、政府ノ責任ニ於テナス、又統帥ノ場合デナクモ、陛下ノ外交大權ノ發動ノ場合ニ於テモ、田中内閣ノ不戰條約ノ時ニ人民ノ名ヲ入レテモ差支ヘナイト帝大ノ五教授ガ固マツテ「パンフレット」マデ出シマシタ、私ガソレヲ攻撃致シマシタ所ガ、附録ニ私ノ論文ヲ載シタ一文ガ入ツテ、今尙文獻トナツテ殘ツテ居リマス、私ハ、天竺文句ニ於テ宣言スルノハイカスト云フ主張デアリマシタ、田中内閣ハ其ノ誤リヲ正サントセズ、強行セントシテ遂ニ樞密院ニ依ツテ修正セラレタノデアリマス、私ハ第二次近衛内閣ニ於テサウ云フ誤リハ斷ジテナイト思ヒマス、私ハ憲法ノ規定カラ考ヘマシテモ、我が國ノ國體ニ鑑ミマシテモ、上御一人ノ旨ヲ受ケテ居リマスレバ、參謀總長、軍令部總長、ソレカラ統治ノ幕僚長ト言ツテモ宜シイ、近衛内閣總理大臣ト三人デ決メテ宜シイコトデアアル、ソレデ決メニクイ事項ガアツタナラバ、其ノ又以下ノ幕僚ト相談スレバ宜シイ、次ニ軍部ト内閣ノ首腦部ト意見ガ一致シナイ場合ニハ、陛下ノ御聖斷ヲ仰ギ、一タビ御聖斷下ツタ場合ニハ、近衛公ガ仰セラレレル通り、承諾必謹ノ立場ヲ遵奉スレバ宜シイ、然ルニ新體制ノ中ニ含マル議會覽費體制ノ確立ト、ソレカラ政府ノ行政ノ能率ノ増進ノ如キモノト同一ニ取扱ツテ、統帥ト國務トノ調和ガ斯カル體制ニ含マルモノデアルト言ツテ居ル、ソレヨリモ重要ナルハ國民組織デアルト、是ハ明カニ全體主義ノ思想ノ現ハレデアリマシテ、輕井澤放送ニ於テ、軍部モ政府モ

アリマシタノデ、覽費會ニ關スル質問ハ成ベク避ケタイト考ヘマスガ、唯近衛内閣ノ成立以前カラ今日マデノ近衛公府ノ中心トスル色々ノ聲明其ノ他運動ニハ、私共ノ立場カラ考ヘテ見マシテモ、ドウモ世界の時局ノ影響ガ強ク入りマシテ、一口ニ言ヘバ全體主義的ノ傾向ガ相當濃厚ニ現ハレテ居ルト云フコトヲ憂フル一人デアリマス、私共ハ今ヤ英米、ソレ支四國ノ包圍ノ中ニアルヤウナ感ガ致シマス、此ノ議會ニ臨ム場合ニ於キマシテモ、質問應答共ニ陣中ノ會議ノ如キ觀ガナケレバナラスト考ヘルノデアリマス、ソコデ丁度眞劍勝負ノ前ニ體ノ「コンディション」ヲ良クシナケレバナラスト同ジニ、難局ガ迫ツテ居ル場合ニハ、國民全體ノ心構ヘヲ正シクセバナラス、ソレニハドウシテモ日本本來ノ思想ニ立歸ラナケレバナラスト云フ意味ニ於テ、是ハ政府當局ガ攻撃スルコトサウ云フ意味デナク、國民ノ一員トシテ強キ反省ヲ致シタイト云フ意味ノ質問デアリマス、私ノ此ノ質問ノ心構ヘハサウデアリマスガ、政府當局ノ中デ、平沼内務大臣ガ就任サレテカラ、車中談トシテ發表サレタコト、ソレカラ此ノ一月讀賣新聞デ發表サレタコトハ、私共極メテ同感致ス所デアリマスルカラ、私ノ質問ノ要旨ハ平沼内相ト似タ精神、思想カラ出發スルモノト御諒解シテ戴キタイ、其ノ立場カラ致シマス、私ハ大キク分ケテ三點ニ付テ政府當局ニ質問ヲシナケレバナラナイノデアリマス、其ノ代表トシテ殊ニ近衛總理ノ御答辯ヲ煩ハシタイ

先ツ第一ニハ八月二十八日ニ發表サレマシタ近衛聲明デアリマスガ、都下ノ各新聞ニ關スル聲明トシテ非常ニ取扱ヲ致シマシタ、所ガ私ハ此ノ聲明ヲ讀ミマシタ時ニ近衛公御自身ニハサウ云フ考ヘハナカウツカモ知ラスケレドモ、何シロ周圍ノ色々ノ人々ノ空想ト云フモノガ反映シタノデアアルカ、全體主義的ノ考ヘ方ガ現レテ居ル、是ハ私一人ノ誤解デナラナイト思フデアリマス、近衛公ガ二度目ニ大命ヲ拜シテ組織スル以前ニ、輕井澤ニ於キマシテ、新聞記者ニ語ツタ中ニモ、新體制ガ必要デアアル、軍部モ代表者ヲ出セ、政黨ノ方カラモ代表者ヲ出セ、政府モ代表者ヲ出セト云フ言葉ガアル、今度ノ議會ニ於テ近衛公ノ御話デハ、政策ノ樹立實行ノ中心ハ政府デアルト言ツテ居ル、固ヨリサウナクテハナラス、戰時ニ於テ政府ガ政策ヲ立テ、責任ヲ持ツテ之ヲ實行スル、當然デアリマスガ、輕井澤ニ居リマシタ時ニハ、政府モ代表者ヲ出セト云フハレタ、私ハ其ノ時ニ近衛公ハ極密院議長ヲ辭サレテ身輕ノ身分デ、如何ニ高貴ノ生活ヲ方デアツテモ、何等ノ職ニ就イテ居ラナイ立場ニ於テ斯ウ云フコトハ少シ言過キタコトデアリカト憂ヘタノデアリマスガ、都下ノ大新聞ノ某新聞ハ、七月十六日ノ日附ヲ以テ社説ニ於テ、米内内閣ハ此ノ近衛體制ノ一環トシテ云フ意味ノ論文ガ出テ居リマス、私ハ此處デ新聞ガ攻撃スル意思ハアリマセウケレドモ、日本人ノ本當ノ魂ヲ忘レタ國格ヲ忘レタ意見デアルト實ハ痛恨致シタノデアリマス、所ガサウ云フ心構ヘガ近衛聲明ニ現レタ、先ツ其ノ一節ヲ讀ンデ見タイト思ヒマス、此ノ歴史的近衛聲明、高度國防國家ノ基礎ハ強力ノ國內體制ニアルノデアツテ、故ニ政治、經濟、教育、文化等凡スル國家國民生活ノ領域ニ於ケル新體制確

立ノ要請ガアルノデアアル、是ハ誰デモ分リマス、所ガ中頃ニナツテ斯ウ云フコトニナツテ居リマス、斯カル體制ニ含マルモノトシテハ先ツ統帥ト國務トノ調和、政府ノ内部ノ統合及ビ能率ノ強化、議會覽費體制ノ確立等ガ舉ゲラレナケレバナラス、ソレカラ中略致シマシテ、併シナガラ更ニ重要ナルハ是等ノ基礎ヲナス萬民實業ノ所謂國民組織ノ確立デアツテ云々、之ヲ讀ンテ見ルモノデアアル、サウシテ新體制ヨリモ更ニ重ク要ナモノハ國民組織デアアル、何タルコトデアリマス、私ハ統帥ト國務トノ調和ハ、上御一人ノ大權カラ發スルモノト考ヘテ居リマス、天皇陛下ハ、天皇トシテハ統治ノ大權ヲ掌握セラレ、大元帥陛下トシテハ陸海軍ノ統帥ノ大權ヲ掌握セラレテ居リマス、憲法第十一條ハ中スマデモナク統帥ノ大權ノ規定デアリマス、斯ウ云フ重大ナ規定ニ付テモ、時ニハ内閣ノ政治上ノ都合テ誤ツタ解釋ヲ下ス場合ガアルノデアリマス、例ハバ濱口内閣ノ時ニ「ロンドン」條約ノ締結ノ以前ニ、議會第十二條ガ問題ニナリマシタ時ニ、海軍軍令部ノ方ハ、軍令部ノ承諾ナクシテハ政府ノ責任ノミデ兵力量ノ決定ハ出来ナイト、斯ウ頑強ツタ、其ノ時ニハ末次サング次長デアツタヤウニ思フ、所ガ濱口總理大臣ハ兵力量ノ決定ハ政府ノ責任ニ於テナス、當時ノ宇垣陸軍大臣ガ之ニ賛成シテ、是ガ其ノ後可ナリ問題ニナツタノデアリマス、私共ハ其ノ議論ノ經過ヲ見マスレバ、第十一條ハ純粹ナル統帥事項ノ規定デアアルガ、第十二條ハハ豫算ヲ伴フノデアルカラ、統帥部

ト政府トノ共管事項デアルト私ハ考ヘテ居リマス、所ガ其ノ當時サウ云フ誤解ガアツタノデアリマス、政府ノ責任ニ於テナス、又統帥ノ場合デナクモ、陛下ノ外交大權ノ發動ノ場合ニ於テモ、田中内閣ノ不戰條約ノ時ニ人民ノ名ヲ入レテモ差支ヘナイト帝大ノ五教授ガ固マツテ「パンフレット」マデ出シマシタ、私ガソレヲ攻撃致シマシタ所ガ、附録ニ私ノ論文ヲ載シタ一文ガ入ツテ、今尙文獻トナツテ殘ツテ居リマス、私ハ、天竺文句ニ於テ宣言スルノハイカスト云フ主張デアリマシタ、田中内閣ハ其ノ誤リヲ正サントセズ、強行セントシテ遂ニ樞密院ニ依ツテ修正セラレタノデアリマス、私ハ第二次近衛内閣ニ於テサウ云フ誤リハ斷ジテナイト思ヒマス、私ハ憲法ノ規定カラ考ヘマシテモ、我が國ノ國體ニ鑑ミマシテモ、上御一人ノ旨ヲ受ケテ居リマスレバ、參謀總長、軍令部總長、ソレカラ統治ノ幕僚長ト言ツテモ宜シイ、近衛内閣總理大臣ト三人デ決メテ宜シイコトデアアル、ソレデ決メニクイ事項ガアツタナラバ、其ノ又以下ノ幕僚ト相談スレバ宜シイ、次ニ軍部ト内閣ノ首腦部ト意見ガ一致シナイ場合ニハ、陛下ノ御聖斷ヲ仰ギ、一タビ御聖斷下ツタ場合ニハ、近衛公ガ仰セラレレル通り、承諾必謹ノ立場ヲ遵奉スレバ宜シイ、然ルニ新體制ノ中ニ含マル議會覽費體制ノ確立ト、ソレカラ政府ノ行政ノ能率ノ増進ノ如キモノト同一ニ取扱ツテ、統帥ト國務トノ調和ガ斯カル體制ニ含マルモノデアルト言ツテ居ル、ソレヨリモ重要ナルハ國民組織デアルト、是ハ明カニ全體主義ノ思想ノ現ハレデアリマシテ、輕井澤放送ニ於テ、軍部モ政府モ

其ノ代表者ヲ出セト云フヤウナ考ヘガ、少シデモ入ツテ居ナイカト云フコトヲ實ハ愛ヘルノデアリマス、所ガ近衛公ハ、新體制ハ五年掛ルカ十年掛ルカ分ラナイ、事變處理ニハ合ハナイカモ知レナイシ、外交轉換ニモ間ニ合ハナイカモ知レナイト云フコトヲ仰セラレタコトガアル、サウカト云ヘバ、第二次組閣ノ際ニ、陸軍大臣、海軍大臣、外務大臣ノ三人ノ候補者ト共ニ、大命ヲ受ケテ組閣スル以前ニ色々相談ヲシテ、新聞デハ斯ウ云フコトヲ放送サレタ、統帥ト國務ノ調和ハ新體制ヨリモ重要デアルト、一ハ統帥ト國務トノ調和ハ新體制ヨリモ重要デアルト云フ言葉デ現ハサレテ居ル、他ハ統帥ト國務トノ調和ハ政府ノ能率ノ増進、議會實權制ノ確立ト共ニ、斯カル體制内ニ含マレルモノト考ヘテ居ルト、是ハ矛盾デアリマス、私ハ此ノ矛盾ヲ指摘スルノガ目的デアリ、近衛公ノ此ノ聲明ノ中ニハ、何トナク全體主義の色彩ガ出テ居ル、堤君ガ先達ヲ讓場デ近衛公ノ放送ニ對シテ御注意ガアリマシタガ、アレモアノ當時ノ緊要氣カラ生レタモノデハナイカト思フ、ナチスハヨク民主主義、自由主義、資本主義ヲ攻撃スル、アノナチスハ「ドイツイ」ノ電撃戰ノ成功後ノ影響ガ日本ノ各方面ニ及ンデ、官僚ト云ハズ、民間ト云ハズ、アア云フ思想ニ動カサレテ居ツタ者ガ非常ニ多カツタ、サウ云フ思想の影響ガ偶然ニ斯ウ云フ發言トナツテ現ハレタモノデハナイカ、「ヨーロッパ」ト云フ所ハ歴史モ古ク、土地ノ狭イ割合ニ人口モ多ク、國モ多ク、亡ビタリ興ツタリ、大キクナツタリ小サクナツタリ、春秋戰國時代ヲ繰返シテ居ルヤウナ所デアアル、サウ云フ所デアル國ハ榮エ、或

ル國ハ衰ヘル、サウ云フ一波一瀾ニ一々日本ノ國ノ思想ヤ、日本ノ國體ノ精華ガ動かサレテハ堪ラナイ、松岡サシノ御話デハ、東亞共榮圈ノ確立ニハ三十年掛ルカ、五十年掛ルカ分ラヌ、二千六百年ノ光輝アル歴史ノ運命マデ賭シテ、吾々ガ此ノ大事業ニ乗出シタ以上ハ、是カラ何年深刻ナ目ニ遭フカ分ラヌ、其ノ時ニ諸外國ノ影響ヲ思想的ニ餘リ強ク受ケテ外國ノ思想ノ影響ガ、堂々タル日本帝國ノ内閣ノ首班タル所ノ近衛公ノ口ヲ藉リテ出ルト云フコトハ、洵ニ心外ニ堪ヘナイ、私ハ一ツ取ツテヤカマシク言フノデハナイ、他ニ次々ニアリマスカラ私ハ問題ヲ展開致シマスガ、統帥獨立ハ上御一人カラ來ルモノデアリマス、政治ノ大權モ上御一人カラ來ルモノデアリマス、日本ハ民主主義デモナケレバ、全體主義デモナイ、一言ニシテ云ヘバ、上御一人主義デアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、此ノ點ニ關スル近衛首相ノ明確ナル答辯ヲ得タイ

○近衛國務大臣 大體根本ノ考ヘ方ニ於キマシテ、私ハ北君ト同ジデアルト思ヒマス、唯色々ノ言廻シヤ何ヤラデ誤解ヲ受ケマシタコトハ、洵ニ遺憾ニ存スルノデアリマス、新體制ト云フ言葉モ、實ハ色々國內ニ改革スベキコトガアル、其ノ改革スベキ事柄トシテ是レレ、ト云フ事柄ヲ舉ゲマシタコトデアツテ、統帥事項ガ新體制ト云フヤウナ意味デハナイノデアリマス、固ヨリ此ノ統帥ト國務ノ關係ハ是ハ系統ガ異ツテ居リマシテ、政府ト致シマシテハ、統帥ノ部面ニ何等容レルコトハ出來ナイノデアリマス、統帥ト國務トガ相抵觸スルト云フヤウナ場合ニ、之ヲ

御裁斷ナルノハ上 陛下ダケデアリマス、唯此ノ上 陛下ガ最後ノ御決定ヲナサイマスル前ニ、成ルベク此ノ政府内部ト統帥内部トノ連絡ト申シマスカ、意思ノ疎通ヲ圖ツテ置タト云フコトガ、國務ノ進行ノ上カラ申シマシテ必要ナノデアリマシテ、此ノ點ニ於キマシテハ、從來稍其ノ點ニ於テ欠タル憾ミナキニシモアラズデアリマス、サウ云フコトニナリマシテハ、斯ウ云フ事變ヲ控ヘテ居リマシテ洵ニ遺憾デアアル譯デアリマスカラ、始終此ノ關係ハ密接デナケレバナラスト云フ考ヘヲ致シテ居リマス、ソレデ統帥ト國務トノ調和ト云フヤウナコトヲ申述ベマシタケレドモ、無論是ハ總理大臣ガ統帥ト國務トノ調和ヲ意味デハナイノデアリマシテ、本當ノ調和ハ上御一人ガ遊バヌノデアリマス、唯其ノ下準備ト致シマシテ、統帥ト國務トノ間ニ連絡ヲ常ニ圖ツテ置タト云フコトガ、殊ニ此ノ戰時體制トシテハ必要デアルト思ヒマシテ、サウ云フ點ニ於テ改革スベキコトガ「ドイツイ」マスカラ、ソレヲ改革ノ項目ノ一ツトシテ申述ベタノデアリマス、新體制ノ中ニ含マレルト云フ意味ハ、サウ云フ意味ニ於テ申シタノデアリマス、其ノ他全體主義ト云フコトニ付キマシテハ、新體制ノ準備會ノ聲明ノ中ニモ一國一黨ノコトニ付キマシテ申述ベマシタ中ニ、他國ニ於テ、例ヘバ「ドイツイ」トカ「イタリヤ」トカ云フコトヲ指シタノデアリマスガ、サウ云フ國ニ於キマシテ如何ニ立派ナ成績ヲ擧ゲテ居ツテモ、之ヲ其ノ儘日本ニ持つテ來テ、此ノ國體ノ本義ニ則ツテ、萬民實ヲ實ヲ擧ゲナケレバナラスト云フ根本ノ此ノ政治ノ姿カラ申シマシテ、外國ノ政治形態ヲ、如何ニソレガ成績優秀デア

合ニ於テハ、是ハ眼目デハナイカ、現ニ組閣ノ際ニ統帥ト國務トノ調和ハ新體制ヨリモ大切デアルト云フ近衛公ノ御話ガ新聞ニ出テ居ツタノデアリマス、私ハ若シ職權奉公ト云フコトヲ文字通りニ遵奉スレバ第一ニハ職權ヲ逸脱セズト云フコト、軍人ハ軍人ラシク軍務ニ没頭スル、政治家ハ政治家ラシク政治ヲ爲シ身命ヲ抛ツ、職權奉公ノ第一義ハ職權ヲ逸脱セズト云フコトデアラウト私ハ思フ(拍手)サウスレバ、調和ハ自ラ生レルノデアリマス、勿論吾々國民トシテ、陸軍モ、海軍モモツト強クナツテ呉レト欲シマス、アメリカノ海軍モドウモ勢ハ日本ヨリハ好ササウデアアル、ロシアハ兵隊ガ大勢デアアル、武裝モ良ササウデアアル、モツト良クシテ呉レト云フ希望のナコトハ如何ニモ述べマス、又軍部トシテモ今ノ政治ハダラシガナイ、モツトシツカリヤツテ呉レ、吾々ガ戰場ヘ行ツテ命ヲ捨ルヤウナ氣分デヤツテ呉レト大ニ激勵スルノハ宜イガ、吾々ガ軍人ニナツタヤウナ積リデ作戦計畫ノ内容マデ色々註文シタナラバ、軍部ハ却テ迷惑スル、政治家ト致シマシテモ、軍部カラ色々ノ政治的ノ註文ガ出ルト云フコトハ、ソレハ非常ニ正シイ場合ニハ有難ク御受ケスルケレドモ、未熟ナ意見ハ斷乎トシテ排撃シナケレバナラス場合ガアル、統帥ト國務トノ調和ト云フコトハ其ノ精神デ行カナケレバナラス、職權奉公ノ第一義ハ、職權ヲ逸脱セズ、自分ノ職權ハ死ヲ以テ之ヲ守ル、私ハ東條陸軍大臣ハ議會デ初メテ御目ニ掛ツタ、今マデ御目ニ掛ツタコトガナイガ、アノナノ言ハレタコトハ私ハ非常ニ感心シタ、陳頭指揮ト云フコトデアリマス、陸軍大臣ガ實際立ツテ、陳頭指揮ノ構ヘヲ以テ進メト云フ、是ハ好

イコトヲ聽イタト思ツタ、私ハ總理大臣先ヅ陳頭指揮、陳頭ニ立ツテ進ムガ宜イ、自ラ暫邊ノ中ニ入ツテ進メ、ト云フ態度デハイケナイ、船長ガ荒天ノ時ニ行ク先ガ分ラヌノデ、船員ト相談スルノハ宜イガ、船客ト車座ニナツテ相談スルヤウデハ船客ガ不安ニナリマス、陳頭指揮、總理大臣ハ總理大臣ノ職務カラ奉公スル爲ニ、陳頭指揮ヲサレ、東條陸軍大臣ノ言ウタコトハ各方面ニ適用サレ、議會ハ議會トシテ自發的ニ政府ト協力シテ此ノ時局ヲ乘切ル、政府モ立派ナ政策ヲ立テテ、又閣僚モ本當ニ立派ナ閣僚ヲ擧ヘテ、戰時體制ノ強化ハ先ヅ内閣ノ強化ヲ出發點トスル必要ガアル、サウシテ立派ナ閣僚ヲ擧ヘテ、陳頭指揮ノ職ヲ以テ進メタラバ、私ハ精銳ナル陸海軍ガアルシ、内閣、議會ガ立派ニナツタラバ、内閣ノ補助工作、或ハ議會ノ補助工作、或ハ議會ナドハアツテモナクモ宜イ、ヤリ方ニ依ツテハ却テ精兵主義デ行ツテ、雜兵ガアツテハ却テ精兵主義ガアル、ソコデ各人ノ人ハ責任ヲ盡ス、我が國ハ今ヤ敵ノ重圍ニ陥ツテ居ル、吾々ハ之ヲ突破シナケレバナラスト云フヤウナ氣分ヘ行カナケレバナラス、サウスレバ統帥ト國務トノ調和ト云フモノガ必ズ出來ルト云フコトガ私ノ確信デアツテ、近衛首相ガ今マデ言ハレタコトヲ、私ハ堤君ノヤウニ取消シマシマシテ貫ヒタイトハ言ヒマスガ、斯ル體制ニ含マレルモノトシテ、統帥ト國務トノ調和ナント云フコトハ穩チカデハナイカラ再ビ繰返サナイコトヲ切望致シマス、サウシテ此ノ點ニ付テハ陸軍大臣ノ御説明ヲ願ヒタイ、統帥ト國務トノ調和ト云フコト、即チ國體ノ本義カラ見、憲法ノ條章カラ新體制

ガナセ關係ガナイカ、寧ろ新體制ハソレニ依存スベキモノデアアル、陛下ノ大權ガ總テノ體制新シイ體制ニモ全部的ニ先行シテ居ルト云フノガ我が國ノ國柄デアツテ、ソコカラ統帥ト國務トノ調和ガ生ズベキモノデアルト云フコトニ付テノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

○東條國務大臣 先ヅ第一ニ御斷リヲ致シマシテ御答辯ヲ致シマス、統帥ノ聲嚴ト云フコトニ付キマシテハ、私ハ陸軍大臣ト致シマシテ、又帷幕ノ參事者ト致シマシテ、私ノ責任ノ範圍ニ於キマシテハ全力ヲ盡シテ居リマス、敢テ國民一人ト雖モ御心配ノナイヤウニシテ戴キタイ

此ノ政戰兩略ノ一致ト云フ點ニ付キマシテハ、現代ノ時局ニ於テ頗ル重大ナル點デアリマシテ、其ノコトニ付キマシテハ此處ニ嚆矢ヲ要セヌノデアリマス、即チ是ハ戰爭指導ノ要諦デゴザイマス、其ノ戰爭指導政戰兩略ノ一致、而シテ其ノ發動ハ總テ固ヨリ 天皇ノ御親裁ニ屬シテ居ル考ヘマス、併シナガラソコニ統帥及ビ國務トノ調和ナル輔翼、輔弼其ノ責任ヲ究ウシマスルガ爲ニハ、大權發動ノ最後ノ決定ヲ見ルマデハ政府ト統帥トハ緊密ナル協調ヲ保持シテ行キマシテ、政務ト統帥トノソコニ調和、一致ヲ圖ツテ行カナケレバ、到底此ノ時局ハ乗り切レヌト私ハ思ヒマス、言葉遣ヒノ色々ナ點デ誤解ヲ生ズルコトガアツタカモ知レマセマスガ、サウ云フコトハ枝葉デアリマシテ、今日ハモウ精神的ニ此ノ統帥ニ關スル總テノ事項、政務ニ關スル總テノ事項ハモウ議論デナイ、是ガ總テ一體トナツテ、此ノ難局ヲ切り抜ケテ行カナケレバ駄目ナダト私ハ思ヒマス(拍手)此ノ

ツテモ、之ヲ其ノ儘日本ニ移シ植エルトコトハ宜シクナイト云フコトハ、アノ聲明ノ中ニモ申述ベテ居ル管デアリマス、其ノ點モ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマス

○北(時)委員 只今ノ總理大臣ノ御答ヘデ心持ハ能ク分リマシタガ、此ノ聲明ヲ歴史の聲明トシテ、日本全國ノ新聞ハ固ヨリ、世界各國ノ新聞ニモ傳ヘラレタノデアリマスカラ、此ノ聲明ニ聊カ誤解ヲ受ケルヤウナ表現ヲ示シテ居ルト云フコトハ非常ニ遺憾ニ存ジマス、私共ハ新體制ト云フモノニ統帥ト國務トノ調和ガ依存スルノデアリ、統帥ト國務トノ調和ハ新體制以前ニ既ニ確立シテ居ラナケレバナラスモノデアリ、以外、又以上ニ立タナケレバナラスモノト考ヘルノデアリマス、日清戰爭、日露戰爭ノ昔ハ固ヨリコト、近衛第一次内閣ニ於テ事變ガ勃發致シタノデアリマスルガ、其ノ時ニハ今日言ハレテ居ル所ノ新體制ノ如キ萌芽ハナカツタノデアリマス、サウスレバ統帥ト國務トノ調和ガ巧ク行カナカツタレバナリカト云フヤウナ誤解ヲ國民ニ生ゼシムル虞ガアル、第一次近衛内閣ニ於テ既ニ大本營連絡部ト云フモノガアリマシテ、大本營ト政府ト間ニ十分ノ連絡ガ取レテ居ツタ管ト私共確信致シテ居リマス、第二次近衛内閣ニ於テモ此ノ運用ヲ更ニ復活セタコトハ吾々ハ新聞ニ依ツテ承知シテ居ルノデアリマス、シテ見レバ統帥ト國務トノ調和ハ、新體制ニ拘リナク出來テ居ラナケレバナラス管ノモノデアアル、此ノ調和ハ新體制ニ依存セズ、寧ろ新體制ハ統帥ト國務トノ調和ニ依存スベキ性質ノモノデアルト云フ位ニ吾々ハ解釋シテ居リマス、殊ニ戰爭ノ時ニ於テ、又是カラ國際關係ガ益、險惡ヲ極メル場

其ノ場合ニ於テ、國民生活ニ不安ヲ感ゼシムルガ如キコトハ、最モ避ケナケレバナラズノデアリマシテ、近衛首相ノ考ヘラレテ設立サレシトスル此ノ大政翼賛運動ガ、國民ニ對シ大ナル不安ヲ與ヘタト云フコトハ遺憾ニ存ジマス、併シハ既ニ濟ンダ事デアリマスルシ、其ノ後ハ模様ガ段々變ツテ居リマスカラハ、是ハ總返シマセマスガ、併シ尙ホ殘ツテ居リマスルコトハ、何トシテモ翼賛運動ヲシテ居ル人ノ中ニ、如何ニモ赤ノ血ニ染マツテ居ルカノ如キ者ガアルデアリマス、之ニ付テ私ハ近衛首相ノ明答ヲ預メシテ居リマス、ソレハ既ニ近衛首相ノ御耳ニモ達シテ居ルカモ知ラセマスガ、地方ニ參リマス、翼賛會ノ傍系運動ト致シマシテ、翼賛同志會ト云フモノガ設ケラレテ居ルノデアリマス、是ハ政事結社デモナク、唯翼賛會ノ派生ノモノデアツテ世間デハ之ヲ翼賛挺身隊ト稱シテ居ルノデアリマス、又ソレ以外ニ所謂親分ヲ集メマシテ、翼賛一心會ト稱スルモノガ、別隊トシテアルノデアリマス、其ノ翼賛同志會ナルモノハ、言論文章ニ依ツテ、其ノ地方ニ於テ飛躍ヲ致シテ居リマス、例テ昨年ノ十二月ノ府縣會ノ開催サレタ折ニ取ツテ見マス、新聞ヲ利用シ、或ハ集會ヲ催シマシテ、盛ニ縣會ヲ非難スル、縣會ハ新體制ナシ、舊體制デアルト云フヤウナ工合ニ、縣會ヲ脅威シタ所ノ事實ガ深山アリマス、サウシテ又此ノ連中ガ、今日議會政治ニ參與シテ居ル者ハ悉ク舊體制デアル、現狀維持者デアル、冷血動物デアルト云フ風ニ宣傳ヲ致シマシテ、吾々同僚ノ如キハ眼中ニナイノデアリマス、而シテ地方ニ於ケル所ノ翼賛會ノ組織ナルモノハ、所謂既成

政黨ニ關係アル者ハ除外スル、年餘四十歳以上ノ者ハ除外スル、サウ云フ風ニヤツテ行キマスルカラシテ、アトハ彼ノ所ノ者ハ、謂ハバ今マデ社會運動ノ尖端ヲ走ツテ居ツ者トカ、或ハ會テハ赤ノ者デアツテ、監視ヲ付ケテ居ル者デアリマス、テ檢査セラレマシテ、唯單ニ檢査セラレタノミナラズ拘禁サレテ遂ニ有罪ノ判決ヲ受ケテ、拘留ノ人トナツタ者デアルトカ、サウ云フ者ガ所々ニ居ルノデアリマス、私共ノ控室ハ府縣別ニナツテ居リマス、私共委員長ノ増田サント共ニ、北信八州會ノ控室ニ居ルノデアリマスガ、其ノ控室ダケデモ、斯様ナ人々ヲ拾ヒ上ケルコトガ、枚擧ニ追ナイ程居ルノデアリマス、私ハ自分ノ縣ノコトハ、恥ヲ唯シテイケマセムカラハ伏セテ置キマスガ、隣縣等ニ於テ選ンデアル所ノ者ヲ見マスルト、實ニ此ノ議會ニ於テ御紹介ヲ申上ゲルコトモ憚カルヤウナ人間ガ、此ノ翼賛會ノ常任委員トナツテ、福利カセテ居ルコト云フ状態ニナツテ居ル、此ノヤウニナツテ居リマス、萬民一心トナツテ此ノ難局ヲ切開カケレバナラズ場合ニ於テ、首相ガ心膽ヲ碎イテ御説ケニナツタ所、此ノ大政翼賛會ナルモノノ效果ガ疑ハレルノデアリマス、是ニ於テ近衛公ノ御心底モ、吾々ハ分ラヌデアリマス、先日三宅君ノ質問ニ對シテ、實ニ率直ニ自分ノ心ノ奥ヲ打割ツテ御話ニナツタアリマス、敢テ私ハ近衛公ノ首唱サレテ居何デモアリマセス、近衛公ノ首唱サレテ居ル翼賛運動ノ趣旨ヲ體シテ、何處マデモ萬民一體トナツテ働キタイ、私共モ此ノ四月

ガ來レバ任期ガ切レル、別ニ一箇年延長ノ法律ガ出ルサウデアリマスガ、ソレハ吾々ノ關知シナイ所デアアル、吾々ハ任期ガ切レルノ所デアアル、近衛公ノ御心底ト同ジク、所謂最後ノ御奉告、其ノ積リデ翼賛シテ居ル次第デアリマスカラシテ、地方ニ於ケル實際問題ヲ提ゲテ、近衛首相ノ御本意ヲ伺ヒタイノデアリマス、其ノ御答ヘニ依ツテ尙ホ御答ヲ見テ見タイ積リデ居リマス

○近衛國務大臣 翼賛會ヲ構成シテ居リマス人員ノ中ニ、殊ニ地方等ニ於キマシテ、思想上面白カラス人々モ混ツテ居ルト云フヤウナコトハ、只今ノ御話ニモゴザイマシタシ、私モ耳ニシナイコトハナイノデアリマス、是等ニ付キマシテハ、十分ニ今後調ベマシテ戒飭ヲ加ヘ、罷メテ貰フ人ハ罷メテ貰ヒタイと思ヒマス

○石坂委員 翼賛運動ニ付キマシテ、地方ニ種々ノ宣傳ヲセラレルトコトハ必要ナコトト思ヒマスガ、宣傳部員ノ中ニ、私共ノ郷里ニ於キマシテ、曾テ昨年ノ九月頃ニ、生命財產ヲ即時返上セヨ、恰モ私有財產ノ否認ノ如キコトヲキツク人ガ居リマスガ、サウ云フ運動ハ既ニ消滅シテ居ルモノト心得テ居リマシタ、所ガ何ノ團ラン、本月十七日ノ都下ニ於テ行ハレタ所ノ或ル講演會ニ於キマシテ、斯様ナコトガ公然ト講演サレテ居ル、大政翼賛會宣傳員佐々木信義、斯ウ云フ人デス、日本新體制三大理念ノ趣旨、一、我等ノ身體生命財產ノ所有ハ天皇陛下ニ屬スベキモノデアル、二、總テノ事業ハ 天皇陛下ノ管理經營ニ屬スベキモノデアル、三、吾等ノ必要ナ衣食住ハ報酬トシテ 天皇陛下ヨリ分配ヲ受クベキデアル、

斯ウ云フノデアリマス、是等ハ甚多クモ天皇陛下ヲ引キ來ツテ居リマスケレドモ、之ヲ深ク考ヘテ見タラバ、實ニ不登千萬元ノ宣傳ト私ハ考ヘル、之ニ對シテ私ハ率直ニ首相ハ如何ナル御考ヲ持ツテ出デニナルカ、之ヲ承ツテ見タイと思ヒマス

○近衛國務大臣 只今ノ御話ハ初メテ何ツタノデアリマス、勿論斯カル思想ガアルト致シマスレバ、之ヲ嚴重ニ取締ラナケレバナラズト思ヒマス、マダ報告ニ接シテ居リマス

○石坂委員 如何ニモ報告ニ接シテ居ラスコトト考ヘマスガ、是非共斯ウ云フ人ハ徹底的ニ掃ヲナサラナケレバナラズト思フ、而シテ是ハ單ニ此ノ一人デハゴザイマセス、到ル處ニ斯ウ云フ態度ヲ執ル者ガ居ルノデアリマス、斯カルガ故ニ總裁タル近衛首相、斯ウ云フ御身分ノ方ニ對シテモ、口憚カルコトデアリマスケレドモ、世間デ近衛サンハ赤デアルト云ツテ居ル、近衛サンモ亦到ル處、京都デモ大阪デモ私ハ赤デアリマシタ、京都市デモ大阪デモ私ハ赤デアリマシタ、是ハ一切無用ナコトデアアル、赤デモナイモノヲ何ノ爲ニサウ言ツテ居ルカ、私ハ非常ニ氣ノ毒ニ思ツテ居リマスガ、此ノ大政翼賛會ノ運動ノ派生スル所、其ノ人ヲ得ザル場合ニ於テハ、斯クノ如キ結果ニ陥ルノデアリマス、又私ハ其ノ他ニ於テモウツ申上ゲテ置キタイ、先程内務大臣ニモ申上ゲタノデアリマスガ、此ノ大政翼賛會ト大日本赤誠會トハ、一脈ノ聯關ナル如キコトガ行ハレテ居ル、是ハ石川縣ノコトデアリマスガ、大日本赤誠會ナルモノカラ、全縣ノ町村役場ニ書面ヲ發シタ、先程讀ミマシタ如キ通牒ヲ發シテ居ル、是ハ重複ニ互リマ

スカラ私ハ讀ミマセマスガ、速記録ヲ御覽下サレバ明瞭ニ分ル、サウシテ此ノ通牒ノ趣旨ハ、翼賛會ノ役員ヲ推薦スルコトヲ要求シテ居ルノデアアル、其ノ役員ノ推薦ヲ要求スル際ニ於テ、赤誠會ハ警察ト兩方デ、其ノ役員ヲ選定スルノデアツテ、餘人ガ關與スルコトハ出來ナイモノデアアル、斯ウ云フ意味ノ通牒ヲ發シテ居ルノデアリマス、又其ノ他ノ縣ニ於キマシテモ、斯様ナ行動ヲ屢、執ツテ居ル者ガ現ハレテ居ルノデアリマス、是ガ爲ニ地方民ハ非常ニ不安ニ襲ハレテ居ル、此ノ點ニ付テ地方民ハ、何モ關係ガナイト云フ譯ニ行カナイト云フノハ、何ト申シマシテモ大政翼賛會ノ運動ハ大掛リナモノデアリマスカラ、地方民ガ之ニ心ヲ奪ハレルトコトハ當然デアアル、而シテ其ノ半面ニ於テ、斯クノ如キ不穩ナル行動ガ公々然トシテ行ハレテ居ルコトハ、如何ニモ其ノ點ニ於テ、吾々ハ無政府ノヤウナ状態ト感ズルノデアリマス、或ル者ハ之ヲ評シテ、革命ノ前夜ナリト私ニ警告シタ者モ居ルノデアリマス(拍手)私共洵ニ數カハシイコトト思フ、之ニ付テ私ハ近衛首相ノ只今ノ御明答ニ依ツテ、安心ヲ致シテ居リマスルガ、然シスウ云フモノヲ總テ一掃シマスルニ付テハ、近衛公ノ御手ゾカラ出來ルコトデアリナイノデアリマシテ、翼賛會ニ於ケル其ノ道ノ人ガヤツテタレナケレバイカスノデアリマス、ソレ等ノ人々ガ、若シ此ノ人々ト相連鎖シタル所ノ不穩ノ思想ノ持主デアツト致シマシタラ、何ト致シマスカ、私ハ是デハ近衛首相ノ設ケラレタ大政翼賛會ハ、洵ニ天下ノ逆效果ヲ及ボスガ如キコトニナリハシナイコト憂フル者デアリマス(拍手)而シテ

又モウツ實際問題トシテ、私共ハ到ル處ノ町村長ナドカラ苦情ヲ聴クノデアリマスガ、ソレハ今勅令ニ依ツテ、内務省デハ部落會ヲ獎勵シテ居レドモ、其ノ部落會ニ於テハ、洵ニヨク部落ノ者ガ寄ツテ相談スルコトニナツテ、天下ノ重大ナル問題ハ、其ノ地方ニ關係アルモノヲ、ソレゾレ所謂上意下達ノ方法ヲ執ツテ居ル、サウシテ其ノ部落會ニ於キマシテハ更ニ隣組ヲ寄セルトカ、色々ナコトヲシテ滿遍ナク其ノ事務ガ地方ニ普及スルヤウナ方法ヲ執ツテ居ルノデアリマス、然ルニ其ノ上ニ更ニ又大政翼賛會分會ト云フモノヲ設ケラレルトコトニナツテ居ツテ、其ノ役員ノ推薦ヲ要スルノデアアル、是ニ於テカ町村ニハ町村役場アリ、町村會アリ、而シテ部落會アリ、更ニ又大政翼賛會ノ分會アリト云フコトニナル、然ルニ町村ニ於テ部落會或ハ白足袋ヲ穿イテ歩ク者ハ、サウ餘計居ラズデアリマス、サウ云フ所ニ推薦ヲ要求セラレマスカラ、洵ニ町村ニ於テノ事務ガ複雑多岐、大牙錯綜致シテ居ル次第デアリマス、而シテ更ニ其ノ持分持分チノ部分ニ於テ非常ナル摩擦ヲ起シ、町村會ガアツテモ大政翼賛會ハ其ノ以上ノモノデアアル、大政翼賛會ハ上カラツツ傳ハツテ居ルノデアツテ、大政翼賛會ハ一番デアアル、ナニ縣會モ國會モナイノデアアル、大政翼賛會デ萬事國務ヲ處理シテ行クノガ、所謂新體制デアルト云フ風ニヤラレテ居ルノデアリマスカラ町村會トノ摩擦ガ甚シクナツテ來ルノデアアル、更ニ又ソレガ地方ニ於ケル部落會トノ摩擦ヲ起スト云フコトニ相成ツテ居ルノガ實情デアリマス、其ノ邊ノ摩擦ガ甚シクナツテ來ルノデアアル、更ニソレガ

又地方ニ於ケル所ノ、所謂部落會トノ摩擦ヲ起スト云フコトニ相成ツテ居ル實情デアリマス、此ノ邊ノコトヲ近衛公ガ能ク御分リニナツテ居ルカドウカ知リマセムケレドモ、地方民ハ此ノ議會ヲ通過シテ、是非トモ明ルミニ出シテ裁カケレバヤル潮ガナイト云ツテ居リマス、地方ノ人ハ大政翼賛會ニ對シテ一言ノ批評モ許サレテ居リマセス、許サレテ居ラスト信ジテ居ル、唯之ヲ質スノハ常態會アルノミデアリマス(拍手)私ハ斯様ナ實情カラ致シマシテ、甚シク忙シイ首相ノ御足ヲ止メテ御質問ヲ致シテ居ルノデアリマシタガ、ドウカ斯クノ如キ複雑多岐、而シテ地方民ニ益、迷惑ヲ及ボスヤウナ點ハ、速カニ之ヲ一掃セラルルガ、國務ノ爲ニ非常ニ宜シイコトデアアル、又首相ノ責任ノ一ツデアルト、私ハ信ジマスルガ故ニ、斷乎トシテ茲ニ近衛公ニ御忠告ヲ申上ゲル次第デアリマス、此ノ新體制ノ運動ニ付テハ、何人モ運動其ノモノニ付テ異議アル管ハナイノデアリマシテ、大政翼賛會ノ會ハナイ方ガ、所謂高度政治力ヲ結成シナケレバナラズト云フ所ニ、他ノ國務トノ間ニ二本建ニナリ、三本建ニナルト云フヤウナコトニ、地方民ハ感ズテ居ルノデアリマス、ドウカ此ノ點ヲ一掃セラレシコトヲ、私ハ念願スル次第デアリマス、何か御意見ガアレバ承ツテ置キマス

○近衛國務大臣 御意見アル所ハ能ク分リマシタ

○増田委員 總理大臣ハ御急ギノ事情ガアルカラ、他ノ大臣ニ對スル質問ハ保留シテ、西尾君ニ總理大臣ニ對スル質問ヲ許シマス、ドウゾ

○西尾委員 既ニ同僚委員ニ依リマシテ、凡ユル問題ヲ各方面カラ質疑ナサレタノデアリマシテ、私ガ質疑致サントシテ居リマシタコトモ、ソレニ依ツテ大部分諒解ガ出來タノデアリマスガ、唯一點此ノ非常時局ニ於テ極メテ重要ナ問題デアツテ、マダ殘サレテ居ル問題ガアルノデアリ、一點ニ付テノ總理大臣ニ御伺ヒシタイト思フノデアリマス、私ノ御伺ヒ致サントシテ居リマス問題ハ、生産力擴充ニ關スル問題デアリマス、分ケテモ其ノ中ノ努力ニ關スル問題デアリマス、事變發生以來四箇年ニナルノデアリマスルガ、過日總理大臣ハ未ダ事變解決ノ曙光見エズト仰セラレテ居ルノデアリマス、又陸軍大臣ハ年頭ニ新聞紙ヲ讀ミテ、今ヤ我が國ハ環國以來ノ超非常時局デアルト云ハレテ居ルノデアリマス、更ニ同様新聞紙ヲ讀ミテ見シタノデアリマスガ、松岡外務大臣ハ海外ノ同胞ニ呼ビ掛ケル言葉ノ中ニ、本年ハ人類ノ歴史始マツテ以來ノ非常ニ重大ナル悲惨事ガ起ルカモ知レドモ、ソレヲ言ツテ居ルノデアリマス、洵ニ斯様ナ超非常時局ヲ切抜ケル爲ニハ軍需民需ノ充足、更ニ進ンデ東亞新秩序ノ建設ヲ爲シ、莫大ナル生産力ガ必要デアルト云フマデモナイノデアリマス、洵ニ今日程國家ノ生産ノ要求ノ大ニシテ、而モ生産力ノ不足ガ懸ヘラレ、生産資料ノ不足ガ甚クマデニ懸ヘラレテ居ル時代ハナイノデアリマス、現下ノ國家ノ要請ハ最少ノ資料ト最少ノ勞働力ヲ以テ、最大ノ生産ヲスルト云フコトヲナクテハナラズデアリマス、然ルニ一方直接生産ガ行ハレテ居リマス工場ノ實情ヲ見マスルナラバ、果シテ此ノ國家ノ要請ニ應ヘツツアル

デアリマセウカ、私ハ遺憾ナガラ然ラズト
言ハザルヲ得ナイノデアリマス、私ハ數箇
ノ工場モ視マシタ、又多クノ労働者諸君、
更ニ又直接企業ニ携ハツテ居ル方々ニモ會
ツテ聴イタノデアリマス、何レモ今日ノ實
情ハ百パーセントノ緊張シテ生産力ヲ發揮
シテ居ナイト云フコトヲ嘆イテ居ルノデア
リマス、又社會政策時報ノ十月號デアリマ
シタカ、十一月號デアリマシタカ、ソレヲ
讀ンデ見マス、其ノ中ニ労働者ノ集マ
ツテ座談會、又事業家及ヒ事務管理ニ携
ハツテ居ル者ノ集マツテ座談會ガ各別ニ
マスガ其ノ別々ノ座談會ニ於テモ、口ヲ揃
ヘテ今日工場ニ於ケル労働能率ハ低下シテ
居ルト云フコトヲ言ツテ居ルノデアリマ
ス、或ル事業家ノ直接言フテ居ル言葉ヲ聽
キマスナラバ、六七割シカ其ノ労働力ハ發
揮サレテ居ナイト云フコトヲ言ツテ居ルノ
デアリマス、更ニ又私ガ他ノ方面デ見、聽
キ、又研究シタ所ニ依リマス、此ノ資
材ノ不足シテ居ル今日ニ於キマシテ、色々
工場ノ「システム」ノ惡イト云フ點モアリマ
スルガ、工場事業員ノ精神ノ緊張ガ缺イテ
居ルガ爲ニ、徒ラニ不合格品ガ出來ル、更ニ
其ノ工場ニ於テ或ハ「ボールド」ナツト」其
ノ他鐵片等ガ甚ダ粗末ニ扱ハレテ居ルニ
フコトヲ見テ居リマス、斯ウ云フヤウニ資
材ガ粗末ニ扱ハレ労働力ガ十分ニ發揮サレ
テ居ナイト云フコトノ理由トシテ舉ゲ重
大ナル一ツノ點ハ、言フマデモナク不熟練
労働者、青年労働者ガ増加シテ結果デゴザ
イマシテ、ソコニ能率ノ低下ヲ生産資材ノ
無駄ガ行ハレテ居ルトハ思ヒマスルケレド
モ、併シ之ヲ根本的ニ申シマスルナラバ、

然ラバサウ云フコトハ一體何處ニ原因ガア
ルノカト云フ其ノ原因ヲ選ツテ考ヘテ見マ
スルト、是ハ實ニ我が政府ニ於テ戰時労働
政策ガ未ダ十分ニ確立サレテ居ナイト云フ
所ニ、根本ノ原因ガアルノデアリナイカト
フノデアリマス、私ガ斯ク申シマスルト或
ハ言フデアリマセウ、去年十一月八日ノ閣議
ニ於キマシテ、勤勞新體制確立要綱ガ決定
サレタトカ、或ハ産業報國會ノ運動ガ政府
ノ指示ニ依ツテ行ハレテ居ルト云フコトヲ
言フノデアリマセウガ、是ハ戰時體制ト云
フ譯ニハ行カナイト思フノデアリマス、寧
ロ是ハ長イ間歷代ノ政府ガ、近來ニ於テ重
要ナルベキ労働政策ヲ等閑ニ附シテ何等
見ルベキ労働政策ガ國ニ於テ樹立サレテ居
ナカツタノガ、事變ガ勃發シマシテ以來、
労働力ノ重要セヨ初メテ見セ付ケラレルコ
トニ依ツテ、後レ馳セテナガラ労働政策ヲ打
立テ掛ケタニ過ギナカツタノデアリシテ、
之ヲ以テ戰時ノ労働政策ト云フ譯ニハイカ
ナイト思フノデアリマス、平時ノ労働政策
ト言ハザルヲ得ナイト思フノデアリマス、
勿論私ハ事變以來政府ノ労働政策ニ於テ、
幾多ノ施設ガ行ハレ、ソレガ相當進歩シテ
居ルト云フコトハ十分認メテ居ルノデアリ
マスガ、唯一ツノ重大ナル點ガ等閑ニ附サレ
テ居ルト云フコトヲ申上ゲテ實弊ヲ致シタ
イト思フノデアリマス、ソレハ何デアルカ
ト云フト、一言ニシテ申シマスナラバ、此
ノ物動計畫ト併行シテ労働員計畫ト云フ
言葉ガ言ハレル、或ハ又人的資源トシテ勞
働力ノ問題ガ考ヘラレルト云フコトガ、何
時ノ間ニカ知ラズ識ラズ労働力ト云フモノ
ヲ經濟價值トシテ生産ノ道具トシテ考ヘテ、
其ノ労働力ノ所有者デアアル労働者ガ、是ガ

一面ニ於テハ國家ノ運命ヲ背負ツテ立ツ所
ノ、少クモ此ノ非常時局ヲ乘切ル爲ノ労働
方面ヲ受テテ所ノ産業戰士デアルト云フ
コトガ實ニ附キレテ居ル、更ニ又我が
天皇陛下ノ「志」デアルト云フコトガ鬼角等
閑ニ附キレテ、曰ラス識ラズノ内ニ是ガ閑却
サレテ居ル所ニ從來ノ労働政策ノ魂ノ入ツ
テ居ナイト云フ點ガアルノデアリナイカト思
フノデアリマス、私ハ此ノ際戰時労働政策
ノ根本的ニ重大ナル點ハ、幾多クモ教育勸誘
ニ仰セラレテ居ルマシラス、一旦緩急
レバ義勇公ニ奉ズルト云フ此ノ考ヘ方ヲ持
ツテ労働者ガ其ノ生産ニ積極的ニ、進ンデ
之ヲ行フヤウニスルコトヲ考ヘ、其ノ根
本ノ眼目デナケレバナラズト思フノデアリ
マス、私ハ後デ厚生大臣ニ色々伺ヒタイノ
デアリマスガ、總理大臣ニ伺ヒタイ點ハ、
以上私ノ意見ノ結論ト致シマシテ、今日
行ハレテ居ルガ如キ我が國ノ労働政策ニ依
ツテ、此ノ極メテ重大ナル非常時局ト云ハ
レル此ノ秋ニ於テ、果シテ之ニ依ツテ足レ
リトスルノデアアルカドウカ、若シ之ニ足ラ
ナイ所ガアリトスルナラバ、如何ナル方法ニ
依ツテ今日ノ此ノ國家ノ要請ニ副フ所ノ、
即チ一ツノ「ボールド」モ、一ツノ「ナツト」
モ労働者ガ始末スル、假令一分ノ時間デモ
之ヲサボツテハ國ニ相濟マス、サウ云フ積
極的ナ、喜ンデ労働ニ携ハルヤウニスル爲
ニハ如何ナル工夫ガ必要デアアルカト云フコ
トニ付テ御伺ヒシタイト思フノデアリマス

○近衛國務大臣 先程石坂君ハ、天皇ノ御
名ノ下ニ生命財産ヲ總テ奉還セシメル
實ハ此ノ、天皇陛下ノ御名ヲ利用シテ私有
財産ヲ否認スルガ如キ共產主義ノ思想ガ
アルガ、是ハドウカト云フ御尋ネデアリマ
シタカ、斯ウ如キ私有財産否認ノ思想ハ
宜シクナイ、斯ウ申シタノデアリマス、純
精神のニ考ヘレバ今ナタノ御シヤウツタ通
リニ考ヘマス

人ノ不熟練ヲ労働者ヲ段々ト量的ニ殖ヤス
ト云フコトバカリデナク、現在熱心シテ勞
働者ガ居ルノデアリマス、而モソレガ
六割、七割位シカ労働能率ヲ舉ゲテ居ナイ
ト云フコトデアリマス、之ヲ百パー
セントノ舉ゲサセル爲ニハ、色々ナ上カラ
ノ法律的ナ政策ノミデハ十分デアアル、勞
働者自ラガ國ニ奉ズル所ノ心ヲ持ツテ積極
的ニスルノデナケレバイカス、サウ云フコ
トノ爲ニハ今マデノ政策デハ足ラズ、何か
工夫シナケレバナラズ所ガアルノデアリマ
ス、斯ウ云フガ私ハ總理大臣ニ對スル質
問ノ要旨デアリマス、モウ一度御伺ヒ致シ
マス

フヤウナ御答辯ガアツタヤニ私ハ承リマシ
タ、新體制ノ根本理念ニ付テハ、各人各機
色々ノ見解ガアルノデアリマス、私ハ
新體制ノ根本理念ハ吾々日本國民ノ生命モ
財産モ一切 天皇陛下ニ奉還スルコトガ根
本理念デアルト固ク信ジテ居リマス、是ハ
我が日本民族ニ三千年來今日マデ脈々トシ
テ絶エナカツタ私共民族ノ血デアリ魂デア
ルト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、
「イタリヤ」ハ全體主義デアリマスガ
日本ハ皇道主義デアアル、日本ノ皇道精神
ト云フモノハ、私ハ、陛下ニ對スル吾々
ノ生命財産ノ奉還デアルト考ヘテ居リマ
ス、吾々ノ生命モ、吾々ノ財産モ、一切
天皇陛下カラオ預カリシテ居ルノデア
ル、陛下ガ御入用ト仰シヤレバ、何時
デモ 陛下ノ御爲ニ捧ゲルト云フノガ皇
道精神デアリ、皇道主義デアリ、新體制
ノ根本理念デナケレバナラズト私ハ信ジ
テ居リマス、今回ノ事變ニ吾々ノ同胞ハ
陛下ノ御爲ニ十以上ノ生命ヲ大陸ニ捧
ゲテ居ル、陛下ガ御入用ト仰シヤレバ生
命ヲ喜ンデ捧ゲル、況ンテ財産ヲ認メラ
レテ居リマスケレドモ、是ハ 陛下カラ御預
カリシタ財産ヲ吾々ガ管理シテ居ルノガ、
斯ウ云フ氣持ニ立歸ルベキダト私ハ考ヘ
ル、此ノ皇道精神ニ一億國民ガ徹底致シテ
居レバ、何等ノ摩擦モ相剋シナク、高度國
防國家ト云フモノガ既ニ建設サレテ居ラ
ケレバナラナカツタ、此ノ自覺徹底ガナ
イカラ、今マデ高度國防國家ガ建設セラレ
シテ今日ニ及ンダノダト私ハ考ヘテ居ル、
此ノ點ニ付テドウカ明快ナル總理大臣ノ御
所信ヲ承リタイト存ジマス

○近衛國務大臣 先程石坂君ハ、天皇ノ御
名ノ下ニ生命財産ヲ總テ奉還セシメル
實ハ此ノ、天皇陛下ノ御名ヲ利用シテ私有
財産ヲ否認スルガ如キ共產主義ノ思想ガ
アルガ、是ハドウカト云フ御尋ネデアリマ
シタカ、斯ウ如キ私有財産否認ノ思想ハ
宜シクナイ、斯ウ申シタノデアリマス、純
精神のニ考ヘレバ今ナタノ御シヤウツタ通
リニ考ヘマス

○松岡國務大臣 今井君ノ言ヒ現シ方ト
レカラ考ヘ方ニ於テ、少シ差ハアルカモ知
レマセスガ、私モ事變當初カラ今井君トヤ
ハリ同様ノ意見ヲ持ツテ來タノデアリマシ
テ、内閣會議ト致シマシテモ、同様ノ意
見ヲ以テ私ハ時ノ政府側ヲ反省セシメント
努メテ來タノデアリマス、唯少シ——是モ言
ヒ現シ方デアリマセウガ、私ハ必ズシモ英
米ヲ敵視シテ、是トドウニカシテ行クト云
フダケノ考ヘテ來タノデアリマセウデ、
支那事變處理ノ一ツノ大キナ要點ハ、今井
君ノ言ハレルヤウニスルコトニアルト思フノ
デアリマス、之ニ對スル外交ニ主トシテ力ヲ
注イデ、具體的ニ申セバ、例ヘバ米國ト諒
解ヲ付ケテ手ヲ引カセル望ミノアルモノナ
ラバ、大イニソレヲヤレバ宜イ、引カナケ
レバ引カヌデ、我レモ毅然タル態度ヲ取
ル、彼レガ將介石ヲ援テヌヤウニ處置スル、
サウ云フヤウニ私ハ事變勃發ノ當初カラ斯

ウ云フ點ニ付テ一ツノ確ナル方針ヲ樹テ、先づ英米ヲ阻ミ切ラナケレバ駄目ダト云フ意見ヲ來タノデアリマス、恐ラク今井君ノハ言ヒ廻シガ少シ遠クダケテ同ジ御考ヘデアルト思フ、私ハ今尚ホ同ジ考ヘテ持ツテ居ル、併シ何シロ媚態ト云ヘバ媚態デ...

云フ御尋ネデアリマスガ、是ハ内容ニ立入ツテノ説明ヲ期待シテ居ルコトデアリマス、イガ、一面迷ハズ斷々手ヲ止メテ吾々ハ他マデ国力ヲアツテ限リテ提テ支那事變處...

カラ、之ニ對シ媚態ヲ盡シテ、彼ノ歡心ヲ求メ、援將行爲ヲ止メサセヨウト云フヤウナ考ヘテ持ツ者ハ、持ツ者ガ間違ヒデア...

ヤト云フヤウナ所ヲ根據地ニスルト云フコトハ、想像ニ難クナイ、現ニ「アメリカ」ノ新聞ニサウ云フコトガ出テ居ル、サウ云...

○今井(新)委員 諒承シマシタ
○増田委員 笠井重治君
○笠井委員 笠井重治君

テ調印致サレマシタ日獨伊ノ三國同盟デアリマス、其ノ三國同盟ノ第五條ニハ、同盟ノ條項ハ「ソ」聯トノ政治的狀態ニハ何等影...

ヲ願ヒタイト思ツテ居リマス
○松岡國務大臣 笠井君ノ御質問ノ第一點ニ御答ヘシマス、中々「ソ」聯トノ國交調整...

云フコトニ決リマシタ、是ハ實ニ意外ナコトデ、私此ノ際向フサウ云フヤウナ挨拶ヲスルトハ本當ノ所ハ夢ニ思ハナカッタ、...

○笠井委員 笠井重治君
○笠井委員 笠井重治君

テ調印致サレマシタ日獨伊ノ三國同盟デアリマス、其ノ三國同盟ノ第五條ニハ、同盟ノ條項ハ「ソ」聯トノ政治的狀態ニハ何等影...

ヲ願ヒタイト思ツテ居リマス
○松岡國務大臣 笠井君ノ御質問ノ第一點ニ御答ヘシマス、中々「ソ」聯トノ國交調整...

云フコトニ決リマシタ、是ハ實ニ意外ナコトデ、私此ノ際向フサウ云フヤウナ挨拶ヲスルトハ本當ノ所ハ夢ニ思ハナカッタ、...

○笠井委員 笠井重治君
○笠井委員 笠井重治君

テ調印致サレマシタ日獨伊ノ三國同盟デアリマス、其ノ三國同盟ノ第五條ニハ、同盟ノ條項ハ「ソ」聯トノ政治的狀態ニハ何等影...

ヲ願ヒタイト思ツテ居リマス
○松岡國務大臣 笠井君ノ御質問ノ第一點ニ御答ヘシマス、中々「ソ」聯トノ國交調整...

云フコトニ決リマシタ、是ハ實ニ意外ナコトデ、私此ノ際向フサウ云フヤウナ挨拶ヲスルトハ本當ノ所ハ夢ニ思ハナカッタ、...

幕阿部大使ト南京政權トノ間ニ締結セラレタ條約ノ結果ト致シマシテ、近衛聲明ニ於テ説明セル所ノ、其ノ根本精神ガ實行ノ途ニ移リマシトコトハ、洵ニ慶賀ノ至リニ堪ヘマセス、然ルニ重慶政權ハ之ヲ諸外國ニ自分ノ都合ノ好イヤウニ宣傳シテ、恰モ日本ガ支那ニ對シテ侵略政策ヲ執ツテ居ルガ如クニ發表シテ來テ居リマス、其ノ上ニ最近日本ガ東亞共榮國ト云フ政策ノ下ニ高邁ナル思想ヲ發表致シマシテモ、彼等ハアレハ日本ノ侵略主義ノ「カムフラージュ」デアルト云フガ如キコトヲ言ツテ居リマス、其ノ一例トシテハ既ニ此ノ議場ニ於テ説明ガアツタ如ク蘭印經濟長官「ファン・モーク」氏ノ如キモ、日本ノ誠意ヲ信ジテ居ラナイ、デアリマスカラシテ私ハ外務大臣ニ御願ヒスルコトハ、日本ノ東亞ノ建設ハ兎ニ角既ニ近衛聲明ノ實證ト云フモノガ舉ツテ居ツテ、南京デ之ヲ實踐シテ居ルデハナイカ、然ラバ日本ハ共榮國ノ範圍ト云フモノヲ外交上ニ於テ此處カラ此處マデト發表スルノハ蓋シヘナケレバナラヌト思ヒマスガ、其ノ共榮國ノ範圍ニ於テ日本ガナサントスル所ノ眞ノ政策ハ八紘一宇ノ政策ヲモウ少シ徹底スルヤウナ手段ヲ以テ外務大臣ニ御盡シテ願ヒタイト思ヒマスガ、其ノ點ニ對シテ外務大臣ノ御所見ヲ承リタイト思ツテ居リマス

○松岡國務大臣 私モ全然御同感デアリマス ○笠井委員 次ハ日米問題ニ付テ外務大臣ノ所見ヲ御伺ヒ致シタイト思ツテ居リマス、是ハ廣範圍ニ於テ外務大臣ニ御伺ヒシタイト思ツテ居リマシタガ、去ル二十五日ノ窪井委員ノ御質問ニ對シテ外務大臣ヨリ懇切ナル御答辯ガアリマシテ、外務大臣ハ極メテ大膽率直ニ我が日本國民ノ言ハント欲スル所ヲ遺憾ナク言ハレタヤウデアリマス、此ノ點ニ對シテハ洵ニ同感ノ意ヲ表シ、又敬意ヲ表スル次第デアリマス、併シナガラ唯私ハ茲ニ二十五年間「アメリカ」ノ國民ニ向ツテ日本ヲ理解セヨ、日本ハ斯様ナル精神ヲ持ツテ居ルデハナイカト云フコトヲ外務大臣モ御承知ノ如クニ、大イニ之ヲ昂揚マシテ來マシタガ、然ルニ私ガ遺憾ニ思ヒマスルコトハ、外務省當局ノ政府當局ト云フモノノ今日マデノ一今日ノ政府トハ言ヒマセス、今日マデノ對米外交ト云フモノハ歐弱外交デアツタト云フコトデアリマス、此ノ點ハ外務大臣ガ自ら二十五年間「ワシントン」ニ居ラレテ常ニ其ノ情勢ヲ知ツテ居ラレドデアリマス、私ハ斯ウ思ヒマス、今日日本ガ自分ノ民族發展ノ最後ノ途ヲ東亞ノ大陸ニ選バネバナラナカツタ原因ハ何デアラカト云フベ、英米ノ日本ニ對スル排日的態度デアツタノデアル、即チ彼等ハ移民問題ニ於テ獨リ日本人ヲ排斥スル、或ハ彼等ハ寫眞結核ニ於テ日本人ノ入國ヲ禁止スル、或ハ日本ニ對スル各種ノ問題中學堂問題等色々ナ問題ガアリマシタ、然ルニ今日マデ未ダ曾テ我が國ノ外交當局ガ「アメリカ」ノ政府當局ニ對シテ、君等ハ正義及ビ人道ト云フコトヲ「ワシントン」ヤ「ワシントン」ガ言ツテ居ルガ如ク、外交政策ニ於テ日本ニ對シテ之ヲ實踐シタカト云フコトヲ言ツタコトヲ私ハ聞イタコトガアリマセス、此ノ意味ニ於テ私ハ、民間ニモ相當ニサウ云フ人ガアラウト思ヒマスガ、兎ニ角「アメリカ」ニ向ツテ此ノ事ヲ言ツテ來タ譯デアリマス、サウシテ私ハ議會ニ來

テ、ココ三四年間ト云フモノハ我が外交當局ニ對シテ、モウ少シ大膽率直ニ「アメリカ」ニ向ツテ、ナゼ「アメリカ」ハ日本ノ東亞政策ト云フモノヲ理解シナイカト云フコトヲ仰シヤラナイカト云フコトヲ言ツテ參リマシタ、是ニ反シテ徒ニ叩頭百拜シテ、サウシテ結局此處マデ押詰ラレテ來タコトハ、是ハ我國ノ外交政治家ノ大失敗デアラウト思ヒマス、彼等モ責任ガアルシ、又日本ノ方モ責任ガアラウト思ヒマス、此ノ場合ニ於テ外務大臣ガ率直明快ニ仰シヤラレタコトハ極メテ私ハ幸甚ト考ヘテ居リマス、唯遺憾ナガラ聊カ時運シト云フ風ニ考ヘザルヲ得ナイコトガ洵ニ遺憾デアリマス、此ノ點デアリマス、即チ此ノ間ノ外務大臣ノ御答辯ハ極メテ妥當デアラウ、妥當デアリマスガ、其ノ點ニ於テ外交當局ト云フモノハ恐ラク「バツァー」ミタヤウナモデアラウト思フ、即チ敵ヲ討ツト云フコトハ、其ノ背後ニ控ヘテ居ル陸海軍ガアリマス、外交當局ハ「バツァー」デアラカラ、最後マデ其ノ間ニアツテ全力ヲ盡シテ戴カナケレバナラヌト思ヒマス、外務大臣ノ此ノ間ノ本總會ニ於ケル御答辯ヲ伺ツテ見マスト、日米關係ハドウモ絶望ダト云フ風ニ聞エマシタ、此ノ點ハモウ少シ明快ニシテ戴キタイトデアル、此ノ間「ルーズヴェルト」大統領就任式ニ、畏クモ 天皇陛下ノ御親電ヲ送ラレタト云フコトモアリマスノデ、最後マデ外交調整ヲヤルゾト云フ決意ダケハ示シテ戴キタイトデアル、現時ノ難局ハ吾々ハ承知シテ居ル、國民ハイツ何時デモ起チマス、デアリマスカラ政府ノ對米態度ヲ明確ニシテ戴キタイト思ツテ居リ

○松岡國務大臣 先日來私ガ日米關係ニ付テ述ベマシタ所ハ、自分ノ見ルガ儘ノ狀況及ビ其ノ狀況カラシテ豫見サルト思ハレル見透シラ率直ニ述ベタノデアリマス、ソレガ悲觀的ニ聞エタノデアリマセウガ、ドウモ樂觀スル餘リナイト云フコトハ是ハ事實デアリマス、併シ先程モ申シマシタヤウニ、絶望ハ此ノ日米關係ニ付テモシテ居ラスノデアリマス、否私ノ考ヘ方ハ、外交ノ衝ニ當ル者ニ絶望ト云フ二字ハナイ管デアリマス、是ハ字引ニナイ管デアリマス、假令決裂ニ至ルニシマシテモ、其ノ一分間前マデ絶望セズニ最善ヲ盡ス、人事ヲ盡ス、斯ウ考ヘナケレバナラヌト平素カラ思フテ居リマスノデ、微力ナガラ私ハ其ノ考ヘヲ以ツテ日米關係ニ處シツツアリマス、隨テ野村大使ノ如キ、日米雙方何人ガ見テモ先ヅ駐米大使ノ候補者トシテハ第一人者デアルト、一アツテ二ナイト思ハレル、殊ニ大統領トハ若イ時カラ非常ナ懸念ナ間柄ノ人デアリマス、此ノ最善ノ候補者ト思ヘル人ヲ無理ニ御願ヒシマシテ、大統領トモ膝ヲ接シテ、殊ニ私ガ屢言ヒマスヤウニ米國ガ參戰スルトカ日米戰爭ヲヤルトカ云フコトハ、是ハ獨リ米國又ハ日本ダケノ問題デハナイ、全人類ノ運命ガ之ニ懸ツテ居ルノダト云フ此ノ大キナ點之ヲ私ハ特ニ野村大使ニ大統

領、國務長官其ノ他米國朝野ノ有力者ニ分ラセテ貫ヒタイ、無論先程カラ言フヤウニ我が大和民族ノ眞ノ目的、又抱イテ居ル考ヘヲ併セテ分ラセテ貫ヒタイ、勿論吾々ノ決意ノ強イコトハ是ハ問題ナイ、モウ示シテアルガ、一面サウ云フヤウニ野村大使ニ骨折ツテ貫ヒタイ、斯ウ云フ考ヘデ、私ハ二度モ斷ラレマシタガ諦メズニ遂ニ御願ヒシテ行ツテ貫ツタヤウナ譯デアリマス、其ノ點御諒承願ヒタイト思ヒマス

○笠井委員 外務大臣ノ御説明ハ能ク分リマシタ、有難ウゴザイマス、ソコデ最後ニ外務大臣ニ御尋ネシタイ點ガ一ツアルノデアリマス、ソレハ最近外務省ガ海外ノ重要ナ「ポスト」カラ、歐洲、西半球即チ北米、南米方面カラ、四十數名トカ新聞ニアリマシタガ、有力ナル大使ヲ喚ビ遣シテ居ルト云フコトデアリマス、是ハ世間ニハ色々々外務大臣ノ行動ニ對シテ不滿ノ人モアルヤウデアリマスガ、私ハ今革新外交ヲヤル場合ニ於テ、是モ已ムヲ得ナイト思ヒマス、又ヨクモ度胸好ク四十人モ斷行シテシマツタト云フ風ニモ考ヘテ居ル譯デアリマスガ、併シサウ云フ風ニ多數ノ識者スルト言ヒマスカ、「ポスト」ヲ變ヘルナラバ、一刻モ早ク其ノ後ニ他ノ人ヲ送ツテ貫ヒタイ、例ヘバ「アメリカ」ノ如ク最早一觸即發ノヤウナ情勢ニアル所ノ「ポスト」ガ、野村大使ガ決定セラレマシマデニ三箇月モ掛ル、決定シテカラマダ支那ヲ旅行シテ居ルト云フヤウナコトデハ一寸困ルト云フ風ニ國民ハ思ツテ居リマス、又其ノ他ノ南米アタリノ「ポスト」ニ付テハ、最も重要ナ所ト思ヒマス、デアリマスカラ、此ノ戰時ノ場合ニ於テ、我が國ノ財政經濟總テノ方面ニ此ノ地步

ヲ失ハナイヤウニ外務省ニ於テモ盡シテ貫ヒタイト思ツテ居リマス、殊ニ今北米合衆國ニ付テ見マシタ、堀内君ガ歸リマシテカラ大使ガ居ラス、ソレカラ「ニューヨーク」ノ總領事若杉君ガ歸ツテ來ル「シカゴ」ノ總領事ノ蘆野君ガ歸ツテ來ル、又「セントフランシスコ」ノ總領事ノ佐藤君ガ歸ル、何レモ重要ナル人物デアリマス、サウシテ「アメリカ」ニ於テハドウデアラカト云フト、明日日米間ニ事ガ起ツタナラバ、十五萬ノ在米同胞ヲ一體全體政府ヘドウスル積リカ、「ハワイ」ニ居ル二十萬ノ同胞ヲドウスル積リカト云フヤウナ重大ナルコトニ遭遇シテ居リマス、此ノ間向フニ居ル有力ナル日本人カラ來タ手紙ヲ見マシタ、私ガ同胞ト相談スルノニモ總領事モ居ラナケレバ、有力ナ政府代表者ガ居ラス、在留同胞ハ路頭ニ迷ツテ居ルト云フヤウナコトヲ言ツテ來テ居リマス、斯ウ云フ風ナコトデアリマスカ、ドウカ一ツ外務大臣ハ、一刻モ早ク「ポスト」ハ之ヲ補充シテ戴キタイト思ツテ居リマス、此ノ點ニ付テ、御願ヒ遣シテ來タコトハ諒承シテ居リマス、是ハ已ムヲ得ナイコトト思ヒマス、ソコデ次ニハ、成ベク立派ナル人物ヲ送ツテ、我が國外交ノ刷新ヲシテ戴キタイ、是ガ私ノ企願デアリマ

ノ局部ヲ見マストドウデアリマスカ、是ハ私ガ言ハナクテモ大臣ハ能ク御承知ノコトデアル、各國ノ外務省ヲ見マシタ、「イギリス」ニシテモ「アメリカ」ニシテモ相當ニ内容ガ充實シテ居ル、其ノ他「ドイツ」ニシテモ、先ヅ外務大臣「リッペン」ト云フノ下ニ次官ガ居ツテ、其ノ次官ノ下ニハ更ニ次官補ガ二人カ三人カ居リマス、我が國ニ於テハ陸海軍省ヲ除ケタナラバ、最も重要ナル仕事ヲシナケレバナラヌ所ハ外務省デアルト、此ノ外務省ガ人ガ足りナイデハナイカ、アナタノ手足ニ使フ人ヲ出シテシマフト人ガ居ラナイト云フコトデハ困ル、ソレデアリマスカラ、ドウカ此ノ點ニ付テハ、必要ナラバ政府モ他ノ各省トハ異ナツテ、外務省ニハ次官ガ二人トカ三人トカ居ツテモ一向構ヒマセス、今ハ松岡、大橋兩君ノ下ニ非常ニ有力ナル人材ガ集マツテ居リマス、デアリマスカラ其ノ下ニ更ニ次官ガ必要ナラバ二人デモ三人デモ御置キニナツタラ宜イト思フ、日本ノ外交政策ヲ本當ニ決定スル有力ナ「エキスパート」ト云フモノヲ其ノ中ニ澤山入レテ貫ヒタイト思フ、殘念ナガラ私ハ色々々局部ノ情勢ヲ申上ゲルト失禮デアリマスカ、何局々ト云フモノヲ見ルト、果シテ「エキスパート」ガ其ノ中ニ居ルヤ否ヤ、斯ウ云フコトヲ見マシタ、專門ノ知識ヲ持チ、專門ニ國際情勢ヲ知り、專門ノ言葉ヲ知ツテ居ル人ガナイ、又今日外務省ノ最も惡イコトハ外國語ニ堪能ノ人ガ少イ、外務省官吏ニ於ケル外國語ト云フモノハ軍人ノ劍デアリマス、外交上ニ最も必要ナ言葉ト云フモノハ軍人ノ劍デアリマス、松岡外務大臣ハ外國ノ使臣ヲ引見スル時分ニ自分デヤツテ居リマスカ、今日マデノ外

ニ行ツテ、前ノ大使ト其ノ任地ヲ引繼グラスルヤウナコトハ、是ハモウ外交ノ慣例上、殆ド已ムヲ得ナイ限リ行ハナイト云フコト...

斯様ニ考ヘテ居リマス ソレカラ第二ノ内輪ハト云フ御意見ニ付キマシテハ同感ノ點モゴザイマスガ、私ガ大臣ニナリマシテ人事ニ關シテ...

ト呼ブ者アリ) 是ハ分科會ニハ讓レマセヌ(小笠原委員長代理退、席委員長着席)先ヅ以テ藥品配給ハ巧ク行ツテ居リマセウカ

テ居ルノデアリマスガ、厚生省ニ於テ左様ニ業者ヲ苦シメテモ藥品ノ配給ヲナサラスト云フ方針デアリマスガ、ソレヲ伺ツテ...

單ニ是ハ厚生大臣ニ御伺ヒスルト云フコトヨリモ、總理大臣ニ御伺ヒシテ方宜イト云フノ御意ニシテ...

後ニ一點厚生大臣、陸軍大臣ニ對シテ經濟新體制ニ關シテ御伺ヒ致シマシテ、私ノ質疑ヲ終リタイト思ヒマス

モウ一ツハ、陸軍大臣ニ御伺ヒ致シタイノデアリマスガ、經濟新體制ノ問題ヲ考ヘル場合ニハ、時局ノ進展ガドウナツテ行ク...

云フ點カラモ新經濟政策ヲ強行スベキデアルカ、或ハ之ヲ緩クモ見ナケレバナラスト...

シテ、工場ニ於ケル生産率低下ノ問題ニ付テ總理ニ御尋ねニナリマシタノデアリマスガ、其ノ事ハ私ノ所管ニ屬スルコトデアリマスカラ、此ノ機會ニ於キマシテ一言其ノ問題ニ觸レテ置キタイト存ジマス、工場ニ於ケル生産率ノ低下致シタコトハ仰ノ通りデゴザイマシテ、西尾君ト其ノ憂ヒヲ等シウスル者デアリマス、是ガ匡救方法トシマシテハ、物の方面並ニ精神的方面、此ノ兩方面カラ是ガ改善ヲ圖ラネバナラスコト云フコトモ亦全然御同感デアリマシテ、労働者ニ對スル指導精神ノ如キモ、西尾君ノ御意見ニ全ク同感デアリマス、獨リ労働者トシテハ、全従業員ガ仰セノ如ク産業戦士トシテ國難ノ急ニ赴クト云フ覺悟ヲ持つテ、勤勞報國ノ精神ヲ昂揚致シマスルヤウニ指導シナケレバナラスコト存ズルノデアリマス、政府ト致シマシテハ、現在アリマス凡ユル機關ヲ動員致シマシテ、物的並ニ精神的方面カラ是ガ改善ヲ圖リタイト存ジテ居リマス、折角研究工夫ヲ凝ラスコトニ致シマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

○東條國務大臣 只今私ニ御尋ねノ點ニ付キマシテ御答ヘ申上ゲマス、言フマデモナク帝國ハ大東亞建設ト云フ大キナ目標ニ向ツテ巨歩ヲ進メツアルノデアリマス、手近ナ所ニ於キマシテハ、支那事變ノ解決、又南方大東亞新秩序ノ建設ト云フ大キナ目標ニ向ツテ行ク爲ニハ、或ハ南方ノ問題モアリマセウ、對米對ソノ問題モ起ツテ參リマセウ、是等ニ對スル所ノ各種ノ變化ニ應ズル準備、是等ヲ考ヘテ見マスル場合ニ於キマシテ、ソコニ或ル相當ナル期間斯ノ如キ状態ガ繼續スルト云フコトヲ、國民トシテ覺悟シナケレバナラスコト私ハ思ヒマス、

ソコニ高度國防國家體制ノ必要性ヲ強張スル所以ガアリ、又本會議ニ於キマシテ全會一致ヲ以テ御決議ヲ見タ所ニ依リテモ、其ノ點ハ明瞭デアリマシテ思フノデアリマス、是等ヲ考ヘテハ、セマール場合ニ於キマシテ、即チ或ル相當期間遠イ一ツノ目標ヲ圖ミ、事實ニ於テ幅緩シタル事態ヲ解決シナケレバナラナイ點ガ澤山置カレテ居ル、之ヲ乗切ツテ行ク爲ニハ、生産ノ點カラ申シマスナラバ、生産ノ低下モ一切御断リシタノデアリマス、又此ノ事態ヲ乗切ルガケノ經濟體制ハ、理想的ナリモ地ベタニ足ノ着イタ態勢ヲ早ク整ヘテ行キタイト云フ兩方ノ要求ガアリマス、是ハ私前ニ申上ゲタト思ヒマスガ、數日前ニ同ジコトヲ申上ゲマシタガ、ソレト同様デアリマス

○今井(新)委員 此ノ機會ニ陸軍大臣ト海軍大臣御二人ノ御所懷ヲ御洩シ願ヒタイト思ヒマス、一昨日デアリマシタカ、同僚ノ質問ニ對シテ近衛總理ガ此ノ國難打開ニ對シテ極メテ率直ニ御眞情ヲ此ノ席上デ御披露シナツタノデアリマス、私共總理大臣ノ御話ヲ伺ツテ居リマシテ非常ニ感激致シマシタ、獨リ是ハ私共ガ感激シタダケデナク、全國國民ニ大キイ衝動ヲ與ヘマシテ、總理ノ御言葉ト云フモノハ全國國民ヲ奮興起シセシメタト私ハ信ジテ居リマス、其ノ際總理大臣ハ、事變ノ責任ハ軍ノ責任デモナイ、誰人ノ責任デモナイ、私人ノ責任デアル、斯ウ云フヤウニ御話ニナリマシタ、總理大臣ノ御立場トシテハアア云フ御言葉ヲ發セラレルトコトガ私當然カト存ジマスガ、併シ事變ニ對スル責任ト云フコトニナリマスト上御一人ニ對シテ一億國民ハ悉ク責任ヲ負ハナケレバナラス、一億國民悉ク反省シ

ナケレバナラナイ、私ハ深く自ララモ反省致シ次第デアリマスガ、何ト云ツテモ事變ニ對シテ私ハ軍部ガ最大ノ責任ヲ負フベキデアル、又今後事變解決ニ付テハ軍コソ國民ノ與望ヲ擔ヒ、軍コソ最大ノ信念ヲ以テ邁進シナケレバナラナイ、斯様ニ私共ハ考ヘル、殊ニ大陸ニ骨ヲ埋メタ私共ノ同胞十方ヲ思ヒ、其ノ遺家族ノ方々ノ御心情ナドヲ考ヘマス、此ノ際軍部兩大臣ガ此ノコトニ關シテ如何ナル御所懷ヲ御持チテアルカ、サウ云フ點ニ付テ御發表ヲ賜ハラバ幸甚デアリマス

○東條國務大臣 只今私ノ信念ニ付キマシテ御尋ねガアリマシタガ、先般近衛總理ヨリ時艱克服ニ關シマスル嚴肅ナル心境ヲ承リマシタ、特ニ身ヲ以テ全責任ヲ負フ、護國ノ英靈ニ對シテ深甚ナル哀悼ト、感謝ノ眞情ヲ披瀝サレマシタコトヲ承知致シマシタ、私ハ國務大臣トシテ、又陸軍大臣ト致シマシテ將又一日兩國國民ト致シマシテ衷心カラ敬意ヲ表シマスルト共ニ、洵ニ意ヲ強ウスルモノデアリマス、率直ニ申シマスルナラバ、此ノ近衛總理ノ御心境ハ僭越ナガラ直チニ私ノ心境ト全ク同一ト申上ゲタイデアリマス、私ハ今次事變勃發以來萬事ニ互リマシテ、ソコニ陸軍ガ重大ナル責任ヲ負フベキデアルト確信シテ居ルノデアリマス、時局今後ノ推移ニ關シマシテハ深甚ナル注意ヲ拂ヒ、是ガ完遂ニ付テ日夜苦慮致シテ居ルモノデアリマス、殊ニ天皇陛下ノ事變勃發以來ノ御軫念ヲ拜察致シマシテハ、洵ニ恐懼措ク能ハザルモノガアルノデゴザイマス、骨ヲ碎キ身ヲ粉ニ致シマシテモ、一日モ速カニ事變有終ノ美ヲ收メ、而シテ上ハ、天皇陛下ノ御宸襟ヲ安ン

ジ奉リ、下ハ護國ノ英靈ヲ慰メマスルト共ニ、銃後國民ノ熱烈ナル後援ニ應ヘンコトヲ期シテ居ル次第デゴザイマス、茲ニ言葉ハ盡シマセヌガ、現在ノ私ノ心境ノ御尋ねガゴザイマシタカラ、以上ヲ以テ御答ヘト致シマス(拍手)

○及川國務大臣 只今ノ東條陸軍大臣ノ御答辯ト全ク感同ジウ致シマス、先日近衛總理ノ御答辯ハ同ジク今井君ト共ニ涙ヲ浮ベテ伺ツタ者デゴザイマス、海軍ト致シマシテハ私ノミナラス海軍ノ下士官兵一人一人ニ至リマスマデ、近衛總理一人ニ責任ヲ御負ハセシテハイカスコトヲ十分承知致シテ居ルト考ヘテ居リマス、簡單デアリマスガ、意餘リマシテ言葉ハ足りマセヌガ、何分御諒察ヲ御願ヒ致シマス(拍手)

○今井(新)委員 內務大臣、司法大臣、文部大臣ニ御尋ね致シタイコトガアリマスガ、次會ニ留保サシテ裁キマシテ是デ終リマス

○増田委員長 ソレデハ分科會ニ御譲リナルノデスカ

○今井委員 ハイ

○増田委員長 次ニ前川正一君

○前川委員 今モ讀賣新聞ノ夕刊ヲ見マス、極メテ地味ナ農村コソ派手ナ戰爭ヲ支ヘル力ダ、議會モ其ノ心デ農村問題ノ論戰ヲシテ貫ヒタイト云フ一ツノ簡單ナタリノ記事ガゴザイマシタガ、先日來ノ豫算總會ノ論議ニ於テ大東亞共榮國ノ確立ノ問題ガ議論サレテ居リマスガ、其ノ中デ一番重要ニ考ヘラレマスルコトハ、大東亞共榮國内ノ住民ノ大部分ハ農民デアリマス、而モ其ノ農民ノ作り出シマスル物ガ戰時食糧問題ノ極メテ重大ナル要素デアリマス、此ノ極メテ地味デハゴザイリマスガ、

○東條國務大臣 只今私ニ御尋ねノ點ニ付キマシテ御答ヘ申上ゲマス、言フマデモナク帝國ハ大東亞建設ト云フ大キナ目標ニ向ツテ巨歩ヲ進メツアルノデアリマス、手近ナ所ニ於キマシテハ、支那事變ノ解決、又南方大東亞新秩序ノ建設ト云フ大キナ目標ニ向ツテ行ク爲ニハ、或ハ南方ノ問題モアリマセウ、對米對ソノ問題モ起ツテ參リマセウ、是等ニ對スル所ノ各種ノ變化ニ應ズル準備、是等ヲ考ヘテ見マスル場合ニ於キマシテ、ソコニ或ル相當ナル期間斯ノ如キ状態ガ繼續スルト云フコトヲ、國民トシテ覺悟シナケレバナラスコト私ハ思ヒマス、

大東亞共榮國ノ確立ノ基礎ニアリマスル農村、農業或ハ農民、食糧、斯ウ云ツタ問題ニ付キマシテ聯關性ガアル問題ダケラ此處デ御尋ね致シマシテ、詳細ナル點ハ分科會ニ譲リタイト思フノデアリマス

先ツ第一番ニ與亞院ノ方ニ御聽キシタイト思ヒマスコトハ、今支那事變ノ新シイ段階ハ支那ニ限ツテ居ル民族資本ト眠レル資源ト努力ヲ呼び起シマシテ之ヲ如何ニ有效ニ動カスカ、ソレハ支那自身ノ爲メデアリ、同時ニ又東亞共榮國全體ノ爲メデアリ、延イテハ日本ノ爲メデアル、サウ云フ問題ガ今支那ノ問題トシテ、支那事變解決ノ極メテ大キナル基礎的問題トシテ考ヘラレテ居ルト思フノデアリマス、言ヒ換ヘマスルナラバ、支那ノ民衆獲得デアリマス、其ノ場合ニ支那四億ノ民衆ノ中ノ八割以上ガ農民デアリマス、此ノ農民ノ向背ト云フモノガ私ハ極メテ重大デアルト思フ、而モ彼等農民ハ不合理ナ土地制度ト、高イ小作料ト、高利ナ借金ト、商業資本ノ下ニ喘イデ居ル、隨テ北支ハ漫性的ナ飢饉状態デアリマス、中支ニ於キマシテモ農民ハ殆ド飢エテ居ル、此ノ飢エタ所ノ農民ヲ此ノ儘ニシテ置キマスルナラバ、私ハ共產黨ノ食ヒ物ニナリト思フノデアリマス、此ノ農民ヲ共產黨ノ持チマスル分配問題ダケニ任シテ置クコトハ出來ナイ、之ニ戰ヒ勝ツ爲ニ、私ハ支那ノ農民ヲ如何ニシテ生産階級トシテ協力セシメル爲メ起テ上ラスカト云フコトデアリマス、私ハ別ニ民族問題ヲコソ論議シヨウトハ思ヒマセヌガ、農業ト農民ノ立場カラ考ヘマシテモ、ソコニ大キナル問題ガアルト思フノデアリマス、先ツ其ノ爲ニ今吾々ハ支

那ニ對シマシテ、資本ト、技術者ト、建設物資ト云フモノヲ適當ニ入レマシテ、是デ現在ノ支那ノ農民ノ、極メテ程度ノ低イ農業經營ヲモツト高度ナル農業經營ニマデ發展セシメテ、サウシテ農業生産ヲヤル、饑テソレハ食糧ノ自給ガ出來ル、サウナレバ滿洲ノ食糧ガ支那ニ流レテ行カナクテモ宜イデアリマス、總テソレハ農業再生産ノ力ガ生レテ來ル、其ノ結果支那ニ出來ル棉花ハ、對日供給量ヲ殖ヤシテ來ルコトニナルシ、又、農産物ヲ原料トシテ所ノ輕工業ガ發展シテ來ル、ソコニ支那自身ノ力ガ出來テ來ルト、總テ治水、灌溉、堤防、植林、運河ト云ツタ新シイ施設ガ生レテ來ル、是コソ支那民衆獲得ノ一ツノ方法デアルト思フ、總テソレハ同時ニ東亞共榮國內ニ於ケル所ノ戰時食糧問題ノ解決ノ一ツノ方法トモナリマス、斯ウ云フ方針ヲ既ニ御執リニナツテ居ルコトハ分ツテ居リマス、新民會等ハ斯ウ云フ方針ノ下ニ働イテ居ラレルシ、現地派遣軍ノ方モサウ云フ御方針デアルコトガ分ルノデアリマスガ、若シ出來ルナラバ斯様ナ方針ヲ、新シイ支那事變ノ段階ニ達シタ今日、殊ニ大キナ戦ヒノ前後ニアルト云ハレタ今日、特ニモウ一段進ンダ新シイ工夫ト方法ヲ以テ、如何ニシテ支那ノ農民或ハ農業ヲ開發指導スルカ、斯様ナ方針ヲ承ルコトガ出來レバ極メテ欣快デアリマス、續イテ其ノ開發ノ状態ノ現狀、其ノ見透シ、斯様ナコトモ御聽キ出來マスレバ極メテ幸ヒデアリマス、ソレニ對シテ幸ヒニ陸軍大臣ガ御答辯デアリマスルカ、陸軍大臣カヲモ御答辯ガアリマスレバ幸ヒデアリマス

○東條國務大臣 只今御述ベニナリマシタ點デ、支那ノ民衆ノ把握ト言ヒマスガ、民衆ヲ握ルト云フコトハ、支那バカリデハナク、是ハ政治ノ要諦ダト考ヘマスガ、殊ニ支那事變ノ解決ノ上ニ於キマシテ、現在ノ戰況ハ、少クモ占據地域内ノ民衆ヲ速カニ把握シテ行クコトガ重要ナル關係ヲ持ツモノデアリマス、而シテ之ニ重大ナル關聯性ヲ持チマスノハ、農民ノ救済ト言ヒマスガ、農民ノ救済ノ積極的指導デアルト思ヒマス、其ノ點ニ付キマシテハ只今モ一寸御話ニナリマシタ、軍ハ軍隊ヲ核心トシテ各種ノ宣傳方法ヲ盡シ、或ハ新民會ノ活動ニ依リマシテ、支那ノ政府ノ政治力ノ浸透ニシツカリシ根柢ヲ與ヘツツ其ノ實行ニ入ツテ居ルノデアリマス、然レバ其ノ開發ナリ見透シヨドウ云フ具體的ノ方法ヲ以テ實行シテ居ルカト云フ點ニ付キマシテハ、寧ロ私カラ説明申上ガルヨリモ、與亞院ノ事務當局ヲシテ説明サセテ方ガ御分リガ宜イト思ヒマスガ、其ノ點ニ付キマシテハサウ云フヤウナ手續ニ致シタイト思ヒマス、之ヲ以テ御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス

○宇佐美政府委員 只今陸軍大臣ノ御答辯ニ補足致シマシテ、實際ニヤツテ居ル所、與亞院トシテ考ヘテ居リマスコトヲ御答辯申上ゲタイト存ジマス、支那ノ農民ノ繁榮ヲ圖ルコトノ重要ナル點ニ付キマシテハ、今御話ノ通りデアリマス、而シテ是ガ實際ノ施設ニ付キマシテハ、固ヨリ治安ノ確立ト云フコトガ前提デアリマスノデ、治安ノ確立ニ伴ヒマシテ對策ヲスルト云フコトニナツテ參ルノデアリマスガ、其ノ經濟的方面ニ於キマスル問題ト致シテハ、只今御話ノゴザイマシタ如ク支那ノ土地制度ト申シマスルカ、農村制度、是ハ極メテ大キナ問題

デアルト思フノデアリマス、併シ私共ノ考ヘマスル所デハ、御承知ノ如ク支那ノ民衆ノ舊來ノ習慣ヲ重ズル傾向ガ大デアリマシテ、斯様ナ民衆ヲ相手ニ致シマシテ土地制度ノ問題ヲ解決致スト云フコトハ、是ハ大キナ問題デアリマシテ、中々簡單ニハ行カナイダラウト思フノデアリマス、殊ニ今日ノ狀況カラ申シマスレバ、ソレヨリモツト差迫ツタ問題ガアリマスノデ、先ツ此ノ土地制度ノ如キ大キナ問題ハ、今後慎重ニ研究ヲ要スルコトト考ヘマシテ、今後十分研究致シタイ、斯様ナ氣持デ居リマス、差迫ツタ問題ト致シマシテハ、何ト申シマシテ支那ノ農民ニ實際ノ生活ノ安定ヲ與ヘルト云フコトデアリマスガ、事柄ハ極メテ卑近ニナルノデアリマスガ、併シ支那ノ農民ニ對シマシテハ、彼等ノ生産物ガ能ク相當ノ値段ヲ賣レテ、又必要ノ物資ガ得ラレト云フコトデアラウト思フノデアリマス、ソレデ私共ノ氣持ト致シテハ左様ナ意味ニ於テ物資、農産物ノ流通機構ヲ整備スルト云フコトガ必要ダラウト思フノデアリマス、併シ是モ、只今申上ゲマシタヤウナ支那ノ大衆ヲ相手ニ致シマスル場合ニ於キマシテハ、急激ナ變更ト云フモノハ却テ結果ガ惡イノデアリマスルカラ、他方又現在ノ實情カラ申シマスルナラバ、是等色々ノ農産物ヲ集メルト云フ實際ノ上ノ必要カラ申シマシテモ、急激ナ變更ハ却テ效果ガ好クナイ、寧ロ現在ノ機構ヲ適當ニ整備致シマシテ、サウシテ實際ノ利益ヲ農民ニ與ヘルヤウニ向ケテ行クト云フコトガ必要デアラウト思フデ、左様ナ趣旨デ農産物ノ配給機構ヲ整備ト云フヤウナコトニ力ヲ致シテ居ル次第デアリマス

第一類第一號 豫算委員會議錄 第八回 昭和十六年一月二十九日

更ニ今日ノ狀況ニ於キマシテ、最モ農民ニ直接ノ利益ヲ與ヘマスルコトハ、何ト申シマシテモ、農業ノ技術ノ改善デゴザイマス、ソレデ是ガ今日ノ狀態ニ於テ、最モ農民ニ手取り早ク利益ヲ與ヘルモノト考ヘマシテ、私共ハ技術ノ改善ニ付テ措置ヲ講ズルヤウニ心掛ケテ居ル次第デアリマス、既ニ、例ヘバ華北産業化學研究所トカ、或ハ河北棉産改進會ト云フヤウナモノヲ設ケマシテ、之ニ對シテ相當ノ助成ヲ致シ、且今申上ゲマシテ技術ノ改善ト云フ方面ノ目的ヲ達スルヤウニ致シテ居ル次第デアリマス、此ノ方面ノ仕事ハ今日既ニ相當ナ効果ヲ擧ゲテ居ルデアリマス、殊ニ棉花ナドニ於テキマシテハ、實際ニ於テ可ナリノ效果ヲ擧ゲテ居ル次第デアリマス、今後ノ見込シニ付キマシテ、此ノ目標ハ極メテ大キナ問題デアリマスルカラ、中々急激ニ進ムコトハ困難カト思ヒマスケレドモ、治安ノ確立ト共ニ日支協力致シマシテ只今申上ゲマシタヤウナ現實ノ狀況ヲ考ヘテ着實ナル方法ヲ以テ施策シテ行キマスルナラバ、今後支那ノ農村ノ生活ヲ安定サセ、仍テ以テ農民把握ノ效果ヲ擧ゲルコトガ相當出來ルモノト私共ハ考ヘテ居ル次第デアリマス

○前川委員 技術ノ指導ガ必要ダト云フコトヲ御答ヘニナツタヤウデアリマスガ、技術ノ指導ヲ致シマスル場合ニハ人ト物ガ要リマス、其ノ場合、現在ノ「プロック」ノ貿易ハ可ナリ制限ヲ受ケテ居ル譯デアリマス、第三國貿易ハ今盛ニ獎メラレテ居ルノデアリマスガ、我國ノ最近ノ國際情勢ト云フモノハ、第三國貿易ニ對シテ可ナリ困難ナ状態ニアルト思フ、ソコデ今重要ナル役割ヲ持ツテ居リマス支那ノ開發ノ爲ニ、其ノ

○河田國務大臣 前川君ノ御質問ニ御答ヘテ致シマス、第三國ニ對スル輸出ヲ獎勵スルコト云フコトハ、申上ゲルマデモナク外貨ヲ獲得スルコトガ目的デアリマシタノデ、專ラ其ノ方ニ主力ヲ注イデ參ツタト云フコトハ事實デゴザイマス、併シナガラ我國ノ生産物ガ國際情勢ノ關係カラ第三國ノ輸出ト云フモノニ對シテ非常ニ困難ヲ感ジテ參ツタコトモ事實デゴザイマス、昨年ノ秋ノ末頃カラハ之ニバカリ膠着致シマセド、其ノ時ノ宜シキニ從ヒマシテ、第三國ニ出來ルルダケ輸出ヲ致シマシタ、又第三國ト申シマシテモ「ドル」ノ所モアリマスシ「ポンド」ノ所モアリマス、ソレ等ハ其ノ事情ニ應ジテ配給致シマシテ、此ノ「プロック」ニ對シマシテハ、第三國ニ輸出スル爲ニ、徒ニ貨物ノ沈滞ヲ内地ニ於テ致スルコト云フコトハ、シナイ方針デ、時々刻々其ノ情勢ニ應ジテ輸出ノ獎勵ヲ行ツテ居ルノガ、今日ノ實情デゴザイマス

○前川委員 可ナリ制限サレテ居ルト云フ事實ヲ吾々ハ開イテ居ルノデ申上ゲタノデアリマスガ、今ノ御話デ分リマシタ次ニ拓務大臣ニ御尋ね致シマスガ、此ノ開墾大臣ハ、滿洲ニ於キマシテ水田トシテノ開墾可能ノ土地ガ二百萬町歩アルガ、現在ハ三十萬町歩バカリ開墾サレテ居ル、今滿洲ヲ調査シテ見ルト、約四百二十萬町歩ノ米ガ墾レテ居リマス、然レニ滿洲ハ自給自足出來ナイ、米モ麥モ内地カラ可ナリノモノガ滿洲ニ送ラレテ居ル、而モ滿洲デ出來ル雜穀ハ餘リ出來ナイ、寧ろ逆ニ北支ノ方面ニ流レテ居リハシナイカト云フコトコトガ考ヘラレル、茲ニ色々關係ガアリハシナイカト思ヒマス、ソコデ問題ニナルコトハ、滿洲ノ開墾ヲモウ少シ大規模ニヤツテ、而モ迅速ニヤツテ、サウシテ米、小麦ガ自給出來ルノミナラズ、更ニ吾々ハ雜穀等ガ朝鮮邊リニモウ少シ潤澤ニ流レルヤウニスル必要ガアルト思フデアリマス、サウナリマス、自然朝鮮ノ米ハ内地ニ流レテ來ルコトニナルデアリマス、内地ノ開墾ニハ可ナリ多クノ費用ト努力ヲ要シマスケレドモ、滿洲ノ開墾ノ方ハモウ少シ簡單ニ出來ル可能性ガアル、今マデ二十年間百萬戸ノ入植計畫モアリマシテ、第一期ハ將ニ終ラウトシテ居ルノデアリマスケレドモ、モウ少シ大規模ニ滿洲ノ農村開發計畫ガアルカドウカ、是ハ二ツアルト考ヘラレルノデアリマスガ、内地ノ十箇年計畫ノ開墾ニ對シテ、農村開發ノ全體ノ計畫ヲ建テルト同時ニ、滿洲ニ入植スル數ヲモウ少シ殖ヤシ、計畫ヲ繰上ゲテ迅速ニ效果ヲ急ギヤウニサレルコトガ必要ダト思フ、モウ一ツハ滿洲全體ノ農村ノ開發ノ計畫ガ内地ニ對シテ、朝鮮トモ對シテ、此ノ際ナラバナラズト思フノデアリマス、若シオアリニナルナラバ之ヲ御示シ願ヒタイト思フ、尙ホ併セテオネシマスガ、朝鮮ノ開發ノ問題デアリマス、先ツ内地ノ方ノ計畫ガ立ツタナラバ、朝鮮ノ方ハ何時モ内地ニ追隨シテ動クノデアリマスガ、内地、滿洲ト同ジク朝鮮ノ計畫ヲ立テテ欲シタイト思フ、元來朝鮮ハ米ノ澤山出來ル所デアリマスガ、内地米ヲ壓迫スルト云フノデ抑ヘラレテ來テ、ソレガ水イ開墾ミ込マシテ居ル、モウ少シ朝鮮ノ米ノ増産ヲ希望セラレルナラバ、モウ少シ刺戟ヲ與ヘレバ出來ルト思フノデアリマス、此ノ滿洲及ビ朝鮮ノ開發ト云フ二點ニ付キマシテ、御意見ヲ御伺ヒ致シタイト思フノデアリマス

○秋田國務大臣 滿洲ニ於ケル開墾ノ仕事ハ滿洲國トモ十分協議致シマシテ、只今前川君ノ御述ベノヤウナ御趣意ニ依ツテ、今後大イニ發展シテ行キタイト考ヘテ居リマス、朝鮮ノ米ノ増産計畫ニ付キマシテモ、當局ト致シマシテハ色々考ヘテ居リマスノデ、大體今後十一年計畫デ年々六百八十万石ノ増産ヲ期シタイト云フ目標ノ下ニ、種種ノ計畫ヲ致シテ居リマスノデ、追々御期待ノヤウナ風ニモノガ進んで參ルコトト存ジテ居リマス

○前川委員 只今ノ拓務大臣ノ御答辯ニハ滿洲ノ開墾二十箇年百萬戸入植計畫ハ貧弱デアルカラ、モウ少シ大キクシナケレバナラス、繰上ゲタラドウカト云フ點ニ對スル御答ヘガゴザイマセドシタ、次ニ併セテ御答辯シテ戴キタイト思ヒマス、尙ホ問題ニナルコトハ臺灣デアリマスガ、熱日光ニ惠マレマシタ臺灣ノ現在ノ農業ガ戰時食糧問題ニハ、私ハ一番手取早ク間ニ合フモノトフ思フデアリマス、十六萬町歩ノ甘蔗ノ

畑ガアル、是ハ畑ト云ツテモ、實際ハ水田デアリマス、ソレカラ二萬町歩ノ甘蔗ガアル、此ノ甘蔗ハ臺灣ニ必ズシモ作ラナクテモ宜イ、向ヒ側ノ珠江「デルタ」デ作レバ出來ル管デアリマス、ソレカラ廣東方面ニ甘蔗ヲ持ツテ行ツテモ幾ラ出來ル、但シ一寸是ハ資本ノ移動ヲ困難カモ知レマセスガ、其ノ計畫ハアツテ然ルベキデアルト思フ、ソレカラ麻ノ如キモ海南島ニ持ツテ行ツテモ出來ルト思フ、又南方ニ進出シテ居ル日本人ハ「タバコ」邊リニ於テ盛ニ麻ヲ作ラデアリマス、ソレガ一、二ノ貿易會社ノ關係デ日本ニ入ラナイ、日本人ガ向フデ麻ヲ作ツテ、麻ノ現品ヲ送ツテ無爲替輸入ヲシヤウトシテモ、我が日本ニ其ノ必要ナ品物ヲ持ツテ歸ラウトシテモ、今マデハ商工省及ビ拓務省ノ關係デ、ソレガ實現サレテ居リマセケレドモ、是等モ私共併セテ考ヘナラバナラスト思フ、折角南方ニ經濟的開發挺身隊トシテ吾々ノ同胞ヲ送ツテ居ル、ソレ等ノ人々ガ得マシタモノガ效果ヲ奏シナイ、此ノ非常時局ニ役ニ立テヤウトシテモ、或ル一、二ノ會社ノ不都合ノ爲ニ實現シナイ事實ガアルノデアリマス、吾々ハ臺灣ノ問題ハ臺灣ダケニ切離シテハイカスト思フ、向ヒ側ノ海南島ヲ考ヘ、廣東ヲ考ヘ、南方ヲ考ヘル必要ガアルト思フ、東亞共榮圈ノ確立ト云フコトハ唯言葉ダケデハナイ、現在ノ情勢ニ於テハ持場々ニ於テ、具體案ガ立テラレナラバナラスト思フノデアリマシテ、是ハ拓務大臣ダケニ申上ゲルノデアリマセスガ、セメテ臺灣ノ作物ヲ南支、海南島方面ニ、一部分モ宜イカラ轉換ヲシテ、サウシテ年ニ二度米ノ

種レル臺灣デ、迅速ニ多少デモ多ク米ヲ作ルコトガ、戰時食糧對策トシテハ間ニ合フコトデアルト思フ、海南島、南支ニ付キマシテハ、軍部、興亞院等ニ於キマシテ御意見ガアルト思ヒマスガ、拓務大臣ノ御考ヘダケヲ承ツテ置キタイ、尙ホ南方ニ對シマシテ私達同胞ハ既ニ仲ビテ居ル、併シナガラ吾々ハモウ少シ勇敢ニ南ニ仲ビテ行カナケレバナラスト思フデアリマス、而モ南方ノ方モ農民ガ非常ニ多イ、民族問題ニ付テハ今日ハ論ジマセスガ、農業開發ヲスル爲ニ吾々日本人ガ行ツテ開拓シテ居ルノデアリマス、サウ云フ事實カラ見テモモウ少シ吾々ハ南方ニ對シテ拓務省アタリハ、具體的ナ遠大ナル方策ヲ御立テナツテ置クコトガ必要デハナイカ、或ハオアリナノカモ知レマセスガ、吾々ハ今マデ具體的ニ何フコトガ出來ナカッタ、又現在ノ開墾及ビ佛印トノ交渉ニ於キマシテモ、之ニ關係シタ問題ガアル、例ヘバ企業ノ自由デアルトカ、入國ノ自由ト云フヤウナコトガアルト思ヒマス、サウ云フコトガ決定致シマシタナラバ、即時行動ニ移セルヤウニ、用意オサシ、意ラナイヤウニシテ置カレタイト思フノデアリマスガ、若シ御用意ガアリマシレバ併セテ承ツテ置キタイト思フノデアリマス

○秋田國務大臣 滿洲開拓民ノ二十年間百萬戸計畫、之ヲ今少シ大規模ニヤツテハドウカト云フ御話デゴザイマスガ、昨日モ此ノ點ニ付テハ當議場ニ於テ私ノ所見ヲ申述ベテ置イタノデアリマス、今後二十年間期シテ百萬戸、五百万ノ我が民族ヲ大陸ニ移植スルト云フ此ノ方針ハ、大體方針トシテハ變更致サナイ考ヘデゴザイマス、之ヲ大規模ニヤリ得マシレバ、是非非常ニ望ミ

マシイコトデゴザイマセケレドモ、此ノ開拓移植民ノ計畫ハ、内地、外地及ビ東亞共榮圈内ニ於ケル我が民族發展ト云フ、大體ノ全體ノ關係ニ於キマシテ配合ハセ、且又人口政策、國土計畫ハ勿論、物資動員計畫、勞務動員計畫及ビ資金ノ計畫等トモ配合ハセテ、決定セラレル事柄デゴザイマセスガ、今直チニ一方面カラノモノヲ觀ンデ、大規模ノ計畫ニ擴張致シマスルコトハ如何カト考ヘテ居リマス、既ニ二十年間百萬戸計畫デアリマスガ、第一期ノ五箇年間ノ計畫モ既定計畫ト照シ合ハセマシテ、マアドウニカウジテソレニ及ンデ居ルト云フノガ、今日ノ狀態デゴザイマスノデ、前川君ノ御述ベノヤウニ、之ヲ廣ク擴張致シテ參ルコト云フコトハ、事實ニ於テハ到底及ビ難イコトデアリナイカト云フ風ニ考ヘテ居ルノデゴザイマス

又續イテ臺灣ニ於ケル米ノ生産、砂糖ノ生産、其ノ他麻等ノ生産ニ關シテ御意見ガゴザイマシタガ、大體御述ベノヤウナ御趣意ヲ體シテ、此ノ増産計畫ヲヤツテ居リマスノデ、臺灣ニ於ケル米ノ増産モ、只今御話ノヤウナ風ニ進んで參ルコトト存ジテ居リマス、其ノ他南方全局ニ付テ色々御意見ガゴザイマシタガ、是ハ昨日モ申上ゲマシタヤウニ、具體的ナ方策ヲ明言致シマスルコトハ、種々事情カラ頗ル困難ヲ感ジマス、當局ト致シマシテモ調査研究ノ結果ニナル一ツノ案ハ持ツテ居ル譯デゴザイマスルケレドモ、當議場ニ於テ事細カニ申述ベルコトハ、此ノ場合差控ヘタイト考ヘテ居リマス

○前川委員 滿洲開拓ノ問題デアリマスルガ、恐ラク五年前ニ計畫サレタ時ニハ、中小商工業者ノ轉失業ノ諸君ヲ滿洲ニ送ルナドト云フコトハ考ヘテ居ナカッタト思フ、然ルニ今年滿洲ニ五千戸ノ中小商工業者ノ轉失業者諸君ヲ送ツテ行クコト云フ計畫モ發表サレテ居ルノデアリマシテ、新シイ分野ガ將ニ開ケヨウトシテ居ル今日、少シ擴大致シマシテモ、ソレハ決シテ不可能デハナイトモ思フ、勿論國內ノ勞務動員等トモ關係致シマスルガ、開拓精神ヲモウ少シ此ノ際特ニ國民ニ懇ヘラレンコトヲ御願ヒ致シマシテ、私ハ拓務大臣ニ對スル質問ハ打切りマス、續イテ農林大臣ニ二點御伺ヒ致シタイト思ヒマス、今度農地開發法案ト云フモノヲ御出シニナルト云フコトデアリマスガ、此ノ農地開發法案ノ内容ハ私達ハマダ十分ニ存ジマセス、何レ本會議ニ於テ分ルト思ヒマスガ、惜テ此ノ場合「ド」程度ノ開墾ヲサレルノカ、サウシテ勞働力ドウ云フヤウニ御考ヘニナツテ居ルノカ、或ハ學生デモ此ノ際動員スルノカ、ソレカラ開發致シマシタ土地ノ處分ノ方法、斯ウ云フコトモ御懸念出來レバ極メテ幸ヒナノデアリマス、尙ホ今後開墾シ得ル畑、水田ガ一體幾ラ位ニナルノカ、桑園ノ整理ヲ此ノ際切ツテ五萬町歩ヲラレト云フコトデアリマスガ、サウナリマス、來年度アタリニ於テハ一サレマス田畑ガ、來年度アタリニ於テハ一體幾ラニナリマスガ、サウシテ來年ハ幾ラノ生産計畫ヲ御持チニナツテ居ルカ、昨年度ハ七千七百石ノ計畫ヲ御持チニナツテ居ツタノデアリマスガ、來年度ハ幾ラノ計畫ヲ御持チニナツテ居ルカ、内地ニ於キマシテ幾ラ、臺灣ニ於テ幾ラ、朝鮮ニ於テ幾ラ

ノ生産計畫ヲ御持チニナルカ、米ノ問題ハ今年タケノ問題デハナイノデアリマシテ、來年、再來年ト長イ關聯性ニ於テ見ナケレバナラヌカラ、特ニ來年度ノ計畫ヲ御持チデアリマスレバ、伺ヒタイ、成ベク要點ダケヲ御説明願ヒタイと思ヒマス

○石黒國務大臣 只今前川サンノ御尋ネノ農地開發ノ法案及ビ財政ヲ伴ヒマシタ施設、是ハ不日提出ヲ致シマス、只今一寸財務當局ト大シク點デハアリマセウケレドモ、マダ決マツテ居ラス點ガゴザイマスルカラ、是ハ後日ニ讓リタイと思ツテ居リマス、但シ大體ニ於キマシテ米麥ガ約十箇年

見マスルナラバ、餘リ成功デハナイ、之ヲモウ少シ思切ツテモット大仕掛ナ自作農主義、詰リ自作農制設ヲヤリマシテ、是ガ再ビ土地ヲ放スコトノナイヤウニ維持出來ル爲ニ世襲農家作り、日本の意味ニ於キマシテノ家産法ガ出來テ參リマシテ、一度土地ヲ持ツタガ最後、其ノ長男坊ニハ之ヲ差押ヘルコトモ出來ナイ、借金ノカタニモ取ラレナイ、イツマデモ其ノ土地ヲ維持シテ行ケル、斯ウ云フヤウニシテ家ト土地トヲ完全ニ結び付ケテシマヒマスレバ、農地ノ上ニ農民ガ安住致シマシテ生産ニ從事出來ル、斯ウナリマスレバ平野君ノ此ノ前ノ御話ノヤウニ農民ノ努力ハ一層土地ニ加ハル、ソコニ自然増産ガ出來テ來ルト思フ

云フ此ノ場合ニ於テ、家族勞動ダケデ農村ハ今マデ經營ヲヤツテ來タノデアリマスガ、此ノ儘ノ形態デハヤツテ行ケナイ、農村ノ勞働力ノ再編成ガ私ハ必要ダと思フノデアリマス、ダカラ土地ノ生産性ヲ伸バシ、生産ノ向上ヲ土地ニ求メルヨリハ、勞働力ノ生産性ヲ高メル、勞働力ノ生産ヲドウシテ高メカト云フコトガ、今日農村ノ新シイ行キ方デハナイカ、ソレヲヤルニハ農業ノ機械化デアリマス、物資ガ足ラナイ場合ニ機械化ト云フコトハ困難デアルト言ハレマスケレドモ、岡山縣或ハ福岡縣ニ於キマシテハ、小型トラクターノ所課自動耕轉機ガ採用サレテ居ル、其ノ能率ハ馬ノ二倍、人間ノ十倍ノ能率ヲ持ツテ居ル、サウシテ賃金モ極メテ安イ、斯ウ云フモノヲドシク、農村ニ持チ込デ參リマスナラバ、勞働力ハ非常ニ少クテ行ケル、斯ウ云フヤウニ機械化ヲシナケレバナラヌ、機械化ト云フコトハ家族勞動ダケデハイケナイカラ、部落單位ニスベキデハナイカ、田舎ノ部落ニハ一ツ文化的、自然的ノ要素ガアル、倫理的ノ結合ヲ持ツテ居ル、其ノ部落ヲ中心ニシテ機械化ヲシテ行ク、共同經營ヲシテ行ク、斯ウ云フ新シイ農村ノ勞働力、勞働再編成ガ行ハレマスナラバ、多少勞働力ガ不足シマシテモ、其ノ共同體ノ中カラ餘分ノ力ガ生レテ來ル、有畜農業モヤレルシ、自給肥料モ出來ル、政府ノ激勵サレテ居ル精神ノナ激進モ農村ニ滲ミ込デ來ル、斯ウ云フヤウニ部落ヲ中心ニ共同經營ヲ新シクヤツテ行ク、多クノ補助費モサウ云フ方面ニ重點主義デヤツテ行キ、特ニ農村ニ對スル斯ウ云フ機械化ノ物資ハ可ナリ潤澤ニ出スト云フ方針ヲ御執リニナルコトガ、今日極メテ

農業増産ニ必要ナ點トシテ考ヘラレルノデハナイカト思フノデアリマス、私ハ以上ノ點ニ對スル大臣ノ御所見ヲ承リマシテ、他ニマダ意見ガゴザイマスガ、ソレハ分科會デ申上ゲルコトト致シマス、以上ニ對シマシテノ御見解ヲ承リタイと思ヒマス

○前川委員 ソレハ其ノ際ニ論ズルト致シマシテ、昨年モ七百萬石ノ計畫ノ發表ガアリマシテ、實際ノ穫レ高ハ此ノ間ノ發表ニ依リマスルト六八十萬石シカアリマセウケ、約千石ノ差ガアルノデアリマス、是ハ計畫ガ杜撰デアツト云フコトヲ私ハ別ニ申上ゲルノデアリマセウケ、特ニ大キナ點ハ天候ニ依ツテ居ルノデアリマスルガ、併シ問題ハ肥料ガ不足シテ居ル、農機具ガ足ラナイ、農業藥劑ガナイ、勞力ガ不足シタト云フコトト事變開始後數年間ニナリマシテ土地ヲ無理ニ酷使シテ地力ガ相當減退シテ居ルノデアリマス、其ノ上ニ偶々天候ト云フモノガ關係シタ、蟲害等ガ關係

ノハ私ノ管掌シテ居リマスル所ノ陸軍ニ、兎ニ角徹底サセル、國民ガ今御話ノヤウニ、參考ニナルコト云フ思召ガアルナラバ、尙ホ結構デアリマス、先ヅ其ノ方ガ先決デアルト考ヘテ居リマス、御意見トシテ承ツテ置キマス

○増田委員長 此ノ際一言致シマス、本豫算委員會ニ於キマシテハ、時局ニ鑑ミマシテ一意議事ノ進行ヲ圖リマシタ結果、只今大體ノ質疑ヲ終了スルノ運ビトナリマシタ、是レ偏ニ各位ノ御勸告ノ賜モノト深ク感謝致シマス

- 第四分科(陸軍省及海軍省所管) 主査 岸田 正記君 主査 土屋 寛君
第五分科(農林省及商工省所管) 主査 土屋 寛君
第六分科(逓信省及鐵道省所管) 主査 横川 重次君
(参照) 分科ノ區分、主査ノ選定及分科所屬員ノ配置ヲ左ノ如ク決定セリ
第一分科(外務省、司法省及拓務省所管) 主査 依光 好秋君
(中島彌次君) 一宮房治郎君 笠井 重治君 川崎 克君 井上 良次君 平野 力三君 三宅 正一君 前川 正一君 一松 定吉君 古屋 慶隆君 三善 信房君
第二分科(内務省、文部省及厚生省所管) 主査 末松借一郎君
(加藤 一君) 堤 康次郎君 田中 好君 木村 正義君 久山 知之君 大本貞太郎君 三善 信房君 前田房之助君
第三分科(大藏省所管) 主査 一松 定吉君
(川崎 克君) 中島彌次君 西川 貞一君 木暮武太夫君 小笠原三九郎君 森田 福市君 多田 滿長君 藤本 捨助君 藤本 捨助君 多田 滿長君 小野 謙一君
第四分科(陸軍省及海軍省所管) 主査 岸田 正記君
(勝 正憲君) 前田房之助君 宮澤 胤勇君 木村 正義君 矢野庄太郎君 武田徳三郎君 三宅 正一君 古屋 慶隆君 平川松太郎君
第五分科(農林省及商工省所管) 主査 土屋 寛君
(佐藤洋之助君) 高田 転平君 三宅 正一君 前川 正一君 伊禮 肇君 三浦 虎雄君 一松 定吉君 西尾 末廣君 中山 眞一君 矢野庄太郎君 森田 福市君 古屋 慶隆君 北 吟吉君 藤本 捨助君 一宮房治郎君 藤本 捨助君 中田 儀直君 多田 滿長君 小野 謙一君
第六分科(逓信省及鐵道省所管) 主査 横川 重次君
(藤本 捨助君) 井上 良次君 土屋 寛君 高田 転平君 佐藤洋之助君 前川 正一君 三宅 正一君 三浦 虎雄君 伊禮 肇君 西尾 末廣君 一松 定吉君 矢野庄太郎君 森田 福市君 中山 眞一君 北 吟吉君 藤本 捨助君 一宮房治郎君 藤本 捨助君 中田 儀直君 多田 滿長君 小野 謙一君
第七分科(大藏省所管) 主査 一松 定吉君
(川崎 克君) 中島彌次君 西川 貞一君 木暮武太夫君 小笠原三九郎君 森田 福市君 多田 滿長君 藤本 捨助君 藤本 捨助君 多田 滿長君 小野 謙一君
第八分科(陸軍省及海軍省所管) 主査 岸田 正記君
(勝 正憲君) 前田房之助君 宮澤 胤勇君 木村 正義君 矢野庄太郎君 武田徳三郎君 三宅 正一君 古屋 慶隆君 平川松太郎君
第九分科(内務省、文部省及厚生省所管) 主査 末松借一郎君
(加藤 一君) 堤 康次郎君 田中 好君 木村 正義君 久山 知之君 大本貞太郎君 三善 信房君 前田房之助君
第十分科(大藏省所管) 主査 一松 定吉君
(川崎 克君) 中島彌次君 西川 貞一君 木暮武太夫君 小笠原三九郎君 森田 福市君 多田 滿長君 藤本 捨助君 藤本 捨助君 多田 滿長君 小野 謙一君

高度國防國家完成ノ爲ニ、政府部内ノ各省ノ間ニ緊密ナル連絡ヲ取ツテ、國策ノ一元化ヲ期スル必要ガアルガ、商工省ト大藏省トガ別々ノ考ヘデアル結果、産業界ニ不必要ナル打撃ヲ與ヘタコトハ從來少カラズ、之ヲ改善スル要アリト認メラルガ、政府ノ所見如何トノ質問ニ對シマシテ、今後十分ニ注意致ストノ答辯ガアツタノデアリマス、金融ニ對スル國家的統制ガ強化サレルノ必要ガアル、金融機關ノ合同、即チ一府縣一銀行主義等ノ如キコトヲナスノデアアルカトノ間ヒニ對シマシテ、銀行合同ノ如キコトニ付テハ、机上ノ空論ニ因レルトコトナク、地方ノ實情ニ即チ行フ積リデアアル、一府縣一銀行ト云フガ如キ主義ヲ持ツナイトノ御答ヘデアリマシタ、森田福市君、政府ガ眞ニ増産ヲ希望スルナラバ、會社統制令ノ如キ勅令ヲ廢止スルノ外ハナイト思フ、若シ廢止ガ出来ナイトスルナラバ、大改正ヲ加フルノ要ガアル、臨時利得稅ノ行過ガ増産ヲ妨害シテ居ルカラ修正ノ要ガアル、豫備金ノ支出ヲナスニ當ツテハ、會計法ト配混合セテ、違法ノ取扱ヒヲナサヌヤウニセラレタイトノ質疑ヲナシタノデアリマスガ、政府ハ調査檢討ノ上善處スルトノ答辯ガアツタノデアリマス、平川委員カラハ、東京開港問題ニ付テ、東京開港ヲナサントスルノ計畫アル由デアアルガ、國策上下ウ云フ必要ガアルカトノ間ヒニ對シマシテ、荷物運送上ノ便宜ニ依ル、其ノ内容ニ付テ具體的ニ言フナラバ、資料、燃料、輸送費用ノ節約ノ時間ノ節約等ノ必要ガアルト答ヘラレタノデアリマス、平川君ハ之ニ對シマシテ、斯ノ如キハ横濱市ノ大規模ニ比レバ問題ニナラナイノデアアルガ故ニ、再檢討ノ上、更ニ慎重ニ調査研究シテ提案シテ貰ヒタイトノ希望ヲ述ベタノデアリマス

矢野君ハ各省豫算中ニ、大政翼賛會ニ關スル經費ノ計上ガアルカトノ間ヒニ對シ、政府ハハナシト答ヘラレマシタ、計畫經濟ト相違シテ財政モ計畫的ニ進マネバナラズト思フ、然レニ生産力擴張費一億一千七百萬圓ノ中、繼續費ガ少イト思フガ、計財政費ニ對スル意見如何トノ質問ニ對シテ、繼續費ハ少イガ、事業其ノモノニハ相當計畫的ニヤツテ居ルトノ答辯ガアリマシタ、中島彌生君ノ言論統制ノ根本方針ハ如何トノ間ヒニ對シマシテ、成ダケ國民ニ徹底スルヤウナ方針ヲ執ツテ居ル、又枝葉末節ノ言論マデ統制致シ、新聞ハ官報ノヤウデアル、斯ノ如クシテハ國民ハ時局ノ認識ヲ十分ニ深メルコトガ出来ナイ、今後ノ對策ハ如何トノ間ヒニ對シマシテハ、當事者ト熱談ヲ重ねテ、成ダケ左様ナコトノナイヤウニスル、失業者ノナイヤウニ考慮スル積リデアアルト云フ答辯ガアツタノデアリマス、東亞共榮圈内ノ通貨制度確立ニ關スル間ヒニ對シマシテ、我が國ガ物價ニ關シテ、英米依存ノ關係ヲ脱却スル方針ヲ執ル以上ハ、金ニ關シテモ同様ノ方針ヲ執ラナケレバナラス、即チ「ドル」ヲ支配ヨリ脱却シテ、東亞共榮圈内ノ通貨制度確立スベシトノ間ヒニ對シマシテ、政府當局ハ、東亞共榮圈内ノ通貨制度確立シテ「ドル」ヲ支配ヨリ脱却スルキウ努力致シマス、而シテ問題ハ重大デアアルカラ、相當長期ニ互ルコトハ覺悟シテ戴キタイトノ答辯ガアツタノデアリマス、簡單單一ト呼ブ者アリ「モウ濟シマス」、又右坂豐一君ヨリ大政翼賛會ヘ、大藏省ヨリ補助金問題ニ付テ質問致シタノデアリマ

スガ、政府ハ大政翼賛會ノ補助金ハ、十五年年度ニ於テハ九十二萬圓以外ニハナイ、十六年度ノ分ハ何モマダ見積リシテ居ラナイ、斯ウ云フ答辯ガアツタノデアリマス、以上簡單デゴザイマスガ御報告申上デマス

○増田委員長 採決ノ結果ハ如何デシタ—一松君、採決ノ結果ハ

〔前ニ報告シテアリマス〕ト呼ブ者アリ

○増田委員長 第四分科主任在岸田正記君

○岸田委員 第四分科會ニ於ケル審議ノ經過ニ結果ヲ御報告申上デマス

第四分科會ノ審議ハ、陸軍省及海軍省所管豫算案ニ付キ行ハレタノデアリマス、先ツ審議日割ノ第一日タル一月三十日ハ、開會費頭陸軍大臣ヨリ豫算案ノ大要ニ付キ説明アリタル後、引續キ質疑ニ入り、泉吉田、三宅ノ各委員ト陸軍大臣トノ間ニ、質疑應答ガ行ハレマシタ、此處ニ極メテ簡略ニ其ノ主ナル點ニ付キ概要ヲ申述ベマスレバ、先ツ戰爭ガ近代戰化セル現下ノ情勢ニ於テ、我が國軍ノ裝備ハ果シテ萬全ナリヤ、從來ハ餘リニ精神ニ重點ヲ置キ過ギタルノ感ナキヤトノ質問ニ對シマシテハ、皇軍ハ正シク精神中心主義デアリ、御勅諭ヲ以テ實ニ軍ノ生命トスルモノデアアル、併シナガラ其ノ裝備ニ於テモ、固ヨリ銳意萬全ヲ期シツツアル旨ヲ強調致サレマシタ、又國內ニテ動モスレバ、國策ニ反對シ、或ハ敵性國家ヲ利スルノ結果ニ陥ル言議、演說ヲナス者ヲ屢ニ見受ケルガ、憲兵ニ依ル徹底的取締ノ要ヲ認メズヤトノ質問ニ對シテハ、合法的ニ極力善處スベキ旨答辯ガアリマシタ、又人口政策ノ見地ヨリ徵兵適齡者、少クトモ十八歳位ニ引下グル要アルト思フ、所見

如何トノ質問ニ對シマシテハ、大局的ニ考究致シマシテ、軍務ニ適スル條件トシテハ、現在ノ年齢ガ適當デアアル、尙ホ要望サル點ニ付テハ、志願兵制度ヲ活用スル旨ノ答辯デアリマシタ

又第二日タル一月三十一日ハ開會費頭海軍大臣ヨリ、海軍省所管豫算案ノ大要ニ付テ説明ガアリマシタ後質疑ニ入りマシテ、中山委員ト海軍大臣トノ間ニ、種々質疑應答ガ重ネラレマシタ、就中海軍大臣ヨリ、防空施設ノ計畫的整備ニ付テハ、其ノ喫緊ノ要事タルニ鑑ミ、既ニ開議ニ於テ其ノ決定ヲ見ルニ至リ、殊ニ重要都市ノ防空設備ニハ、最善ノ力ヲ注グ意圖ナリ、唯防空ニ付テハ單ニ設備ノ問題ノミナラズ、精神訓練ガ最モ重要デアアル旨ヲ強調致サレマシタ、又統帥ト國務トノ連絡會議ニ付テハ、總理ガ統帥大權ニ關シ得ザルハ、憲法上明白デアアル、唯政戰兩略ノ一致ヲ期スル爲メ、連絡ノ要アルガ故ニ、統帥ノコトニ總理ガ全然關知セスト云フ譯デアリナイト開明致サレマシタ

尚ホ兩日トモ其ノ他種々緊要適切ナル質疑應答ガ行ハレマシタガ、其ノ詳細ハ速記録ニ依ツテ御覽ヲ御願ヒ致シマス、又憲法時局ノ重大性ニ鑑ミマシテ、特ニ第一日第二日トモ秘密會ヲ開キマシテ、第一日ハ陸軍當局ヨリ、第二日ハ海軍當局ヨリ、ソレノ率直且ツ詳細ニ、其ノ所見所信ヲ開明致サレ、又多數委員諸君トノ間ニ、最モ眞摯熱誠ナル質疑應答ガ重ネラレ、十分意見ノ交換ヲ行フ機會ヲ得タノデアリマス、斯クテ時日ハ僅カニ二日間デアリマシタケレドモ、極メテ充實緊要セル質疑應答ヲ盡シ得タル後ニ於テ、今日午後一時兩省所管豫

算各案ヲ、一括議題トシテ討論ニ入りマシテ、委員一宮房治郎君ヨリ政府原案ヲ可決スベシトノ贊成意見ノ開陳ガアリ、次イデ採決ノ結果全員起立ヲ以テ贊成ノ意ヲ表シ、茲ニ全會一致ヲ以テマシテ、政府ノ原案ハ豫算委員會ニ於テ可決スベキモノト決定相成ツタ次第デアリマス、此ノ段第四分科會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上デマス

○増田委員長 第五分科主任在土屋寬君

○土屋委員 第五分科會ノ議事ノ經過並ニ結果ニ付キ御報告申上デマス、本分科會ハ農林省及商工省所管事項ノ審査ヲ擔當致シマシタ、以下極メテ簡單ニ而シテ重點主義ニ依リマシテ御報告申上デマス

農林省所管事項ニ關スルモノデハ、先ツ現下喫緊ノ要求デアリマスル當面ノ米穀問題、肥料問題ニ付キマシテ、凡ル角度ヲ通ジテ質疑應答ガ交サレタノデアリマスガ、就中論議ノ中心ハ米價問題デアリマシテ、此ノ問題ニ對シ當局トシテハ、現在農民ノ燃ユルバカリノ國家意識ニ依ツテ、米穀ノ供出ハ相當數量ニ達シテ居ルノデアアルカラ、此ノ儘ノ狀況デ米價ハ現在ノ儘デ進ミタ、出荷獎勵金ヲ交付スル意圖ハ、現在持ツテ居ナイト云フ答辯デゴザイマシタ

次ニ増産計畫ノ見地カラ農業ノ機械化ノ問題ガ論議セラレタノデアリマスガ、我が國農業政策ノ針路ヲ示スモノトシテ、非常ニ重要ナル答辯ガ農林大臣ヨリナサレタノデアリマス、即チ農村ノ更生、農村ノ新體制ハ、先ツ農村勞力ノ能率化デナケレバナラナイト思ヒマス、ソレハ農業ノ機械化ニ外ナラナイ、其ノ具體的方策トシテハ、農機期ニ於ケル作業ニ對シテ、機械ガ採入レラレナケレバナラズ、而シテ現在ノ農業機

械ハ、未ダ農具ノ域ヲ脱シテ居ナイ、吾々ハ將來ドウシテモ土ヲ掘リ返シテ行ク所ノ重量機械ノ方向ニ進マナケレバナラナイガ、企業「リスク」ノ多イ此ノ種機械ニ對シテ、更ニ獎勵助長ノ方策ガ講ゼラレネバナラス、又現在カラ共同使用ニ處スル心構ヘ、更ニ其ノ方法ニ付キ、今カラ訓練サレナケレバナラナイト云フノデアリマス、更ニ自作農維持増進ノ立場カラ土地ノ世襲、國有案ノ問題ガアツタノデアリマスガ、之ニ對シテハ農家ノ土地ト云フモノハ、評價ガ非常ニ過大ニ見積ラレテ居ツテ、其ノ爲ニ日本農家ノ受ケテ居ル利益モ、相當考慮シナケレバナラズ、農村金融ガ解決セラレタ暁ニ於テハ農地ノ世襲、進ンデハ國有ト云フコトモ、政策ノ對象タリ得ルト考ヘル旨ノ答辯ガアリマシタ

次ニ供出米ニ對スル支拂ガ年三回ダケデ、其ノ間農村ニ非常ニ不便ヲ與ヘテ居ル點ノ指摘ニ對シマシテハ、漸次改善シテ行キタイトノ答辯ヲ得タノデアリマス

第三點ト致シマシテ東亞共榮圈ノ確立ニ際シ農相ハ如何ナル抱負ヲ有スルヤトノ間ガアツタノデアリマスガ、東亞人口構成上ニ於テ、其ノ六割餘ヲ占メル所ノ農民ガ、共榮圈ノ確立ニ大キナ要素ナルコトハ明カデアツテ、農民タケノ持ツ感情ヲ通ジテ、而シテ又日本農業ノ持ツ卓越セル技術ヲ以テ、先ツ農民ノ手ニ依ツテ建設ノ第一歩ヲ進メタイ、又ソレガ自分ノ信念デアアルト感銘深イ答辯ガアツタノデアリマス、次ニ商工省所管ニ付キマシテハ、中小商工業者ノ失業問題ガ取上ゲラレタノデアリマシテ、政府トシテハ更生金庫、職業指導所、國民訓練所ヲ設ケテ出來得ル限り維持育成ニ當

ルケレドモ、尙ホ業者間ニ於ケル相互協助ノ精神ニ依ツテ、難局ヲ切抜ケタイトノ答辯デアリマシタ、戰時生活相談所ノ如キモノヲ開設シテ、モット民衆トノ接觸面ヲ深メテハ如何トノ點ニ付キマシテハ、考慮スルトノ答辯デアリマシタ、第二點ハ經濟新體制ノ問題デアリマシテ、此ノ點ニ關シマシテハ、自由主義的ナ經濟機構ニ退步スルコトナク、而モ國家經營ニ進ムコトハ、飽クマデモ之ヲ避ケ、民間ノ自由創意ヲ生カシテ、職域奉公ノ線ニ依リ、現下ノ要請ヲ充タサントスルノデアアルトノ答辯デアリマシタ、鐵及ビ石炭ノ問題モ、極メテ内容ニ富ンダ質疑應答ガ交サレタノデアリマスガ、就中石炭ニ關シ共販組織ニナツテ以來、量ノ點ハ増産ヲ認メルケレドモ、質ノ點デ非當ナ低下ヲ來シテ居ル、即チ「カロリー」不足ノ爲メ需要家ハ大量ヲ消費シナケレバナイ、此ノ點ニ付テ缺陷ナキヤトノ間ニ對シテハ、一部左様ナ點ヲ認メルケレドモ、全般的ニ決シテ炭質ガ低下シテ居ル譯デハナク、嚴重ナ檢査ノ結果、石塊ノ混入ノ如キハ絶無トナツタ、而シテ良質ノ炭ハソレヲ絕對條件トスル方面ヘ振向ケテ居ルノデ、其ノ點一部各方面ニハ、御不自由ヲ掛ケルコトガアルカモ知レナイガ、現下ノ國勢ニ於テハ、ドウシテモ己ムヲ得ナイモノデアルトノ説明デアリマシタ、第三ハ物價問題デ、現在ノ一本建テハナク、必要ニ應ジテ適正ナル物價ヲ定メテ行ク、二本建、三本建ノ方針ヲ得タノデアリマシテ、生産地、消費地等ノ差ニ對シ、國家ガ運賃ヲ負擔スルノ意思ナキカトノ質疑ニ對シテハ、サウスルコトガ最モ捷徑デアアルガ、是ハ技術上ニ於テ困難デアアル、現在ノ際單位ノ配給機

構中ニ於テ、圓滑ヲ期シタイトノ答辯デアリマシタ

以上主ナル點ヲ拾ツタノデアリマス、當部面ハ現下最モ緊迫シタ部面デゴザイマシテ、論議モ極メテ眞劍ニ、而シテ周到綿密ニ委曲ヲ盡シタノデアリマス、此ノ席ニ於テ其ノ全部ヲ御紹介致スコトハ到底能クスル所デアリマセヌノデ詳シクハ速記録ニ讓ルコトト致シマス、本日採決ノ結果、鐵工業ノ生産擴充、食糧ノ増産確保、並ニ中小商工業ノ失業對策ニ付キ、萬全ノ方策ヲ講ゼラレタトノ希望意見ヲ附シ、全會一致政府原案ハ、總會ニ於テ可決スベキモノト決シマシタ、右御報告申上デマス

○増田委員長 第六分科主任在横川重次君

○横川委員 第六分科會ノ經過並ニ結果ヲ極メテ簡單ニ御報告致シマス、本會ハ三十一日、三十一日ノ兩日、午前、午後ニ互リマシテ熱心ナル質疑應答ガ行ハレタノデゴザイマス、本會ニ付テサレマシタル議案ハ、選信省所管並ニ鐵道省所管デアリマス、質疑ハ三浦虎雄君、堤康次郎君、三善信房君、石坂豐一君、中山福藏君、田中好君、羽田武剛君、七氏デゴザイマシタ、質疑ノ主ナルモノハ、選信省所管ニ於キマシテ海運振興ニ關スル問題、電力統制擴充ニ關スル問題、鐵道省所管ニ於キマシテ、戰時下物資輸送改善ニ關スル問題、大陸連絡運輸ノ擴充ニ關スル問題、混雜緩和ノ方策、從業員待遇改善ノ問題、關釜連絡海底鐵道建設懸念ニ關スル問題、交通統制、交通行政ノ整備ニ關スル問題等デゴザイマシタ、是等ニ對シ關係當局ヨリ、極メテ懇切丁寧ナル答辯ガアリマシテ、全部ノ質疑ヲ了シタノデアリマス、本日午後一時ヨリ各案ノ採決

ニ移リ、討論ヲ省略シ、全員一致可決確定致シテ次第デゴザイマス、此ノ段階報告申上ゲマス

○増田委員長 各分科主任ヨリノ報告ハ、何レモ豫算各案ヲ可決スベキモノトノ報告デアリマス、是ヨリ昭和十六年度歳入歳出總豫算案並ニ昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算案、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スルノ件、之ヲ一括議題トシテ討論ニ入りマス——宮澤胤勇君

○宮澤胤勇委員 本員ハ只今議題トナリマシタ豫算各案、竝ニ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スルノ件等ニ付キマシテ、極メテ簡單ニ二三ノ意見ヲ述ベテ、賛成ノ意ヲ表スルモノデアリマス、昭和十六年度——總豫算ノ金額ハ、歳入歳出トモ六十八億六千三百餘万円デアリマシテ、之ヲ前年度ノ一般會計總豫算額六十億九千七百餘万円、及ビ前年度ノ四十八億八千二百餘万円ニ比スレバ、年々凡ソ十億圓ツノ果増ヲ見、我國ノ財政史上空前ノ大豫算デアリマス、併シナガラ我國現下ノ事態ハ、是亦空前ノ重大時局デアリマシテ、昨今ノ緊迫セル内外ノ情勢ニ鑑ミル時、吾々ハ本豫算ノ金額ノ大ナルニ決シテ驚ク者デアリマシマス、問題ハ此ノ豫算ヲ通シテ行ハレル所ノ政府ノ施設ガ、東亞共榮圈確立ノ線ニ沿フ所ノ國防國家建設ヲ目指シテ有効適切ニ運用セラルルヤ否ヤノ點ニ繫ツテ居ルデアリマス

本豫算編成ノ方針トシテ、政府ハ國際情勢ノ推移ニ備ヘ、事變處理ノ完遂ヲ期スルト共ニ、戰時財政經濟ノ強化ヲ圖ルガ爲メハ、國家諸般ノ施設ヲシテ、一層戰時體制ニ即應セシムルノ要アリ、仍テ歳出豫算ニ於テハ、重點主義ト節用主義トノ徹底ヲ圖

リ、軍備ノ充實、生産力ノ擴充等、高度國防國家建設ノ爲メ、緊要缺タベカラザル經費ヲ計上シタトコトデアリマス

今豫算案ノ内容ヲ概観致シマスレバ、歳出六十八億六千三百餘万円中、皇室費ヲ別ト致シマシテ、國債費及ビ恩給年金額ノ合計ハ、十四億七千七百餘万円ナリ、臨時軍事費特別會計ノ繰入金及ビ地方分與稅分與金特別會計ノ繰入金ハ、合セテ九億九千萬圓デアリ、軍事費ハ陸海軍兩省所管ノ經費ヲ合シテ、二十六億二千八百餘万円デアリマス、其ノ他軍人保護ニ關スル經費一億四百餘万円、生産力擴充ニ關スル經費二億一千七百餘万円、經濟統制ニ關スル經費三千九百餘万円、科學振興費一千餘万円、貿易振興費一千六百餘万円、海運振興費二千二百餘万円、民間航空振興費二千餘万円、計四億一千八百餘万円、其ノ他各省ニ互ツテ、時局ニ對スル應急施設費ト見ルベキモノ、凡ソ一億二千餘万円デアラハセマスレバ、五億三千八百餘万円トナリマス

其ノ他外地特別會計ヘノ經費補充金、警察費連帶支辨金、國民學校教員俸給分擔金、諸拂戻及ビ補填金、國庫豫備金等ノ三億一千二百餘万円ヲ差引致シマシタル殘餘ノ十二億三千餘万円ガ一般行政費トナル譯デアリマス

向ホ軍事費ニ付テハ、一般會計總豫算ニ編入セラルベキ性質ノ費用ニシテ、臨時軍事費支辨トナルモノ、陸軍省所管ニ於テ三億二千三百餘万円、海軍省所管ニ於テ一億六千三百餘万円、計四億八千七百餘万円デアリマス、之ヲ前述ノ軍事費二十六億二千八百餘万円ト合ハセレバ、一般會計ニ屬スル軍事費ハ、三十一億一千六百餘万円ト

ナリ、隨テ十六年度一般會計豫算ノ總額ハ、實質的ニハ七十三億五千餘万円トナル譯デアリマス

斯ク大體把ニ歳出豫算額ヲ類別致シマシテモ、非常時財政ノ様相ガ想見セラレル譯デアリマス、併シナガラ之ヲ以テシテモ未ダ昨今ノ緊迫セル我が内外ノ事態ニ應ズルニ十分ナルモノトハ言ヒ難イノデアリマス、本豫算ハ昨年秋編成セラレタモノデアリマシテ、兩來一、二箇月ノ間ニ、我が國際情勢ハ急激ナル變化ヲ見ルニ至リマシタノデ、國防ノ如キモ、軍備充實ノ時代カラ、戰備應急ノ體制ニ入ツタノデアリマシテ、國家財政モ亦之ニ即應シタモノデアラネバナリマセ

本豫算案ノ審議ヲ經テ、吾々ハ政府ガ此ノ事態ニ應ズル爲メ、近ク本議會ニ追加豫算トシテ臨時軍事費ノ外、十六年度一般會計豫算ノ追加要求トシテ食糧、鐵及ビ石炭等ノ重要物資ノ生産擴充ニ關シ、必要ナル經費及ビ軍備充實ノ新計畫等ニ關スル追加豫算ノ提出ヲ見ルデアラウコトヲ窺ヒ知ツタノデアリマスガ、豫算費目ノ増加ガ、直チニ其ノ狙フ所ノ目的ヲ達スルモノトモ言ヒ難イノデアリマシテ、ソレ等經費ノ支出ヲシテ眞ニ效果アラシムルガ爲メハ、其ノ基礎トナルベキ物動計畫、資金計畫、勞務動員計畫、輸送計畫及ビ資材ノ配給、生産設備等ガ、ソレノ均衡ヲ得タル調整ヲ取ラレテ居ナケレバナリマセ、吾々ハ食糧、鐵、石炭等重要物資ノ生産擴充ニ關シテハ、政府ニ勇斷ヲ要望スル點多クアルデアリマスガ、此ノ場合之ニ關シ、特ニ附帶決議等ヲ付セザル所以ノモノハ、其ノ重要性ニ鑑ミ、別箇ニ取上ゲラルベキ適當ノ機會ア

リコトヲ期待スルカラデアリマス

向ホ近日提案セラルル所ノ臨時軍事費及ビ追加豫算等ノ歳入ガ、其ノ財源ヲ大部分公債ニ仰グベキコトハ、今日ノ場合ハムラ得ナイ所デアリマシテ、是等ヲ合ハセマスレバ、公債ノ發行額ハ本年度ニ於テ是又空前ノ巨額ニ達スルデアリマセウ、隨テ莫大ナル政府資金ノ撤布サレルコトハ必然デアリマス、吾々ハ昨年日本銀行兌換券ノ發行最高額ガ、四十九億三千万圓ノ記録ヲ示シタコトニ驚カナイトシテモ、日銀手持ノ長期內國債ガ三十六億圓ヲ超エ、昨年ノ公債消化率ガ、上期ノ九五%カラ下期ノ六五%ニ低下シタコトハ、注意シナケレバナリマセ

防正、公債消化等ニ關シ、政府ノ用意アル對策ヲ聽キ得カクツトハ遺憾デアリマス、併シナガラ物動計畫及ビ生産擴充ガ、從來ノ厩大ナル机上ノ計畫カラ實際ニ即シタル所ヘ、漸次落付キツアルヤニ看取サレルコトハ、當局者ガ時局對策ニ眞劍味ヲ帶ビテ來タコトノ證トシテ、意ヲ強ウスルモノデアリマスガ、重要物資ノ生産擴充ヲ、今尚ホ補助金政策一點張リテ押通サントスル態度ハ、之ヲ改メテ、物價政策再檢討ニ關スル世論ニ耳ヲ傾ケンコトヲ要望スルモノデアリマス

經濟統制、消費規正等ノ強化セララルルニ從ツテ生ズベキ各種ノ摩擦ヲ緩和シ、國民ヲシテ國家遂行ニ心カラナル協力ヲナサシムルニハ、此ノ際官場ノ空氣ヲ一新シ、事ニ當ル吏僚ノ更ニ一段ノ親切ナル努力ト工夫トニ俟タネバナラスノデアリマシテ、此ノ點特ニ政府ニ對シテ強ク要望スルモノデアリマス

豫算ノ膨脹ニ依ツテ生ズル官吏ノ増員ハ、大凡二万人ニ及ブトコトデアリマス、現下勤勞者不足ノ折柄、是等ハ官吏ノ待遇改善ト能率ノ向上トニ依ツテ、適當ニ調整スルノ要アリト思ハルルデアリマス

本期議會ノ劈頭政府ハ、我が國內外ノ重大ナル情勢ヲ率直ニ訴ヘテ協力ヲ求めラレ、又吾々モ進ンデ戰時體制強化ニ關スル決議ヲ行ツテ、時局ニ對スル國民ノ熱意ヲ表明シタノデアリマス、是ニ於テ政府ト議會トハ一體トナリ、大政翼贊ノ戰時體制ガ先ヅ茲ニ整ヘラレタノデアリマス、又本豫算總會ノ席上ニ於テモ、近衛總理ガ輔弼ノ重責ニ關スル悲壯ナル決意ノ披瀝セララル等ノコトアツテ、此ノ體制ハ愈々強メラレ、全國民ニ深キ感激ヲ與ヘツツアルノデアリマス、私ハ政府ガ此ノ心構ヘヲ先ヅ下僚ニ移シ、全國ノ官吏ガ之ヲ體得シテ國民ニ臨ムニ至ラバ、一億一心萬民翼贊ノ協力體ハ、立ドコロニ結成セラレ、世界ノ變局ニ處シテ帝國不動ノ國策ヲ遂行スル國內體制ハ、茲ニ完備致シマシテ、本豫算ノ如キモ有效ニ活用セララルコトヲ信シテ疑ハナイノデアリマス、一言所見ヲ述ベテ、本豫算案ニ賛成スルモノデアリマス(拍手)

○増田委員長 討論ハ結局致シマシタ——是ヨリ採決ヲ致シマス、但シ豫算案中皇室費ハ、協賛ヲ要セザル費目デアリマスカラ、之ヲ除キマス、各案トモ原案ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ望ミマス

(議員起立)

○増田委員長 議員起立、各案ハ何レモ全會一致ヲ以テ、原案ノ通り可決セラレマシタ(拍手起立)

○增田委員長 討論ハ結局致シマシタ——是ヨリ採決ヲ致シマス、但シ豫算案中皇室費ハ、協賛ヲ要セザル費目デアリマスカラ、之ヲ除キマス、各案トモ原案ニ賛成ノ諸君ハ起立ヲ望ミマス

(議員起立)

○增田委員長 次ニ第一號昭和十五年歳入歳出總豫算追加案及ビ特第一號昭和十五年特別會計歳入歳出豫算追加案、之ヲ一括シテ討論ニ付シマス

○宮澤胤勇委員 政府原案ノ通り可決セラレコトヲ望ミマス

○增田委員長 討論ハ結局致シマシタ、是ヨリ採決ヲ致シマス、兩案トモ原案ノ通り可決スルニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼ブ者アリ)

○增田委員長 御異議ナシト認メマス、仍テ兩案ハ何レモ原案ノ通り可決致シマシタ(拍手)

是ニテ昭和十六年度本豫算案ハ、全部講了致シマシタ

顧ミマスルニ一月二十三日第一回ノ審議ヲ開始致シマシテカラ、本日マデ十日間デアリマス、其ノ間日曜モ休マズ連日委員會ヲ開催致シマシテ、只管議事ノ進行ヲ圖リマシタ結果、極メテ短期間ヲ以テ、總會及ビ分科會ノ審査ヲ終了致シマシタコトハ、是レ偏ニ各委員御勤勞ノ賜モノト、深く感謝致シマス、茲ニ本豫算案ノ議了ニ當リマシテ、各位ノ連日ニ互ル御勞働ニ對シ、深甚ナル謝意ヲ表シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス(拍手)

午後三時十分散會

(參照)

分科委員ノ異動左ノ如シ

一月三十日

高田 振平君 第一分科ニ兼務ス
森田重次郎君 第一分科及第二分科ニ兼務ス
武田徳三郎君 第二分科ニ兼務ス

Table with 2 columns: 自十四年十二月十五日 至十五年一月十五日, 自十五年十二月十五日 至十六年一月十五日. Rows for 平川松太郎君, 石坂 豊一君, 矢野委員要求參考資料, 鶴見委員要求參考資料.

Table with 2 columns: 自十四年十二月十五日 至十五年一月十五日, 自十五年十二月十五日 至十六年一月十五日. Rows for 平川松太郎君, 石坂 豊一君, 矢野委員要求參考資料, 鶴見委員要求參考資料.

Table with 2 columns: 自十四年十二月十五日 至十五年一月十五日, 自十五年十二月十五日 至十六年一月十五日. Rows for 平川松太郎君, 石坂 豊一君, 矢野委員要求參考資料, 鶴見委員要求參考資料.

Table with 2 columns: 自十四年十二月十五日 至十五年一月十五日, 自十五年十二月十五日 至十六年一月十五日. Rows for 平川松太郎君, 石坂 豊一君, 矢野委員要求參考資料, 鶴見委員要求參考資料.

Table with 2 columns: 自十四年十二月十五日 至十五年一月十五日, 自十五年十二月十五日 至十六年一月十五日. Rows for 平川松太郎君, 石坂 豊一君, 矢野委員要求參考資料, 鶴見委員要求參考資料.

Table with 2 columns: 自十四年十二月十五日 至十五年一月十五日, 自十五年十二月十五日 至十六年一月十五日. Rows for 平川松太郎君, 石坂 豊一君, 矢野委員要求參考資料, 鶴見委員要求參考資料.

昭和十六年二月一日印刷

昭和十六年二月二日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局

第一類第一號

第七十六回帝國議會 豫算委員會議錄(速記)第十回

(六八)

會議 昭和十六年二月四日(火曜日)午前十時十三分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 増田 義一君

理事伊禮 肇君 理事小笠原三九郎君

理事佐藤洋之助君 理事西川 貞一君

理事古田喜三太君 理事三浦 虎雄君

理事三宅 正一君 理事宮澤 胤勇君

理事森田重次郎君 理事矢野庄太郎君

池田 秀雄君 石坂 豊一君

一ノ瀬俊民君 泉 國三郎君

今井 新造君 江藤源九郎君

大本貞太郎君 加藤 綱一君

笠井 重治君 勝 正憲君

川崎 克君 木村 正義君

岸田 正記君 北 吟吉君

島田 俊雄君 助川啓四郎君

多田 滿長君 高田 紘平君

武田德三郎君 津雲 國利君

土屋 寛君 鶴見 祐輔君

末松借一郎君 東郷 實君

富吉 榮二君 中島彌次君

中田 儀直君 中山 福藏君

西尾 末廣君 一松 定吉君

小泉 純也君 平野 力三君

深澤 吉平君 藤本 捨助君

古屋 慶隆君 堀内 良平君

前川 正一君 前田房之助君

三善 信房君 木暮武太夫君

横川 重次君 依光 好秋君

同月三日委員窪井義道君及平川松太郎君辭

任ニ付其ノ補闕トシテ同月四日青山憲三君及小泉純也君當選セリ

出席國務大臣左ノ如シ

内閣總理大臣公府近衛 文麿君

厚生大臣 金光 庸夫君

拓務大臣 秋田 清君

陸軍大臣 東條 英機君

外務大臣 松岡 洋右君

文部大臣 橋田 邦彦君

大藏大臣 河田 烈君

海軍大臣 及川古志郎君

鐵道大臣 小川郷太郎君

出席政府委員左ノ如シ

企業院院長 小畑 忠良君

企業院部長 沼田多稼藏君

企業院部長 三浦 一雄君

企業院部長 小松 茂君

對滿事務局次長 荒川 昌二君

對滿事務局次長 荒川 昌二君

興亞院部長 鈴木 貞一君

興亞院部長 松村 恭三君

外務次官 大橋 忠一君

外務省東亞局長 山本 熊一君

外務省亞米利加局長 阪本 瑞男君

外務省南洋局長 寺崎 太郎君

外務省通商局長 齋藤 晋次君

外務省條約局長 水野伊太郎君

外務書記官 武内時之助君

大藏省主計局長 廣瀨 豊作君

大藏省主計局長 谷口 恒二君

大藏省主稅局長 松隈 秀雄君

大藏省理財局長 竹内 新平君

大藏省銀行局長 相田 岩夫君

大藏省爲替局長 原口 武夫君

大藏書記官 氏家 武君

大藏書記官 植木庚子郎君

大藏書記官 日下部 滋君

大藏書記官 河野 一之君

大藏書記官 秋元 順朝君

大藏書記官 福田 勉夫君

預金部資金局長 中村孝次郎君

專賣局長 花田 政春君

陸軍主計中將 石川半三郎君

陸軍主計大佐 森田 親三君

海軍主計中將 豊田貞次郎君

海軍主計大佐 武井 大助君

海軍少將 岡 敬純君

海軍主計大佐 爲本 博篤君

海軍大佐 石川 信吾君

海軍大佐 高木 愷吉君

海軍省法務局長 高木 愷吉君

司法省行刑局長 金澤 次郎君

司法書記官 石田 壽君

文部省實業學務局長 關口 勳君

文部省實業學務局長 關口 勳君

農林省農務局長 藤野 惠君

農林省農務局長 藤野 惠君

農林書記官 井野 碩哉君

農林書記官 吉田 清二君

農林書記官 岡本 直人君

農林書記官 小島 新一君

農林書記官 末永 衛君

農林書記官 山田 良秀君

農林書記官 長崎惣之助君

農林書記官 平山 孝君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

鐵道省需品局長 堀本 鎌三君

第一類第一號 豫算委員會議錄 第十回 昭和十六年二月四日

一三三

第一類第一號 豫算委員會議錄 第十回 昭和十六年二月四日

ノ歳入ハ、九億二百餘万円ヲ計上致シテゴザイマス...

午後一時十分開議 ○増田委員長 休前引續キ會議ヲ開キ...

○増田委員長 是ヨリ公開發議シマス、只今ノ秘密會ニ於キ...

○松岡國務大臣 甚ダ簡明過ギルカモ知レ...

重慶トノ直接交渉ニ付テハ外務大臣モ出来...

ハ東亞ノ諸民族ヲシテ、各其ノ所ヲ得セシ...

ハ東亞ノ諸民族ヲシテ、各其ノ所ヲ得セシ...

ハ東亞ノ諸民族ヲシテ、各其ノ所ヲ得セシ...

ニ致スノデアリマス、殊ニ日本ノ大東亞共...

ハ東亞ノ諸民族ヲシテ、各其ノ所ヲ得セシ...

ケレバ事變ノ解決ハ出來ナイト考ヘテ居リマスガ、此ノ點ニ關シテドナ御考ヘテ御持チテアリマセウカ

○松岡國務大臣 此ノ豫算總會デイツカ海軍大臣カラモ其ノ點ハ答辯ガアツタト記憶シテ居リマスガ、交戦權ニ付テハ政府内部デモ始終慎重ニ考ヘテ練ツテ居ルノデアリマス、所ガ茲ニ一言附加ヘテ置キマスガ、此ノ點ニ誤解ガ少シアルノデアリカト思ヒマスガ、交戦權ハ行使シ得ルノデアリマス、成程宣戰ノ布告ハアリマセマスガ、アノ規模ノモノヲ戰爭デナイト言フ人ハ一人モナイ、街チモ戰爭デアル以上ハ、交戦權ハ行使シ得ルノデアリマス、サウシテ又ソコデ見解ガ岐レルカモ知レマセマスガ、軍ニ於テ必要ナル、又四圍ノ狀況デ此ノ程度ニ止メテ置カウト云フ界限ニ於テハズツト交戦權ヲ行使シテ居ルノデアリマス、唯支那事變ノヤウナ性質ノモノデ、又四圍ノ環境デ、後マデ交戦權ヲ行使シテ行クカ行カスカト云フ點ガ意見ノ岐レル所デアルト私ハ思フ、交戦權ハ行使シテ居ル、尙ホ是マデ以上ニ行使スルコトガ可ナリヤ否ヤト云フコトニ付テハ政府内部デモ慎重ニ考ヘテ居リマス

○今井(新)委員 アト一點簡單ニ御尋ね致シマスガ、ソレハ日獨伊ノ軍事同盟ノ内容ニ付テ「アメリカ」ガ歐洲戰爭ニ參戰シタ場合ニハ日本ハ當然「ドイツ」ノ爲ニ起ツ義務ガアルト云フヤウナ成文ニナツテ居リマス、内容モサウダ、併シ萬一「ソヴェト」ガ日本ノ北ヲ侵スヤウナ場合ニ「ドイツ」ガ立タナケレバナラヌト云フヤウナ成文ニハ必ズシモナツテ居ラナイト云フ説ヲナス者ガ専ラアリマシテ、非常ニ心配シテ居ル者モ多イノデアリマス、此ノ點ニ對スル外務大臣ノ御見解ヲ明確ニ承リタイ

○松岡國務大臣 ソレハ御話ノ通り、ナツテ居リマセマス、ソレハドウ云フ譯カト申シマス、アノ三國同盟條約ヲ締結致シマシタ時ハ「ソ」ノ締結ソレ自身「ソ」ノ大キキ目、的ガ日「ソ」國交調整ニアツタノデアリマス、隨テ第五條ニ「ソ」ノ明文デ表示シタヤウニ、「ロシヤ」トノ關係ハ何モ關係ガナイノ云フ合意ガ成立ツマデニ、我ヨリ見レバ日「ソ」國交調整、ソレカラ「ドイツ」「イタリ」「ソ」國交調整、ソレカラ「ドイツ」「イタリ」カラ見レバ親善關係ヲ「ソ」聯ト維持シテ行キタイ、斯ウ云フコトガ「ソ」ノ大キキキ根本ノ考ヘデアツタノデアリマス

○今井(新)委員 宜シウゴザイマス

トシテハ、如何ニシテ之ヲ交通政策ニ依ツテ補フカ、言換ヘレバ、如何ニシテ最早「アジア」ノ大陸或ハ南洋ニ日本ノ物資ト人間トヲ動カセルヤウナ政策ヲ執ルカト云フコトヲ中心ニシテ交通對策ヲ考ヘテ見マス

○小川國務大臣 只今ノ御見解ノ御話ニナ

トシテハ、如何ニシテ之ヲ交通政策ニ依ツテ補フカ、言換ヘレバ、如何ニシテ最早「アジア」ノ大陸或ハ南洋ニ日本ノ物資ト人間トヲ動カセルヤウナ政策ヲ執ルカト云フコトヲ中心ニシテ交通對策ヲ考ヘテ見マス

トシテハ、如何ニシテ之ヲ交通政策ニ依ツテ補フカ、言換ヘレバ、如何ニシテ最早「アジア」ノ大陸或ハ南洋ニ日本ノ物資ト人間トヲ動カセルヤウナ政策ヲ執ルカト云フコトヲ中心ニシテ交通對策ヲ考ヘテ見マス

トシテハ、如何ニシテ之ヲ交通政策ニ依ツテ補フカ、言換ヘレバ、如何ニシテ最早「アジア」ノ大陸或ハ南洋ニ日本ノ物資ト人間トヲ動カセルヤウナ政策ヲ執ルカト云フコトヲ中心ニシテ交通對策ヲ考ヘテ見マス

トシテハ、如何ニシテ之ヲ交通政策ニ依ツテ補フカ、言換ヘレバ、如何ニシテ最早「アジア」ノ大陸或ハ南洋ニ日本ノ物資ト人間トヲ動カセルヤウナ政策ヲ執ルカト云フコトヲ中心ニシテ交通對策ヲ考ヘテ見マス

トシテハ、如何ニシテ之ヲ交通政策ニ依ツテ補フカ、言換ヘレバ、如何ニシテ最早「アジア」ノ大陸或ハ南洋ニ日本ノ物資ト人間トヲ動カセルヤウナ政策ヲ執ルカト云フコトヲ中心ニシテ交通對策ヲ考ヘテ見マス

トシテハ、如何ニシテ之ヲ交通政策ニ依ツテ補フカ、言換ヘレバ、如何ニシテ最早「アジア」ノ大陸或ハ南洋ニ日本ノ物資ト人間トヲ動カセルヤウナ政策ヲ執ルカト云フコトヲ中心ニシテ交通對策ヲ考ヘテ見マス

モット早クは出来ルモノダト考ヘテ居リマス、サウ云フ考ヘ方ハ丁度大東亞ノ共榮國ヲ確立スルト云フ大キナ考ヘ方ト交通政策ト云フモノガビツタリ合ツテ行クト云フモノナリト思フデアリマス

○鶴見委員 私ハ其ノ十五年ト云フ計畫ハドウソ成ルベク短縮セラレテ早ク完成サレルヤウニ御願ヒテ致シテ置キマス、第一ニ私ハ直接國防ノ關係ノアル點ニ付テ御伺ヒテ致シテ置キタイノデアリマスガ、ソレハ日本ノ鐵道ノ幹線ハ殆ド海岸ニ近ク敷設サレテ居リマス關係ガ一ツト、隨テ會テ「ウラチオ」ノ艦隊ガ日露戰爭ニ出タ時ニモ多少ノ危險ヲ感ジタヤウナ状態デアリマスカラ、之ニ對シテハ鐵道當局トシテハ、萬一ノ備ヘトシテ、今沿岸ノ線路ガ破壊セラレタヤウナ場合ニモ、他ノ線路ニ依ツテ國內ノ交通系統ガ整備サレルヤウナ順序ヲ御立テニナツテ居ルカドウカ伺フテ置キタイ

第二ニハモット具體的ナ事デアリマシテ、萬一不幸ニシテ日米戰爭ノヤウナ事ガ起リ或ハ其ノ他ノ國トノ戰爭ガ起ツテ太平洋上ノ沿岸航路ガ或ハ不可能ニナリ、或ハ大部分是ガ阻碍サレルヤウナ場合ニハ、總テ東京ニ參リマス物資ハ鐵道ガケニ依ラナケレバナラスコトニナリマスガ、例ヘバ北海道カラ來ル所ノ石炭デアルトカ、或ハ大阪カラ參リマス其ノ他ノ物資ナドト云フモノハ、今日デモ既ニ不足ヲ感ジテ居ル、東北、常磐線、並ニ東海道線乃至中央線ヲ以テ運ビ切レルカドウカ、甚ダ私共ハ懸念ヲ持ツノデアリマス、斯クノ如キ場合ニ於テ如何ニシテ此ノ變ニ備ヘルダケノ御準備ヲナサツテ居ルノデアルカ、之ヲ御伺ヒ致シテ置キタイノデアリマス

○小川國務大臣 鶴見君ノ御質問ノ第一點ハ、海岸線ヲ假想敵國ニ依ツテ打壞サレタ時分ニドウスルカト云フヤウナ問題デアリマスガ、是ハ畢竟迂回線ト申シマスガ、其ノ壞レク線ニ代ルヤウナ鐵道線ヲ持ツテ居ルト云フコトガ必要デアリマシテ、サウ云フコトハ國防上カラモ來マスガ、運輸ノ關係カラモサウ云フ必要ガアリマスノデ、例ヘバ若シ東京ノ市街ガ空襲サレマスルト、是ハ私ガ説明スルマデモアリマセヌガ、迂回シテ荷物ヲ運ビ得ル線ハ御分リニナルガラウト思フデアリマス、サウ云フヤウナ考ヘ方デ所謂一種ノ並行線ヲ持ツトカ、或ハ並行線デナクテモ一點ト一點トヲ結ビ付ケル二ツノ線ガアルトカ、三ツノ線ガアルトカ云フヤウナモノハ、皆御趣旨ニ叶フヤウナモノダト思ヒマス、ソレデハソレガ悉ク何處モ被襲モ皆出來テ居ルカト云ヒマス、是ハ建設計畫デアラウ率ニハ出來マセヌモノデスカラ、或ハ遺憾ノ場所モナイトハ言ヘマセヌ、併シ今日ハ相當ニ鐵道ノ建設ガ出來テ居リマスルカラシテ、何處ガヤラレマシテモ、又地方ヲ迂回シテ行クコトガ出來ナイデハナイト私共考ヘテ居リマス、ソレカラ第二ノ點ハサウ云フヤウナ場合ノ物資ヲ運バシテ置キマス、殊ニ石炭ナドノ例ニ取ラレマシタガ、或ハ北海道ノ石炭トカ何トカ申シマス、ソレニ付テハ北海道ノ函館ナラ函館ト青森ト云フモノノ海上權ガドウナツテ居ルカト云フコトモ先ツ考ヘナケレバナイマセヌガ、其ノ運輸ハ青森ト函館ノ間ガ確保サレテ居ル場合ニ於テハ質間ニナルダラウト思ヒマスケレドモ、サウナリマスレバ石炭バカリデアリマセヌ、色々ナ物資ガ北海道ト本土トノ間ニ運

バレナケレバナラスト思ヒマスルノデ、海上ノ運送ガ止マツタ時分ニハ陸路ガ維持ツ、斯ウ云フコトニナルノデアリマシテ、ソレハ今問題トシテ居ル所バカリデナク、何處デモ起ル問題ダト思フデアリマス、現在ニ於キマシテモ實ハ船ガ乏シクシテ、海上運送ニ依ツテ居ツタモノガ陸上運送ニ轉嫁セラレタモノモ相當アルノデアリマス、ソレガカラ今日鐵道ノ荷物ガ多過ギテ運ビ切レヌト云フコトニナツテ居ル、其ノ原因ノ一ツハ、ソコニアルノデアリマスケレドモ、鶴見君ノ御質問ハモットヒドク敵カラ襲撃ヲ受ケタ場合ナノデアリマシテ、ソレハ今日ヨリモ尙ホ一層海ノ荷物ガ陸上ノデアリマスルカラ、容易ナコトデハナイト思フデアリマス、其ノ時分ニハ一番大切ナモノハ何デアルカ、石炭ナラ石炭ガ一番大切ナモノデアルカ、或ハ食糧品ナラ食糧品ガ一番大切ナモノデアルスルナラバ、其ノ輸送力ノアル限リニ於テ、其ノ一番大切ナモノヲ優先シテ輸送スルヤウニナラナケレバナラスト思フデアリマス、サウ云フ色々ナ場合ハ考ヘラレマスガ、併シ日本ノ海上ガソウカリ日本ノ海軍デ之ヲ支配スルコトノ出來ナイ場合ト云フモノハ非常ナ場合ト思フデアリマス、其ノ時分ニハ日本ノ輸送ヲシテ非常ナコトヲ行ハナケレバナラスト思フ、急ニ建設スル譯ニモ行キマセヌカラ、現在ノ鐵道ニ於テ最モ急ナルモノヲ先ニシテ、輸送制制ト云フモノヲ嚴重ニ行フヤウニシテ行キマスレバ、私ハ少クトモ交通ノ目的ダケハ達シ得ラレルカト思ヒマス、現在ニ於テモ昨年ノ末ナンカ石炭ノ輸送ハ勿論デアリマスガ、米トカ、木炭トカラ優先シテ輸送スルト云フコトニ

十分力ヲ致シタノデアリマシテ、ソレ等ヲ他ノ物ヨリハ優先スルトカ、小荷物ト云フヤウナ物ハ年末ニ於テ容赦ヲシテ貫ヒタイトカ、御客様ニ對シテ御迷惑ヲ掛ケカモ知レマセヌガ、サウ云フヤリ方ヲヤリマスレバ米ノ輸送、木炭ノ輸送モ一昨年ヨリハ昨年ハ相當成績ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスカラ、サウ云フヤリ方ガ殘ツテ行クノデヤナイカト思ヒマス

○鶴見委員 私人質問ハ是デ終了致シマシタ

○増田委員長 藤本拾助君

○藤本委員 私ハ此ノ際科學技術ノ振興ニ付テ關係當局ニ御尋ネシタイト思フノデアリマス、先ツ文部大臣ニ御伺ヒ致シマス、昨年八月現内閣ガ御聲明ニ相成リマシタ基本國策ノ中ニ、科學ノ振興ガ掲ゲラレテ居ルノデアリマス、私ハ只今審議中ニ屬シマスル四十八億八千餘万円ノ臨時軍事費豫算ヲ圓滑ニ施行致シマスル爲ニハ、高度ノ科學技術ノ基礎ニ立脚致シマスル人ト、物ヲ、計畫ガ必要デアルト考ヘルノデアリマス、然ルニ人的資源ニ付テハ既ニ不足ヲ告ゲテ、數ト共ニ資質ノ飛躍ノ向上ガ要求サレテ居ルノデアリマスルシ、又物的資源ニ付テ見マシテモ、天然資源ニ惠マレナイ我が國ガ既ニ長期五年ニ互ル戰爭ヲ致シ、加フルニ國際間ノ情勢ハ次第ニ緊迫致シテ參リマシテ、之ニ毅然トシテ對處致ス爲ニハ、東亞ニ於ケル我が自給國內ニ於キマスル資源價值ヲ增加致シ、更ニ一九一〇年「ドクタール・ハーバー」或ハ「ボッシュ」ガ空中索ノ固定ニ成功致シマシタヤウニ、或ハ「フジシヤ」法、「イーゲー」法ニ依リマシテ石炭液化ヲ致シ、人造石油ヲ取ルコトニ

十分力ヲ致シタノデアリマシテ、ソレ等ヲ他ノ物ヨリハ優先スルトカ、小荷物ト云フヤウナ物ハ年末ニ於テ容赦ヲシテ貫ヒタイトカ、御客様ニ對シテ御迷惑ヲ掛ケカモ知レマセヌガ、サウ云フヤリ方ヲヤリマスレバ米ノ輸送、木炭ノ輸送モ一昨年ヨリハ昨年ハ相當成績ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスカラ、サウ云フヤリ方ガ殘ツテ行クノデヤナイカト思ヒマス

十分力ヲ致シタノデアリマシテ、ソレ等ヲ他ノ物ヨリハ優先スルトカ、小荷物ト云フヤウナ物ハ年末ニ於テ容赦ヲシテ貫ヒタイトカ、御客様ニ對シテ御迷惑ヲ掛ケカモ知レマセヌガ、サウ云フヤリ方ヲヤリマスレバ米ノ輸送、木炭ノ輸送モ一昨年ヨリハ昨年ハ相當成績ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスカラ、サウ云フヤリ方ガ殘ツテ行クノデヤナイカト思ヒマス

成功致シマシタヤウニ、代用資源ヲ創造致シマシテ、軍需ノ自給自足ヲ確保致サナケレバナラヌノデアリマスガ、ソレガ高度ノ科學技術ニ依存シテ居リマスコトヲ考ヘマシタ時ニ、又計畫經濟ハ高度ノ科學性、技術性ヲ要求スルノデアリマスガ、我が國ノ統制經濟ハ、法律命令ト云フ如キ所謂軌範ノ法則ニ支配サレテ居リマシテ、之ニ付テハ間然致ス所ハアリマセヌガ、技術トカ、或ハ科學トカ、左様ナ所謂存在ノ法則ニ依ツテ指導サレテ居リマセヌノデ、多分ニ科學性或ハ技術性ヲ缺キマシテ、到處ニ矛盾缺陷ヲ續出致シ、今ヤ國民ハ統制經濟ノ必要ハ何人モ之ヲ認メテ居リマスガ、尙且ツ不平等或ハ怨嗟ノ聲スラ聞クノデアリマス、更ニ又「ドイツ」ガ過グル世界大戰ニ於キマシテ、殆ド世界ノ總テノ國ヲ四年四箇月ニ互リ相手ニシテ戰ヒ、又一敗地ニ墜レマシタケレドモ、其ノ後二十年ノ以テ新舊諸國ニ依リマシテ、今日ノノ強大ヲ致シマシタコトハ、「ドイツ」ガ世界一科學、技術ヲ尊重致シ、ソレヲ活用致シテ來タト云フ點ニ負フ所ガ大デアルト云フコトニ思ヒ至リマス、現内閣ガ科學ノ振興ヲ國策ノ一ツトシテ學費ラレマシタコトハ、洵ニ劃期的國策トシテ、私ハ衷心敬意ヲ表スル所デアリマス、又橋田文相ニ於テカレマシテモ、談話ノ形式ヲ以テラマシテ、科學振興ノ擴充整備、科學研究ノ連絡統合、科學者技術者ノ養成充足、科學教育ノ振興、或ハ科學功勞者ニ對スル表彰ト云フコトヲ掲ゲラレテ居ルノデアリマス、洵ニ時宜ヲ得タモノト思ヒマシテ、是亦敬意ヲ表スルノデアリマスガ、併シ問題ハ之ヲ如何ナル方法ニ依リ、又如何ナル理念ヲ以テ、如何

ニ徹底シテ具現スルカト云フコトデアリマス、ソコデ先ツ御尋ネ致シタイト思ヒマス、コトハ、科學振興ノ理念ニ付テデアリマス、申スマデモナク我が國ノ科學ハ從來歐米ニ依存デアリマシタガ、併シ過去ハ姑ク措キマシテ、現在ニ於キマシテハ毅然トシテ歐米ニ依存ヲ脱却致シ、而シテ其ノ内容ニ於キマシテハ世界最高ノ水準ヲ行キ、而モ歐米ノ自由主義、個人主義ノ如キ自利功利ノ思想ニ禍ヒサレマセヌ所、日本民族ノ性格ヲ持ツタ科學ナクテハナラヌト私ハ信ズルノデアリマス、茲ニ文相ノ科學振興ニ對スル理念ヲ承リタイノデアリマス

○橋田國務大臣 只今ノ藤本君ノ御質問ニ對シテ御答ヘ致シマス、從來我が國ニ於ケル科學ハ、専ラ歐米カラ輸入シマシタコトハ御承知ノ通りデゴザイマシテ、ソレガ爲ニ、科學デアリマスカラ、或ル程度マデノ具體性ハ持ツテ居リマシタケレドモ、先ツ知識ヲ探入レラレル事柄ガ専ラニナリマシタガ故ニ、科學ト云フモノハ抽象具體レガ抽象面ダケガ取上ゲラレテ科學ト認メラレテ居ツタコトガ、今日我が國ノ科學ヲシテ、種々ナル努力ニモ拘ラズ大ナル進歩ヲ遂ゲサセナカツタ理由デアルト思フノデアリマス、先ツ科學ヲ振興サセル一ツノ理念トシマシテハ、抽象的ナルモノハ眞ノ科學デハナイノデアリマス、ソレヲ動カス働キ、ソレヲ獲得スルコトガ、是ガ本當ノ科學目的デアルト云フ事柄ヲ先ツ徹底サセバナラヌト思フノデアリマス、併シナガラ所謂自然科學ノ方面ニ於キマシテハ、對象トシテ居リマスモノガ客觀的ナモノデアリマスガ故ニ、

動モシマス人間カラ離レ、モット外ノ言葉デ申シマスナラバ、國民性ト云フモノカラ離レタ抽象的ナ、一般適當的ナモノデアルト云フヤウニ考ヘ誤ラレテ居ル所ガアルノデアリマス、ソレガ故ニ科學ト云フモノガ歐米ニ非常ニ發展シナガラ、其ノ發展ト共ニ人生ヲ離レタガ故ニ、科學ト云フモノニ依ツテ人生ニ支障ヲ及ボスヤウナ状態モ來シテ居ルカト思フノデアリマス、此ノ意味ニ於キマシテ、吾々ガ日本ニ於テ科學ヲ振興シマス理念トシテハ日本ノ國民性ノ中ニ十分包容スルト云フ建前ヲ一ツ持ツタケレバナラナイノデアリマス、サウシテ科學ヲ消極的ナ概念トシテデナク、具體的ナ概念トシテ使フ、其ノヤウナモノヲ私ハ假日本ノ科學ト云フ言葉ヲ用ヒテ居ルノデアリマスガ、要シマスルニ其ノヤウナ趣旨ヲ以テマシテ、私ノ理念ト致シマス所ハ、歐米ノ科學ヲ十分ニ採リ、向ホ其ノ上ニ我が國民的ナ性格ノ中ニソレヲ融ケ込マシマシタ鶴見君トシテ日本科學ヲ樹立スルコトガ、日本科學振興ノ理念デアルト考ヘテ居リマス

○藤本委員 只今承リマシタ御理念ニ依リ、又ソレヲ具現スル所ノ豫算ニ付テ拜見致シマス、通常、臨時合ハセテ七百五十三萬四千七圓デアリマス、又其ノ配分關係ヲ見マシテモ、既存ノ研究機關ニ依存シ、或ハ便乘致シ、乃至ハ若干ノ新ヲ設備ヲ特設致スノニ過ギナイノデアリマス、茲テ私ハ文相ニ御伺ヒ致シタイト思ヒマス、故テ私ハ只今喫緊ノ急務デアリマスル高度國防國家ノ科學振興ニ對スル要請ガ、此ノ程度ノモノナリヤ否ヤ、若シ文相ガ「ノー」ト仰セニ相成リマスレバ、何故此ノ際一大科學研究ノ綜合機關ヲ御特設ニ相成ラヌカト云

ヤウナガ集マリマシテ、我が國ノ科學振興ノ爲ニ何ヲスルカト云フコトヲ、絶エズ連絡ヲ取リナガラ協議スルヤウナ審議會ノ如キモノハ、是非トモ此ノ際必要ト考ヘテ居ルノデアリマス、ノミナラズ御話ノ通りノ綜合科學研究ト云フモノノ設立ハ、是亦必要ナモノトシテ居ルノデアリマスガ、現時ノ狀況ヲ以テマシテハ、人ノ足リナイコト、物資ノ足リナイコト云フコトニ依リマシテ、直チニ新シク綜合科學研究所ヲ作ル段取りニ參ラナイト思フノデアリマス、其ノ代リトシマシテハ、既存ノ研究所ヲ十分重視シテガ、從來ノ如キ既好ノ研究所ガ唯獨ニ研究ヲ進メテ居ルコト云フノデアリマス、先程申シマシヤウナ綜合科學研究ト云フ程度マデノ目的ヲ達成サセタイ、斯ウ云フ意見ヲ持ツテ居リマス

○藤本委員 長期戦下ニ於キマシテ物資ニ不足ヲ告ゲテ居ルコトハ能ク存ジテ居リマス、我が國ハ今ヤ事變處理ノ眞只中ニアルノデアリマスガ、前門ノ虎ガ尙ホ退散致サナイノニ、更ニ後門カラ狼ニ迫ラレテ居ルノデアリマス、何トシテモ毅然トシテ此ノ國難ヲ國力ノ總テヲ學ゲテ克服シナケレバナラスノデアリ、併シ差當リ只今ノ所彼等ニ拮抗スルニ數ノ力デハナシ得ナイ、ドウシテモ彼等ノ追隨ヲ許サス所ノ優秀ナル質ノ力デ克服致サナケレバナラスト思フノデアリマス、是ニ於キマシテ其ノ質ノ向上ヲ圖ル爲ニハ、申スマデモナク、其ノ養成機關ガ必要ナル、ソコデ私ハ只今一大綜合科學機關ノ提唱ヲ致シタノデアリマス、史家「モンゼン」ハ「ドイツ」ノ統一ハ「ベルリン」ニ綜合大學ガ創設サレタニ始マルト云フコト

○橋田國務大臣

御答ヘ致シマス、先刻モ申上ゲマシタ通り、綜合科學機關ノ必要ナルコトハ十分認識メテ居ルノデゴザイマスカラ、時機到來セリト見マシタナラバ、斷行スルニ憚ラナイ所デアリマス

○藤本委員 科學ハ申スマデモナク自然界ヲ支配スル理法ヲ研究スル學問デアリマスカラ、直接ニ人類生活ノ向上ニ寄與スルコトヲ目的ト致シテ居リマセス、故ニ科學研究ノ成果ヲ或ハ事業ニ活用シ、應用スルデナケレバ、科學研究ノ終局ノ目的ハ達成サレナイノデアリマス、故ニ生産上學ノ必要ガアルト思フノデアリマス、即チ科學研究ノ成果ヲ科學者ノ實驗場ヨリ、或ハ特許局ノ倉庫ノ中ヨリ取出シマシテ、現實ノ産業ニ之ヲ活用シ、應用スルコトヲ必要ト致シ、又之ヲ致サナケレバ、物資ノ動員、生産力ノ擴大、或ハ大東亞共榮圈ニ於ケル所ノ「アウタルキー」ハ其ノ完備ヲ期シ得ナイト思フノデアリマス、且又文相ハ科學振興ノ一方策トシマシテ、科學功勞者ノ表彰ヲ掲ゲラレテ居ルノデアリマスガ、併シ科學功勞者ノ功勞ニ對スル眞ノ表彰ハ、名譽ノ形式的表現トカ、或ハ紛々タル所ノ經濟的利益ヲ得ハナイノデアリマス、自分ガ心血ヲ注ギ、畢生ノ努力ヲ致シテ研究致シマシテ、其ノ成果ガ、或ハ産業ニ、事業ニ應用サレ活用サレマシテ、人類生活ノ福祉ノ向上ニ寄與致シ、或ハ又生産力ノ擴充ニ應用サレマシテ、今ヤ國家ノ運命ヲ左右スル所ノ高度國防國家ノ建設ノ爲ニ血トナリ、肉トナルコトデアラウト思ヒマス、是ガ科學者ノ最高ノ名譽デアリ、最高ノ報酬デアリマス、曾テ科學者ノ中ハ自分ガ一生ノ心血ヲ注イダ研究ノ結果ガ、産業ニ、事業ニ應用サレ注イダマシテ、憂慮ノ餘リ悶死シタ所ノ科學者ガ幾ラモアルノデアリマス、例ヘバ食鹽カ「ゾーグ」ヲ採リマス所ノ「ルブラン」法ノ發明者「ルブラン」ガ其ノ研究ノ成果ガ事業化サレマセ又結果ニ悶死シタコト云フコトハ、既ニ文相ノ御承知ノ通りデアリマス、故ニ此ノ際科學研究ノ成果ヲ如何ニ事業化スルカト云フコトガ最モ必要デアリマスガ、ソレガ直チニ高度國防國家建設ノ重大ナル要素ナルト同時ニ、文相ノ申サレマシタ科學功勞者ニ對スル最高ノ表彰デアルトモ思フノデアリマス、是ニ於キマシテ文相ノ此ノ科學研究ノ成果ヲ如何ニシテ企業化スルカト云フコトヲ御抱負ヲ承リタイ

○橋田國務大臣

御答ヘ致シマス、只今ノ御高説全ク同意デゴザイマシテ、私ノ考ヘテ居ル所ト其ノ軌ヲ一ニスルコトヲ、甚ダ心強ク感ズル次第デゴザイマス、科學ヲ振興致シマス根本ハ、國民全般ガ科學的ニナルト云フコトヲ目指シテ行カナケレバナラナイ

○橋田國務大臣

御答ヘ申上ゲマス、科學ト云フ言葉ヲ使ヒマス、一應諒解出來ルヤウデアリマスケレドモ、甚ダ範圍廣汎ニ互ルモノデアリマシテ、先ツソレヲ私共ハ一通リ基礎的研究、應用的研究、實用の研究ノ三階段ニ分ツテ考ヘテ居ルノデアリマス、無論其ノ間ノ境ハ漠然トシテ居リマス、其ノ基礎的研究カラ出タモノヲ次ニ實用化スル中間ノモノトシテ應用スルノニ、ドウシカラ宜イカト云フコトヲ研究スル、又愈、是ナラバ實用化スルコト云フ目途ノ付イタモノヲ初メテ實用化スルコト云フ三段ニ考ヘテ居リマス、ソコデ科學者自身ノ働キトシテハ、無論全面ヲ通ジテ問題ヲ考ヘテ居ルノデアリマスガ、或ル場合ニハ基礎的科學研究ニ從事シテ居ルモノモアリマセウシ、或ル場合ニハ基礎的研究カラ出タ應用方面ニ行クモノモアリマセウシ、更ニ又應用方面カラ實用向キニ轉ズル人モアリマセウ、或ハ實用の研究ノ方面カラ逆ニ基礎的科學研究ノ方面ニ行カレル人モアルカト思ヒマス、ソレ等ノ人ノ最後ノ目的ト致シマス所ハ、今御話ニナリマシタ通りトシテ心血ヲ注イダモノガ實際的ニ役ニ立ツカ立タナイカト云フコト、其ノ役ニ立ツコト云フ事柄モカト云フコト、其ノ役ニ立ツコト云フ事柄モ唯實用化サレルト云フコト以外ニ、眞ニ是ガ國民ノ血トナリ、肉トナルト云フコトガ問題デアルノデアリマス、一面ニハソレヲ他ノ言葉ヲ以テ言フナラバ、眞ニ認メラレルカ認メラレナイカト云フコトガ第一ニ問題デアラウト思ヒマス、無論研究者ソレ自身ガ認メラレタイト思フテ研究シテ居ルト云フコトハ、甚ダ一面ニ於テ學者ヲ冒瀆シテ居ル心構ヘデアリマスケレドモ、ヤハリ

學者ト雖モ人間デアル限り、自分ガ偉大ナル研究ヲシテ居ルモノヲ認メラレラマデ俟ツテ居ヨウト云フコトハ中々出來ナイモノデアリマス、又サウ云フモノヲ周圍カラ放ツテ置イテ、偉大ナル研究ヲシテ居ルモノヲウツチカラカシテ置クコト云フ事柄ハ、周圍ノ人間トシテ、科學者ノ働キヲ俟ツテ居ル吾々トシテ執ルベキ所デアリナイト思フノデアリマス、其ノ意味ニ於キマシテ科學者ノ表彰ト云フコトモ亦科學ト云フモノノ具體的ナ姿ガ如何ナルモノデアラカト云フ事柄ヲ國民一般ニ知ラセルト云フ意味ニ於キマシテモ、又科學振興ノ一面ヲ形ツクルモノデアラウト存スルノデアリマス、併シナガラ無論唯表彰スルコト云フ事柄ガ何モ科學者ノ根本ノ精神ヲ喜バセセルモノデアリナイコトハ今御話ノ通りデアリマシテ、同時ニソレハ科學者ヲ科學者トシテ認メタト云フコトデアリ、而モ其ノ科學者ガ如何ガ故ニ認メラレタノデアラカト云フ事柄ヲ、能ク國民ガ認識スルコト云フコトニ於テ、一面ニ於テハ科學者ノ仕事ソレ自身ヲ出來ルダケ理解シテ、出來ルダケ吾々ノ血トナリ肉トナルヤウニ、ソレヲ運轉シテ行カウト云フ方針ニ心ガ向クヤウニシヨウト云フ、一面ヲ持ツテ居ルト存ジマス、餘事デアリマスガ、「ドイツ」ガ戦後一九二二年頃存ジマスガ、科學獎勵費ヲ民間ニ募集シタコトガアリマス、國家政策ノ極、政府カラハ金ガ出ナイ、ソコデ民間カラ金ヲ集メマシテ、科學者ノ養成ヲシヨウト云フ企テアリマシタ時ニ、アノ疲弊シテ居ル「ドイツ」國ニ於テ、二千万「マルク」ガ即時集ツテ來タノデアリマス、ソレカラ十年位経チマシタト思ヒマスガ、日本ニ學術振興會ト云フモノガ出來マシテ、同

ジヤウナ目的ノ下ニ、民間ニ於テ學者ヲ養成、或ハ研究施設ノ補助ヲシヨウト云フコトヲ爲ニ金ヲ集メマシタ時ニ、非常ナ僅カナ金シカ集マラナカッタノデアリマシテ、其ノ際私學研究ノ一人トシテ如何ニモ遺憾ニ存ジ、何方故ニ斯クモ日本國民ガ科學ニ理解ガナイカト云フコトヲ憤慨モシマシタガ、ソレハ一面ニ於テ學者ガ、日本ニマダ科學ト云フモノガ如何ナルモノデアラカト云フコトヲ、國民一般ニ認識サセル働キヲシナカッタ罪ヲ負ハナケレバナラスト云フコトヲ思フノデアリマス、其ノヤウナ意味ニ於キマシテ、學者ノ表彰ト云フ事柄ハ、國民一般ニ科學ヲ理解セシムルノニ役ニ立ツ、唯科學者ノ表彰スルコト以外ニ、非常ニ此ノ科學振興ト云フコトニ意味ガアルト思フテ居ルノデアリマス

○藤本委員 只今御述ベニナツタコトニ付テ、モウ一ツ御答ヲ致シタイト思ヒマスガ、ソレハ如何ニシテ科學ヲ科學者ノ科學ヨリ國民ノ科學ニスルカト云フコトデアリマス、我が國ノ國民性ハ、御承知ノ通り、理智的ト申スヨリモ感情的デアリマス、客觀的ト申スヨリモ主觀的デアリマス、故ニ世界ノ一國ヲ誇ル我國ノ國民ガ、世界ノ無敵ノ多イ國民デアルト言ハレテ居ルノデアリマス、又日露戦争ノ際ニ「アメリカ」ニ使ヒマシタ我ガ國ノ全權ニ、或ハ第一次世界大戰ノ際ニ「ヴェルサイユ」ニ使ヒマシタ我ガ全權ニ、北極太ニ於ケル石油資源、南太平洋ニ於ケル舊「ドイツ」領植民地ノ燐灰石ニ付テ、モウト豊富ナル科學的知識ヲ持ツテ居リマシタナラバ、當時外交上モツト他ノ手ガ打テタデ

アラウト云フコトヲ考ヘマス時ニ、更ニ又只今問題ノ生産力擴充、物動計畫、消費節約、或ハ更ニ其ノ急務ヲ加ヘマス廢品ノ回收等ハ國民ノ觀察、國民ノ思考、國民ノ處置ト云フモノガ、科學的ニ合理的ニナラナケレバ駄目デアリマス、加之、只今生産力ノ擴充ニ依リ、或ハ能率ノ向上ニ依リ、造出シタ資料「トン」或ハ「トン」ガ、向後十年或ハ五十年先ノ何倍、何十倍ノ國家の必要、國家の價値ヲ持ツテ居ルノデアルト云フコトヲ考ヘマス時ニ、私ハ此ノ際日本ノ國民性ヲ一日モ早ク科學的ニスル、サウ日本ノ一億國民ノ生活、或ハ其ノ職權奉公ヲ合理化シ、觀察ニ於テ、思考ニ於テ、措置ニ於テ無駄ガナイ、科學的デアラ、合理的デアラト云フヤウニスルコトガ、洵ニ必要デアラウト思フノデアリマス、而シテ其ノ方策ヲ致シマシテハ、或ハ普通教育、專門教育、或ハ社會教育ニ於キマシテ科學ニ親シム、或ハ科學研究ニ對シテ非常ナ關心ヲ持ツ、或ハ科學叢書、科學圖書ヲ普及スル、或ハ近々實施ニ相成リマス國民學校ニ於キマシテ理科、藝能科等ニ於キマシテ、今マデノヤウナ無味乾燥ナル理科教材ヲナシ、興味ト關心ヲ持チ、眞ニ科學戰士トシテ奮起ツヤウナ教材ヲ盛込ムコトガ、必要デアラウト思フノデアリマスガ、之ニ對シマシテ文相ノ御抱負ヲ承リタイト思フノデアリマス

○藤本委員 又ノ機會ニ致サウト思ヒマシタガ、今科學振興ニ關シマシテ、普通教育ニ御論及ニ相成リマシタノデ、簡單ニ御尋ね致シマス、國家ノ興亡盛衰ガ普通教育ノ振、不振ニ依ルト云フコトハ申スマデモア「プロシヤ」ガ「大「ドイツ」」ヲ統一一致シマシテ、即チ普佛戦争ニ勝チマシテ、意氣揚

第一類第一號 豫算委員會議錄 第十回 昭和十六年二月四日

在ニ於キマシテハ、小學校ニハ半數除リシカ居リマス、二三割程度ハ代用教員デアル、或ハ一昨年デアツタト思ヒマスガ、優秀ナル教育者ガ國家生活ノ基礎デアラ教育界ヲ去ツテ、他ニ轉ジテ者ガ數ナアル、又更ニ最近師範學校ニ入學スル者ヲ見マス、第一次募集デハ充員致サレヌノデアリマス、サウシテ第二次募集、而モ其處ニ集マル者ハ、甚ダシイ者ニナリマスト百三十人ノ中ノ百三十番ガアル、或ハ尋常四年ノ算術ガ出來ナイ者サヘモ入レザルヲ得ナイト云フ状態デアラサウデアリマス、私ハ零ハ何ボ集ツテモ零ダト思ヒマスガ、併シ素質ノ悪い生徒ガ將來教育者ニナリマシテモ、ソレハ教育者トシテ私ハ必ズシモ零トハ申シマセウガ、併シ教育振興、殊ニ一ツニハ國家百年ノ大計ヲ樹テル爲ニ、又一ツニハ只今ノ如キ此ノ時難ヲ突破スルコトヲ意味ニ於キマシテ、普通教育ノ振興ガ特ニ急務ト致サレルノ秋ニ於キマシテ、斯クノ如キ現狀ハ實ニ國家ノ爲ニ憂慮ニ堪ヘナイノデアリマス、而シテ其ノ由ツテ來ル所ハ教育者ニ對スル優遇ガ足ラヌカラダト思ヒマス、今ノ小學校ニ於キマシテハ一學級七八十人ノ生徒ヲ、實科高等女學校卒業シテ位ノ者ガ取扱ヒ、而モ其ノ俸給タルキ二十五圓カ三十圓デアリ、師範學校卒業シマシテモ平均給ハ四十二、三圓カ、四十四、五圓デアリ、十年經テマシテモ僅カニ七十圓カ七十五圓デアリ、ソレドドウシテ教育者ガ其ノ品位ヲ維持致シ、又渾身ノ精力ヲ教育ニ打込ムコトガ出來ルデアリマセウカ、茲ニ於テ私ハ科學振興ノ基礎デアリマス普通教育ノ振興ヲ圖ル爲ニハ、先ツ教師ヲ優遇シテ、サウシテ烈々タル殉國ノ精神ヲ以テ

渾身ノ精神ヲ教育ニ打込ムコトヲ云フヤウナ人ヲ先ツ求メナケレバナラヌト思ヒマスガ、之ニ對シマシテ相ノ高等官四等待遇云々ノコトヲ分科會デ仰シヤツテ居ラマセウ、併シ更ニ俸給ヲモウ少シ増額スルコトヲ云フコトガ焦眉ノ急務ダト思ヒマス、俸給ヲ増額シマスレバ購買力增加スルコト云フコトモ、考ヘラレマセウガ、併シ購買力ハ斷ジテ増加致サレマセウ、彼等ガ毎月負ウテ居ル所ノ「マイナス」負債ヲ少々輕減スルニ過ギナイト思フデアリマス、斯ルガ故ニ私ハ此ノ際教育者優遇ニ付キマシテ文相ノ御意見御決意ヲ承リタイト思ヒマス

○橋田國務大臣 教育刷新、科學振興ト云フコトニ付キマシテ私就任以來先ツ第一着ニ苦慮シマシタコトハ、今ノ小學校教員ノ優遇ト云フ問題デアリマシテ、是ハ今デモ無論念頭ヲ離レナイ問題デアリマシテ、唯國家ノ色々事情、微力ノ爲ニマダ今日マデ十分ナル方途ヲ講ジ得ナイコトハ、甚ダ遺憾トシテ居ルノデゴザイマスガ、聊カ今期議會ニ提出シマシタ豫算ノ中ニ於キマシテモ、此ノ方針ニ向ツテ進ム心構ヘダケハ協賛ヲ得テ次第ナラドゴザイマス、一面ニ於キマシテハ、無論精神ノナル方面ニ於テモ十分優遇ヲシナケレバナラヌ、或ハ社会的地位ト云フ方面ニ於テ優遇シナケレバナラヌ、同時ニ之ヲ三拍子揃ツタ優遇ヲシテ、マア極端ナ實業ヲ用ヒマスナラバ、國民ヲ預ツテ居ルコト云フ意味ニ於キマシテハ、小學校ノ教育モ大學ノ教育モ教育者トシテ差等ハナイモノダト云フ所マデ信念ヲ持テ來ラセヨウシタイト云フコトハ、是ハ直ダ實行ハ出來ルカドウカ存ジマ

セスケレドモ、私ノ始終念頭トシテ居ル所デゴザイマシテ、其ノ點ニ付テ殊ニ氣ヲ付ケテ貫ヒタイト思ヒマスコトハ、地方廳ノ教育ニ關スル役人ノミナラズ、地方長官等ハ老練ナル教育者ト云フモノヲ、本當ニ尊敬シテ呉レルコト云フ事柄ガ是ガ實ニ大切ナコトダト思フテ居ルノデアリマス、ソレニ付テハ既ニ或ル機會ヲ以テマシテ注意ヲ喚起シテ居ルヤウナ次第デアリマスガ、一面ニ於キマシテハ又現下社會ノ多クノ人ガ自己ノ子弟ノ教育ヲ依頼シテ置キナガラ、小學校ノ先生ト言ヘバ如何ニモ侮蔑シタヤウナ心持ヲ眠メテ居ル向キモナイノデハナイカト思フデアリマシテ、ソレ等ノ點ハ皆サン方ノ御力ニ依リマシテ是正サレルコトモ、非常ニ國家ノ爲ニ重大ナコトデハナイカト考ヘテ居リマスノデ、是非御協力ヲ御願ヒ致ス次第デアリマス

○藤本委員 文部大臣ニ御伺ヒ致スコトハ是デ私ハ濟ミマシタガ、次ニ大藏大臣ニ御伺ヒ致シマス、支那事變ノ處理ト、差シ迫ル國際情勢ノ緊迫化ニ想到致シマス、益、以テ高度國防國家ノ建設ノ急務ガ痛感サレルノデアリマスガ、併シ此ノ事變ハ獨リ我が國ニ關スルコトバカリデナイノデアリマシテ、今や國際的トナリ、世界ノ主ナル國ハ比々皆然リデアラウト思フデアリマス、且ツ此ノコトハ一時の現象デハナクシテ、長期化致シ、恆久化致シタコトモ申サマデモナイコトデアリマス、隨ヒマシテ今後ハ否——現在ニ於キマシテモ世界ノ主ナル國ハ高度國防國家ノ體制確立ニ狂奔致シテ居ルノデアリマスガ、我が國モ亦最後ノ一物マデモ盡シテ如何ナル事態ニ遭遇致シマシテモ不脅威不敗ノ體制ヲ完備セバナ

ラスト思フデアリマス、願ヒマシテ内ヲ眺メマス、之ニ必要ナル國民ノ經濟力、或ハ公債ノ消化力ヲ涵養致シ、増強致シマスル所ノ施策ハ速々トシテ進マヌモノガアルノデアリマス、隨ヒマシテ國民中ニ於キマシテハ或ハ我が國ノ財政ノ將來ニ付キ不安ノ念ヲ抱ケル者ガナシトシナイト私ハ考ヘルノデアリマス、又斯ルガ故ニ敵國ハ固ヨリ敵性國家ガ我が國ノ實力ヲ脆弱視致シ、又過小ニ評價致シマシテ、長期抗戰、或ハ長期抗戰ヲ使職致シテ居ルノデアリマス、故ニ此ノ際ニ當リマシテ、國民中ニ財政ノ將來、或ハ公債消化ノ將來ニ對シマシテ、一抹ノ不安ガアルトスルナラバ、之ヲ一掃致ス爲ニ、又敵國及ビ敵性國家ノ我が國ノ實力ニ對スル錯覺ヲ根本的ニ是正致ス爲ニ、國際情勢ノ動向ヲ仔細ニ檢討致シ、財政ノ將來ヲ見透サレマシテ、確固タル財政計畫ト、更ニ公債ノ元利償還計畫ヲ國民ノ前ニ御示シナルト云フコトハ洵ニ必要デアラウカト私ハ信ズルノデアリマス、藏相ノ御所信ヲ承リタイト思ヒマス

○河田國務大臣 今日此ノ時局處理ノ爲ニ多大ノ公債ガ發行サレテ居ル此ノ際ニ於テ、其ノ償還ノ計畫如何ト云フコトハ常ニ考ヘナケレバナラヌ問題ト思ヒマス、但シ公債ト一口ニ申シマスケレドモ、私ハ假ニ之ヲ今戰費ノ公債、所謂赤字公債、歳入補填ノ公債ニ限ツテ申上ゲタイト思フデアリマス、投資ニ屬スル所ノ事業公債ハ姑ク措イテ宜シイカト思フデアリマス、其ノ中デ特ニ戰費ニ關スル公債ガ年々増加致シテ居ルノデアリマシテ、事實増加致シテ居リマス、併シナガラ所謂赤字公債、歳入補填公債ト雖モ、最近ニ於テハ相當ノ額ニナツテ居ルノデアリマス、是ハ先ツ第一ニソレヲ償還スルコトヲ考ヘヨリモ先ニ、先ツ之ヲナクサナケレバイカスト思フ、ソレハ廣西川君ノ御質問ニモ御答ヘ申シタト思ヒマス、先ツ歳入補填公債ハ之ヲ遂ニハナクスルト云フ方針ヲ執ツテ居ルノデアリマシテ、之ニ付キマシテハ今日サウ一朝一夕ニ致ス譯ニハ參リマセウガ、本年ニ於キマシテモ尙ホ追加豫算等モアリマスノデ、不幸ニシテ前年ヨリハ二、三億ノ増加ニナルカトモ存ジマス、ケレドモ是モ出來ルガケ減ラシテ參ツテ積リテドゴザイマス、財政ノ方ノ整理緊縮ヲ致シマシテ、先ツ之ヲ減ラスト云フガ當然ノ理デアリマセウケレドモ、是ハ中一年デハ出來ヌ、暫ク兩三年ニ互ツテ是非之ヲナクサナケレバナラヌ、斯ウ思フテ居リマス

○藤本委員 次ニ公債ト物價トノ關係ニ付キマシテ御尋ね致シマス、先般本議場ニ於キマシテ、低物價政策ノ再檢討ヲ示唆スルヤウナ御議論ヲ拜聴致シ、又私モ洵ニ御尤モト存ジマシテ傾聴致シタノデアリマス、併シ物價ガ若シ騰貴致シマスナラバ、公債ノ面カラ申シマスルト、其ノ騰貴致シタダケ公債ノ實質的破棄ヲ意味スルノデアリマス、更ニ財政政策ノ面カラ申シマスルナラバ、物價ガ騰貴シマスナラバ、ソレダケ豫算ノ増加トナリ、又公債ノ増加ヲ來ス意味合ニナルノデアリマシテ、其ノ結果ハ物價ノ騰貴ニ依リマシテ何等ノ利益ヲ受ケナイ、寧ろ非常ナ不利ヲ受ケル所ノ國民大衆、更ニ負擔トシテ掛ツテ來ルノデアリマス、更ニ金融ノ面カラ申シマスナラバ、物價ノ騰貴ハ即チ貨幣價值ノ下落デアリマス、事變下ニ於キマシテ外國品ヲ輸入シテ居ル我が國ト致シマシテハ、左様ナコトニナリマスナラバ益ニ爲替相場ノ動搖、國際收支ガ

益、逆調ヲ告ゲルデアラウト思ヒマス、ソレガ一定ノ程度ヲ超シマスルナラバ或ハ預金、或ハ公債、社債ヲ賣拂フ、サウシテ物價ニ換ヘル、其ノ換物運動ガ盛ニナリマスナラバ、到底公債ハ賣レハシマセウ、ソコニ紙幣ノ増發ハ已ムラ得ナイ、益ニ惡性「インフレーション」ガ來ル、斯様ナ恐レベキ破局的結果ヲ見ルノデアリマス、又社會政策的ニ申サマスルナラバ、今や多數ノ俸給賃銀、或ハ手當ナドデ生活シテ居ル左様ナ者ニ對シマシテハ、物價ノ騰貴ハ即チ實質的ノ減俸ニ値スルノデアリマス、其ノ結果ハ不測ノ社會不安ヲ與ヘ、ソレガ又公債政策ニ、或ハ財政ノ運営ニ重大ナル支障ヲ與ヘルコトハ申サマデモナイト思ヒマス、加之我が國ノ公債消化ハ一ツニハ國民ノ愛國心ノ發露デアリマスガ、併シ又他方面ニ於キマシテハ、色々ノ施策ノ結果デアルト云フコトヲ看過シテハナリマセウ、即チ金本位ガ崩壊致シ、通貨ハ管理制度トナリ、爲替管理トナリ、サウシテ我が國ノ資本ト云フモノハ外國ニ逃避スル所ノ自由ヲ只今持タヌ、隨テ國內ニ投資セザルヲ得ナイ、而モ低金利政策デアアル、或ハ利潤配當ハ制限サレテ居ル、デスカラ預金モ或ハ公債、社債、株式等モ面白クナイト云フヤウナ風デ、且又發行ノ方法ニ致シマシテモ「シンデケート」銀行團ヨリ日銀ニ移シマシテ、サウシテ一手ニ引受ケテ政府ニ所要ノ金額ヲ交付シテ居ルト云フ状態デアリマス、斯様ナ結果デアルト云フコトヲ見透シテハナラナイノデアリマシテ、今や公債政策トシテ殘サレタル問題トシマシテハ低金利、之ヲ更ニ下ゲルト云フコトハ、問題デアリマセウ、或ハ公債ノ消化力、或ハ國際收支ノ改善モ是亦望マシイコ

トデアルガ、中々容易デナイ、故ニ殘サレ
タ問題トシマシテハ或ハ強制貯蓄、或ハ強
制ニ公債ヲ買ハシムルト云フコトモアリ
マセウガ、是亦考ヘナケレバナラスノデア
リマシテ、要スルニ我ガ國ノ只今ノ公債ノ消
化ハ一ニ國民ノ愛國心、更ニ貨幣ノ價值ニ
對スル國民ノ信頼、ソレニ依ツテ消化サレ
テ居ルト云ハザルヲ得ナイノデアツテ、又
今後ハソレニ依ツテ行ク外ナイノダ、即チ
愛國心ニ依ツテ貯蓄ヲ獎勵スル、更ニ貨幣
ノ價值ヲ動搖セシメナイ、即チ現在ノ低物
價政策ダ、ソレガ若シ物價騰貴ニ依リマシ
テ貨幣價值ノ下落致ス、サウ致シマスル
國民ノ貨幣ニ對スル信頼ハ動搖致シ、其ノ
結果ハ先刻申上ゲマシヤウナ恐レベキ結
果ヲ招カスルノデアリマスガ故ニ、又私ハ
是ハ卑見デアリマシテ間違ウテ居ルカモ知
レマセウガ、生産力ノ擴充ガ喫緊ノ急務
アリマシテ、而モ生産ノ減退ヲ見タト云フ
ノハ、唯一ツ低物價政策ノミノ結果デアリ
ト思フノデアリマシテ、寧ロ統制經濟ノ科
學性、技術性ニ依存シテ居ラスコトニ依
リテ、或ハ餘リニモ官吏ト云ツタヤウ
ナ方面ノ干渉或ハ介入ガ度ヲ過ギテ、實際
經營ノ衝ニ當ツテ居ル多クノ者ハ氣ヲ懈ラ
シテ、サウシテ能率ガ上ラヌ結果デアラウ
カト私ハ思フノデアリマス、斯様ナ意味ニ
於キマシテ私ハ公債政策ノ見地カラシマシ
テ、斷乎トシテ低物價政策ヲ今後モ維持ス
ルト云フコトヲ、藏相ノ御決意トシテ只今
承ツテ置キタイノデアリマス

○河田國務大臣 低物價政策ヲ堅持スル
ニ申シマシテモ、低物價政策ヲ堅持スル
ト云フコトヲ申上ゲテ居リマシテ、先般來
商工大臣等方適正價格ノ變更ヲヤツテ居ル
ト云フ御話モゴザイマシタ、其ノ政策ニ依
ツテ低物價政策ヲ堅持シテ居ルト云フコト
ニ變リハゴザイマセウ、殊ニ國民ノ生活必
需品ニ對シマシテハ飽ケマデソレヲ堅持シ
テ行キタイト思ツテ居リマス

○藤本委員 藏相ニ對スル御答ハ是デ止
メマス

○前田(房)委員 一寸關聯シテ……今物價
問題ニ付テ質問應答ガアツタノデアリマス
ガ、私ハ政府ノ物價問題ニ關スル信念ト申
シマスガ、方針ニ付テ多少動搖シテ居ル點
ガアルヤウナ氣ガ致スノデアリマス、此ノ
事柄ハ我ガ國民經濟ニ非常ナ惡イ影響ヲ及
ボスト考ヘテ居リマス、私ノ聽イテ居ル所
ニ誤リガナイトスルナラバ、小林商工大臣
ノ御話ハ、低物價政策ハ堅持スルガ、一般
ノ物價ニ付テハ實情ニ即チ再檢討シテ
見ル、斯ウ云フコトデアツタノデアリマス、
低物價ヲ堅持スルト云フコトト、場合ニ依
ツテハ再檢討シテ見ルト云フ所ニ私ハ相當
矛盾ガアルノデアリマシカト思フ、私ハ飽ケ
マデモ低物價ヲ堅持スルノダ、現在以上ニ
上ゲナイノダ、但シ主要食糧ノ如キハ増産
ヲ確保シナケレバナラス、斯ウ云フモノニ付テ
ハ價格ハ上ゲナイガ、他ノ手段即チ獎勵、助
成其ノ他適當ナ施策ヲ以テ此ノ増産ヲ圖ル
又生産力ノ擴充ニ付テモ低物價ヲ堅持スルガ
爲ニ生産力ノ擴充ガ出來ナイト云フヤウナ
方面ニ付テハ、ヤハリ同ジク獎勵、助成其ノ
他適當ナ對策ヲ講ジテ生産力ヲ圖ル、斯ウ
云フコトヲハウキリシナイト、私ハ非常ニ商
工大臣ノ御答ハハ國民經濟ニ惡イ影響ヲ及
ボスノデアリマシカト云フコトヲ非常ニ心配
致シテ居ルノデアリマス、山崎君方何カ本會
議ヲ演説ナサツタガ、アレハ山崎君個人ノ意

見ダラウト思フ、アノ説ニ賛成ノ方モアル
シ、反對ノ方モアルト思ヒマスガ、山崎君
ハ再檢討シタラ宜イデヤナイカト云フ御議
論デアツタガ、アア云フ議論ハ惡イ影響ヲ
及ボス、飽ケマデモ低物價ヲ堅持スルノ
ダ、併シ低物價ヲ堅持スル爲ニ主要食糧増
産トカ、或ハ生産力擴充ニ惡イ影響ヲ及ボ
スナラバ、價格ヲ引上ゲル以外ノ手段ニ依
ツテ之ヲ是正スル、斯ウ云フコトヲハウキリ
スルコトガ此ノ場合戰時經濟ノ完遂ヲ期ス
ル上ニ於テ絕對ニ必要デアル、私ハ斯様ニ
考ヘテ居ルノデアリマスガ、其ノ點ニ付テ
モウ一應大藏大臣ノ所信ヲ伺ツテ置キタイ
ト思ヒマス

○河田國務大臣 先刻ノ藤本君ノ御質問
ト、今ノ前田君ノ御質問ト相續ンデ考ヘナ
ケレバナラス問題ガアルト思ヒマス、今前
田君ノ御話ノ通り、政府ハ低物價政策ノ堅
持ヲスルコトハ變リナイ、殊ニ今申シマス
通り、國民生活必需品ニ付テハ飽ケマデ低
物價ヲ維持シタイト云フコトハ私モ先刻申
上ゲマシタ、併シ其ノ爲ニ食糧品等ノ増産
ニ影響ガアルナラバ、何カ他ノ方法ヲ以テ
之ヲ獎勵スル必要ガアルノデヤナイカト云
フコトハ、政府モサウ考ヘテ居リマス、唯
必ズシモ之ヲ補助ト云ハズ、他ノ方法ヲ以
テ之ヲ獎勵スルコトニシナケレバナラスト
思ヒマス、唯サウシマシテ國費ガソレダケ
増ス、補助ナラバ直接ニ國費ガ増セバ、助
成デモ必ズ國費ガ増シマス、國費ガ増セバ、
歳入補填公債ヲ出シテ居ル今日ノ場合ハ、
ソレモヤハリ公債ニ依リナケレバナラスト
云フコトガ起リハシナイカ、サウスレバ、
公債ガソレダケ多額ニナツテ來ルト、如何
ニサウデナクシヨウト思ツテモ公債ガ殖ニ

テ、既ニ政府ニ於キマシテモ基本國策ノ中
ニ、科學ノ振興ト云フコトヲ講ツテ居ラレ
マス、企業院ト致シマシテモ我ガ國ノ技術
ト云フモノハ、歐米ノソレニ比シマシテ非
常ニ劣ツテ居ル、ソレガ爲ニ只今仰シヤイ
マシヤウナ色々ノ弊害ヲ生ジテ居ルト云
フコトヲ痛感致シテ居リマス、ソレデ第一ニ
技術ヲ今マデハ各工場ニ於テ秘密トシテ、
サウシテ各自ガ自分ノモノトシテ自分ノ利
益ヲ圖ツテ居ル、サウ云フヤリ方ヲテ居
ルコトガ、工合ガ惡イ點ガアルノデアリ
カト云フヤウナコトモ考ヘラレマスシ、技
術ノ展開實施ト云フコトガ、ドウスレハ實
行出來ルカ、或ハソレヲヤリマス爲ニハ國
家ニ特殊ナ統制機關ヲ置カナケレバナラス
デハナイカ、或ハ研究機關ト云フモノガ
甚ダ不整備デアリマスガ、之ヲ充實シナ
ケレバナラス、殊ニ資材ガ不足シテ居ル、
又人員不足シテ居リマスノデ、同ジヤウ
ナ研究ヲアチラコチラ少シツツヤツテ居
ト云フコトデハ甚ダ能率ガ上リニクイ、之
ヲ重點主義ヲ適當ナ統制ヲスル必要モアル
ノデヤナカラウカ、或ハ又日本ノ研究機關
ノ中デ材料研究ト云フコトガ一番劣ツテ居
ル、之ニ對シテ資材不足ノ時デアリマスガ
レドモ、特ニ材料研究ノ爲ニ研究機關ヲ置
カナケレバナラスノデアリナカラウカト云フ
ヤウナ點ニ付キマシテ實ハ研究ヲ致シテ居
リマス、アチラコチラニ影響スル所ガ多イ
ノデアリマシテ、マダ確定案ヲ得ルニ至ツ
テ居ラナイノデアリマスガ、只今仰シヤイ
マシタコトハ一々御同感デゴザイマスノデ、
其ノ方面ニ付テ目下調査研究シテ居ルト云
フコトヲ申上ゲテ置キマス

○藤本委員 次ニ技術ノ國家管理、實地ヘ
マシタナラバ技術ノ公開ト云フコトニ付キ
マシテ御尋ね致シタイト思ヒマスガ、今御
答辯ノ中ニモゴザイマシタノデ洵ニ意ヲ強
ウスルモノデアリマス、私ハ此ノ技術ノ公
開ト云フコトヲ此ノ際致サナケレバ、サナキ
ダニ窮乏シテ居リマス物資ノ經濟的使用、
或ハ生産ノ能率化、合理化ト云フコトモ致
セナイト思フノデアリマス、又先刻述ベマ
シタ技術ガ外國ニ依存シ寄生致シテ居リマ
スルコトニ依リ國家ノ利益モ救正サレヌ
ト思フノデアリマス、故ニ技術ノ國家管理、
技術ノ公開或ハ技術ノ總動員ト云フコトハ
極メテ必要デアルノデアリマスガ、併シ技
術ハ科學ト違ヒマシテ多分ニ功利的ナ物質
的ナ性格ヲ持ツテ居リマシテ、科學ノ國際的
或ハ人類的ト云フヤウナアツツモ、
デナイノデアリマスガ、之ヲ公開致スト
云フコトニ付キマシテハ甚ニ相當ノ補償ト
云フコトガ考ヘラレナケレバナラスト思フ
ノデアリマス、政府ハ總動員法ノ改正ニ依
リマシテ技術ノ總動員ト云フコトヲ御考ヘ
ニ相成ツテ居ルヤウデアリマスガ、果シテ
如何ナル御抱負ヲ持チ御用意ヲ持ツテ此ノ
時局ノ要請ニ即應スル所ノ技術ノ總動員ヲ
ナサレルノデアリカ、ソレヲ御尋ね申上ゲ
マス

○小畑政府委員 只今ノ御質問ノ技術ノ公
開ト申シマスコトハ仰セノ通りニハ利益
ガ伴ヒマス、甚ダ實行シニクイ點モアツタ
カト思ヒマスガ、私共考ヘテ居リマス所デ
ハ今マデハ秘密主義、競爭主義ヲ技術ヲ發
達セテ來タガ、是カラハ公開主義、協力
主義ヲ技術ヲ發達セテ行カナケレバナラ
ヌ時期ニ達シテ居ルデアリカ、サウスル
ト一方デ以テ技術ヲ公開スル爲ニ自分ノ方

トニナツテ或ル程度公債ガ殖エルヨリモ、
直接ニ物價ヲ引上ゲル方ガ私ハ惡性、イン
フレヲ増大スル虞ガアルト思ヒマス、私
一個ノ考ヘデアリマスガ、之ヲ政府ハ能
ク考慮セラレマシテ、荷クモ物價問題ニ付
テ國民ガ不安ノ念ヲ起スト云フコトハ、是
非トモ阻止シテ置ヒタイ、確乎タル信念ヲ
國民ニ示シテ置フコトガ本來必要デア
ルト思ヒマス、過日ノ商工大臣ノ御話デ
ハ國民ハドウモ不安ノ念ヲ起スト云フハナイ
カト思フ、アレヲ惡ク解スルト、今後依然
トシテ買置、賣置ガ起ル、デスカラサウ云
フ點ハ十分注意シテ、今後確乎タル方針ヲ
御示シニナル必要ガアラウト考ヘマス

○藤本委員 ソレデハ政府委員ニ御尋ね致
シマス、技術振興ニ付キマシテ御尋ね致シ
タイト思ヒマス、科學ノ進歩ニ伴ヒマシテ
技術モ進歩致シ、又戰爭毎ニ技術ハ飛躍的
進歩ヲ致スノデアリマスガ、近代戰ガ國家
總力戰トシマシテ徹底的ノ大消耗戰ヲ意味
スルコトモ、技術ノ飛躍的發展ノ結果デア
ルト私ハ思フノデアリマス、技術ハ科學ニ依
リマシテ研究シマシテ理論ヲ實際ノ事業ニ
活用シ、應用スルノデアリマシテ、是ナク
テハ物動計畫モ、生産力ノ擴充モ、或ハ又
興亞ノ使命ヲ果スニ必要ナル所ノ物資ノアウ
タルキ一モ不可能デアルト思フノデアリ
マス、然ルニ我ガ國ノ技術ハ今マデ歐米依
存デアリマシテ自主性ヲ缺キ、歐米ノ技術
ニ寄生致シテ居ツタヤウナ感ナキヲ得ナイ
ノデアリマス、例ヘバ石炭ノ液化、或ハ空
中窒素ノ固定、或ハ食糧ノ處理ニ付テ見マ
シヤイマシタコトハ一々御同感デゴザイマシ

テ來ル場合ニハ、ヤハリ自然物價ガ高ク
ナル場合モ起ツテ來ルノデヤナイカ、ソレ
ハ政府ハ飽ケマデ考ヘナケレバナラスト云
フコトガ藤本君ノ御質問ノ要旨ダラウト思
フノデアリマス、隨ヒマシテ先程申上ゲマ
シタ通りニ、先ツ第一ニ歳入補填公債ハ飽
ケマデ之ヲ止メナケレバナラス、ソレハ途
行ヲ期シテ居ルノデアリマス、唯其ノ途中
ニ於テ、其ノ道筋ニ於テ歳入補填公債ヲ出
ス必要ノ止マザル間ハ、只今前田君ナリ、
藤本君ノ仰セニナリマシタ通りニ、國民ノ
道義心ニ訴ヘテ、一遍撒布サレタ資金ハ貯
蓄ニ依ツテトカ、公債ヲ買フコトニ依ツテ
間接ニ吸上ゲルト云フ方法ヲ飽ケマデ執ツ
テ行カナケレバナラスト思ヒマス、單ニ公
債ノ消化力ヲ殖ヤスト云フコトカラ申シマ
スト、一番簡單ニシテ比較的多クノ效果ヲ
擧ゲルノハ、金融機關ヲ通シテヤルノガ最
モ效果ガ舉ガルノデアリマスガ、ソレバカリ
ニ依ラズシテ、零碎ナ資金ノ蓄積モ亦ソコ
ニ非常ニ獎勵スル必要ガアルノデアリマス
ト思ヒマス、十分ノ效果ニ付キマシテハマ
ダ分リマセウクレドモ、ソレガ爲ニハ先般
モ申シマシタ通り、多少政府ト致シマシテ
モ施設スベキコトヲ此ノ短期ノ議會ニ
是ハ短期ナノデアリマセウデ、自然ト短
期ニナルベキ議會デアリマスガ、之ニ多少
ノ施設ヲ提案スルト云フ趣旨ハソコニアル
ノデゴザイマス、併シ今ノ公債ニ依リ資金
ノ撒布ト貯蓄ノ獎勵、公債應募、此ノ問題
ハ三者絡ンデ深甚ノ注意ヲ拂ツテ、所謂惡
性、インフレト云フヤウナコトガ起ラヌヤ
ウニ、十分注意ヲ致ス積リデアリマス

○前田(房)委員 私人ハ全ク一私見デア
リマスガ、獎勵金トカ助成金ヲ交付スルコ

ト云フ御話モゴザイマシタ、其ノ政策ニ依
ツテ低物價政策ヲ堅持シテ居ルト云フコト
ニ變リハゴザイマセウ、殊ニ國民ノ生活必
需品ニ對シマシテハ飽ケマデソレヲ堅持シ
テ行キタイト思ツテ居リマス

○藤本委員 藏相ニ對スル御答ハ是デ止
メマス

○前田(房)委員 一寸關聯シテ……今物價
問題ニ付テ質問應答ガアツタノデアリマス
ガ、私ハ政府ノ物價問題ニ關スル信念ト申
シマスガ、方針ニ付テ多少動搖シテ居ル點
ガアルヤウナ氣ガ致スノデアリマス、此ノ
事柄ハ我ガ國民經濟ニ非常ナ惡イ影響ヲ及
ボスト考ヘテ居リマス、私ノ聽イテ居ル所
ニ誤リガナイトスルナラバ、小林商工大臣
ノ御話ハ、低物價政策ハ堅持スルガ、一般
ノ物價ニ付テハ實情ニ即チ再檢討シテ
見ル、斯ウ云フコトデアツタノデアリマス、
低物價ヲ堅持スルト云フコトト、場合ニ依
ツテハ再檢討シテ見ルト云フ所ニ私ハ相當
矛盾ガアルノデアリマシカト思フ、私ハ飽ケ
マデモ低物價ヲ堅持スルノダ、現在以上ニ
上ゲナイノダ、但シ主要食糧ノ如キハ増産
ヲ確保シナケレバナラス、斯ウ云フモノニ付テ
ハ價格ハ上ゲナイガ、他ノ手段即チ獎勵、助
成其ノ他適當ナ施策ヲ以テ此ノ増産ヲ圖ル
又生産力ノ擴充ニ付テモ低物價ヲ堅持スルガ
爲ニ生産力ノ擴充ガ出來ナイト云フヤウナ
方面ニ付テハ、ヤハリ同ジク獎勵、助成其ノ
他適當ナ對策ヲ講ジテ生産力ヲ圖ル、斯ウ
云フコトヲハウキリシナイト、私ハ非常ニ商
工大臣ノ御答ハハ國民經濟ニ惡イ影響ヲ及
ボスノデアリマシカト云フコトヲ非常ニ心配
致シテ居ルノデアリマス、山崎君方何カ本會
議ヲ演説ナサツタガ、アレハ山崎君個人ノ意

デ失ツタモノハ他人カラ公開ヲ受ケマス點ニ於テ又白ラモ益スル所ガアル、サウ云フ風ニ考ヘテ行キマスト蓋引致シマストサウヤカマシイコトヲ言ハナクテモ技術ノ公開ト云フコトハ、今マデ考ヘテ居リマスルヨリハ實行シ易イデハナイカト云フヤウニ考ヘテ居リマス、併シハ極ク机上ノ理想論デアリマスガ、唯經濟新體制ノ進ム方針ニ從ヒマシテ、同業團體ト云フヤウナモノガ旨ク成立シテ參リマスナラバ、其ノ同業團體ノ間ニ於キマシテオヒヒノ技術ノ長所ヲ採リ短所ヲ補フト云フヤウナコトガ出來テ、只今マデ全然團體ノナカクツ各企業ガ單ニ競争シテ居ツタト云フ状態ヨリハ、サウ云フ點ニ付キマシテ非常ニ展開實施ガ容易クナツテ行クデハナイカ、サウ云フ點ニ付キマシテモ經濟新體制ノ經濟團體ト云フモノニ非常ニ期待シテ居ルノデアリマスガ、併シナガラ理想トシテハ左様デアリマスケレドモ、現實ノ問題ト致シマシテソコニ非常ニ發達シテ技術ヲ持ツテ居リマスル所ガ、非常ニ劣等ヲ技術ノ所ニ教ヘルト云フヤウナ場合ニハ、與フルバカリデ頂戴スルモノハナイト云フコトガ起ル譯デアリマスカラ、サウ云フ場合ニ於キマシテハ固ヨリ其ノ兩者ノ間ニ普通ノ取引ト致シマシテ報酬ヲ拂フ、又報酬ガ額マラナイナラバ政府ノ方デソレニ調整ニ入ル、或ハ其ノ數ヲ受ケマスル方デソレニ對スル報酬ヲ拂フコトガ出來ナイ場合ニハ政府ト致シマシテ特別ナ報奨制度ヲ設ケルヤウニスルト云フヤウナコトモ考ヘテ居リマスガ、大體ニ於キマシテ經濟團體ト云フモノノ成立ニ、非常ニ期待致シテ居リマス、既ニ鐵鋼ノ部面ニ於キマシテハ、大分技術ノ交換ト云フコ

昭和十六年二月四日印刷

昭和十六年二月五日發行

トガ行ハレテ居リマスガ、案外實利ヲ主張シナイデ圓滿ニ行ツテ居ルヤウニモ聞イテ居リマスガ、サウ云フヤウナ傾向ニ追々トナツテ來ルコトヲ希望シテ居リマス、具體的ノ場合ニハ、ソレ相當ニ考ヘナケレバナラスカト思ツテ居リマス
○藤本委員 私人御尋ネハ是テ終了致シマシタ
○笠井委員 一寸大藏大臣ニ御尋ネシタイコトハ、此ノ新聞紙上デ見マスルト、大藏省ハ千圓ノ札ヲ發行シヨウト云フコトガ書イテアリマシタガ、其ノ眞偽如何ハ知りマセスガ、之ニ付テ伺ヒタイト思ヒマス、現在ハ百圓ガ最高ニナツテ居リマスガ、ソレヲ千圓ニ上ゲル「デフィニシヨ」ヲ上ゲルト云フコトハ、國民ノ紙幣ノ價值ニ對スル信用ガ低下シハナイカト云フコトヲ慎レテ居リマス、恰モ前歐洲大戰ノ後ニ「ドイ」ツ「一」千「マルク」ノ札ガ三十錢ニナツテシマツタトカ「ロシヤ」ノ「一」萬「ルーブル」ノ札ガ一圓ニナツテシマツタトカ云フヤウナコトモアリマスノデ、紙幣ノ「デフィニシヨ」ヲ上ゲルト云フコトハ、ドウカト疑ハレマスガ、此ノ點ニ付テ大藏大臣ノ御意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス
○河田國務大臣 額面一千圓ノ兌換券ヲ發行スルト云フコトヲ、私ハ新聞デ見マシテビックリ致シマシタ、政府ニ於テハ毛頭考ヘテ居リマセス
○笠井委員 了承致シマシタ
○増田委員長 次會ノ開會日時ハ公報ヲ以テ御知ラセ致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後四時四十二分散會

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局

(參照) 森田(重)委員要求ノ參考資料
物價統制令等違反統計

一、年度別	(ハ) (ロ) (イ)
二、違反ノ種別	總檢舉數
三、檢舉數	其中違反ノ事實ナカリシモノ 違反アリタルモ起訴猶豫トナリタルモノ
金額	略式命令ヲ受ケタルモノノ數、罰金額
(ホ) 公判ニ附セラレタルモノノ數	(1) 罰金ヲ科セラレタルモノノ數 (2) 徒刑ヲ科セラレタルモノノ數 (3) 體刑、罰金ヲ併科セラレタルモノノ數
テニ審一第	(4) 無罪トナリタルモノノ數
審二第	(1) (2) (3) (4)
審告上	(1) (2) (3) (4)
上同	上同

衆議院豫算委員會議錄第七回 中正誤	頁 段 行 誤 正
一七三二	厚生金庫
一七三三	厚生金庫
一七三二	厚生金庫
一七三〇	厚生金庫
二二五	在米
二四三	在米
衆議院豫算委員會議錄第九回 中正誤	頁 段 行 誤 正
二二六	國家ノ
二二二	國家ノ
衆議院豫算第一分科會議錄第二回 中正誤	頁 段 行 誤 正
四一三	竹井委員
四一四	笠井委員
衆議院豫算第二分科會議錄第二回 中正誤	頁 段 行 誤 正
六六二	社會
二二八	社會

第七十六回帝國議會 豫算委員會會議錄(速記) 第十一回

會議

昭和十六年二月六日(木曜日)午後一時九分開議

出席委員左ノ如シ

- 委員長 増田 義一君
- 理事伊藤 肇君 理事小笠原三九郎君
- 理事佐藤洋之助君 理事田中 好君
- 理事西川 貞一君 理事三浦 虎雄君
- 理事三宅 正一君 理事宮澤 胤勇君
- 理事森田重次郎君 理事矢野庄太郎君
- 青山 憲三君 井上 良次君
- 石坂 豊一君 泉 國三郎君
- 今井 新造君 笠井 重治君
- 勝 正憲君 木村 正義君
- 岸田 正記君 北 吟吉君
- 島田 俊雄君 助川啓四郎君
- 高田 耕平君 武田徳三郎君
- 津雲 國利君 土屋 寛君
- 鶴見 祐輔君 東郷 實君
- 米窪 滿亮君 中島彌次郎君
- 中田 儀直君 松本治一郎君
- 一松 定吉君 小泉 純也君
- 平野 力三君 深澤 吉平君
- 藤本 捨助君 古屋 慶隆君
- 堀内 良平君 前田房之助君
- 三善 信房君 木暮武太夫君
- 森田 福市君 横川 重次君
- 一宮房治郎君

二月五日委員富吉榮二君及西尾末廣君辭任
=付其ノ補闕トシテ同月六日米窪滿亮君及
松本治一郎君當選セリ
出席國務大臣左ノ如シ

第一類第一號 豫算委員會會議錄 第十一回 昭和十六年二月六日

内閣總理大臣 公府近衛 文麿君

- 内務大臣 男爵平沼騏一郎君
- 厚生大臣 金光 庸夫君
- 拓務大臣 秋田 清君
- 陸軍大臣 東條 英機君
- 商工大臣 小林 一三君
- 大藏大臣 河田 烈君
- 逓信大臣 村田 省藏君
- 農林大臣 石黒 忠篤君
- 海軍大臣 及川古志郎君
- 鐵道大臣 小川博太郎君
- 國務大臣 星野 直樹君
- 司法大臣 柳川 平助君
- 出府政府委員左ノ如シ
- 外務省東亞局長 山本 熊一君
- 外務省歐亞局長 阪本 瑞男君
- 外務省南洋局長 齋藤 晋次君
- 外務省通商局長 水野伊太郎君
- 外務省條約局長 松本 俊一君
- 外務書記官 武内時之助君
- 内務省警保局長 橋本 清吉君
- 大藏次官 廣瀬 豊作君
- 大藏省主計局長 谷口 恒二君
- 大藏省理財局長 竹内 新平君
- 陸軍主計中將 石川半三郎君
- 陸軍主計中將 武井 大助君
- 海軍主計大佐 爲本 博篤君
- 司法書記官 石田 壽君
- 文部省圖書局長 松尾 長造君
- 文部省宗教局長 阿原 謙藏君
- 教育部長官 藤野 惠君

- 農林次官 井野 碩哉君
- 農林省農政局長 岸 良一君
- 農林省蠶絲局長 吉田 清二君
- 商工書記官 末永 衛君
- 逓信省經理局長 山田 良秀君
- 鐵道省經理局長 平山 孝君
- 厚生書記官 生悅佳求馬君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
 ○(臨時第二號)臨時軍事費豫算追加案
 ○増田委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス、前
 會ニ質疑ノ殘ツテ居ル分ノミニ限リ此ノ際
 許シマス。小泉純也君
 ○小泉純也委員 私ハ思想問題ニ付テ軍部
 大臣ニ要望シ、其ノ所見ヲ承リタイト思フ
 ノデアリマス、思想問題ノ質問ナラバ文部
 大臣、内務大臣或ハ司法大臣ニ御尋ネスル
 ノガ建前デアルト思フノデアリマスケレド
 モ、之ヲ特ニ軍部大臣ニ質ス所以ノモノハ
 深キ根據ガアルノデアリマシテ、以下是カ
 ラ申述ヘルコトニ依リマシテ自ラ明白ニナ
 ラウト思フノデアリマス、東條陸軍大臣ハ本
 書ヲ戰陣訓ヲ制定セラレマシテ、一月八日陸軍
 初メ觀兵式ノ佳日ヲトシテ全軍將兵ニ滿レ
 ナク之ヲ示達サレタノデアリマス、其ノ教
 ヘル所ハ將兵ノミニ限ラレベキモノデナク、
 正ニ銃後國民全體ノ心得トスベキモノデア
 リ、日本精神發揚ニ多大ナル貢獻ヲ致シテ
 居ルノデアリマス、本訓其ノ一ノ第一ニ「戰
 陣ノ將兵、宜シク我が國體ノ本義ヲ體得シ、
 牢固不拔ノ信念ヲ堅持シ、誓ツテ皇國守護

ノ大任ヲ完遂センコトヲ期スベシト教ヘ
 ラレテ居ルノデアリマス、國體ノ本義ヲ體
 得スルノ基調ハ、國體明徴ノ思想ヲ確立ス
 ルニアルコトハ申スマデモナイノデアリマ
 ス、即チ我が國本來ノ日本精神ヲ發揚シ、
 之ヲ侵サントスル外來不逞ノ思想ニ對シテ
 ハ、斷乎トシテ之ヲ掃蕩絶滅セナケレバ
 ラナイト信ジテ居ルノデアリマス、又過日
 分科會ニ於テ陸軍大臣ハ軍ノ眞髓ハ精神
 デアリ、精神ガ中心デアリ旨ヲ力説セラ
 レタノデアリマシテ、第一練將兵ノ士氣旺
 盛ナルニモ言及セラレマシタコトハ、當然
 ノコトトハ申シナガラ國民ノ意ヲ一段強カ
 ラシメタノデアリマス、私ノ體験カラ致シ
 マシテモ、軍隊教育ハ兵ノ思想ニ重點カ
 カレテ居タモノデアリ、忠君愛國ノ思想コ
 ノ凡ニル裝備ニ超越シテ皇國獨得ノ精華デ
 アルト確信ヲシテ疑ハスノデアリマス、軍
 ニ於カレマシテハ夙ニ國內政治ノ革新ヲ叫
 バレ、殊ニ最近高度國防國家建設ノ前提ト
 シテ、國內體制強化ニ重大ナル關心ヲ持タ
 レツツアリマスコトハ、國民齊シク共鳴、
 協力ヲナシツツアルノデアリマスルガ、高
 度國防國家建設モ、國內體制ノ強化モ其ノ
 根柢ハ國民ノ健全ナル思想デアラネバナラ
 ナイト確信ヲ致シテ居ルノデアリマス、コ
 コ數年國民ノ關心ガ戰爭ニ集中サレテ居ル
 關係デアリマスカ、目ニ見エナイ底ヲ流レ
 ル思想問題ガ等閑視サルルガ如キ傾向デア
 リマスコトハ、私ノ最も遺憾ニ堪ヘナイ所
 デアルノデアリマス、殊ニ戰時下ノ思想問

第一類第一號 豫算委員會議錄 第十一回 昭和十六年二月六日
題ハ一切ノ事象ヲ遙カニ超エテ、最も重要ナル問題ト信ズルノデアリマスガ、思想問題ニ對シテ軍部大臣ハ如何ナル關心ヲ持タレ、又如何ナル方針ヲ以テ臨マレツツアルカヲ、陸軍大臣ヨリ承リタイノデアリマス、是ガ質問ノ第一點デアリマス

第二點ハ、大政翼賛會ガ發會當時、九月十三日第五回新體制準備會席上、東條陸相ハ海軍トモ協議ノ結果ト前提サレマシテ、所謂陸海共同方針ヲ闡明サレタノデアリマスガ、其ノ冒頭ニ「軍ハ固ヨリ積極的ニ滿幅ノ協力ヲナシ、特ニ精神の異常ナル熱意ヲ以テ是ガ完成ノ促進ニ寄與セントスルモノデアリ」ト述べテ居ルノデアリマス、此ノ軍ノ意思表明ガ、大政翼賛會ノ發展ニ偉大ナル推進力ヲ與ヘシマシタコトハ、天下ノ認メテ疑ハザル所デアリマス、其ノ後、十二月十八日臨時中央協力會議總會席上、武藤軍務局長ハ、翼賛會ノ參與ノ資格ヲ以テ發言ヲ求メテ、左ノ如ク言明、翼賛會ニ對シテ軍部ノ意向ヲ明カニシテハ、本會ノ發展ニ付キマシテ過去ニ於テ十分協力ヲ致シマシタ如ク、今後ニ於キマシテモ滿幅ノ御協力ヲ致スコトヲ以テ御傳達シマス」ト聲明ヲセラレテ居ルノデアリマス、是ニ於キマシテ、國民ハ翼賛會ハドウシテモ大キク育テ上ゲテ行カナケレバナラヌモノデアリ、翼賛運動ハ全國民ニ浸透徹底セシメナケレバナラヌモノト、非常ナル熱意ヲ一層喚起スルニ至ツタノデアリマス、今中央ハ別ト致シマシテ、地方ニ於テハ翼賛運動ノ機運ガ澎湃トシテ沸起リ、純真ナル地方民ハ老若男女ヲ問ハズ、本運動ノ完成ニ依ツテノ國內體制ヲ

ト信ズルノデアリマシテ、軍ノ力ヲ以テ思想困難ヲ未然ニ防止サレタイト念願スルニ外ナラヌノデアリマス、斷ジテ翼賛會其ノモノヲ非難セントスル者デモナク、中核體ニアル一、三ノ人身攻撃ヲナサントスル者デモ固ヨリナインデアリマス、私ハ時局ノ重大性ヲ深ク認識シ、翼賛運動ガ一億國民ニ徹底セントシテ所念スルコトニ於テ、何人ニモ劣ラヌノデアリマス、吾々ノ學生時代共産黨事件ガ、頻々トシテ檢舉セラレ、未ダ會テ運動ヲモシナカッタ國民思想ニ、重大ナル動搖ヲ來シ、延イテハ銀行襲撃事件、或ハ共産黨開ノ「リンチ」等、血腥キ事件スラウツタ過去ヲ想起シマスレバ、戰時下ノ今日思想問題ノ重大サヲ痛感致シテ居ルノデアリマス、中央地方ヲ通ジ、翼賛會ノ組織ガ餘リニモ「ソ」聯ノ制度ヲ模倣シ、賢達ハ敵ダト云フキウナ立看板ニ始マツタ「スロ」ガシ、理念ヲ説明スル言辭ガ「ソ」聯直譯デアリ、殊ニ是等ノ中心人物ガ「マルキシズム」ノ抱懷者デアリ、「コレニニズム」ノ信奉者デアリハシマイカ、又「コミンテルン」ノ指令ニ躍ル暗躍ノ一群ガアルノデアリマシカト、皇國ノ爲ニ一種ノ不安ト疑惑ヲ懷タコトハ、アリ得ベキ事象デアルト考ヘラルルノデアリマス、私ハ翼賛會ヲシテ本來ノ面目ヲ發揮セシメタイト念願スルガ故ニ、敢然之ヲ率直ニ議會ノ論壇ニ展開シテ、國民ノ疑惑ヲ一掃スルノ急務ナルヲ痛感致シタノデアリマス、不安ハ國民ヲ躊躇セシメ、熱意ハ疑惑ニ依ツテ冷却スルヲ惧ルルカラデアリマス、國家ガ必要トスル翼賛運動ニ、聊カノ不安ナカラシメ、全國民ヲシテ勇躍奮進セシムルノ建設的論議ヲナスコソ、翼賛議會ニ課セラレタル議員當然ノ職

城奉公ナリト確信ヲ致スノデアリマシテ、何物カラレニ求ムル心ガアツテハ、事人身ニ關スル此ノ重大論議ヲナス得ナイノデアリマス、皇國ノ歴史ヲ觀現シテ、天壤無窮ノ皇運ヲ扶翼シ奉ルノ報國ノ丹心カラ自ララ空シウシ、私心ヲ去ツテ思想救國ニ挺身セントノ青年ノ純情ガ此ノ問題ヲ取上ゲテ此處ニ起ルニ至ツタノデアリマス、陸軍大臣ニ特ニ申上ゲマス、私ハ光榮アル帝國軍人デアリマス、二箇年ノ現役ヲ務メ、軍人精神ニ鍛鍊サレタ精神ト肉體ヲ持ツテ居リマス、軍隊生活ニ於ケル精神教育ハ、十數年經過致シマシタル今日、尙ホ私ノ愛國ノ心ヲバ鞭ウツテ居ルノデアリマス、支那事變ハ防共ノ聖戰デアルト言ハレ、私ノ戰友ガ多クハ容共抗日ノ思想戰ニ生命ヲ捧ゲテ戰ツタノデアリマス、而シテ今尙ホ戰ツテ居リマス、是等戰友ノ英靈ニ對シマシテモ、私自身ノ職域ヲ通シテ一層ノ御奉公ヲ致サナケレバナラヌト常ニ念願ヲ致シテ居ルノデアリマス、一兵卒デアリマシカガ、今日議員トシテ衆議院ノ末席ヲ汚シ、皇國ノ根柢ヲ成ス思想問題ヲ憂ヘテ、特ニ之ヲ軍部大臣ニ要望シテ、其ノ言明ヲ全國國民ニ傳ヘントスル報國ノ丹心ヲ御諒解ヲ賜ハリタイノデアリマス、時艱克服ノ建設的論議デアリ、翼賛會ノ健全ナル成長ヘノ獻言デアルト特ニ申上ゲテ置キタイノデアリマス、惟ヒマス、翼賛會ハ終始一貫國家的デアリ、此ノ事業ニ携ハル者ハ人格、經驗優レタル眞ノ革新的人材デナケレバナラヌノデアリマス、私心ヲ棄テタ眞ノ人デアリ、萬人ガ指導者トシテ首肯信服スル人デナケレバナラヌノデアリマス、而シテ奉仕ノ觀念ヲ以テ之ニ臨ミ、思

3238

想的ニ人格的ニ指導ト訓練ガ基本要素デナケレバナラヌト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、然レニモ拘ハリマセズ、一部ノ人物ガ私黨の徒黨ヲ組ンデ、個人ノ野心ヲ遂行セントスルガ如キ形勢ガアリ、一億一心ヲ建前トスベキモノガ、其ノ事實ハ逆ニ國內闘争ヲ展開シ、或ハ相剋摩擦ヲ起ス機關タルノ憾ミナシトシナイノデアリマス、翼賛會ノ實行部ノ難境ニ立ンダ人物ヲ檢討スルニ、天下ノ人材トハ何人モ認メ難ク、寧ろ撥人回收トノ酷評スラ世上行ハレテ居ルノデアリマシテ、多數ノ轉向者ヲ包含スルコトハ天下公知ノ事實デアリマス、固ヨリ轉向者全部ヲ非難セントスル者デハアリマセズガ、是等轉向者ノ中ニハ擬裝ト便乗ト轉向者ガ絶無トハ言ヘナイモノガアラウト思フノデアリマス、「コミンテルン」ノ日本ニ對スル指令ニ等ノ謀略等ニ付キマシテハ、時間ノ關係上差控ハマスケレドモ、革新政策ノ名ノ下ニ赤化思想ヲ日本ニ植付ケントスル「コミンテルン」ノ陰謀ハ十分ニ警戒スルノ必要アリト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、翼賛會各員及ビ各地方ニ是等ノ疑ヒアル者ナシト政府ハ斷言スルコトハ出來ナイト思フノデアリマス、去ル一月二十七日夜翼賛會本部ニ於キマシテ地方組織責任擔當者ガ、地方ヘソレハ、出發スルニ際シ壯行會ガ開カレタノデアリマスガ、其ノ席上後藤組織局長ハ實ニ容易ナラス激勵ノ辭ヲバ與ヘラレト傳ヘラレテ居ルノデアリマス、其ノ全部ヲ註ニ朗讀スルコトヲ差控ヘマスルガ、繰返シ共産黨式ノ組織ヲ動説シテ居ルノデアリマシテ、其ノ言葉ノ中ニハ皇軍ヲ侮辱シ、共産軍ヲ讚美スル思想ノ表現ガ明白デアリ、共産主義ノ組織ヲヤレト訓示

サレテ地方ニ出張シテ是等ノ組織員ガ、地方民心ニ及ボス心理的影響ハ洵ニ深然タルモノガナケレバナラヌト私ハ思フノデアリマス、後藤組織局長ガ多年主宰シタル昭和研究會ノ中核的「メンバー」ノ思想的經歷、更ニ是ガ解散ノ已ムナキニ立至リマシタ内面的實情ハ、軍ニ於テモ既ニ調査御承知ノコトト思ハレマス、其ノ及ボス影響ニ鑑ミテ是ニ差控ヘマスルガ、思想的一聯ノ關係者ガ、徒黨ヲ組ムガ如ク翼賛會ノ各局部ヲ固メテ居ルコトハ、其ノ細胞組織ニ入レルハ一種ノ不安ヲ持タザルヲ得ナイノデアリマス、思想的前科者ガ大政翼賛會ニ入レルハ「コミンテルン」ノ指令ヲ奉ジタルモノデアルト認メラレルハ、單ナル批評ノ爲ノ批評、一片ノ疑惑トシテ済マサレナイモノガアラウト思フノデアリマス、百八十度ノ轉向者ガ更ニ轉向ヲ百八十度致シマスレバ、出發點ニ歸還スルノデアリマス、而モ今日ハ地方ニマデ人の構成ニ關スル不安ヲ惹起シテ居ルノデアリマシテ、或ル地方ニ於テハ共産主義ナリシ爲ニ親カラ勸導ヲ受ケタ者ガ、忽然トシテ翼賛會入りヲナシタ爲ニ、アンナ危險人物ガ採用サレル翼賛會トナシタモノナイモノデアルト、其ノ親御サンガ心配ヲ致シタコトカラ、問題ニ果テラレテ居ルノモアルノデアリマス、其縣ニ於キマシテハ是等訓練等ニ何等經驗ナキ月給百二十圓ノ一土木官吏ガ一躍年俸三千圓ヲ翼賛會縣支部ノ部長トナリ、同僚等ヲ驚カシテ居ルコトガ新聞紙ニ傳ヘラレマシテ、是等ノ地方ニ於キマシテハ、何處ヨリ斯ノ如キ指令ガ來タモノデアラウカト非常ナル不安ヲ以テ眺メテ居ルノデアリマス、地元ノ者ガ其ノ存在スラ認

メナカウツヤウナ者ガ、何處カラノ如何ナル指令ニ依ツテカ、忽然トシテ地方組織ノ重要ナル椅子ニ就キ、心アル人々ヲシテ怪奇ノ念ニ堪ヘシメナイ實例ハ幾多之ヲ舉ゲルコトガ出來ルノデアリマス、昨日マデハ反翼賛ノ逆賊ノ群ガ、今日俄カニ翼賛人タトナルハ聖代ノ怪事デナケレバナラナイト思フノデアリマス、翼賛會ノ名簿ト、取締當局ノ指導セラレマスル轉向者、非轉向者ノ「アラタ」リストヲ照合セラレマスルナラバ、思ヒ半バニ過グルモノガアルデアラウト憂慮ニ堪ヘナイノデアリマス、擬裝ト便乗ト鑑別ヲ今日程峻厳ニ行ハナケレバナラズ時ハ會テナイノデアリマス、建軍ノ精神ヲ誇リ、全國民ノ絶大ナル信賴ヲ擔ツテ居ル軍ト致シマシテハ、翼賛會ノ純化ニ積極的ナル熱意ヲ持タレマシテ、軍ノ有スル威力アル憲兵隊ヲシテ、中央ト云ハズ、地方ト云ハズ、徹底的ニ解剖檢査「メス」ヲ入レ、全國民ヲシテ思想的健全性ニ於テ厘毫ノ不安ナキ翼賛會タラシメラレンコトヲ要望シテ已マナイノデアリマス

多クノ豫算ヲ與ヘントスル者等、諸々ノ策動ガ行ハレ居ルヤニ仄聞スルノデアリマスガ、私ハ其ノ何レニモ與セザル者デアリ、何物カラレニ求メントスル如キ印象ヲ世間ニ與フル如キ策動ハ、是レコソ舊體制トシテ排撃スベキデアルト私ハ信ジテ居ルノデアリマス、自己ニ求メザル心、己レヲ棄テルコトコソガ新體制ノ眞髓デアルト確信スル者デアリマシテ、唯一國ニ翼賛會ノ純化ヲ切望シ、萬一非難ノ爲ノ非難ヲナサントスル者アリト致シマシテモ、一言非難ノ餘地ナカラシメ、健全ニシテ純粹ナル翼賛會ノ發展ヲ所念シテ已マナイノデアリマス、翼賛會ノ純化育成ガナサレマスルナラバ、相當程度ノ經費ハ之ニ與フベシト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、私ノ眞意ヲ理解サレマシテ、之ニ對スル陸海軍大臣ノ所見ヲ明カニセラレンコトヲ切望スル次第デアリマス

○東條國務大臣 小泉君ノ御尋ニ付キマシテ、私ノ責任ニ屬スル範圍ニ於キマシテ御答ヘラジマス

ノ御聖勅ノ徹底ト云フ點ニ付キマシテ八十全ヲ盡シテ居ル積リデゴザイマシテ、又今後ニ於キマシテモ當然ニ萬全ヲ期シテ行キタ

テ參ツテ居ルトハ確信ヲ致シテ居リマス、會ノ機構組織ト云フ點ニ付キマシテ御話ガ

昭和十六年二月六日印刷

昭和十六年二月七日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局

第一類第一號

第七十六回帝國議會 豫算委員會議錄(速記)第十二回

會議

昭和十六年二月八日(土曜日)午後一時七分

出席委員

左ノ如シ

委員長 増田 義一君

理事伊禮 肇君 理事小笠原三九郎君

理事佐藤洋之助君 理事田中 好君

理事西川 貞一君 理事古田喜三太君

理事三宅 正一君 理事宮澤 胤男君

理事森田重次郎君 理事矢野庄太郎君

青山 憲三君 井上 良次君

池田 秀雄君 石坂 豐一君

一ノ瀬俊民君 泉 國三郎君

今井 新造君 江藤源九郎君

小野 謙一君 大本貞太郎君

笠井 重治君 勝 正憲君

川崎 克君 木村 正義君

岸田 正記君 北 昶吉君

久山 知之君 島田 俊雄君

助川啓四郎君 多田 滿長君

武田徳三郎君 津雲 國利君

長野 長廣君 鶴見 祐輔君

末松備一郎君 東郷 實君

米窪 滿亮君 中島彌團次君

中田 儀直君 中山 福藏君

松本治一郎君 松村 光三君

一松 定吉君 小泉 純也君

平野 力三君 深澤 吉平君

藤本 捨助君 古屋 慶隆君

堀内 良平君 前田房之助君

三善 信房君 木暮武太夫君

森田 福市君 横川 重次君

一宮房治郎君

同月七日委員提議次郎君辭任ニ付其ノ補關

トシテ同月八日長野長廣君當選セリ

出席國務大臣左ノ如シ

内閣總理大臣 公府近衛 文麿君

厚生大臣 金光 庸夫君

拓務大臣 秋田 清君

文部大臣 橋田 邦彦君

商工大臣 小林 一三君

大藏大臣 河田 烈君

逓信大臣 村田 省藏君

農林大臣 石黒 忠篤君

鐵道大臣 小川郷太郎君

出席政府委員左ノ如シ

法制局長官 村瀨 直養君

法制局參事官 森山 銳一君

企業院次長 小畑 忠良君

企業院部長 竹内 徳治君

情報局次長 久富 達夫君

情報局局長 吉積 正雄君

外務省東亞局長 山本 龍一君

外務省歐亞局長 阪本 瑞男君

外務省書記官 武内時之助君

外務省警保局長 橋本 清吉君

内務省書記官 三好 重夫君

大藏省主計局長 谷口 恒二君

大藏省主計局長 松隈 秀雄君

大藏省理財局長 竹内 新平君

大藏省書記官 梅北 末初君

特ニ深甚ノ注意ヲ以テ萬全ヲ期セラレノコトヲ切望シ、茲ニ本案ニ對シ贊成致スモノ

増田委員長 討論ハ終局致シマシタ、是ヨリ採決致シマス、本案ニ贊成ノ諸君ハ起

増田委員長 起立議員、仍テ本案ハ全會一致ヲ以テ原案ノ通り可決致シマシタ

衆議院豫算委員會第二分科會議 録第二回中訂正

- 大藏書記官 氏家 武君
大藏書記官 植木庚子郎君
大藏事務官 山住 克巳君
預金部資金局長 中村孝次郎君
警備部局長 入江 昂君
專賣局長 花田 政春君
陸軍主計中將 石川半三郎君
陸軍少將 武藤 章君
海軍主計大佐 武井 大助君
海軍主計大佐 爲本 博篤君
海軍大佐 高木 惣吉君
司法次官 三宅正太郎君
司法書記官 中島 弘道君
司法省調査部長 石田 壽君
文部省專門學務局長 菊池豊三郎君
文部省普通學務局長 永井 浩君
文部省實業學務局長 關口 善教君
文部省社會教育局長 綱領 彌三君
文部省圖書局長 松尾 長造君
文部省宗教局長 阿原 謙藏君
農林省書記官 柴沼 直君
農林省資材部長 井野 碩哉君
農林省書記官 岡本 直人君
農林省書記官 小島 新一君
農林省書記官 椎名悦三郎君
農林省書記官 鈴木 英雄君
農林省書記官 小島 義照君
農林省書記官 菱沼 勇君
農林省書記官 新井 新一君
農林省書記官 加藤 寛一君
農林省書記官 生悅住求馬君
農林省書記官 川村 秀文君
農林省書記官 曾我 梶松君
農林省書記官 梶松 曾我

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ
(第二號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案

(特第二號)昭和十五年各特別會計歳入歳出豫算追加案
○増田委員長 會議ヲ開キマス、都合ニ依リマシテ、本會議會マデ休職致シマス
午後一時八分休職

午後四時三十分開議

○増田委員長 休職前ニ引續キ會議ヲ開キマス、昨日政府ヨリ提出セラレマシタ第二號、昭和十五年歳入歳出豫算追加案及ビ特第二號、昭和十五年各特別會計歳入歳出豫算追加案ヲ一括シテ議題ニ供シマス、先ヅ政府ノ説明ヲ求メマス——大藏大臣
○河田國務大臣 只今議題ニ供セラレマシタ昭和十五年歳入歳出豫算追加第二號及ビ同各特別會計歳入歳出豫算追加第二號ノ二案ニ付テ御説明致シマス
昭和十五年歳入歳出豫算追加第二號ニ計上致シマシタ金額ハ、歳入千八百七十餘萬圓、歳出千七百四十餘萬圓ナリマシテ、差引歳出超過額千八百六十餘萬圓トナツテ居リマスガ、右ノ歳出超過額ハ昭和十五年豫算ノ實行上ニ於ケル歳出ノ節約ニ依リ生ジマスル所ノ歳入超過額ノ中ヨリ之ニ充當スル計畫デアリマス、歳入追加額ノ内譯ハ經常部千七百八十餘萬圓、臨時部八十餘萬圓デアリマシテ、其ノ事項別金額ヲ申上ゲマスレバ、森林收入ノ増加千七百四十餘萬圓、受託進修收入ノ増加八十餘萬圓其ノ他四十餘萬圓トナツテ居リマス
次ニ歳出追加額ノ内譯ハ經常部十餘萬圓、臨時部五千七百二十餘萬圓デアリマシテ、其ノ主要ナル事項ヲ申上ゲマスレバ、農林省所管ニ屬スル主要食糧農産物増産確保施設ニ要スル經費ノ増加二百九十餘萬圓、重要

肥料供給確保施設ニ要スル經費ノ増加千九百餘萬圓、臨時米穀管理施設ニ要スル經費六十餘萬圓、商工省所管ニ屬スル鐵鋼原料ノ補償ニ要スル經費ノ増加千八百餘萬圓、石炭増産對策ニ要スル經費ノ増加三百七十餘萬圓、其ノ他内務省、商工省、拓務省及ビ厚生省ノ各省所管ニ屬スル轉賣對策ニ關スル經費總額二百餘萬圓、内務、大藏、司法、文部、農林、商工及ビ厚生ノ各省所管ニ屬スル臨時家族手当ニ關スル經費總額三百五十餘萬圓等デアリマス、右ノ中主要、食糧農産物増産確保施設ニ要スル經費ノ増加ハ、現下ノ情勢ニ鑑ミマシテ米穀等ノ増産確保ノ爲メ必要ナル諸般ノ施設ヲ講ゼントスルモノデアリマス、又重要肥料供給確保施設ニ要スル經費ノ増加ハ、健全其ノ他ノ重要無機質肥料ノ供給ヲ確保シ、主要農産物ノ生産計畫遂行ニ遺憾ナカラシメントスルモノデアリマス、臨時米穀管理施設ニ要スル經費ハ、販賣米ノ全部ヲ目標トシテ國家管理ヲ行ヒ、米穀配給ノ円滑ヲ期セントスルモノデアリマス、鐵鋼原料ノ補償ニ要スル經費ハ、鐵鋼生産力ノ維持擴充ヲ圖ル爲メ製鐵用輸入原料配給統制令ニ基キ商工大臣ノ指定シタル配給統制機關ヲシテ輸入製鐵原料ヲ一手ニ買上ゲシメ、之ヲ一定ノ價格ヲ以テ製鐵業者ニ供給セシムルニ依リテ生ズル配給統制機關ノ損失ヲ補償セントスルモノデアリマス、石炭増産對策等ニ要スル經費ハ、日本石炭株式會社ヲシテ製鐵用輸入石炭ヲ一手ニ買上ゲシメ、之ヲ一定ノ價格ヲ以テ製鐵業者ニ供給セシムル爲メ、同社ニ對シ石炭買取價格補償金ヲ交付シ、以テ製鐵業者ノ輸入原料値上リニ依リ負擔ヲ軽減セシメントスルモノデアリ

マシ、轉賣對策ニ關スル經費ハ中小商工業者ノ轉賣業ニ關シ適當ナル措置ヲ講ジ、指導ノ萬全ヲ期シマスト共ニ、轉賣業ヲ要スル者ノ訓練ニ必要ナル國民勤勞訓練所ヲ經營致シマスル團體ノ助成、職業補導施設ノ擴充等ヲ行ハントスルモノデゴザイマス
臨時家族手当ニ關スル經費ハ昭和十五年勅令第五百二十五號ニ依リ政府職員ニ對スル臨時家族手当、支給、又ハ地方職員及ビ教育職員ニ對スル臨時家族手当ノ補助ニ關スルモノデゴザイマス
次ニ昭和十五年各特別會計ノ歳入歳出豫算追加第二號ハ、大藏省預金部、關東、關西、帝國大學、官立大學、學校及ビ圖書館、通信事業、帝國鐵道、朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳及ビ郵便年金、是等ノ各特別會計ニ關スルモノデゴザイマシテ、何レモ本年度内ニ於テ必要ニ至ルマデ浸透致シマシテ、上致シタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アランコトヲ御願ヒ致シマス
○増田委員長 内閣總理大臣ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス、此ノ際之ヲ承リマス——
内閣總理大臣 大政翼贊會ノ性格等ニ付キマシテ、政府ノ所見ヲ明瞭ニ致シタイト存ジマス
○近衛國務大臣 大政翼贊會ノ性格等ニ付キマシテ、政府ノ所見ヲ明瞭ニ致シタイト存ジマス
大政翼贊運動ノコトニ付キマシテハ、昨年八月ノ新體制準備會ニ於キマスル私ノ聲明ニ依リマシテ、既ニ概ニ御承知ノコトト存ジマスガ、此ノ機會ニ簡單ニ其ノ趣旨ヲ申述ベタイト存ジマス
帝國ハ今ヤ正ニ有史以來ノ非常時局ニ直面シテ居リ、此ノ變局ニ對處致シマシテ適切ナル施策ヲナシ、國運ノ一大進展ヲ期セ

マシ、轉賣對策ニ關スル經費ハ中小商工業者ノ轉賣業ニ關シ適當ナル措置ヲ講ジ、指導ノ萬全ヲ期シマスト共ニ、轉賣業ヲ要スル者ノ訓練ニ必要ナル國民勤勞訓練所ヲ經營致シマスル團體ノ助成、職業補導施設ノ擴充等ヲ行ハントスルモノデゴザイマス
臨時家族手当ニ關スル經費ハ昭和十五年勅令第五百二十五號ニ依リ政府職員ニ對スル臨時家族手当、支給、又ハ地方職員及ビ教育職員ニ對スル臨時家族手当ノ補助ニ關スルモノデゴザイマス
次ニ昭和十五年各特別會計ノ歳入歳出豫算追加第二號ハ、大藏省預金部、關東、關西、帝國大學、官立大學、學校及ビ圖書館、通信事業、帝國鐵道、朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳及ビ郵便年金、是等ノ各特別會計ニ關スルモノデゴザイマシテ、何レモ本年度内ニ於テ必要ニ至ルマデ浸透致シマシテ、上致シタ次第デゴザイマス、何卒御審議ノ上速カニ御協賛アランコトヲ御願ヒ致シマス
○増田委員長 内閣總理大臣ヨリ發言ヲ求メラレテ居リマス、此ノ際之ヲ承リマス——
内閣總理大臣 大政翼贊會ノ性格等ニ付キマシテ、政府ノ所見ヲ明瞭ニ致シタイト存ジマス
○近衛國務大臣 大政翼贊會ノ性格等ニ付キマシテ、政府ノ所見ヲ明瞭ニ致シタイト存ジマス
大政翼贊運動ノコトニ付キマシテハ、昨年八月ノ新體制準備會ニ於キマスル私ノ聲明ニ依リマシテ、既ニ概ニ御承知ノコトト存ジマスガ、此ノ機會ニ簡單ニ其ノ趣旨ヲ申述ベタイト存ジマス
帝國ハ今ヤ正ニ有史以來ノ非常時局ニ直面シテ居リ、此ノ變局ニ對處致シマシテ適切ナル施策ヲナシ、國運ノ一大進展ヲ期セ

シガ爲ニハ、國防國家體制ヲ整備致シマシテ、國家國民ノ總力ヲ集結一元化シ、之ヲ最高度ニ發揮スルコトノ必要ナルコトハ、今更申スマデモナイ所デアリマス、此ノ所謂高度國防國家體制ノ基礎ハ、實ニ強力ナル國內體制ヲ整備スルコトニアルノデアリマス、而シテ其ノ基礎ヲ成スモノハ、實ニ萬民翼贊ノ實ヲ舉グベキ國民組織ヲ確立スルニアルト信スル大政翼贊デアリマス、斯カル國民組織ノ目標ハ、國民ノ總力ヲ集結シ、一億同胞ガ生キタ一體トシテ、齊シク萬民翼贊ノ臣道ヲ全ウスルニアリ、此ノ目標ヲ達成スルニハ、全國國民ガ日夜其ノ日常生活ノ各職域ニ於テ翼贊奉公ノ實ヲ舉ゲ得ルヤウニセネバナラスノデアリマス、斯カル組織ノ下ニ於キマシテコソ、初メテ國策ハ國民生活ノ末梢ニ至ルマデ浸透致シマシテ、其ノ敏捷且ツ的確ナル實現ヲ期待スルコトガ出來ルノデアリマス、又國民生活ノ實情ハ如實ニ政治ニ反映セラレ得ルモノト考ヘルノデアリマス、斯クノ如クシテ、國民ノ總力ハ能ク國政ノ上ニ集結セラレルモノト信ジマス
大政翼贊運動ハ、政府ニ協力シテ斯カル萬民翼贊ノ實ヲ舉グベキ國民組織ヲ確立シ、其ノ運用ヲ円滑ナラシメ、以テ臣道實踐體制ノ實現ヲ期スルヲ目的トスル全國國民ノ運動デアリマス、而シテ此ノ運動ハ高度國防國家體制確立ノ要請カラ生ジタモノデアリマシテ、國民生活ノ全部門ニ互リ對立抗爭ヲ克服シテ、總テ臣道實踐ノ精神ニ歸一セシメントスル超黨派ノ運動デアリ、且ツ飽クマデ學國的、全體的デアリ、官民協同ノ國民運動デアリマス
大政翼贊會ハ斯カル國民運動ヲ推進スルコ

トヲ目的ト致シマシテ組織セラレタル團體デアリ、此ノ國民運動ノ中核體トナリマシテ、自ラ率先シテ臣道實踐ニ挺身シ、進ンデ其ノ正シク且ツ力強キ展開ヲ推進力タルコトヲ本來ノ使命トシテ居ルモノデアリマス、此ノ使命達成ノ爲ニハ、上意ヲ下達シ、下情ヲ上通シ、國策ノ樹立遂行ニ關シ國家機關ニ協力貢獻スルノ機能ヲ發揮スベク、特ニ機構ヲ整備シ、其ノ精神團結ヲ強化ト相俟チ、強力ナル實踐力ヲ發揮セネバナラヌト信ジマス、斯クノ如ク大政翼贊會ノ活動ハ、其ノ機能ニ於テ、其ノ目標ニ於テ、在來ノ精勵及ビ政黨運動トハ大ニ其ノ趣キヲ異ニシテ居リマス、高度ノ政治性ヲ有スト云フ所以モ亦茲ニ存スルノデアリマス
而シテ大政翼贊會ノ現實ノ運営ニ於キマシテモ、常ニ會本來ノ目的及ビ趣旨ニ即スベキハ事理ノ當然デアリマシテ、其ノ政府トノ關係ニ於テモ、政府ニ協力シテ、國策ノ徹底及ビ其ノ円滑ナル遂行ニ寄與セントスルモノデアリ、所謂下情上通ノ使命ノ如キモ、國民生活ノ實情ヲ當局ニ反映シ、其ノ施策ノ參考ニ資セントスルモノデアリマシテ、政府ト別個ニ獨自ノ政策ヲ掲ゲテ、是ガ貫徹ヲ圖ラントスルモノデアリマセ、況シテ政權ヲ總ル政治行動ヲナスガ如キコトノアリ得ベカラザルコト、言ハズシテ明カデアリマス
斯クノ如ク大政翼贊會ハ、其ノ本質上、對立抗爭的ノ政治活動ヲナスモノデナク、又政府ト別個ニ獨自ノ政治的主張目的トヲ以テ行動スル筋合ノモノデアリマセ、是レ政府ガ、大政翼贊會ハ治安警察法ニ謂フ政事上ノ結社ニ該當セズ、隨テ治安警察法ノ政事上ノ結社ニ關スル規定ノ適用ハ受

ケナイト云フ解釋ヲ致シテ居ル次第デアリマス、尤モ大政翼贊會ハ一種ノ結社デアリマスカラ、治安警察法ノ規定中、政事上ノ結社ニ關スル規定以外ノ、一般ノ結社ニ關スル規定及ビ公事ニ關スル結社ニ關スル規定ノ適用セラルルハ當然デアルト考ヘマシ、又大政翼贊會ノ個々ノ行為ニ付テハ、ソレレノ當該法規ノ適用ヲ受タルコトモ亦當然デアリマス
陸海軍大臣ガ、大政翼贊會ニハ大臣、次官、軍務局長等、特定ノ職務ニ在ル者ガ職務ノ關係カラ軍ト大政翼贊會トノ連繫協力ノ爲ニ加入スル外、直接一般現役軍人ガ加入スルコトハ、我が建軍ノ本義ニ照シテ、之ヲ認メルコトガ出來ナイ旨ヲ述ベラレマシタノハ、大政翼贊會ガ治安警察法ノ政事上ノ結社ニ該當スルカラ、現役軍人ノ是ガ加入ヲ認ムルコトヲ得ナイト云フ趣旨ニ於テハナイノデアリマシテ、唯軍トシテハ、直接一般現役軍人ガ大政翼贊會ニ加入スルモノニ個々ニ關係スルコトハ、軍ノ團結及ビ紀律ノ方面ヨリ認ムベカラズトスル理由ニ基イテ居ルノデアリマス
大政翼贊會ハ其ノ發足後日尚ホ淺ク、隨テ其ノ趣旨ガ徹底セザル憾ミモアリ、其ノ機能發揮モ十分デナイ點モアルト存ジマスガ、今後は其ノ趣旨ノ徹底ニモ力ヲ盡スト共ニ、其ノ機構及ビ運営ニモ十分工夫改善ヲ加ヘテ參リ、所期ノ效果ヲ舉グルヤウニ致シタイト存ジマス
尚ホ又大政翼贊會ノ活動ニシテ、萬一ニモ本來ノ目的及ビ使命ヲ逸脱スルガ如キコトナキヤウ嚴重ニ戒メ、過誤ナキヲ期シテ參リタイト存ジマス
今ヤ内外ノ實情ハ眞ニ一億一心ヲ必要ト

スル秋デアリマス、大政翼贊運動ハ緊迫セテ現下内外ノ情勢ニ促サレテ發展展開シ來ツタモノデアリ、恐ラクハ此ノ運動ノ實效的ナル展開ナクシテハ、今日ノ時艱ヲ克服スルコトモ頗ル困難ト存ジマス、政府ガ大政翼贊運動ノ急進活動ヲ展開ヲ希望シテ居ルコトハ、既ニ私ノ施政演説ニ於テ述ベタ通りデアリマス、政府ハ不遑轉ノ決意ヲ以テ大政翼贊運動ノ育成發展ニ力ヲ致ス所存デアリマス、何卒各位ニ於カレテモ一層ノ御協力アランコトヲ切望スル次第デアリマス(拍手)
○小笠原(三)委員 只今内閣總理大臣カラ大政翼贊會ノ性格等ニ付テ所見ノ開陳ガアリマシタガ、之ニ關シテハ近ク豫算案モ出ルヤニ聞イテ居リマスノデ、質問等ハ其ノ際ニ讓ルコトトシ、本日ハ是ニテ散會セラレントコトヲ望ミマス
○増田委員長 只今ノ小笠原君ヨリ提出セラレマシタ動議ニ御異議アリマセスカ
(異議ナシト呼ブ者アリ)
○増田委員長 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、尚ホ此ノ際政府ニ要望致シマス、豫テ委員カラ要求シテ居リマスル資料中、特ニ大政翼贊會關係ノモノガガマダ提出サレテ居リマセ、至急御提出ヲ願ヒマス、次會ノ開會日時ハ公報ヲ以テ御知ラセ致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後四時五十分散會

備考 目下衆議院提出中ノモノヲ含ム
一、大政翼贊會ノ職員等出張旅費規定若シ規定ナクレバ二、三ノ標準の旅費支給ノ事例
小笠原委員要求ノ參考資料
一、昭和十二年度以來昭和十六年度豫算(追加豫算ヲ含ム)迄ノ公債發行額調種類別
殘高(未發行ノ分)
(但シ、昭和十五年度分ハ昭和十六年一月初日迄)
衆議院豫算委員會議錄第十回 中正誤
頁 政 行 誤 正
二四四 三三二 經路 徑路
二五一 二二二 消化 償還
二五一 一三三 消化 償還

昭和十六年二月八日印刷

昭和十六年二月九日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局

(第一類 第一號)

第七十六回帝國議會 豫算委員會議錄(速記)第十三回

(1111)

會 議
昭和十六年二月十二日(水曜日)午後一時十五分開議
出席委員左ノ如シ

委員長 増田 義一君

理事伊禮 肇君 理事小笠原三九郎君
理事佐藤洋之助君 理事田中 好君
理事西川 貞一君 理事古田喜三太君
理事三浦 虎雄君 理事三宅 正一君
理事宮澤 胤勇君 理事森田重次郎君
理事矢野庄太郎君

青島 憲三君 井上 良次君
石坂 豐一君 泉 國三郎君
今井 新造君 江藤源九郎君
小野 謙一君 加藤 鯛一君
笠井 重治君 川崎 克君
木村 正義君 岸田 正記君
北 吟吉君 久山 知之君
島田 俊雄君 助川啓四郎君
多田 滿長君 高田 耘平君
武田德三郎君 長野 長廣君
鶴見 祐輔君 末松借一郎君
東郷 實君 米窪 滿亮君
中島彌團次君 中田 儀直君
中山 福藏君 松本治一郎君
松村 光三君 一松 定吉君
平川松太郎君 平野 力三君
深澤 吉平君 藤本 捨助君
古屋 慶隆君 堀内 良平君
前川 正一君 前田房之助君
三善 信房君 木暮武太夫君

出席政府委員左ノ如シ
二月十日委員小泉純也君辭任ニ付其ノ補關トシテ同月十二日平川松太郎君當選セリ
出席國務大臣左ノ如シ
內務大臣 男爵平沼騏一郎君
厚生大臣 金光 庸夫君
拓務大臣 秋田 清君
陸軍大臣 東條 英機君
外務大臣 松岡 洋右君
文部大臣 河田 邦彦君
大藏大臣 河田 烈君
農林大臣 村田 省藏君
海軍大臣 石黒 忠篤君
鐵道大臣 及川古志郎君
司法大臣 小川郷太郎君
柳川 平助君

大藏書記官 福田 越夫君
大藏事務官 山住 克巳君
預金部資金局長 中村孝次郎君
專賣局長官 花田 政春君
陸軍主計中將 石川半三郎君
陸軍省法務局長 大山 文雄君
海軍主計中將 豐田貞次郎君
海軍主計中將 武井 大助君
海軍少將 岡 敬純君
海軍主計大佐 爲本 博篤君
海軍大佐 石川 信吾君
海軍大佐 高木 信吉君
海軍省法務局長 潮見 茂樹君
司法省刑務局長 秋山 要君
司法省行刑局長 金澤 次郎君
文部次官 菊池豊三郎君
文部省專門學務局長 永井 浩君
文部省普通學務局長 中野 善敦君
文部省實業學務局長 關口 勳君
文部省社會教育局長 細野 彌三君
文部省體育局長 小笠原道生君
文部省宗教局長 阿原 謙藏君
文部書記官 柴沼 直君
農林次官 藤野 惠君
農林省總務局長 井野 碩哉君
農林省農政局長 周東 英雄君
農林省山林局長 岸 良一君
農工次官 井出 正孝君
商工次官 小島 新一君
商工書記官 末永 衛君
特許局長官 大貝 晴彦君

燃料局長官 東 榮二君
貿易局長官 石黒 武重君
選信省經理局長 山田 良秀君
拓務次官 北島謙次郎君
拓務省管理局長 副島 勝君
拓務書記官 中野 勝次君
厚生次官 兒玉 政介君
厚生省體力局長 佐々木芳遠君
厚生省衛生局長 加藤於菟丸君
厚生省防務局長 高野 六郎君
厚生省社會局長 熊谷 憲一君
厚生省労働局長 持永 義夫君
厚生省職業局長 内藤 寛一君
厚生書記官 生悦佳求馬君
保險院長官 樋貝 詮三君
軍事保護院副總裁 三島 誠也君
保險院總務局長 川村 秀文君
保險院社會保險局長 木村 清司君
保險院簡易保險局長 前田 穰君
軍事保護院援護局長 曾我 梶松君
軍事保護院業務局長 櫻井安右衛門君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

(第三號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案

(特第三號)昭和十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案

(第一號)昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案

(特第一號)昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔下ナルベキ

ニ要スル經費ハ最近ノ國際情勢ニ於キマシテ、本邦對外經濟力ノ維持伸張ヲ圖リ、迅速便宜ノ措置ヲ講ズル爲メ外國爲替管理ヲ一層強化スルノ必要ニ依ルモノデアリマス、北支那開發及ビ中支那振興特殊會社補給金ハ、兩會社ノ定款改正ニ伴ヒマシテ、昭和十六年一月一日ヨリ同年三月三十一日ニ至ル營業年度ニ於ケル投資及ビ融資ニ依ル收入ノ不足額ヲ補給スルノ必要ニ依ルモノデアリマス

次ニ貯蓄獎勵ノ強化徹底ニ關スル經費ハ、時局下國民貯蓄ノ獎勵ハ益々緊要ノ度ヲ加ヘ、今後一層其ノ強化徹底ヲ期スル爲メ、之ニ關スル經費ヲ計上致シテデアリマス
第三ニ昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追加第一號ハ、造幣局、國債整理基金、公債金、金貨金、政府出資及ビ關東局ノ各特別會計ニ關スルモノデアリマス、右ノ内、一、造幣局特別會計歳入歳出豫算追加額ハ、歳入十二萬三千餘圓、歳出十一萬七千餘圓デアリマス、右ハ支那事件行用勳章及ビ從軍記章製造追加ニ伴フモノデアリマス、二、國債整理基金特別會計歳入歳出豫算追加額ハ、歳入歳出共ニ一億二千二百二十九萬三千餘圓デアリマス、右ハ一般會計及ビ農業再保險、政府出資、損害保險國營再保險ノ各特別會計負擔ニ屬スル國債費ノ受入レニ伴フモノデアリマス、三、公債金特別會計歳入歳出豫算追加額ハ、歳入歳出共ニ五十一億七千八百九十九萬九千餘圓デアリマス、右ハ昭和十六年度一般會計歳入補填公債、政府出資公債、及ビ支那事件公債發行ニ伴フモノデアリマス、四、金貨金特別會計歳出豫算追加額ハ、歳出六百五十三萬餘圓デアリマス、右ハ産金ノ増加ヲ圖ル爲メ必要ナ

ル經費ノ財源トシテ、朝鮮及ビ臺灣ノ兩特別會計ヘノ繰入額ノ増加ヲ要スル爲デアリマス、五、政府出資特別會計歳入歳出豫算追加額ハ、歳入、歳出共ニ七千九百九萬三千餘圓デアリマス
右歳入追加額ノ内譯ハ、配當金收入ノ増加百二十五萬五千餘圓、公債金ノ増加七千六百三十七萬九千餘圓、一般會計ヨリ受入レノ増加百四十五萬八千餘圓ヲ計上致シテデアリマス、歳出追加額ノ内譯ハ、日本製鐵株式會社資本増加ニ伴フ政府出資拂込金四千二百六十二萬九千餘圓、農地開發費圓出資拂込金三百七十五萬圓、日本製鐵株式會社政府出資拂込金二千萬圓、帝國石油株式會社政府出資拂込金二千萬圓、國債整理基金特別會計ヘ繰入ノ増加二百七十一萬四千餘圓ヲ計上致シテデアリマス、六、關東局特別會計歳入歳出豫算追加額ハ、歳入、歳出共ニ八十二萬七千餘圓デアリマス、右歳出追加額ハ、經常部一萬千餘圓、臨時部八十一萬六千餘圓デアリマス、其ノ主要ナル事項ヲ申上ゲマスレバ、重要肥料供給確保ニ關スル經費二十四萬六千餘圓、生活必需品配給補助ニ要スル經費増加十六萬餘圓、國家總動員ノ實施ニ關スル經費十二萬八千餘圓、關東州興亞奉公運動ノ實施ニ要スル經費十五萬二千餘圓等デアリマス
最後ニ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關スル件ニ付キ御說明申上ゲマス、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關スル件追第一號ハ、國民更生金庫補助及ビ損失補償、外國爲替損失補償金及ビ日本製鐵株式會社更生金庫補助及ビ損失補償ハ、今同創設セラルベキ國民更生金庫ニ對シテ業務費ノ一

部ヲ補助シ、又同金庫方其ノ業務ニ因リ損失ヲ受ケタル場合、其ノ損失ヲ政府ニ於テ補償スルノ契約ヲ結ブノ必要ニ依ルモノデアリマス、外國爲替損失補償金ハ政府ノ命令ニ基キ外國爲替銀行、其ノ他對外取引ヲ爲ス者ノ蒙ルコトアルベキ損失ヲ補償スルノ契約ヲ結ブノ必要ニ依ルモノデアリマス、日本製鐵株式會社出資金ハ、政府ハ現ニ所有スル日本製鐵株式會社ノ株式ノ外更ニ増資株式ヲ引受クルノ必要ガアリマス、右ノ之ニ出資スル契約ヲ結ブノ必要ニ依ルモノデアリマス、以上大藏省所管ニ付キマシテ御說明申上ゲマス

○松岡國務大臣 外務大臣
外務省所管追加豫算ニ付テ說明致シマス、昭和十六年度追加豫算トシテ要求致シマシタ金額ハ、經常部五十九萬二千八百四十八圓、臨時部六百六十九萬六千九百七十七圓、合計七百二十八萬九千八百二十五圓デアリマス、今其ノ概要ヲ申述ベマス、先ツ第一ハ支那事變ニ關スル經費ノ増加三百四十萬九千餘圓デアリマス、南京國民政府ヲ承認シタル此ノ際支那ニ於ケル外交機能ノ充實ヲ致シマス外、警察、教育等各般ノ行政機構ノ擴充強化ヲ圖リ、以テ事變處理ノ完遂ニ資スル爲メ計上シタ次第デアリマス、第二ハ國際新情勢ニ對處スル外交施設ニ關スル經費百二十三萬三千餘圓デアリマス、現下ノ國際危局ニ對處シ帝國外交政策遂行上必要ナル機密費並ニ在外公館ノ新設等ニ必要ナル經費デアリマス

第三ハ日獨伊混合專門委員會ニ要スル經費九百三十萬餘圓デアリマス、是ハ去年九月締結シマシタ日獨伊三國間條約ニ基キマシテ、是ガ實效ヲ舉グル爲メ設置シマシタ混合委員會ヲ維持スル必要ナル經費デアリマス、以上ノ外、臨時特命全權公使特派ニ要スル經費、對滿文化事業ニ關スル經費、在滿兵事並ニ軍事扶助ニ關スル事務處理ニ要スル經費、爲替相場ノ變動ニ基キ經費ノ増加ヲ計上致シマシタ、何卒御審議ノ上御協賛アラントラ希望致シマス

○增田委員長 內務大臣
○平沼國務大臣 昭和十六年度內務省所管一般會計第一號追加豫算ノ要求額ハ、經常部ニ於テ二萬餘圓、臨時部ニ於テ千四百八萬餘圓、合計千四百一十萬餘圓デアリマス、右要求額ニ付キマシテ其ノ概要ヲ申述ベマス、先ツ時局ノ關係上急遽施行ヲ要スル經費トシマシテ、相ノ浦港修築費補助ニ要スル經費トシテ四十一萬圓ヲ計上シテ居リマス、右工事ハ國ニ於テ直接施行スルノ必要ガアリマス、是ガ經費、百萬圓、北上川上流改修費總額四千九百三十二萬餘圓ヲ十六年度以降二十年間ノ繼續事業トシテ、既定繼續費ニ追加致シマス爲メ其ノ本年度年割額百五十萬圓ヲ計上致シマシタ、其ノ他昭和十五年ノ災害ニ關スル經費トシテ、北海道外二十九縣ノ災害復舊土木費ニ對シテ總額千八百九十四萬餘圓ヲ十六年度以降三箇年ニ割リ補助致シマス爲メ、本年度所要額六百三十萬圓、靜岡縣那賀郡及ビ稻生澤川改修助成費總額三十八萬餘圓ヲ、十六年度以降六箇年ニ割リ補助致シマス爲メ其ノ本年度所要額、三萬圓、北海道災害復舊ニ要スル經費、二十萬圓、災害旅費ノ増加、十二萬餘圓等ヲ計上致シテ居リマス、右ノ外前年度ニ引續キ政府職員ニ對シ臨時家族手当支給ノ爲メ要スル經費百六十萬餘圓、經

濟警察機構整備ニ要スル經費ノ増加九十九萬餘圓、國民貯蓄獎勵ニ要スル經費ノ増加十七萬餘圓、轉業者、廢業者對策、土地建物價格統制、機械設備等ノ統制及ビ有効利用、主要食糧等自給強化ノ爲メニ耕地擴張施設ノ爲メ地方廳ニ於テ要スル經費百六十五萬餘圓等ヲ計上致シテ居リマス
向ホ北海道外二十二縣ニ對スル災害復舊土木費、靜岡縣那賀川及ビ稻生澤川ノ災害復舊土木改良事業費ハ何レモ十六年度以降三箇年乃至六箇年ニ割リ補助致シマス關係上、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關スル要求ヲ致シテ居リマス
以上ハ內務省所管昭和十六年度第一號追加豫算ノ概要トゴザイマス、御審議ノ上御協賛アラントラ御願ヒ致シマス

○東條國務大臣 只今議題トナツテ居リマス豫算案中陸軍省所管豫算ニ付キマシテ說明致シマス、陸軍軍備ハ昨年計畫致シテ御協賛ヲ得マシタ所謂修正軍備先實計畫ヲ以テ其ノ骨幹ヲ概成スルコトニナツテ居リマシテ、目下著々其ノ實施ニ當ツテ居リマス、極メテ順調ニ進捗致シテ居リマス、本追加豫算ニ計上致シテ居リマスモノハ、近代戰ノ經驗ニ鑑ミ、急速ニ實行ヲ必要トスル軍備計畫ノ補備事項デアリマス、其ノ昭和十六年度ニ於ケル豫算總額ハ三億二千七百七十萬三千三百三圓デアリマス、今右追加豫算ノ事項別内譯ヲ申上ゲマス、三點トゴザイマス

第一ハ兵備改善ニ要スル經費デアリマス、是ハ各種學校及ビ技術機關並ニ若干ノ地上部隊ノ擴充整備ニ要スル經費デアリマシテ、昭和十六年度ヨリ昭和二十年年度ニ互リマシ

テ、總額四億一千五百三十七萬八千五百七十六圓ノ繼續費ト致シテ居リマス、其ノ内昭和十六年度ノ額ハ一億五千四百四十二萬七千四百六圓トゴザイマス、之ニ伴ヒマスル經常部經費ハ二千三百四十二萬六千六百九十九圓デアリマス
第二ハ航空防空兵力充實ニ要スル經費デアリマス、是ハ航空訓練學校ノ改編増強、並ニ飛行場等ノ擴充ニ要スル經費デアリマシテ、昭和十六年度ヨリ昭和二十年年度ニ互リマシテ、總額一億九千八百一十一萬六千七百七十五圓ノ繼續費ト致シテ居リマス、其ノ内昭和十六年度ノ額ハ、七千一百三十二萬六千三百八十八圓デアリマシテ、之ニ伴ヒマスル經常部經費ハ、二千三百十八萬五千二百五十九圓デアリマス
第三ハ器材整備ニ要スル經費デアリマス、是ハ輸送能力ノ増強ノ爲メ、海運施設ノ擴充整備ニ要スル經費、及ビ陸軍造兵器廠ニ於ケル舊式工廠施設ノ改善ニ要スル經費等ヲ計上致シテ居リマシテ、昭和十六年度ヨリ昭和二十年年度ニ互リマシテ、總額一億五千三百七十七萬五千四百圓ノ繼續費ト致シテ居リマス、其ノ内昭和十六年度ノ額ハ、三千九百九十三萬九千九百九十二圓デアリマス
以上一般會計追加豫算ノ外ニ、陸軍造兵器廠作業特別會計追加豫算、陸軍製鐵廠作業特別會計追加豫算及ビ臨時陸軍材料資金特別會計追加豫算ヲ提案サレテ居リマスガ、何レモ臨時軍事費追加豫算並ニ一般會計追加豫算ニ應ジテ、兵器、器材ノ製造並ニ取得ニ要シマスル各特別會計ノ豫算デアリマシテ、特ニ御說明申上ゲルコトヲ省略致シマス、何卒宜敷御審議ノ上、御協賛アラントラ切望致シマス

○增田委員長 海軍大臣
海軍省所管追加豫算ニ付テ說明致シマス、昭和十六年度追加豫算ノ内海軍省所管ノ分ニ付キマシテ御說明申上ゲマス、昭和十六年度海軍省所管豫算定額追加要求額ハ、經常部ニ於キマシテ二十一萬三千六百八十二圓、臨時部ニ於キマシテ三億八百七十三萬八千圓、計三億八千九百五十一萬一千六百八十二圓デアリマス、其ノ事項ノ概要ヲ申上ゲマス、追加要求事項ノ遺精、造兵、建築事業遂行ノ爲メ、工作廳、建築部等ニ於キマシテ工員ヲ増加致シマスニ伴ヒ必要ト致シマス共濟組合給與金ノ増加デアリマス、臨時部ニ於キマシテハ、第一ニ艦艇製造費ニ追加デアリマスガ、是ハ昭和十六年度以降三箇年間ニ、艦艇製造ニ要スル經費ノ總額一億九千六百四十二萬四千七百五十圓ヲ、既定繼續費ニ追加致シマシテ支出致シマス、其ノ初年度分ト致シマシテ八千七百七十四萬五千七百五十圓ヲ計上致シテ居リマス
第二ニ水陸整備費ノ追加デアリマスガ、是ハ工作廳、軍需部諸施設ノ擴充改善、海兵團、學校施設ノ擴張、軍港水道ノ施設、病院施設等ノ整備ニ必要ナル經費總額五億五千二百九十九萬九千圓ヲ、既定繼續費ニ追加致シマシテ、昭和十六年度以降四箇年度間ニ支出スルコトヲ致シマシタ、其ノ初年度分トシテ一億七千二百七十八萬八千圓ヲ計上致シマシタ

第三ニ航空設備費ノ追加デアリマスガ、是ハ既設航空隊ノ改善等ニ要スル經費總額一千四百九十九萬圓ヲ既定繼續費ニ追加致シマシテ、昭和十六年度以降二箇年度間ニ支出スルコトヲ致シマシテ、其ノ初年度分七百三十萬圓ヲ計上致シテ居リマス
第四ト致シマシテハ、軍需品整備費ノ追加デアリマス、是ハ兵器類ノ整備充實ニ必要ナル經費總額一億二千四百四十五萬圓ヲ既定繼續費ニ追加致シマシテ、昭和十六年度以降二箇年度間ニ支出スルコトヲ致シマシタ、其ノ初年度分ト致シマシテ本年八千四百十五萬圓ヲ計上シテ居リマス
第五ニ災害費デアリマス、是ハ昨年九月橫濱實業守府管內建物ノ風水害復舊ニ必要ナル經費トシテ、三十五萬四千二百五十圓ヲ計上致シマシタ
以上ハ一般會計追加豫算ノ概要デアリマスガ、此ノ外ニ海軍工廠資金特別會計、海軍火藥廠作業會計、海軍燃料廠作業會計ニ於キマシテモ、事變ニ關聯致シマシテ事業量ガ著シク増大致シマシタノデ、ソレノ追加豫算ヲ要求致シテ居リマスケレドモ、特ニ御說明申上ゲル程ノコトモゴザイマセヌノデ、省略致シマス、何卒御審議ノ上御協賛アラントラ御願ヒ致シマス

○增田委員長 司法大臣
○柳川國務大臣 司法省所管昭和十六年度豫算定額追加要求額ハ、經常部四十八萬三千七圓、臨時部百二十四萬四千九百三十六圓、合計百七十二萬七千九百四十三圓デアリマス、今其ノ事由ヲ御說明申上ゲマス
第一ハ國防保安法制定施行ニ要スル經費デアリマスガ、現下内外ノ情勢ニ鑑ミ、國防保安法ヲ制定施行スルノ要ガアリマス、是ガ經費十四萬六千二百七十七圓ヲ經常部ニ計上致シテ居リマス、次ハ治安維持法改正ニ關スル經費デアリマスガ、治安維持法ノ改正ニ伴ヒマシテ、裁判及ビ檢察機構等ヲ整備スルノ必要ガアリマス、是ガ

第七十四回帝國議會ニ於キマシテ御協賛ヲ
經マシタ所ノ輸出振興施設費豫算外契約並
ニ會計法第十一條第一項ニ基キマシテ、昭
和十四年度以降二箇年度内ニ於キマシテ總
額千四萬圓ヲ限リ、戰時海上保險ニ關スル損
失補償ノ契約ヲ締結シタノデアリマスル
ガ、其ノ後ノ情勢ニ依リマシテ、引續キ右
ノ損失ヲ補償スル必要ガアリマスルノデ、
昭和十五年度以降六箇年度内ニ於テ總額千
萬圓ヲ限リ、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ
契約ヲ昭和十五年度ニ於テ締結スルコトヲ
要スルノデアリマス

第五八貿易振興施設費デアリマス、貿易
振興ニ關シ必要ナル施設ヲ講ジマスル爲メ
總額五千萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降二
箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契約
ヲ爲シ得ルノ件ニ付キマシテ、今次ノ第七
十六回帝國議會ニ於キマシテ其ノ御協賛ヲ
求メマシタノデアリマスルガ、其ノ後ノ情
勢ニ鑑ミマシテ更ニ五千萬圓ヲ増加シ契約
ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第六八、日本産金振興株式會社損失補償
デアリマス、日本産金振興株式會社損失補
償ニ關シマシテ、第七十四回帝國議會ノ協
贊ヲ經マシタ所ノ豫算外國庫ノ負擔トナル
ベキ契約ヲ爲スヲ要スル件中、日本産金振
興株式會社ノ事業擴充等ニ伴フ損失ノ増加
ニ鑑ミマシテ、日本産金振興株式會社法第
二十五條ノ規定ニ依ル命令ニ基キマシテ、
昭和十四年度ニ於テ着手シタル金製鍊業ノ
經營ニ因リ損失ヲ受ケタル場合ニ總額二百
五十萬圓トアルヲ總額六百萬圓ニ改ム
ルモノデアリマス

第七八石炭買取價格補償金ノ支出年度制
改定デアリマス、石炭買取價格補償金ノ支
出年度制改定ニ關シマシテハ、今次ノ第七
十六回帝國議會ニ於テ其ノ御協賛ヲ求メタ
ノデアリマスルガ、買入價格ノ調整、買取
數量ノ増加等ノ爲メ更ニ補償金ヲ増加スル
必要ガアリマスルノデ、昭和十六年度ニ於
テ三千五百六十三萬圓、昭和十七年度ニ於
テ三千七百六十四萬圓、合計七千三百二十七
萬圓ヲ増加シ契約ヲ締結スルコトヲ要スル
ノデアリマス

第八八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第九八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第十八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第十一八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第十二八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第十三八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第十四八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第十五八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第十六八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第十七八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第十八八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第十九八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第二十八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第二一八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第二二八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第二三八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第二四八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第二五八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第二六八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第二七八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第二八八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第二九八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第三〇八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第三一八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第三二八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第三三八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第三四八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第三五八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第三六八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第三七八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第三八八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第三九八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第四〇八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第四一八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第四二八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第四三八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第四四八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第四五八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第四六八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

第四七八北樺太石油利權確保補助金デアリ
マス、北樺太石油利權確保補助金ノ交付ニ
付キマシテハ、豫メ是ガ契約ヲナス必要ガ
アリマスルノデ、昭和十六營業年度ニ於テ
蒙ルベキ損失ヲ補償致シマスル爲メ、總額
六百四十一萬圓ヲ限リ、昭和十六年度以降
二箇年度内ニ於テ外國庫ノ負擔トナルベキ契
約ヲ締結スルコトヲ要スルノデアリマス

資金調達ノ爲メ發行スル社債額而三千七百
五十萬圓ヲ限リ、其ノ元利支拂ノ保證ヲナ
ス必要ガアリマスルノデ、是ガ保證ニ關シ
マシテ契約ヲ締結スルコトヲ要スルノデア
リマス
尚ホ昭和十六年度商工省所管、損害保險
國營再保險特別會計歳入歳出追加ニ付キ御
說明申上ゲマス、現下ノ國際情勢ニ對シテ
重要物資ノ輸入ヲ確保スル共ニ、之ニ對
應スル輸出振興ヲ圖リマスルガ爲メ、輸出
貨物ノ本船陸揚後、又ハ輸入貨物ノ本船積
込前ニ於ケル戰爭保險ノ實施ニ伴ヒマシテ、
歳入歳出共ニ一億六千七百四十九萬餘圓ヲ
追加計上致シマシタ次第デアリマス、何卒
御審議ノ上速カニ御協賛アラント希望
致シマス

○増田委員長 西川君ノ動議ニ御異議アリ
マセスカ
〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○増田委員長 御異議ガナケレバ動議ノ如
ク決定シマス、次會ノ開會日時ハ公報ヲ以
テ御知ラセシマス、本日ハ是ニテ散會致シ
マス
午後二時三十七分散會

(參照)
矢野委員要求ノ參考資料
一、昨秋臨時組會ノ組織ニ關シ知事宛
内務省訓令ノ寫
二、大政翼贊會推進班ノ組織ニ關シ知事
宛内務省訓令ノ寫
三、大政翼贊會ノ府縣支部長方既ニ選任
サレテキル府縣名ト未ダ選任サレテキ
ナイ府縣名及ビ知事方支部長ヲ兼任シ

其ノ外日本海運船團ニ交付スル補助金、
臨時家族手当支給ニ要スル經費及ビ外國人
恩給等二十三萬二千餘圓デアリマス
次ニ通信事業特別會計ノ昭和十六年度歳
入歳出追加預算ニ付キマシテ御說明申上ゲ
マス、今回提出セラレマシタ本會計ノ追加
預算ハ業務勘定デアリマスガ、其ノ金額ハ
歳入歳出共ニ二百八十三萬九千餘圓デアリ
マシテ、是ハ郵便官署ニ於ケル支那事業國
債ノ賣出募集並ニ買上ニ關スル事務ヲ本年
度ニ於テモ引續キ取扱フ豫定デアリマスノ
デ、歳入ニ於テハ右ニ伴フ取扱手續料ヲ、
又歳出ニ於テハ之ニ對スル取扱手續料ヲソ
レゾレ計上致シタノデアリマス、何卒御審
議ノ上御協賛アラント希望致シマス

○秋田委員長 拓務大臣
第一號中拓務省所管ノモノニ關シマシテ概
略ノ御說明申上ゲマス
拓務省所管一般會計追加預算ノ歳入總額
ハ五百萬三千餘圓デアリマシテ、其ノ内譯
ハ内外地連絡事務ニ要スル經費一萬八千圓、
轉廢業對策施設トシテ滿洲及ビ南洋方面ニ
對スル開拓民誘出等ニ要スル經費四百九十
三萬八千餘圓、臨時家族手当支給ニ要スル
經費四萬七千餘圓デアリマス、尚ホ此ノ外
ニ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關ス
ル件トシテ滿洲拓植公社債元利保證ノ契
約ヲナスヲ要シマスノデ、之ニ關シ御協賛
ヲ仰イデ居ル次第デアリマス
次ニ昭和十六年度追加預算案特第一號
中、拓務省所管ノモノニ關シマシテ概略ノ
御說明申上ゲマス、拓務省所管各地特
別會計ノ歳入歳出追加預算額ハ、歳入歳出
トモ朝鮮總督府特別會計一千五百八十五萬

テキル府縣名
四、支那事務發以來(今議會提出分ヲ
含ム)臨時軍事費累計額區分一覽表(財
源明示)
五、昭和十六年度各省別一般會計、外地
各特別會計豫算金額一覽表(追加各號
號累計)
六、各官廳臨時家族手当支給標準(例ハ
バ月額百圓以下ニ對シテ支給スル、家
族一人當リ幾何、獨身者ニハ支給セズ、
ト云フカ如シ)

西川委員要求ノ參考資料
一、昭和十五年水田造成及ビ開畑豫定
地所在地、面積、反當經費、收穫豫定
高
二、昭和十六年度水田造成及ビ開畑豫定
地所在地、面積、反當經費、收穫豫定
高
三、昭和十五年農園改善事業中水田ニ
轉換及ビ他ノ畑作物ニ轉換地ノ所在
地、面積、反當經費、收穫豫定高
四、昭和十六年度同上
五、昭和十六年度大規模開墾豫定地所在
地、面積、反當經費
六、各業種別、縣、郡、市町村、農業技
術員數
七、會社又ハ工場用空地ニシテ耕作シ
得ラル、豫定面積
八、空地ニシテ耕作ニ利用シ得ラル、
官有、公有地面積
九、農林省關係統制會社明細書
十、昭和十六年度豫算各案ヲ通シテノ補
助金、助成金、獎勵金ノ總額
十一、昭和十六年度豫算各案ヲ通シテノ

二千餘圓、臺灣總督府特別會計五百八十八
萬一千餘圓、臺灣官設鐵道用品資金特別會
計七千餘圓、樺太廳特別會計三十七萬八千
餘圓、南洋廳特別會計六十三萬五千餘圓ト
相成ツテ居リマス
今其ノ重要事項ニ付キマシテ簡單ニ御說
明申上ゲマスレバ、朝鮮總督府特別會計ニ
於キマシテハ、金ノ増産ニ關スル施設ト致
シマシテ乾式製鍊所ニ於ケル生産費補助ニ
要スル經費五百一十一萬二千圓、重要肥料
供給補助成金、製鐵用輸入石炭確保補助
金及ビ石炭生産補償金等生産力擴充ニ關ス
ル經費四百九十七萬七千餘圓、輸出補償金六
萬四千餘圓、中小商工業者中轉業又ハ廢業
ヲナサントスル者ニ對スル救済、其ノ他ノ施
設ニ要スル經費等二百六十二萬三千餘圓等
ヲ計上致シテ居リマス、臺灣總督府特別會
計ニ於キマシテハ、皇民奉公運動推進ニ要ス
ル經費六十一萬三千餘圓、生活必需品確保
及ビ配給統制、勞働統計實地調査、宅地建
物等價格統制、銀行等資金運用令施行、青
年國民登錄實施等、經濟統制ニ關スル經費
三十三萬八千餘圓、住宅營團設置ニ要スル
經費七十五萬六千餘圓、優良農具使用獎勵及
ビ重要肥料供給確保補助ニ要スル經費二百
一十一萬一千餘圓、砂金開發促進ニ要スル經費
百十七萬九千餘圓等ヲ計上致シマシタ、樺
太廳特別會計ニ於キマシテハ、食糧對策樹
立ニ要スル經費五萬餘圓、經濟警察擴充強
化、從業者移動防止令及ビ宅地建物等價格
統制令施行、重要物資調査等經濟統制ニ關
スル經費十萬九千餘圓、其ノ他災害復舊ニ
要スル經費、養護訓導設置、青少年團補助
等ニ要スル經費等ヲ豫定致シテ居リマス、
南洋廳特別會計ニ於キマシテハ、食糧對策

施設費ノ増加三十八萬七千餘圓、「パラオ
デリー」間航空路ノ中間基地タル「トコベ
」ニ無線電所設置ニ要スル經費十一萬四千
餘圓等ヲ計上致シテ居リマス
最後ニ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約
ニ關スル件ノ中、主ナルモノニ付キマシテ
御說明申上ゲマスレバ、朝鮮總督府特別會
計ニ於キマシテ、朝鮮重要産業資金債券元
利保證ノ限度ヲ擴張スル共ニ、新タニ糧
食配給機關損失保證、滿洲拓植公社債元
利保證及ビ朝鮮住宅營團債券元利保證等ノ
契約ヲ締結スルノ必要ガアリマス、ト、臺灣
總督府特別會計ニ於キマシテ、臺灣拓殖株
式會社債元利保證契約ノ限度ヲ擴張スル
ト共ニ、新タニ臺灣住宅營團債券元利保證
ノ契約ヲ締結スルノ必要ガアル次第デアリ
マス、何卒御審議ノ上御協賛アラントア
リマス

○増田委員長 厚生大臣
○金光國務大臣 厚生省所管昭和十六年度
一般會計追加預算ノ要領ヲ御說明申上ゲマ
ス、厚生省所管昭和十六年度一般會計追加
預算要求額ハ、經常部十一萬七千二百圓、臨
時部六百九十八萬七千六百七十六圓、合計
七百七十九萬四千八百七十六圓デアリマス、
今茲ニ其ノ大要ヲ御說明申上ゲマスレバ、
第一ニ勞働者年金保險制度創設ニ要スル經
費百十五萬七千七百七十八圓デアリマス
ガ、是ハ時局ニ鑑ミマシテ、勞働力ノ確保
及ビ培養ヲ圖リマス共ニ、國民生活及ビ
國民思想ノ安定ニ資シマスル爲メ、勞働
者年金保險制度ヲ創設致シマシテ、之ヲ昭
和十七年度ヨリ施行致ス豫定デアリマスノ
デ、是ガ實施準備ニ必要ナル經費デアリマ
ス

第二ハ轉廢業對策ニ關スル經費五百五十
萬六千五百三十圓デアリマス、中小商工業
者等ノ轉廢業ニ關シマシテハ、前年度ニ於
キマシテ職業轉換指導施設、國民勞務訓練
施設及ビ職業指導施設等諸般ノ施設ヲ講ジ
タノデアリマスガ、是等ノ施設ハ十六年度
ニ於テモ尚ホ引續キ實施ノ必要ガアリマス
ノデ、之ニ要スル經費ヲ計上致シタノデア
リマス
第三ハ臨時家族手当支給ニ要スル經費四
十四萬五千六百八十八圓デアリマシテ、是ハ昭
和十五年勅令第五百二十五號ニ依リ臨時
家族手当前年度ニ引續イテ支給セントス
ル經費デアリマス、何卒御審議ノ上速カニ
御協賛アラント希望致シマス
○西川委員 本日は是ニテ散會サレント
ヲ望ミマス

○秋田委員長 拓務大臣
昭和十六年度總算追加
第一號中拓務省所管ノモノニ關シマシテ概
略ノ御說明申上ゲマス
拓務省所管一般會計追加預算ノ歳入總額
ハ五百萬三千餘圓デアリマシテ、其ノ内譯
ハ内外地連絡事務ニ要スル經費一萬八千圓、
轉廢業對策施設トシテ滿洲及ビ南洋方面ニ
對スル開拓民誘出等ニ要スル經費四百九十
三萬八千餘圓、臨時家族手当支給ニ要スル
經費四萬七千餘圓デアリマス、尚ホ此ノ外
ニ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關ス
ル件トシテ滿洲拓植公社債元利保證ノ契
約ヲナスヲ要シマスノデ、之ニ關シ御協賛
ヲ仰イデ居ル次第デアリマス
次ニ昭和十六年度追加預算案特第一號
中、拓務省所管ノモノニ關シマシテ概略ノ
御說明申上ゲマス、拓務省所管各地特
別會計ノ歳入歳出追加預算額ハ、歳入歳出
トモ朝鮮總督府特別會計一千五百八十五萬

資金調達ノ爲メ發行スル社債額而三千七百
五十萬圓ヲ限リ、其ノ元利支拂ノ保證ヲナ
ス必要ガアリマスルノデ、是ガ保證ニ關シ
マシテ契約ヲ締結スルコトヲ要スルノデア
リマス
尚ホ昭和十六年度商工省所管、損害保險
國營再保險特別會計歳入歳出追加ニ付キ御
說明申上ゲマス、現下ノ國際情勢ニ對シテ
重要物資ノ輸入ヲ確保スル共ニ、之ニ對
應スル輸出振興ヲ圖リマスルガ爲メ、輸出
貨物ノ本船陸揚後、又ハ輸入貨物ノ本船積
込前ニ於ケル戰爭保險ノ實施ニ伴ヒマシテ、
歳入歳出共ニ一億六千七百四十九萬餘圓ヲ
追加計上致シマシタ次第デアリマス、何卒
御審議ノ上速カニ御協賛アラント希望
致シマス

○村田國務大臣 昭和十六年度通信省所管
追加預算ノ大體ヲ御說明申上ゲマス、昭和
十六年度通信省所管一般會計歳入追加要求
額ハ、經常部七千餘圓、臨時部千六百七十
二萬二千餘圓、合計千六百七十二萬九千餘圓
デアリマシテ、是ガ内譯ハ重要物資輸送ノ
完遂ヲ期スル爲メ海運ノ統制強化、船積ノ
擴充等ヲ圖ルノ要アルニ依リ、管船局機構
ノ整備ニ要スル經費二十六萬千餘圓、既
海防用定期航路ノ開設セシムル爲メ是ガ
補助ニ要スル經費十萬圓、時局關係本埠ト
イノ國及ビ佛領「インド」支那方面トノ連絡
ヲ緊密ナラシムル爲メ、東京「サイゴン」
「パナマ」間及ビ淡水「バンコック」間ニ定
期航空路、又既設臺北「バンコック」間ニ臨
時增便ヲ實施セシムル爲メ航空輸送補助ニ
要スル經費百九十九萬三千餘圓、日本發送電
株式會社配當補助金千四百四十萬餘圓、

其ノ外日本海運船團ニ交付スル補助金、
臨時家族手当支給ニ要スル經費及ビ外國人
恩給等二十三萬二千餘圓デアリマス
次ニ通信事業特別會計ノ昭和十六年度歳
入歳出追加預算ニ付キマシテ御說明申上ゲ
マス、今回提出セラレマシタ本會計ノ追加
預算ハ業務勘定デアリマスガ、其ノ金額ハ
歳入歳出共ニ二百八十三萬九千餘圓デアリ
マシテ、是ハ郵便官署ニ於ケル支那事業國
債ノ賣出募集並ニ買上ニ關スル事務ヲ本年
度ニ於テモ引續キ取扱フ豫定デアリマスノ
デ、歳入ニ於テハ右ニ伴フ取扱手續料ヲ、
又歳出ニ於テハ之ニ對スル取扱手續料ヲソ
レゾレ計上致シタノデアリマス、何卒御審
議ノ上御協賛アラント希望致シマス

○秋田委員長 拓務大臣
昭和十六年度總算追加
第一號中拓務省所管ノモノニ關シマシテ概
略ノ御說明申上ゲマス
拓務省所管一般會計追加預算ノ歳入總額
ハ五百萬三千餘圓デアリマシテ、其ノ内譯
ハ内外地連絡事務ニ要スル經費一萬八千圓、
轉廢業對策施設トシテ滿洲及ビ南洋方面ニ
對スル開拓民誘出等ニ要スル經費四百九十
三萬八千餘圓、臨時家族手当支給ニ要スル
經費四萬七千餘圓デアリマス、尚ホ此ノ外
ニ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ニ關ス
ル件トシテ滿洲拓植公社債元利保證ノ契
約ヲナスヲ要シマスノデ、之ニ關シ御

補償金ノ總額及ヒ明細表
十二、昭和十六年度豫算各案ヲ通シテノ
豫算外國庫負擔契約ノ一覽表

昭和十六年二月十三日印刷

昭和十六年二月十三日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局

第七十六回帝國議會 豫算委員會會議錄(速記)第十四回

昭和十六年二月十三日(木曜日)午後一時二十分開始

會議

- 出席委員左ノ如シ
委員長 增田 義一君
理事 伊禮 肇君 理事 小笠原 三九郎君
理事 佐藤洋之助君 理事 田中 好君
理事 西川 貞一君 理事 古田喜三太君
理事 三浦 虎雄君 理事 三宅 正一君
理事 宮澤 胤勇君 理事 森田重次郎君
理事 矢野庄太郎君
井上 良次君 泉 國三郎君
今井 新造君 江藤源九郎君
小野 謙一君 大本貞太郎君
加藤 綱一君 笠井 重治君
勝 正憲君 川崎 克君
木村 正義君 岸田 正記君
北 吟吉君 島田 俊雄君
助川啓四郎君 高田 耘平君
長野 長廣君 末松借一郎君
東郷 實君 米窪 滿亮君
中島彌次君 中山 福藏君
松本治一郎君 松村 光三君
一松 定吉君 平川松太郎君
深澤 吉平君 藤本 捨助君
堀内 良平君 河野 密君
前田房之助君 木暮武太夫君
森田 福市君 横川 重次君
一宮房治郎君

- 出席國務大臣左ノ如シ
鐵道大臣 小川郷太郎君
出席政府委員左ノ如シ
外務次官 大橋 忠一君
外務省東亞局長 山本 熊一君
外務省亞米利加局長 阪本 瑞男君
外務省調查部長 寺崎 太郎君
外務省通商局長 高瀬 眞一君
外務省條約局長 水野伊太郎君
外務省書記官 松本 俊一君
外務省主計局長 武内時之助君
內務省土木局長 成田 一郎君
大藏省主計局長 谷口 恒二君
大藏省書記官 氏家 武君
陸軍主計中將 石川半三郎君
海軍次官 豊田貞次郎君
海軍主計中將 武井 大助君
海軍主計大佐 爲本 博篤君
海軍大佐 高木 惣吉君
司法書記官 石田 壽君
文部書記官 柴沼 直君
商工書記官 末永 術君
逓信省經理局長 山田 良秀君
電氣廳部長 田倉 八郎君
鐵道次官 鈴木 清秀君
鐵道省經理局長 平山 孝君
鐵道省需品局長 堀木 鏗三君
拓務省拓北局長 今吉 敏雄君
拓務書記官 中野 勝次君
朝鮮總督府財務局長 水田 直昌君
臺灣總督府財務局長 中島 一郎君

增田委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス
矢野君
○矢野委員 議事進行ニ付テ發言ヲ求メマス、豫テ要求致シマシク大政翼賛會ニ關スル資料ハ、本日漸ク政府ヨリ提出セラレマシタガ、總理大臣ガ風邪ノ爲メ出席セラレナイトノコトデアリマスガ、之ニ關スル質疑ハ後日ニ讓ルコトト致シマシテ、是ヨリ追加豫算案其ノ他ノ部分ニ付キ審議ヲ進メラレタイト存ジマスガ、今回提出セラレマシタ追加豫算ハ總額實ニ一億三千餘万円ノ巨額ニ及ビ、是ガ總額費及ビ豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル金額ナド、洵ニ莫大ナルモノガアリマスノデ、審議ノ準備ヲナス爲メ本日ハ是ニテ散會シ、明日午前十時ヨリ開會シ、審議ヲ促進セラレントヲ望ミマス
○增田委員長 只今ノ矢野君ノ動議ニ御異議アリマセカ— 森田君
○森田(禮)委員 私ハ其ノ動議ニ反對スルノデアリマセカ、ソレハ結構デセウガ、斯ウ云フコトガアルノデス、大政翼賛會ニ關スル參考資料ノ請求ノ中デ、前職者ノ職名及ビ前職在職中幾ラ取ツテ居ツテ、現在翼賛會ニ入ツテカラ幾ラ貫ツテ居ルカト云フ資料要求ニ對シマシテ、副部长以上ノハ出スケレドモソレ以下ノハ出サナイト云フ話ガアツタサウデアリマスガ、ソレ以下ノ

ガ必要ナノデス、ソレヲ明確ニ致シテ置キマス、ソレ以下ノガ會社經理統制令ナドト脱合ハセテ見テ、至當ナリヤ否ヤヲ判斷スルノニ必要ナノデス、百圓取ツテ居ツタ者ガ三百圓ニナツテ居ルト云フヤウナ事實ガアルノデアリマスガ、ソレガ必要ナノデス、デスカラ副部长以上ノモ御出シニナルコトハ勿論必要デアリマスガ、ソレ以下ノ分モ必ズ出スヤウニ委員長カラ政府ニ御要求アラントラ私ハ切ニ御願ヒ申上ゲテ置キマス
○增田委員長 承知致シマシク— 只今ノ矢野君ノ動議ニ御異議アリマセカ
(異議ナシト呼ブ者アリ)
○增田委員長 御異議ガナケレバ動議ノ如ク決シマス、ソレデハ明日ハ只今ノ動議ノ通り午前十時ヨリ開會致シマス、本日ハ是ニテ散會致シマス
午後一時三十分散會
(參照)
佐藤委員要求ノ參考資料
一、大政翼賛會庶務規定及ビ會計規定

第一類第一號 豫算委員會議錄 第十五回 昭和十六年二月十四日
(第三號)昭和十五年度歲入歳出總豫算追加案
(特第三號)昭和十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案
(第一號)昭和十六年度歳入歳出總豫算追加案
(特第一號)昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

○增田委員長 會議ヲ開キマス、只今付託中ノ追加豫算案八件ニ付キ査テ進メマス、是ヨリ質疑ニ入りマス——高田平君

○石坂(豊)委員 一寸議事進行ニ付テ——
私ハ大政翼賛會ニ關スル資料ヲ要求シテアルノデアリマスガ、ソレニ對シテマダ全部ノ提出ガアリマセズ、ソレカラ今一件大政翼賛會支部ニ對シテ、府縣費ヲ以テ支出セル十六年度豫算府縣別表ト云フモノヲ要求致シマシク、之ニ對シテ該當ナキ見込ト云フ返事ガ來テ居リマス、所ガ私ノ知り得ル範圍ニ於キマシテ、或ル府縣ニ於キマシテハ三萬二千四百四十二圓ヲ支出シテ居ルノデアリマス、ソレハ或ハ私ノ申上ゲタヤウナ費目ニ該當シナイカモ知レナイ、仍テ私ハ更正シテ該當ニ要求致シマス、即チ昭和十六年度府縣費ヲ以テ大政翼賛會補助費、大政翼賛會運動費、又ハ之ニ類似ノ費目ヲ以テ支出スルモノアラバ、其ノ費目府縣別別調、斯ウ云フコトニ改メテ要求致シマス

○增田委員長 高田君
高田委員 私人一般下級官吏ノ待遇ノ問題ニ付テ先ヅ大藏大臣ニ伺ヒタイコトガアルノデアリマスガ、是ハ大臣ノ御出席マデ保留致シマシテ、農林大臣ニ對シテ主トシテ食糧ノ増殖ノ問題ニ付テ意見ヲ伺ヒタイト思ヒマス、本年ノ食糧ハ輸入米ノ或ル程度ノ確保ニ依ツテ、先ヅ以テ安定シ得ルト存ジマスルガ、來年以後ノ食糧ニ付キマシテハ、私共今日マデノ施設デハ到底安シズルコトガ出來ナイノデアリマス、昨日米穀ノ臨時應急措置ニ關スル法律ノ委員會ノ席上發表シタ内地七千萬石、朝鮮二千六百萬石、臺灣千百万石、斯ウ云フ數字ガ發表ニナリマシタガ、是ハ大體計畫デゴザイマス、計畫通りニ實行ノ出來ナイコトハ、昨年ノ米作ガ七千八百万石ノ計畫ニ對シテ、僅カニ六千八百万石ノ計畫ニ依ツテ立證シ得ルノデアリマス、故ニ計畫ハ單ナル傾倒シナケレバナラヌケレドモ、之ヲ當テニスルコトハ出來ナイノデアリマス、ソコデ私共今日マデノ施設ヨリ何カ變ツタ思ヒ切ツタ施設ヲシナケレバナラヌト存ジテ居ルノデアリマス、先ヅ食糧増殖ニ最モ必要ナル要素ハ天候デゴザイマス、併シナガラ誰カ昭和八年ノ如ク内地生産ガ五千万石、或ハ又朝鮮ノ生産ガ昨年ノ如ク千四百万石ニナラナイト断定シ得ル人ハナイト思ヒマス、サウ云フコトヲ考ヘルト凡ユル方面カラ思ヒ切ツタ施設ヲシナケレバナラス、先達テ「ラチオ」デ加藤完治サンガ教ヘタノカ、總理大臣ガ士ヲ深ク掘レトカ、

肥田ヲ擔ゲトカ云フコトヲ仰シヤツタガ、是ハ無論必要デアリマス、又農林大臣ガ内原ニ全國ノ中堅ノ農業労働者ト見ルベキ者ヲ果メテ、一種ノ精神運動ヲヤツタコトハ結構デアリマス、併シナガラ精神運動ニ依ツテ増殖ノ豫想スルコトハ出來ナイ、剩マアノ二萬數千人ノ人、此ノ人ハ今後農業推進隊トシテ大臣ノ指導ノ下ニ働クデゴザイマセウガ、是モ大シク數量ハ無論豫想スルコトハ出來ナイ、ソレノミナラズ是等ノ人々ニ向ツテ相當ノ報酬ヲ拂フコトニ依ツテ、活動ヲ豫想スルコトガ出來ヌケレドモ、熱心ニ一家ノ農業ニ従事スル人ニ無報酬ヲ推進スルコトハ言ツタ所デ、到底豫期ノ成果ヲ得ルコトハ言ツタ所デ、思ヒマス、之ニ故ニ精神運動極メテ必要ナリト雖モ、之ニ依ツテテノ程度ノ數量ノ増加ヲ豫想スルコトガ出來ルカ、是ハ豫期出來マセズ、併シナガララヤナケレバナラヌ、此ノ點ハ同感デアリマス、其ノ次ニハ耕地ノ擴張及ビ改良、是ハ政府ガ今度ノ豫算ニ於テ最モ重キヲ置イタ點デゴザイマス、私共モ全然之ニ反對スル者デハゴザイマセズガ、併シナガラ開墾ヤルト云フコトニ付キマシテハ相當ノ人力ヲ要シマス、今日デサヘ既ニ勞力不足ノ爲ニ、或ハ其ノ他ノ事由ニ依ツテ多クノ田畑ガ不毛ニ歸セントシツツアル場合ニ於テ、一面ニ於テ大規模ノ開墾計畫ト云フコトガ是ト立ビ行ハレルヤ否ヤト云フコト、是亦頗ル疑問デゴザイマス、若シ又勞働力ガ十分デアツテ、思フ通りニ出來タ所ガ、開墾地ヨリ米ヲ獲ルト云フコトニ付テハ、相當ノ年月ヲ要サナケレバ中々收穫ヲ得ルコトハ出來ナイ、是亦豫期ノ成果ヲ期シ得ルコトハ困難ト存ジマス、次ハ格價政策ノ

問題デゴザイマス、分科會等ニ於テ、或ハ昨日モ一昨日モ米穀ニ關スル法律案ノ委員會ニ於テ米ノ價格ヲ引上ゲヨトカ、助成會ヲ交付セヨト云フヤウナ議論ガゴザイマシテ、之ニ對シテ農林大臣ハ十五年度分ニ對シテハ到底之ニ應ジ難ネルト答辯セラレタウデゴザイマス、併シナガラ私ハ其ノ點ニ付テハ一切觸レマセズ、唯私ガ農林大臣ニ要求スルコトハ其ノ方法ノ如何ナルヲ問ハズ、昭和十六年度ヨリハ農民ヨシテ喜ンデ米及ビ其ノ他ノ主要食糧農産物ヲ作ルコトニ仕向ケナケレバナラヌト云フコトヲ希望シテ置クニ止ママス、此ノ點ニ付キマシテハ農林大臣ノ誠意ニ信賴致シマシテ、私ハ價格問題ニハ觸レマセズ次ハ一般耕種ノ改善ノ問題デゴザイマス、是亦決マリ切ツタ話デ或ル程度ノ豫算ハアルト思ヒマス、而シテ以上述べマシタルコトハ、是ハ肥料モ澤山アリ、人力其ノ他凡ル資材等方十分ノ時ニ於テ初メテ是ガ目的ヲ達スルノデアリマスガ、今日ハサウデハナイ、ソコデ私共ハ此ノ開墾計畫ヲ提出シテ、政府ニ對シテ食糧ノ増殖ニ對シテ思ヒ切ツタ施設ヲセヨトノ要求ヲ全會一致ヲ以テ致シタノデアリマス、然ルニ今回御提出ニナリマシタ所ノ農林省豫算中食糧増殖ニ關スルモノヲ拜見致シマスルト、私共ガ要求シタモノニ付テノ大部分ハ目的ヲ達スルコトガ出來ナイノデアリマス、私ハ極メテ之ヲ遺憾ト致シマス、決議案ノ要點ハ御承知ノ通り肥料、其ノ他生産必需品ノ確保ト云フコトガ第一デゴザイマス、併シナガラ此ノ肥料ノ増殖ハ吾々ノ最モ熱望スル所デゴザイマス、資材ノ配給ヲ十分ニシ、或ル程度無償肥料ノ價格ヲ引上ゲレバ或ル程度ノ生産可能ナ

リト言フ人モゴザイマスカラ、私ハ政府ニ對シテ出來ルダケ肥料生産ニ必要ナル資材ノ提供ヲ要求スルモノデゴザイマス、併シナガラ肥料ノ問題ニ付テハ、増殖ノミナラズ、適當ナル時機ニ配給スルコトト、而シテ其ノ肥料ノ使用方法ニ付テ適當ナル指導ヲ要スルト存ジマス、例ヘバ碓安ノ使用方方法ニ付キマシテモ、單ニ移植期ニ植付ケルノニ之ヲ使フヨリモ、稻ノ花ノ出ル前ニ之ヲ使ハシメルコトニ依ツテ非常ナル效果ガアリト稱セラレルノデアリマス、是ハ農事試驗場ノ成績ノ示ス所デゴザイマス、此ノコトヲ誰ガスル、要スルニ優良ナル技術員及ビ各町村ノ所謂精農ガ此ノ任ニ當ラナケレバナラヌト思フノデアリマス、然ルニ農林省ノ豫算ヲ拜見スルト、技術員ニ對スル問題、或ハ又督勵員ニ對スル問題等ハ豫算ニ計上サレマセズ、唯府縣及ビ郡ノ指導員ニ對スル費用ガ僅カニ計上サレタニ過ギナイノデアリマス、到底此ノ肥料ノ適當ナル使用ト云フコトニ付キマシテノ指導ハ完全ニ出來マセズ

第二ニハ勞力ノ問題、今アル所ノ田畑ガ相當數荒廢ニ歸シ、又ハ歸セントシツツアル所以ノモノハ、要スルニ勞力ノ不足デアル、此ノ勞力ノ不足ノ點ニ付キマシテハ種々今日マデ計畫ガアツタヤウニ存ジマスルガ、此ノ點ニ付テ文部大臣一ノ寸伺ヒタイコトガアルノデアリマス、大政翼賛會ト云フ名目デ戰時食糧増殖ニ配付サレマシタ、極メテ結構デアリマス、大政翼賛會ハ政府ノ政策ニ協力スルモノデゴザイマスカラ、此ノ印刷物ニ書イテアル所ノ増殖ノ運動、節米運動ハ無論農林省及

ビ文部省ガ此ノ意見ヲ決定シテ、大政翼賛會ガ之ニ共鳴シテ協力シツツアルモノト思ヒマスルガ、此ノ内容ヲ見ルト、學生、生徒兒童ノ農業勸励、或ハ又女子農業勸励等、學生、生徒ガ今日マデノ授業ヲ受ケタ時間ヲ相當ニ少クシテ、サウシテ各種ノ農業労働ニ從事セシムルト云フヤウニ書イテアルノデアリマス、是ハ指導宜シキヲ得レバ相當ノ效果ヲ擧ゲルコト極メテ明白デゴザイマスカレドモ、指導宜シキヲ得レバ頗ル疑問ノ點ガアルノデアリマス、此ノ點ニ付テ文部大臣ハ如何ナル程度ニ於テ學校ノ授業日數ヲ減ラシ、如何ナル程度ニ於テ學生、生徒ヲシテ農業ニ從事セシムルト云フ方針ヲ執ラルノデアリカ、是ハ文部大臣ヨリ伺ヒタイト思ヒマス、同時ニ又農業労働ノ確保ノコトニ付テ、是ハ厚生大臣ガ居ラレバ宜イノデアリマスガ、農林大臣モ御承知ノコトデゴザイマスカラ、農林大臣ニ伺ヒマス、昭和十五年度ヨリ厚生省豫算トシテ町村事務員協同會ト云フモノガ各町村ニ設ケラレテ、之ニ依ツテ勞務ノ調整ヲスルト云フ計畫ガゴザイマス、私遺憶ナガラ其ノ内容ヲ知りマセズガ、私共ノ地方ノ狀況ヲ聞クト、百万圓ノ豫算デ、一町村約八十圓デス、所ガ此ノ協同會ガ設ケラレナイ所ガ多イ、十五年度ノ豫算デスカラ設ケテナケレバナラヌノデアリカレドモ、マダ設ケラレナイ町村ガ多イ、而シテ職業紹介所ガ、今日ハ如何カ名前ガ變ツテ居リマセ、農業労働ノ如何ヲ構ハズシテ、無暗ニ軍需工業共ノ他ノ方面ニ青年ヲ勸励スルノデアリマス、是ハ若シ此ノ調整協同會ナラモノノ活動ガ、各町村ニ於テ完全ニ行ハ

レテ居ルト致シマシタナラバ、ソノ現象ハ起ラナイ管デゴザイマスカレドモ、此ノ協同會ニ對シテ農林大臣ハドウ云フ考ヘヲ持ツテ居ラレルカ、極メテ重要ナ問題デアルト存ジマスカラ、其ノ内容ヲ伺ヒタイト存ズル次第デゴザイマス
次ハ私共ガ要求シタ問題ハ低位耕作者ノ引上デゴザイマス、是ハ大臣御承知デゴザイマセウガ、同僚ノ村上國吉君ガ一昨年郡農會長ヲシテ居ル郡ニ付テ調べタモノニ依ルト、精進ト申シマセウカ、兎ニ角モ能ク働イテ肥料モ完全ニ使フト云フヤウナ農家ノ米ノ收穫ト、賦課ト申スコトハ當ラヌカモ知レマセズガ、先ヅ餘リ勉強シナイデ、肥料モ餘リ買フコトノ出來ナイ農家ノ收穫ト比較スルト、一反歩ニ付テ五斗八升幾ラ違フノデアリマス、是ハ一昨年ノ非常ニ天候ニ恵マレタ年——但シ湯水ハゴザイマシタガ、此ノ湯水デ旱魃ノ所ハ取除イタ計數デゴザイマス、其ノ他ノ所ハ天候ガ良イ爲ニ非常ニ豐作デアツタ、ソレデサヘモ一反歩ニ付テ五斗幾ラ、割合ニシテ二割幾ラノ差ガ精進ト然ラザル者トノ間ニアルノデアリマス、故ニ此ノ低位耕作者ニ對シテ相當ノ指導督勵ヲ加ヘテ、其ノ收穫量ヲ引上ゲシムル方法ヲ完全ニ執レバ、急ニ精進ノ收穫程ニハナリマセズケレドモ、一反歩ニ付テ二斗ヤソコラノ收穫ハ上ゲ得ルト私ハ見マス、但シ同僚村上國吉君ノ調べタモノハ米作ニ付テデゴザイマス、所ガ耕作ノ大麥ニ付テモ、小麥ニ付テモ、多少農村ノ事情ヲ知ル人ハ分ル通り、是ハ米ヨリモモトト一反歩當リノ收穫ハ精進ト然ラザル者トノ間ニ於テハ非常ニ差ガアリマス、之ニ付テモ指導監督宜シキヲ得マシタナラバ、一反

第一類第一號 豫算委員會議錄 第十五回

農産物ヲ耕作セシムルコトニ依ツテ、私ハ相當ナル食糧ノ確保ガ出來ルと思ヒマス、所ガ豫算ヲ拜見スルト、補償金ノ豫算ハゴザイマセス、或ハ補償金ハ出サズニ此ノ目的ヲ達セントスルノデアルカナカ存ジマセスガ、是デハ私ハ農民ハ非常ニ迷惑ヲ感ズルト思フデゴザイマス、桑畑ヲ六万六千町歩ヲ減ラシテ、何カ食糧農産物ヲ作ルト云フ案ガゴザイマスガ、是ハ極メテ結構ナコトデゴザイマス、併シナガラ五十六万町歩バカリノ桑畑デゴザイマスカラ、纖維原料モ必要デアルデゴザイマスカラ、此ノ點上ニ必要デアルノデアリマスカラ、此ノ點ニ付テモ尚思ヒ切ツタ政策ガ必要デアルヤウニ私ハ常ニ思ツテ居ル、即チ農地管理令ノ發動ニ依ツテ嗜好農産物、嗜好農産物、其ノ他種々ノ農産物ヲ耕作スルコトヲ禁止シ、或ハ制限シテ、サウシテ主要食糧農産物ヲ耕作セシムルコトニ致シマシタナラバ、此ノ方面ニ於テ、私ハ如何ヨリモ五百万、六百万石ノ増收ガ豫算シ得ル信ジマス、然ルニ此ノ方面ニ付テノ豫算ガ一錢モナイヤウニ思ヒマス、是ハ極メテ遺憾ノコトデアリマス、尙ホ申上レバ、種々ノ點モゴザイマスカラ、之ヲ要スルニ低位耕作者ノ收量引上ノ問題ト云ヒ、或ハ又耕種改善ノ問題ト云ヒ、又肥料使用ノ方法改善ト云ヒ、是レ皆優良ナル技術員ト、而シテ各町村ノ篤農家ノ動員シテ、此ノ目的ヲ達スル以外ニハナイノデゴザイマス、所ガ政府ハ豫算ヲ提出スルニ當ツテ、此ノ決議案ノ意味ヲ採用シテ居リマセス、決議案提出ノ當時否決ノ後、總理大臣ハ食糧問題ハ重要デアルカラ、政府ハ出來ルダケ努力シテ居ル、今後モ尙ホ努力スルト申シマシタカラ、吾々ノ要求シタ

現在アル田畑ヨリ今日以上ニ増收スルト云フ點ニ付キマシテハ、遺憾ナガラ滿場一致ノ吾々ノ熱心ナル意見ヲ採リマセス、甚ダ遺憾デゴザイマス、吾々ノ言フコトハ道理ガアルト信ジマス、低位耕作者ノ收量引上ゲニ依ツテ必ズ相當ノ増收ガ得ラレマス、管理上ノ發動ニ依ツテ相當ノ補償金ハ要リマスカラ、必ズ數百萬石ノ主要農産物ガ増收ヨリ得ラレマス、此ノ場合西瓜ハナクテハナラストカ、蜜柑ヲ食ハナクテハナラストカ、或ハ煙草モ思フヤウニ喫ハナケレバナラストカ、ソノナコトデハイカス、ソノナコトハ一切思ヒ切ツテ、西瓜畑モ減ラシベシ、都合ニ依ツテハ煙草畑モ減ラシベシ、唐茄子畑モ減ラシベシ、斯ウ云フヤウニ思ヒ切ツタ政策ガアルノデアリマス、此ノコトハ勅令ガ出來タノニ、ソレヲ實行スルコトニ咨カデアツテ、若シ夫レ昭和八年ノ如キ内地生産五千万石ト云フ場合ガアツタナラバ、政府ハ何ノ面目アツテ國民ニ見エントスルカ、低位耕作者ノ收量引上ゲモ其ノ通り、ヤレバ出來マス、之ニ關スル豫算ハアルケレドモ、極メテ貧弱デ言フニ足ラヌ、斯様ニ色々ノ方法ガアルニモ拘ラズ、單ニ比較的效果ニ緣テ耕地ノ擴張ニノミ重キヲ置イテ、目前ノ危機ヲ救フノ方策ヲ執ラザルハ、何トシテモ私ハ忍ビマセス、何故ニ政府ハ吾々ガ過般ノ決議案ニ依ツテ決議シタル此ノ可能性ノアルモノヲ採ラナイノデアリマスカ、此ノ點ニ付テ、實ハ大藏大臣ガ居ラレバ御伺ヒシタイノデアリマスガ、農林大臣ノ御意見ヲ聽キマシテ、後ニ大藏大臣ガ出ラレマシタ時ニ大藏大臣ノ御意見モ伺ヒタイと思ヒマス、先ヅ以テ此ノ點ニ付テノ農林大臣ノ御所信ヲ伺ヒマ

ス

○橋田國務大臣 只今ノ高田君御尋ネノ、文部省ニ關係シテ居ル點ニ付テダケ御答辯申上ゲマス、農業方面ニ於キマシテ勞働力ノ不足ナルニ鑑ミマシテ、學生生徒ヲ動員シマシテ其ノ不足ヲ補ツテ、食糧品増産ノ本旨ニ副ヒタイと思ツテ居ルノデゴザイマス、併シナガラ幾ラノ手不足デアルカト云フハツキリシタ人員ガ分リ、又ソレニ對シテ學生生徒等ヲ如何ニ動員スベキカト云フコトニ付キマシテハ、十分組織アル計畫ヲ持タナケレバ、唯大勢人ガ出タト云フダケデハ役ニ立タナイコトハ申スマデモナイコトデゴザイマシテ、其ノ點等ニ關シマシテハ農林省當局等ト能ク協議ヲ重ねテ、勞力ノ不足ヲ補ヒ、併シナガラ又過剩ノ勞力ヲソコヘ動員シテ、學生生徒ガ唯遊ビニ出タト云フヤウナコトノナイヤウニ致シタイト思ツテ居ルノデゴザイマス、其ノ際ニ若シ勞力ガ非常ニ澤山缺乏シテ居ル故ニ農業ヲモ幾分力短縮シナケレバナラナイト云フ事情ガアル程ナラバ、短縮シテモ宜シイト云フ決心マデ致シテ居ルノデアリマシテ、無理ニ短縮シテヤレト云フ意味デハアリマセス、夏休モアリマシテ、色々アリマスカラ、其ノ方ヲ利用シナガラ、ソレデモ尙ホ足リナイト云フ時ニハ、此ノ際ノコトデアリマスカラ、學業ヲ短縮シテモ宜イカラ食糧品増産ノ方ヘ御助力申上ゲヤウ、斯ウ決心ヲシテ居ルノデゴザイマス

○高田委員 大政翼賛會カラ私共ニ配付サレマシタ「戰時食糧増産節米運動方針」ト云フノヲ見ルト、只今大臣ノ御説明ニ付ツタヤウナソシナモノデハナイ、食糧増産ニ付テハ一、勞力ノ増強、女子農業動員、學生生

徒、兒童農業動員、此ノ學生生徒農業動員ニ付テ一寸讀ミ上ゲマスト農繁期ニ於ケル勞力ノ増強ハ増産ノ決定ノ要件トス、六月麥刈、田植、春蠶ノ時期、地方ノ實情ニ應ジ相當期間ト十月月中旬ヨリ十一月月中旬甘藷掘、麥播キ、稻刈ノ時期相當期間、此ノ二農繁期ニ勞力ノ増強アラバ増産ニ成功シ得ベキヲ以テ戰時下學生生徒兒童ノ報國運動實物教育トシテ尋常小學四年以上ノ兒童生徒學生ノ教室授業ヲ中止シ右相當期間農業勞働ニ専念セシム」斯ウ云フコトガ書イテアル、私ハ尋常小學四年以上ニ授業ヲ中止シテヤラセルトコトハイカスト思フ、少クトモ高等小學以上ナラバ役ニ立ツガ、尋常小學ノ十一、十二ノ子供ハ却テ邪魔ニナルノガ多イ、私ハ子供ノ時カラ百姓ヲヤツテ知ツテ居リマスケレドモ、尋常科ノ生徒ナント云フモノハ、中ニハ役ニ立ツモノモアリマスケレドモ、使ツタ所ガマルデ役ニ立タヌモノガ多イ、此ノ大政翼賛會ノ出シタモノニハ、尋常四年以上ヲ動員スルト書イテアリマシテ、之ヲ以テ何カ全國ヲ「ブロック」ニ分ケテ宣傳スルトカ言ツテ居リマス、是ハ農林省、文部省ハ御認メニナラナイノデスカ、大政翼賛會ガ是ダケノコトヲ宣傳スルカラニハ、無論農林省、文部省ト相當御協議ノ上ニ世間ニ發表シテ、此ノ運動ヲシテ居ルモノト思フノニ、只今ノ文部大臣ノ御答ヘヲ聽クト甚ダ是ト違ツテ居ル、是ハアナタハ認メナイノカ、之ヲ御伺ヒ致シマス

○橋田國務大臣 此ノヤウナ計畫ノアリマスコトハ、或ハ當局ノ下僚ノ方ニハ相談中カモ知レマセスケレドモ、私ハ存ジマセス、吾々ガ今考ヘテ居リマスコトハ、學生生徒ノ數ヲ考ヘマスト非常ニ澤山ゴザイマス、

之ヲ總動員シテ行キマス、相當ノ勞働力ニナラウト思フノデアリマス、動員シマス時期ハ丁度授業中デアリマスケレドモ、全部ノ學生生徒ヲ此ノ時期ニ使用スル必要ハナイデアラウト考ヘテ居リマス、ソコデ其ノ時ニ授業ヲ休ミマシテモ、其ノ休ムモノハ夏休ニ之ヲ補フト云フヤウナ方法モアリマスコト、動員ノ數ト、之ヲ如何ニシタナラバ補ヘルカト云フ計畫等ガ立チマセスト、ドレダケノ人ヲ動カシタラ宜イカト云フコトスラマダハツキリ決マツテ居ナイト思フノデアリマス、デアリマスカラ、唯四年以上ヲ動カス、斯ウ云フヤウナ漠然トシタコトデ計畫ハ出來ナイノデゴザイマシテ、若シモ四年以上ノモノヲ動カサナケレバ足ラナイト云フナラバ別問題デゴザイマシテ、高等小學校ガケデ済ミマスカ、或ハ中學ガケデ済ミマスカ、其ノ邊ノ所ハ、動員計畫ガ十分ニ明カニナツタ上デ、何處ヲドウ動カスト云フコトハ、具體的ニ考ヘルベキコトダト思フテ居リマス、學生生徒ヲ動カシマスコトハ、文部省ガ主トナツテヤラナケレバナナイ問題デゴザイマシテ、又一面ニ於キマシテ學生生徒ヲ動カスト云フ場合ニハ、唯勞力ヲ利用スルト云フ以外ニ、文部省ト致シマシテハ、是ハ教育訓練ト云フ意味ヲ持ツヤウニ動員シナケレバナラナイノデゴザイマシテ、其ノ點十分ニ考ヘマシテ、今案ヲ作リツツアルノデゴザイマシテ、此ノ案ノ通り實施スルカシナイカト云フコトハ、實際ノ組織計畫ガ出來テ行キマセスト、ドウモ御返答ハ申上ゲラレマセス

○高田委員 私モ多分サウダラウト思フ、唯文部大臣ナンカハ餘リ能ク知ラヌノニ、大政翼賛會ガコンナ變ナボンヤリシタ案ヲ

立テテ各地方ニ宣傳シタコトニ付テハ、私ハ善イカ知リマセス、但シ其ノ趣意ニハ贊成シマス、成ベク學生生徒ノ教育上ニ於ケル效果ヲ減ゼザル方法ニ於テ有效ニ、サウシテ農業勞働力ノ不足ヲ補フト云フコトハ全然同意デスガ、四年以上ノ生徒ハ全部動員スルト云フヤウナコトハ行過ギデアラ、サウスト大政翼賛會ノ運動ハ政府ニ協力スルノデハナクテ、出過ギダト見テ宜ケレバナラヌ、私ハソレニハ贊成スルガ、斯様ニ政府ガ能ク知ラヌノニ、コンナコトヲ決メテ宣傳スルト云フコトデアツタラ、大政翼賛會ガ政府ノ意見ト違ツタモノヲ宣傳スルトコトニナツテ、無益ダコトカ有害ナモノガアルカモ知レナイ、趣意ハ宜シイ、併シ是ハアナタノ方デハ知ラヌコトデ、大政翼賛會ノ方デ勝手ニヤツテ居ルコトト了解シテ宜シウゴザイマシマス

○橋田國務大臣 御答ヘ申シマス、大政翼賛會ノ方ニ於キマシテモ、恐ラク趣旨ヲ宣傳スルト云フ意味デアリマシテ、計畫ヲ宣傳スルト云フコトデハナカラウト了承致シマス、其ノ趣旨ニ於キマシテハ既ニ文部省ノ方デモ計畫ヲシテ居ルノデゴザイマス、能ク省議ヲ決メマシテ、ドウ云フ意味デアルカ大政翼賛會ノ方ニ伺ヒマセスト、本旨ガ何處ニアルカ、今日大政翼賛會ノ方トマダ連絡ガアリマセスカラ、何レ適當ニ善處致シタイと思ツテ居リマス

○高田委員 只今ノ文部大臣ノ御答辯ニ依レバ、能ク知ラヌヤウデアリマス、知ラヌ管デス、四年以上ノ尋常小學ノ兒童ノ授業ヲ中止スルト云フヤウナコトハ、文部大臣トシテ申上出來ルモノデハナイ、出來スコ

トハ明カデアアル、コンナコトヲ宣傳サレタハ困ル、趣意ハ宜シイガ、是ハ國民ニ非常ナ誤解ヲ起サセル、一體近頃ハ色々ナモノガ出來テ、色々ノ會ガ出來、ソツチコツチ宣傳ガ多クテウルサクテ仕方ガナイ、何ニモナラヌデ困ルカラ、一ツ農林省ノ方デモ、文部省デモ氣ヲ付ケテ下サイ、農村デハ各方面カラ色々ナ宣傳ガ來テ困ツテ居ル、殊ニ尋常四年以上ハ全部休校サレナドト云フコトハ、馬鹿々々シイ話デアル、斯ウ云フコトハ國民ニ非常ニ疑惑ヲ與ヘマスカラ、此ノ趣旨ノ宣傳ナラ宜イガ、此ノ通りノ宣傳デハ國民ヲ誤リマスカラ、是ハ政府ノ方カラ大政翼賛會ニ向ツテ此ノ通りノ運動デハイカスト云フコトノ御話ヲ願ヒタイト存ジマス

○石黒國務大臣 高田サンノ御意見御質問ハ非常ニ重大ナコトデアリ、且ツ多クノ方面ニ互ツテ居リマスコト、何カラ申上ゲテ宜イカ(笑聲)只今文部大臣ニ小學校生徒ノ問題ニ付テ御尋ネニナリ、農林大臣モ知ツテ居ルカト云フ御話ノアツタ點カラ始メマス、大政翼賛會ノ方デ學生生徒ヲ農業勞働方面ニ援助サセルコトニ依ツテ一面調育ニモ資シ、一面増産ニモ幾分ナリトモ寄與セシメヨウト云フ計畫ノアルコトハ承知シテ居リマスガ、細カイトハ承知シテ居リマセス、恐ラク事務當局ノ方トハ連絡ノアツタコトト存ジマス、農林省ト致シマシテハ、學生生徒ノ本分ハ何處マデモ學業ノ完成ニアルト存ジマスガ、併シ只今ノ時局下ニ於ケル學生生徒ニハ、平常時ノ學生生徒ト違ヒマシテ、我が國情、時局ヲ相當ニ認識セシメル訓育ガ極メテ必要ダト私ハ確信致スノデアリマス、唯サウカト申シテ、高等ノ

學校ノ教育ヲアリマシテモ、其ノ學生ガ直チニ目前ノ政治的、或ハ社會的問題ニ飛込ムヤウナコトハ過ギタコトデアルト考ヘルノデアリマス、併シ現時ノ學生生徒ハ時局ノ認識ヲシテハイカス、ソレヲ食糧問題ノ方ニ結付ケテ、時局認識、現下ノ國情ガ洵ニ非常ナ事態ニ際シテ居ルノダト云フコトヲ、知ラシメルコトハ、最も良イ方面ダト私ハ考ヘテ、此ノ學ニ對シテ贊成シテ居ル者デゴザイマス、而シテソレガ幾分ナリトモ増産ニ役立つコトデアレバ、洵ニ結構ナコトダト言ハザルヲ得ナイト思フノデアリマス、少年ノ小サナ者デアルト、農業方面カラ申スト、仰セノ通りニ場合ニ依ツテハ却テ手足離レ、或ハ邪魔ニナルコトガアルカモ知レマセス、併シ他面サウ云フ時局認識ノ意味カラ言フト、意義アルモノナラバ、ヤハリ此ノ際ニ手傳ツテ貰フノガ宜イノデハナカラウカト思ヒマス、併シ何處マデモ學業ノ修練ガ第一義デアツテ、之ヲ害シテナラヌコトハ勿論デアリマス、大體ソノ考ヘデ居ルノデアリマス、尙ホ地方ノ實情カラ申スト、學校ノ生徒ガヤツト云フコトハ、一般國民ニ對シテ時局認識ノ非常ニ深メルト云フコトモアルヤウニ考ヘマス、私共ノ努力ジテ參リマシタ木炭搬出ノ場合ノ如キ、幼少ナル學校ノ生徒ガ、炭俵ヲ一俵ツツ擔イデ送り出シタト云フヤウナコトガ動機ニナツテ、山元ニ溜マツテ居ツタ炭方兩三日ノ内ニ村民ノ協力ニ依ツテ停車場ニ運バレタト云フヤウナ事例ヲ、滋賀縣邊リデ見タヤウナコトモアリマスノデ、ソコマデ生徒ノ就勞ト云フコトガ影響ヲ持ツモノカト云フ感ヲ深クシタコトモアルノデアリマス、意外ナ點ニ於

テ國民ノ時局認識ニ對シテ非常ナ效果ガアルノデハナカラウカトモ思フテ居リマス、食糧問題ニ關シテ高田サンノ非常ナ御心配ヲ戴キマシテ、色々御尋ネテ戴イタ點ハ、總テ背筋ニ當ツテ居ルノデゴザイマシテ、私共洵ニドレモ同感デゴザイマス、本年ノ食糧對策トシテハ、色々ヤツテ居ル所、及ビ外米ノ輸入計畫等ニ依ツテ、今年ハ宜カラウ、併シ明年トナリ、明後年トナツタ場合ノコトヲドウスルカ、斯ウ云フ所カラ御質問ガ發足ヲシテ居ルヤウニ承ツタノデアリマスガ、衆議院ノ御決議ノ中ニハ、外米依存カラ即日離脱スルヤウニ云フ御趣旨ガアリマシタケレドモ、其ノ御精神ハ私共洵ニ御同感デアリマスガ、今日ノ國情直チニソレニ從ヒマシテ、外米ノ輸入ヲ斷念致スト云フ譯ニハ參ラナイ事情ヲ遺憾ト致シマス、而シテ前ニ此ノ豫算總會ノ席上ニ於キマシテ、櫻井サンデアリマシタカドナタデアリマシタカノ御意見、御質問ニアリマシタヤウニ、外米ノ輸入ニ俟ザルベカラズトスルモノガアルナラバ、多少長期ニ互ツテノ計畫ヲ立テテルコトガ必要デアリマシカ、新ウ云フ御意見ガアツタノデアリマス、政府ト致シマシテハ其ノ點ニ同感ヲ抱イテ居ルモノデアリマシテ、サウ云フ計畫ノ下ニ於テ話合ヒヲ付ケテ居リマスヤウナ次第デアルト云フコトヲ、其ノ當時申上ゲタコトヲ私ハ記憶シテ居リマス、ソコデ、無論食糧ノ生産ハ、御指摘ノ如クニ天候ニ支配サレルコトガ多イノデアリマス、内地ノ農業モ外國ノ農業モ此ノ點ニ於テハ同ジデアリマス、故ニ先キコトヲ約束ヲ取極メタ所デ、必ズシモ天候上サウ行カナイカモ知レマセス、又國際關係ノ變局如何ニナルカ

業經驗者等ヲシテ十分ニ働カセルニ必要ナル經費ノ計上ガ十分デナイ、斯ウ云フ點ニアルヤウニ考ヘラレノデアリマス、此ノ點ハ洵ニ御話ノヤウニ計上ハ致シマシタガ、御満足ヲ買フタケノ金額ニ達シテ居ラナイコトハ申譯ナク遺憾ニ考ヘマスガ、是亦財政ノ關係上已ムヲ得ナイコトデアリマシテ、今後私共ガ極力努ムベキ要點ダト考ヘテ居リマスカラ、今後最善ノ努力ヲ此ノ方面ニ盡シタイ、斯ウ考ヘテ居リマス、畑作物ノ種類ヲ食糧作物ノ方面ニ轉換スルコトニ對シマシテ、總動員法ノ發動ノ一部面ト致シテ農地管理令ヲ制定シテ、ソレノ作付命令ト云フモノニ依ツテ補償ヲスルト云フ、之ヲ活カシテ行ケバ、或ル程度行クノデハナイカ、然ルニ豫算面ヲ見ルモ何處ニモ補償金ノ項目ハナイト云フコトノ御指摘デアリマシタ、是ハ總動員會議ニ於キマシテモ高田委員ノ御指摘ノアリマシタ點デアリマシテ、其ノ當時ニ申上ゲテ置キマシタヤウニ、只今何ヲドウ云フ風ニ變ヘテ行カト云フ、具體的ナ問題ガ制定當時アツタノデハナイノデ、其ノ爲ニ此ノ方ノ補償金ト云フモノハ豫算ニハ計上ハ致シテ居リマセス、此ノ事實ガ具體的ニ出來マシテ、補償金ノ支出ヲ必要ト致シマスナラバ、ソレハ財政上別ノ方面ヲ以テマシテ、其ノ支出ヲ致シテ行カナケレバナラス、斯ウ考ヘテ居ルノデアリマス、只今之ヲ具體的ニ發動ヲ致シマシテ、畑作物ヲ食糧作物ヘ何万町歩變ヘル、斯ウ云フヤウナ豫定ハシテ居リマセス、桑畑ヲ六万町歩バカリ食糧農産物ニ變ヘテ行カト云フ具體案ヲ以テマシテ、是ハ豫算ニ其ノ獎勵ノ費用ヲ計上致シマシテ、獎勵ノ形ヲ以テ御協賛ヲ得テ

御願ヒヲシテ居ルノデアリマスガ、ソレ以外ニ農地管理令ノ發動ニ依リマシテ、補償金ヲ與ヘテ變ヘルト云フコトハ、只今考ヘテ居リマセスガ故ニ、事情ガ具體的ニ出來タナラバ臨時ノ措置ト致シマシテ、別方而ヲ以テ補償金ノ支出ヲ致サウ、斯ウ云フ考ヘデ計上致シテ居ラナイノデアリマス、其ノ他多々要點ニ觸レタ御質問及ビ御意見デアリマシタガ、大體ニ於キマシテ御意見ハ農林省ト致シマシテ、洵ニ御同感ノモノデアリマス、唯計上致シマシタ豫算ガ、或ハ御希望ヲ滿シテ居ラヌト云フコトガ多クアルト存ジマスガ、ソレ等ハ今後ニ於キマシテ極力努力ヲ致スコトト致シマシテ、甚ダ満足デアリマセウガ、一億餘圓ヲ御要求申上ゲタ豫算ニ對シマシテ、速カニ御協賛アラントテ重テ御願ヒヲ致シマス

○高田委員 學生生徒ノ農業勤務ノ問題ニ付テハ、私モ其ノ趣旨ニ於テハ大賛成デアリマス、之ニ反對スル餘地ハナイ、唯此ノ「パンフレット」ニ書イテアルコトハ、如何ニモドウモ具體的デ、尋常小學以上ノ兒童、生徒、學生ノ授業ヲ中止シ、相當期間農業勞働ニ從事セザルト云フコトデスガ、尋常四年ト云フト、一體何歳デスカ、九ツカ十デハアリマセスカ、コンナ幼イ者ハ却テ邪魔デス、コンナコトヲ書カセルト云フコトガ非常ニ國民ヲ迷ハセルカライイカト思フノデス、趣旨ニハ賛成デス、此ノ點ハ一ツ何レ文部省ガ計畫ヲ立テテ際ニハ、農林大臣ニ御協議ニナル筈デゴザイマスカラ、コンナ関連ツタコトハヤラセナイヤウニ、又大政翼會ガコンナ関連ツタ宣傳ヲ以テシテハ國民ヲ誤リマスカラ、アナタモ大政翼會ノ顧問カ何カシテ居ラレヤウデアリマスカラ、

明日ヲ測リ知ルコトノ出來ナイ現時ニ於キマシテ、ソレニ依ルコトノ出來ナイノハ無論デアリマスガ、併シ一應之ニ對シマシテモ、年々輸入ト云フコトヲ必要トスルト云フ現下ノ事情デアリマスナラバ、話合ヒヲ付ケテ置カト云フコトハ必要デアルト政府モ考ヘマシテ、其ノ方ノ手當ヲ了シテ居ルノデアリマス、其ノ點ニ關シマシテ多少ノ議論ハ無論免レマセスケレドモ、先ヅ手當モ一兩年ノ間ハ付イテ居ルト私ハ考ヘテ宜カラウト思ヒマス、併シナガラ食糧ノ問題ハ、高田サンノ御心配ニナルヤウニ、凡ユル方面ニ最善ノ努力ヲ盡サナケレバナラスノデアリマスシ、内地ノミナラズ外地ノ源泉ヲ確保致シマシテ、食糧ノ安定ヲ圖ラナケレバナラスノデアリマスガ、其ノ中ニ於キマシテモ、何ト申シテモ最悪ノ非常時ニ對シマシテハ、國內ノ農業生産ニ依賴スル以外ニ絕對安全ノ途ハナイト私ハ確信スルデアリマス、ソコデ生産費ガ高イトカ安イトカ、適地適作デ世界ノ他ノ部面カラ買ツタ方ガ良イ物ガ入ルトカ云ツタヤウナ問題ヲ超越シタ、國內農業保護ノ絕對ノ必要ガ其ノ點ニ於テアルト私ハ考ヘル、此ノコトヲ考ヘマス、ドウシテモ吾々ハ將來ノ國土ノ開發ト云フコトニ全力ヲ盡サナケレバナラス、斯ウ考ヘルノデアリマス、今日ノ非常時ニ何方頼リナルカ、何ト云フテ内地ノ農業生産デアリマス、國際情勢ガ益々惡化スレバスル程、サウ云ツテハ何デアリマスガ、外地ノ食糧供給ト云フモノハ益々困難ニナツテ來ル、外地ガ外地自體ノ保安ヲ維持スル爲ニ、内地ニ食糧ノ移出ヲシテ

第一類第一號 豫算委員會議錄 第十五回 昭和十六年二月十四日
タナラバ、何カ相當ノ案ヲ立テテ適正小作
料ヲ決メナケレバ、ナラズト思ヒマスルカ、
之ニ對スル御所見、如何デゴザイマスルカ、
更ニ此ノ場合小作料ノ問題ニ付テ具體
的ニ一ツ同ハナケレバ、ナラズトハ、小作料
制令ハ小作料ガ非常ニ騰貴スルコトヲ恐レ
テ、一昨年ノ十一月勅令ガ出タリ記憶致シ
マシ、サウシテ其ノ勅令ノ本旨ハ、大體ニ
於テ小作料ヲ上げナイ、併シナガラ上ナ
イトシテ釘付ケニスレバ、其ノ當時マデノ
非常ニ高小作料ハ其ノ儘ニナル、併シソレ
ハ其ノ儘置クコトガ出來ナイカラ、ソレニ
對シテハ或ル程度引下ゲルコトガ出來ルコ
トニ致シテアルノデゴザイマス、而シテ其
ノ本旨ハ一般ノデゴザイマセマデ、要スル
ニ市町村ニハ農地委員ガアルカラ、農地
委員會ニ諮ラテ、地主ト小作人ノ同意ヲ得
タ場合ニ於テ小作料ノ引下ヲ斷行スルコト
ニナツテ居ルノデゴザイマス、ソレデモ尙
ホ不正ナ場合ガアル、何トナレバ農地委
員會デヤレナイ場合モゴザイマス、サウ云
フ場合ニハ府縣知事ガ發動シテ、府縣ノ農
地委員會ニ掛ケテ、尙ホ其ノ村ノ農地委員
會ニ諮ル、法制ニハサウ書イテアリマセマ
ガ、趣旨ハサウデゴザイマシタ、而シテ小
作料ノ引下ヲ斷行スルコトガ出來ルノデ、
是ハ時宜ニ適シタ案デハゴザイマスガ、決
シテ一般ノ小作料ヲ引下ゲルベキデハナ
イ、所ガ秋田縣知事ハ昨年十一月二十五日、
秋田縣令第五十四號ヲ以テ斯ウ云フコトヲ
規定シテ居リマス、小作料制令第六條ノ
規定ニ基キ小作料引下ニ關スル命令ヲ左ノ
通り定ムトシテ小作料引下ニ關スル命令
第一條 秋田縣ニ所在スル田(苗代ヲ含
ム)ラ登段歩(土地畫帳ニ依ル以下同シ)

第一類第一號 豫算委員會議錄 第十五回 昭和十六年二月十四日
タナラバ、何カ相當ノ案ヲ立テテ適正小作
料ヲ決メナケレバ、ナラズト思ヒマスルカ、
之ニ對スル御所見、如何デゴザイマスルカ、
更ニ此ノ場合小作料ノ問題ニ付テ具體
的ニ一ツ同ハナケレバ、ナラズトハ、小作料
制令ハ小作料ガ非常ニ騰貴スルコトヲ恐レ
テ、一昨年ノ十一月勅令ガ出タリ記憶致シ
マシ、サウシテ其ノ勅令ノ本旨ハ、大體ニ
於テ小作料ヲ上げナイ、併シナガラ上ナ
イトシテ釘付ケニスレバ、其ノ當時マデノ
非常ニ高小作料ハ其ノ儘ニナル、併シソレ
ハ其ノ儘置クコトガ出來ナイカラ、ソレニ
對シテハ或ル程度引下ゲルコトガ出來ルコ
トニ致シテアルノデゴザイマス、而シテ其
ノ本旨ハ一般ノデゴザイマセマデ、要スル
ニ市町村ニハ農地委員ガアルカラ、農地
委員會ニ諮ラテ、地主ト小作人ノ同意ヲ得
タ場合ニ於テ小作料ノ引下ヲ斷行スルコト
ニナツテ居ルノデゴザイマス、ソレデモ尙
ホ不正ナ場合ガアル、何トナレバ農地委
員會デヤレナイ場合モゴザイマス、サウ云
フ場合ニハ府縣知事ガ發動シテ、府縣ノ農
地委員會ニ掛ケテ、尙ホ其ノ村ノ農地委員
會ニ諮ル、法制ニハサウ書イテアリマセマ
ガ、趣旨ハサウデゴザイマシタ、而シテ小
作料ノ引下ヲ斷行スルコトガ出來ルノデ、
是ハ時宜ニ適シタ案デハゴザイマスガ、決
シテ一般ノ小作料ヲ引下ゲルベキデハナ
イ、所ガ秋田縣知事ハ昨年十一月二十五日、
秋田縣令第五十四號ヲ以テ斯ウ云フコトヲ
規定シテ居リマス、小作料制令第六條ノ
規定ニ基キ小作料引下ニ關スル命令ヲ左ノ
通り定ムトシテ小作料引下ニ關スル命令
第一條 秋田縣ニ所在スル田(苗代ヲ含
ム)ラ登段歩(土地畫帳ニ依ル以下同シ)

第一類第一號 豫算委員會議錄 第十五回 昭和十六年二月十四日
合會ガ販賣價額ノ千分ノ一、全販賣ハナイ、
是ハ只デアル、ソレデ只今申上ゲマシタ皮
麻ニ付テ言ヘバ、其ノ土地ノ産業組合ガ集
メタモノヲ、其ノ土地ノ需要者ニ賣ツテ、
三十二圓ノモノハ三十五圓五十三錢デ賣ル、
而モ其ノ生産地ニ於テデス、特等ノ四十圓
ノモノハ四十四圓デ賣ル、一割以上ソコデ
頭ヲ撥ネル、コナ馬鹿ナコトヲスル、是
ハ産業組合デ調ベテモ、縣廳デ調ベテモ
違ヒアリマセマ、是ハ松村君ナドハ能ク知
ツテ居ル、何ノ爲ニコナコトヲスルカ、
又一方利益ヲ取ツテハイケナイ筈デアルノ
ニ、私國策會社ノ役員ノ俸給手當等ヲ調ベ
テ見マシタケレドモ、是等ノ役員ガ高額ナ
俸給ヲ取ル、社長ノ陸軍中將ガ一万六千圓、
專務ノ古手知事ガ一万五千圓、常務ハ一万二
千圓、何ノ爲ニコナ俸給ヲ拂フカ、サウシ
テハ誰ガ金ヲ出シテ居ルカト云ヘバ、三
百萬圓デ、半額ハ全販賣、半額ハ輸入商ガ
持ツテ居ル、元ノ商賣人ニハ一ツモ株ヲ持
タセナイ、私共ノ考デハコナモノハ要ラ
スト思フ、何故要ラヌカト云ヘバ、輸入商
組合ガアル、全販賣ガアル、此ノ二ツト其
ノ間ニ政府ガ立ツテ委員會デモ作ツテ、サ
ウシテ配給ノ決定ヲスレバ斯ウ云フ高イ給
料ヲ拂ツテ、コナ高イ頭ヲ撥ネテ、サウ
シテ生産者ニ迷惑ヲ掛ケナクテモ宜イノデ
ハナイカト私ハ思フ、兼ノ加工品組合ナド
モ、時間ガアリマセマ申上ゲマセマ、
是モ不當ナル手數料ヲ取ツテ居リマス、有
機質肥料會社ト飼料株式會社トハ、是ハ別
別ニ置ク必要ハナイト思ヒマス、又今度ハ
蠶絲統制會社、木材統制會社等ガ出來ルヤ
ウデゴザイマスルケレドモ、蠶絲ノ統制ト
カ、木材ノ統制トカ云フコトハ、是ハ或ハ

第一類第一號 豫算委員會議錄 第十五回 昭和十六年二月十四日
分農林次官申カ、或ハ農務局長時代ニ、先
ツ以テ肥料ノ價格ヲ成ク引下ゲルヤウニ、
成ベク優良ナル肥料ヲ安價ニ農民ニ配給ス
ルヤウニト云フ意味ニ於テ今ノ全購聯ニ相
當ノ政府ノ助成金ヲ出シテ、サウシテ肥料
ノ配給ヲヤウタノデゴザイマス、其ノ功績
ハ極メテ顯著ナルモノアリト私ハ信ジテ居
ル、然ルニ吾々ノ聞ク所ニ依レバ、日本肥
料株式會社ガ出來テ配給ニ當ツテ居ルカラ
シテ、全購聯ハ要ラヌチヤナイカ、全購聯
ノ手ヲ經ル必要ハナイチヤナイカト云フヤ
ウナル意見ヲ主張スル人ガアルヤウニ思ヒ
マス、是モ徒ラニ幾ツモノ手ヲ經ルコトハ、
唯手數料ヲ多クスルガケデアリマス、併シ
ナガラ全購聯成立ノ状況及ビ發達ノ狀況ニ
顧ミマシテ、全購聯ヨリ假令無手數料ナリ
トモ肥料ノ配給ト云フモノニ口ヲ出サセナ
イヤウニスルコト云フコトハ、農村ノ關係カ
ラ言ヘバ極メテ不利デアル、何トナレバ
日本肥料株式會社ハ肥料生産者、或ハ商賣
人ノ組織シタ會社デアリマシテ、農業者ハ
極メテ之ニ關與スルコトガ少イノデゴザイ
マス、故ニ日本肥料株式會社ニ配給ノ全權
ヲ委ネルト云フコトハ、全購聯ガ其ノ中間
ニ入ツテ、サウシテ無手數料、或ハ手數料
ヲ極メテ輕クシテ農民ヲ代表スル機關ニ於
テ此ノ配給ニ當ルト云フ方ガ農民ソレ自身
ニ取ツテハ有利デアルト私ハ信ジテ居ルノデ
アリマス、是ニ於テ即チ産業組合法ノ改正
ハ無論ヤラナケレバナラズト思ヒマス、而
シテ産業組合ニ政府ノ命令ニ依ツテ各種ノ
品物ヲ集荷セシムルコト云フ、集荷ノ義務ヲ
負ハセタナラバ、産業組合ガドウニカ立ツ
ダケノ手數料ヲヤラナケレバナラズト思ヒ
マス、私自分ノ村ノ産業組合ヲ調ベテ見マ

豫算委員會議錄 第十五回 昭和十六年二月十四日
第一類第一號 豫算委員會議錄 第十五回
豫算委員會議錄 第十五回
豫算委員會議錄 第十五回

度ノ小作地、小作關係ト云フモノガドウシ
テモ殘ル、如何ニ努メテモ殘ルト私ハ考ヘ
テ居ル、又之ヲ殘シテ置カケレバ、國ノ
農業經營ト云フモノガ圓滑ニ行カナイ、一
家ノ努力ト云フモノハ、時ニハ働キ手ガ非
常ニ揃フ場合モアリマスシ、働キ手ガ一
人ナツテシマフ場合モアル、又時ニ依ツテ
ハ全クナクナツテ、而モ農家トシテ續ケテ
行カケレバナラヌ場合モアル、サウ云フ場
合ニ於ケル農地ノ經營ノ方法ト致シマシテ
ハ、小作關係ガ相當程度殘ツテ居リ、又ソ
コニ彈力性ヲ持ツテ居リ、餘地ト云フモノ
ガ殘サレテ居ラナケレバナラヌト云フコト
ハ當然ノ話、少クとも其ノ關係ニ於テア
ル所ノ小作關係ト云フモノハ、良イ小作條
件ノ下ニ於テ維持サレナケレバナラヌト思
フノデアリマス、少クとも其ノ意味ニ於テ、
小作關係ノ改善ト云フコトハ常ニ念トシテ
ケレバナラヌト思フノデアリマス、併シソ
レ以上中々サウ云フ程度ノ餘地トシテノ小
作關係ト云フコトヲ考ヘル以上ニ、我が國
ノ實情ニ於キマシテハ、サウ自作農ガ理想
デアルカラト云ツテ、一氣ニ急ニ多クノ面
積ヲ自作地トシテシマフ譯ニハ行カヌノデ
アリマスカラ、ソコニソレ以上ノ小作關係
ノ改善ノ問題ノ重要サガ出テ來ルト考ヘテ
居ルノデアリマス、サウ云フ意味ニ於キマ
シテ、私ハ小作問題ヲ重要視シテ居ル者ノ
一人デアリマスガ、決シテ全部小作關係ヲ
良クスレバ、小作主義デ行ツテ方宜イト
云フ考ヘヲ持ツテ居ルノデアリマス、サウ
カラ、誤解ノナイヤウニ願ヒタイ

制度ト致シマシテハ、是等モ段々ト順ヲ逐
ウテ制定セラレマシテ、洵ニ順當ナ結構ナ
發達ヲシテ參リマシタコトト喜ンデ居リマ
スガ、ソレデ十分トハ考ヘテ居リマセス、
今後十分ニ計畫モ致シ、シナケレバナラヌ
コトガアルト考ヘテ居リマス、小作料統制
令ニ付テ、制定當時ノ實際ノ實情カラ致シ
テノ御質問デアリマス、是ハドウモ其ノ當
時與カツテ居リマセヌ私ト致シマシテハ、
何トモ御答ヘヲ申上ゲルノニ窮スルノデア
リマスガ、御話ノヤウニ小作料統制令ガ、
著シク不當ナル小作料ニ對シマシテ、引下
ヲ個々ノ地主ニ對シテ色々ナ手段ヲ盡シテ
具體的ニ交渉シ、ソレモ出來ナイ時ニ、
具體的ニ命令スベキモノデアルト云フヤウ
ナ、サウ云フ御話解テ制定サレタカモ知レ
マセヌト思フノデアリマス、其ノ通りデア
リマセウ、唯只今私共サウ云フ事情ヲ知ラ
ナイノ小作料統制令ヲ見マスト云フト、是
ハ一般命令モ出シ得ルコトニナツテ居ルノ
デアリマス、而シテ是ハ事實ノ問題ニ付テ
考ヘマスト云フト、一般命令ヲ無暗ニ出
シテハナリマセヌケレドモ、慎重ニ考ヘテ
一般命令ヲ出スト云フコトモ是認スベキ場
合ガアルノデアリナカラウカト私ハ考ヘマス、
ドウ云フ場合デアアルカト申スト、是ハ地方
長官ト致シマシテモ非常ニ大キナ地主サン
アタリデ、而モ色々ナ公敵ヲ持ツテ居ラレ
ル、議員サンニナツテ居ラレト云ツタヤ
ウナ有力者ノ所ノ小作料ガ、其ダ意外ナコ
トデアルケレドモ、エラク高カウツト云フ
ヤウナ時ニ、此ノ個人ニ對シテノ交渉ト云
フコトハ、是ハ事實上非常ニ困難デアル、
又實行ヲスル上ニ於キマシテモ、何ノ某ト云
フ人ト直方談判ヲシタガ、結局話ガ付カナ

イデ命令ヲ出シタコト云フヤウナコトニナツ
テハ、是ハ縣治上非常ニ面白クナイコト
ガ出ルノデアリナカラウカト思ヒマス、サウ云
フ著シク高カウツタヤウナ場合ニ於キマシテ、
其ノ人ノ如何ノ間ハズ、一般命令ニ該當スル
ヤウナ高イモノハ、或ル程度ノ引下ト云フ
コトヲサセルト云フ一般ノ形式ニ於テ命令
ヲ出シマシテ、其ノ命令ノ結果該當スル人
ガ下ガザルヲ得ナクナツタコト云フコトニナ
ルコトノ方ガ、社會ノ全般ノ上カラ見マシテ
良イ運ビ方デアリナカラウカト私ハ考ヘマス、
サウ云フヤウナ場合ハ、是ハ無論無算當ニヤ
ウテハナラヌコトデアリマスガ、慎重ナ考慮ヲ
致シ、慎重ナ手續ヲ費ヤシテヤリマスルナ
ラバ、又認ムベキコトデアリナカラウカト考
ヘマス、或ハ制定ノ當時ノ御話モニ對シマ
スル答辯等ハ、サウデアリナカラウカト考
マセヌガ、ソレハ又一昨年カラ以後ノ時世
モ變ツテ居リマスルシ、若シサウデアラツト
スレバ慎重ニ致シマスガ、サウ云フ場合モ
全然ナイト云フコトデアリナカラウカト現
在ノ農林省ト致シマシテハ御話解キタイ
ト、斯ウ私ハ思ヒマス秋田縣令ガ果シテド
ウ云フコトデアリマシタコト云フヤウナコトガ
委員ニ諮ラナカウツタコト云フヤウナコトガ
アツタヤノ御話デアリマスルガ、形式ハ
町村委員會トシテハ具體的ノ場所ニ付テヤ
ウツタコト云フコトハナイヤウデアリマスガ、
町村ノ農地委員ハ非常ニ多數デアリマスガ、
是等ガ會同ヲ致シテ、全部ニ諮リマシテ縣
令ヲ決メタト云フコトノ報告ヲ得テ居ルノ
デアリマス、是ダケノコトヲヤルノデアリ
マスカラ、知事モ相當慎重ニ十分注意致シ
タコトト私ハ信ジテ居リマス

ノ赤化スルヲ防グ一ツノ目標ニナツテ居ルカノ如キ觀ガアルノデアリマス、又對外ノ點カラ考ヘマス、昨年十二月一日ニ我ガ阿部大使ト汪精衛氏トノ間ニ締結セラレタ所ノ日華國交調整ニ關スル基本條約ト云フモノハ、此ノ防共ト云フコトガ中心ニナツテ、此ノ條約ト云フモノガ成立シテ居ルノデアリマス、勿論支那國民政府ト日本トノ間ニ於ケル防共ノ意味ト國內對策トシテノ防共ト云フモノガ必ズシモ同ジモノデナイコトハ勿論デアリマス、此ノ防共協定ヲ廢棄スルコトガ對外對内關係ニ重大ナル影響ノアルコトヲ吾々ハ看取シナケレバナラマセス、隨テ此ノ防共協定ノ廢棄ト云フコトガ非常ナ重大ナル代價、意義ヲ持ツテ參リマスナラバ、是ノ廢棄モ考慮サルベキデアリマス、今日輕率ニ防共協定ヲ廢棄スルコト云フコトハ、對外對内ノ關係ニ於テ最モ重大ナル影響ノアルモノト私ハ思フノデアリマス、隨テ三國同盟ガ出來、又獨伊トソノ聯トノ間ニ不可侵條約ガ成立シテ、ソレデ此ノ防共協定ト云フモノガ或ル種ノ意義ヲ失ツタト致シマシテモ、私ハ國內對策ト致シマシテモ、亦日支關係カラ考ヘマシテモ、此ノ條約ヲ廢棄スルコト云フコトハ非常ニ重大ナル影響ガアルモノト思ヒマシテ、是ハ十分ナル考慮ヲ要スルモノデアリト思フノデアリマス、之ニ對スル外務大臣ノ御差支ヘナイ程度ニ於ケル御感想ヲ承リタイト思ヒマス

日ノ國交調整ノ上カラ言フタラ防共協定ナドハ廢シタ方都合ガ好イ、是ハ問題アリマセス、又一官君ノ申サレタヤウナ重大ナル考慮ヲ要スルコト思フテ居リマス、唯是ダケハ明カニ更改ト云フ意味デハナイ、大體近衛內閣成立以來ノ政府ノ態度デアリマス、防共トハ共產黨又共產主義者ヲ排除スルコトヲ意味デアリマス、必ズシモ直チニ「ソ」聯政府又ハ「ソ」聯國ヲ排撃スルコトヲ意味デハナイ、御承知ノヤウニ「ソ」聯モ從來カラ共產黨ト「ソ」聯政府ハ別モノデアアル、同ジモノチヤナイ、斯ウ言フテ兎モ角ズツト主張シテ來テ居ル、其ノ主張ニ合ハス譯トモアリマセス、吾々ノ方ハ日本國內ハ固ヨリ、東亞全體ニ互ツテ共產黨ノ活動及ビ共產主義ノ傳播、之ニハ從來トモ異ナリ所ナク、儼乎トシテ排除ノ決心ヲ持ツテ居ルノガアル、此ノ決心ヲ以テ其ノ後モ獨伊其ノ他ト防共協定ハ持續シテ居ルノデアリ、斯ウ云フ建前カラ現ニ「ドイッ」モ一面「ソ」聯不可侵條約ヲ締結シマシタガ、日本トノ防共協定ハ廢止シテ居ラスノデアリマス、而シテ其ノ後之ヲ廢止シヨウカドウカト云フ話モマダ今日マデノ所ハ出タコトガナイノデアリマス、ノミナラズ我ガ日本トシテハ只今一官君ノ御指摘ニナツタヤウニ、昨年十一月三十日、極ク最近ニ中華民國トモ防共一ツノ大キナ問題トシテ明確ナル取極メヲシテ居ルヤウナ譯デアリマス、唯此ノ取極メモ吾々ハ今申上デマシタヤウナ解釋デ、必ズシモ是ガ日「ソ」聯ノ國交調整ニ關係ハナイト云フ建前ヲ執ツテ居ル、唯私ハ率直ニ言ヒマスガ、「ソ」聯ノ方デハ機嫌ガ惡イダラウ、又苦情モアルダラウ、ケレドモソレハ少々苦情ガアツテ

シテモ、又東亞新秩序ノ建設ニ南京政府ヲ協力サシテ居ル點カラ考ヘテモ必要ナル措置デアリト思フノデアリマス、之ニ對スル外務大臣ノ御意見ヲ最後ニ承ツテ置キタイト思ヒマス

○松岡國務大臣 今ノ御質問ノコトハ實ハ非常ニ大事ナル點デアリ、又非常ニ難カシイ點デアリマス、私ハ之ニ付テ確タル御答ヘラスルコトハ遺憾ナガラ出來ナイノデアリマス、是ダケハ申上ゲテ置キマス、是ハ南京政府ヲ中央政府ト認ムルコトニシテ、基本條約ヲ締結シマス前カラ引續キ十分ニ兩國トハ意思ヲ疏通シテ居リマシテ、其ノ上デ今尙ホ御希望ノヤウナ運ビニ至ツテ居ラスノデアリ、棄テテアルノデモナケレバ、日本ガ誘ウテモ應ジナイト云フノデアリ、斯ウ云フコトニ御諒解ヲ願ヒタイト思ヒマス

○一官委員 私人質問ハ是デ終リマス

○増田委員 西川貞一君

○西川委員 國務大臣ノ御出席ガ完全デアリモノデアリマス、質問ヲ致シマスノニ非常ニ不便デアリマス、又私ノ不便ハ忍ビマス、質問ヲ致シマスノ要點ガ十分ニ徹底シナイ儘ミガアルコトヲ非常ニ遺憾ニ思フノデアリマス、企業院總裁ニ特ニ私ハ御尋ネ致シタイノデスガ、近時我ガ國ノ各方面ニ於キマシテ政府ノ執ツテ居リマス經濟政策ニ對シマシテ、思想上ノ觀點カラ色々問題ガアル、甚ダシキニ至ツテハ、赤ニ近イノデハナイカ、此ノ言タルヤ單ニ世上ニ於テアルノミナラズ、帝國議會ノ論議ノ上ニモサウ云フ言葉ガチヨイノ出テ來ルノデアリマス、特ニ先般來貴族院ニ於キマシテハ、政府ノ行ツテ居ラレル所ノ

モ、一官君ガ申サレタヤウニ、之ヲ輕キニ廢止スルコトカドウカ云フコトハ非常ニ重要ナル問題デアリマス、政府ニ於キマシテモ深甚ナル考慮ヲ此ノ問題ニ付テ拂ヒツツアルト云フコトヲ申上ゲタイ

ソレカラ最初御質問ノ中デ御指摘ニナリマシタ「モロトフ」氏ノ言明ニ付テ一言申上ゲマス、既ニ意義ヲ失ツテ居ツテ日「ソ」聯ノ國交ニ障礙トナルヤウナ條約ナドハ取除イタラ後ハ何モナイ、國交調整ガ出來ルチヤナイカ、斯ウ言明シテ居リマス、其ノ中ノ意義ヲ失ツテ而モ兩國ノ國交ニ障礙トナツテ居ル條約云々トハ必ズシモ防共協定ヲ指シタノデアリナイノデアリマス、此ノ點ニ付テ「モロトフ」氏ハ從來演說デ公ニ言明シタ通りノ方針又ハ精神ヲ話合フシテ居リマス、其ノ話合ノ中デ防共協定ハ、私ノ記憶デハ一度モ指摘シタコトハナイ、多少「ロシヤ」側ニ苦情ノアルト云フコトハ傳ヘ聞イテ居リマスガ、サウシテ廢シタ方方廢サヌヨリハ「ロシヤ」ハ好キマセウケレドモ、其ノ點ニ付テハ餘リヤカマシク言ツテ居ラスコトハ事實デアリマス、ソレダケデアリマス、ソレ以上ハ差控ヘテ置キマス

○一官委員 御親切ノ御説明デ、日「ソ」聯係ニ付テ私共ガ抱イテ居リ、國民モ恐ラク同様に感ヲ抱イテ居ツタデアラウコトガ、總テ或ル點マデ安心ノ出來ルヤウニ御説明下サツタコトニ對シテ、私ハ外務大臣ノ誠意ニ對シテ大ニ感謝ノ意ヲ表シマス

最後ニ一ツ承ツテ置キタイト思ヒマス、ハ、南京政府ノ承認ヲ、獨伊及ビ三國同盟ニ參加シタ「ハンガリー」デアルトカ、其ノ他ノ國ガマダヤツテ居ナイヤウデアリマス、是ハ外務大臣カラ所謂同盟條約ノ新秩序建

計畫經濟ハ「マルクス」主義ノ經濟デハナイカ、政府ノ計畫經濟ト「マルクス」主義トハ極メテ近イ所ノ類似性ヲ持ツテ居ル、之ニ對シテドウ考ヘルカト云フコトガ、可ナリ痛烈ニ質問サレテ居ル、此ノコトタルヤ私ハ現在日本ノ面接シテ居リマス問題デアリ、非常ニ重大ナル問題デアリト思フノデアリマス、何トナラバ、斯カル言葉ガ出マスコトソレ自體ガ、日本ニ敵性ヲ持ツ方面ニ於キマシテ、謀略的ニ、所謂第五列ノ策動等ニハ、最モ是ハ好個ノ題目ヲ提供スル、日本ノ國內ヲ分裂ニ導カウトスルノニハ、斯クノ如キ聲カラ醸シ出サレル弊團氣ヲ利用スルコトガ效果ガアル、是ハドウシテモ拂拭シ、根本的ニ洗掃シナケレバナラズ、ソレニハ斯カル言ヲ爲シマス者ヲ警察權ヲ以テ御取締リニナルコトデハ效果ガナイ、又之ニ對シマシテ政府ノナルコトハサウデハナイノダト反駁ナシマイスノミデアツテモ私ハ完全デアリト思フ、私ハ貴族院ニ於ケル所ノ速記録ヲ詳細ニ拜見致シマシテ、企業院總裁ノ之ニ對スル答辯モ私十分ニ吟味シテ見タノデアリマス、ケレドモ、遺憾ナガラ總裁ノ御答辯ニ依リマシテ、是デ完全ニ「ソ」聯ノ如キ言動ハ一掃サレルノデアリト云フヤウナ自信ハ、私自身トシテモ持ツ得ナイ、是ハ故ニ根本的ナ對策ヲ政府トシテ實行ニナル必要ガアル、言譯ヲスルノデアリナイ、單ニ取締ルノデアリナイ、左様ナ言ガ絕對ニ國內カラ一掃サレルヤウナ強力ナル、有效ナル對策ヲ御執リニナル必要ガアル、ソレハ私ハ獨リ政府ノミノ責任デハナイト思フ、吾々ニモ責任ガアル、私ガ此ノ質問ヲ致サントスル動機ハ、政府ト協力シテ斯カル考ヘ方ヲ一掃スル爲

ニ幾分デモ役ニ立チタイト云フ私ノ念願カラ外ナラナイノデアリマス、私ハ政府ガヤツテ居ラレルコトガ赤デアリト思ハナシ、隨テ政府ノソレニ對スル言譯ヲ聽カウトスルノデアリナイ、斯クノ如キ言葉ガ由ツテ生ズル其ノ根本ヲナサスルノニドウ云フ態度ヲオモヒ同士ニ於テ執ツテ行カナケレバナラズカ、私ハ此ノ問答ヲ通ジマシテ其ノ點ニ聊カ寄與致シタイト考ヘルノデアリマス、計畫經濟其ノモノガ、此ノ言葉ノミカラ、此ノ學問的ナ概念カラ致シマスナラバ、私ハソレハ「マルクス」主義ノ一ツノ思想デアリト斷定スベキデアリト考ヘルノデアリマス、併シナガラ「マルクス」主義ハ一ツノ歴史觀ヲ背景ト致シテ居ル、「マルクス」主義ノ一番大キナ特徴ハ歴史觀ノ上ニ立ツテ居ルコトガ其ノ特徴デアリ、其ノ歴史觀モ亦極メテ特色アル歴史觀デアリ、即チ唯物史觀デアリ、唯物的ナ歴史觀ノ上ニ立ツテ、唯物辯證法ト云フ特色アル一ツノ論理ノ上カラ導キ出サレテ建設サレルモノガ即チ計畫經濟デアリマス、併シナガラ計畫經濟ト云フ言葉ヲ用ヒマシテモ斯カル唯物史觀ノ上ニ立脚セル唯物辯證法ト云フガ如キ特殊ノ論理ノ上カラ導キ出サレタモノデナイ場合ニハ、言葉ハ同ジデアラカト云ツテモ、必ズシモ是ハ「マルクス」主義ノ思想デアリト斷定スルコトハ出來ナイ、其ノ意味ニ於テ、私ハ斯カル言葉ヲ拂拭致シマスル根本對策ハ、先ツ以テ唯人物思想ヲ掃蕩スル必要アリト考ヘルノデアリマス、此ノ唯物思想ヲ掃蕩致シマスル所ノ具體的對策ニ對シマシテハ、此ノ際私ハ內務大臣ノ御尋ネヲシタイノデゴイマス、內務大臣ガ居ラレマセヌノデ、一番要點ヲ

テ、コナラモ軍備ヲ整ヘナクテヤナラス、コナラモ國防計畫ヲ進メナクテヤナラス、國防ニハ經濟上ノ價值ヲ必要トスルト申シマスヨリモ、實物ヲ必要トスルデアリマス、經濟上ノ價值トシテアレガ必要デアリ、是ガ必要デアルト云フヨリモ、實物トシテ必要デアリ、石炭ガ必要デアリ、何ガ必要デアル、經濟上ノ價值デハナシニ、實物デアリマスルカラ、ソレハ實物ノ需要供給ニ對スル一ツノ數字ノ計畫ノ上ニ立脚シテヤナラス、ソレガ此ノ高度國防國家體制ノ下ニ於テ計畫經濟ヲ必要トスルニ至リマシタル所ノ事情デアツテ、其ノ點ニ於テ「マルクス」主義ノ所謂計畫經濟ト其ノ本質ヲ異ニスル、其ノ歴史ノ本質ヲ異ニスルト私ハ考ヘルデアリマスガ、之ニ對シマシテ企業院總裁ハドウ御考ヘニナルデアラカ、日本ニ於テ計畫經濟ヲ行フニ至リマシタル所ノ其ノ動機、歴史上ノ必要性、是等ノ事情ニ付キマシテ政府トシマシテノ御意見ヲ承リタイト思ヒマス

マシテ、其ノ爲ニ分配、所謂再生産ト云フヤウナコトノ爲ニ却テ非常困難ニ陥ルト云フ、分配ノ計畫ト云フモノガ主トシテ用ヒラレタモノデアラウト思フ居ルデアリマス、今日吾々ノ唱ヘテ居リマスル所ノ計畫經濟ト云フモノハ、只今西川サンノ言ハレマシタヤウニ、今日我が國ガ後進國ト致シマシテ、今日世界ノ競争舞臺ニ立ツテ行ク、ニ付キマシテハ、吾々ノ割合ニ貧弱ナ資源、又遅レタル所ノ工業ノ發達ト云フモノヲ提ガマシテ、大キナ仕事ヲシナクテヤナラスト云フコトニ付キマシテハ、ドウシタラ宜イカ、各方面ガ非常ニ努力ハ致シテ居リマスルガ、之ヲ最モ有効ニ働カセルコトヲ云フコトガ必要デアル、其ノ爲ニハ經濟ノ各部門ニ於テキマシテソレノ計畫ヲ立テル必要ガアルハ勿論デアラカ、其ノ計畫ト云フハヤハリ綜合的ニ綜合致シマシテ、各部門ニ於テモ無駄ノナイヤウニシ、其ノ全力ト云フモノヲ先ヅ軍備ヲ中心トシテ當テ、併シシナガラ今日ニ於テハ軍備ト云フモノガ増強サレナケレバイケマセスカラ、所謂廣義ノ國防國家ト云フモノヲ形ヅクル爲ニ凡ユルモノヲ最モ有効ニ使フコトヲ爲シ、諸般ノ經濟ト云フモノヲ又綜合シテ考ヘナクテハイケカス、斯ウ云フ計畫經濟ヲ綜合的ニ樹立シナケレバイケカス、隨テ計畫經濟ト云フモノノ樹立ガ最モ必要デアルト云フコトヲ論ジテ居ルデアリマス、此ノ點ニ付キマシテハ既ニ昨年ニ於テキマシテモ當業議院ニ於テキマシテ現在ノ小川鐵道大臣ガ、議場ニ於テキマシテ政府ノ計畫經濟樹立ノ要ト云フコトニ付キマシテ、適切ナル御質問ガアツタコトモ速記録ニ依ツテ私存ジ

テ居リマスシ、又當時ノ藤原商工大臣ヨリ計畫經濟ヲ以テ當ラナケレバナラヌト云フ答辯ノアツタコトモ聞イテ居リマス、左様ナ意味ニ於テキマシテ吾々ガ考ヘマシテモ今日ノ日本ニ必要ナルコトハ、日本ノ此ノ力ヲ最モ有効ニ用ヒテ、サウシテ一人ノ力モ、一物モ餘ラズ今日ノ時局ニ對シテ此ノ重大問題ヲ乘切ツテ行カケレバナラヌ、此ノ事ノ爲ニハ各人ガ全力ヲ盡スト云フコトト、其ノ全力ヲ盡シテ其ノ力ト云フモノガ綜合サレテ、最モ有効ニ用ヒラレナケレバナラヌ、其ノ最モ有効ニ用ヒルト云フコトノ爲ニ凡ユル局ニ在ル者ガ、ソレノ一部局ニ於テ、又ソレノ一段階ニ於テ計畫ヲ立テテ、此ノ段階、此ノ計畫ト云フモノニ依ツテ計畫經濟ヲ進營サレナケレバナラヌト云フコトヲ計畫經濟ト、斯ウ申シテ居ルデアリマス、只今西川サンノ仰シヤウツヤウニ、全ク其ノ根柢ヲ異ニスシ、又内容ガ異ニスシ、又其ノ方法モ異ニスシテ居ルデアリマス、ルト私ハ信ジテ居ル次第デアリマス

本當ニ價值ヲ價值通りニ發揮セシムルコトガ出來ルカ、最モ有効ニ、最モ有用ニ之ヲ利用シ得ル經濟ノ仕組デアラカドウカト云フコトニ付テハ、私ハ甚ダシク疑問ヲ持ツ、サウシテ日本ノ産業ガ後進國デアラ、物資ガ乏シイ、産業ガ幼稚デアラ、計畫經濟デナクテハナラヌト斯ウ言ハレマスコトハ、私ノ見ル所ヲ以テスレバ、是ハ反對デアラ、サウ云フ意味ニ於テハ寧ろ計畫經濟ハ適當デアリト云フコトヲ超越シテ、國防目的ノ爲ニ軍需資材ノ調達ノ爲ニハ、計畫的ニヤラナクテハナラヌト云フコトノミニ依ツテ、此ノ場合日本ニ於テモ計畫經濟ヲ行フコトハナラヌト云フコトヲ私ハ認メザルヲ得ナイデアラカ、以下少シ分析的ニ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、若シ計畫經濟ト、然ラザル經濟ト別チマシテ何處ニアルカ、從來ノ經濟ニ於テハ物ノ價格ガ經濟界ニ於ケル生命ダト言ヒタイ、恰モ身體ニ於テ脈搏ガ打ツテ居ル、心臟ガ動イテ居ル、或ハ體温ガ動イテ居ル、健康ナ時ハ平調ヲ呈シテ居リマスガ、健康ヲ失シマスト體温ガ上ツタリ下ツタリシマス、サウ云フ状態ニ此ノ物價ニ依ツテ物資ノ供給ガ調整サレルト云フ所ガ所謂從來ノ經濟ノ生命デアラ、私ハ企業院總裁ニ此ノ點ヲ伺ヒタイノデアリマスガ、此ノ價格ニ依ツテ物資ノ供給ガ自然ニ調整サレ、隨テ物ノ生産ガ調整サレマス、所謂見エザル手ト從來言ハレタ、斯ノ如キ經濟ノヤリ方ハ、企業院總裁ハ之ヲ以テ經濟ノ本質ト御覽ニナラカ、資本主義經濟ノ特有物ト御覽ニナツテ居リマスカドウカ、是ハ資本主義經濟ノ場合ニミシ

ウ云フコトガ行ハレルデアツテ、他ノ場合ニ於テハ、サウ云フ機能ハナクテモ、經濟ハ行ハレ得ルモノト思フ居ラレマスガ、此ノ點ハ貴族院ニ於テ總裁ノ答辯ニ於テハ私ハ伺ヘナカツタデアリマスガ、此ノ點ニ對スル總裁ノ御考ヘヲ伺ヒタイト思ヒマス

直接ノモノノ以外間接ノモノニモ觸レテ參ルコトモ、少クモ一時的ニハ已ムヲ得ザル現象デアラウト思ヒマス、併シ其ノ本旨トスル所ハ、飽クマデ最モ必要ナルモノニ對處スルコトヲ目標トシテヤウツテ行カネバナラヌト存ジテ居リマス

イカト云フコトヲ私共心配シテ居ルデアリマス、只今御答辯ニ依ルト、ソレハヤハリ非常臨時ノ措置デアツテ、然ルベキ正當狀態ニ之ヲ引直スト云フヤウナ御意向ガアルヤニ伺ツタデアリマスガ、ソレ等ニ對スル準備ハ只今ドウ云フ風ニ進ンデ居ルデアリマスガ、其ノ點ニ付テ今少シ具體的ニ承ルコトガ出來ルナラバ、國民モ餘程安心スル所ガアルデアラウト思フデアリマス

ヤウナ點カラ、斯ノ如キ處置ヲ執ツタデアラウト思ヒマス、ソコデ、是ハ全ク非常ノ處置デアリマス、而シテ其ノ結果ニ付テ考ヘテ見マス、勿論法令ガ部分的ノヤウナ缺點ハアツタカト思ヒマス、又其ノ爲ニ各方面ニ相當ノ犧牲ヲ生ジタコトハ、洵ニ残念ナコトトハ存ジマスガ、ソレハ又初カラ、或ル程度マデ當然ノコトト思ヒマス、併シ大局カラ見レバ幸ヒニ、我が國ノ物價ノ問題ニ付テ國民ノ安定的ノ確信ヲ得タコトハ、非常ニ大キナ力デアツタト思ヒマス、物價ニ付テハ先般來各大臣カラ答辯申シテ居リマスガ、我が國ノ物價指數ノ狀況ヲ見マシテモ現ニ一昨年マデハ相當上騰ノ勢ヒヲ示シテ居ルデアリマシテ、一昨年ノ如キ日本銀行ノ指數ハ一年ノ間ニ二五〇カラ三〇〇マデ上ツテ居リマスガ、昨年ハ大體三〇〇上下ニシテ居リマシテ、十二月正月ノ間ニ色々上下シテ居リマスガ、大體ニ於テ物價ハ常態ヲ保ツテ居リマス、其ノ爲ニ各方面ニ色々ノ影響ヲ及ボシテ居リマス、併シヤハリ物價ガ安定シテ居ルト云フコトガ、我が國ガ此ノ大事業、大戦争又大建設ト云フモノヲ併セテ行ツテ居ル所以デアルト存ジテ居ルデアリマス

○西川委員 價格ノ作用ガ經濟ノ本質ニ即シテ必要ナモノデアルト云フ點ニ付テハ、總裁ハ認メテ居ラレバドウゴザイマスガ、然ラバ現在ノ政府ノ經濟政策ニ於テキマシテハ、總テノ産業ニ對シテ政府ノ計畫ニ依ツテ指導シテ行カレル方針デアラカ、又政府ノ直接ノ計畫ニ依ツテ指導サレルモノハ、或ル部分ニ限ラレテ、他ノ大部分ニ於テハ價格ノ變動ヲ通ジテノ自然ノ調節ヲ取ツテ行カウトサレルデアラカ、實際ヤウツテ居ラレマス點ニ付テ御伺ヒシタイ

○西川委員 只今御答辯ニ依リマシテ私ノ疑問トシテ居ツタ點ガ實ハ明カニナツタデアリマスガ、サウナクテハナラヌト私モ考ヘテ居リマス、大體政府ガ總テノ物資ヲ導サレヨウトスレバ、ソレハ第一現在ノ機構ニ非常ニ無理ガアル、現在企業院ノ取扱ツテ居ラレル物資ノ生産量ニ配給ニ關スル計畫ハ總テニ互ツテ居ラナイ、企業院モ計畫ヲ立テテ居ラスシ、政府モ計畫シテ居ラス、又一面自動的ノ自然ノ調整作用ヲ營ム價格モ停止サレ、拘束ヲ受ケテ生キテ居ラス、ソレデハ一體ソレ等ハ何ノ標準ニ基イテ物資ガ生産サレ配分サレルデアラカ、其ノ目標ガナクナルデアリマス、ソレ等ニ對シマシテ、然ラバ或ル時期ガ來レバ價格ヲ自然ニ委セテ、自然ノ持つ價格ノ作用ヲ依ツテ物ノ生産配給ノ指導ヲサセルト云フ御考ヘガアルデアリマス、大體九・一八ノ總、スト、命令ナルモノガ出マシテ以來、非常ニ末梢的ノ方面ニ於テキマシテ非常ニ混雜ヲ來シ、業者ガ非常ニ困ツテ居ルコトハ總裁ノ能ク御承知ノ通りデアリマス、此ノ總停止令ノ如キ政策ハ、只今總裁ノ言ハレタ如ク、或ル非常ニ場合ニ非常手段トシテノミ許サレベキモノデアツテ、サウ云フコトヲ未來永劫ニ續クテ行カレタノデアリマス、收拾スベカラザル混亂ガ起ルノデハナ

○星野國務大臣 結局私ハ斯ウ思ヒマス、物價ノ問題ニ付キマシテハ、先程申シタヤウニ、價格ハ總テ生産消費ノ重要ナル鍵ヲ成シテ居ルデアリマシテ、是ガヤハリ運行ヲ非常ニ援ケテ居ル、其ノ健全ナル運行ハ現政府ノヤウツコトデハゴザイマセヌガ、唯昨年「スト」命令出シタト云フコトニ付キマシテハ、當時戰爭遂行、或ハ經濟ノ建設ヲ進メルコトニ付テ、所謂惡性インフレーショント云フヤウナモノニナツテ、循環的ノ惡性インフレーションニナツテ、物價暴騰其ノ底止スル所ヲ知ラズト云フコトデハ、到底此ノ成就ハ出來ナイ、ソコデ如何ナル方法ヲ執ツテモ此ノ状態ヲ斷チ切ル必要ガアツタ、其ノ必要ニ應ジテヤウツコトデアラカ、ソコデ、或ル意味ニ於テハ、勿論西川サンノ仰シヤウツヤウニ、十分ニ統制ノ方法モナク、物價ニ依リ自然ノ運行モナケレバ、ソコニ非常ニ不便ヲ生ズルコトハ當然デアリマスガ、或ル場合ニ於テハ、未だ物品ニ付テハ多少ソレノ生産ニ不便ハアツテモ、全體トシテハ物價ニ對スル國民ノ一ツノ確信ガ出來テ、ソレニ基イテ經濟ヲ運用シナクテハナラヌト云フ

○星野國務大臣 ソコデ私ハ斯カル意味ニ於テキマシテ、非常ノ措置ト致シマシテハ是モ已ムヲ得ナカツタ所デアラウカト存ジテ居ルデアリマス、併シ今日一番大切ナコトハ、物價ニ關シマシテハ低物價政策、諸リ物價ガ徒ラニ需要供給ノ「バランス」ヲ失シタ場合ニ、其ノ儘ニ抛ツテ置タト云フコト

昭和十六年二月十五日印刷

昭和十六年二月十五日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局

(第一類 第一號)

第七十六回帝國議會 豫算委員會議錄(速記)第十六回

(二六九)

會 議
昭和十六年二月十五日(土曜日)午後一時十
九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 増田 義一君
理事小笠原三九郎君 理事佐藤洋之助君
理事田中 好君 理事西川 貞一君
理事古田喜三太君 理事三浦 虎雄君
理事三宅 正一君 理事宮澤 胤勇君
理事森田重次郎君 理事矢野庄太郎君

青島 憲三君 井上 良次君
石坂 豊一君 泉 國三郎君
今井 新造君 江藤源九郎君
小野 謙一君 大本貞太郎君
加藤 綱一君 笠井 重治君
勝 正憲君 川崎 克君
木村 正義君 岸田 正記君
北 吟吉君 久山 知之君
島田 俊雄君 助川啓四郎君
多田 滿長君 高田 紘平君
長野 長廣君 鶴見 祐輔君
末松借一郎君 東郷 實君
米窪 滿亮君 中島彌團次君
中田 儀直君 中山 福藏君
松本治一郎君 松村 光三君
一松 定吉君 田中 耕君
深澤 吉平君 藤本 捨助君
古屋 慶隆君 堀内 良平君
河野 密君 前田房之助君
木暮武太夫君 森田 福市君
横川 重次君 一宮房治郎君

出席國務大臣左ノ如シ

內務大臣 男爵平沼騏一郎君
厚生大臣 金光 庸夫君
拓務大臣 秋田 清君
文部大臣 橋田 邦彦君
大藏大臣 河田 烈君
逓信大臣 村田 省藏君
海軍大臣 及川古志郎君
鐵道大臣 小川郷太郎君
國務大臣 星野 直樹君

出席府政府委員左ノ如シ

法制局長官 入江 俊郎君
企畫院長官 小畑 忠良君
興業院長官 宇佐美珍彦君
外務省東亞局長 山本 熊一君
外務省通商局長 水野伊太郎君
外務書記官 武内時之助君
內務大臣 董場 軍藏君
內務省地方局長 留岡 幸男君
內務省警保局長 橋本 清吉君
內務省土木局長 成田 一郎君
內務省計畫局長 藤岡 長敏君
內務書記官 三好 重夫君
內務書記官 齋藤 昇君
神祇院副總裁 飯沼 一省君
大藏大臣 廣瀬 豐作君
大藏省主計局長 谷口 恒二君
大藏省主稅局長 松隈 秀雄君
大藏省銀行局長 相田 岩夫君
大藏省爲替局長 原口 武夫君
大藏書記官 梅北 末初君

大藏書記官 氏家 武君
大藏書記官 植木庚子郎君
大藏書記官 日下部 滋君
大藏書記官 河野 一之君
大藏書記官 福田 樹夫君
大藏事務官 山住 克巳君
預金部資金局長 中村孝次郎君
營繕管財局理事 入江 昂君
專賣局長官 花田 政春君
陸軍大臣 阿南 惟幾君
陸軍主計中將 石川半三郎君
陸軍少將 武藤 章君
陸軍主計大佐 森田 親三君
海軍主計中將 豐田貞次郎君
海軍少將 武井 大助君
海軍主計大佐 岡 敬純君
海軍大佐 爲本 博篤君
司法省刑罰局長 高木 惣吉君
司法書記官 金澤 次郎君
司法省專門學務局長 石田 壽君
文部省社會教育局長 永井 浩君
文部省體育局長 小笠原道生君
文部省宗教局長 阿原 謙藏君
文部省總務局長 堀池 英一君
農林省總務局長 周東 英雄君
農林省食品局長 辻 謙吾君
農林省資材部長 重政 誠之君
農林書記官 岡本 直人君
農林書記官 小島 新一君
商工省總務局長 椎名悅三郎君

商工省鐵道局長 鈴木 英雄君
商工省鐵網局長 小金 義照君
商工省鐵維局長 梶原 茂嘉君
商工省監理局長 長谷川公一君
商工省振興部長 堀 義臣君
商工書記官 末永 衛君
貿易局長官 石黒 武重君
逓信省電務局長 安田 丈助君
逓信省管理局長 景山 準吉君
逓信省工務局長 荒川大太郎君
逓信省經理局長 山田 良秀君
航空局長官 手島 榮君
鐵道局長官 鈴木 清秀君
鐵道省經理局長 平山 孝君
鐵道省需品局長 堀本 謙三君
拓務大臣 北島謙次郎君
拓務省管理局長 副島 勝君
拓務省殖産局長 植場 鐵三君
拓務省拓北局長 今吉 敏雄君
拓務省拓南局長 森部 隆君
拓務書記官 中野 勝次君
朝鮮總督府財務局長 水田 直昌君
臺灣總督府財務局長 中嶋 一郎君
南洋廳長官 近藤 駿介君
厚生大臣 兒玉 政介君
厚生省體力局長 佐々木芳遠君
厚生省衛生局長 加藤於菀丸君
厚生省社會局長 熊谷 憲一君
厚生省勞働局長 持永 義夫君
厚生省職業局長 內藤 寬一君
厚生書記官 生悅住求馬君

軍事保護院副總裁 三島 誠也君
保險院總務局長 川村 秀文君
保險院社會保險局長 木村 清司君
軍事保護院援護局長 曾我 梶松君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

(第一號)昭和十五年度歳入歳出總豫算追加案

(第二號)昭和十五年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(第三號)昭和十五年度特別會計歳入歳出豫算追加案

(特第二號)昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(特第一號)昭和十六年度各特別會計歳入歳出豫算追加案

(追第一號)豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件

(臨時第一號)臨時陸軍材料資金豫算追加案

○増田委員長 是ヨリ會議ヲ開キマス——小笠原三九郎君

○小笠原(三)委員 私ハ厚生大臣ニ先ヅ中小商工業者ノ救済ト申シマスガ、轉失業對策ニ付キマシテ御伺ヒテ申上ゲタイト思フノデアリマス、ソコデ私ノ議論ヲ固メル爲ニ、先ヅ最初ニ數字ヲ一寸伺ヒマスガ、私共ガ調べタ所ニ依リマスト、中小商業者ハ約二百萬世帯、此ノ從業員家族合セテ一千三百萬人、中小工業者ハ常時十人以上三十人未滿ノ職工ヲ使用セル者、工場主九萬八千、從業員家族共ニ三百九十七萬人、十人未滿ノ職工ヲ使用スル者ハ工場主百五十萬人、

從業員家族ヲ合セテ一千五百萬人ニ達スルト云フコトニナツテ居ルノデアリマスガ、此ノ數字ニハ誤リガナイカドウカ、此ノ點ヲ厚生大臣ニ御伺ヒ致シタイノデアリマス

○金光國務大臣 失業若シクハ失業ノ虞アル中小商工業者ノ數ニ至リマシテハ、之ヲ推算スルコトガ頗ル困難デアリマス、最近ノ調査ニ依リマスト、約十萬八千人ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、尤モソレハ現ニ失業シテ居ルノデアリマス、

、現ニ失業シテ就職先ガナイト云フヤウナ者ハ殆ドナイノデアリマス、併シ殆ド失業ノヤウナ状態ニアル所謂開店休業的ナ状態ニアルトカ、近ク商賣ヲ廢メネバナルマイトカ、工業モ廢メネバナルマイトカ云フ失業ノ慮リノアル者マデ入レマシテ、只今申上ゲタ數字ニナルノデアリマシテ、將來此ノ時局下此ノ國際情勢下ニ於キマシテ統制ノ強化、計畫經濟ノ諸般ノ施策ガ進行スルニ伴ヒマシテ、轉業ヲ餘儀ナクセラレルデアラウト云フ推算ニ至リマシテハ餘程困難デアリマス、併シ極メテ概算ノ數字ハゴザイマスガ、ソレハ將來兩三年ニ互ツテ斯クノ如キ影響ガアルノデアアルマイトカト云フ數字ハ、凡ソノ推算ハ付イテ居リマスルケレドモ、ソレニ致シマシテモ、只今小笠原君ノ御述ベニナリマシタ數字トハ相當距離ノアル少イ數字デアリマス、只今其ノ空漠タル數字ヲ申上ゲルコトハ如何デアラウカト存ジマスカラ、殊更差控ヘタイト存ジマスガ、若シ其ノ推算ニ近イ失業者ガ出タト致シマシテモ、本人ガ轉業ノ決心サヘ付キマスレバ、其ノ全部ヲ時局關係ノ重要産業方面ニ於テ收容シ得ル目算ハ立ツテ居ルノデアリマス、唯問題ハ本人ノ決心如何

ト云フニアルノデアリマス、此ノ決心ヲ付ケサセル爲ニハ、色々轉業ニ關スル相談ニ與ツテヤル、轉業ノ方法ヲ講ジテヤルト云フコトガ大切ナコトデアラウト存ジマスカラ、ソレハ色々ナ方面カラ研究モシ、實行ニモ移シテ居ル次第デアリマス

○小笠原(三)委員 只今ノ厚生大臣ノ御話ハ私ノ御尋ネシタコトト違ツテ居リマシテ、私ノ申上ゲタノハ轉失業ヲ要スルモノトシテ申上ゲタノデアリマシテ、中小商業者ノ數並ニ中小工業者ノ數ヲ申上ゲタノデアリマス、私共ノ調べタ所ニ依リマスト、今厚生大臣ノ仰セニナツテ居ル程、轉失業ニ依リ救済ヲ要スル者ノ數ハ左様ニ少イモノデアリマセヌ、現ニ企業院ヲ調べタト云ハレテ居ル數字ヲ私ガ此處ニ舉ゲマタル言ハレテ居ル數字ハ、現在轉業ヲ餘儀ナクセラレル者ノ數ハ、業主三萬人、從業員五萬人、合計七萬人デアリマシテ、又將來轉業ヲ餘儀ナクセラレルベシト豫想セラレル數ガ業主二十八萬人、勞務者百十九萬人、計百四十七萬人ニ達スルノデアリマス、

今厚生大臣ハ御立場上樂ニ御考ヘニナツテ居ルノデアリマシテ、日本ノ中小商工業者ガ占ムル非常ナ重要性ニ鑑ミマスルト、此ノ點ハドチラカト申セバ、少シ深刻ニ問題ヲ御考ヘ下サル方ガ實際的デハナイカト考ヘルノデアリマス、ソコデ私ガ御伺ヒシタイノハ、政府ガ轉失業對策トシテ今マデ御發表ニナツテ居ルモノヲ見マス、第一ガ勤勞訓練デアリ、第二ガ職業輔導デアリ、第三ガ國民更生金庫デアリマス、此ノ三ツ以外ニ轉失業對策ヲ御立テニナツテ居ルコトハ、承知シテ居ラス

ノデアリマスガ、尙ホ其ノ外ニモ御立テニナツテ居ルナラバ、此ノ際御伺ヒ致シタイト存ジマス

○金光國務大臣 只今御答ヘ申上ゲマシタノガ、御尋ネト食違ツテ居ルト云フコトデ洵ニ恐縮デゴザイマス、併シ今申上ゲタ數ハ、私ノ見ル所デハ誤リハナイ、企業院ノ百四十七萬云々ト云フ數字モ、ソレハ斯ク云フコトデハナカラウカト思フ、十五年度並ニ十六年度、十七年度ノ三箇年ヲ通ジテ——マア遠キ將來ノコトハドウナルカ分リマセヌガ、コソ兩三年ノ間——今日ノ國際情勢カラ推算シ、又統制強化ノ必要カラ考ヘ合ハセテ、約百四十萬人位轉業ヲ餘儀ナクセラレルモノガ出ルノデアアルマイトカト云フ推算ガ出ルノデアリマス、先々ノコトハ分ラヌガ、今年ノ數字ハ申上ゲナイ方宜シイト存ジマスガ、其ノ推算數ニ對シテハ其ノ轉業計畫ヲ立テマシテ、全部之ヲ就職サセル目算ハ付イテ居ルノデアリマシテ、決シテ空漠ト樂觀的ニ申上ゲタ譯デハゴザイマセヌ、ソレ等轉業對策ハ現内閣ノ非常ニ苦心ヲ致シテ居ル點デアリマシテ、御承知ノ通り勤勞訓練所ヲ東京大阪ノ二箇所ニ先ヅ設置シヨウト云フコトニナツタノデアリマスガ、是ハ御意見ノ通りタツタニ箇所位デハ少イデハナイカ、セメテ最初先ヅ六箇所位作ラウト云フ考ヘモアリマシタケレドモ、此ノ勤勞訓練所ト稱シタ施設ガ現在アルノデアリマシテ、全國ニ約二百箇所職業輔導所ト云フノガゴザイマシテ、是ハ極ク輕易ナ職業ヲ教ヘ轉業ヲ準備ヲサセルノデアリマス、然ルニ勤勞訓練所ト云フ方ハ職業ヲ直接ニ教ヘルノデアリマシテ、勞働ニ對スル基礎的ナ訓練ヲシヨウ、今マデ商業ニ從事